茨城県教育財団文化財調査報告第128集

一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

三反田下高井遺跡
（上　　巻）

平成10年3月

建設省
財団法人　茨城県教育財団

作業室用

茨城県教育財団文化財調査報告第128集

一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

三反田下高井遺跡（みたんだしもたかい）

（上　　巻）

平成10年3月

建設省
財団法人　茨城県教育財団

序

一般国道６号・50号・51号の交通渋滞の解消と水戸周辺地域と海浜地区の相互連絡の強化を目的に，一般国道６号の自動車専用道路として，東水戸道路の改築事業が建設省によって，推進されております。

また，東水戸道路は北関東自動車道と接続し，北関東の内陸部と茨城県の海岸部との交流をさらに深めるものと期待されております。その東水戸道路の改築工事予定地内に三反田下高井遺跡は所在しております。

財団法人茨城県教育財団は，建設省から埋蔵文化財の発掘調査事業についての委託を受け，平成６年１月から平成７年９月まで三反田下高井遺跡の調査を実施いたしました。

本書は，三反田下高井遺跡の調査成果を収録したものであります。この調査によって，数多くの貴重な研究資料を収録することができました。本書が，研究の資料としてはもとより，郷土の歴史の理解を深めると共に，教育，文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である建設省からいただいた多大な御協力に対し心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，ひたちなか市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位からいただいた多大なる御指導，御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成10年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

三反田下高井遺跡遠景（北西より）

三反田下高井遺跡完掘状況

第148-B住居跡竈

例　　言

1　本書は，建設省の委託により，財団法人茨城県教育財団が，平成６年１月から平成７年９月まで発掘調査を実施した，茨城県ひたちなか市三反田字下高井5051番地の１ほかに所在する三反田下高井遺跡の発掘調査報告書である。

2　三反田下高井遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

理事長		礒田　勇	昭和63年６月～平成７年３月
		橋本　昌	平成７年４月～
副理事長		角田芳夫	平成３年７月～平成６年３月
		小林秀文	平成６年４月～平成８年３月
		中島弘光	平成７年４月～
		齋藤佳郎	平成８年４月～
専務理事		中島弘光	平成５年４月～平成７年３月
常務理事		一木邦彦	平成７年４月～平成８年３月
		梅澤秀夫	平成８年４月～平成９年３月
		齋藤紀彦	平成９年４月～
事務局長		藤枝宣一	平成４年４月～平成７年３月
		齋藤紀彦	平成７年４月～平成８年３月
		小林隆郎	平成８年４月～平成９年３月
		西村敏一	平成９年４月～
埋蔵文化財部長		安藏幸重	平成５年４月～平成８年３月
		沼田文夫	平成８年４月～
埋蔵文化財部長代理		河野佑司	平成６年４月～
企画管理課	課長	水飼敏夫	平成４年４月～平成８年３月
		小幡弘明	平成８年４月～平成９年３月
		河崎孝典	平成９年４月～
	課長代理	根本達夫	平成７年４月～（平成６年４月～平成７年３月　係長）
		清水　薫	平成９年４月～（平成８年４月～平成９年３月　係長）
	主任調査員	川井正一	平成５年４月～平成６年３月
		海老澤　稔	平成６年４月～平成８年３月
		小高五十二	平成８年４月～
	主事	杉山秀一	平成４年４月～平成６年３月

経理課	課長	小幡弘明	平成5年4月～平成8年3月
		河崎孝典	平成8年4月～平成9年3月
		鈴木三郎	平成7年4月～平成8年3月 （平成5年4月～平成7年3月　課長代理） （平成7年4月～平成8年3月　主査）
	主査	田所多佳男	平成8年4月～
	課長代理	大高春夫	平成7年4月～平成9年3月（平成6年4月～平成7年3月　係長）
	主任	飯島康司	平成4年4月～平成6年3月
		小池孝	平成7年4月～
		宮本勉	平成9年4月～
	主事	軍司浩作	平成5年4月～平成8年3月
		柳澤松雄	平成8年4月～平成9年3月
		小西孝典	平成9年4月～
調査課	課長（部長兼務）	安藏幸重	平成5年4月～平成8年3月
	調査第四班長	和田雄次	平成6年1月～平成6年3月
		鶴見貞雄	平成6年4月～平成7年9月
	主任調査員	小高五十二	平成6年1月～平成6年3月　調査
			平成6年10月～平成7年9月　調査
		田所則夫	平成6年4月～平成7年3月　調査
		池田晃一	平成6年1月～平成6年9月　調査
		飯島一生	平成7年4月～平成7年9月　調査
整理課	課長	山本静男	平成7年4月～平成9年3月
		小泉光正	平成9年4月～
	主任調査員	田所則夫	平成8年4月～平成10年3月　整理・執筆・編集
		川又清明	平成8年10月～平成9年3月　整理・執筆・編集

3　本書で使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　本書の作成にあたり，石器の材質と供給地については栃木県立博物館学芸員の荒川竜一氏，鍛冶炉の調査法及び分析法については房総風土記の丘研究員の穴沢義功氏に御指導をいただいた。

5　発掘調査及び整理に際して，御指導・御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

6　遺跡の概略

ふりがな	いっぱんこくどう6ごうひがしみとどうろかいちくこうじちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書
副書名	三反田下高井遺跡
巻次	Ⅳ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第128集
著者名	田所 則夫　　川又 清明
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029－225－6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310-0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　TEL 029－225－6587
発行日	1998（平成10）年3月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
三反田下高井遺跡	茨城県ひたちなか市三反田字下高井5051番地の1ほか	ひたちなか市－082210	36度14分50秒	140度33分50秒	19940101～19950930	17,643㎡	一般国道6号東水戸道路改築工事に伴う事前調査

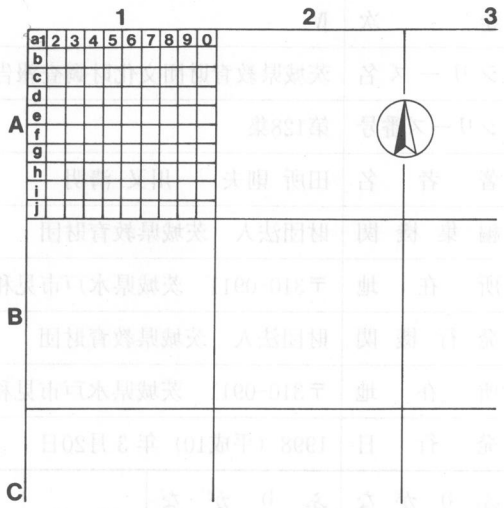
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三反田下高井遺跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良平安時代 中世 時期不明	集中地点　1か所 土坑　3基 竪穴住居跡　141軒 土坑　6基 方形周溝墓　4基 鍛冶工房跡　5軒 竪穴住居跡　98軒 掘立柱建物跡2棟 土坑　2基 方形竪穴状遺構　1軒 竪穴住居跡　27軒 土坑　151基 粘土採掘坑　27基 溝　14条 集石遺構　1基	尖頭器　剝片 縄文土器 土師器　須恵器 砥石　石製模造品 鉄製品（鏃・刀子・角釘） 管状土錘・土玉 紡錘車 土師器　須恵器 円面硯　陶器 灰釉陶器 土師器　須恵器　巡方 金環 土師器	古墳時代前期の方形周溝墓4基を確認。 古墳時代中期の鍛冶工房跡5軒を確認。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X軸＝＋40,160m，Y軸＝＋65,640mの交点（A1a$_1$）を基準点とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C……，西から東へ1，2，3……とし，「A1区」，「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へa，b，c……j，西から東へ$_1$　$_2$　$_3$……$_0$とし，名称は，大調査区の名称を冠し，「A1a$_1$区」，「B2b$_2$区」のように呼称した。



第1図　調査区呼称方法概念図

2　遺構，遺物及び土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　住居跡－ＳＩ　土坑－ＳＫ　不明遺構－ＳＸ　掘立柱建物跡－ＳＢ　方形周溝墓－ＴＭ
溝－ＳＤ　粘土採掘坑－ＮＳＫ　井戸－ＳＥ

遺物　土器・陶器－Ｐ　土製品－ＤＰ　石製品－Ｑ　金属製品・古銭－Ｍ　拓本土器－ＴＰ

土層　撹乱－Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

＝炉・竈　＝焼土　＝粘土　＝凝灰岩　＝黒色処理　＝赤彩

●＝土器　□＝石器・石製品　△＝金属製品　○＝土製品

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺跡の全体図は縮尺200分の1，住居跡，土坑及び不明遺構は60分の1及び80分の1に縮尺し掲載した。

(2)　遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，個々にＳ＝1／○と表示した。

(3)　「主軸方向」は長径方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　Ｎ－10°－Ｅ，Ｎ－10°－Ｗ）。なお，［　］を付したものは推定である。

(4)　土器の計測値は，Ａ－口径　Ｂ－器高　Ｃ－底径　Ｄ－高台径　Ｅ－高台高　Ｆ－体部径とし，単位はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

(5)　遺物観察表の備考の欄は，土器の残存率，実測（Ｐ）番号，出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目　　次

―― 上　巻 ――

序

例　言

凡例

第１章　調査経緯…… 1

　第１節　調査に至る経過…… 1

　第２節　調査経過…… 1

第２章　位置と環境…… 3

　第１節　地理的環境…… 3

　第２節　歴史的環境…… 3

第３章　三反田下高井遺跡…… 9

　第１節　遺跡の概要…… 9

　第２節　基本層序…… 9

　第３節　遺構と遺物…… 10

　　１　竪穴住居跡…… 10

　　（第２号住居跡～第164号住居跡）

――下　巻――

　　１　竪穴住居跡…… 463

　　（第165号住居跡～第236号住居跡）

　　２　鍛冶工房跡…… 645

　　３　掘立柱建物跡…… 674

　　４　方形周溝墓…… 679

　　５　溝…… 686

　　６　粘土採掘坑跡…… 695

　　７　井　　戸…… 710

　　８　土　　坑…… 715

　　９　その他の遺構

　　(1)　旧石器集中地点…… 746

　　(2)　第１号集石遺構…… 750

　　10　遺構外出土遺物…… 753

　第４節　ま　と　め…… 783

付　章

　三反田下高井遺跡出土金環蛍光Ｘ線分析…… 788

　三反田下高井遺跡出土土器及び粘土採掘坑内粘土の胎土分析…… 791

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図　調査区呼称方法概念図
第 2 図　周辺遺跡位置図……7
第 3 図　三反田下高井遺跡調査区割図……8
第 4 図　基本土層図……9
第 5 図　第2号住居跡実測図……10
第 6 図　第2号住居跡出土遺物実測図……11
第 7 図　第3号住居跡実測図……12
第 8 図　第3号住居跡出土遺物実測図……13
第 9 図　第4号住居跡実測図……15
第 10 図　第4号住居跡出土遺物実測図……15
第 11 図　第5号住居跡実測図……17
第 12 図　第5号住居跡出土遺物実測図……18
第 13 図　第6号住居跡実測図……19
第 14 図　第6号住居跡出土遺物実測図……20
第 15 図　第7・8号住居跡実測図……21
第 16 図　第7号住居跡出土遺物実測図……22
第 17 図　第8号住居跡出土遺物実測図……23
第 18 図　第9号住居跡実測図……24
第 19 図　第9号住居跡出土遺物実測図……25
第 20 図　第10号住居跡実測図……26
第 21 図　第10号住居跡出土遺物実測図……27
第 22 図　第11号住居跡実測図……29
第 23 図　第11号住居跡出土遺物実測図……30
第 24 図　第12号住居跡実測図……32
第 25 図　第12号住居跡出土遺物実測図……32
第 26 図　第13号住居跡実測図……33
第 27 図　第13号住居跡出土遺物実測図……34
第 28 図　第14号住居跡実測図……34
第 29 図　第14号住居跡出土遺物実測図……34
第 30 図　第15号住居跡出土遺物実測図……36
第 31 図　第16号住居跡実測図……37
第 32 図　第16号住居跡出土遺物実測図……37
第 33 図　第17号住居跡実測図……38
第 34 図　第18-A・18-B号住居跡実測図……39
第 35 図　第18-A号住居跡出土遺物実測図 ……40
第 36 図　第18-B号住居跡出土遺物実測図 ……41
第 37 図　第19号住居跡実測図……43
第 38 図　第19号住居跡出土遺物実測図……44
第 39 図　第20号住居跡実測図……46
第 40 図　第20号住居跡出土遺物実測図……47
第 41 図　第21-A号住居跡実測図 ……48
第 42 図　第21-A号住居跡出土遺物実測図 ……49
第 43 図　第21-B号住居跡実測図 ……50
第 44 図　第21-B号住居跡出土遺物実測図 ……50
第 45 図　第22号住居跡実測図……51
第 46 図　第22号住居跡出土遺物実測図……52
第 47 図　第23号住居跡実測図……53
第 48 図　第23号住居跡出土遺物実測図……53
第 49 図　第24号住居跡実測図……54
第 50 図　第24号住居跡出土遺物実測図……55
第 51 図　第25・26・27号住居跡実測図……56
第 52 図　第25号住居跡出土遺物実測図……57
第 53 図　第26号住居跡出土遺物実測図……58
第 54 図　第27号住居跡出土遺物実測図……60
第 55 図　第28・29号住居跡実測図……62
第 56 図　第28号住居跡出土遺物実測図……63
第 57 図　第29号住居跡出土遺物実測図……64
第 58 図　第30号住居跡実測図……65
第 59 図　第30号住居跡出土遺物実測図……66
第 60 図　第31号住居跡実測図……67
第 61 図　第31号住居跡出土遺物実測図(1)……68
第 62 図　第31号住居跡出土遺物実測図(2)……69
第 63 図　第32号住居跡実測図……70
第 64 図　第32号住居跡出土遺物実測図……71
第 65 図　第33号住居跡実測図……72
第 66 図　第33号住居跡出土遺物実測図……72
第 67 図　第34号住居跡実測図……74
第 68 図　第34号住居跡出土遺物実測図……75
第 69 図　第35号住居跡実測図……76
第 70 図　第35号住居跡出土遺物実測図……77
第 71 図　第36号住居跡実測図……78
第 72 図　第36号住居跡出土遺物実測図……78
第 73 図　第37号住居跡実測図……80
第 74 図　第37号住居跡出土遺物実測図……81

第 75 図　第38号住居跡実測図……82
第 76 図　第38号住居跡出土遺物実測図……82
第 77 図　第39・40号住居跡実測図……83
第 78 図　第39号住居跡出土遺物実測図……84
第 79 図　第40号住居跡出土遺物実測図……85
第 80 図　第41号住居跡実測図……86
第 81 図　第42・43号住居跡実測図……87
第 82 図　第42号住居跡出土遺物実測図……88
第 83 図　第43号住居跡出土遺物実測図……88
第 84 図　第44号住居跡実測図……89
第 85 図　第44号住居跡出土遺物実測図……90
第 86 図　第45号住居跡実測図……90
第 87 図　第45号住居跡出土遺物実測図……91
第 88 図　第46号住居跡実測図……92
第 89 図　第46号住居跡出土遺物実測図……93
第 90 図　第47号住居跡実測図……94
第 91 図　第47号住居跡出土遺物実測図……95
第 92 図　第48-A・48-B号住居跡実測図……97
第 93 図　第48-A号住居跡出土遺物実測図 ……98
第 94 図　第48-B号住居跡出土遺物実測図 ……99
第 95 図　第49号住居跡実測図 ……100
第 96 図　第49号住居跡出土遺物実測図 ……101
第 97 図　第50・52号住居跡実測図 ……103
第 98 図　第50号住居跡出土遺物実測図(1) ……106
第 99 図　第50号住居跡出土遺物実測図(2) ……107
第 100 図　第50号住居跡出土遺物実測図(3) ……108
第 101 図　第51号住居跡実測図 ……109
第 102 図　第51号住居跡出土遺物実測図(1) ……110
第 103 図　第51号住居跡出土遺物実測図(2) ……111
第 104 図　第52号住居跡出土遺物実測図 ……113
第 105 図　第53-A・53-B号住居跡実測図 ……114
第 106 図　第53-A号住居跡出土遺物実測図……114
第 107 図　第53-B号住居跡出土遺物実測図……115
第 108 図　第54・67号住居跡実測図 ……116
第 109 図　第54号住居跡出土遺物実測図 ……117
第 110 図　第55号住居跡実測図 ……119
第 111 図　第55号住居跡出土遺物実測図 ……119
第 112 図　第56-A・56-B号住居跡実測図 ……120
第 113 図　第57号住居跡実測図 ……122
第 114 図　第58-A・58-B号住居跡実測図 ……123
第 115 図　第58-A号住居跡出土遺物実測図……124
第 116 図　第59号住居跡実測図 ……126
第 117 図　第59号住居跡出土遺物実測図 ……127
第 118 図　第60号住居跡実測図 ……129
第 119 図　第60号住居跡出土遺物実測図 ……130
第 120 図　第61号住居跡実測図 ……131
第 121 図　第61号住居跡出土遺物実測図 ……132
第 122 図　第62号住居跡実測図 ……133
第 123 図　第63-A号住居跡実測図……134
第 124 図　第63-A号住居跡出土遺物実測図……136
第 125 図　第63-B号住居跡実測図……138
第 126 図　第63-B号住居跡出土遺物実測図……139
第 127 図　第64号住居跡実測図 ……140
第 128 図　第64号住居跡出土遺物実測図(1) ……142
第 129 図　第64号住居跡出土遺物実測図(2) ……143
第 130 図　第65号住居跡実測図 ……143
第 131 図　第66号住居跡実測図 ……145
第 132 図　第66号住居跡出土遺物実測図(1) ……146
第 133 図　第66号住居跡出土遺物実測図(2) ……147
第 134 図　第66号住居跡出土遺物実測図(3) ……148
第 135 図　第67号住居跡出土遺物実測図 ……150
第 136 図　第68号住居跡実測図 ……151
第 137 図　第68号住居跡出土遺物実測図(1) ……153
第 138 図　第68号住居跡出土遺物実測図(2) ……154
第 139 図　第69号住居跡実測図 ……155
第 140 図　第69号住居跡出土遺物実測図(1) ……157
第 141 図　第69号住居跡出土遺物実測図(2) ……158
第 142 図　第70号住居跡実測図 ……159
第 143 図　第70号住居跡出土遺物実測図(1) ……160
第 144 図　第70号住居跡出土遺物実測図(2) ……161
第 145 図　第71号住居跡実測図 ……163
第 146 図　第71号住居跡出土遺物実測図(1) ……164
第 147 図　第71号住居跡出土遺物実測図(2) ……165
第 148 図　第72-A・72-C号住居跡実測図 ……167
第 149 図　第72-A号住居跡出土遺物実測図……168
第 150 図　第72-B号住居跡実測図……169
第 151 図　第72-B号住居跡出土遺物実測図……170
第 152 図　第73号住居跡実測図 ……172
第 153 図　第73号住居跡出土遺物実測図 ……173
第 154 図　第74号住居跡実測図 ……174

第155図　第74号住居跡出土遺物実測図(1) ……175
第156図　第74号住居跡出土遺物実測図(2) ……176
第157図　第75号住居跡実測図 ……178
第158図　第75号住居跡出土遺物実測図 ……179
第159図　第76号住居跡実測図 ……181
第160図　第76号住居跡出土遺物実測図 ……182
第161図　第77号住居跡実測図 ……183
第162図　第77号住居跡出土遺物実測図 ……183
第163図　第78号住居跡出土遺物実測図 ……184
第164図　第78・79・80号住居跡実測図 ……185
第165図　第79号住居跡出土遺物実測図 ……186
第166図　第80号住居跡出土遺物実測図 ……187
第167図　第81号住居跡実測図 ……188
第168図　第81号住居跡出土遺物実測図 ……189
第169図　第82号住居跡実測図 ……190
第170図　第82号住居跡出土遺物実測図(1) ……191
第171図　第82号住居跡出土遺物実測図(2) ……192
第172図　第82号住居跡出土遺物実測図(3) ……193
第173図　第83号住居跡実測図 ……197
第174図　第83号住居跡出土遺物実測図 ……198
第175図　第84-A・84-B・87号住居跡実測図 …200
第176図　第84-A号住居跡出土遺物実測図……201
第177図　第84-B号住居跡出土遺物実測図……202
第178図　第85号住居跡実測図 ……204
第179図　第85号住居跡出土遺物実測図 ……205
第180図　第86-A号住居跡実測図……207
第181図　第86-A号住居跡出土遺物実測図……208
第182図　第86-B号住居跡実測図……209
第183図　第86-B号住居跡出土遺物実測図……210
第184図　第87号住居跡出土遺物実測図 ……211
第185図　第88-A号住居跡出土遺物実測図……212
第186図　第88-A・88-B・88-C号住居跡
　　実測図 ……213
第187図　第88-B号住居跡出土遺物実測図……215
第188図　第88-C号住居跡出土遺物実測図……217
第189図　第90号住居跡実測図 ……218
第190図　第90号住居跡出土遺物実測図(1) ……219
第191図　第90号住居跡出土遺物実測図(2) ……220
第192図　第91号住居跡実測図 ……222
第193図　第91号住居跡出土遺物実測図 ……223
第194図　第92・93号住居跡実測図 ……225
第195図　第92号住居跡出土遺物実測図(1) ……226
第196図　第92号住居跡出土遺物実測図(2) ……227
第197図　第93号住居跡出土遺物実測図 ……229
第198図　第94-A・94-B号住居跡実測図 ……231
第199図　第94-A号住居跡出土遺物実測図(1)…232
第200図　第94-A号住居跡出土遺物実測図(2)…233
第201図　第94-B号住居跡出土遺物実測図……233
第202図　第95-A号住居跡実測図……234
第203図　第95-A号住居跡出土遺物実測図……235
第204図　第95-B号住居跡実測図……236
第205図　第95-B号住居跡出土遺物実測図……237
第206図　第96号住居跡実測図 ……238
第207図　第96号住居跡出土遺物実測図(1) ……239
第208図　第96号住居跡出土遺物実測図(2) ……240
第209図　第97号住居跡実測図 ……242
第210図　第97号住居跡出土遺物実測図 ……242
第211図　第98号住居跡実測図 ……243
第212図　第98号住居跡出土遺物実測図 ……245
第213図　第99号住居跡実測図 ……246
第214図　第99号住居跡出土遺物実測図(1) ……247
第215図　第99号住居跡出土遺物実測図(2) ……248
第216図　第100号住居跡実測図……249
第217図　第100号住居跡出土遺物実測図(1)……251
第218図　第100号住居跡出土遺物実測図(2)……252
第219図　第101・102号住居跡実測図 ……254
第220図　第101号住居跡出土遺物実測図……255
第221図　第102号住居跡出土遺物実測図……257
第222図　第103号住居跡実測図……258
第223図　第103号住居跡出土遺物実測図(1)……260
第224図　第103号住居跡出土遺物実測図(2)……261
第225図　第104号住居跡実測図……262
第226図　第104号住居跡出土遺物実測図……263
第227図　第105号住居跡実測図……265
第228図　第105号住居跡出土遺物実測図(1)……266
第229図　第105号住居跡出土遺物実測図(2)……267
第230図　第106号住居跡実測図……269
第231図　第106号住居跡出土遺物実測図……270
第232図　第107号住居跡実測図……271
第233図　第107号住居跡出土遺物実測図(1)……273

第234図　第107号住居跡出土遺物実測図(2)……274
第235図　第107号住居跡出土遺物実測図(3)……275
第236図　第108号住居跡実測図……277
第237図　第108号住居跡出土遺物実測図……278
第238図　第109号住居跡実測図……280
第239図　第109号住居跡出土遺物実測図……281
第240図　第110号住居跡実測図……283
第241図　第110号住居跡出土遺物実測図……285
第242図　第111号住居跡実測図……287
第243図　第111号住居跡出土遺物実測図……287
第244図　第112-A・112-B・113-A・113-B号住居跡実測図 ……289
第245図　第112-A号住居跡出土遺物実測図(1) 290
第246図　第112-A号住居跡出土遺物実測図(2) 291
第247図　第112-B・113-B号住居跡竈実測図 ……293
第248図　第112-B号住居跡出土遺物実測図 …293
第249図　第113-A号住居跡出土遺物実測図(1) 295
第250図　第113-A号住居跡出土遺物実測図(2) 296
第251図　第113-B号住居跡出土遺物実測図 …298
第252図　第114号住居跡実測図……300
第253図　第114号住居跡出土遺物実測図……300
第254図　第115号住居跡実測図……301
第255図　第115号住居跡出土遺物実測図……302
第256図　第116号住居跡実測図……303
第257図　第116号住居跡出土遺物実測図(1)……305
第258図　第116号住居跡出土遺物実測図(2)……306
第259図　第117号住居跡実測図……307
第260図　第117号住居跡出土遺物実測図……308
第261図　第118-A号住居跡出土遺物実測図 …309
第262図　第118-A号住居跡実測図 ……310
第263図　第118-B号住居跡実測図 ……312
第264図　第118-B号住居跡出土遺物実測図(1) 313
第265図　第118-B号住居跡出土遺物実測図(2) 314
第266図　第118-C号住居跡実測図 ……316
第267図　第118-C号住居跡出土遺物実測図 …317
第268図　第119-A・119-B・120-A・120-B・120-C 121-A・121-B号住居跡実測図 ……319
第269図　第119-A号住居跡出土遺物実測図 …321
第270図　第119-B号住居跡出土遺物実測図(1) 324
第271図　第119-B号住居跡出土遺物実測図(2) 325
第272図　第119-B号住居跡出土遺物実測図(3) 326
第273図　第120-A号住居跡出土遺物実測図 …328
第274図　第120-B号住居跡出土遺物実測図(1) 331
第275図　第120-B号住居跡出土遺物実測図(2) 332
第276図　第120-C号住居跡出土遺物実測図 …333
第277図　第121-A号住居跡出土遺物実測図 …335
第278図　第121-B号住居跡出土遺物実測図 …336
第279図　第122号住居跡実測図……338
第280図　第122号住居跡出土遺物実測図……339
第281図　第123号住居跡実測図……340
第282図　第123号住居跡出土遺物実測図(1)……341
第283図　第123号住居跡出土遺物実測図(2)……342
第284図　第124号住居跡実測図……344
第285図　第124号住居跡出土遺物実測図(1)……345
第286図　第124号住居跡出土遺物実測図(2)……346
第287図　第124号住居跡出土遺物実測図(3)……347
第288図　第124号住居跡出土遺物実測図(4)……348
第289図　第124号住居跡出土遺物実測図(5)……349
第290図　第125号住居跡実測図……352
第291図　第125号住居跡出土遺物実測図……353
第292図　第126号住居跡実測図……354
第293図　第126号住居跡出土遺物実測図……355
第294図　第127・129号住居跡実測図 ……356
第295図　第127号住居跡出土遺物実測図……357
第296図　第128号住居跡実測図……358
第297図　第128号住居跡出土遺物実測図……359
第298図　第129号住居跡出土遺物実測図……361
第299図　第130号住居跡実測図……361
第300図　第130号住居跡出土遺物実測図……362
第301図　第131号住居跡実測図……363
第302図　第131号住居跡出土遺物実測図……364
第303図　第132-A・133号住居跡実測図……365
第304図　第132-A号住居跡竈実測図 ……366
第305図　第132-A号住居跡出土遺物実測図 …367
第306図　第132-B号住居跡実測図 ……368
第307図　第132-B号住居跡出土遺物実測図 …369
第308図　第133号住居跡出土遺物実測図……370
第309図　第134号住居跡実測図……371
第310図　第134号住居跡出土遺物実測図……372

第311図　第135-A号住居跡実測図 ……373
第312図　第135-A号住居跡出土遺物実測図 …374
第313図　第135-B号住居跡実測図 ……376
第314図　第135-B号住居跡出土遺物実測図 …376
第315図　第136-A号住居跡実測図 ……378
第316図　第136-A号住居跡出土遺物実測図 …379
第317図　第136-B号住居跡実測図 ……382
第318図　第137号住居跡実測図……383
第319図　第137号住居跡出土遺物実測図……383
第320図　第138号住居跡実測図……385
第321図　第138号住居跡出土遺物実測図……385
第322図　第139号住居跡実測図……386
第323図　第139号住居跡出土遺物実測図……387
第324図　第140号住居跡実測図……388
第325図　第140号住居跡出土遺物実測図……390
第326図　第141-A号住居跡実測図 ……391
第327図　第141-A号住居跡出土遺物実測図 …392
第328図　第141-B号住居跡実測図 ……392
第329図　第141-B号住居跡出土遺物実測図 …393
第330図　第142号住居跡実測図……395
第331図　第142号住居跡出土遺物実測図……396
第332図　第143号住居跡実測図……398
第333図　第143号住居跡出土遺物実測図……399
第334図　第144号住居跡実測図……401
第335図　第144号住居跡出土遺物実測図(1)……402
第336図　第144号住居跡出土遺物実測図(2)……403
第337図　第145-A号住居跡実測図 ……404
第338図　第145-A号住居跡出土遺物実測図 …405
第339図　第145-B・145-C号住居跡実測図 …407
第340図　第145-B号住居跡出土遺物実測図 …408
第341図　第146-A・146-B号住居跡実測図 …409
第342図　第146-A号住居跡出土遺物実測図 …410
第343図　第146-B号住居跡出土遺物実測図 …412
第344図　第147・148-A号住居跡実測図……413
第345図　第147号住居跡出土遺物実測図……413
第346図　第148-A号住居跡出土遺物実測図 …415
第347図　第148-B号住居跡実測図 ……417
第348図　第148-B号住居跡出土遺物実測図(1) 418
第349図　第148-B号住居跡出土遺物実測図(2) 419
第350図　第149号住居跡実測図……421
第351図　第149号住居跡出土遺物実測図……422
第352図　第150-A・150-B・151号住居跡
　　実測図 ……423
第353図　第150-A号住居跡出土遺物実測図 …424
第354図　第150-B号住居跡出土遺物実測図 …425
第355図　第151号住居跡出土遺物実測図……426
第356図　第152号住居跡実測図……427
第357図　第152号住居跡出土遺物実測図……427
第358図　第153-A号住居跡実測図 ……428
第359図　第153-A号住居跡出土遺物実測図(1) 430
第360図　第153-A号住居跡出土遺物実測図(2) 431
第361図　第153-B号住居跡実測図 ……432
第362図　第153-B号住居跡出土遺物実測図 …433
第363図　第154号住居跡実測図……435
第364図　第154号住居跡竈実測図……436
第365図　第154号住居跡出土遺物実測図(1)……437
第366図　第154号住居跡出土遺物実測図(2)……438
第367図　第155号住居跡実測図……439
第368図　第155号住居跡出土遺物実測図……440
第369図　第156号住居跡実測図……440
第370図　第156号住居跡出土遺物実測図……442
第371図　第157号住居跡実測図……443
第372図　第157号住居跡出土遺物実測図……444
第373図　第158-A・158-B号住居跡実測図 …446
第374図　第158-A号住居跡出土遺物実測図 …447
第375図　第158-B号住居跡出土遺物実測図 …449
第376図　第159号住居跡実測図……450
第377図　第159号住居跡炉実測図……451
第378図　第159号住居跡出土遺物実測図……451
第379図　第160号住居跡実測図……452
第380図　第160号住居跡出土遺物実測図……453
第381図　第161号住居跡実測図……455
第382図　第161号住居跡出土遺物実測図……455
第383図　第162号住居跡実測図……456
第384図　第162号住居跡出土遺物実測図……456
第385図　第163号住居跡実測図……458
第386図　第163号住居跡出土遺物実測図(1)……459
第387図　第163号住居跡出土遺物実測図(2)……460
第388図　第164号住居跡実測図……461
第389図　第164号住居跡出土遺物実測図……462

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

一般国道6号東水戸道路は，常陸那珂港と北関東の主要都市を結ぶ北関東自動車道路を直結する11.5kmの道路である。建設省は，昭和60年から経済流通港湾及び首都圏における電力供給用のエネルギー港湾としての常陸那珂港と，平成9年度完成を目途に建設を進めている北関東自動車道とを直結する東水戸道路の建設に着手し，北関東地域の新しい物流システムの構築を目指している。

工事に先立ち，平成5年1月7日，建設省関東地方建設局常陸工事事務所長は，茨城県教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財包蔵地の有無について照会した。茨城県教育委員会は，一般国道6号東水戸道路改築工事地内の現地踏査及び試掘調査を実施し，工事予定地内における遺跡の存在を確認し，平成5年1月12日に，建設省あてに，道路改築工事予定地内に三反田下高井遺跡が存在する旨回答した。平成5年1月27日に，茨城県教育委員会は建設省と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い，その結果，平成5年2月8日に，現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずる旨回答し，調査機関として財団法人茨城県教育財団が紹介された。

茨城県教育財団は，建設省と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び，平成6年1月1日から三反田下高井遺跡の調査を実施することとなった。

第2節　調査経過

三反田下高井遺跡の発掘調査は，平成6年1月1日から平成7年9月30日までの1年9か月にわたって実施した。調査にあたって，東西約52m，南北約360mの帯状に延びる調査区を便宜的に，東西に横切る道路によって南から1区，2区，3区，4区，5区と呼ぶことにした。以下，調査経過について，月ごとにその概要を記述する。

平成5年度

1月　12日から補助員を投入して，諸施設の整備，遺跡内の清掃作業及びトレンチ試掘を開始した。

2月　1日から重機による表土除去，4日から遺構確認作業を開始した。試掘の結果，古墳時代から平安時代にかけての集落跡であることを確認し，18日から竪穴住居跡の遺構調査を開始した。28日から谷部の黒色土除去作業を重機で開始した。

3月　引き続き竪穴住居跡，溝，掘立柱建物跡等の遺構調査を実施した。22日には基本層序の実測を実施した。25日には遺構全測図を作成し，今年度予定面積内のすべての遺構調査を終了した。

平成6年度

4月　8日に現場事務所を建設した。11日に調査器材等の準備をし，20日から試掘を開始した。

5月　引き続き試掘を実施すると同時に，24日からは重機による表土除去を開始した。

6月　1日から遺構確認作業を開始し，24日で2区までの遺構確認作業を終了した。試掘の結果，古墳時代から奈良平安時代にかけての住居跡を重複した状況で確認した。27日から遺構調査を南側1区より開始した。

7月　方形周溝墓及び粘土採掘坑跡の調査を開始した。併せて第23号住居跡まで竪穴住居跡の調査を開始した。

8月　18日で粘土採掘坑の調査を終了し，その後竪穴住居跡の調査に集中的に取り組み，26日で1区の調査を終了した。

9月　2区の調査に入り，13日から3区西側部分の重機による表土除去を開始し，併せて遺構確認作業を開始した。

10月　3日から5区の表土除去及び4区の遺構確認，2区の遺構調査を実施し，第149号住居跡まで調査を終了した。12日に方眼杭打作業が行われた。

11月　前月に引き続き，住居跡の遺構調査を進め，第195号住居跡まで調査した。

12月　前月に引き続き，住居跡の調査を進めた。5日には2区南西部，19日には2区南東部が終了した。

1月　3区の調査を開始した。24日に栃木県立博物館学芸員荒川竜一氏を講師に招き，石器類の石質や供給源をめぐる諸問題について班内研修を実施した。

2月　10日に航空写真撮影を実施した。補足調査として粘土採掘坑跡の調査を実施した。旧石器集中地点において旧石器調査を開始した。28日には建設省に対して調査報告会を実施した。

3月　4日に現地説明会を開催し，遺構・遺物を公開した。24日から埋め戻しや安全対策を行い，平成6年度分の調査を終了した。

平成7年度

4月　12日にタワーや運搬車等を搬入し，調査準備を進めた。13日から2区の住居跡等の遺構調査を開始した。

5月　2区の遺構調査を終了し，3区の遺構確認及び遺構調査を開始した。

6月　引き続き住居跡，掘立柱建物跡の調査を進めた。3区の住居跡と思われたところから鍛冶工房跡が確認され，鍛造薄片や金床石が出土した。

7月　28日には2区及び3区の遺構調査が完了し，完掘写真撮影を実施した。

8月　遺跡内より鍛冶工房跡が確認されたので，23日には房総風土記の丘研究員穴沢義功氏を講師に招き，鍛冶炉についての班内研修を実施した。

9月　4日には建設省に対して調査報告会を実施した。17日に現地説明会を開催し，遺構，遺物を公開した。19日から補足調査をし，併せて撤収作業を実施した。26日に航空写真撮影を実施し，30日をもって三反田下高井遺跡の調査を終了した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

三反田下高井遺跡は，茨城県ひたちなか市三反田字下高井5051番地の1ほかに所在している。

当遺跡の所在するひたちなか市は，平成6年11月1日に旧勝田市と旧那珂湊市が合併して誕生した。茨城県の中央からやや北部に位置し，東は太平洋に面し，西は那珂郡那珂町，南は水戸市，東茨城郡大洗町，北は那珂郡東海村と接している。旧勝田地区は大規模な先端技術工場群が立地しており，工業都市として栄えている。旧那珂湊地区は，江戸時代以前から漁商港として栄えたが，水揚げ高の減少や運輸体系の変化などによる問題を抱えている。

地形は，北西から南東に流れる那珂川左岸の帯状に広がる河岸段丘（那珂段丘，標高24m前後），那珂川と久慈川に挟まれた那珂台地（標高30m前後），那珂川や新川によって形成された沖積低地及び太平洋に沿って発達した砂丘（標高10m以下）からなっている。海抜21～25mの台地上は主に耕作地として利用されてきたが，近年では宅地としての利用が増えてきている。台地の南側の沖積低地は水田として利用されている。

地層は，第三紀層(凝灰岩)の磯崎層・阿字ケ浦層を基盤とし，その上は粘土・砂によって形成されている。第四紀層の見和層，砂礫からなる上市層，灰白色粘土の常総粘土層，そして関東ローム層の順で堆積している。当遺跡は，ひたちなか市の南部にあり，那珂川とその支流である本郷川に挟まれた標高26m前後の舌状台地の先端部に位置している。水田との比高は20m程であり，調査前の現況は畑地であった。

第2節　歴史的環境

ひたちなか市には，旧石器時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。当市は，那珂川をはじめ，その支流である中丸川や本郷川等の水利に恵まれ，その周囲の台地は，古代から人々の生活に絶好の舞台となってきた。

旧石器時代の遺跡は，那珂川や真崎浦水系によって侵食された台地縁辺部を中心に確認されている。後野遺跡からは舟形細石刃核をはじめ，多くの石器が出土しており，県内初の細石刃文化の発見であることはもとより，その後に大型石刃石器文化が展開することも確かめられた遺跡である。その他，向野遺跡，原山遺跡，道理山遺跡〈18〉等からも旧石器時代の資料が確認されている。

縄文時代の遺跡は，主に早・前期を中心に多くの集落跡が台地上に確認されており，県内有数の遺跡数を誇っている。主な遺跡としては，原山遺跡〈10〉，津田天神山遺跡，三反田遺跡〈8〉，君ヶ台遺跡〈25〉，西中根遺跡〈27〉，蜆塚遺跡等が挙げられる。早期中頃になると海進が進み，東中根台地の先端部付近の小支谷にまで海岸線が迫った。後期までの間に，三反田蜆塚貝塚，遠原貝塚，君ヶ台貝塚，上ノ内貝塚〈55〉，宮前貝塚，道理山貝塚〈19〉，蜆塚西貝塚〈5〉，等多くの貝塚が営まれた。この他，田宮原遺跡〈61, 62〉，大和田遺跡〈32〉，館出遺跡〈34〉，下高井遺跡〈11〉等の遺跡が確認されているが，後期中葉以降は急速に減少傾向が見られる。

弥生時代の遺跡は，ひたちなか市を中心とする県央部の小河川周辺の台地縁辺部に位置している。中期中葉の狢式土器を出土する遺跡は，狢式土器の標式遺跡である部田野狢遺跡〈48, 49〉をはじめ，前原遺跡

〈42, 44, 45〉，大和田遺跡〈32〉，小谷金遺跡〈58〉等がある。中期後葉の足洗式土器を出土する遺跡は，黒袴遺跡，指渋遺跡〈37〉，筑波台遺跡，薬師台遺跡等20か所が挙げられる。後期前半のものとしては，東中根式の標式遺跡である東中根堂山遺跡〈29〉，東中根清水遺跡31〉，東中根大和田遺跡〈32〉等からなる東中根遺跡群がある。後期後半のものとしては，原山遺跡〈10〉，高野寺畑遺跡，堀口遺跡等がある。これらの集落の台地下には広大な沖積低地が広がり，それまでの谷津田の稲作から沖積低地に展開し始めたことがうかがわれる。

古墳時代前期の集落跡は，主として那珂川流域に形成されている。中期になると，集落跡は次第に本郷川や中丸川などの流域に進出し，さらに後期には小規模遺跡群が面的に爆発的な勢いで広がっていく様子がうかがえる。前期の遺跡としては最古と考えられる三反田遺跡があり，遺跡内からは多量の土師器に混じって伊勢湾系，前野町系の土器が出土している。その後，この遺跡を核として那珂川沿岸の台地上に集落が広がっていき，筑波台遺跡，津田遺跡等が作られていった。後期の遺跡としては中丸川左岸の台地縁辺部に東中根清水遺跡〈31〉，東中根大和田遺跡〈32〉，本郷川右岸に指渋遺跡〈37〉，君ヶ台遺跡〈25〉がある。

当遺跡と関連する古墳時代中期から平安時代にかけての遺跡に武田遺跡群がある。この遺跡は当遺跡と同じ那珂川左岸の台地上に立地し，当遺跡の北西方向4.5kmに位置している。調査された住居跡は古墳時代から平安時代のものが185軒，鍛冶工房跡と思われる住居跡2軒である。大集落である点や鍛冶工房跡が確認された点など当遺跡と共通する点が多く，集落や周辺の歴史を明らかにする基礎資料となると思われる。

当遺跡内の方形周溝墓は遺跡内に該当する古墳時代前期の住居跡がなく，その関連では三反田丘陵にある三反田遺跡，岡田遺跡，高井遺跡等の十王台式期から五領期にかけての遺跡との関連が考えられる。

古墳は古墳時代前期及び中期の時期のものは存在せず，後期に多くの古墳が築造されるようになる。市内の古墳は那珂川とその支流である中丸川，本郷川水系に多く集中しており，部田野古墳群〈57〉，馬渡古墳群〈41〉，中根中区古墳群，虎塚古墳群〈36〉，笠谷古墳群〈39〉等がある。特に，虎塚古墳は石室内部に彩色壁画が描かれており，この地方の7世紀前半の盟主的存在の古墳と考えられる。また，那珂川や中丸川に面した斜面には館山横穴，部田野横穴〈54〉，十五郎穴横穴群〈38〉等の横穴墓が成立し，8世紀後半から9世紀以降まで営まれていたと思われる。

奈良平安時代の集落跡は，鉄器等による開墾により，那珂川水系のみでなく新川水系にも小集落が作られるようになる。この時期の主な遺跡としては，筑波台遺跡，遠原遺跡，高野寺畑遺跡等がある。

中世になると，甲斐武田氏の祖，常陸武田氏の居館である武田館跡をはじめ，大山館跡や中根城跡〈30〉等の城館跡が築かれている。

注

(1) 勝田市教育委員会　『後野遺跡』1976年12月

(2) 勝田市史編纂委員会『勝田市史』1981年9月

(3) 勝田市教育委員会　『三反田遺跡』1968年3月

(4) 勝田市教育委員会　『勝田市君ヶ台遺跡発掘調査報告書』1980年3月

(5) 勝田市教育委員会　『三反田蜆塚貝塚調査報告』1982年3月

(6) 勝田市史編纂委員会『勝田市史別編考古資料編』「前原遺跡」1979年12月

(7) 勝田市教育委員会　『高野寺畑遺跡発掘調査報告書』1979年3月

(8) 勝田市教育委員会　『勝田市堀口遺跡調査報告書』1980年3月

(9) 勝田市教育委員会　『三反田遺跡調査報告書（第5次）』1991年3月

⑽　ひたちなか市文化・スポーツ振興公社『武田Ⅷ』1995年３月

参考文献

・茨城県　「茨城県史料　考古資料編　先土器・縄文時代」1979年３月

・茨城県　「茨城県史料　考古資料編　弥生時代」1991年３月

・茨城県　「茨城県史料　考古資料編　古墳時代」1974年２月

・茨城県　「茨城県史料　考古資料編　奈良・平安時代」1995年３月

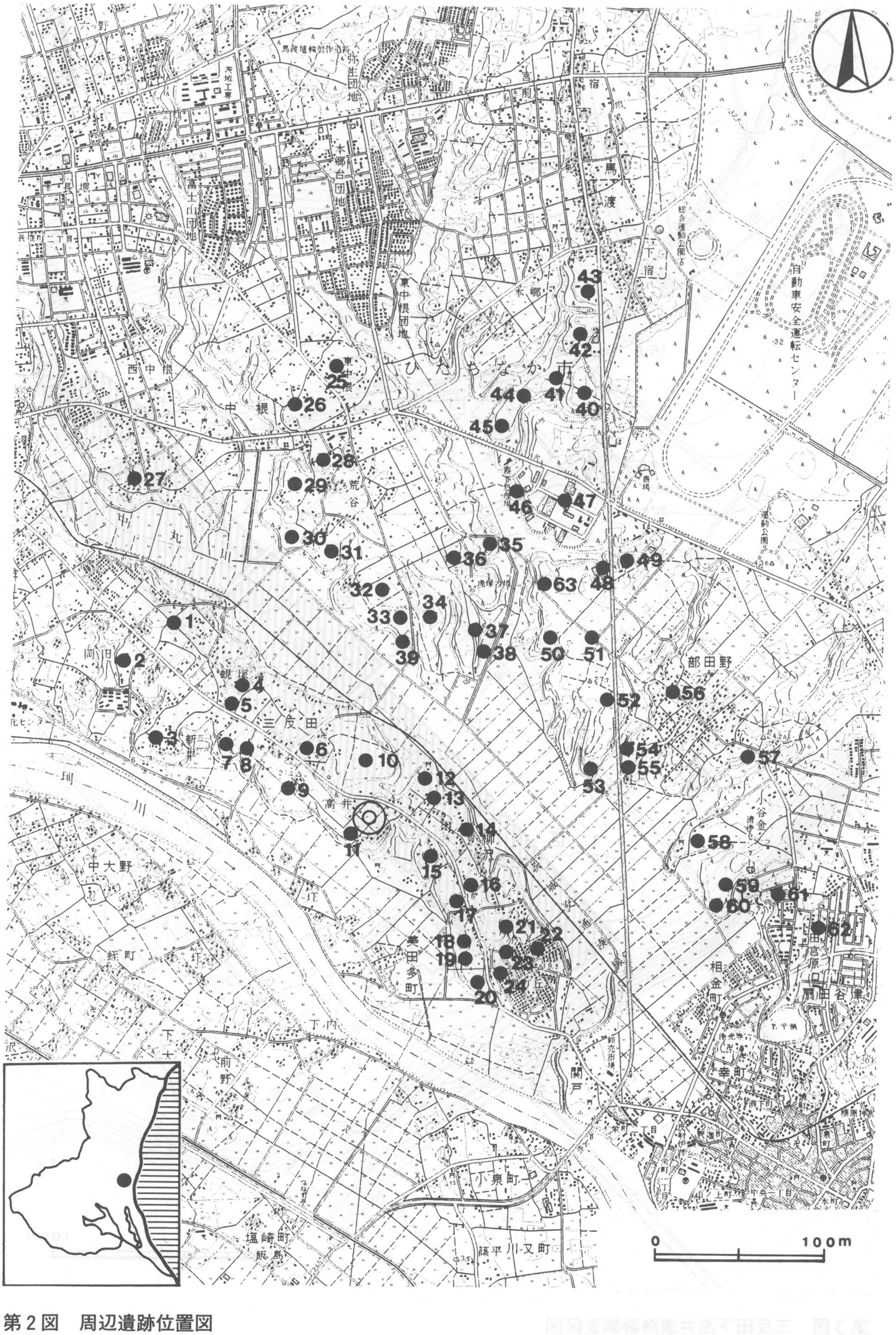
・茨城県教育財団「常陸那珂有料道路事業地内埋蔵文化財調査報告書　山崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告集第105集』1995年９月

・茨城県教育財団「一般国道６号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　差渋遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告集第103集』1995年12月

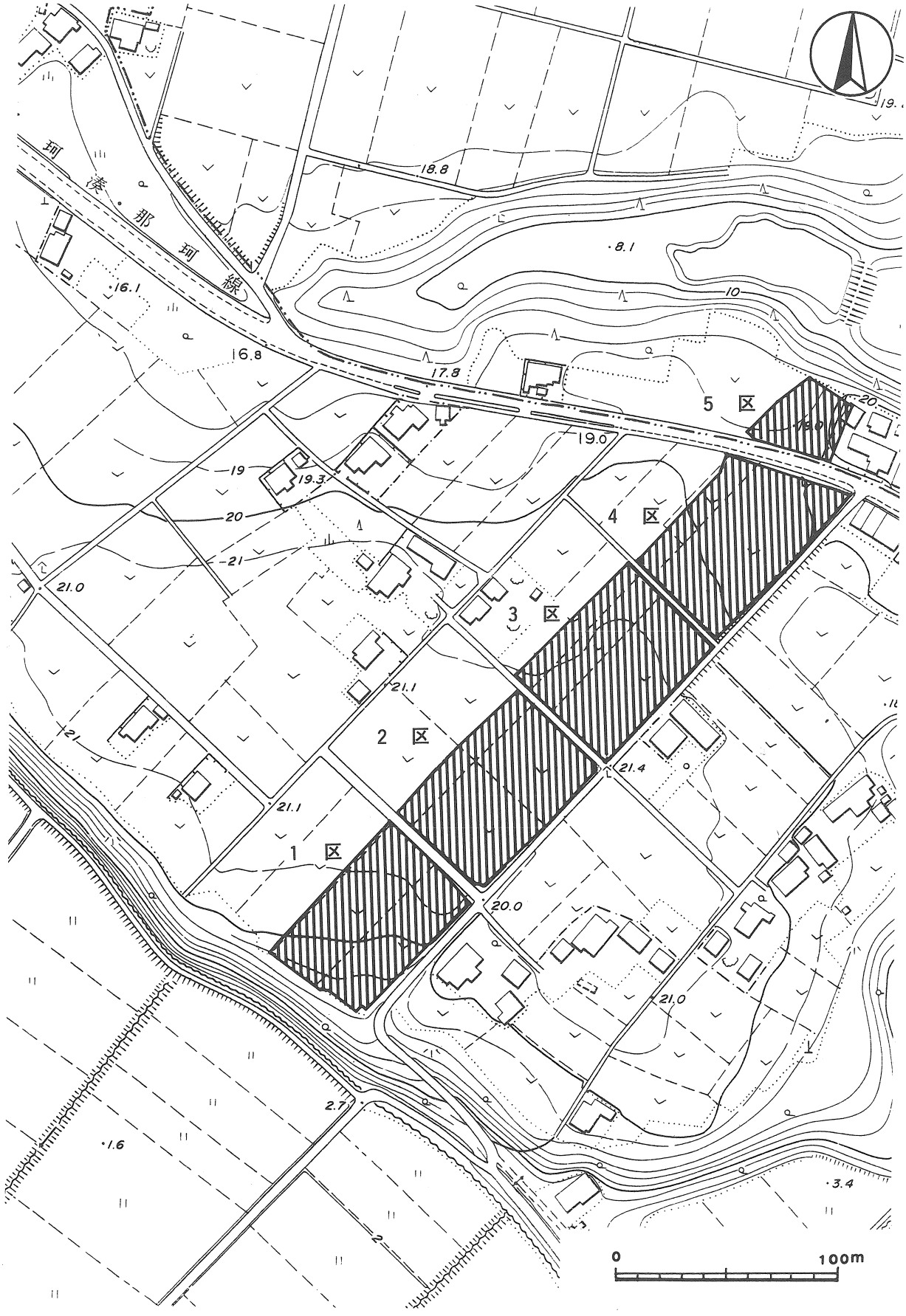
表１　三反田下高井遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降	番号	遺跡名	県遺跡番号	時代 旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降
◎	三反田下高井遺跡	当遺跡		○		○	○		20	道理山古墳群	473				○		
1	山谷遺跡	4195			○	○	○		21	寺脇遺跡	4167		○	○	○		
2	内手遺跡	4197			○	○	○		22	大田房遺跡	3663		○	○	○		
3	三反田新堀遺跡	4198				○	○		23	寺前古墳	472				○		
4	三反田蜆塚遺跡	475		○	○	○			24	柳沢十二所遺跡	461		○	○	○		
5	蜆塚西貝塚	4196		○					25	君ケ台遺跡	486	○	○	○	○	○	
6	天王前遺跡	4192				○	○		26	石光遺跡	4181		○		○	○	
7	三反田古墳群	493				○			27	西中根遺跡	489		○				
8	三反田遺跡	2697		○		○			28	野沢前遺跡	487			○			
9	上高井遺跡	4193				○	○		29	東中根堂山遺跡	2693			○			
10	原山遺跡	3661		○	○	○			30	中根城跡	4186						○
11	下高井遺跡	474		○		○	○		31	東中根清水遺跡	485			○	○	○	
12	宮前古墳群	3662				○			32	東中根大和田遺跡	3668		○	○	○	○	
13	坂ノ上遺跡	3665			○	○			33	笠谷遺跡	484		○	○			
14	前方遺跡	3664			○	○			34	館出遺跡	3202		○	○	○	○	
15	鍛冶屋遺跡	3670					○	○	35	下原遺跡	4191		○				
16	御所ノ内遺跡Ⅰ	3666			○	○			36	虎塚古墳群	498				○		
17	御所ノ内遺跡Ⅱ	4168			○	○			37	指渋遺跡	3201		○	○	○	○	
18	道理山遺跡	4178	○	○	○	○			38	十五郎穴横穴群	497					○	
19	道理山貝塚	462		○	○				39	笠谷古墳群	499				○		

番号	遺跡名	県遺跡番号	時代						番号	遺跡名	県遺跡番号	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中近世以降
40	西並木下遺跡	4242		○		○	○		54	部田野横穴	471					○	
41	馬渡古墳群	503				○			55	上ノ内貝塚	452		○				
42	前原C遺跡	4241				○	○		56	宮前貝塚	3659		○				
43	西下宿南遺跡	4239				○	○		57	部田野古墳群	470				○		
44	前原B遺跡	4240			○	○	○		58	小谷金遺跡	451		○	○	○		
45	前原A遺跡	4235		○	○				59	新堤遺跡	4170		○	○			
46	山崎遺跡	456		○					60	新堤横穴群	469					○	
47	部田野山崎遺跡Ⅰ	4173		○	○	○			61	田宮原遺跡Ⅰ	450		○	○			
48	部田野狢遺跡Ⅲ	4176		○	○				62	田宮原遺跡Ⅱ	4169		○	○			
49	部田野狢遺跡Ⅰ,Ⅱ	455		○	○				63	差渋遺跡	454					○	
50	鷹ノ巣遺跡	453				○											
51	西原遺跡	4165	○														
52	宮後遺跡	3660		○	○	○											
53	尼ケ祢遺跡	4166		○	○	○											



第２図　周辺遺跡位置図



第 3 図　三反田下高井遺跡跡調査区図

第３章　三反田下高井遺跡

第１節　遺跡の概要

三反田下高井遺跡は，ひたちなか市の南部，那珂川左岸の標高19～20mの台地上に所在している。調査区は，東西約52m，南北約360m，面積17,643㎡で，現況は畑地である。調査区の北側は，那珂川の支流である中丸川が流れ，両河川によって挟まれた幅約700mの舌状台地のほぼ先端部に位置している。

今回の調査によって，調査区から竪穴住居跡267軒，鍛冶工房跡５軒，土坑162基，方形周溝墓４基，溝14条，掘立柱建物跡３軒，井戸６基及び粘土採掘坑27基を確認した。

遺物は，遺物収納箱（60×40×20cm）に520箱出土している。遺物の大部分は，古墳時代から平安時代にかけての土師器と須恵器である。その他，縄文土器片，弥生土器片，埴輪片，瓦片，灰釉陶器片，緑釉陶器片，土玉・土錘などの土製品，石製模造品・管玉・切子玉などの石製品，鉄鏃・鍬先・鎌・金環・巡方などの金属製品等が出土している。

第２節　基本層序

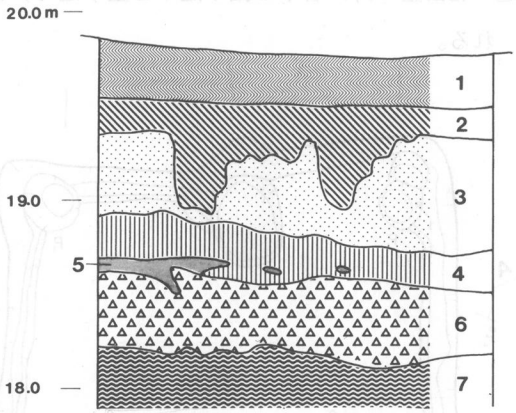
調査区内にテストピットを掘り，基本土層の観察を行った。（第４図）

第１層は，25cm前後の厚さの耕作土層で，スコリア・白色砂粒少量含み，黒褐色をしている。

第２層は，12～30cmの厚さで，スコリアを極少量含み，褐色をしたソフトローム層でありる。土質は締まりがあり，粘性は弱い。

第３層は，42～60cmの厚さで，鹿沼パミスを少量含み，褐色をしたハードローム層である。

第４層は，15～30cmの厚さで，小礫少量，黒色土中量含み，明褐色をしたハードローム層である。３層と比較して色調は暗い。



第４図　基本土層図

第５層は，５～10cmの厚さで，粗いローム粒子を含み，黄褐色をした鹿沼パミス層である。

第６層は，35～44cmの厚さで，スコリア粒子・黒色土少量含む締まりと粘性のある褐色をしたハードローム層であり，粘性を帯びている。

第７層は，25～30cmの厚さで，小石を少量含む締まりと粘性の強い褐色をしたハードローム層である。

住居跡などの遺構は，第２層上面で確認した。

第3節　遺構と遺物

1　竪穴住居跡

今回の調査では，古墳時代の竪穴住居跡141軒，奈良・平安時代の竪穴住居跡98軒を検出した。以下，検出した267軒の竪穴住居跡と出土した遺物について記載する。なお，第1・188・189・207号住居跡は，整理の段階で鍛冶工房跡に変更したため，次章で述べる。

第2号住居跡（第5図）

位置　調査区の北東部，B7i_2区。

規模と平面形　長軸3.96m，短軸3.60mのほぼ方形である。

主軸方向　N－65°－W

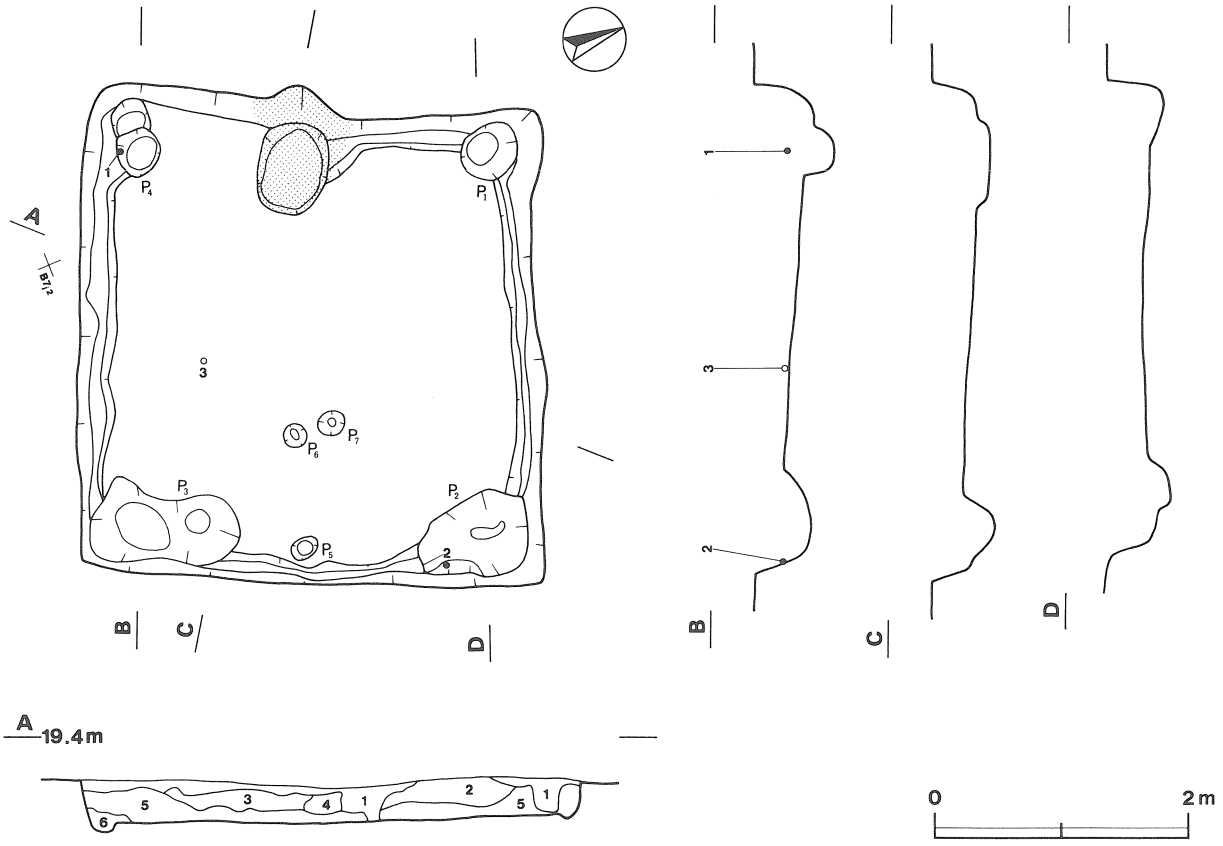
壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西壁南側を除いた壁下に巡っている。上幅約26cm，下幅約12cm，深さ約10cmで，断面形はU字形である。

床　出入り口ピットのある東側が高まっている。中央部からは竈のある北西壁方向に低く傾斜している。

ピット　7か所（P_1～P_7）。P_1～P_4は径36～90cmの円形，深さ20～24cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径24cm，短径16cmの楕円形，深さ13cmで，出入り口ピットと思われる。P_6・P_7は径18～24cmの円形，深さ14～22cm，性格は不明である。

竈　北西壁の外に若干の掘り込みと壁下近くに楕円形の窪みが存在することから，竈が付設されていたと思われる。



第5図　第2号住居跡実測図

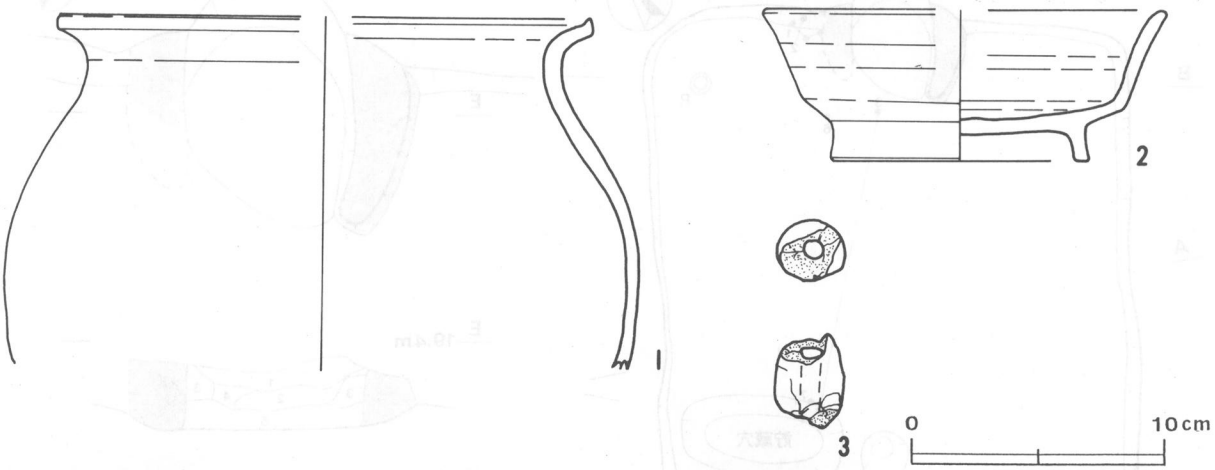
覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム中・大ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム大ブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ローム小・大ブロック微量
6　褐　　色　ローム大ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片221点，須恵器片88点，土玉1点，陶器片1点，貝殻片が出土している。第6図1は土師器の甕の口縁部片で西コーナーの床面近くから，2は須恵器の高台付坏で遺構確認面の南東壁際から出土しているが，耕作機械の溝跡があることから，下から持ち上げられた可能性がある。3の管状土錘は覆土下層から出土している。

所見　北西壁中央部の楕円形の窪みや遺物から竈が付設されていた可能性がある。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。



第6図　第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図1	甕 土師器	A［21.1］ B（14.0）	体部から口縁部片。体部は内傾して口縁部に至り，口縁部は上位に明瞭な稜を持ち，端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通	P3011　10% 覆土下層 体部外面剥離，体部内外面煤付着　PL55
2	高台付坏 須恵器	A［15.8］ B　6.0 D　10.1 E　1.3	底部から口縁部片。平底に「ハ」の字状の高台が付く。体部は下位に明瞭な稜を持ち，直線的に立ち上がる口縁部は上位で僅かに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・雲母・小石・針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P3012　60% 遺構確認面 外面一部自然釉 PL55

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第6図3	管状土錘	（3.8）	2.8	2.4	0.8	（15.9）	覆土下層	DP3003

第３号住居跡（第７図）

位置　調査区の北東部，C7c$_6$区。

規模と平面形　長軸4.22m，短軸3.76mの長方形である。

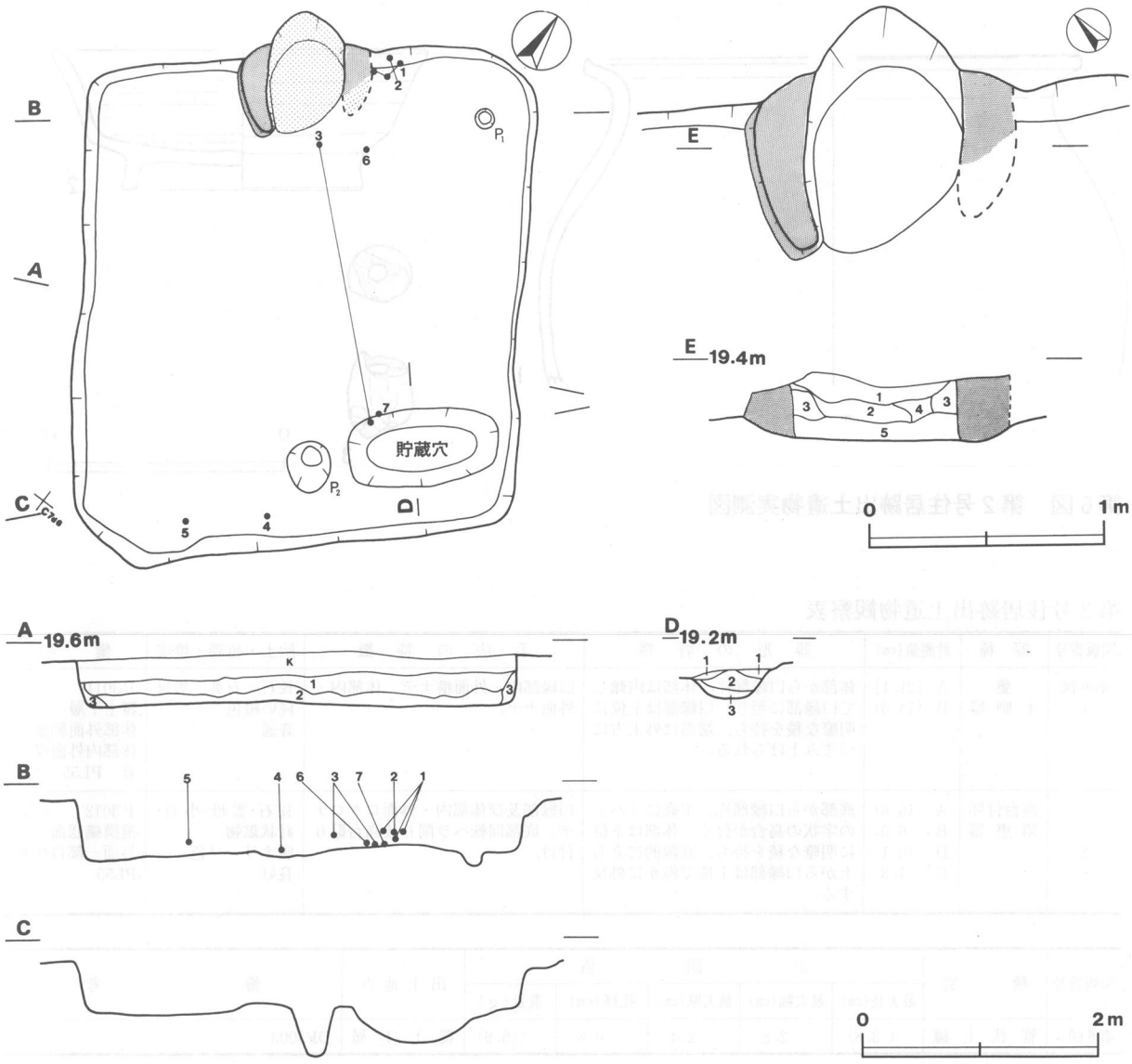
主軸方向　N－39°－W

壁　壁高は44cmで，外傾して立ち上がる。

床　出入り口ピット周辺及び中央部は若干の高まりが見られるが，ほぼ平坦である。

ピット　２か所（P_1・P_2）。P_1は径18cmの円形，深さ14cmで，主柱穴が存在すると思われる所にあるが，規模等から確定しがたい。P_2は長径44cm，短径36cmの楕円形，深さ48cmで，位置から出入り口ピットと思われる。

竈　北西壁中央部を壁外に26cm程掘り込み，砂質粘土で構築されており，規模は長さ105cm，幅116cmである。袖部は床面上に砂質粘土を貼り付けて構築されているが，右袖部の残りは悪い。火床部は若干皿状に窪み，煙道部は火床部から徐々に傾斜を急にして立ち上がる。



第７図　第３号住居跡実測図

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子中量
2　褐　　色　焼土粒子・焼土小・中・大ブロック多量，炭化物・炭化粒子少量
3　鈍い黄褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　焼土粒子・焼土大ブロック・ローム粒子少量

貯蔵穴　南コーナー部に存在。長軸126㎝，短軸68㎝の隅丸長方形で，深さは30㎝，断面形は逆台形である。

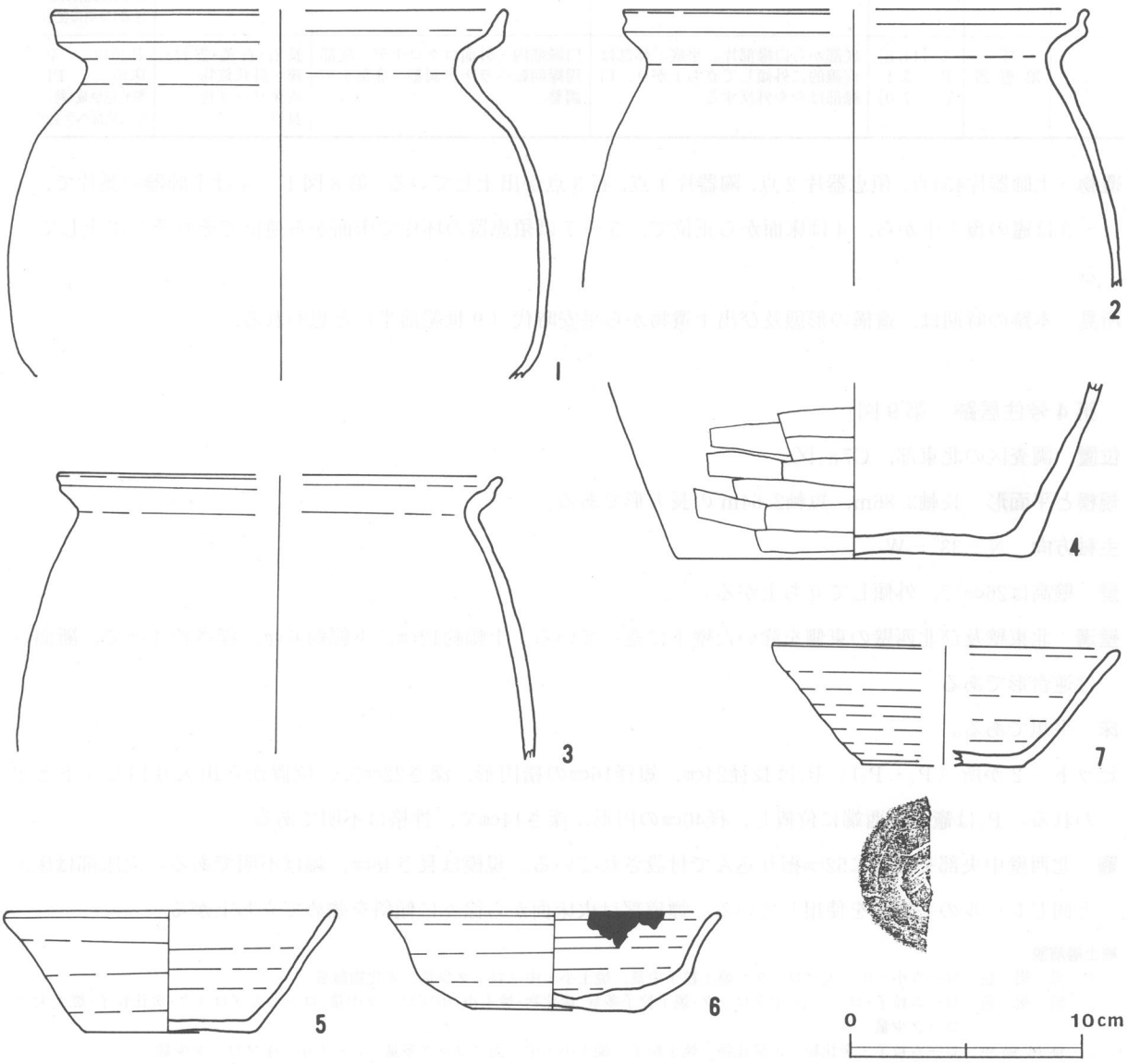
貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　褐　　色　ローム大ブロック少量

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子･ローム小ブロック多量，ローム中・大ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化物・焼土中ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子･ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土小・中・大ブロック少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量



第8図　第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	甕 土師器	A［19.2］ B（15.9）	体部から口縁部片。器肉は全体的に薄く,口縁部は中位に稜を持ち,端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 橙色　普通	P3013　15% 竈覆土中 PL55 体部外面煤付着
2	甕 土師器	A［19.6］ B（12.0）	体部から口縁部片。器肉は全体的に薄い。口縁部は強く外反し,端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラナデ，外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 橙色　普通	P3014　10% 竈覆土中 PL55
3	甕 土師器	A［20.0］ B（12.1）	体部から口縁部片。口縁部は「く」の字状に外反し，端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫 明赤褐色　普通	P3015　10% 竈覆土下層 PL55
4	甕 土師器	B（ 7.1） C　15.1	底部片。中央部がやや窪む平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 鈍い黄橙色　普通	P3016　20% 床面 PL55
5	坏 須恵器	A　14.0 B　5.2 C　7.3	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラ削り調整。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 内:灰オリーブ色, 外:鈍い橙色　普通	P3017　90% 床面 酸化焔焼成 PL55
6	坏 須恵器	A　14.1 B　4.3 C　6.9	口縁部及び体部一部欠損。平底で中央部が窪み,二次底部面を持つ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	体部外面上半部強いロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石・石英・雲母・礫 鈍い褐色 良好	P3018　90% 床面　PL55 酸化焔焼成,底部ヘラ記号,口縁部内面及び体部割れ口に煤付着(燈明に使用)
7	坏 須恵器	A［14.8］ B　5.1 C［ 7.0］	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部周縁回転ヘラナデ調整。底部ナデ調整。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P3019　40% 床面　PL55 酸化焔焼成(鈍い橙色),底部ヘラ記号

遺物　土師器片454点，須恵器片2点，陶器片1点，石3点が出土している。第8図1～4は土師器の甕片で，1～3は竈の覆土中から，4は床面から正位で，5～7は須恵器の坏片で床面から逆位でそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第4号住居跡（第9図）

位置　調査区の北東部，C7a_1区。

規模と平面形　長軸3.86m，短軸2.64mの長方形である。

主軸方向　N－33°－W

壁　壁高は26cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北東壁及び北西壁の東側を除いた壁下に巡っている。上幅約12cm，下幅約6cm，深さ約4cmで，断面形は逆台形である。

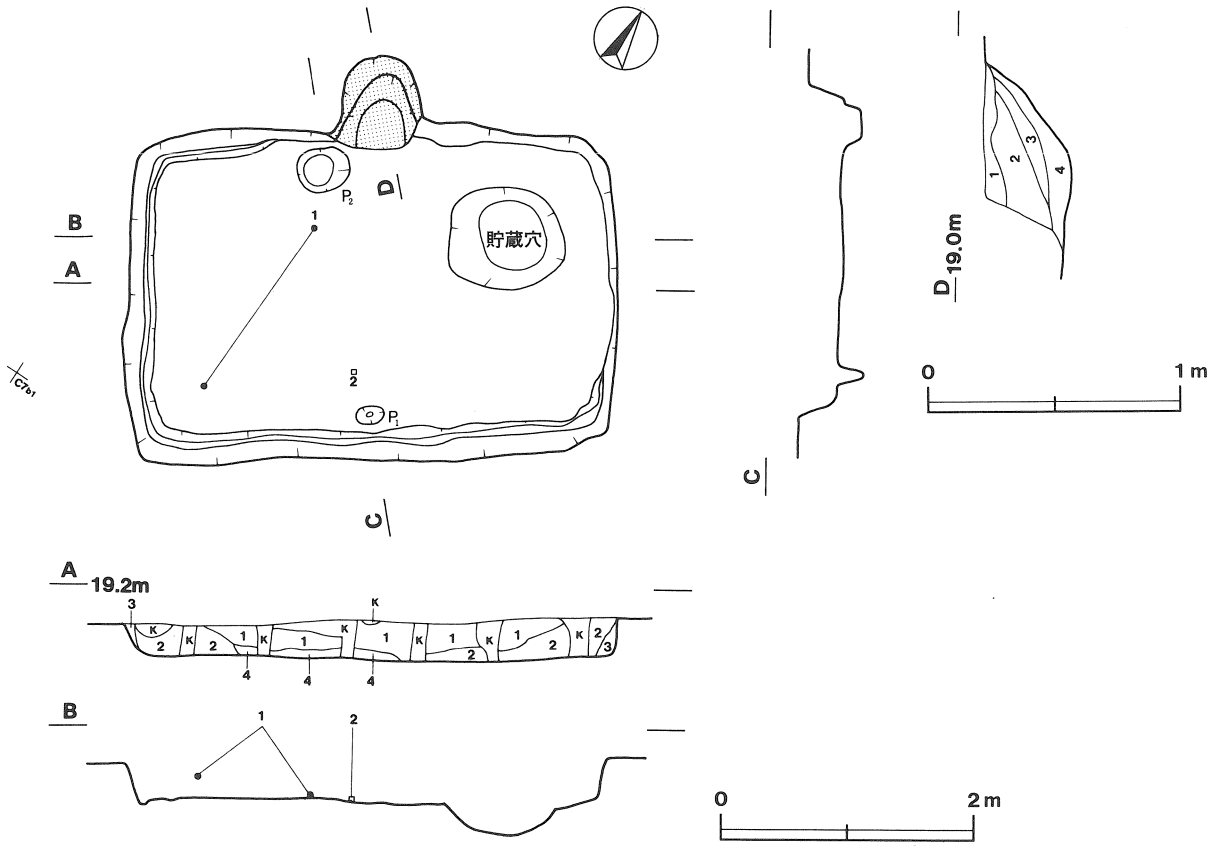
床　平坦である。

ピット　2か所（P_1・P_2）。P_1は長径24cm，短径16cmの楕円形，深さ22cmで，位置から出入り口ピットと思われる。P_2は竈の南西端に位置し，径40cmの円形，深さ14cmで，性格は不明である。

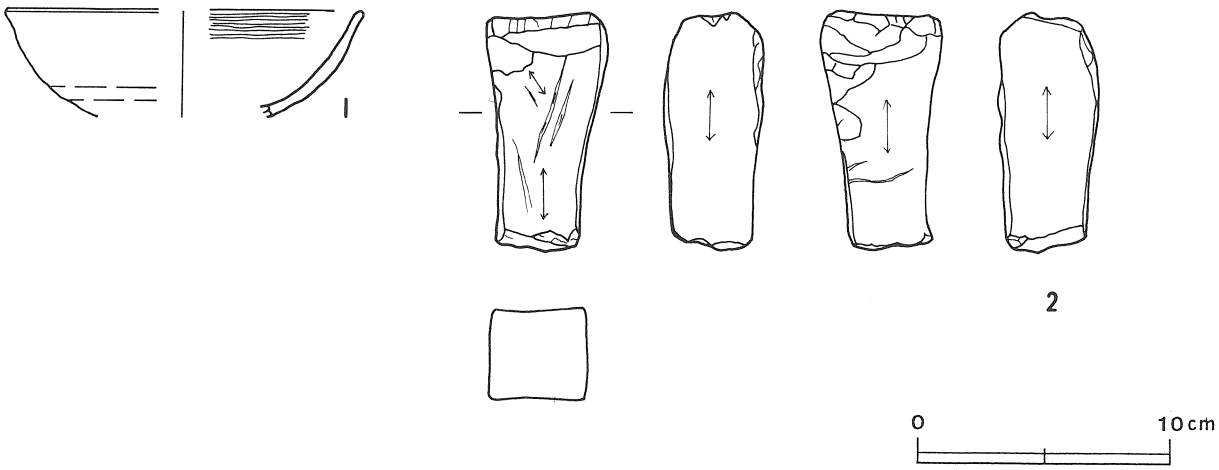
竈　北西壁中央部を壁外に52cm掘り込んで付設されている。規模は長さ48cm，幅は不明である。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は火床面から徐々に傾斜を強めて立ち上がる。

竈土層解説

1　黒褐色　ローム小・中・大ブロック・焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子多量,炭化物・焼土小・中ブロック中量,ローム大ブロック・炭化粒子・焼土大ブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・炭化物・焼土粒子・焼土小・中・大ブロック多量，ローム小・中ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子多量,ローム小・中ブロック・炭化粒子・炭化物・焼土小・中ブロック中量,ローム大ブロック・焼土大ブロック少量



第9図　第4号住居跡実測図



第10図　第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	坏 土師器	A [14.0] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P3020 30% 覆土下層 PL55

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第10図2	砥石	(9.5)	4.3	3.9	−	(247.7)	凝灰岩	床面付近	Q3003

貯蔵穴　北コーナー近くに存在。径95cm程の円形で，深さは24cm，断面形はU字形である。

覆土　耕作機械による撹乱をうけているが，4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子中量，ローム中・大ブロック・炭化物・焼土小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，焼土小・中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物少量
3　暗　褐　色　ローム小・中ブロック多量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小・中ブロック・焼土小・中ブロック中量，炭化粒子少量

遺物　土師器片104点，須恵器片33点，石6点が出土している。第10図1の土師器の坏は覆土中・下層から出土した破片が接合できた。2の砥石は床面近くから出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第5号住居跡（第11図）

位置　調査区の北東部，C7b_1区。

規模と平面形　長軸4.38m，短軸3.74mの長方形である。

主軸方向　N－22°－W

壁　壁高は44～60cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　壁下を全周する。上幅約16cm，下幅約8cm，深さ約8cmで，断面形は皿状である。

床　平坦である。

ピット　P_1は長径30cm，短径20cmの楕円形，深さ44cmで，位置から出入り口ピットと思われる。

竈　北西壁中央から東寄りの部分を壁外に40cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。天井部は崩落しているが，規模は長さ100cm，幅146cmと思われる。袖部は床面上に砂質粘土を貼りつけ，火床部は袖部間を18cm程皿状に掘り窪めている。煙道部は火床面からゆるやかな傾斜で立ち上がり，赤く焼けている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム大ブロック・粘土少量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
3　暗　褐　色　焼土粒子多量，焼土小・中ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・灰少量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，焼土小・中・大ブロック中量，ローム粒子・粘土ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土大ブロック・粘土ブロック少量
6　褐　　色　粘土多量，ローム粒子中量，焼土大ブロック微量
7　黒　褐　色　ローム大ブロック少量，ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量

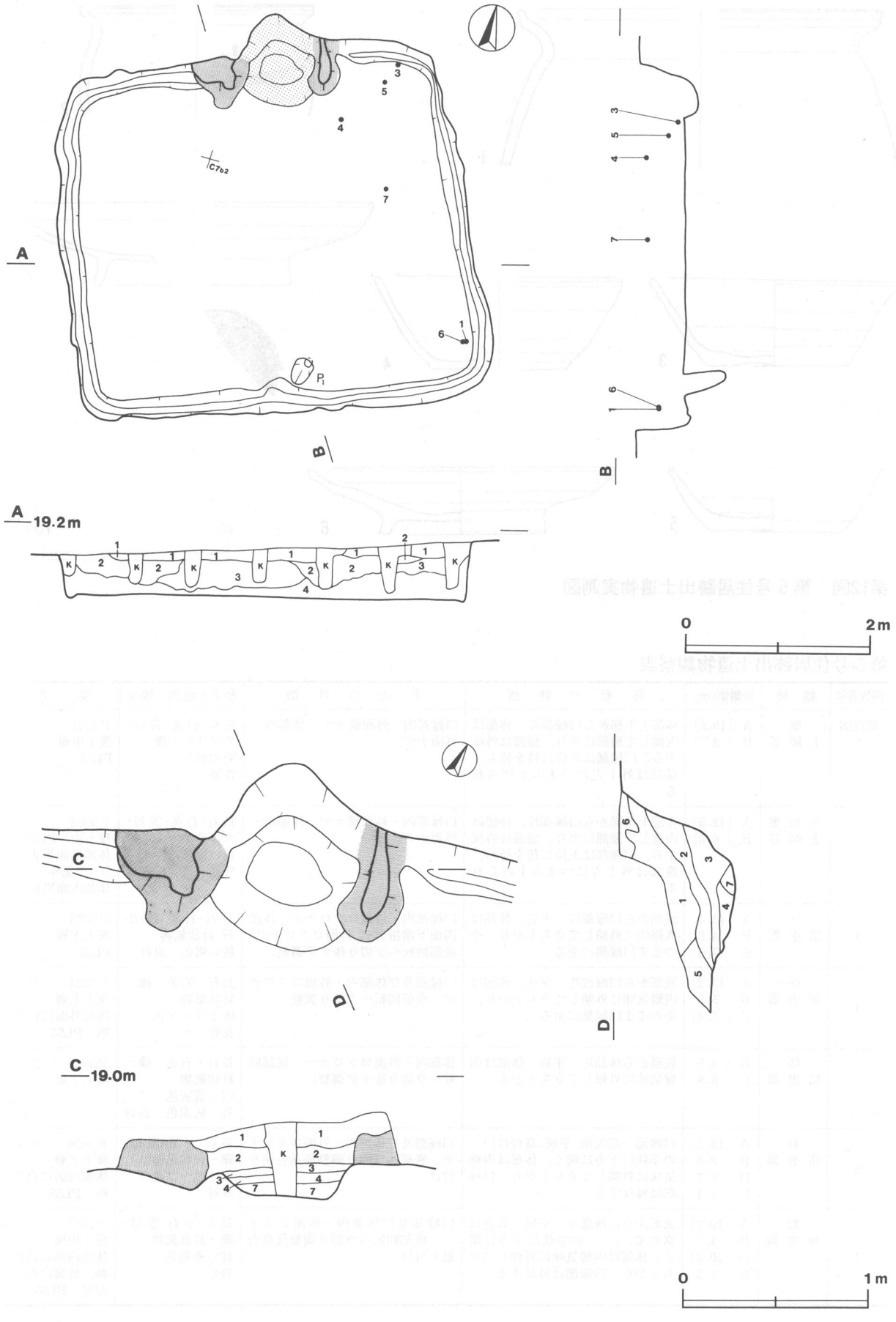
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

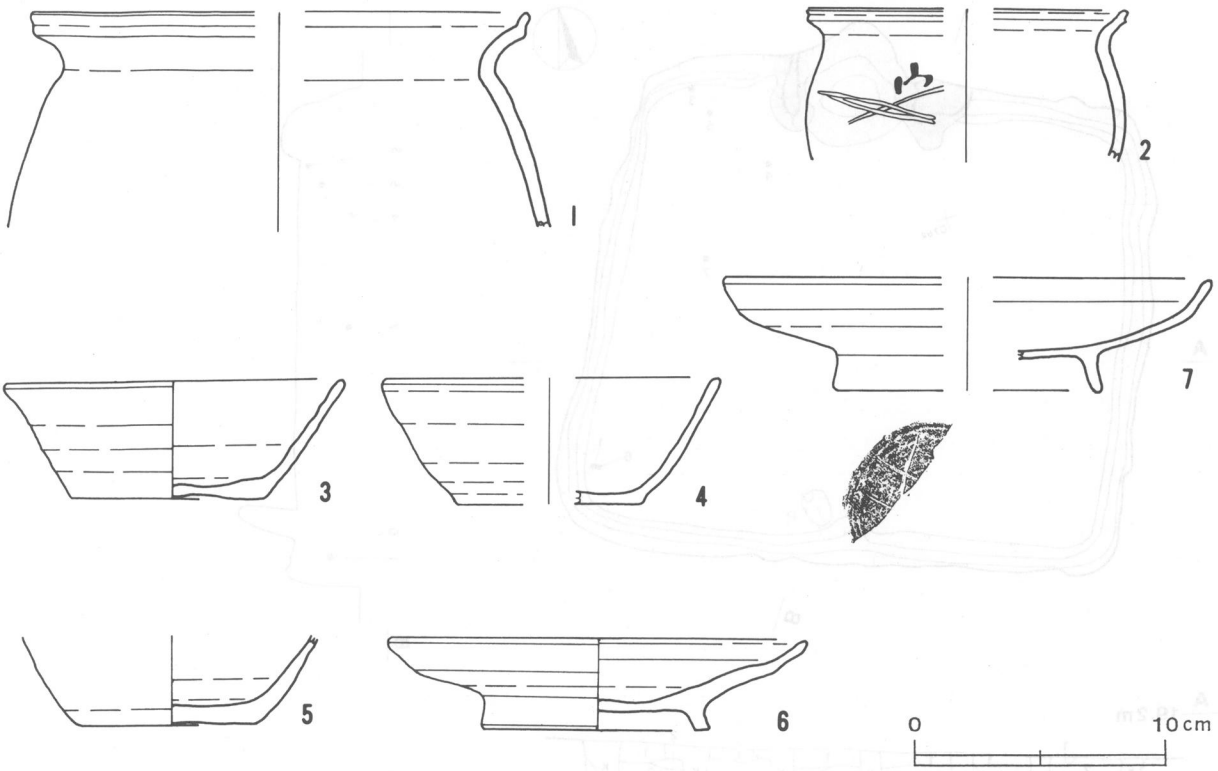
1　黒　　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック・炭化物・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック・炭化物・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック中量，炭化物・焼土粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック・焼土大ブロック少量

遺物　土師器片99点，須恵器片62点，陶器片1点，雑石11点が出土している。第12図1・2は土師器の甕片で覆土中から出土している。特に2の小形甕は胴部に墨書（文字不明）が見られる。3～7は須恵器片で，3～5の坏は覆土上層及び下層から，6の小型の盤は覆土上層から，7の盤は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。



第11図　第５号住居跡実測図



第12図　第５号住居跡出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	甕 土師器	A［19.6］ B（8.7）	体部上半部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至り，頸部は外反する。口縁部は上位に稜を持ち，端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 明赤褐色 普通	P3021　5％ 覆土中層 PL56
2	小形甕 土師器	A［12.5］ B（6.0）	体部上半部から口縁部片。体部は内彎して頸部に至り，頸部は外反する。口縁部は上位に稜を持ち，端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P3022　5％ 覆土中　PL56 体部外面墨書及びヘラ記号 体部内面黒色
3	坏 須恵器	A　13.4 B　4.8 C　7.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内面下端指ナデ，外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石・石英・礫・小石・針状鉱物 鈍い褐色　良好	P3023　70％ 覆土下層 PL55
4	坏 須恵器	A［13.2］ B　5.0 C［7.4］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。	長石・石英・礫・針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P3024　25％ 覆土上層 体部外面に自然釉　PL55
5	坏 須恵器	B（3.5） C　6.8	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石・石英・礫・針状鉱物 内：黄灰色 外：灰赤色　良好	P3025　25％ 覆土下層
6	盤 須恵器	A　16.5 B　3.6 D　8.2 E　1.1	口縁部一部欠損。平底。高台は「ハ」の字状に下方に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P3026　95％ 覆土上層 体部内面に自然釉　PL55
7	盤 須恵器	A［19.2］ B　4.5 D［10.2］ E　1.5	底部から口縁部片。平底。高台は高めで，「ハ」の字状に下方に開く。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石・小石・雲母・礫・針状鉱物 鈍い赤褐色 良好	P3027　30％ 覆土中層 体部内面に自然釉，底部にヘラ記号　PL55

第6号住居跡（第13図）

位置　調査区の北東部，C7e₂区。

規模と平面形　長軸3.04m，短軸2.86mのほぼ方形である。

主軸方向　N－34°－W

壁　壁高は60cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

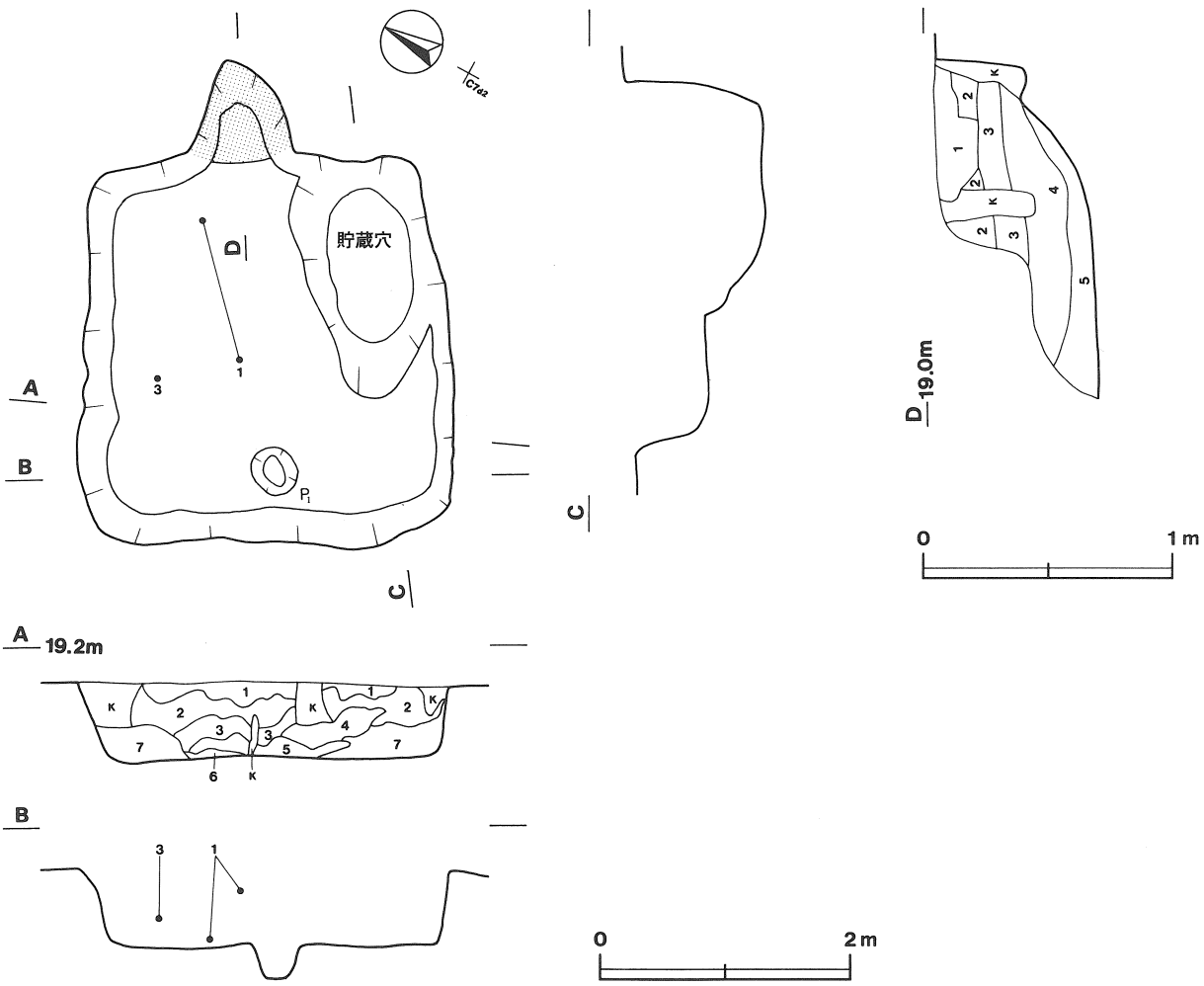
ピット　P_1は径38cmの円形，深さ28cmで，位置から出入り口ピットと思われる。

竈　北東壁中央部を壁外に76cm程掘り込み，砂質粘土で構築されていたと思われる。耕作機械による撹乱をうけているので袖部と天井部は壊れ，火床部にあった20cm大の粘土塊はその一部と思われる。火床部は床面と同じレベルを使用している。煙道部は火床部からゆるやかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック・焼土大ブロック中量，炭化物少量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小・中ブロック・焼土小・中・大ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物少量

貯蔵穴　東コーナーに存在。長径190cm，短径108cmの楕円形で，深さは52cm，断面形は逆台形である。



第13図　第6号住居跡実測図

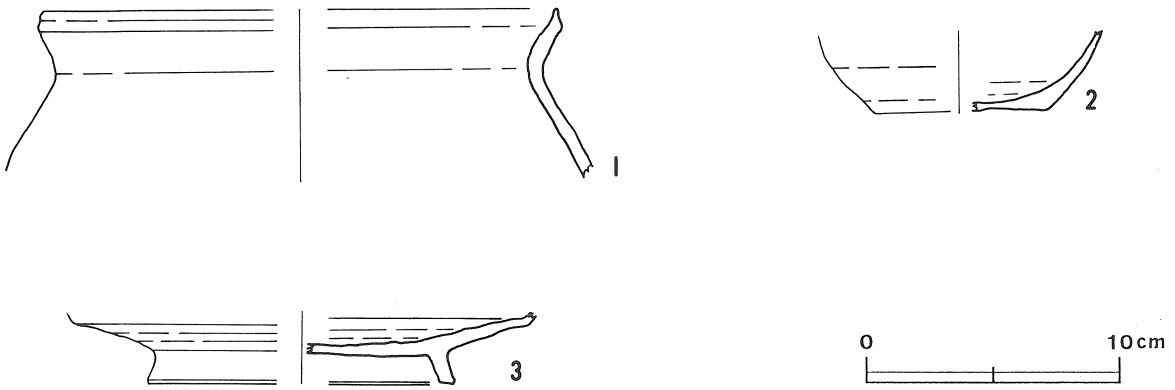
覆土　耕作機械による撹乱をうけているが，７層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量，焼土中ブロック微量
4　黒　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック中量，黒色土ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック中量
6　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック・炭化物中量，スコリア少量
7　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック・スコリア少量

遺物　土師器片47点，須恵器片24点，縄文土器片３点，陶器片１点，石２点が出土している。第14図１の土師器甕の口縁部片は，覆土下層から出土している。２・３は須恵器片で，２の坏は竈の覆土中から，３の盤は，覆土下層から出土している。縄文土器片や陶器片は流れ込みと思われる。

所見　２の坏片は，出土状況から住居廃絶期の投げ込み等が考えられる。本跡の時期は遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（８世紀）と思われる。



第14図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第14図 1	甕 土師器	A［20.2］ B（ 6.7）	体部上半部から口縁部片。体部は内傾して立ち上がり，頸部に至る。頸部は「く」の字状に外反し，口縁端部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 橙色 普通	P3028　5％ 覆土下層 PL55
2	坏 須恵器	B（ 3.1） C［ 7.0］	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。	長石・石英・礫・針状鉱物 淡赤橙色 良好	P3029　25％ 竈覆土中 PL56
3	盤 須恵器	B（ 2.9） D［12.0］ E　 1.2	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石・石英・雲母・小石・針状鉱物 灰色 良好	P3030　25％ 覆土下層

第７号住居跡（第15図）

位置　調査区の北東部，C7e$_4$区。

重複関係　本跡は，第８号住居跡に掘り込まれていることから，第８号住居跡より古い。

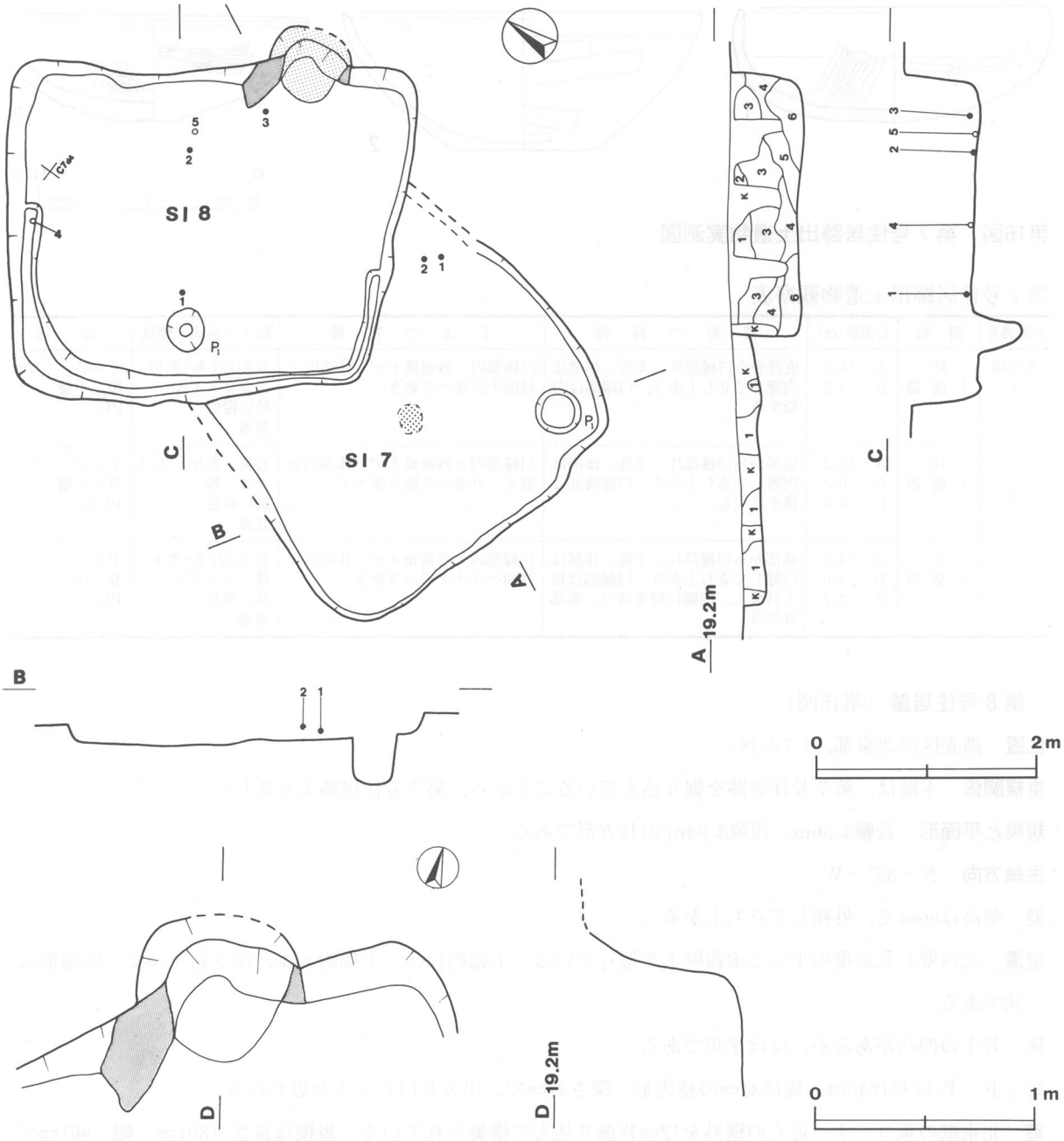
規模と平面形　長軸3.20m，短軸（2.40）m の長方形と思われる。

壁　壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　西壁から東壁側に向かってゆるやかに傾斜しているが，ほぼ平坦である。

ピット　P$_1$は径42cmの円形，深さ44cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

炉　中央に長軸26cm，短軸24cmの隅丸方形の焼土の広がりが確認され，炉と思われる。



第15図　第７・８号住居跡実測図

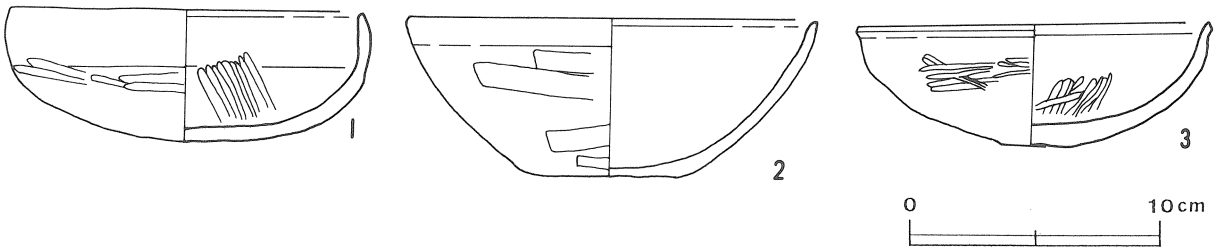
覆土　耕作機械による撹乱をうけてるが，基本的には１層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片105点，須恵器片６点，鉄滓の細片が出土している。第16図１～３はともに土師器の坏で，１は覆土中層から，２は覆土上層から，３は覆土中からそれぞれ出土している。須恵器片は，第８号住居跡からの流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。また，鉄滓の細片が出土していることなどから鍛冶に関する遺構であることも考えられる。



第16図　第７号住居跡出土遺物実測図

第７号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	坏 土師器	A 14.0 B 5.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ後ヘラ磨き。	長石･石英･雲母･スコリア・礫 鈍い橙色 普通	P3031 60% 覆土中層 PL55
2	坏 土師器	A 16.3 B 6.2 C 5.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁端部は僅かに尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア・礫 鈍い橙色 普通	P3032 50% 覆土上層 PL55
3	坏 土師器	A 14.0 B 5.0 C 2.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反し，内側に稜を持つ。端部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ後ヘラ磨き。	長石･石英･雲母･礫・スコリア 鈍い橙色 普通	P3033 60% 覆土中 PL55

第８号住居跡（第15図）

位置　調査区の北東部，C7d_4区。

重複関係　本跡は，第７号住居跡を掘り込んでいることから，第７号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.56m，短軸3.04mの長方形である。

主軸方向　N－35°－W

壁　壁高は66cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北西壁と北東壁の半分と南西壁下を巡っている。上幅約14cm，下幅約６cm，深さ約４cmで，断面形は皿状である。

床　若干の凹凸があるが，ほぼ平坦である。

ピット　P_1は長径40cm，短径34cmの楕円形，深さ41cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北東壁の東コーナー近くの壁外を12cm程掘り込んで構築されている。規模は長さ（80）cm，幅（96）cmである。袖部は床面に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は床面と同じレベルである。煙道部は火床面から徐々に傾斜を増して立ち上がる。

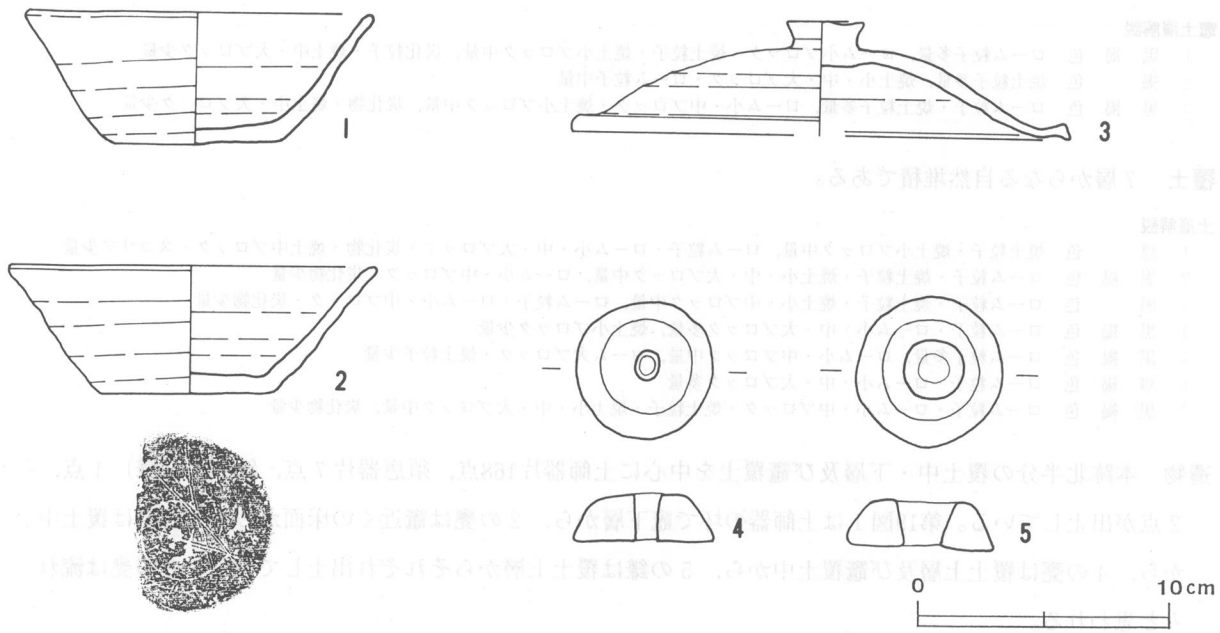
覆土　耕作機械による撹乱をうけているが，６層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子・焼土中ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量
3　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量，炭化物少量
4　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック・スコリア中量，炭化物・焼土粒子微量
5　暗 褐 色　焼土粒子・焼土小・中ブロック・ローム粒子多量，ローム小・中ブロック・焼土大ブロック中量，炭化物・スコリア少量
6　鈍い黄褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小・中ブロック多量，ローム小・中ブロック・焼土大ブロック中量，炭化物・スコリア少量

遺物　土師器片124点，須恵器片18点，紡錘車２点が出土している。第17図１・２の須恵器の坏は覆土下層及び床面から，３の須恵器の蓋は斜位で覆土下層から，４・５の土製の紡錘車は床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀前半）と思われる。



第17図　第８号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	坏 須恵器	A 13.7 B 5.2 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はやや外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 灰色 良好	P3034　100% 覆土下層 PL55
2	坏 須恵器	A 14.4 B 5.0 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り調整。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 良好	P3035　60% 床面 還元焔焼成，ヘラ記号　PL55
3	蓋 須恵器	A [19.7] B 4.5 F 3.0 G 1.1	天井部から口縁部片。天井部にボタン状のつまみがつく。口縁端部は屈曲し，垂下する。	天井部内面ロクロナデ，外面回転ヘラ削り調整。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・小石・礫・針状鉱物 褐灰色 良好	P3036　75% 覆土下層 内面に自然釉 PL55

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第17図 4	紡錘車	5.5	5.4	1.9	1.0	63.3	床面	DP3004　PL115
5	紡錘車	5.9	6.0	1.9	2.3	64.2	床面	DP3005　PL115

第９号住居跡（第18図）

位置　調査区の北東部，C6b_0区。

規模と平面形　長軸2.92m，短軸2.86m の方形である。

主軸方向　N－62°－E

壁　壁高は20～28cmで，外傾して立ち上がる。

床　中央部が若干高まるが，ほぼ平坦である。

竈　北東壁の東コーナー寄りを壁外に72cm程掘り込んで，砂質粘土で構築されている。左右の袖部とも一部が遺存し，芯材として凝灰岩を使用している。火床部から鉢形土器の底部が逆位で出土している。火床部は浅い皿状を呈し，煙道部はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子・焼土中・大ブロック少量
2　褐　　色　焼土粒子多量，焼土小・中・大ブロック・ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小・中ブロック・焼土小ブロック中量，炭化物・焼土中・大ブロック少量

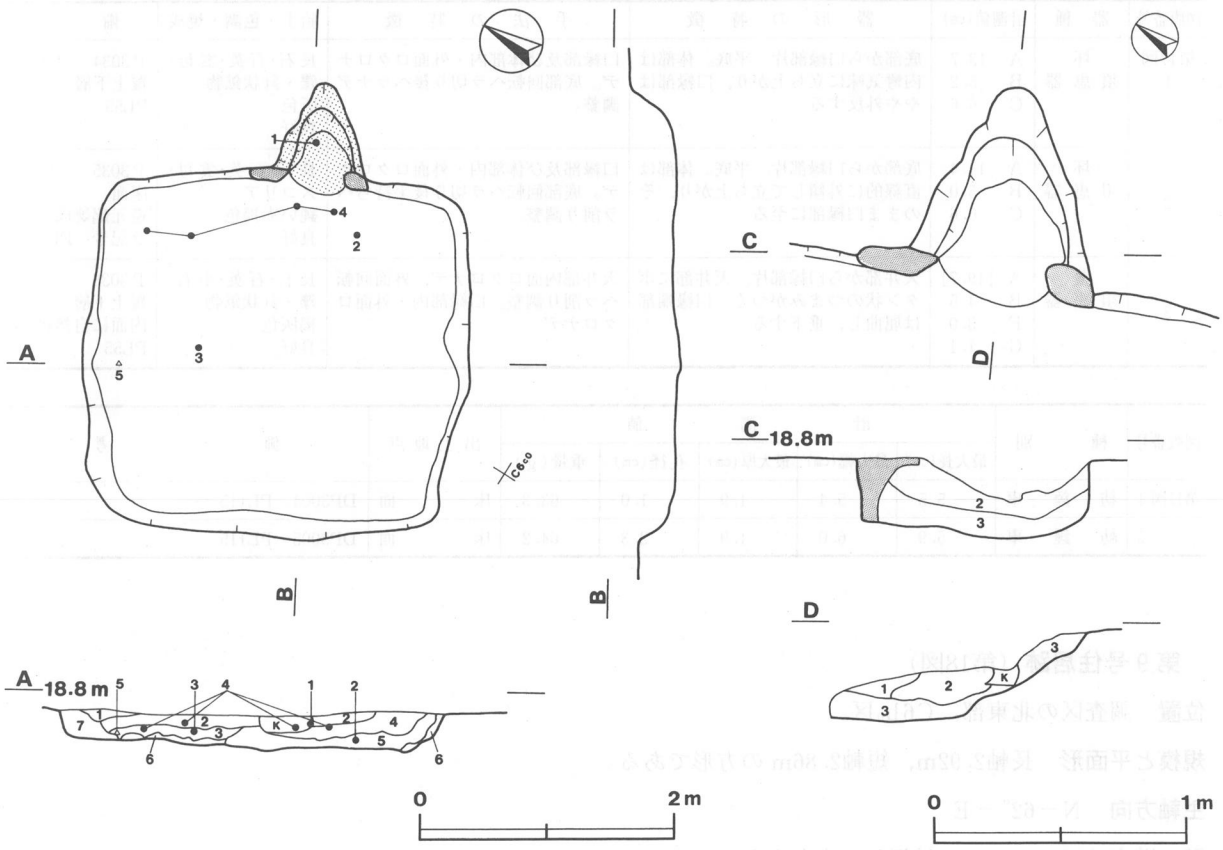
覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説

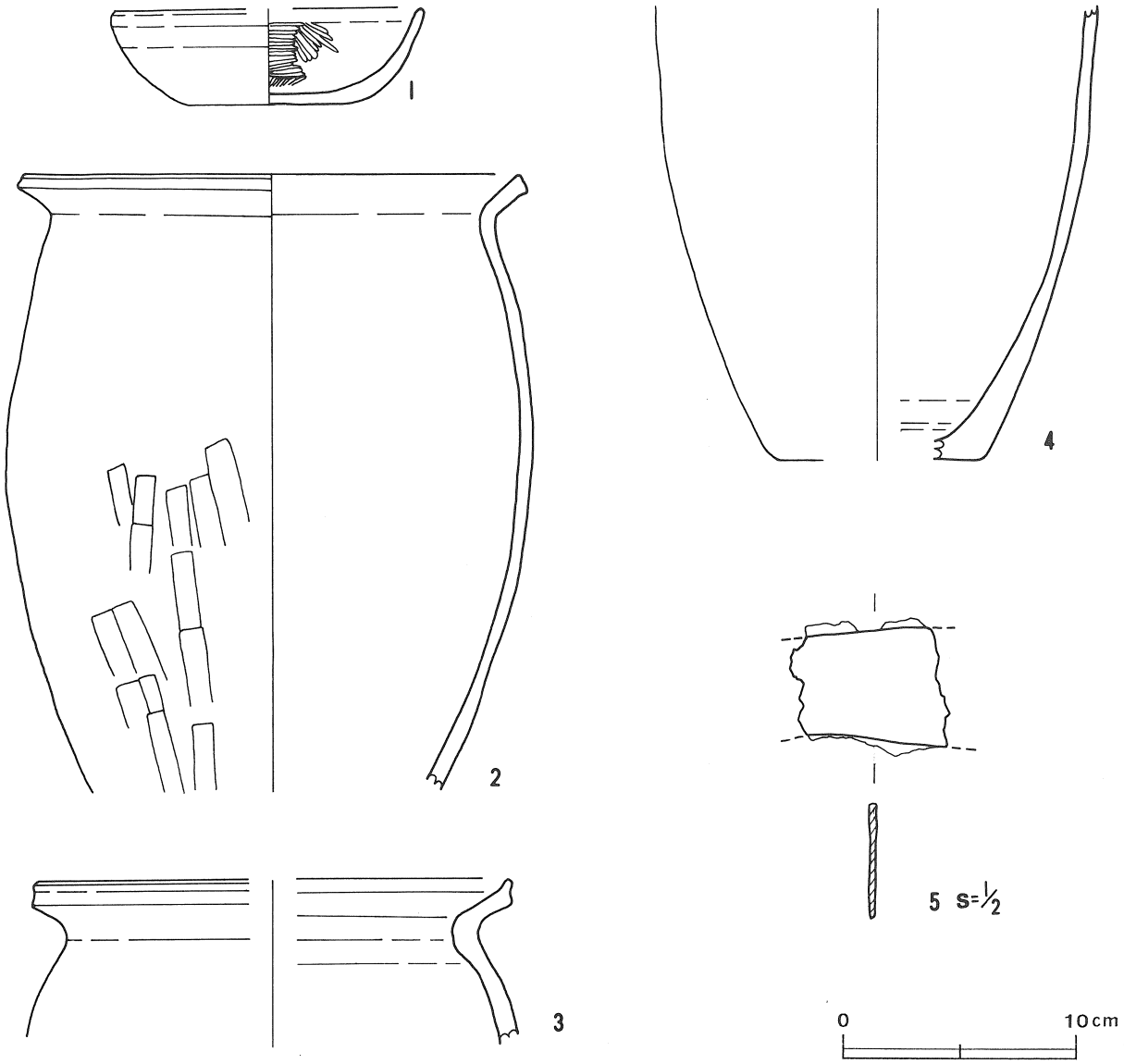
1　黒　　色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子・ローム小・中・大ブロック・炭化物・焼土中ブロック・スコリア少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小・中・大ブロック中量，ローム小・中ブロック・炭化物少量
3　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小・中ブロック中量，ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化物少量
4　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量，焼土小ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小・中・大ブロック多量
7　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子・焼土小・中・大ブロック中量，炭化物少量

遺物　本跡北半分の覆土中・下層及び竈覆土を中心に土師器片168点，須恵器片7点，鉄製品（鎌）1点，石2点が出土している。第19図1は土師器の坏で竈下層から，2の甕は竈近くの床面から，3の甕は覆土中層から，4の甕は覆土上層及び竈覆土中から，5の鎌は覆土上層からそれぞれ出土している。3の甕は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀後半）と思われる。



第18図　第9号住居跡実測図



第19図　第９号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	坏 土師器	A［13.1］ B　4.0 C　6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面上半ロクロナデ，下半回転ヘラ削り。底部内面ヘラ磨き，外面ナデ調整。	長石・石英・雲母・礫 橙色 普通	P3037　50% 竈覆土下層 内面一部黒色 PL56
2	甕 土師器	A　21.3 B（21.9）	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部上位に稜を持ち，端部は細い棒状工具による凹線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ削り。	長石・雲母・礫・スコリア・針状鉱物 鈍い赤褐色 普通	P3038　80% 覆土下層 体部外面に煤付着　PL55
3	甕 土師器	A［20.0］ B（7.2）	口縁部片。口縁部は強く外反し，稜を持つ。端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラ削り。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・礫 橙色　普通	P3039　10% 覆土中層 PL56
4	甕 土師器	B（19.5） C［8.4］	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面縦位のヘラナデ，外面ナデ。体部下端及び底部内面指ナデ。	長石・石英・雲母・礫 赤色　普通	P3040 20%PL56 覆土上層，竈覆土中 体部外面下端に煤付着

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第19図5	鎌	（4.6）	3.9	0.2	－	（8.3）	覆土上層	M3001　鉄　PL124

第10号住居跡（第20図）

位置　調査区の北東部，C7e$_1$区。

規模と平面形　長軸4.26m，短軸3.06mの長方形である。

主軸方向　N－67°－W

壁　壁高は10～16cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。

ピット　P$_1$は径52cmの円形，深さ30cmで，位置から出入り口ピットと考えられる。

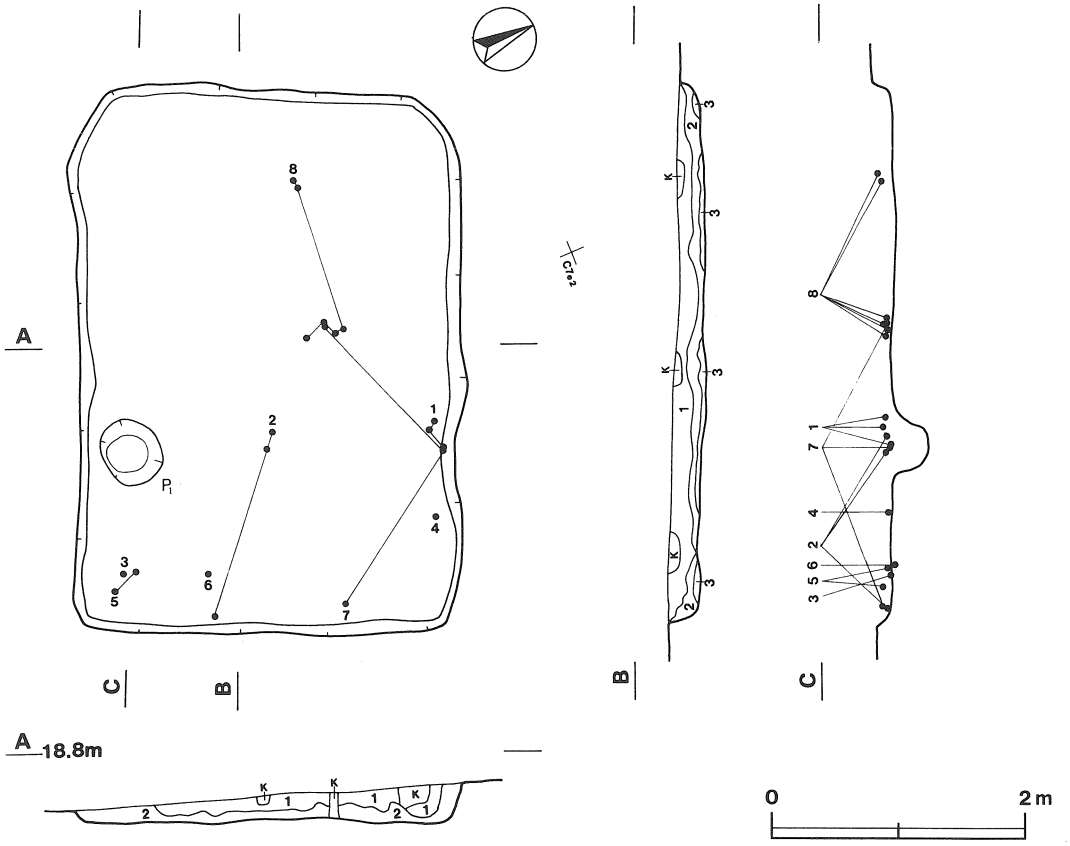
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

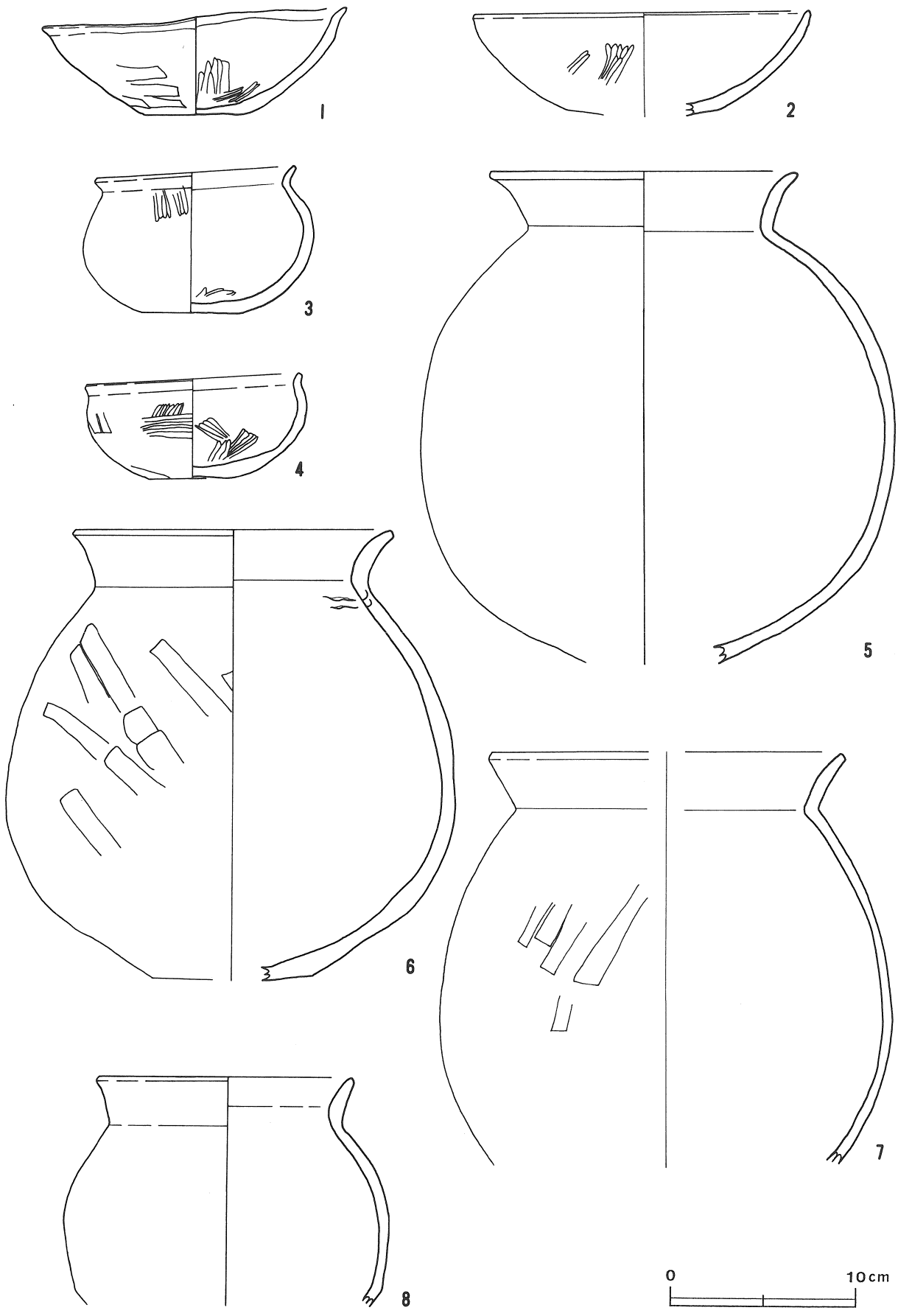
1　黒　　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

遺物　土師器片389点，須恵器片1点，弥生土器片6点が出土している。第21図1～8はすべて土師器で，1・2の坏と5～8の甕はそれぞれ覆土中・下層で散らばった状態で出土し，破片が接合できたものである。3，4の椀は床面から逆位で出土している。また，須恵器片と弥生土器片は流れ込みと思われる。

所見　本跡は，遺構の形態及び遺物等から炉を伴うと思われるが，検出されなかった。時期は，古墳時代中期（5世紀中葉）と思われる。



第20図　第10号住居跡実測図



第21図　第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	坏 土師器	A 16.4 B 5.7 C 5.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し,内側に稜を持つ。	口縁部内面ヘラ磨き,外面横ナデ。体部内面ナデ後磨き，外面ヘラ削り後ヘラナデ。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 鈍い橙色 普通	P3041 65% 覆土下層 PL56
2	坏 土師器	A 18.2 B (5.5)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ後磨き。底部外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 鈍い橙色 普通	P3042 60% 覆土下層 PL56
3	椀 土師器	A 10.8 B 8.0 C 5.4	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり，頸部に至る。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面上部ハケ目整形後ヘラ磨き，下部ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 鈍い赤褐色 普通	P3043 95% 床面 PL56 外面煤付着
4	椀 土師器	A 11.4 B 5.6 C 4.4	平底で中央部が窪む。体部は内彎しながら立ち上がり,上位で張る。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面上部ハケ目整形後ヘラ磨き，下部ヘラナデ。底部ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P3044 100% 床面 PL56
5	甕 土師器	A 16.7 B (26.5)	体部下半部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,球形状を呈する。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P3045 50% PL56 覆土中～下層 体部外面に煤付着
6	甕 土師器	A 17.4 B 24.1 C [8.5]	底部から口縁部片。平底で突出する。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内面ヘラ磨き,外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 鈍い褐色 普通	P3046 45% 覆土下層 PL56
7	甕 土師器	A [18.8] B (22.0)	体部下半部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，球形状を呈する。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 橙色 普通	P3047 20% 覆土中層 PL56
8	甕 土師器	A 14.5 B (17.2)	体部中位から口縁部片。体部は球形状を呈する。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 明赤褐色 普通	P3048 20% 覆土下層 PL56

第11号住居跡（第22図）

位置　調査区の北東部，C6h$_3$区。

重複関係　本跡は，第12号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形　長軸3.56m，短軸3.18mの長方形である。

主軸方向　N－11°－W

壁　壁高は22～36cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　北壁を除き壁下を巡っている。上幅約20～30cm，下幅約8cm，深さ約10cmで，断面形は皿状である。

床　東側に若干傾斜しているが，ほぼ平坦である。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_3$は長径48～66cm，短径30～50cmの楕円形，深さ40～44cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_4$は径48cmの円形，深さ30cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部を壁外に66cm掘り込み，砂質粘土で構築している。竈は崩壊しており，覆土中から多数の土器片が出土している。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は火床部からゆるやかに立ち上がる。

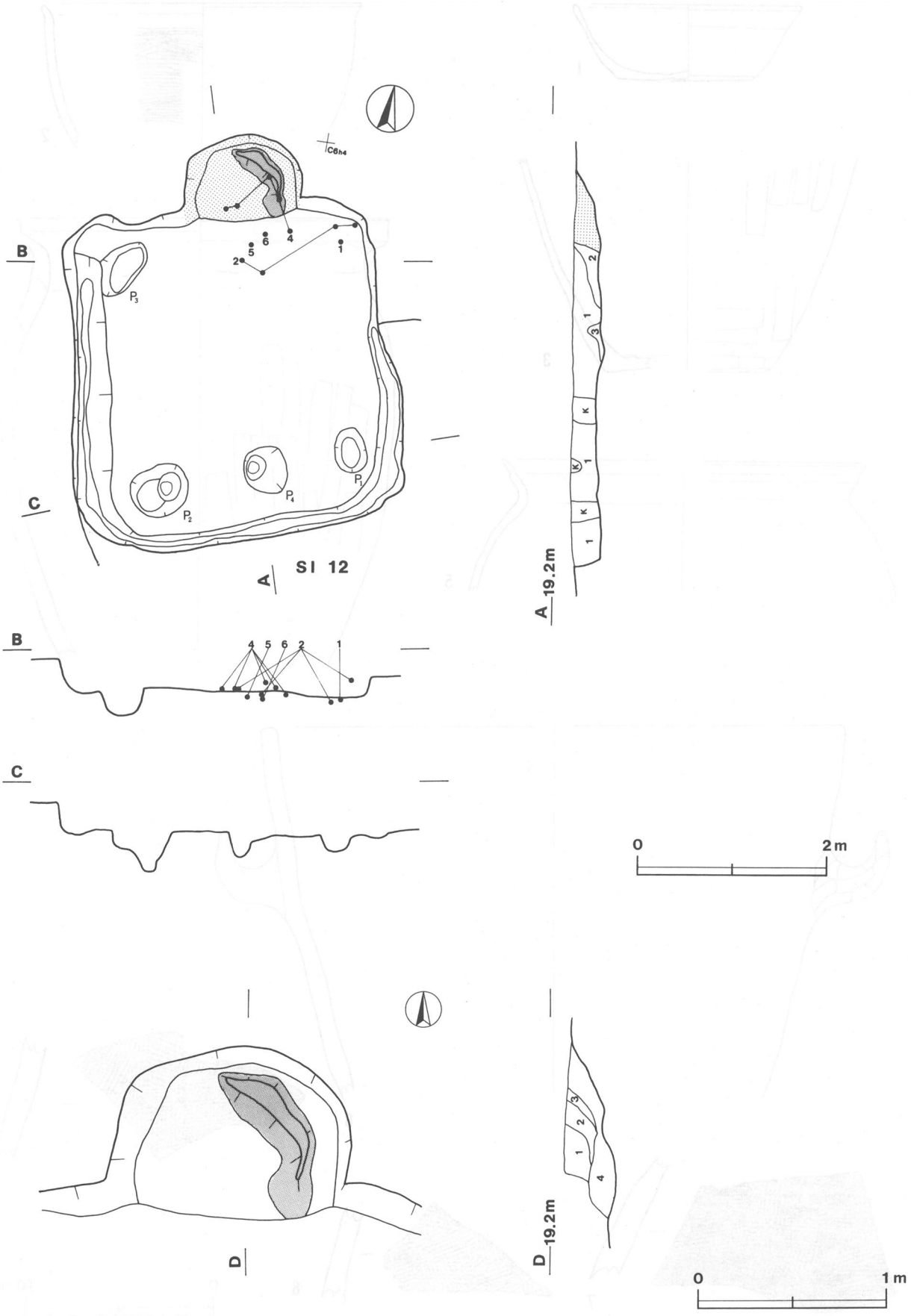
竈土層解説

1　黒　　色　焼土粒子多量，ローム粒子・ローム中ブロック・焼土小・中ブロック・炭化粒子中量，焼土大ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子多量，ローム小・中ブロック・焼土小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土中・大ブロック・炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小・中ブロック多量，ローム粒子・焼土大ブロック中量，ローム大ブロック少量
4　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

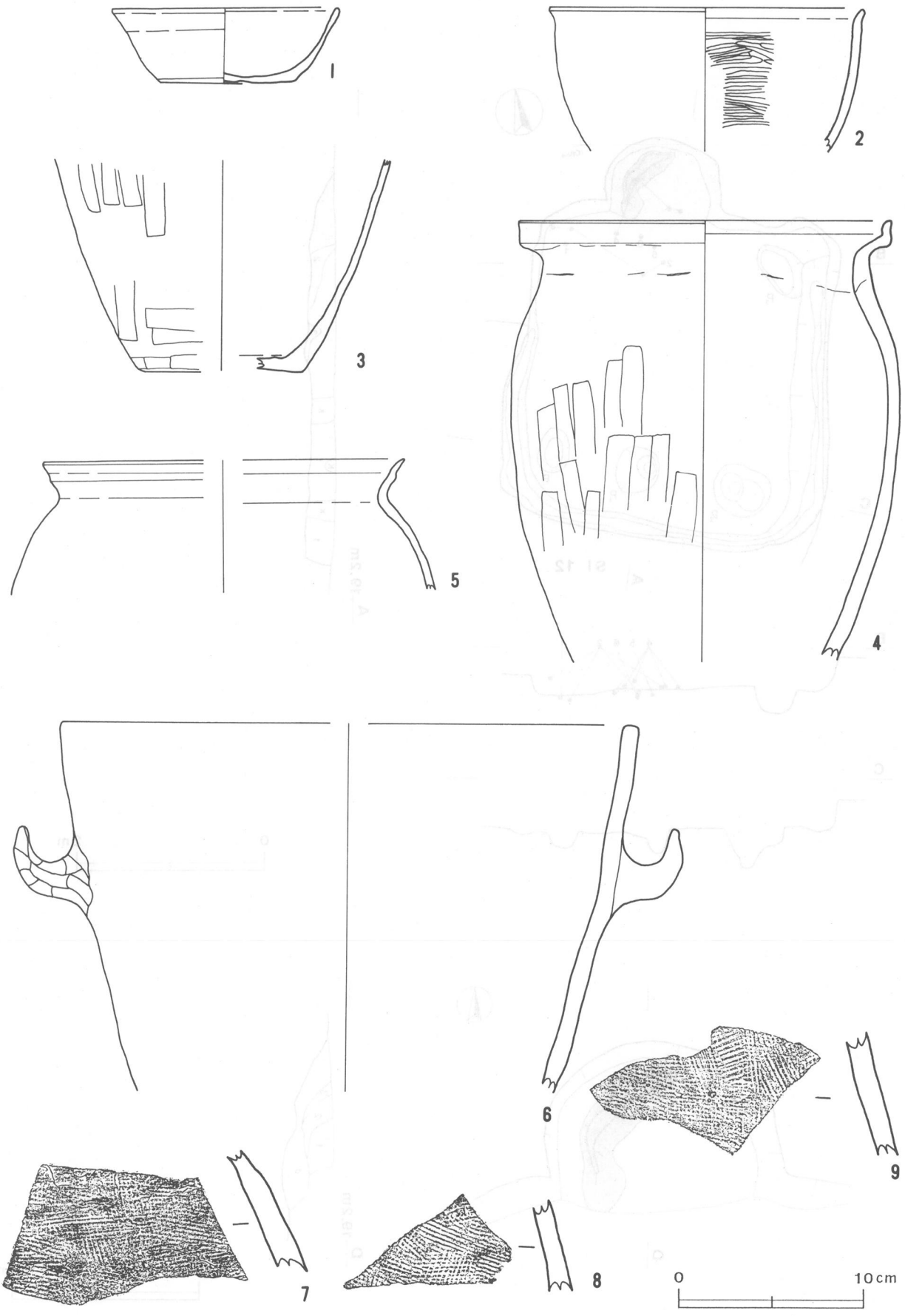
覆土　3層からなるが，耕作機械による撹乱をうけているので自然堆積か人為堆積であるかはっきりしない。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子中量，ローム中・大ブロック・焼土小・中・大ブロック少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，ローム粒子・焼土中・大ブロック中量，ローム小ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，焼土粒子少量



第22図　第11号住居跡実測図



第23図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.0 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ナデ。底面回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 橙色 普通	P3049 95% 覆土下層 PL56
2	鉢 土師器	A 16.7 B (7.7)	体部上半部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	長石・石英・雲母 内：黒褐色，外：鈍い黄橙色 普通	P3050 30% PL56 覆土上～下層 内面黒色処理，外面煤付着
3	甕 土師器	B (11.4) C [8.2]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ヘラナデ。底部外面ヘラナデ調整。	長石・石英・雲母・礫・パミス 橙色 普通	P3051 10% 竈覆土中 PL56
4	甕 土師器	A 20.0 B (23.5)	体部下半部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部は稜を持ち，端部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。	長石・雲母・礫 赤色 普通	P3052 40% 覆土下層・竈覆土中層 PL55
5	甕 土師器	A [19.3] B (7.1)	口縁部片。口縁部は器肉が薄く，稜を持ち，端部は外上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 橙色 普通	P3053 10% 覆土下層
6	甑 須恵器	A [30.8] B (19.7)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。L字状の把手が付く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面下部ヘラナデ。	長石・石英・雲母・礫・針状鉱物 灰白色 普通	P3054 15% 床面 PL56

第23図7～9は須恵器の甕の体部片で，格子状の叩きが施されている。

遺物　土師器片488点，須恵器片37点，陶器片3点が出土している。1の坏と5の甕は覆土下層から，2の鉢は覆土上～下層から，3の甕は竈覆土中から，4の甕は覆土下層及び竈の覆土中層から，6の甑片は床面から出土している。また，7～9は須恵器片の拓影図である。7・8は竈覆土中から，9は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第12号住居跡（第24図）

位置　調査区の北東部，C6i$_4$区。

重複関係　本跡は，第11号住居跡に掘り込まれていることから，第11号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸4.18m，短軸3.84mの方形である。

主軸方向　N－27°－W

壁　壁高は32cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　西壁下の一部に検出され，上幅約24cm，下幅約14cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

床　ほぼ平坦で，ピット周辺から中央部にかけて床面が踏み固められている。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_4$は長径30～40cm，短径26～30cmの楕円形，深さ18～26cmである。性格は不明である。

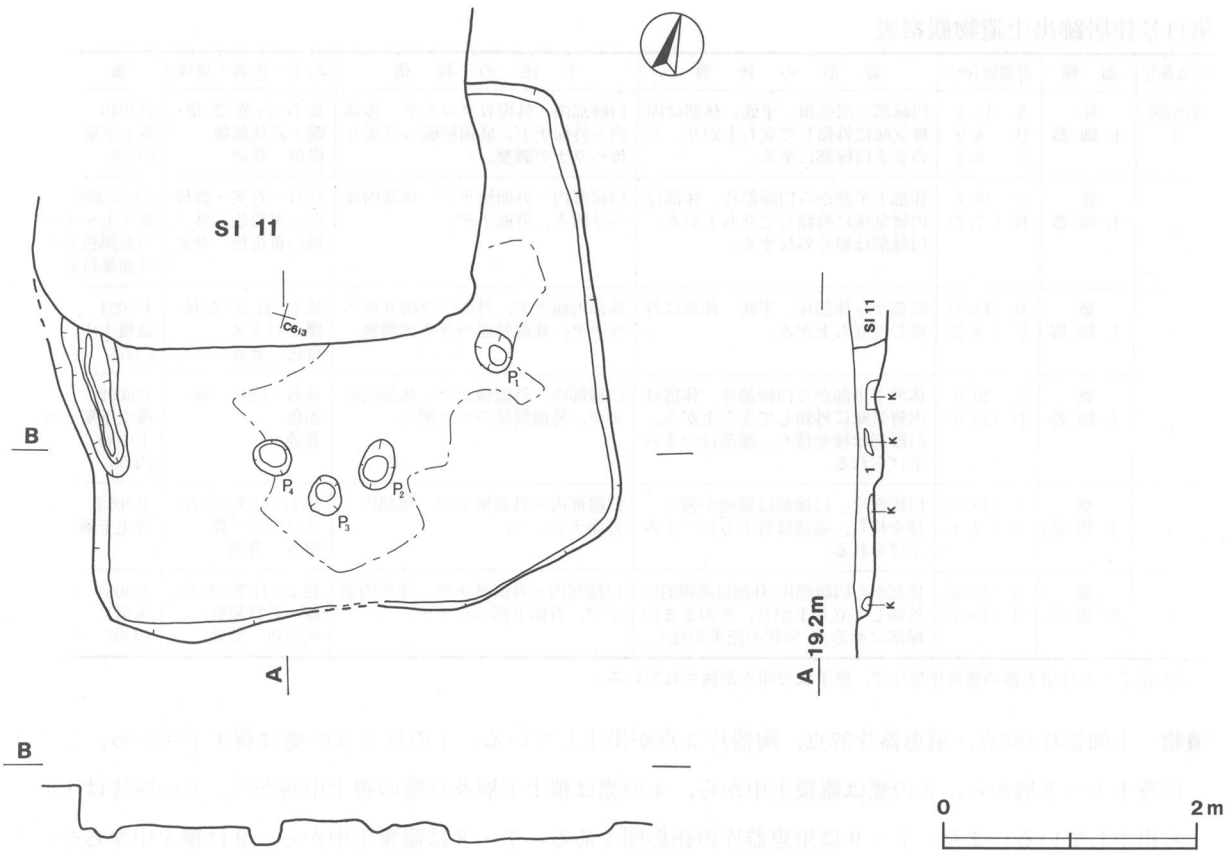
覆土　1層であるが，耕作機械による撹乱が著しく人為堆積か自然堆積かはっきりしない。

土層解説

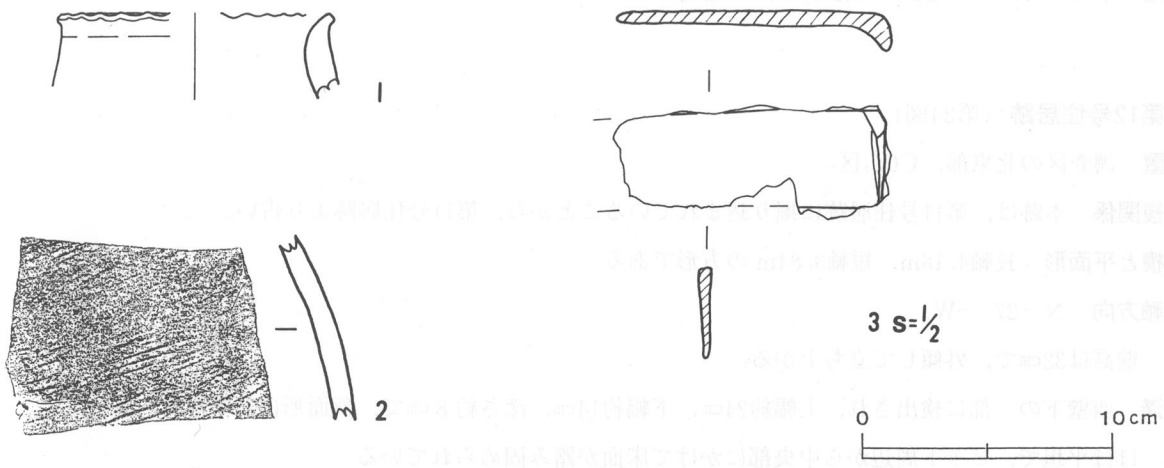
1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物少量

遺物　土師器片103点，須恵器片6点，鉄製品（鎌）1点が出土している。第25図1の土師器鉢片，2の鎌，3の須恵器甕の体部片は，いずれも覆土中から出土している。

所見　本跡は，第11号住居跡（9世紀後半）に掘り込まれていることから，時期は9世紀後半以前と思われるが遺物は細片が多いので詳細は不明である。



第24図　第12号住居跡実測図



第25図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第25図 1	鉢 土師器	A［10.6］ B（3.5）	口縁部片。体部は内傾して立ち上がり，口縁部は短く外反する。口唇部は波状を呈する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ後棒状工具で押圧。体部内面ナデ，外面ヘラナデ。	長石・石英・礫・スコリア 鈍い橙色　普通	P3055　5% 覆土中 PL56

第25図2は須恵器の甕の体部片で，外面に平行叩き，自然釉が見られる。

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第25図3	鎌	（7.4）	3.0	0.3	−	(21.3)	覆土中	M3002　鉄　PL124

第13号住居跡（第26図）

位置　調査区の北東部，D6a$_6$区。

規模と平面形　長軸3.28m，短軸3.14mの方形である。

主軸方向　N－32°－W

壁　壁高は10～20cmで，外傾して立ち上がる。

床　北東方向に傾斜しているが，ほぼ平坦である。

竈　北西壁中央部を壁外に50cm程掘り込み，砂質粘土で構築されている。耕作機械による撹乱をうけ，遺存状態が悪く，袖部は右側だけ遺存している。火床部は20cm程窪み，皿状を呈する。煙道部はゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子・焼土中ブロック微量
2　黒　　色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量

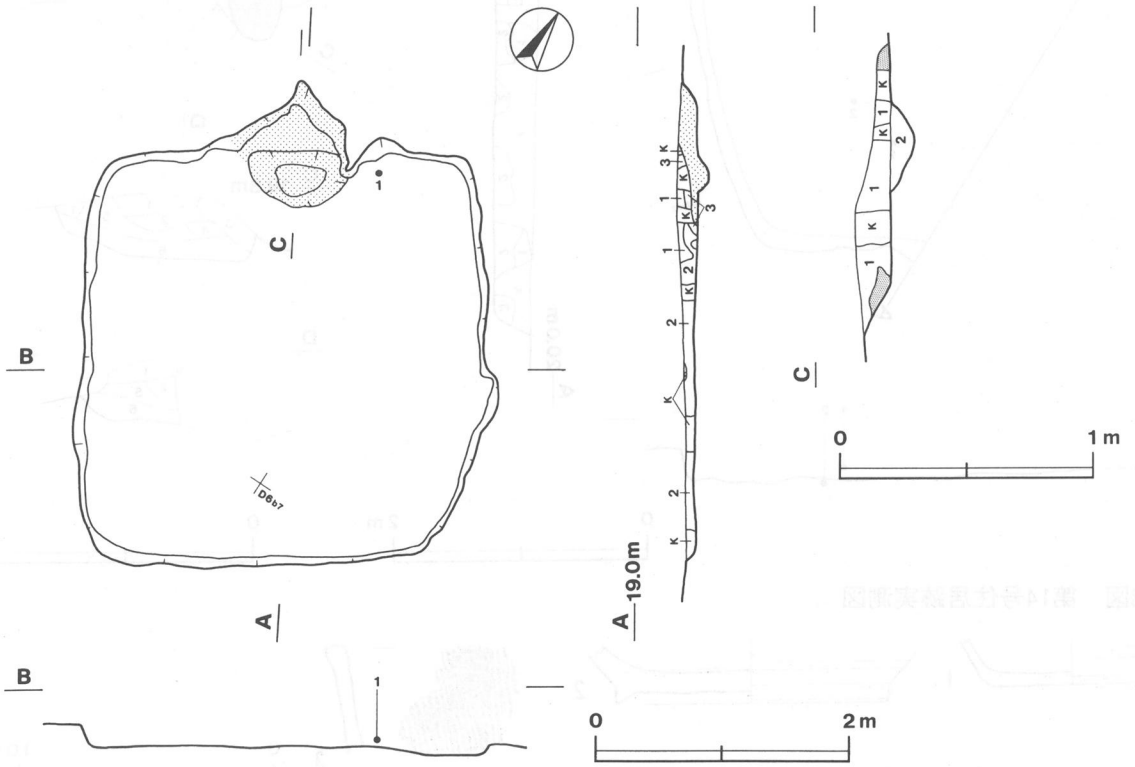
覆土　耕作機械による撹乱をうけているが，3層からなる自然堆積である。

土層解説

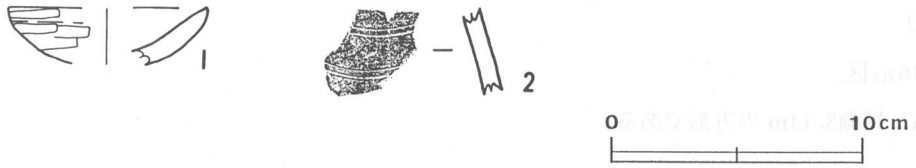
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム小・中ブロック・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量

遺物　土師器片21点，須恵器片2点，弥生土器片1点が出土している。第27図1の土師器の坏片は覆土中層から逆位で出土している。1の坏は古墳時代中期の坏と思われることや本跡が竈を伴うことなどから，2の弥生土器片同様流れ込みと思われる。

所見　本跡の形態は，当遺跡で検出された平安時代のものに類似しているが，出土遺物が少なく，また細片であるため詳細は不明である。



第26図　第13号住居跡実測図



第27図　第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第27図 1	坏 土師器	A［8.0］ B（2.2）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。端部は尖る。	口縁部及び体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通	P3056　10% 覆土中層 PL56

第27図2は弥生土器片で，平行沈線が渦巻き状に施されていると思われる。

第14号住居跡（第28図）

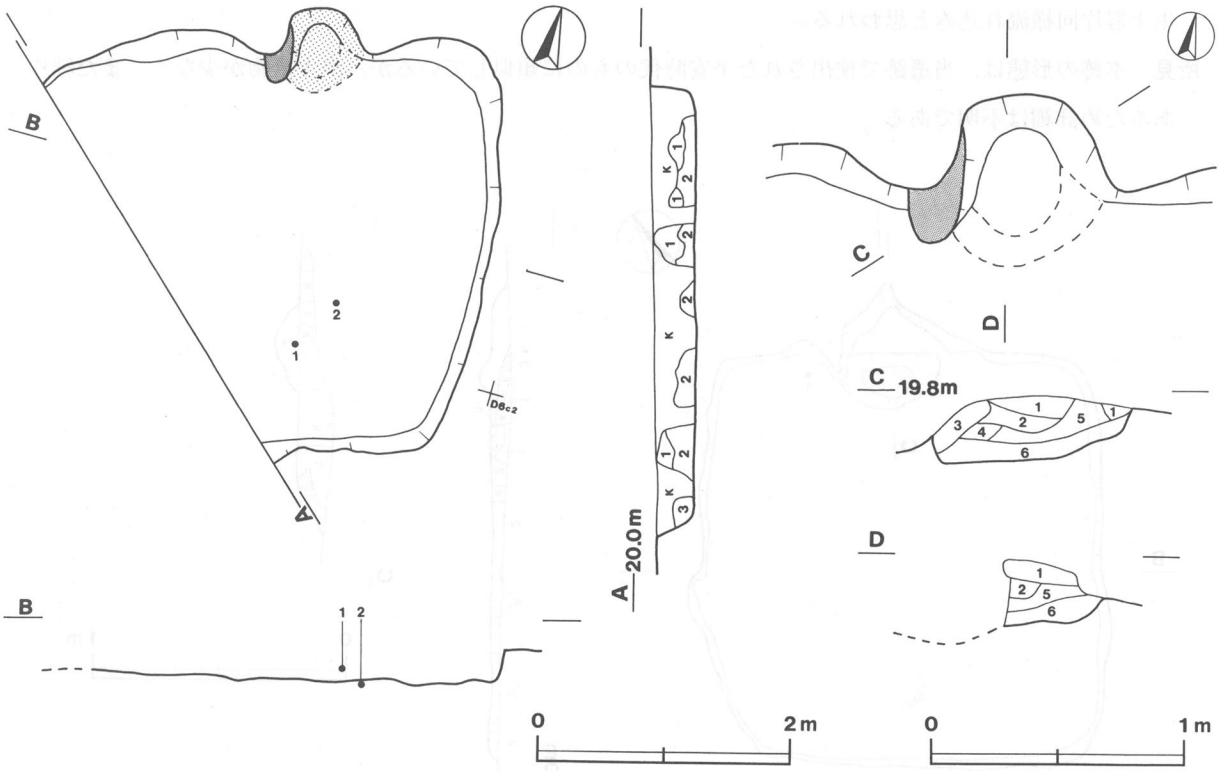
位置　調査区の北東部，D6b$_1$区。

規模と平面形　本跡南西部が調査区外に伸びている。長軸（3.66）m，短軸3.20mの長方形と思われる。

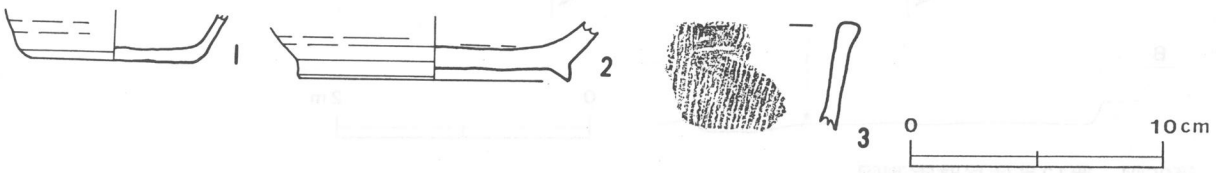
主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は28～68cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦である。



第28図　第14号住居跡実測図



第29図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 須恵器	B (2.1) C 6.4	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整。底部周縁回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P3057 10% 覆土中層
2	長頸瓶 須恵器	B (2.4) D [10.7] E 0.7	底部片。平底。断面三角形の高台が「ハ」の字状に下方に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P3058 15% 覆土下層 PL56

第29図3は縄文土器の口縁部片で，撚糸文が施されている。

竈　北壁の東コーナー寄りを壁外に36cm掘り込み，砂質粘土で構築されている。竈の北東部から南西部にかけて耕作機械による撹乱をうけ，袖部は左側だけ遺存する。火床部は若干の窪みをもつ。煙道部は火床部からゆるやかに立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック多量，ローム粒子・焼土粒子中量
2　褐　　色　焼土粒子・小・中・大ブロック多量，炭化粒子・炭化物少量
3　鈍い黄褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　焼土粒子・焼土大ブロック・ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小・中・大ブロック多量，ローム中ブロック中量，炭化物少量

覆土　耕作機械等による撹乱をうけているが，3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・焼土小中ブロック・炭化物少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック多量，ローム大ブロック中量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器218点，須恵器片12点，陶器片1点，石1点，炭化米253.3g，縄文土器片1点が出土している。第29図1・2は須恵器片の坏と長頸瓶で，覆土中層から下層にかけて出土している。3は縄文土器片の拓影図で，流れ込みと思われる。炭化米は竈右袖部付近の床面から出土しており，粒は5㎜前後の大きさである。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8～9世紀頃）と思われる。

第15号住居跡

位置　調査区の中央部，G2g_6区。

規模と平面形　大部分が撹乱のため，竈と一部の床面のみを確認しただけで，平面形は捉えることができない。

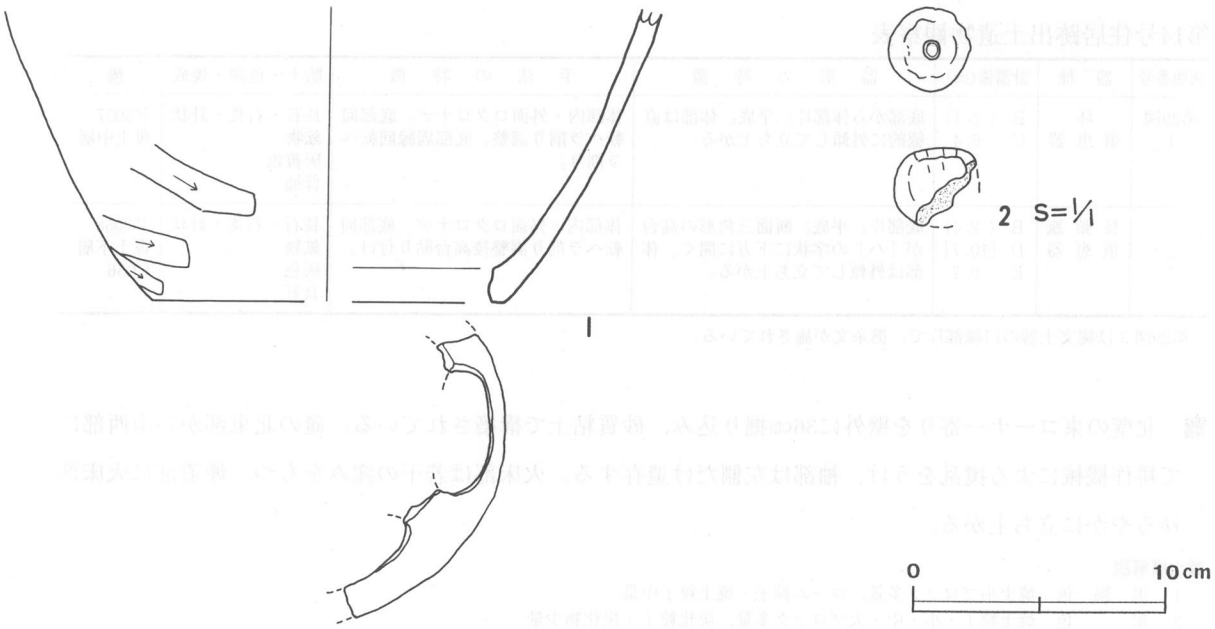
主軸方向　N－20°－W

床　平坦で，竈前は踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設され，白色粘土と袖の補強用と考えられる土器片とで構築されている。火床部は皿状に掘り窪められている。

遺物　土師器片20点が竈袖部の中から，炭化米が覆土中からそれぞれ出土している。第30図1の甑は竈横床面から，2の臼玉は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細な時期は不明であるが，図1の甑が床面からの出土であるため，出土遺物から平安時代（9世紀頃）と思われる。



第30図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第30図 1	甑 土師器	B (11.7) C [14.0]	底部から体部片。5孔式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英 鈍い橙色 普通	P690　10% 竈内覆土中

図版番号	種　別	計測値					出土地点	備　　考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第30図2	土製臼玉	1.1	1.1	−	0.1	0.8	南西壁付近床面	DP85　PL115

第16号住居跡（第31図）

位置　調査区の南西部，G2d$_5$区。

規模と平面形　長軸3.42m，短軸3.28mの方形である。

主軸方向　N−55°−W

壁　壁高は18cmで，垂直に立ち上がる。

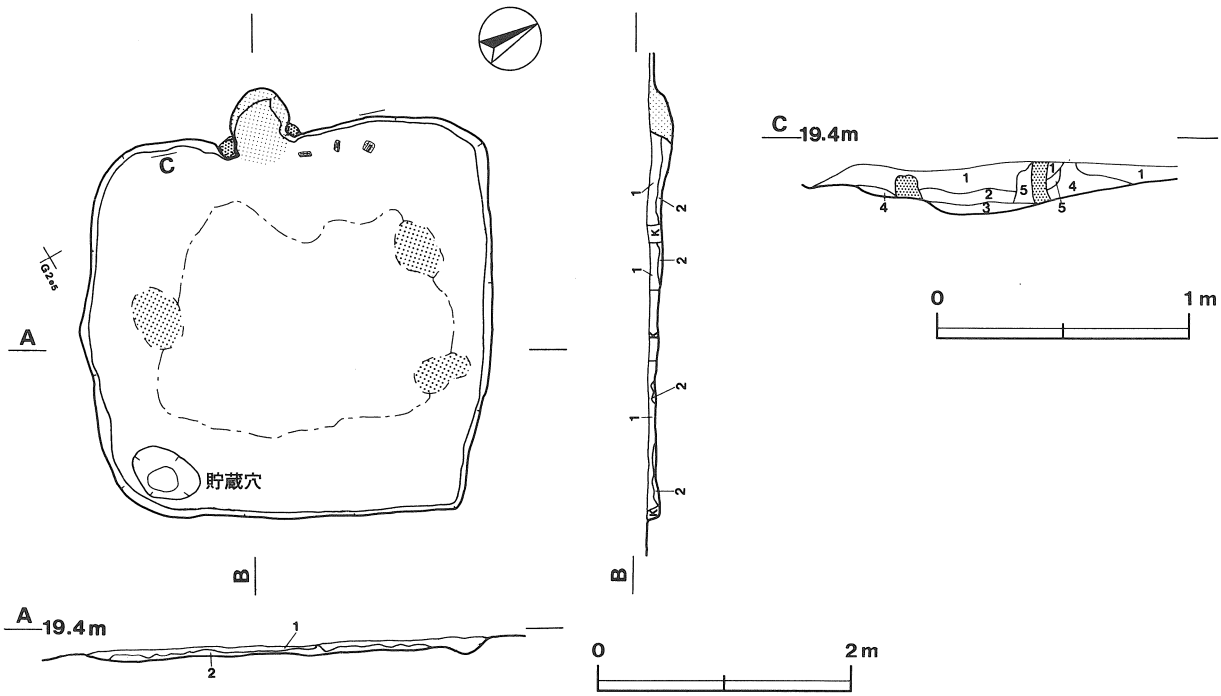
床　平坦で，中央部が踏み固められている。

貯蔵穴　南コーナーに位置し，径57cmの円形，深さ18cmで，平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面形はすり鉢状である。

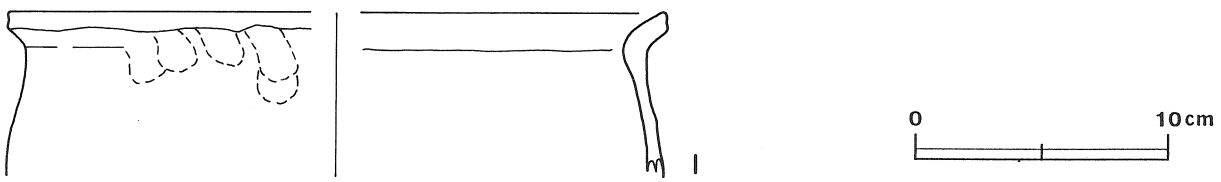
竈　北西壁中央部に付設されている。白色粘土と凝灰岩の切石とで構築されている。袖部先端に切石が両側に立てられ，まわりの粘土が流れ出した状態で出土している。火床部は6cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ40cm突出しており，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子・ローム中ブロック中量
3　鈍い褐色　焼土大ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
5　鈍い橙色　焼土小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子微量



第31図　第16号住居跡実測図



第32図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第32図 1	甕 土師器	A［26.0］ B（ 6.5）	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部及び体部外面に指頭圧痕が残る。	石英・礫 鈍い褐色 普通	P 2　　5％ 覆土中

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土中ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック中量

遺物　覆土中から土師器坏片25点，甕片50点，須恵器坏片3点，弥生土器片1点が出土している。第32図の1の甕は覆土中から出土している。

所見　本跡は，焼土や炭化材が床面に広がっていることから焼失家屋と思われる。出土遺物が少なく，図1の甕も覆土中の出土のため詳細な時期は不明である。

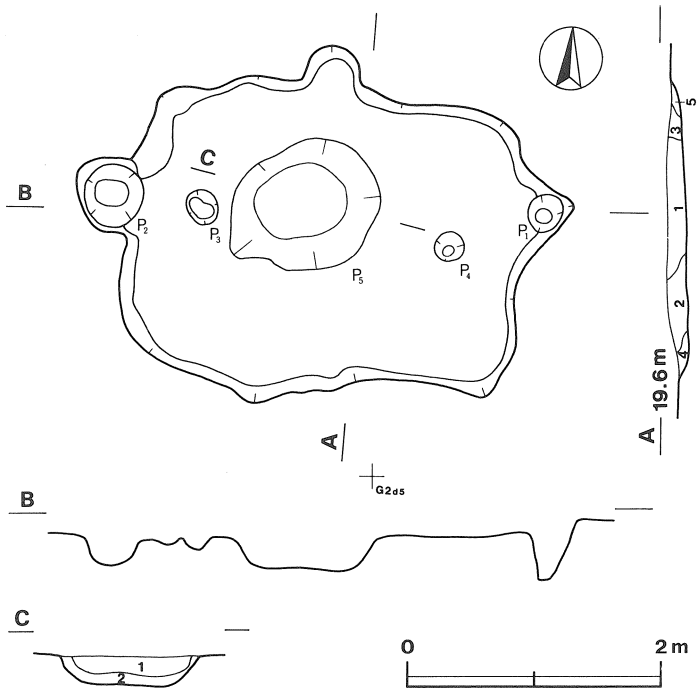
第17号住居跡（第33図）

位置　調査区の南西部，G2c_4区。

規模と平面形　長軸3.98m，短軸2.75mの長方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は10cmで，垂直に立ち上がる。



第33図　第17号住居跡実測図

床　平坦で，全体的に軟らかい。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1，P_2は径31～54cmの不整円形，深さ20～37cmで，位置や規模から主柱穴と思われる。P_3～P_5は径16～115cmの不整円形，深さ15～26cmで，性格は不明である。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　灰　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量

遺物　覆土中から古墳時代の土師器坏片19点，甕片73点，須恵器坏片3点，須恵器蓋片1点，弥生土器片1点が出土している。

所見　本跡は，東西の壁際に主柱穴が2本見られるが，炉や竈は付設されておらず，居住を目的とするには疑問が残る。また，中央の灰及び炭化物を含んだピットの性格も不明である。本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明である。

第18-A号住居跡（第34図）

位置　調査区の南西部，G2b_5区。

重複関係　本跡は，第18-B号住居跡の南半分を掘り込んでおり，第18-B号住居跡より新しい。

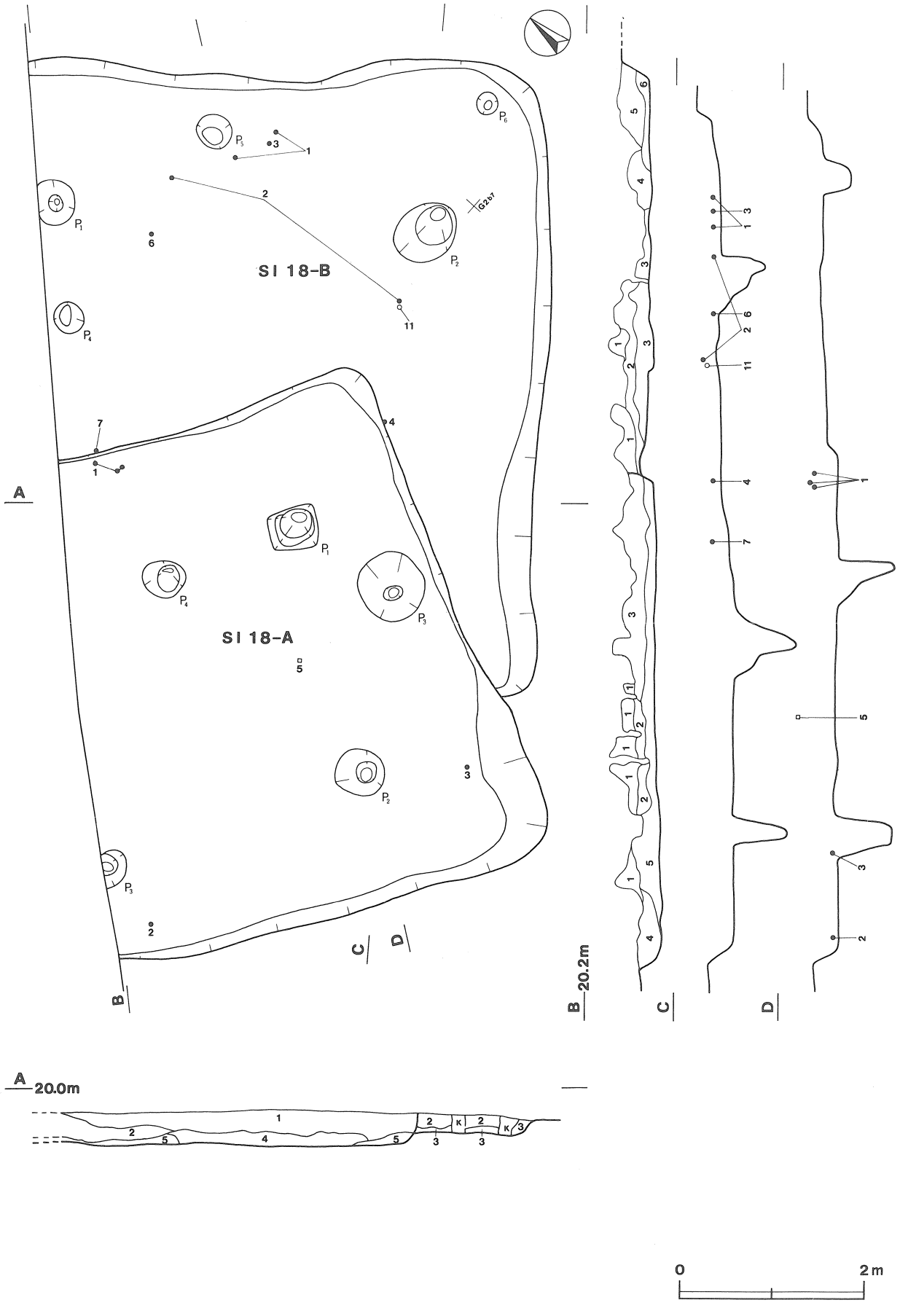
規模と平面形　遺存する南東壁から推定すると，一辺5.71mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－30°－E

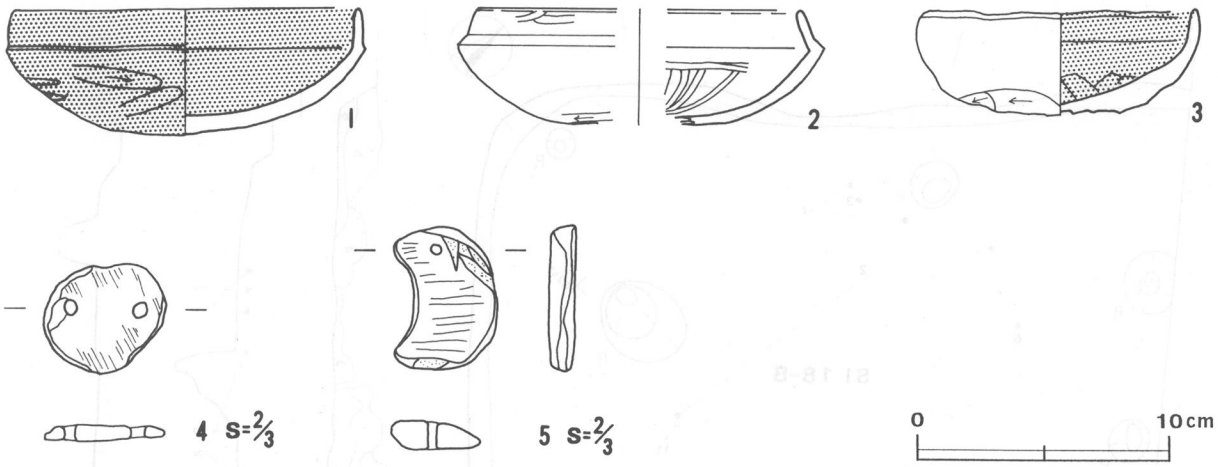
壁　壁高は28cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかい。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_3は径48～53cmの円形，深さ48～63cmで，位置や規模から主柱穴と思われる。P_4は性格不明である。



第34図　第18-A・18-B号住居跡実測図



第35図　第18−A号住居跡出土遺物実測図

第18−A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 1	坏 土師器	A 13.7 B 5.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	長石・スコリア・パミス 橙色 普通	P 3 床面 PL57 70%
2	坏 土師器	A [12.5] B (5.0)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ後ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 赤褐色 普通	P 4 床面 PL57 25%
3	坏 土師器	A 10.8 B 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面から底部粗いヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・パミス・スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P 5 床面 PL57 100%

図版番号	種別	計測値 最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第35図 4	有孔円板	2.1	2.5	0.3	0.3	25.0	滑石	覆土中	Q 1 PL119
5	勾玉	2.9	2.1	0.5	0.15	5.1	滑石	中央部覆土下層	Q126 PL119

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
2　褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
3　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
4　黒褐色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片92点，須恵器片4点，有孔円板1点が出土している。第35図1の坏は北東壁際床面から，2及び3の坏は南西壁近くの床面からそれぞれ出土している。4の有孔円板と5の勾玉は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第18-B号住居跡（第34図）

位置　調査区の南西部，G2a$_6$区。

重複関係　本跡は，第18-A号住居跡に南半分を掘り込まれており，第18-A号住居跡より古い。

規模と平面形　遺存する南東壁から推定すると，一辺6.92mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－47°－E

壁　壁高は17cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかく，特に踏み固められた部分は見られない。

ピット　6か所（P$_1$～P$_6$）。P$_1$～P$_3$は径52～80cmの円形，深さ34～68cmで，位置や規模から主柱穴と思われる。P$_4$，P$_5$及びP$_6$は性格不明である。

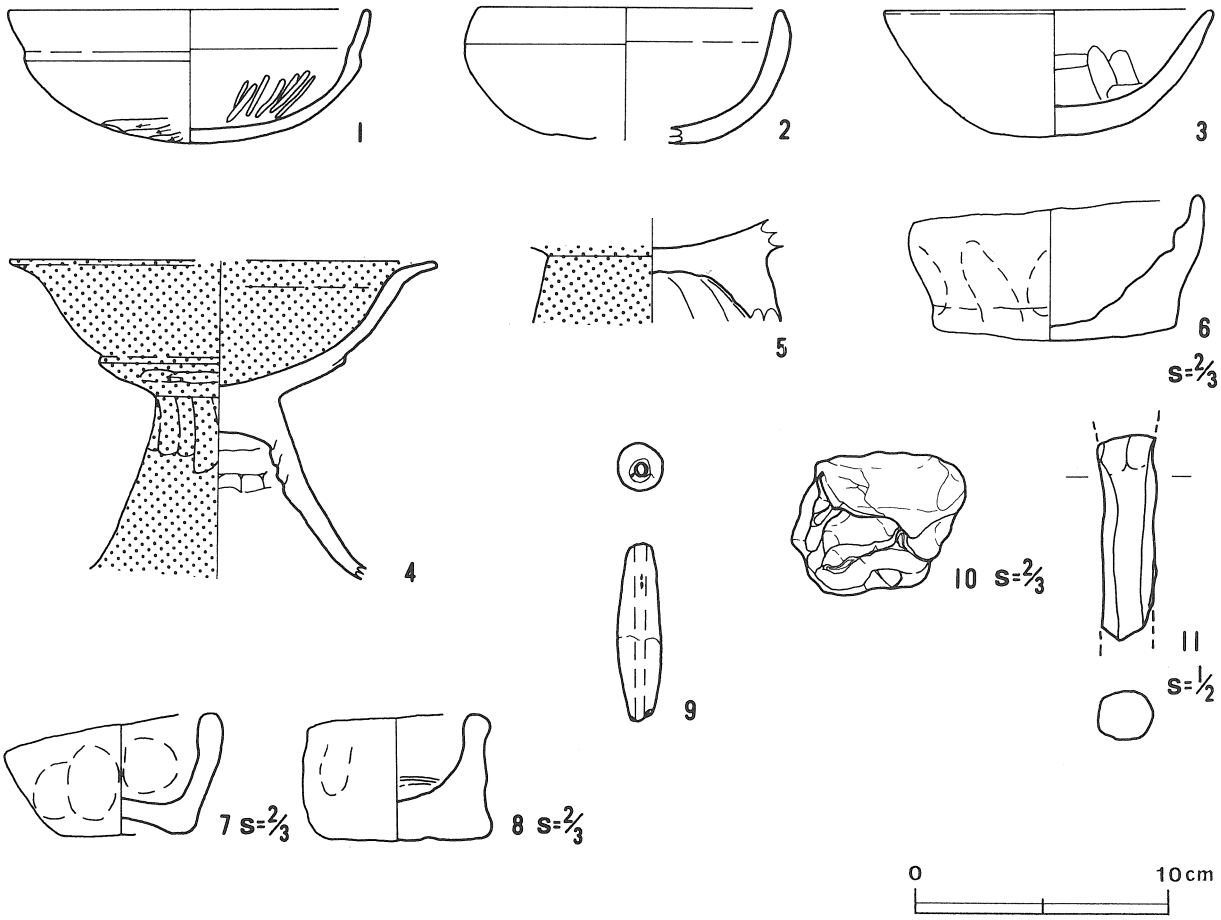
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　褐　　色　焼土粒子・ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
3　褐　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量
4　暗　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量

遺物　土師器片15点が出土している。第36図1，2及び3の坏は北東壁際床面から，4，5の高坏，6～8の手捏土器は中央床面から，9の管状土錘はP$_2$上面の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第36図　第18-B号住居跡出土遺物実測図

第18-B号住居跡出土遺物観察表

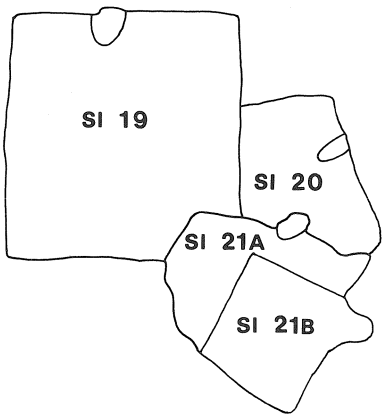
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	坏 土師器	A 14.4 B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反し，内面にゆるい稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・石英・スコリア 鈍い黄橙色 普通	P 7 75% 覆土中 PL57
2	坏 土師器	A 12.1 B 5.4	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	雲母・長石・石英・パミス・礫 鈍い橙色 普通	P 8 75% 床面 PL57
3	坏 土師器	A 13.0 B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	スコリア・石英・雲母・礫 橙色 普通	P 9 80% 床面 PL57
4	高坏 土師器	A [16.9] B (12.6) E (7.2)	脚部から口縁部片。脚部は円錐形。坏体部は外面下方に段があり，口縁部は外反して立ち上がる。	坏部内・外面上部磨き，外面下部はヘラ削り。脚部内面ナデ，外面縦方向のヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	スコリア・雲母 赤色 普通	P10 50% 覆土中 PL57
5	高坏 土師器	A [16.9] B (12.6) E (7.2)	脚部片。脚部は円錐形。	脚部内面ナデ，外面縦方向のヘラ磨き。外面赤彩。	石英・雲母・礫 赤色 普通	P 6 20% 覆土中 PL57
6	手捏土器 土師器	A 5.7 B 2.9 C 4.7	平底。体部は突出した底部から内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。輪積み痕を残す。	長石・スコリア・パミス 鈍い黄橙色 普通	P11 80% 覆土中 PL57
7	手捏土器 土師器	A 4.2 B 2.4 C 2.0	平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	パミス・石英 赤褐色 普通	P12 100% 覆土中 PL57
8	手捏土器 土師器	A 3.2 B 2.5 C 3.1	平底。体部はほぼ直立して立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。	パミス・石英・スコリア・礫 赤褐色 普通	P13 100% 覆土中 PL57

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第36図 9	管状土錘	7.1	1.8	−	0.5	19.4	南西壁付近床面	DP 1 PL115
10	不明土製品	2.8	3.6	−	−	22.9	覆土中	DP 2 PL118
11	不明土製品	5.4	1.6	−	−	12.6	北西壁付近床面	DP 3 PL118

第19号住居跡（第37図）

位置　調査区の南西部，G2c$_7$区。

重複関係　本跡は，第20号住居跡を掘り込み，第21-A号住居跡に掘り込まれていることから，第20号住居跡より新しく，第21-A号住居跡より古い。



規模と平面形　長軸6.63m，短軸6.17mの長方形である。

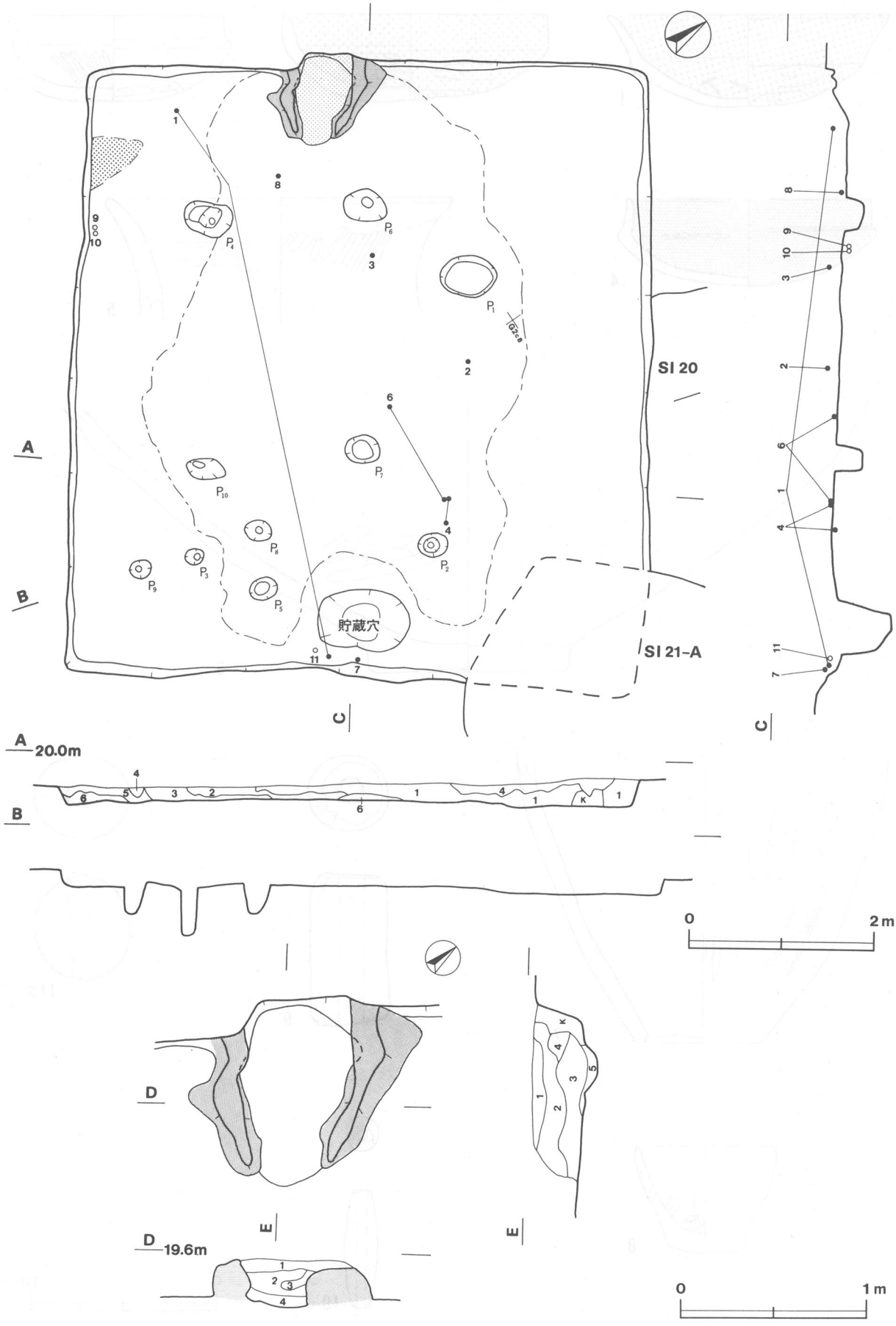
主軸方向　N－54°－W

壁　壁高は33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

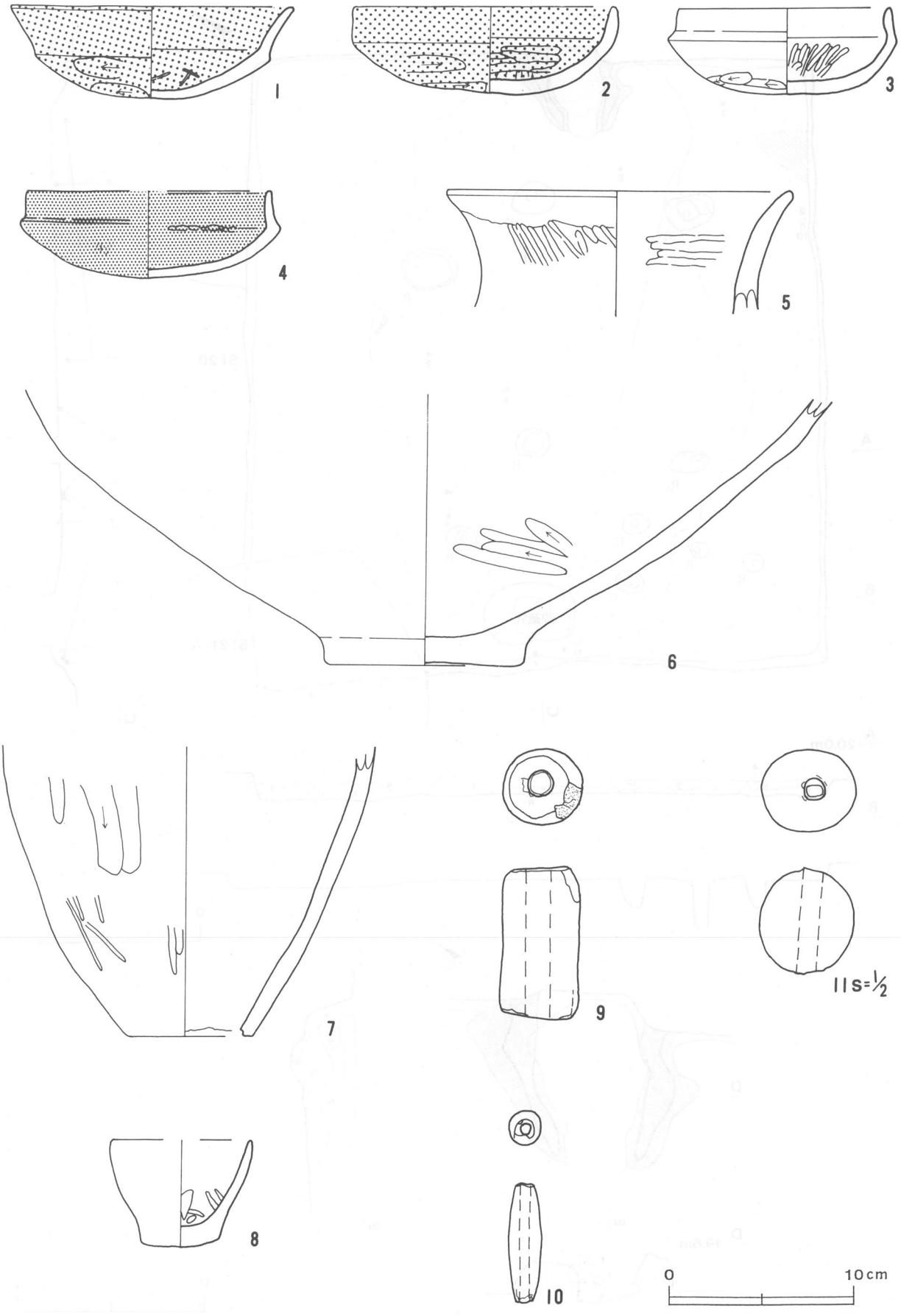
貯蔵穴　南東壁際中央に位置し，壁から15cm程離れて掘り込まれている。長径98cm，短径58cmの楕円形，深さ45cmで，平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がり，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　10か所（P$_1$～P$_{10}$）。P$_1$～P$_4$は径20～45cmの不整円形，深さ14～50cmで，主柱穴と思われる。P$_8$，P$_9$は径22～24cm，深さ31～32cmで，柱穴の可能性がある。その他は径38～48cmの不整楕円形で，撹乱穴と思われる。



第37図　第19号住居跡実測図



第38図　第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	坏 土師器	A 15.2 B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反し，内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	スコリア・長石 明赤褐色 普通	P14 95% 床面 PL57
2	坏 土師器	A 14.6 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	雲母・石英・パミス 明赤褐色 普通	P15 100% 床面 PL57
3	坏 土師器	A 11.3 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・パミス・長石 鈍い橙色 普通	P16 85% 床面 PL57
4	坏 土師器	A [13.2] B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・パミス 鈍い黄橙色 普通	P17 60% 床面 PL57
5	甕 土師器	A 18.5 B (6.6)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ後ヘラナデ。内・外面磨滅。	石英・長石 橙色 普通	P18 10% 竈覆土中
6	甕 土師器	B (14.7) C 10.1	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り。	石英・パミス・雲母・礫 鈍い赤褐色 普通	P19 15% 床面 PL57
7	甑 土師器	B (15.7) C 6.8	体部片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面中位ヘラ削り，下位ヘラナデ。	長石・石英・雲母・礫・スコリア 明褐色 普通	P20 20% 床面 PL57
8	手捏土器 土師器	A [7.5] B 5.8 C 4.2	平底。体部は突出した底部から内彎気味に立ち上がる。	体部内面ヘラナデ，外面ナデ。内面に輪積み痕を残す。	雲母・パミス・石英 鈍い赤褐色 普通	P21 80% 床面

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第38図 9	管状土錘	8.3	4.4	−	1.4	167.6	西コーナー付近床面	DP 4 PL116
10	管状土錘	6.4	4.4	−	0.6	18.7	西コーナー付近床面	DP 5 PL115
11	土玉	3.8	3.4	−	0.7	37.0	南東壁付近床面	DP 6

竈　北壁中央部に付設され，白色粘土及び凝灰岩切石とで構築されており，袖部が遺存している。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック多量，焼土中ブロック・灰少量
2　鈍い黄褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量
3　灰オリーブ色　焼土粒子・炭化粒子・灰多量，粘土粒子中量，炭化物少量
4　暗褐色　焼土粒子中量，ローム粒子多量
5　黄褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土中ブロック・ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・小ブロック・炭化物少量
3　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
5　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・小ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
6　褐　色　ローム大・中ブロック中量

遺物　土師器片362点，須恵器片８点が出土している。第38図１の坏は西コーナー付近と南東壁付近のものが接合して，覆土下層から床面にかけて，２～４の坏及び６の甕は中央部床面から，５の甕は竈の覆土中からつぶれた状態で，７の甑は東側壁近くの床面から，８の手捏土器は竈近くの床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

第20号住居跡（第39図）

位置　調査区の南西部，G2b$_8$区。

重複関係　本跡は，第19号住居跡及び第21-A号住居跡に掘り込まれていることから，そのいずれよりも古い。

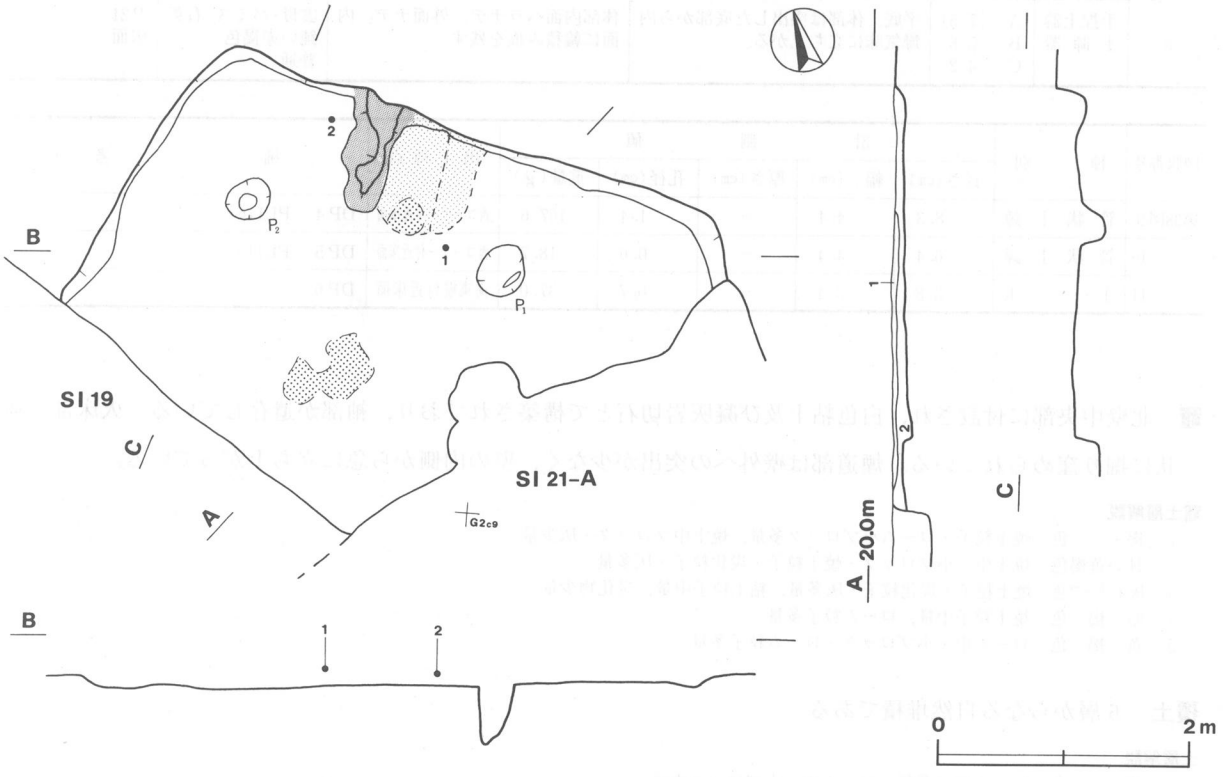
規模と平面形　第19号住居跡及び第21-A号住居跡に南西壁，北東壁を掘り込まれており，遺存する一辺がないため，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－36°－E

床　耕作による撹乱のため遺存状態はよくない。

ピット　２か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径24～42cmの不整円形，深さ24～48cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

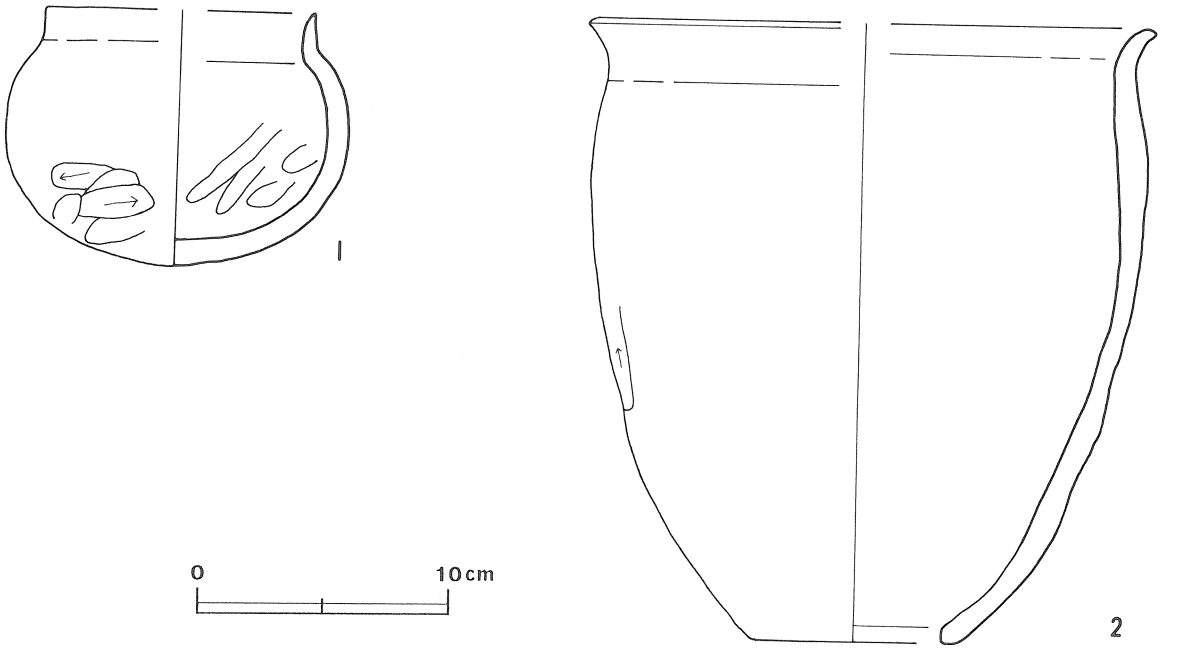
竈　北壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，右袖部は残っていない。煙道部は壁外への突出が少なく，ゆるやかに外傾して立ち上がる。



第39図　第20号住居跡実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	椀 土師器	A［10.7］ B 9.7	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は球形状で，口縁部はわずかに直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス 赤色 普通	P22 50% 覆土下層
2	甑 土師器	A［22.0］ B 24.6 C 8.0	単孔式。体部は外傾して立ち上がりそのまま口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P23 60% 覆土下層



第40図　第20号住居跡出土遺物実測図

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　鈍い黄褐色　焼土粒子・ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム小ブロック中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，焼土大ブロック・炭化物・ローム大ブロック少量

遺物　土師器片198点，須恵器片6点が出土している。第40図1の椀は竈右袖横の覆土下層から，2の甑は竈左袖横の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第21−A号住居跡（第41図）

位置　調査区の南西部，G2c_9区。

重複関係　本跡は，第20号住居跡と第19号住居跡の南東部を掘り込んでおり，第21−B号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，本跡は第20号住居跡及び第19号住居跡より新しく，第21−B号住居跡より古い。

規模と平面形　竈が北西壁中央に構築されていたと考えると，一辺4.05mの長方形あるいは方形と思われる。

主軸方向　N−33°−W

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

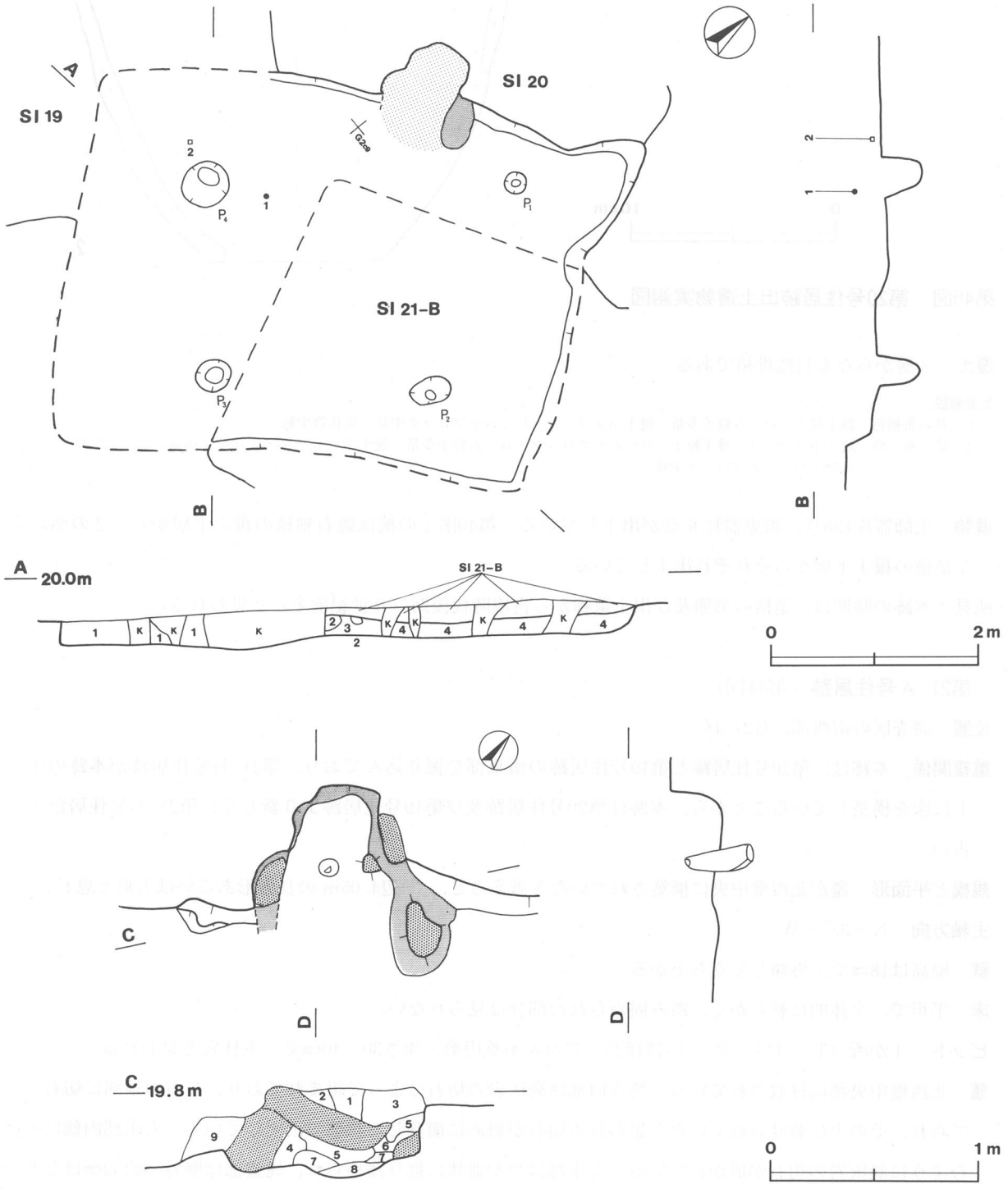
床　平坦で，全体的に軟らかく，踏み固められた部分は見られない。

ピット　4か所（P_1〜P_4）。P_1〜P_4は径20〜45cmの不整円形，深さ30〜40cmで，主柱穴と思われる。

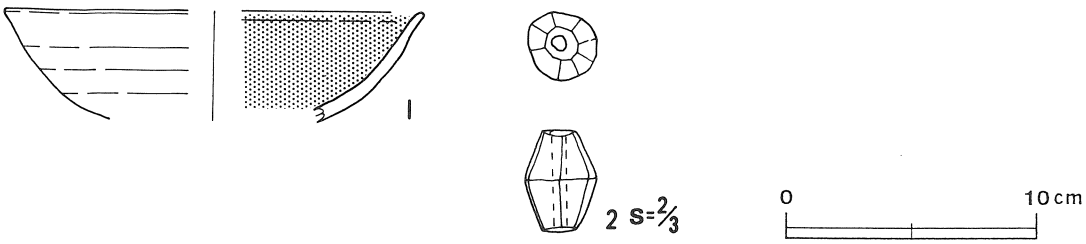
竈　北西壁中央部に付設されている。焚き口部は凝灰岩の切石によって組まれており，左右の袖部に切石が立てられ，その上に載せられていたと思われる切石が斜めに崩落した状態で出土している。火床部内側にも囲むように凝灰岩の切石が置かれている。火床部はやや皿状に掘り窪められ，煙道部は壁外へ約50cmほど突出し，壁の内側から急に直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

1　褐　　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物少量
2　鈍い黄褐色　凝灰岩中ブロック多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　焼土中ブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土大ブロック・炭化物・ローム大ブロック少量
5　褐　　色　ローム大・中ブロック多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
6　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量
7　褐　灰　色　焼土大・中ブロック・炭化物・炭化粒子中量，焼土小ブロック・ローム大ブロック少量
8　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
9　鈍い黄褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物微量



第41図　第21－A号住居跡実測図



第42図　第21－A号住居跡出土遺物実測図

第21－A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	坏 土師器	A［16.6］ B（4.4）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。内面黒色処理。	スコリア・石英・礫 黄褐色 普通	P24　10% 覆土下層 PL57

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第42図2	棗玉	2.0	1.4	1.4	0.2	4.7	滑石	南西壁付近床面	Q2　PL122

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
2　鈍い黄褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土中・小ブロック中量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
4　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量

遺物　土師器片92点が出土している。第42図1の坏は竈前の覆土下層から出土している。図2の棗玉は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも図1の坏も床面からの出土ではないため，詳細な時期は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第21－B号住居跡（第43図）

位置　調査区の南西部，G2c_7区。

重複関係　本跡は，第21－A号住居跡の床の上に床を構築していることから，第21－A号住居跡より新しい。

規模と平面形　耕作による撹乱により壁が遺存していないため，正確な規模は不明であるが，南西壁を一辺とし，東コーナーに竈が構築されていたと考えると，一辺約3m程の方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－44°－W

壁　壁高は20cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

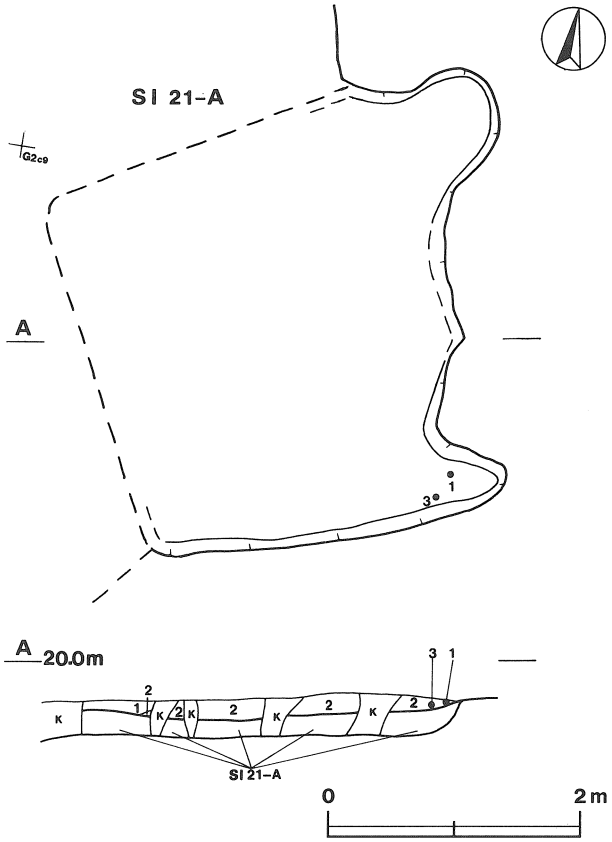
床　耕作による撹乱のため遺存状態はよくない。

竈　赤変硬化した火床部の一部を確認する。規模や形態は不明であるが，床面の広がりから東コーナーに付設されていたものと考えられる。

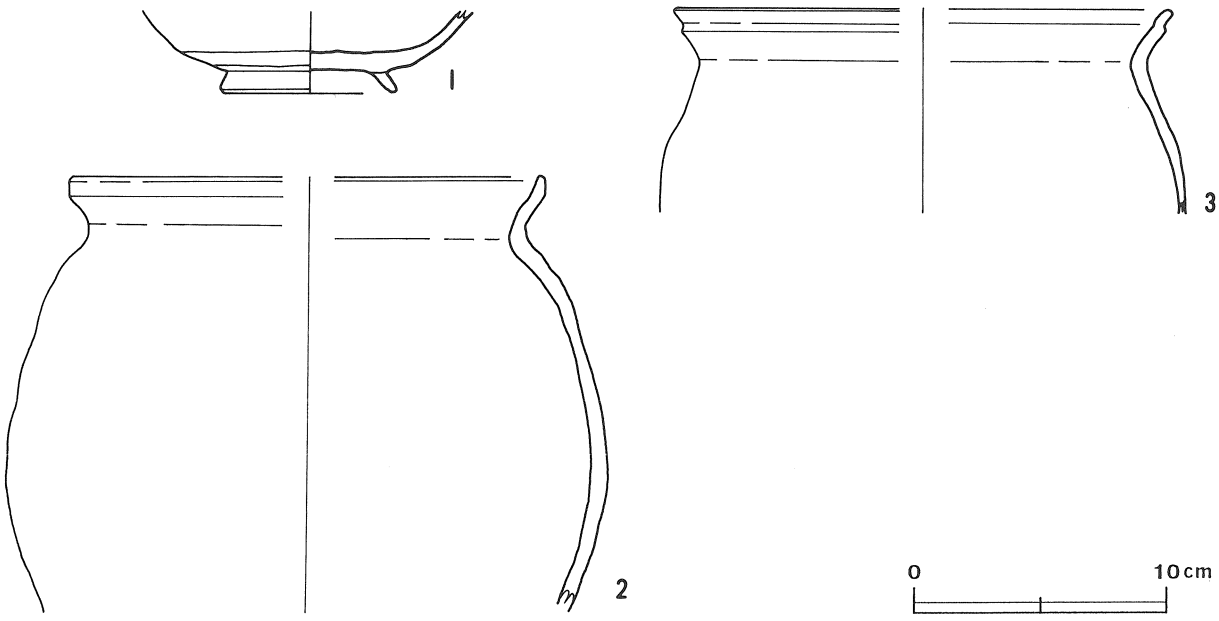
覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　灰黄褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム小ブロック中量，焼土中・小ブロック・ローム中ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土中・小ブロック・ローム小ブロック少量



第43図　第21－B号住居跡実測図



第44図　第21－B号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片34点，須恵器片２点が出土している。第44図１の高台付坏，３の甕は東コーナー付近の覆土下層から，２の甕は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく，しかも床面資料がないため詳細は不明であるが，重複関係や遺構の形態から平安時代（10世紀頃）と思われる。

第21-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第44図 1	高台付坏 土師器	B (3.2) D 7.0 E 0.9	高台部から体部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部高台貼り付け後ナデ。	長石・雲母・スコリア・石英 明褐色 普通	P25 30% 覆土下層 PL57
2	甕 土師器	A [18.6] B (17.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径がある。口縁部は外反し，端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・石英・パミス 明赤褐色 普通	P26 10% 覆土中 PL58
3	甕 土師器	A [19.4] B (8.1)	体部上位から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は外反し，端部をわずかにつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P27 10% 覆土下層 PL57

第22号住居跡（第45図）

位置　調査区の南西部，G2a$_7$区。

重複関係　本跡は，第315号土坑によって掘り込まれており，第315号土坑より古い。

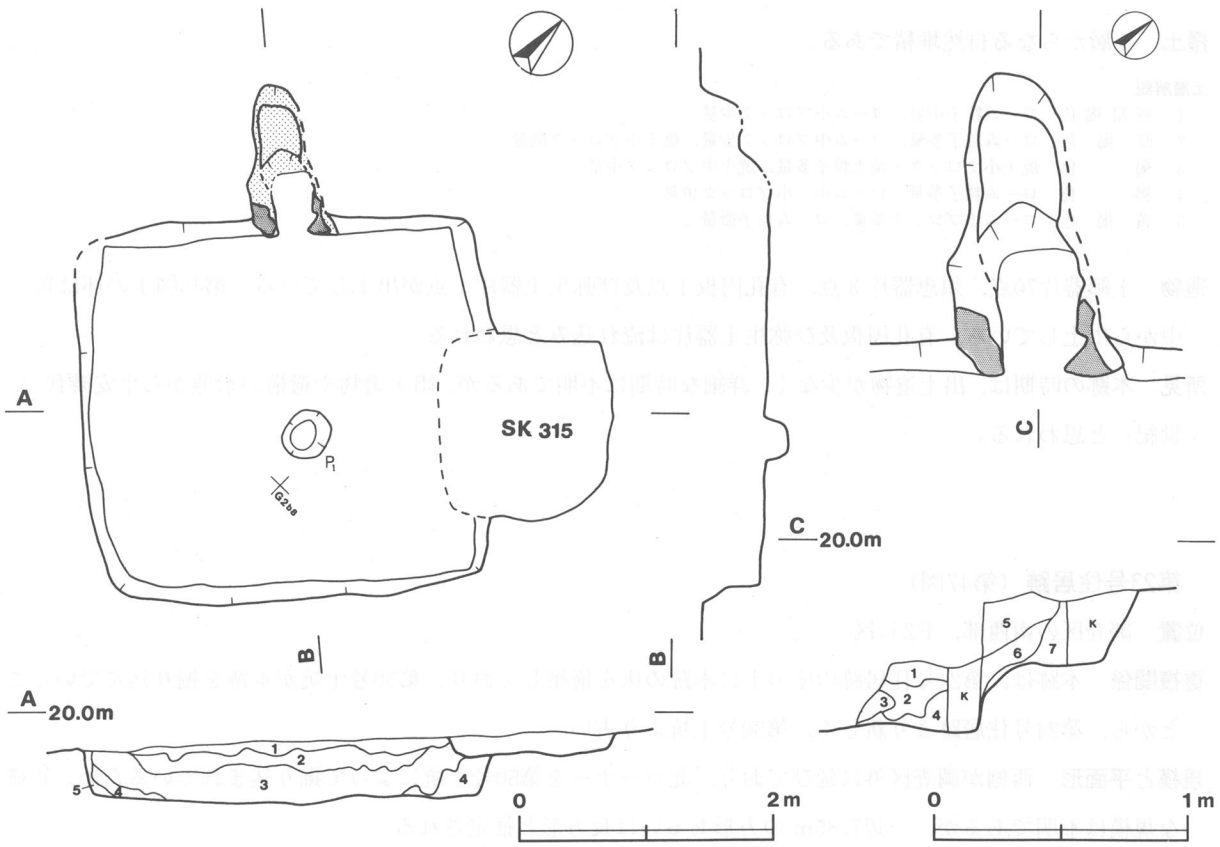
規模と平面形　長軸4.08m，短軸3.32mの長方形である。

主軸方向　N－48°－W

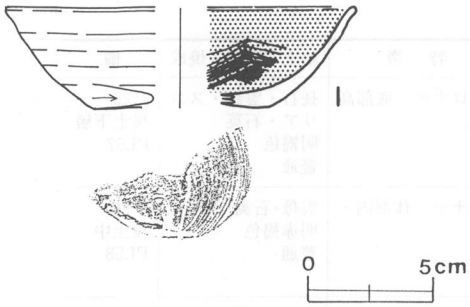
壁　壁高は44cmで，垂直に立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　P$_1$は径40cmの円形，深さ18cmで，住居のほぼ中央に位置し，主柱穴とも考えられるが，上屋構造を考えると確定はできない。



第45図　第22号住居跡実測図



第46図　第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第46図 1	坏 土師器	A［13.8］ B　4.0 C［7.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	長石・石英 鈍い赤褐色 普通	P28　30% 覆土中

竈　北西壁中央部に付設されている。白色粘土で構築されているが，火床部は撹乱のため残存していない。煙道部は壁外へ1.45m突出し，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　鈍い黄褐色　焼土粒子多量，粘土中ブロック中量，焼土小ブロック少量
2　鈍い黄褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
3　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子・灰中量
4　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量，粘土粒子・炭少量
5　黄 褐 色　焼土粒子・灰多量，粘土小ブロック中量，ローム粒子少量
6　鈍い褐色　焼土大ブロック多量，焼土中・小ブロック・ローム中・小ブロック中量，炭化物・ローム大ブロック少量
7　褐　　色　焼土大・中・小ブロック多量，炭化粒子中量

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
5　黄 褐 色　ローム小ブロック多量，ローム粒子微量

遺物　土師器片70点，須恵器片3点，有孔円板1点及び弥生土器片1点が出土している。第46図1の坏は覆土中から出土している。有孔円板及び弥生土器片は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく，詳細な時期は不明であるが，出土遺物や遺構の形態から平安時代(10世紀）と思われる。

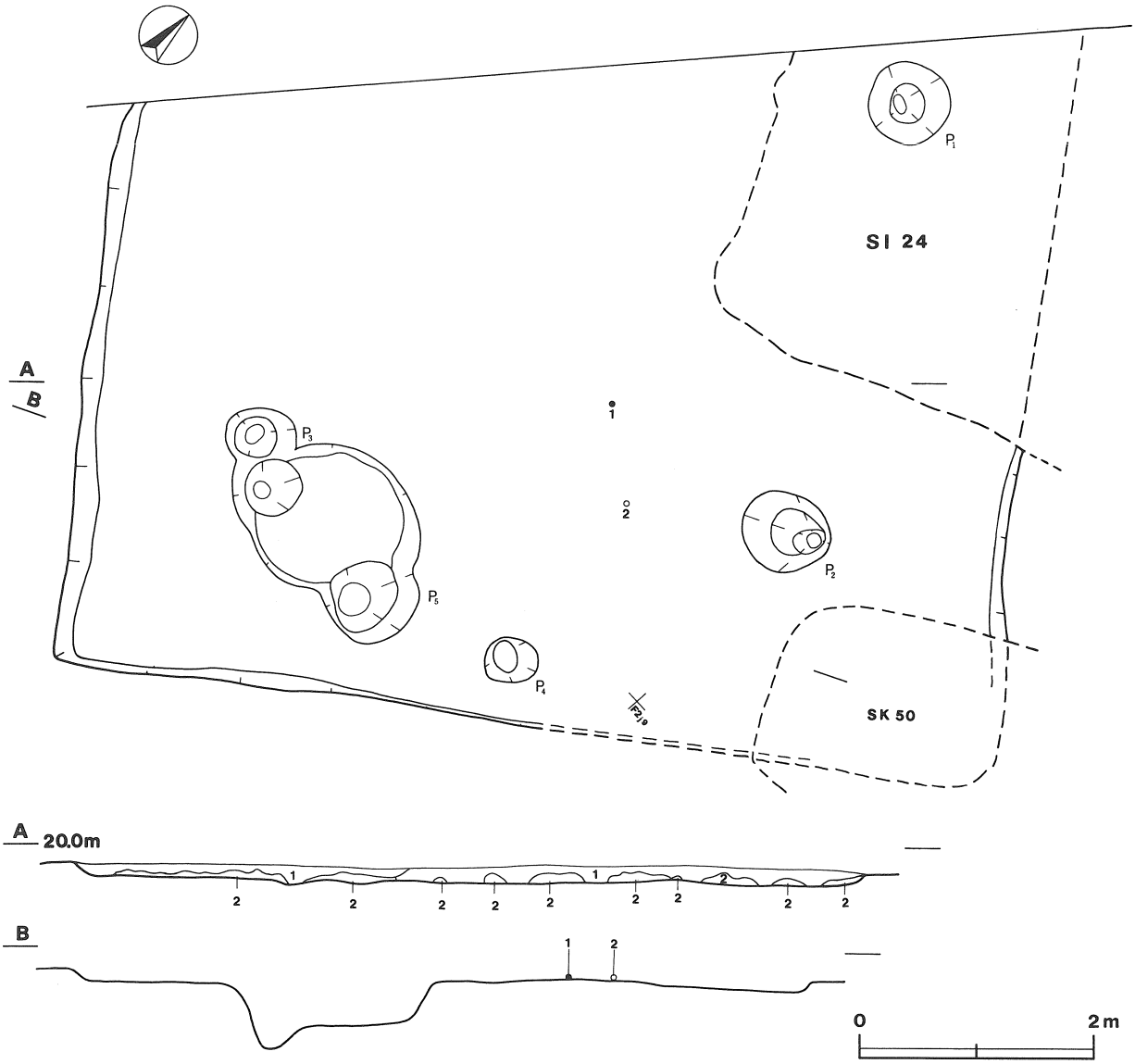
第23号住居跡（第47図）

位置　調査区の南西部，F2i$_8$区。

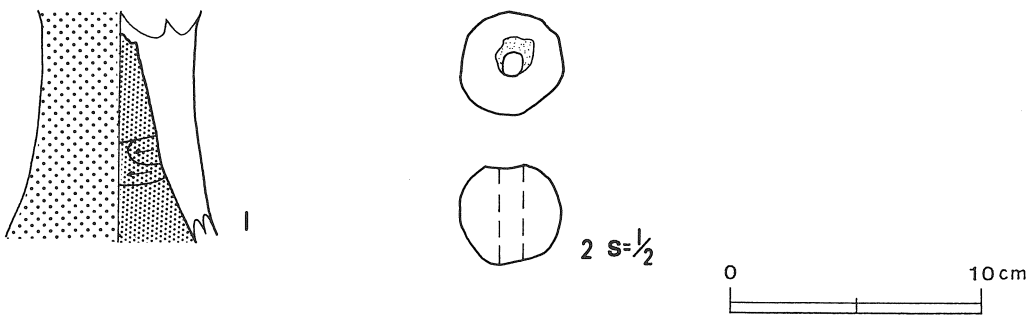
重複関係　本跡は，第24号住居跡の床の上に本跡の床を構築しており，第50号土坑が本跡を掘り込んでいることから，第24号住居跡より新しく，第50号土坑より古い。

規模と平面形　西側が調査区外に延びており，北コーナーを第50号土坑によって掘り込まれているため，正確な規模は不明であるが，一辺7.85mの方形あるいは長方形と推定される。

主軸方向　N－38°－W



第47図　第23号住居跡実測図



第48図　第23号住居跡出土遺物実測図

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　5か所（P_1～P_5）。P_1～P_3は径63～78cmの不整円形，深さ55～75cmで，主柱穴と思われる。P_4は径45cm，深さ38cmで，位置から出入り口ピットと思われる。P_5は長径1.85m，短径1.38mの不整楕円形で，貯蔵穴とも考えられるが，形状及び位置から疑問が残る。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図1	高坏 土師器	B（9.3）	脚部片。脚部は円錐形。	脚部内面ヘラ削り，外面縦方向のヘラ削り。外面赤彩，内面黒色処理。	石英・パミス・礫 鈍い橙色 普通	P29　20% 床面 PL58

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第48図2	土玉	2.7	2.7	−	0.7	17.0	南東壁付近床面	DP7　PL115

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック微量

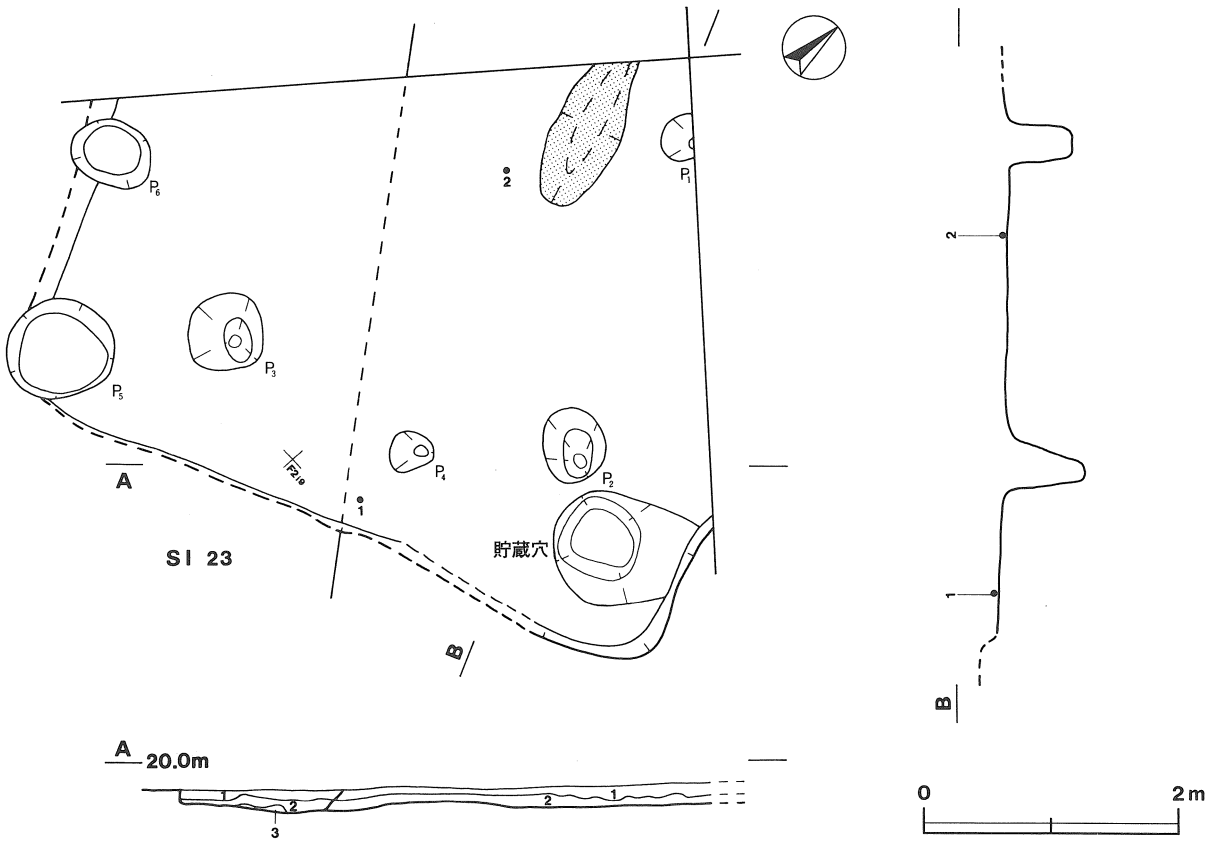
遺物　土師器片497点，須恵器片4点，弥生土器片8点及び軽石2点が出土している。第48図1の高坏，2の土玉は中央部床面から出土している。

所見　本跡は，住居が調査区外に延びているため竈の有無は確認できなかったが，時期は遺構の形態，出土遺物及び第24号住居跡との重複関係から古墳時代後期（6世紀頃）と思われる。

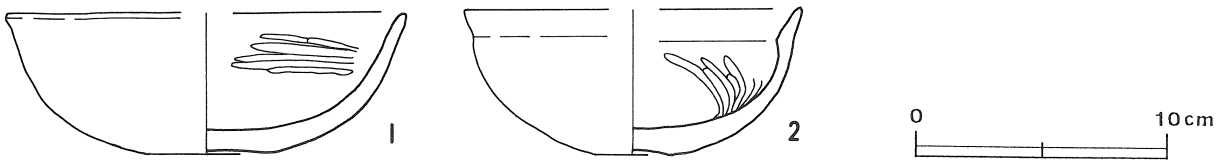
第24号住居跡（第49図）

位置　調査区の南西部，F2h$_8$区。

重複関係　本跡は，第23号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，第23号住居跡より古い。



第49図　第24号住居跡実測図



第50図　第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	坏 土師器	A 15.8 B 5.6 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・石英 橙色 普通	P30　70% 床面 PL58
2	坏 土師器	A [13.6] B 5.8 C 3.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。内面に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・スコリア・石英 鈍い赤褐色　普通	P31　40% 床面 PL58

規模と平面形　西側から北側が調査区外のため，正確な規模及び平面形は不明であるが，遺存する南西壁から推定すると，一辺5.62mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は21cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_6）。P_1～P_3は径38～50cmの不整円形，深さ49～61cmで，主柱穴と思われる。P_4は径35cm，深さ34cmで，位置から出入り口ピットと思われる。P_5，P_6は撹乱と思われる。

貯蔵穴　東コーナーに付設され，長径68cm，短径60cm，深さは25cmの楕円形で，断面形は逆台形である。

炉　中央部から東寄りに位置し，北側の一部が調査区外まで延びているため正確な規模は不明であるが，短径53cmの楕円形で，床面を14cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変している程度である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　黒　　色　焼土中ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量
3　黒　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片48点，弥生土器片1点が出土している。第50図1の坏は南東壁際中央の床面から逆位の状態で，2の坏は炉の近くの床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第25号住居跡（第51図）

位置　調査区の南西部，F2j_9区。

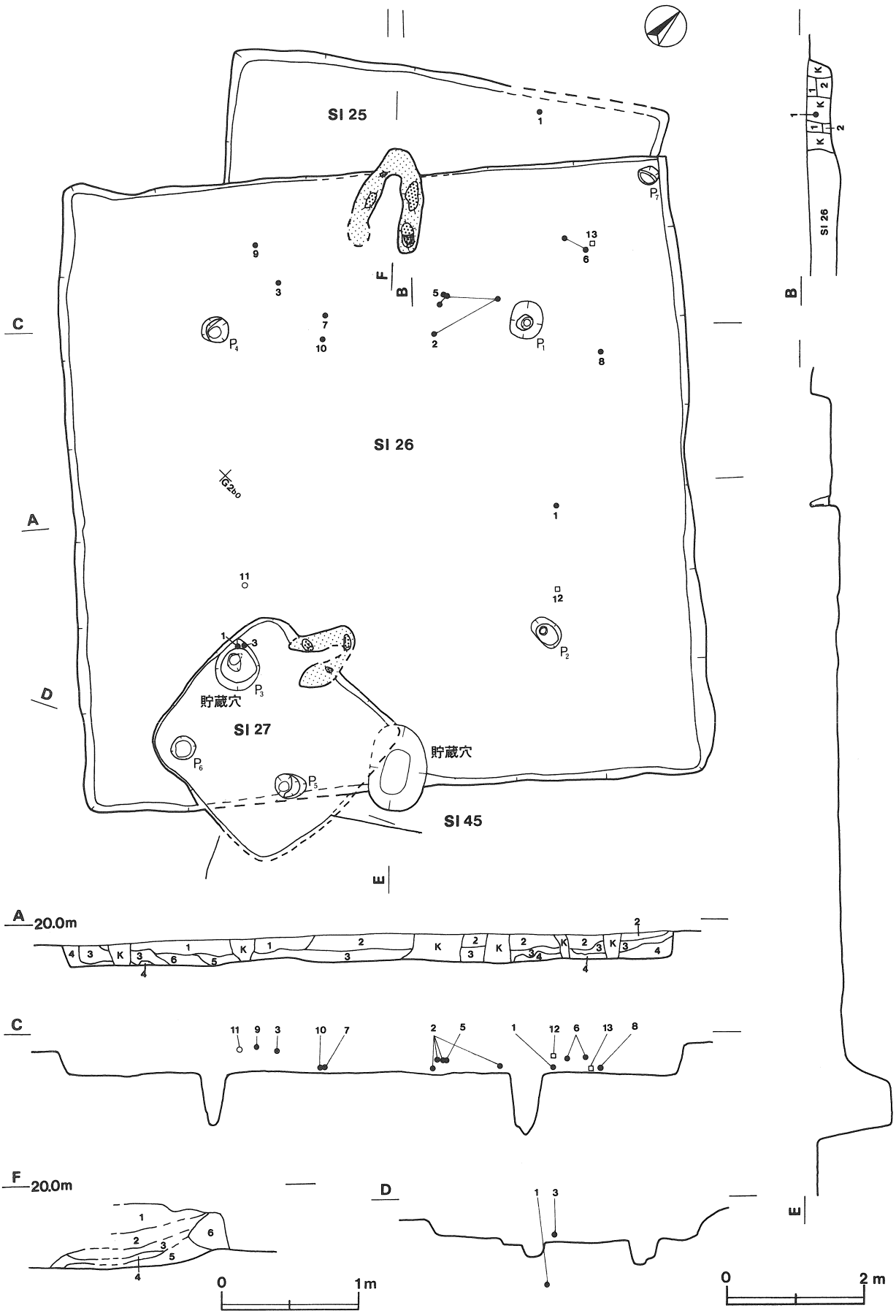
重複関係　本跡は，第26号住居跡に南部を掘り込まれており，第26号住居跡より古い。

規模と平面形　第26号住居跡に南部を掘り込まれているため，遺存する一辺の長さから推定すると，一辺6.25mの方形あるいは長方形と思われる。

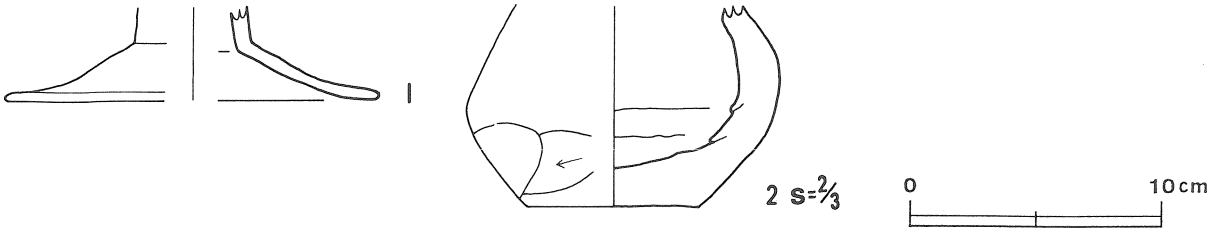
主軸方向　N－38°－W

壁　壁高は29cmで，外傾して立ち上がる。

床　大部分が掘り込まれているため，北西壁近くのみの確認では，平坦で，全体的に軟らかである。



第51図　第25・26・27号住居跡実測図



第52図　第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第52図 1	高　坏 土師器	D［15.0］ E（ 3.8）	裾部片。脚部は裾部との接合部がくびれる。裾部は「ハ」の字状に開く。	裾部内面横ナデ，外面放射状のナデ。	パミス・礫・雲母 灰黄褐色 普通	P33　5％ 覆土中層 PL58
2	手捏土器 土師器	B（ 4.0） C　3.4	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，上位で内傾する。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。輪積み痕を残す。	雲母・礫 褐灰色 普通	P34　60％ 覆土中 PL58

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ローム小ブロック，ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・ローム大ブロック微量

遺物　土師器片238点，須恵器片4点が出土している。第52図1の高坏の脚は北西の壁付近の覆土中層から，2の手捏土器は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なく，詳細な時期は不明であるが，遺構の形態，出土遺物および第26号住居跡との重複関係から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第26号住居跡（第51図）

位置　調査区の南西部，G2a_0区。

重複関係　本跡は，第25号住居跡を掘り込み，第27号住居跡に掘り込まれていることから，第25号住居跡より新しく，第27号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸9.63m，短軸8.24mの長方形である。

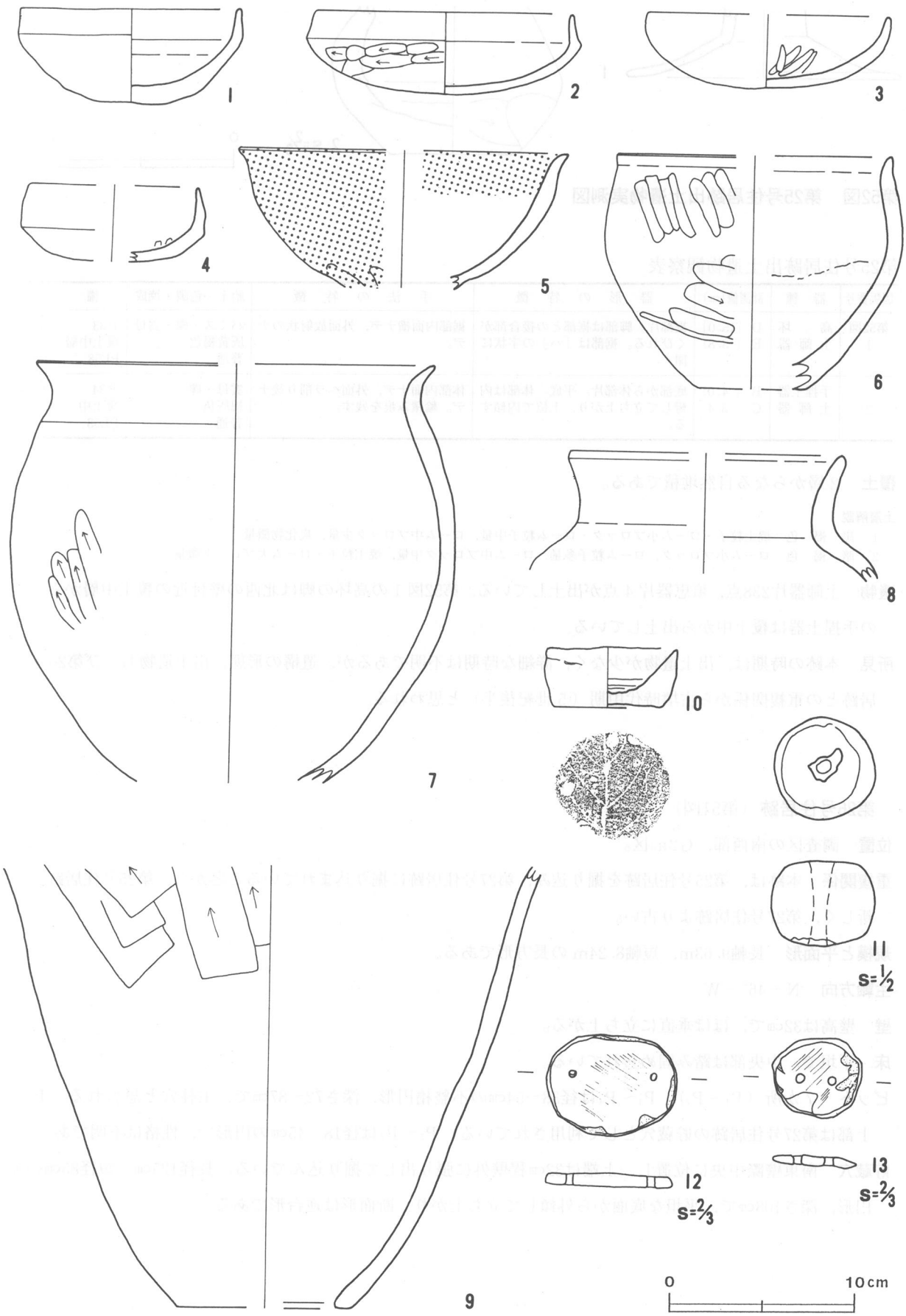
主軸方向　N－46°－W

壁　壁高は32cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　7か所（P_1～P_7）。P_1～P_4は径38～54cmの不整楕円形，深さ72～87cmで，主柱穴と思われる。P_3の上部は第27号住居跡の貯蔵穴として利用されている。P_5～P_7は径18～45cmの円形で，性格は不明である。

貯蔵穴　南東壁際中央に位置し，上端は32cm程壁外に張り出して掘り込んでいる。長径125cm，短径85cmの楕円形，深さ108cmで，平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面形は逆台形である。



第53図　第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53図 1	坏 土師器	A 11.6 B 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P35 100% 床面 PL58
2	坏 土師器	A 13.7 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P36 80% 床面 PL58
3	坏 土師器	A [13.0] B 4.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・石英 鈍い黄橙色 普通	P37 50% 床面 PL58
4	坏 土師器	A [9.1] B 4.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立し，口縁端部でわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・パミス・礫 橙色 普通	P38 40% 覆土中 PL58
5	高坏 土師器	A [17.6] B (7.5)	坏部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部で外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面及び外面上位横ナデ，下位縦位のヘラ削り。体部内面及び外面上位赤彩。	長石 鈍い赤褐色 普通	P39 40% 床面 PL58
6	小形甕 土師器	A [14.9] B 12.6 C [5.9]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，やや内傾して口縁部に至る。口縁端部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P40 20% 覆土下層 PL58
7	甕 土師器	A [21.4] B (22.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面縦位のヘラ削り。	石英・スコリア・礫 鈍い橙色 普通	P41 30% 床面 PL58
8	甕 土師器	A [14.9] B (6.5)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	パミス・石英 鈍い黄褐色 普通	P42 10% 覆土下層
9	甑 土師器	B 23.5 C 9.4	体部片，口縁部欠損。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面上位ヘラ削り後横ナデ，下位ナデ。体部外面縦位のヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス 橙色 普通	P43 40% 床面 PL58
10	手捏土器 土師器	A 7.0 B 3.2 C 6.0	平底。体部はわずかに外傾しながら立ち上がり，口縁部に至る。	体部内・外面ナデ。体部に輪積み痕を残す。	長石・石英・スコリア・礫 鈍い褐色 普通	P44 95% 覆土下層 底部に木葉痕

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第53図11	土玉	3.7	3.7	−	0.4〜0.9	39.8	北コーナー付近床面	DP8 PL115

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第53図12	有孔円板	2.2	3.5	0.4	0.2	7.2	滑石	南西壁付近覆土下層	Q3 PL119
13	有孔円板	2.2	2.4	0.3	0.2	2.8	滑石	北東壁付近覆土下層	Q4 PL119

竈 北西壁中央部に付設され，粘土と凝灰岩の切石とで構築されており，袖部の粘土と凝灰岩の芯材の一部が残っている。火床部はわずかに掘り窪められている。煙道部は壁外へ30cm程突出し，壁の内側から急に立ち上がる。

竈土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量，焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック中量，焼土大ブロック・炭化物微量
2 黄褐色 焼土中ブロック少量
3 明赤褐色 焼土大ブロック中量
4 褐灰色 灰多量
5 黄褐色 粘土大ブロック多量
6 黒褐色 ローム粒子多量，焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック中量

覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子中量，焼土中ブロック少量，ローム中・小ブロック少量
2　黒　　色　焼土粒子・ローム粒子中量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ローム中・小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化物微量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・ローム大ブロック・炭化物微量

遺物　土師器片1152点，須恵器片12点，鉄片4点，縄文・弥生土器片21点，軽石1点，土師質土器3点が出土している。第53図1の坏は正位の状態で北東壁付近の床面から，2，3の坏，5の高坏，7の甕，9の甑，10の手捏土器は竈近くの床面及び覆土下層から，6の小形甕，8の甕，11の土玉は東コーナー床面及び覆土下層から，4の坏は覆土中からそれぞれ出土している。12，13の有孔円板は前代の流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。

第27号住居跡（第51図）

位置　調査区の南西部，G2b_0区。

重複関係　本跡は，第26号住居跡及び第45号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，本跡が2軒より新しい。

規模と平面形　長軸3.27m，短軸2.85mの長方形である。

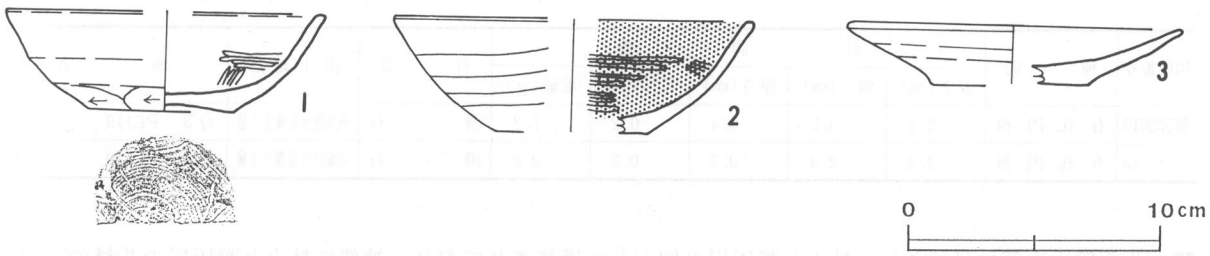
主軸方向　N－0°

壁　壁高は33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，竈周りを中心に踏み固められている。

貯蔵穴　北西コーナーに付設され，径54cmの円形で，深さは32cm，断面形は逆台形である。

竈　北壁中央部西寄りに付設されている。砂粒混じりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部は平坦で掘り込みはなく，わずかに焼土が確認される。



第54図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	坏 土師器	A［12.6］ B　4.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り調整。	スコリア・雲母・パミス・石英・礫 明赤褐色　普通	P45　50% 貯蔵穴内覆土中
2	坏 土師器	A［14.3］ B　4.5 C［6.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面黒色処理。	パミス 黒色 普通	P46　15% 貯蔵穴内覆土中 PL58
3	皿 土師器	A　13.1 B　2.3 C［6.3］	底部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 鈍い橙色 普通	P47　60% 床面 PL58

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　ローム中・小ブロック微量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片21点が出土している。第54図1，2の坏は貯蔵穴内壁際に重なって正位の状態で，3の皿は貯蔵穴近くの床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第28号住居跡（第55図）

位置　調査区の南西部，G2d$_9$区。

重複関係　本跡は，第57号土坑を掘り込み，第29号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，第57号土坑より新しく，第29号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸5.82m，短軸5.79辺mの方形である。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は36cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径45～56cmの円形，深さ56～71cmで，主柱穴と思われる。P$_5$は径54cmの円形，深さ24cmで，位置から出入り口ピットと思われる。

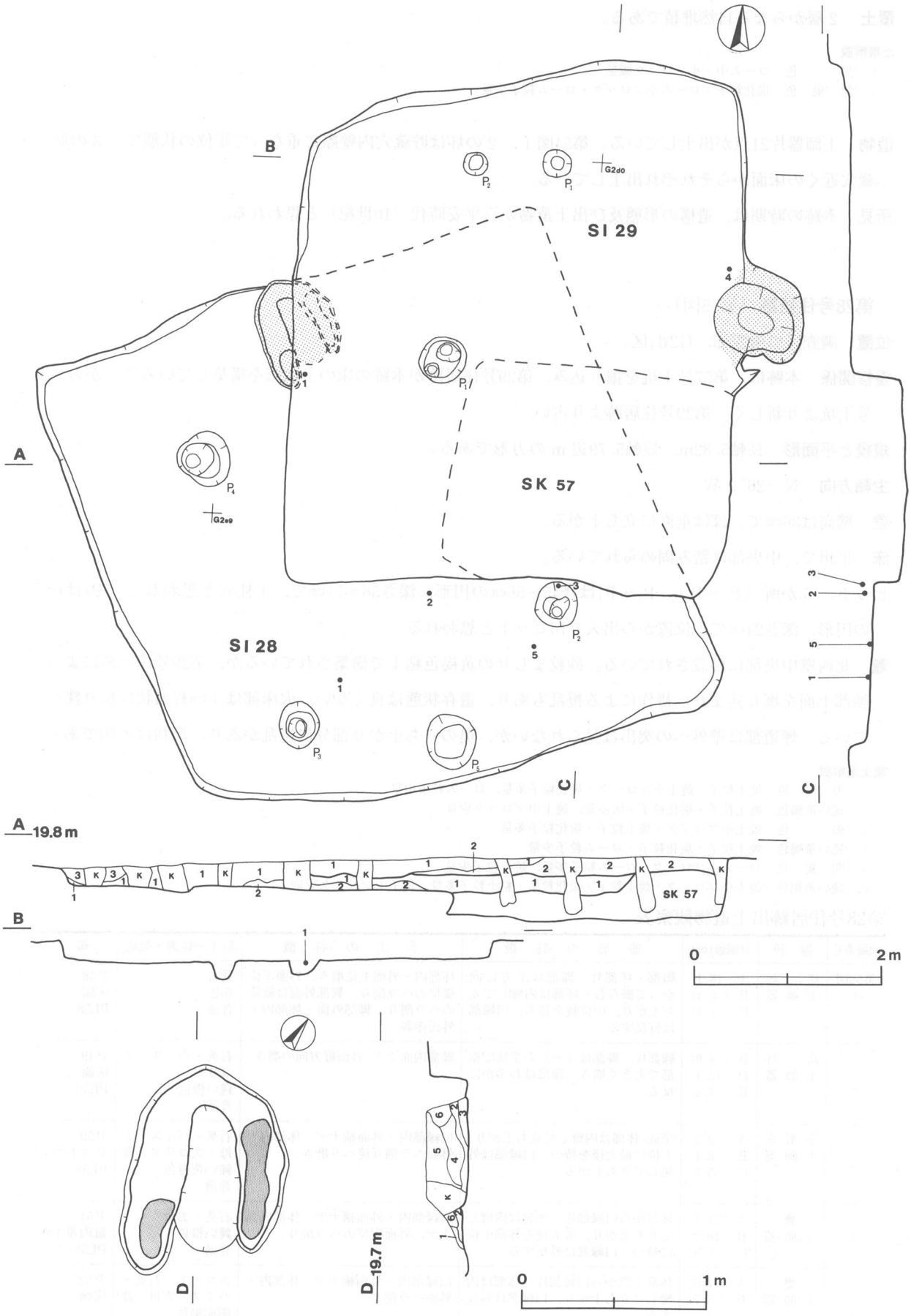
竈　北西壁中央部に付設されている。砂粒まじりの黄褐色粘土で構築されているが，第29号住居跡によって右袖部上面を掘り込まれ，耕作による撹乱もあり，遺存状態は良くない。火床部は4cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出は見られないが，奥の立ち上がり部分に撹乱があり，形状は不明である。

竈土層解説

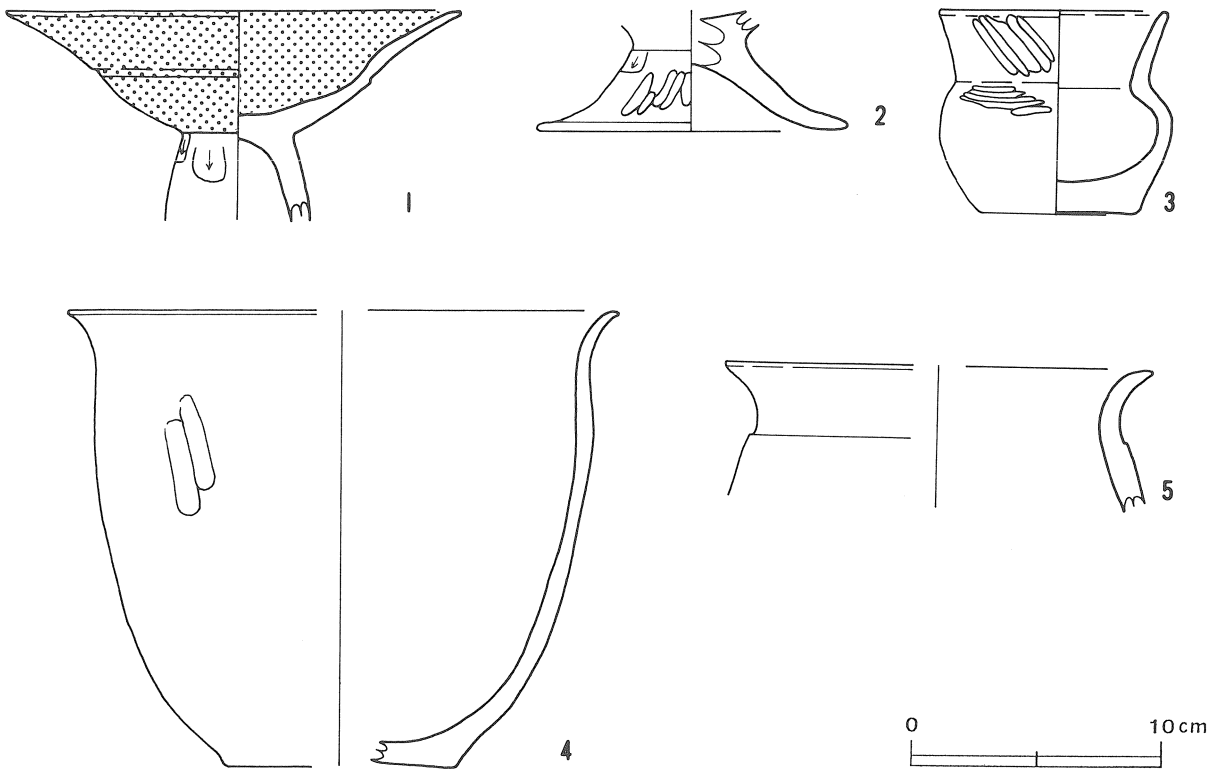
1　黒　褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子多量，ローム粒子中量
2　鈍い黄褐色　焼土粒子・炭化粒子・灰多量，焼土中ブロック少量
3　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量
4　鈍い黄褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
5　明　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量
6　鈍い黄褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子多量，焼土中ブロック少量

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図1	高坏 土師器	A 18.1 B（8.4） E（3.4）	脚部・坏部片。脚部は下方に向かって膨らむ。坏部は内彎して立ち上がり，中位稜を持ち，口縁部は外反する。	坏部内・外面上位磨き，外面下位横位のヘラ削り。脚部外面は縦位のヘラ削り。脚部外面・坏部内・外面赤彩。	長石 赤色 普通	P48　40% 床面 PL58
2	高坏 土師器	B（4.9） D 12.1 E 3.2	脚部片。脚部は「ハ」の字状で裾部で大きく開き，端部はわずかに反る。	脚部内面ナデ，外面縦方向の磨き。	石英・パミス・スコリア 鈍い橙色 普通	P49　30% 床面 PL59
3	小形壺 土師器	A 9.2 B 8.1 C 6.1	平底。体部は内彎して立ち上がり，上位に最大径を持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	石英・パミス・雲母・スコリア・礫 鈍い黄橙色 普通	P50　95% ピット内上面 PL59
4	甕 土師器	A［21.7］ B 18.2 C［9.0］	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を体部上位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。	石英・雲母 鈍い橙色 普通	P51　30% 竈内覆土中 PL59
5	甕 土師器	A［17.0］ B（5.7）	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	スコリア・石英・パミス・雲母・礫 明赤褐色 普通	P52　5% 床面



第55図　第28・29号住居跡実測図



第56図　第28号住居跡出土遺物実測図

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，炭化物少量，焼土中ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，炭化物中量，焼土大ブロック・焼土小ブロック少量
3　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量

遺物　土師器片410点，須恵器片3点，鉄滓3点，弥生土器片3点及び土製支脚2点が出土している。第56図5の甕は東コーナー付近の床面から，2の高坏は中央部東寄りの床面から，3の小形壺はP_2の上面から，4の甕は竈内から，1の高坏は床面からそれぞれ出土している。1の高坏は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第29号住居跡（第55図）

位置　調査区の南西部，G2d_9区。

重複関係　本跡は，第28号住居跡の北東部及び第57号土坑を掘り込んでおり，本跡が両者より新しい。

規模と平面形　長軸5.6m，短軸4.66mの長方形である。

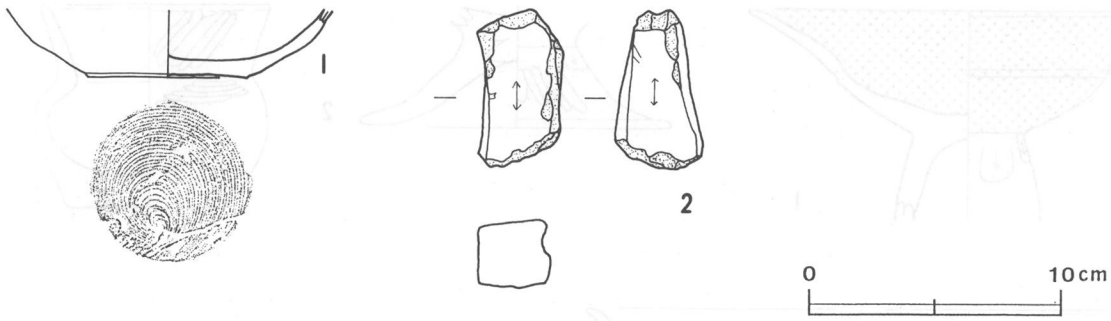
主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は21cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径25～30cmの円形，深さ25～30cmで，性格は不明である。

竈　東壁中央部に付設されている。耕作による撹乱のため遺存状態が悪く，火床部に焼土がわずかに確認される程度で，規模や平面形等は不明である。



第57図　第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第57図 1	坏 土師器	B（2.7） C　6.4	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	石英・スコリア・パミス・雲母・長石 橙色 普通	P53　40% 床面 PL59

図版番号	種　別	計　測　値					石　質	出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第57図2	砥　石	6.3	3.3	2.7	－	78.6	凝灰岩	覆土中	Q5　PL119

覆土　2層からなる人為堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量
2　黒　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック微量

遺物　土師器片383点，須恵器片11点及び鉄滓4点が出土している。第57図1の坏底部は西壁際の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるが，1の坏が床面からの出土であるため，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第30号住居跡（第58図）

位置　調査区の南西部，G2f$_0$区。

重複関係　本跡は，第31・36号の各住居跡と第6号井戸に掘り込まれており，本跡が最も古い。

規模と平面形　南東壁が耕作による撹乱により確認できないため，柱穴等から規模を推定すると，一辺6.42mの方形あるいは長方形と思われる。

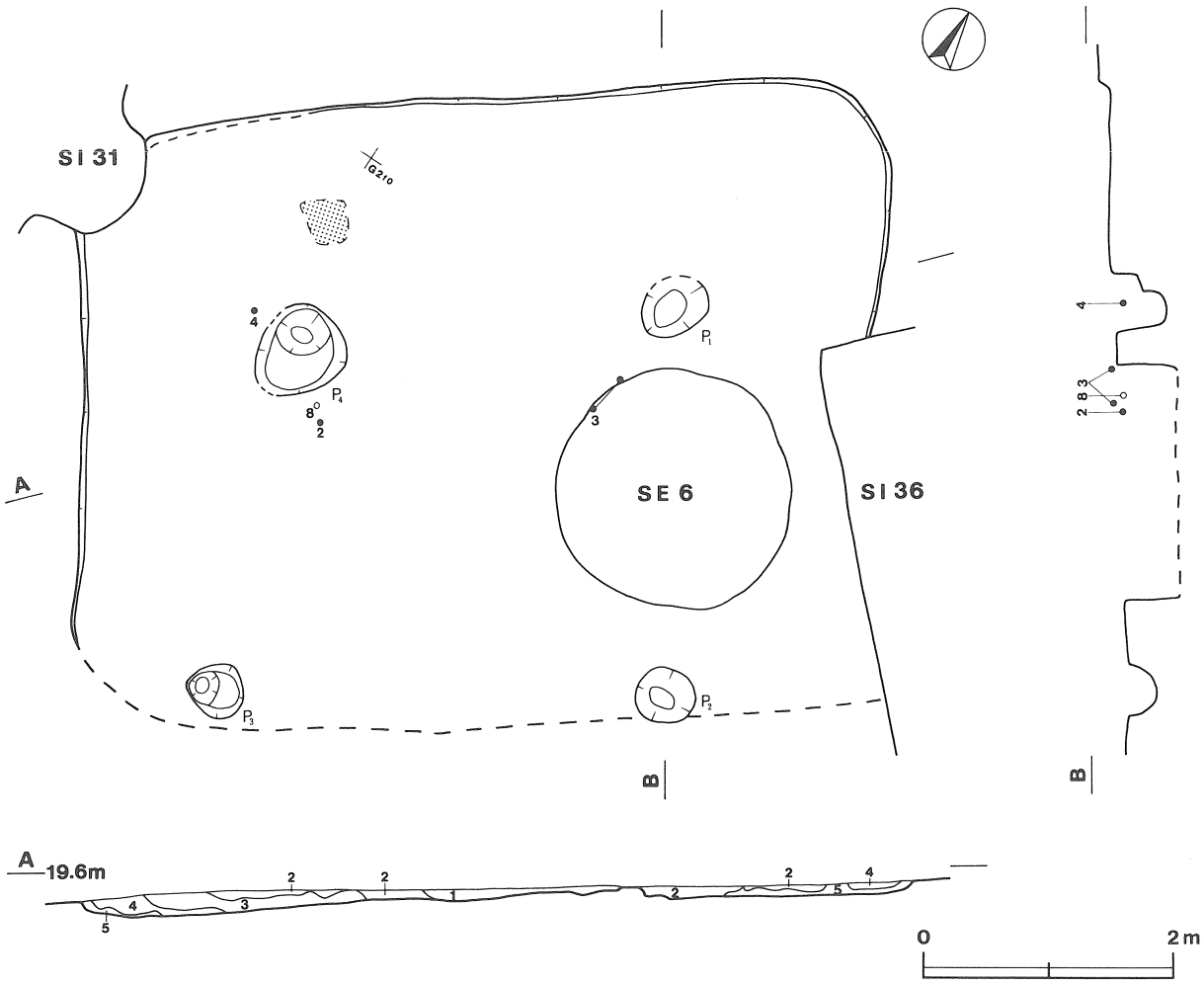
主軸方向　N－52°－E

壁　壁高は7～10cmで，外傾して立ち上がる。

床　撹乱のため全体的に締まりがなく，遺存状態はよくない。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_4$は径41～75cmの不整円形，深さ40～75cmで，主柱穴と思われる。

炉　北西壁寄りやや南側に位置し，長軸37cm，短軸33cmの不整長方形で，床面を7cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変している程度である。

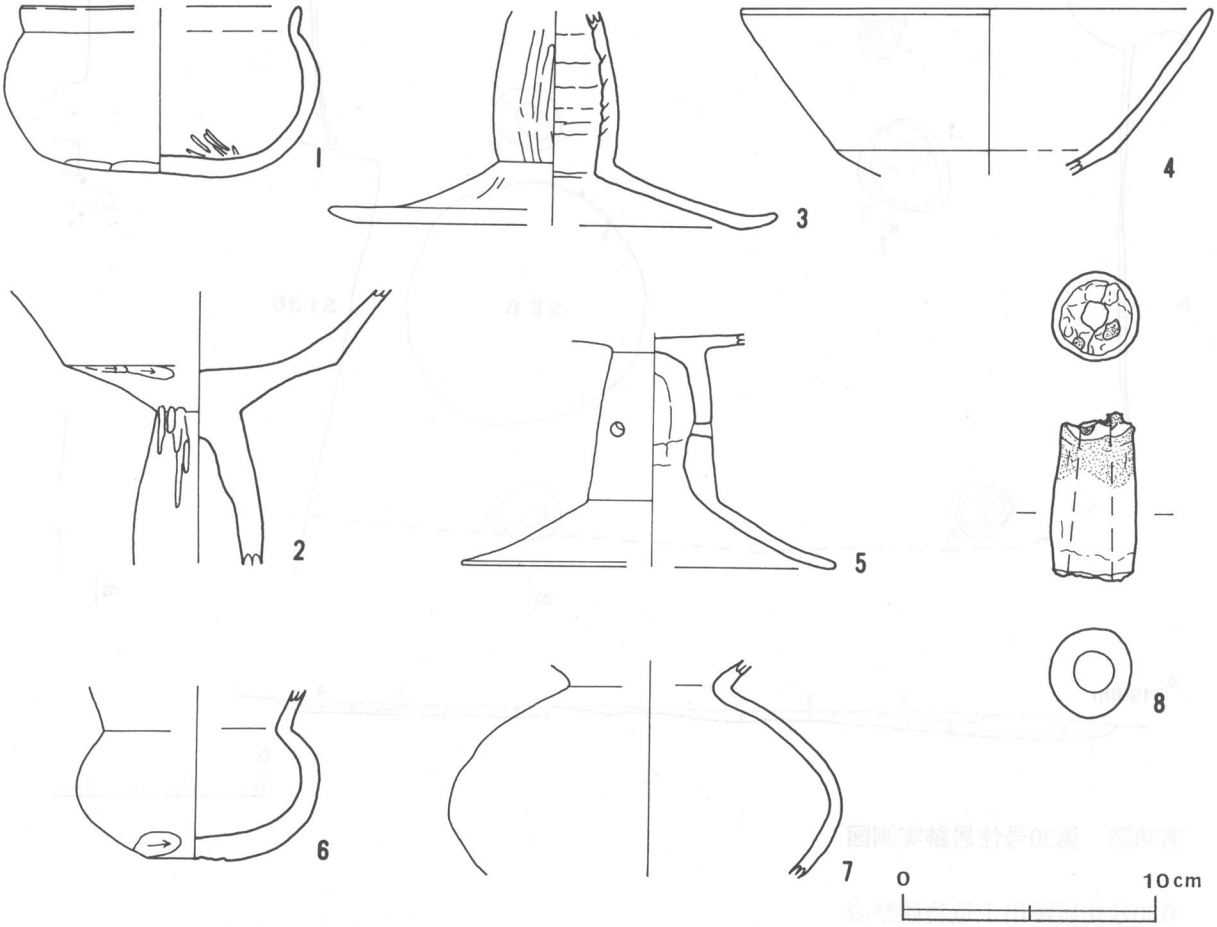


第58図　第30号住居跡実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第59図 1	椀 土師器	A [11.0] B 6.71	丸底。体部は内彎して立ち上がり，体部上位でやや内傾し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・石英・スコリア・パミス・長石・礫 橙色 普通	P57　50% ピット内覆土中 PL59
2	高坏 土師器	B (10.9) E (6.1)	脚部から坏部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。坏部は内彎して立ち上がり，外面下方に段がある。	坏部内・外面磨き。脚部内面ヘラ削り，外面縦方向のヘラ磨き。	パミス・礫 赤褐色 普通	P54　30% 床面 PL59
3	高坏 土師器	D [17.8] E (8.5)	裾部から脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。裾部は端部で反る。	脚部内面ヘラ削り，輪積痕が残る。脚部外面縦方向のヘラ磨き。裾部放射状のヘラ磨き。	スコリア・長石 鈍い橙色 普通	P55　20% 床面 PL59
4	高坏 土師器	A 18.8 B (6.7)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり，外面下方に段を持つ。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア 橙色　普通	P56　20% ピット内上面 PL59
5	高坏 土師器	B (9.3) D [15.0] E 8.5	裾部から脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。脚部2穴穿孔。	脚部内・外面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P62　30% 覆土中
6	坩 土師器	B (6.9) C 3.3	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つつぶれた球形状である。	体部内面ヘラ削り，外面上位ナデ，下位ヘラ削り。	雲母 褐色 普通	P58　80% 覆土中 PL59
7	坩 土師器	B (8.5)	体部片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径を持つ。	体部内・外面ナデ。体部内・外面磨滅。	長石・石英 明赤褐色 普通	P59　30% 覆土中 PL59

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第59図8	転用羽口	(8.7)	4.4	4.6	−	(124.8)	南東壁付近床面	DP86 PL117



第59図　第30号住居跡出土遺物実測図

覆土　5層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土大ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック中量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量
3　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量
4　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック中量，焼土大・小ブロック・ローム大ブロック微量
5　暗　褐　色　ローム中ブロック多量

遺物　土師器片504点，須恵器片7点，鉄滓7点及び弥生土器片1点が出土している。第59図1の高坏，6，7の坩は覆土中から，2の高坏はP_4近くの床上から，3の高坏は中央部床面から，4の高坏はP_4の覆土上面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第31号住居跡（第60図）

位置　調査区の南西部，G2f$_9$区。

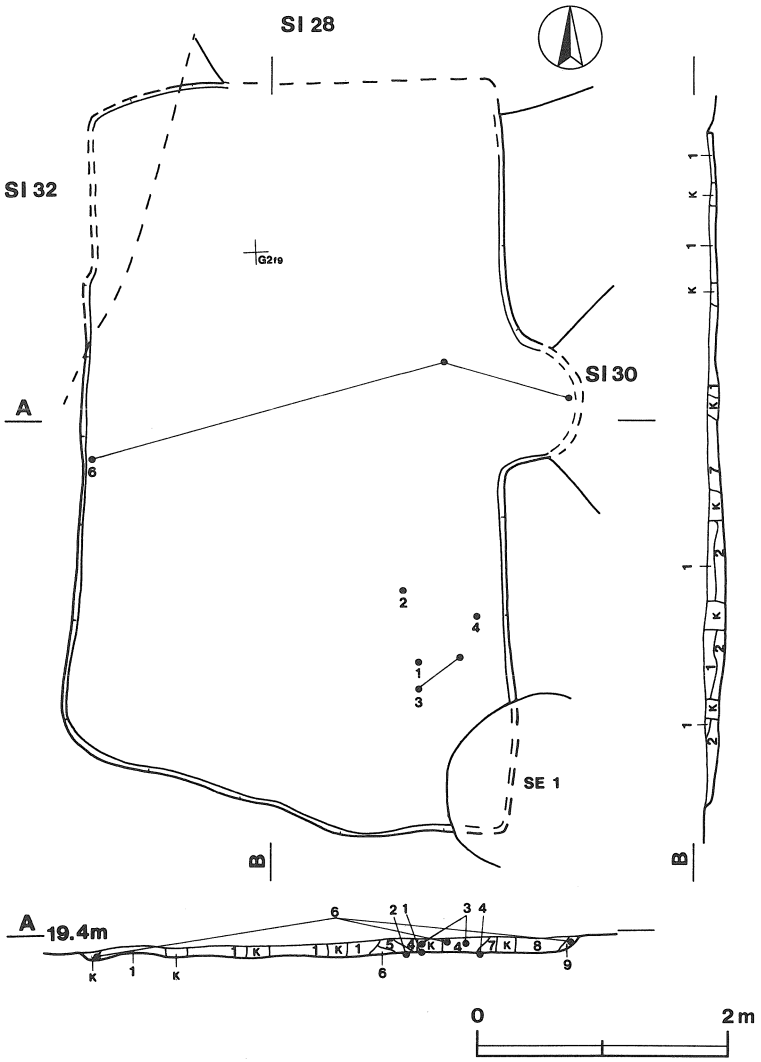
重複関係　本跡は，第30号住居跡を掘り込み，第28号住居跡の床の上に本跡の床を構築し，また，第32号住居跡は本跡の床の上に床を構築し，第１号井戸に掘り込まれていることから，第28号住居跡，第30号住居跡より新しく，第32号住居跡，第１号井戸より古い。

規模と平面形　長軸5.75m，短軸3.4mの長方形である。

主軸方向　N－3°－E

壁　壁高は７cmで，外傾して立ち上がる。

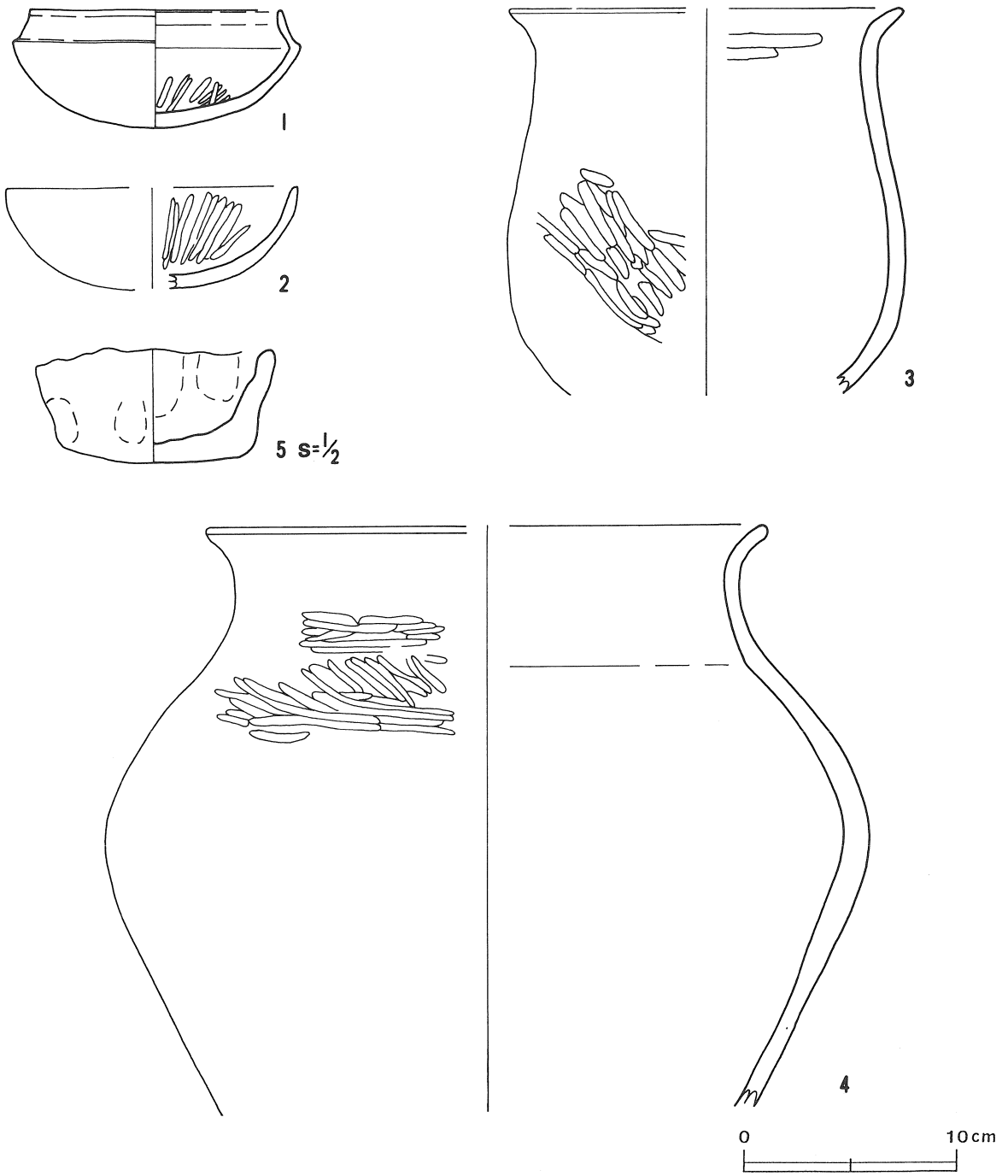
床　平坦で，中央部は踏み固められている。



第60図　第31号住居跡実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

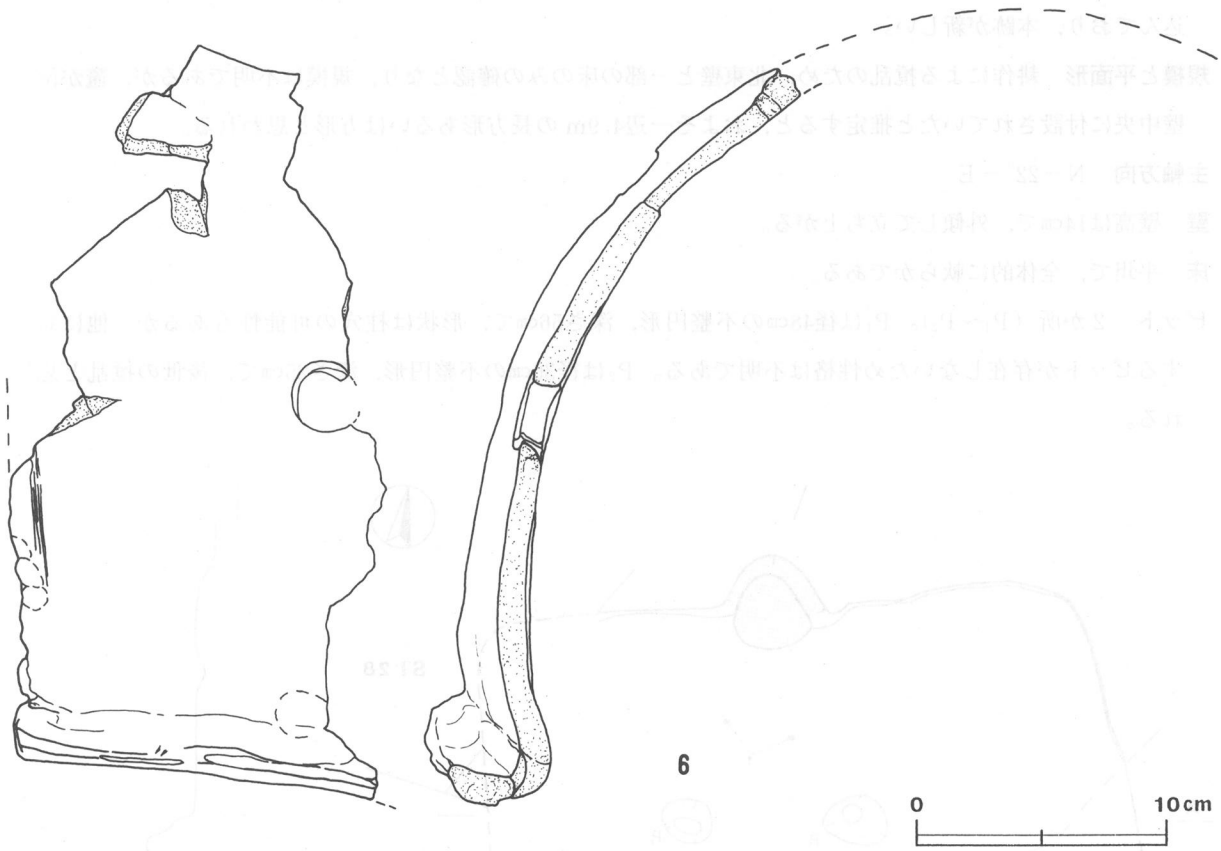
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第61図 1	坏 土師器	A　11.6 B　5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・石英・スコリア・長石 鈍い赤褐色 普通	P60　80% 床面 PL59



第61図　第31号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	坏 土師器	A [13.5] B (4.7)	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は緩く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英 橙色 普通	P61　40% 床面 PL59
3	甕 土師器	A [18.2] B (18.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を下位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面斜位のヘラナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P63　40% 床面 PL59
4	甕 土師器	A [26.0] B (26.9)	体部上位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面上位ヘラナデ，下位ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P64　30% 床面

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
5	手捏土器 土師器	A　5.5 B　2.6 C　4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ナデ。指頭圧痕を残す。	スコリア・石英・雲母 鈍い褐色 普通	P65　90% 覆土中
第62図 6	置き竈 土師器	B (14.5) C [45.4]	円筒形の体部側片。体部は内傾して立ち上がる。焚き口部に庇状の貼り付け。底部から12cm上に円形の窓が穿たれる。	体部内・外面ヘラナデ。体部外面に指頭圧痕。焚き口部外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P66　10% 床面 PL59



第62図　第31号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土　9層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム大・中ブロック少量
2　黒　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・中・小ブロック・炭化物・ローム大ブロック少量
3　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・小ブロック・ローム大ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム中・小ブロック中量，焼土大・中ブロック少量
5　褐　　色　ローム大ブロック多量
6　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼土粒子・ローム大ブロック少量
7　暗　褐　色　ローム大ブロック多量，焼土大ブロック中量，焼土小ブロック少量
8　黒　褐　色　焼土大ブロック多量，ローム小ブロック中量，焼土大ブロック・白色粘土少量
9　黒　褐　色　焼土中ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック少量

遺物　土師器片319点，須恵器片4点及び縄文土器片4点が出土している。第61図1，2の坏は南東コーナーの床面から正位の状態で，3，4の甕も同じ位置からつぶれた状態で，5の手捏土器は覆土中から，6の置き竈は東壁中央の張り出し部床上及び西壁中央際の床上からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，この時期に一般的な竈を持たず，柱穴もないことから，方形竪穴状遺構の可能性が考えられる。また，置き竈が出土した東壁中央の張り出し部には床面に焼土が残存しており，ここで置き竈が使用されたとも考えられる。本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第32号住居跡（第63図）

位置　調査区の南西部，G2e$_8$区。

重複関係　本跡は，第28号住居跡の南西部，第31号住居跡の北西部及び第33号住居跡の南東部をそれぞれ掘り込んでおり，本跡が新しい。

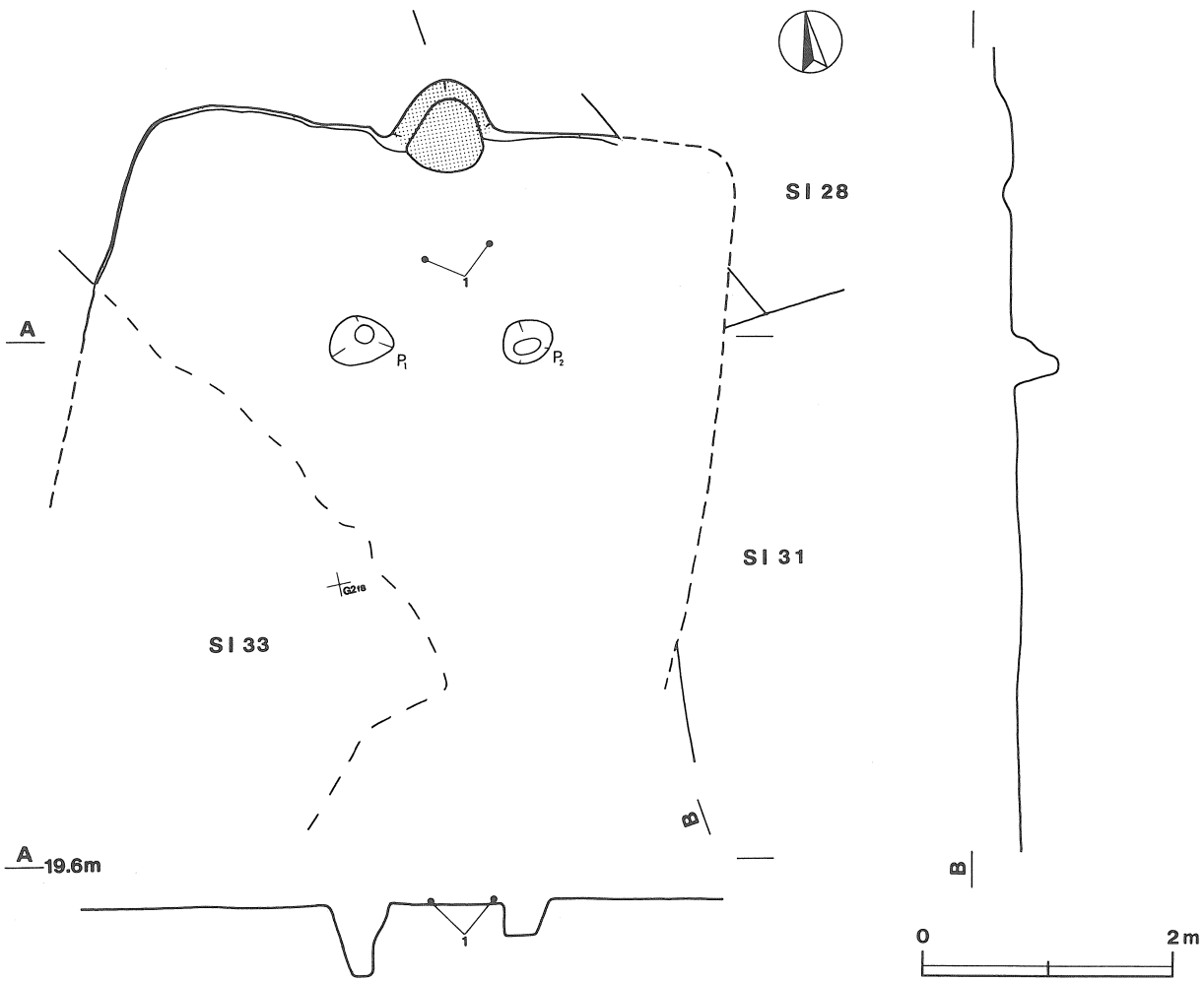
規模と平面形　耕作による撹乱のため，北東壁と一部の床のみの確認となり，規模は不明であるが，竈が南東壁中央に付設されていたと推定すると，およそ一辺4.9m の長方形あるいは方形と思われる。

主軸方向　N－22°－E

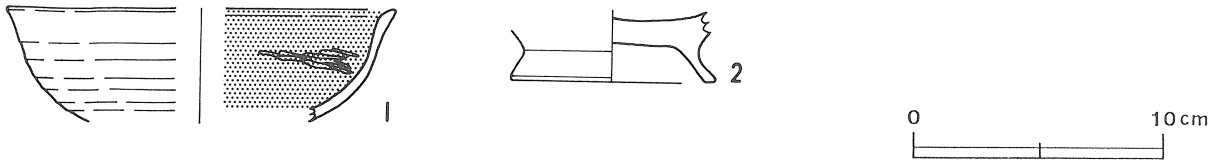
壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　２か所（P$_1$～P$_2$）。P$_1$は径48cmの不整円形，深さ56cmで，形状は柱穴の可能性もあるが，他に対応するピットが存在しないため性格は不明である。P$_2$は径36cmの不整円形，深さ25cmで，後世の撹乱と思われる。



第63図　第32号住居跡実測図



第64図　第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第64図 1	坏 土師器	A［15.3］ B　(4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ内面黒色処理。	パミス 褐色 普通	P67　　20% 床面 PL59
2	高台付坏 土師器	B（2.9） D　8.1 E　1.3	高台から底部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部内面ヘラ磨き，外面高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P68　　10% 竈内覆土中

竈　北東壁中央部に付設されている。耕作による撹乱のため遺存状況が悪く，規模や平面形は不明である。火床部はわずかに掘り窪められており，火熱を受けた程度の焼土が残る。煙道部は壁外への突出が見られ，ゆるく外傾して立ち上がる。

遺物　土師器片35点，須恵器片１点が出土している。第64図１の坏は竈近くの床面から，２の高台付坏は竈の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細な時期は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。

第33号住居跡（第65図）

位置　調査区の南西部，G2e_7区。

重複関係　本跡は，第32号住居跡及び第51号土坑と重複している。第32号住居跡が本跡の床の上に構築されており，第51号土坑は本跡の床を掘り込んでいることから，本跡は，第51号土坑と第32号住居跡より古い。

規模と平面形　耕作による撹乱のため北西壁と一部の床のみの確認となり，規模は不明であるが，竈が北西壁中央に付設されていたとすると，およそ一辺5.3mの長方形あるいは方形と思われる。

主軸方向　N－40°－W

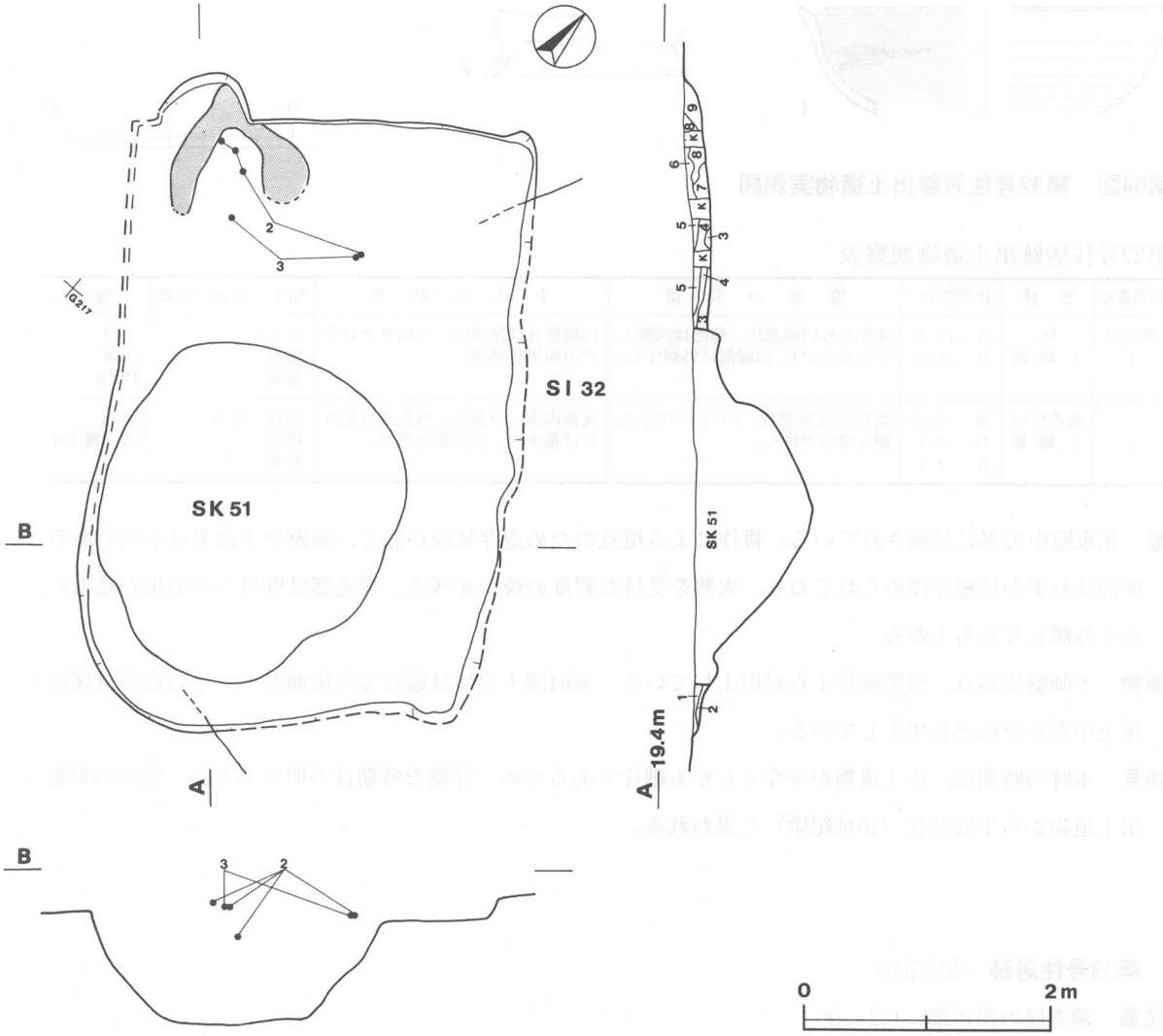
壁　壁高は16cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

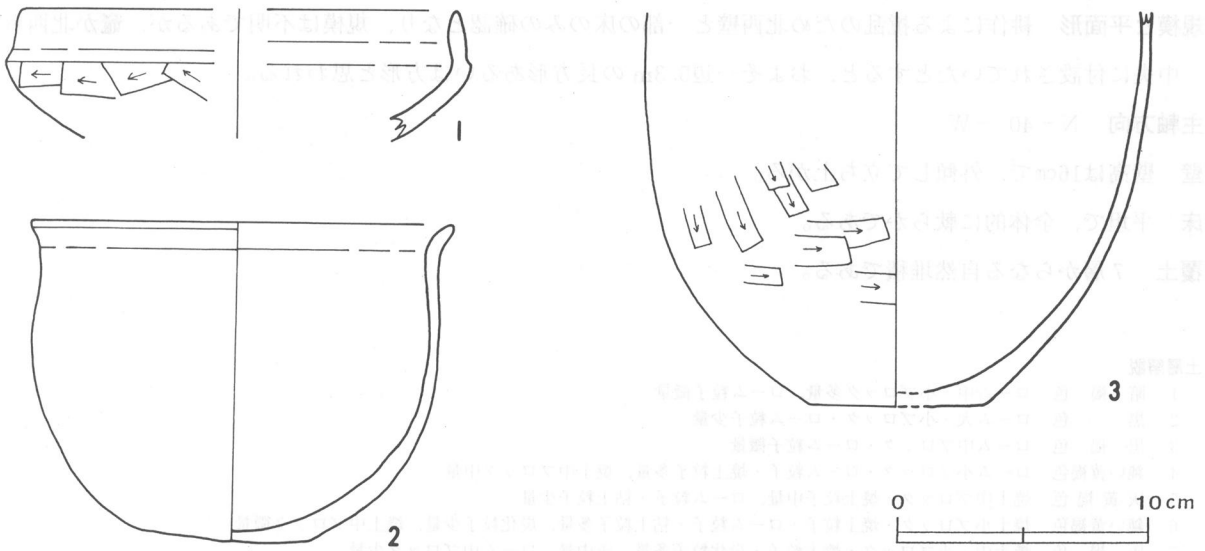
覆土　７層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子微量
2　黒　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子微量
4　鈍い黄褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
5　灰黄褐色　焼土中ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
6　鈍い黄褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土中ブロック微量
7　灰　褐　色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量，灰中量，ローム中ブロック少量
8　鈍い黄褐色　灰・粘土粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量，焼土粒子少量
9　明　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量



第65図　第33号住居跡実測図



第66図　第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 1	坏 土師器	A［17.2］ B（ 5.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・石英・雲母・礫 鈍い橙色 普通	P69 20% 覆土中 PL59
2	小形甕 土師器	A 16.5 B 12.7 C 6.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，上位でやや内傾し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・長石 暗赤褐色 普通	P70 80% 竈内覆土下層 PL60
3	甕 土師器	B（15.6） C 7.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア・パミス・雲母 褐色 普通	P71 40% 床面 PL59

竈　北西壁中央部に付設されている。耕作による撹乱のため遺存状態が悪く，袖部の位置に竈を構築していた橙色粘土の一部を確認する。規模や形状等は不明である。

遺物　土師器片149点，須恵器片２点が出土している。第66図１の坏は覆土中から，２の小形甕は竈内覆土下層から，３の甕は竈前の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第34号住居跡（第67図）

位置　調査区の南西部，G3c$_1$区。

重複関係　本跡は，床を第45号住居跡の床の上に構築しており，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸6.25m，短軸6.04mの方形である。

主軸方向　N－33°－W

壁　壁高は25cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　５か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径60～82cmの不整円形，深さ71～80cmで，主柱穴と思われる。P$_5$は径48cmの不整円形，深さ32cmで，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設されている。砂粒混じりの橙色粘土で構築されており，上面は耕作による撹乱のため消失している。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

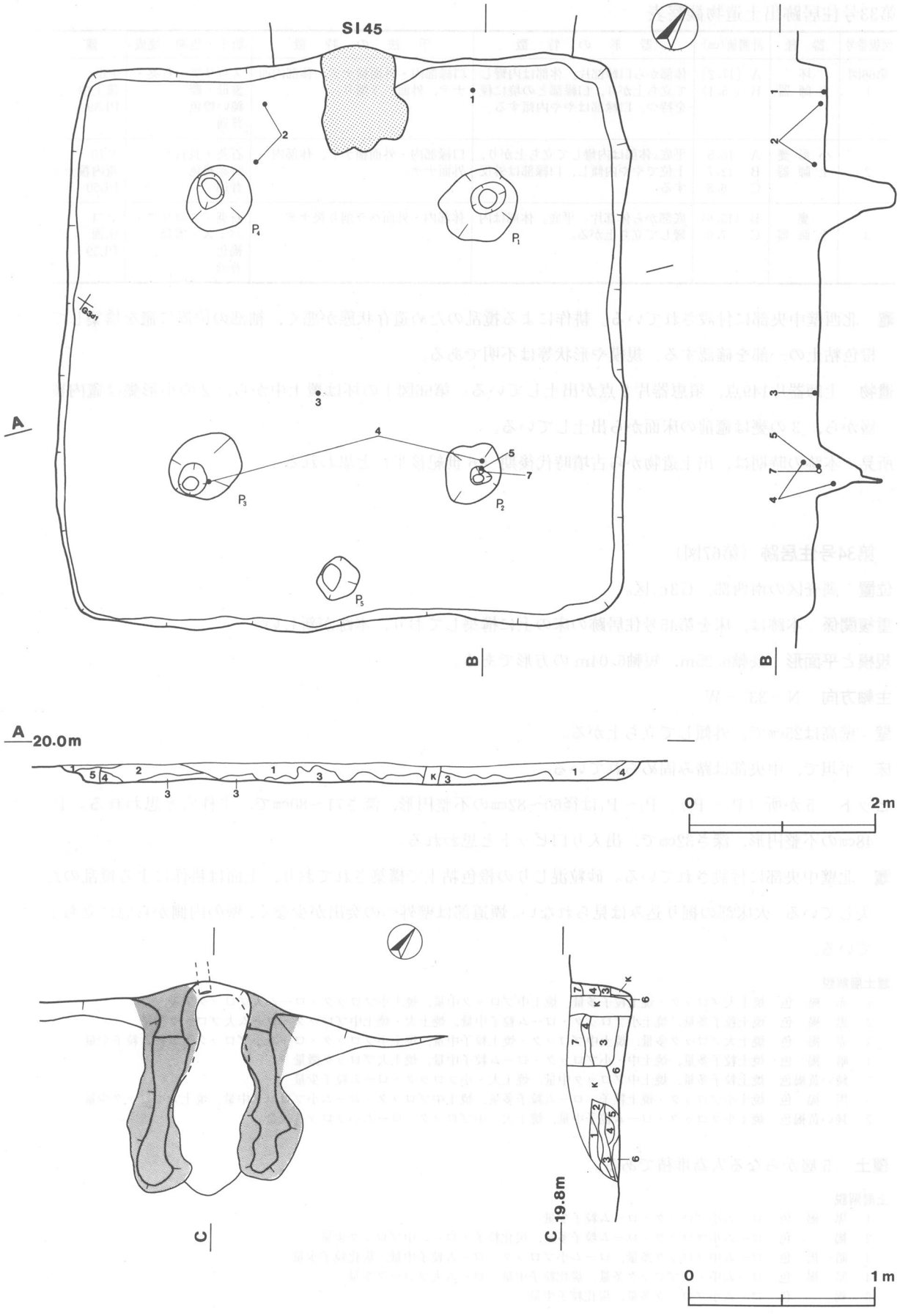
竈土層解説

1　赤　褐　色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・ローム大ブロック少量
2　黒　褐　色　焼土粒子多量，焼土小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・焼土中ブロック・ローム大ブロック少量
3　赤　褐　色　焼土大ブロック多量，焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子多量，焼土中・小ブロック・ローム粒子中量，焼土大ブロック微量
5　鈍い黄褐色　焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，焼土大・小ブロック・ローム粒子少量
6　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子多量，焼土中ブロック・ローム小ブロック中量，焼土大ブロック少量
7　鈍い黄褐色　焼土小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・中ブロック・ローム小ブロック少量

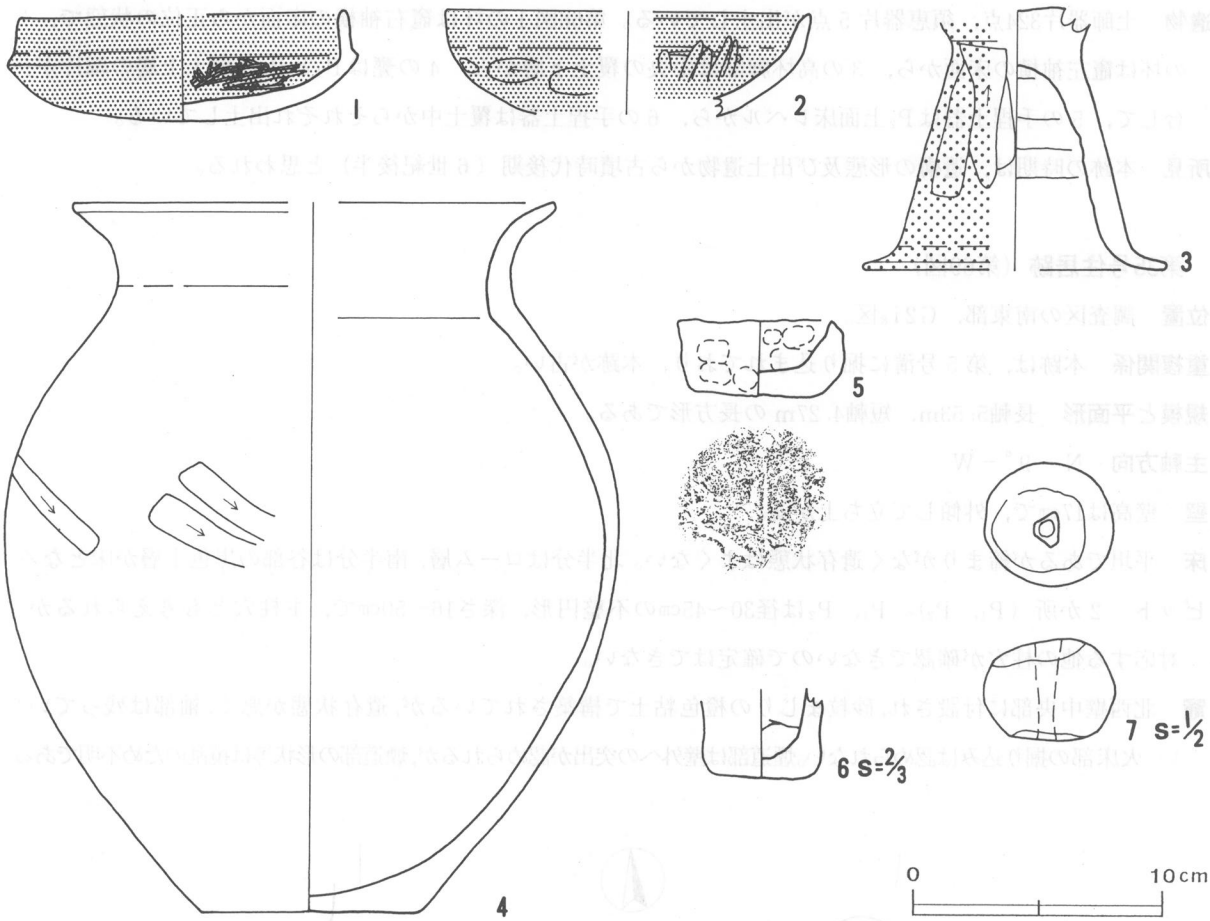
覆土　５層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム中・小ブロック多量，炭化粒子中量，ローム大ブロック少量
5　褐　　色　ローム小ブロック多量，炭化粒子少量



第67図　第34号住居跡実測図



第68図　第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	坏 土師器	A［12.9］ B　4.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	パミス・雲母 黒色 普通	P72　80% 床面 PL60
2	坏 土師器	A［14.2］ B（ 4.1）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	スコリア・石英・パミス・礫 黒褐色 普通	P73　40% 床面 PL60
3	高坏 土師器	B（10.4） D［12.0］ E（ 9.1）	脚部片。脚部は下位で「ハ」の字状に開き，端部は大きく開く。	脚部内面ナデ，外面縦方向のヘラ削り。裾部外面横位のナデ。脚部外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P74　20% 覆土下層 PL60
4	甕 土師器	A［19.0］ B　28.2 C　8.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P75　40% ピット内覆土上層
5	手捏土器 土師器	A　6.0 B　3.1 C　5.0	底部から口縁部片。平底。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ナデ。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P76　100% 床面
6	手捏土器 土師器	B（ 1.8） C　2.0	底部から体部片。平底。体部は底部から直立して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	スコリア・石英・長石 鈍い褐色 普通	P77　80% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第68図7	土玉	3.4	3.3	－	0.5～0.7	28.6	東コーナー付近床面	DP9　PL115

遺物　土師器片324点，須恵器片５点が出土している。第68図１の坏は竈右袖横の床面から正位の状態で，２の坏は竈左袖横の床面から，３の高坏脚部は中央の覆土下層から，４の甕はP_2とP_3内覆土上層の細片が接合して，５の手捏土器はP_2上面床レベルから，６の手捏土器は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第35号住居跡（第69図）

位置　調査区の南東部，G2i$_8$区。

重複関係　本跡は，第５号溝に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.53m，短軸4.27mの長方形である。

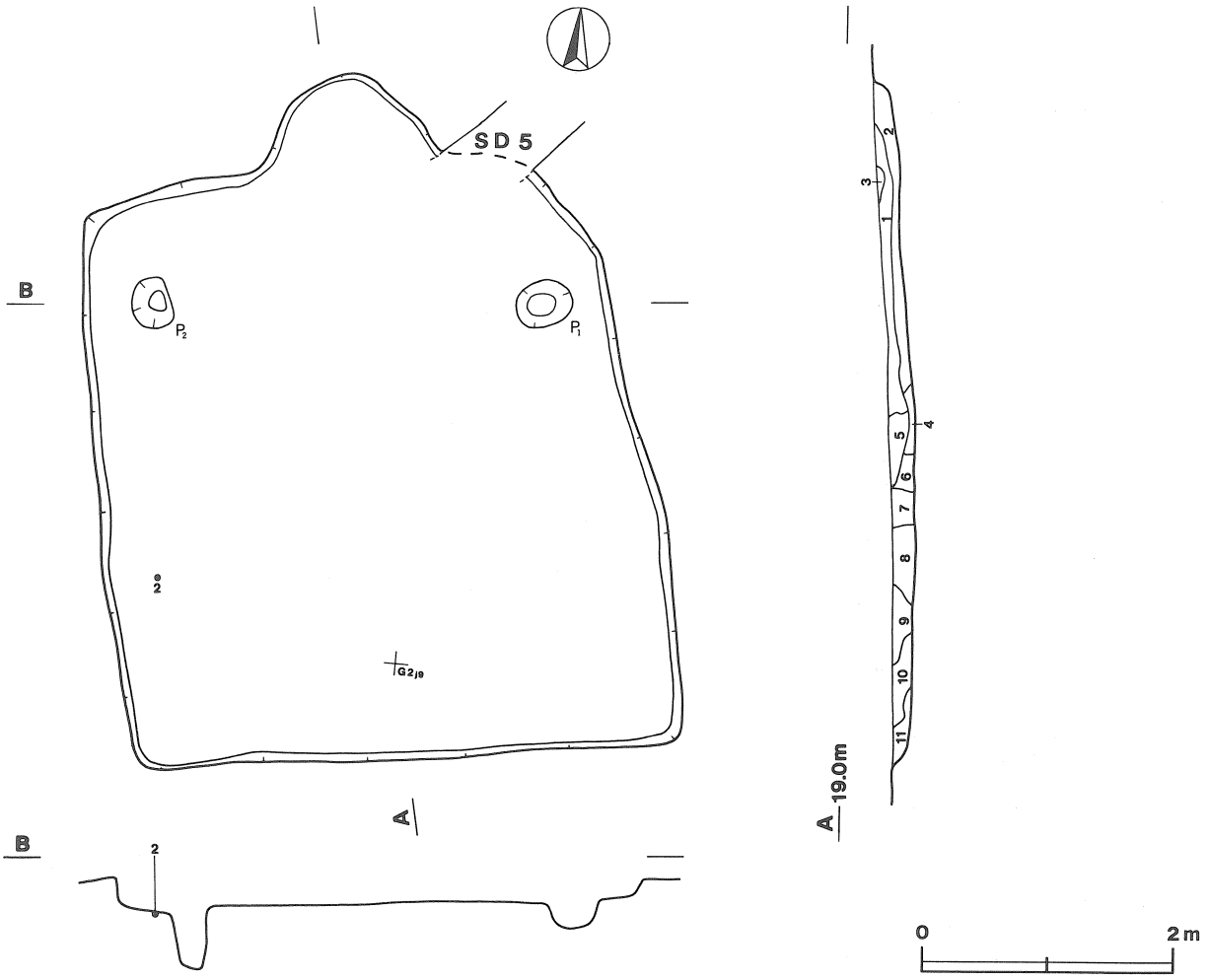
主軸方向　N－9°－W

壁　壁高は17cmで，外傾して立ち上がる。

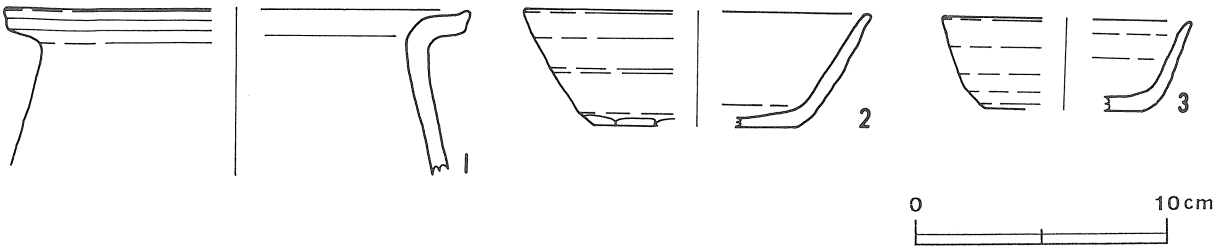
床　平坦であるが締まりがなく遺存状態はよくない。北半分はローム層，南半分は谷部の黒色土層が床となる。

ピット　２か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径30～45cmの不整円形，深さ16～50cmで，主柱穴とも考えられるが，対応する他の柱穴が確認できないので確定はできない。

竈　北西壁中央部に付設され，砂粒まじりの橙色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部の掘り込みは認められない。煙道部は壁外への突出が認められるが，煙道部の形状等は撹乱のため不明である。



第69図　第35号住居跡実測図



第70図　第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第70図 1	甕 土師器	A［18.2］ B（6.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し，端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・石英・雲母・パミス・礫 明赤褐色 普通	P78　10% 覆土中 PL60
2	坏 須恵器	A［13.6］ B　4.6 C［8.0］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラナデ。底部回転ヘラ削り調整。	石英・パミス・針状鉱物 灰色 普通	P79　20% 覆土下層
3	坏 須恵器	A［9.3］ B　3.7 C［6.1］	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラナデ。底部回転ヘラ切り。	石英・礫・針状鉱物 灰色 普通	P80　30% 覆土中 PL60

覆土　11層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　黒　　色　ローム粒子多量
6　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量
7　黒　褐　色　ローム粒子・粘土小ブロック多量，粘土中ブロック少量
8　黒　褐　色　粘土粒子多量
9　黒　　色　粘土中ブロック・粘土粒子多量
10　黒　　色　粘土中ブロック多量，粘土粒子中量
11　明　褐　色　ローム小ブロック・粘土中ブロック多量，粘土小ブロック少量

遺物　土師器片185点，須恵器片6点，弥生土器片1点が出土している。遺物は細片が多い。第70図1の甕片，3の坏片は覆土中から，2の坏片は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀頃）と思われる。

第36号住居跡（第71図）

位置　調査区の南東部，G3e_1区。

重複関係　本跡は，第55号土坑を掘り込んでおり，本跡が新しい。

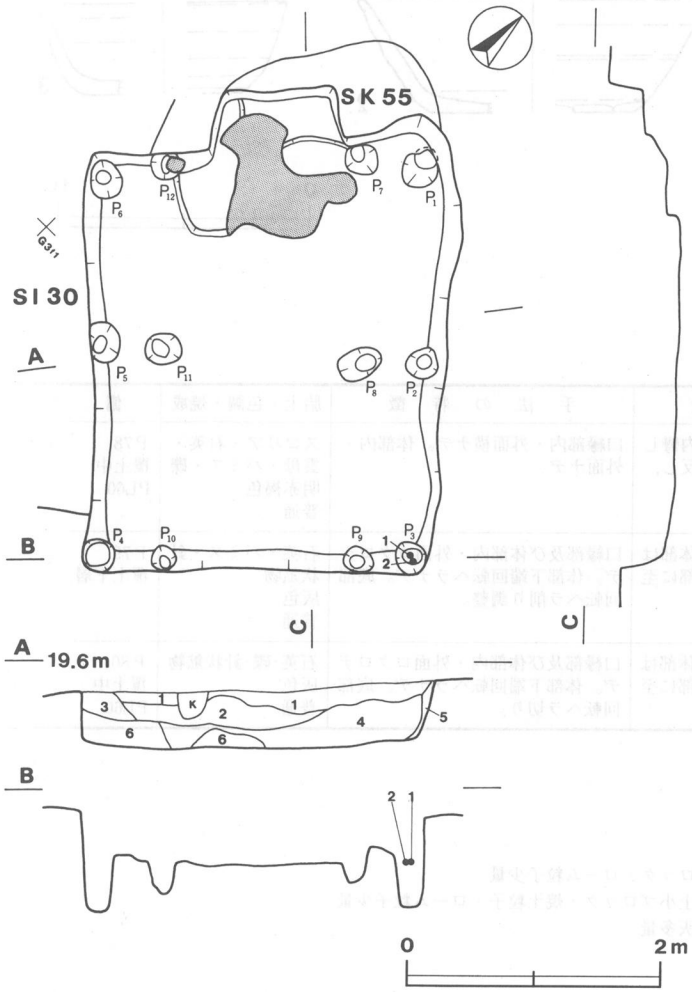
規模と平面形　長軸3.8m，短軸2.81mの長方形である。

主軸方向　N－47°－W

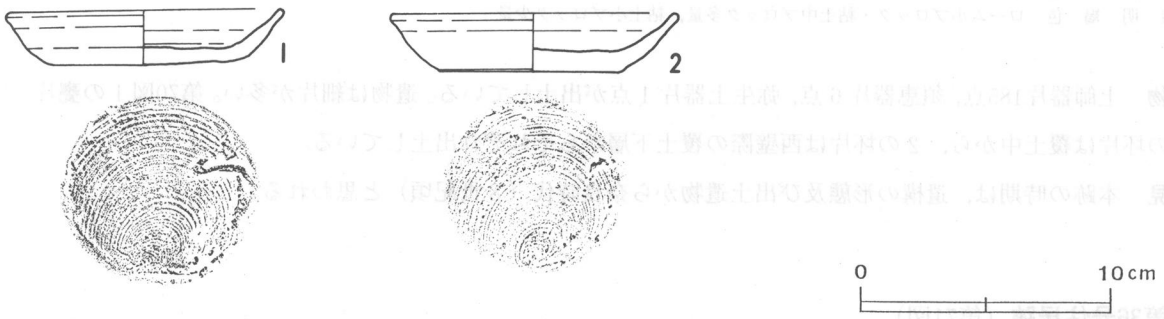
壁　壁高は34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，北西側階段状部分の周囲は踏み固められている。

ピット　12か所（P_1～P_{12}）。P_1～P_6は径23～28cmの不整円形，深さ33～42cmで，主柱穴と思われる。P_7～P_{12}は径19～32cm，深さ15～30cmで，補助柱穴と思われる。



第71図　第36号住居跡実測図



第72図　第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	皿 土師器	A 10.7 B 2.2 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	スコリア・パミス 橙色 普通	P81　90% ピット内覆土上面　PL60
2	皿 土師器	A 11.2 B 2.4 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	スコリア・礫・石英・雲母 橙色 普通	P82　90% ピット内覆土上面

覆土　6層からなり，各層にロームブロックやローム粒子を含んでいることから，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土中ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大・小ブロック少量
4　極暗褐色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
5　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量，炭化物微量

遺物　土師器片87点，須恵器片8点、軽石1点が出土している。第72図1・2の皿は，P_3上面から2点が重なり，横位の状態で出土している。

所見　本跡は，住居跡として調査を進めたが，方形竪穴状遺構と思われる。本跡の床面に灰の広がりが認められたが，焼土は確認できず，火の使用は一時的なものであったと考えられる。また，北西壁中央に階段状の高まりを持つが，その下の床が踏み固められていることや，その位置から出入り口施設と考えられる。階段状の高まりから床にかけて幅約70cm，長さ1m，厚さ2～15cmの粘土塊が貼り付いた状態で認められたが，焼土及び炭化物が伴っていないことから竈等の施設とは考えられず，その性格は不明である。本跡の時期は，出土遺物から中世後半（15～16世紀）と思われる。

第37号住居跡（第73図）

位置　調査区の南西部，G3h_1区。

重複関係　本跡は，第41号住居跡に西コーナーを掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形　長軸4.57m，短軸4.29mの方形である。

主軸方向　N－44°－E

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

住居内土坑　1か所（P_5）。住居跡の中央に周囲の床よりも更に硬く締まった径1.29mの円形部分と，その中央に径20cmの円形，深さ38cmのピットを確認する。ピット　底部は軟らかく，遺物も見られない。硬化面はピット際まで続いており，円形の硬化面とその下の土坑とは大きさがほぼ一致する。覆土は4層からなり，人為堆積である。土層1は特に硬く締まっている。この土坑の性格は不明である。

土層解説

1　明　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量
2　明　褐　色　ローム小ブロック・橙色粘土粒子少量
3　明　褐　色　ローム小ブロック・凝灰岩小ブロック少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子・橙色粘土粒子・白色粘土粒子少量

床　平坦で，中央部は広範囲にわたって踏み固められており，更にその中央は特に硬く踏み固められている。

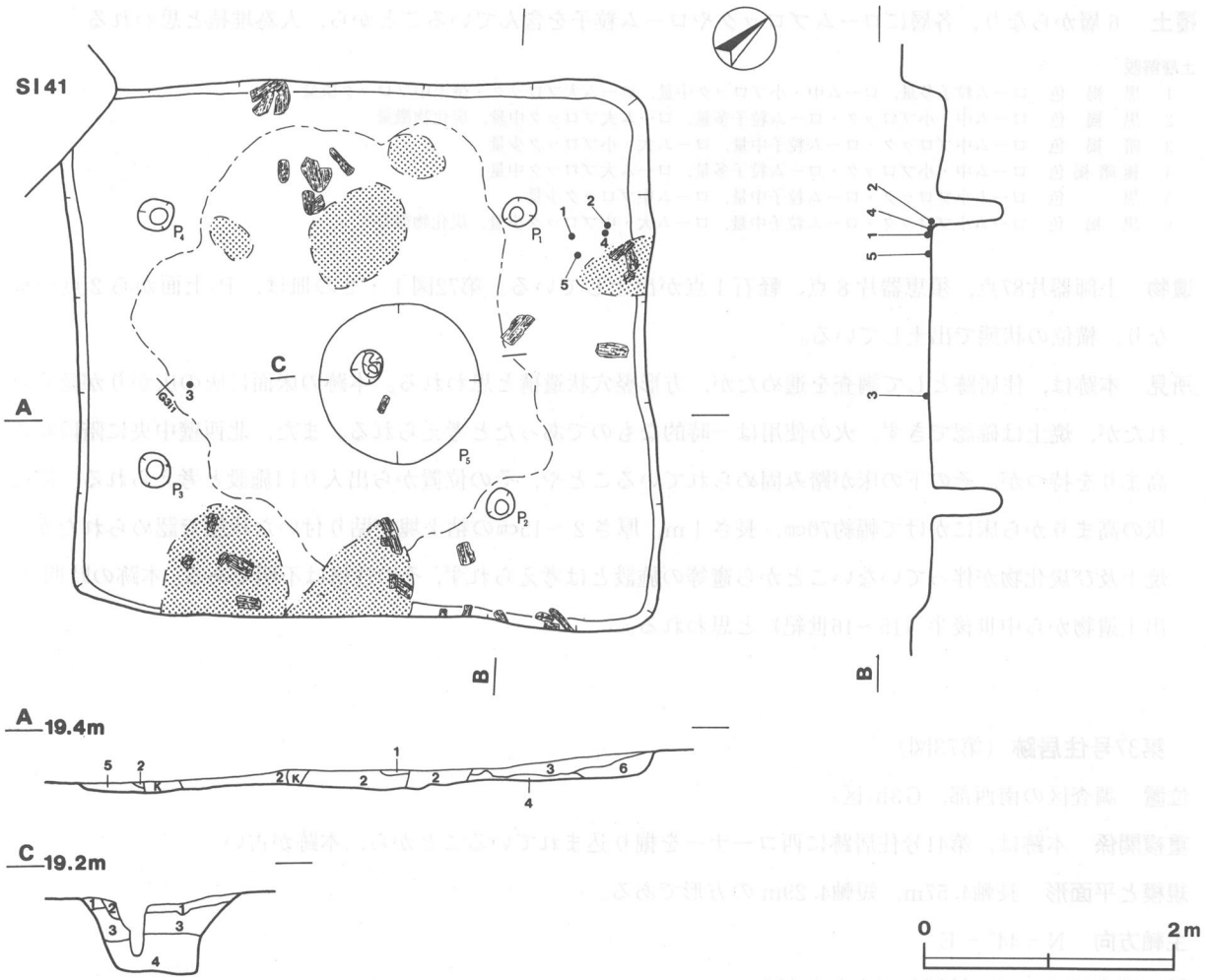
ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径24～28cmの不整円形，深さ20～58cmで，主柱穴と思われる。

竈　北西壁中央部に付設されていたものと推定される。廃絶後の風化が激しく，竈の構成材と思われる凝灰岩の切石とわずかな焼土の堆積を確認する。

覆土　6層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土中ブロック微量
2　黒　　色　焼土粒子・ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化物・ローム中・小ブロック中量
3　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子中量，炭化材・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量，焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物中量，焼土大ブロック少量
5　暗　褐　色　焼土小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中・小ブロック中量，焼土中ブロック少量
6　黒　褐　色　炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック中量，焼土中・小ブロック・ローム大ブロック少量

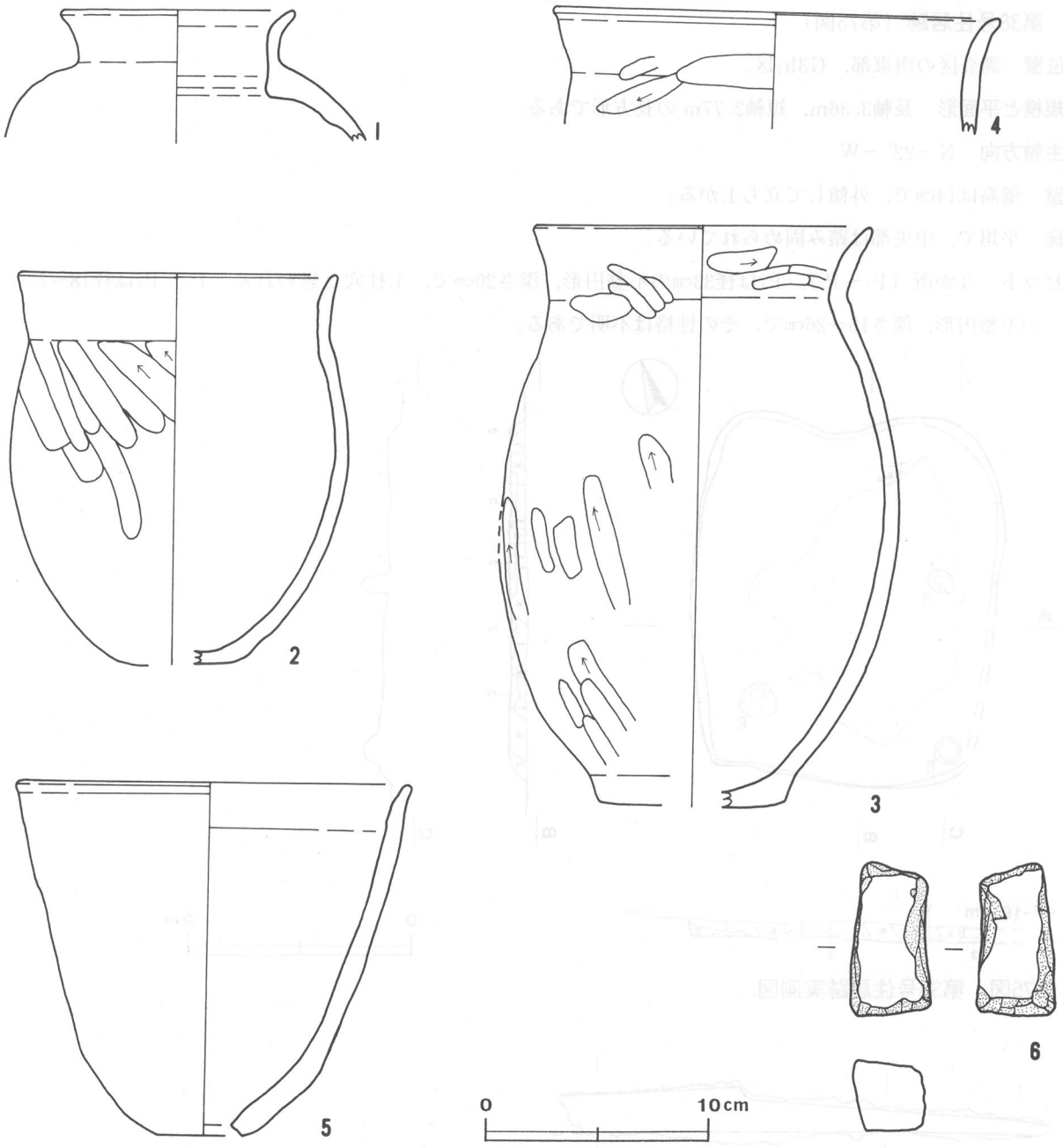


第73図　第37号住居跡実測図

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	甕 土師器	A 10.4 B (5.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立して立ち上がり，端部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	石英・パミス・スコリア・雲母 鈍い赤褐色 普通	P83 20% 床面 PL60
2	小形甕 土師器	A 13.9 B 17.7 C [5.0]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半斜位のヘラ削り，下半縦位のヘラ削り。体部内面ヘラ削り。	長石・石英 赤色 普通	P84 30% 床面 PL60
3	甕 土師器	A 18.0 B 14.9 C [3.7]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，中位に最大径を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後，一部ヘラ削り。体部外面縦位のヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・礫 鈍い赤褐色 普通	P86 60% 床面 PL60
4	甕 土師器	A 19.8 B (5.3)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。一部ヘラ削り。	石英・パミス 赤褐色 普通	P85 5% 床面
5	甑 土師器	A 18.0 B 14.9 C 3.7	単孔式。体部は外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後丁寧な磨き，外面ヘラ削り。	パミス・礫 赤色 普通	P87 70% 床面 PL60

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第74図6	砥石	6.9	3.1	3.2	−	119.0	安山岩	覆土中	Q6 PL119



第74図　第37号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片323点，弥生土器片１点が出土している。第74図１の甕，２の小形甕，４の甕及び５の甑は北東壁際の床面から潰れた状態で，３の甕は南西壁近くの床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，多量の炭化材及び焼土が床面全域に広がっていることから焼失家屋と思われる。また，中央の硬化面の円形部分が極めて硬く締まっている点，その下にロームを含む土坑がある点，中心に小ピットがある点等単に住居跡と考えるには疑問な点が残るが，その性格は不明である。本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）の住居跡，あるいはその他の性格を持つ建物跡と考えられる。

第38号住居跡（第75図）

位置　調査区の南東部，G3h$_2$区。

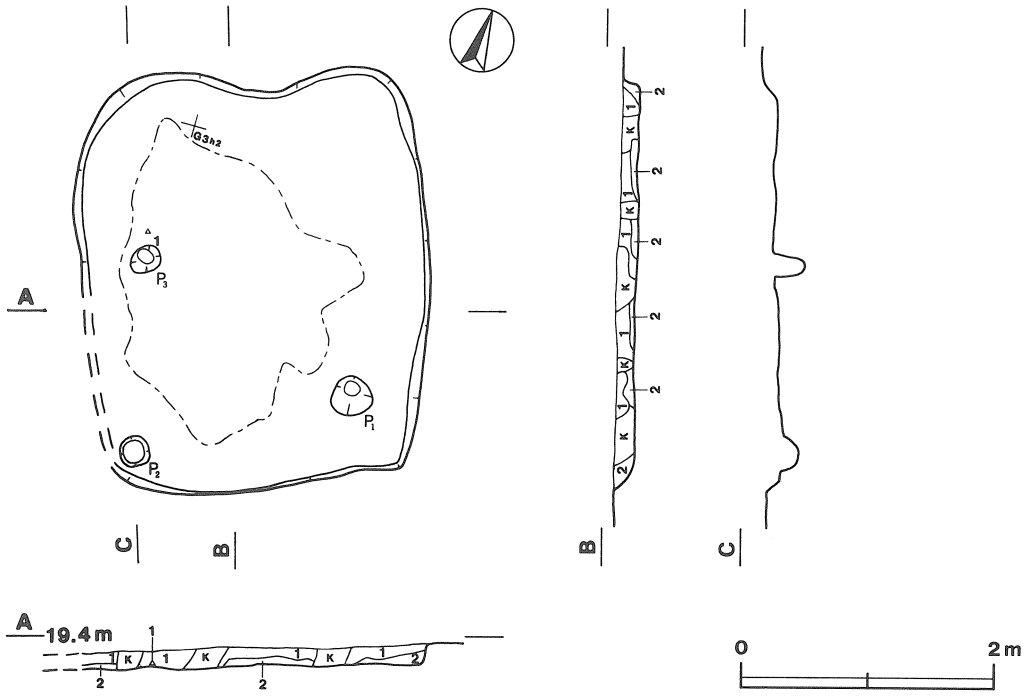
規模と平面形　長軸3.36m，短軸2.77mの長方形である。

主軸方向　N－22°－W

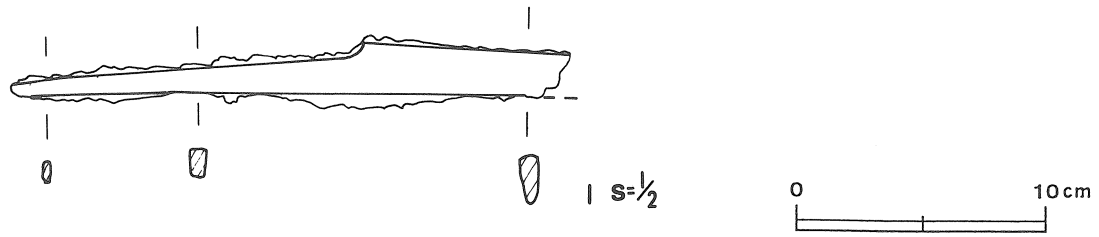
壁　壁高は14cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P$_1$～P$_3$）。P$_1$は径33cmの不整円形，深さ20cmで，主柱穴と思われる。P$_2$，P$_3$は径18～23cmの不整円形，深さ15～26cmで，その性格は不明である。



第75図　第38号住居跡実測図



第76図　第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第76図1	刀子	(14.8)	1.9	0.1～0.4	－	(28.6)	床面	M1　PL123

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム中ブロック中量，焼土中ブロック・ローム粒子・ローム大ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，焼土粒子少量

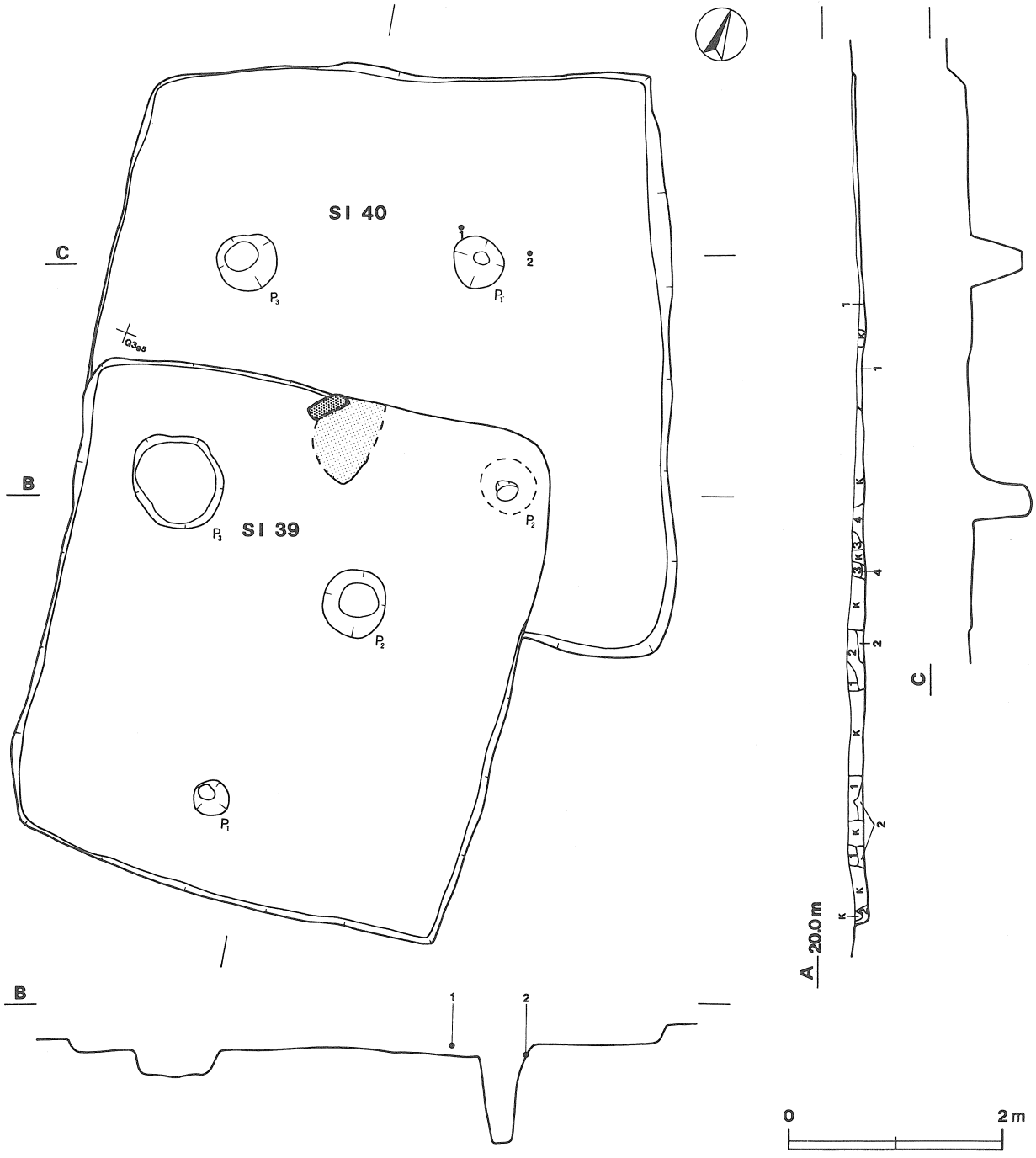
遺物　土師器片30点が出土している。第76図1の刀子は床面に15㎝程垂直に刺さった状態で出土している。

所見　本跡は，遺物が少なく細片が多い上に炉や竈も確認できないため，時期の特定が難しいが，遺構の形態や出土遺物から古墳時代頃と考えられる。

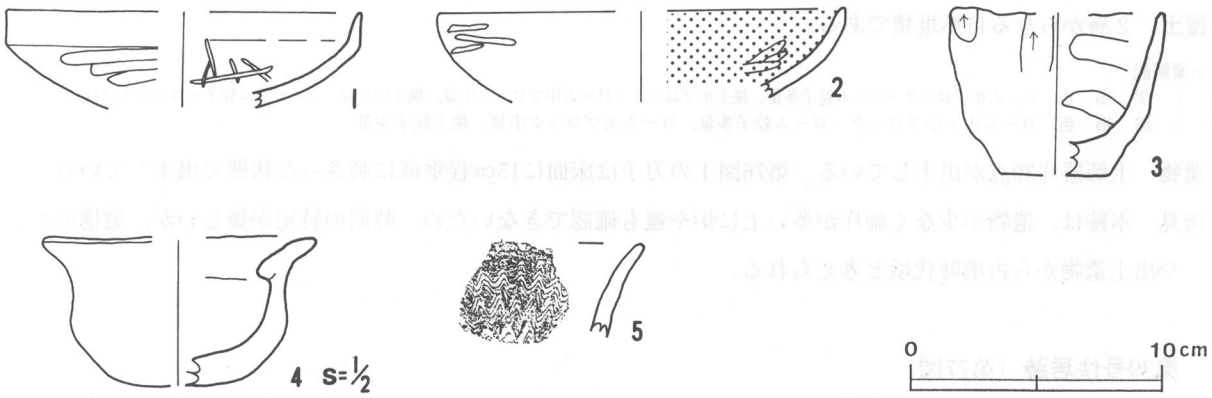
第39号住居跡（第77図）

位置　調査区の南西部，G3g$_5$区。

重複関係　本跡は，第40号住居跡の南部を掘り込んでおり，本跡が新しい。



第77図　第39・40号住居跡実測図



第78図　第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	坏 土師器	A［14.2］ B（3.8）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部との境に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	パミス 暗赤褐色 普通	P88 10% 覆土中
2	坏 土師器	A［16.0］ B（3.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ後，外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内面赤彩。	長石・礫 赤褐色 普通	P89 5% 覆土中
3	手捏土器 土師器	A［8.6］ B 6.5 C［4.2］	底部から口縁部片。平底。突出した底部から，体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・礫 明赤褐色 普通	P92 30% 覆土中
4	手捏土器 土師器	A［5.3］ B 2.9 C［4.8］	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部で外反する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石 橙色 普通	P93 40% 覆土中

第78図5は須恵器壺の口縁部片で，外面に櫛描波状文が施されている。

規模と平面形　長軸4.85m，短軸4.41mの長方形である。

主軸方向　N－10°－W

壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径34cmの円形，深さ31cmで，出入り口ピットと思われる。P_2は径60cm，深さ36cm，P_3は径42cmの不整楕円形，深さ13cmで，いずれも撹乱の可能性がある。

竈　北西壁中央部に付設されている。耕作による撹乱のため遺存状態が悪く，凝灰岩の切石が袖の位置に立てられているだけで，規模及び構造等は不明である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム中ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量

遺物　土師器片178点，須恵器片6点，縄文土器片1点及び陶器片1点が出土している。第78図1，2の坏，3，4の手捏土器はすべて覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半頃）と思われる。

第40号住居跡（第77図）

位置　調査区の南東部，G3f$_5$区。

重複関係　本跡は，第39号住居跡に南東部を掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　長軸5.41m，短軸4.72mの長方形である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は15cmで，外傾して立ち上がる。

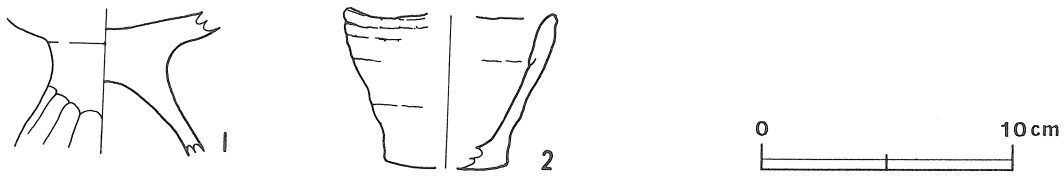
床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　3か所（P$_1$～P$_3$）。P$_1$～P$_3$は径46～57cmの不整円形，深さ49～82cmで，主柱穴と思われる。

覆土　1層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量



第79図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 1	高坏 土師器	B（5.8） E（4.0）	坏底部から脚部片。脚部は「ハ」の字状に開き，坏部外面下部に緩い段を持つ。	坏部内・外面磨滅。脚部内・外面ヘラ削り。	石英 暗赤褐色 普通	P90 20% 床面 PL60
2	手捏土器 土師器	A［8.1］ B　6.3 C［4.8］	底部から口縁部片。平底。体部は突出した底部から内彎気味に立ち上がる。	内・外面ナデ。輪積み痕を残す。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P91 40% 床面 PL60

遺物　土師器片54点が出土している。第79図1の高坏脚部及び2の手捏土器は北東コーナー付近の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第41号住居跡（第80図）

位置　調査区の南東部，G2i$_0$区。

重複関係　本跡は，第37号住居跡の南西部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸2.84m，短軸2.55mの方形である。

主軸方向　N－3°－W

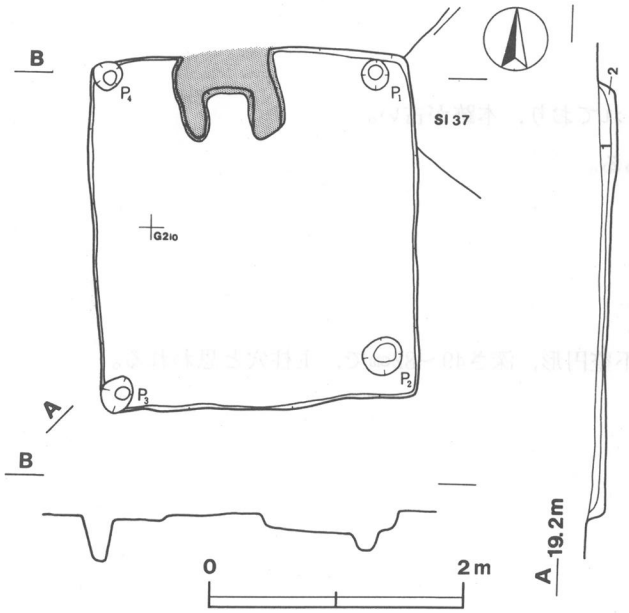
壁　壁高は6～15cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_4$は径21～31cmの不整円形，深さ10～33cmで，主柱穴と思われる。

竈　北壁中央南寄りに付設されており，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部に白色粘土が広がる程度である。

覆土　2層からなる自然堆積である。



第80図　第41号住居跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック中量，焼土大・小ブロック・ローム大ブロック少量，炭化物微量
2　黒　褐　色　焼土中・小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量

遺物　土師器片３点，須恵器片１点が出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少なく，しかも細片で時期を決める遺物に欠けるため，詳細な時期は不明であるが，第37号住居跡との重複関係から，古墳時代後期以降と思われる。

第42号住居跡（第81図）

位置　調査区の南西部，G3g_3区。

重複関係　本跡は，第43号住居跡及び第59号土坑に掘り込まれており，第43号住居跡，第59号土坑より古い。

規模と平面形　長軸5.76m，短軸5.34mの長方形である。

主軸方向　N－21°－W

壁　壁高は18cmで，外傾して立ち上がる。

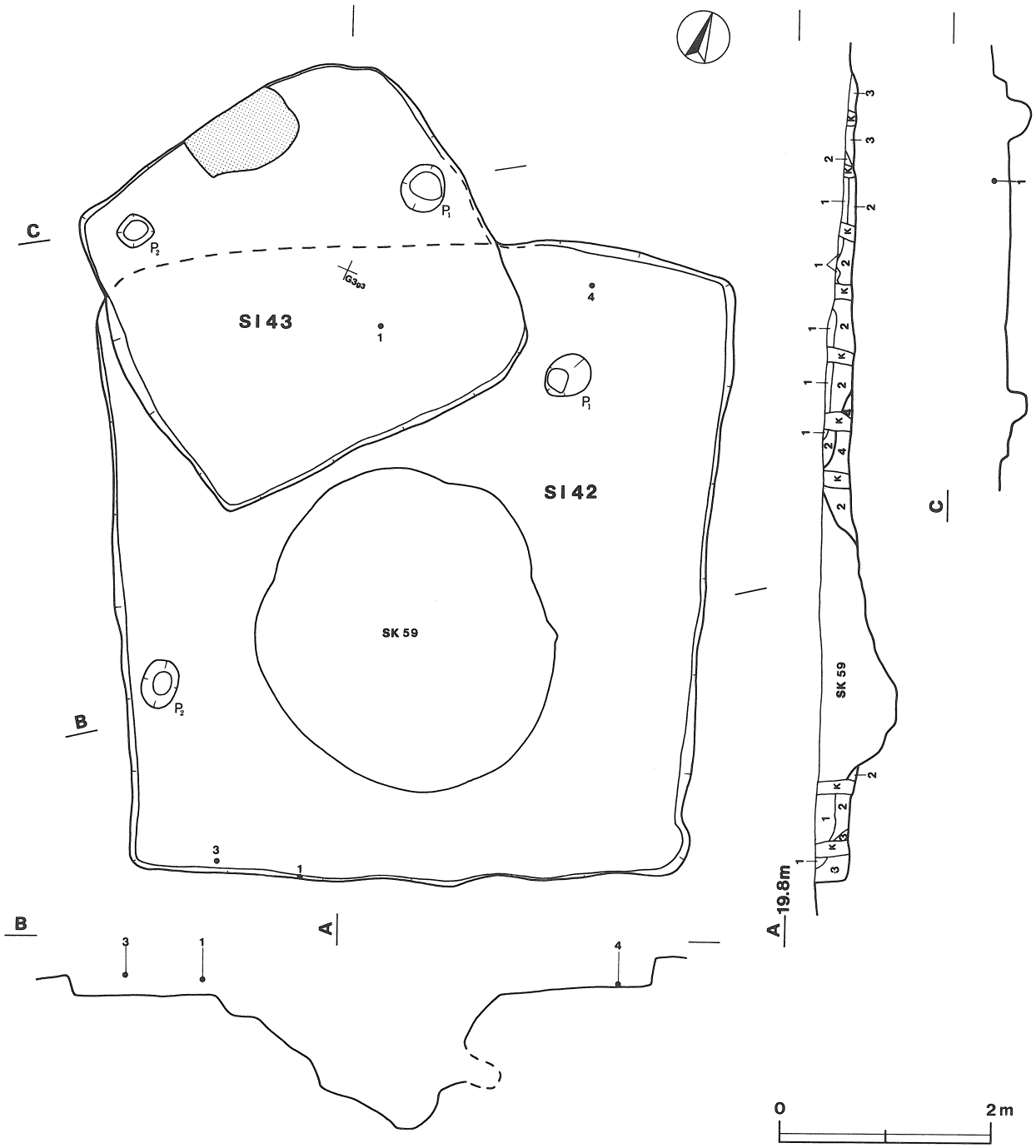
床　平坦で，全体的に軟らかい。

ピット　２か所（P_1～P_2）。P_1は径46cmの円形，深さ31cm，P_2は径29cmの円形，深さ29cmで，主柱穴と思われる。

覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

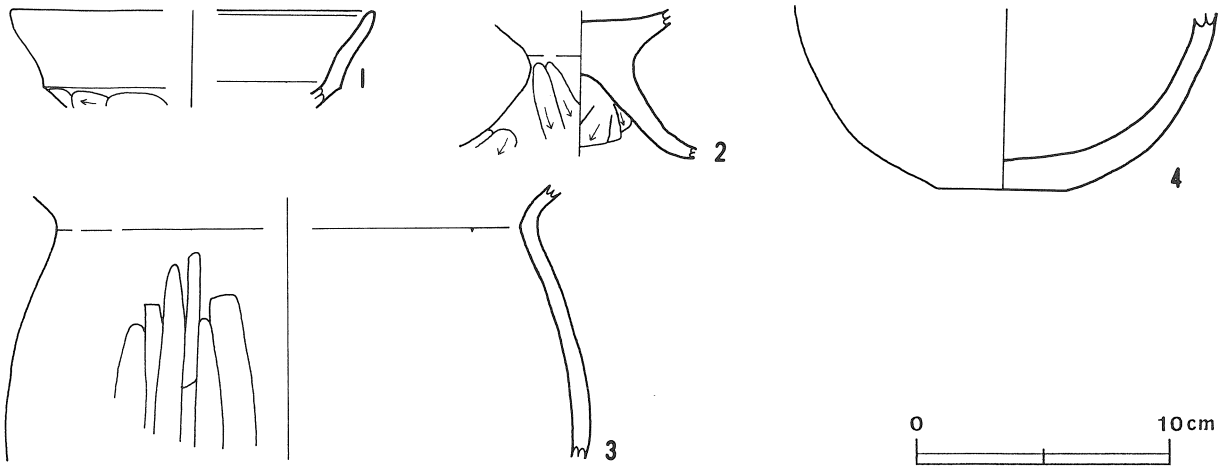
1　明黄褐色　ローム中・小ブロック多量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム大・小ブロック微量



第81図　第42・43号住居跡実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	坏 土師器	A [14.4] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下部ヘラ削り。	長石・石英 赤色 普通	P94 10% 覆土中層
2	高坏 土師器	B (5.9)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内・外面縦位のヘラ削り。	石英・雲母 橙色 普通	P95 30% 覆土中 PL60
3	甕 土師器	B (10.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，上位で内傾し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面縦位のヘラ削り。	長石・砂粒 橙色 普通	P96 5% 覆土中層
4	甕 土師器	B (7.2) C [5.3]	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り。	石英・雲母・パミス・礫 橙色 普通	P97 5% 床面



第82図　第42号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片229点，軽石１点が出土している。第82図１の坏は南西壁際覆土中層から，２の高坏は覆土中から，３の甕は南西壁際の覆土中層から，４の甕は西コーナーの床面から出土している。

所見　本跡は，遺物数が少なく，しかも細片が多いため時期を詳細に特定する事が難しいが，出土遺物や重複関係から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

第43号住居跡（第81図）

位置　調査区の南西部，G3g_2区。

重複関係　本跡は，第42号住居跡の北西部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　長軸3.68m，短軸3.50m の方形である。

主軸方向　N－51°－W

壁　壁高は７～13cmで，外傾して立ち上がる。

床　締まりがなく，遺存状態はよくない。

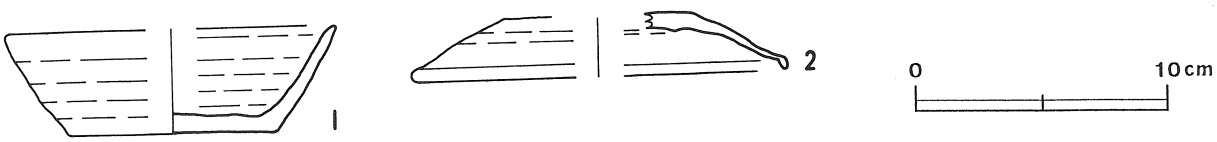
ピット　２か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径28～41cmの不整円形，深さ19～22cmで，形状や位置から見て主柱穴とするには疑問が残る。

竈　耕作による撹乱のため遺存状態は極めて悪い。北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土が一部残存するのみで，袖部や火床部等は残っていない。

覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック，焼土粒子少量，焼土大ブロック微量
3　黄　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
4　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量



第83図　第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	坏 須恵器	A [13.0] B 4.2 C 8.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，直線的に口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	石英・パミス 灰白色 普通	P98 60% 覆土下層 PL60
2	蓋 須恵器	A [14.5] B (2.5)	口縁部から天井部片。天井部は平坦で，口縁部端部は屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P99 40% 覆土中 PL60

遺物　土師器片１点，須恵器坏２点，軽石１点が出土している。中央部付近覆土下層から，２の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（８世紀後半～９世紀前半）と思われる。

第44号住居跡（第84図）

位置　調査区の南西部，G3j$_4$区。

規模と平面形　本跡は，その大部分が調査区外に延びており，その規模及び平面形は不明であるが，遺存する北西壁から推定すると，一辺6.95mの長方形あるいは方形であると思われる。

主軸方向　N－40°－W

壁　壁高は21cmで，外傾して立ち上がる。

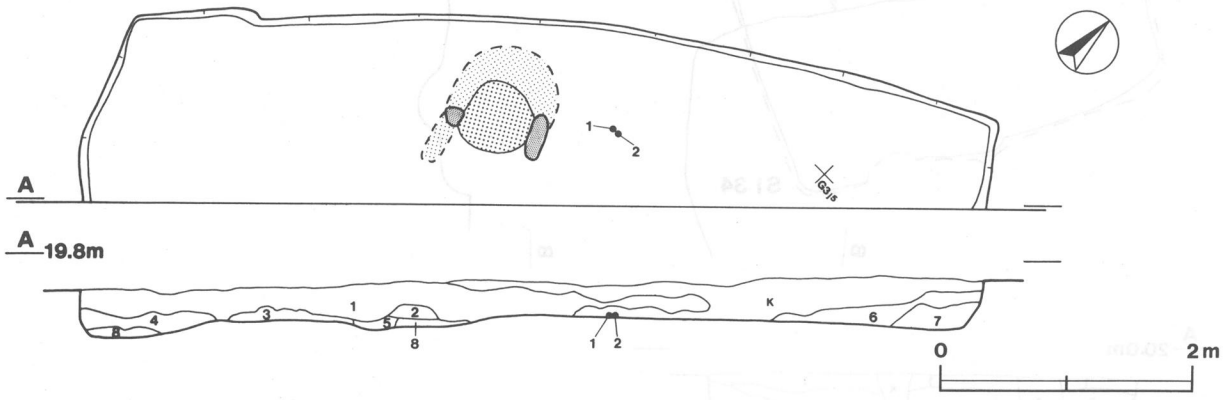
床　一部確認できた範囲は平坦で，軟らかである。

竈　北西壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は先端部のみが残っている。火床部は長径58cm，短径51cmの楕円形で，皿状に掘り窪められている。

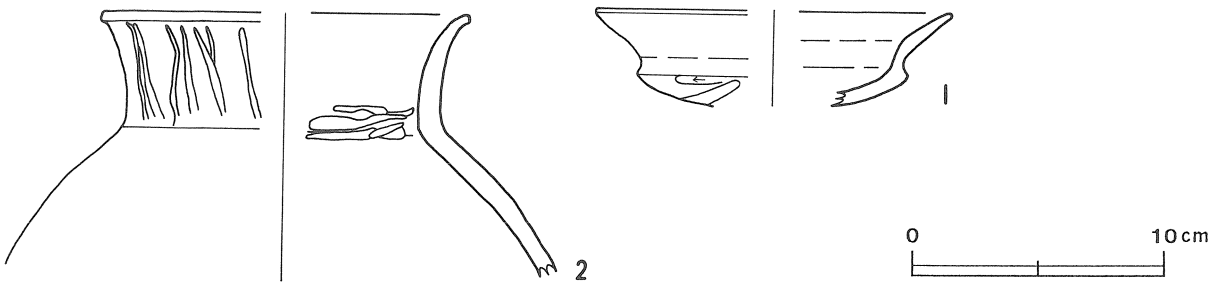
覆土　８層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック・粘土粒子中量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
8　明　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量



第84図　第44号住居跡実測図



第85図　第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第85図 1	坏 土師器	A［14.0］ B（ 3.8）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P100　10% 床面
2	甕 土師器	A［14.5］ B（10.1）	体部から口縁部片。体部は上位で内傾して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ後，一部ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ナデ。	礫・パミス・雲母 鈍い赤褐色 普通	P101　20% 床面 PL60

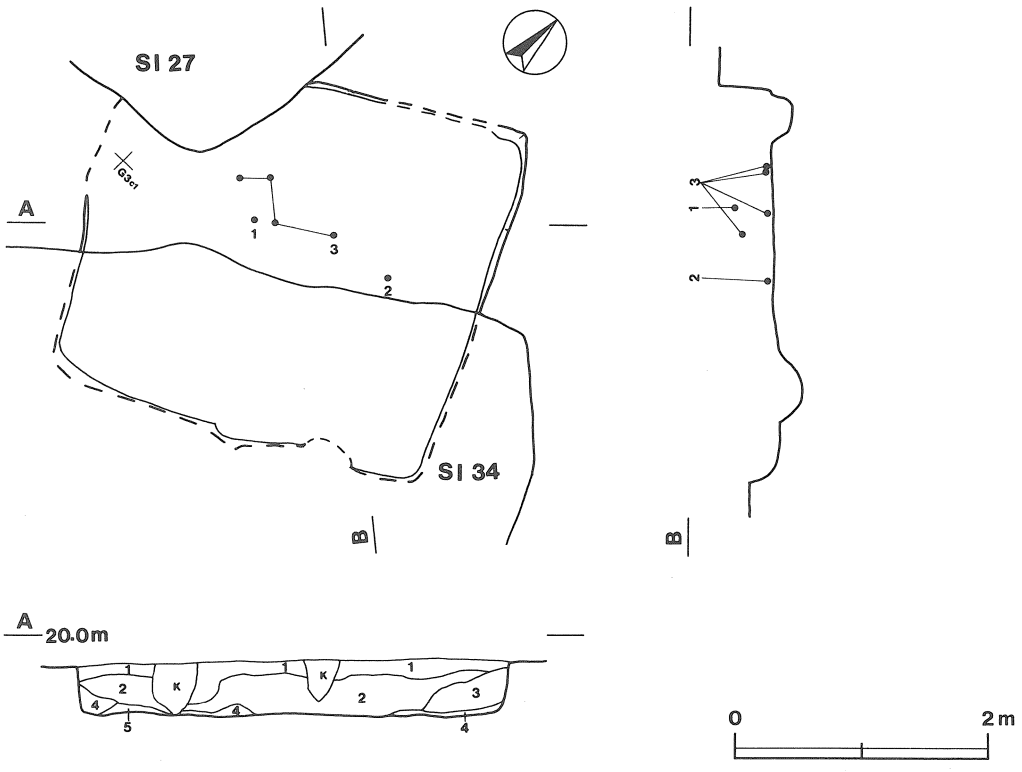
遺物　土師器片73点が出土している。第85図１の坏，２の甕は竈右袖横の床面から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

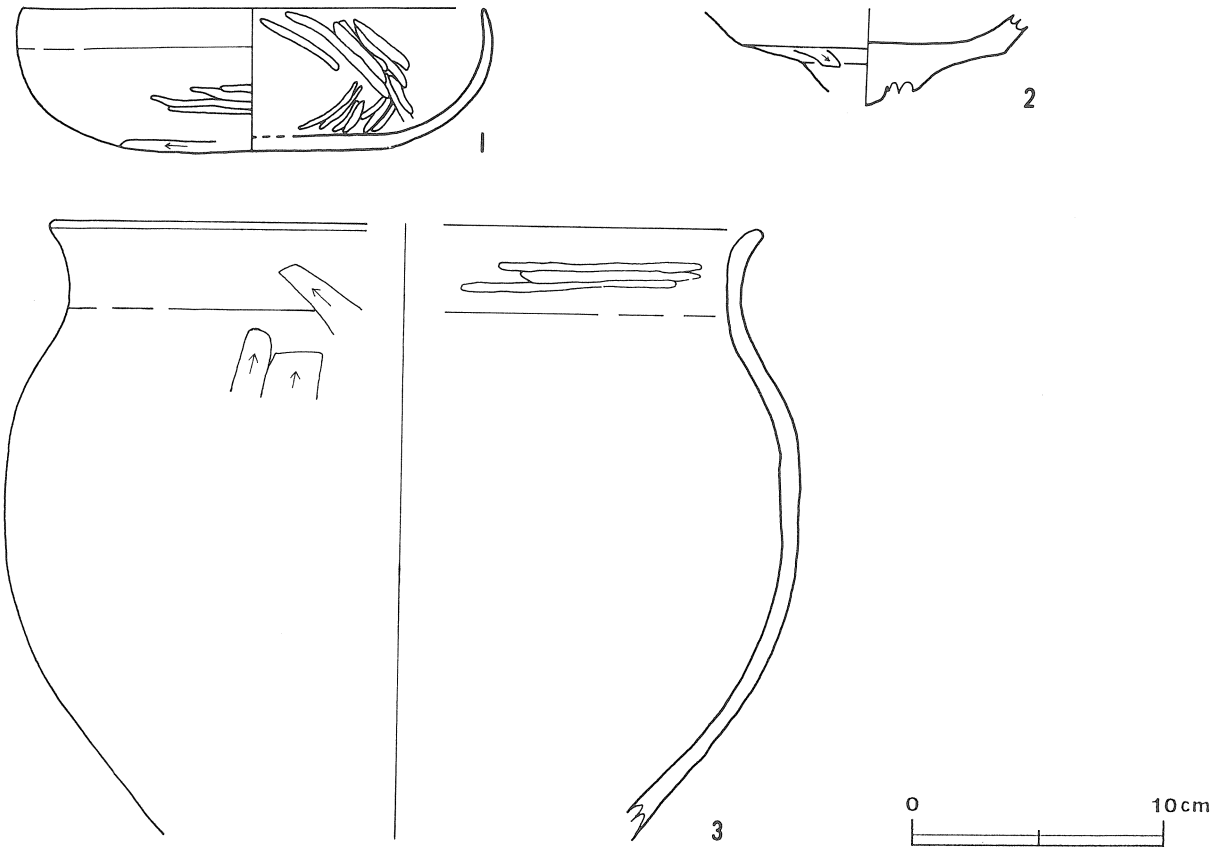
第45号住居跡（第86図）

位置　調査区の南西部，G3b$_1$区。

重複関係　本跡は，第27号住居跡に北西部を掘り込まれており，第34号住居跡が本跡の床の上に床を構築しているところから，第27号住居跡及び第34号住居跡より古い。



第86図　第45号住居跡実測図



第87図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	椀 土師器	A 18.3 B 15.1	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。	雲母・パミス・礫 黒褐色 普通	P102 95% 覆土中層 PL61
2	高坏 土師器	B (3.9)	坏底部片。坏部は下段に稜を持つ。	坏部内面ナデ，外面下位ヘラ削り。	石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P103 20% 床面
3	甕 土師器	A [27.6] B (24.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ後横位のヘラ磨き，外面横ナデ。体部ヘラ削り及びナデ。	長石・スコリア 黒褐色 普通	P104 40% 床面 PL60

規模と平面形　長軸3.26m，短軸2.99mの方形である。

主軸方向　N－63°－W

壁　壁高は44cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
5　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，灰少量

遺物　土師器片195点，須恵器片４点，弥生土器片４点が出土している。第87図１の椀は中央部覆土中層から，２の高坏は北東壁近くの床面から，３の甕は中央部の床面につぶれた状態で出土している。

所見　覆土最下層に焼土・灰を多量に含む層があるが，床面に火熱による硬化した面が見られず，炉とするには疑問が残る。規模も同時期のものと比べて小さいことから，住居以外の倉庫的な性格も想定できる。本跡は，出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）の住居跡あるいは方形竪穴状遺構と思われる。

第46号住居跡（第88図）

位置　調査区の南西部，G3c$_3$区。

規模と平面形　長軸4.65m，短軸3.29mの長方形である。

主軸方向　N－64°－W

壁　壁高は８～21cmで，外傾して立ち上がる。

床　耕作による撹乱のため締まりがなく，遺存状態はよくない。

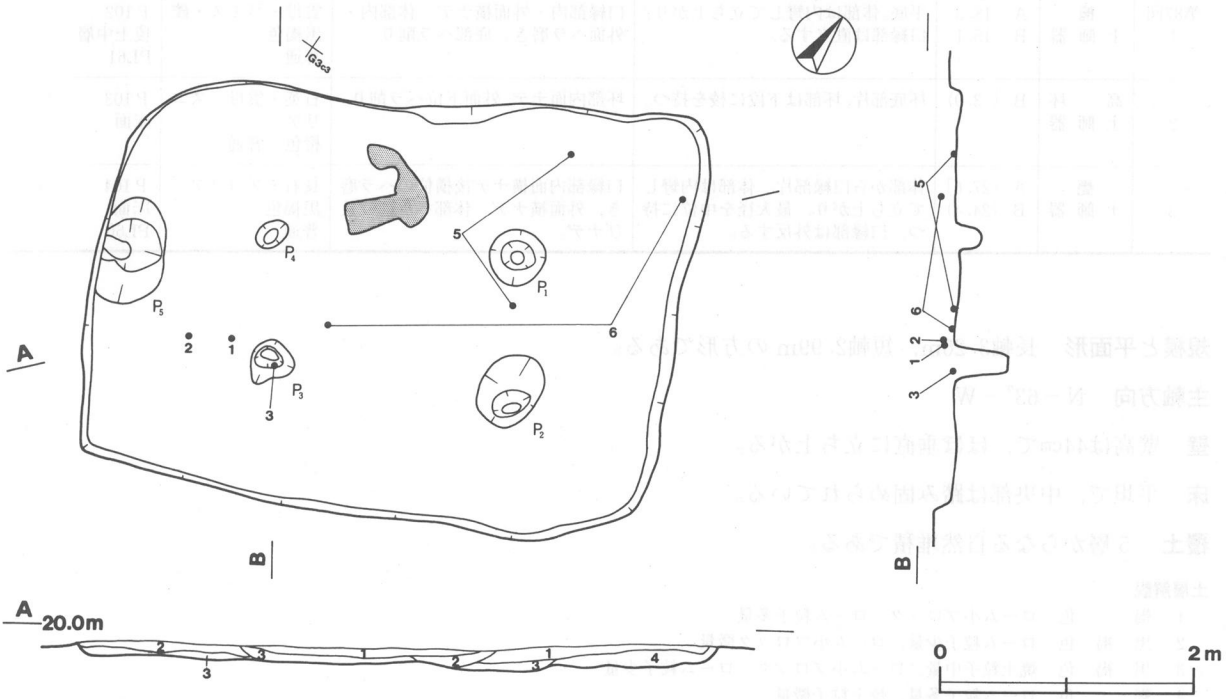
ピット　５か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径24～49cmの不整円形，深さ18～64cmで，主柱穴と思われる。P$_5$は長径78cm，短径50cmの楕円形，深さ48cmで，位置と形状から撹乱の可能性がある。

竈　北西壁中央部に付設されていたと思われる。砂粒まじりの白色粘土が袖部に一部残っているが，規模や形状等は遺存状態が悪いため不明である。

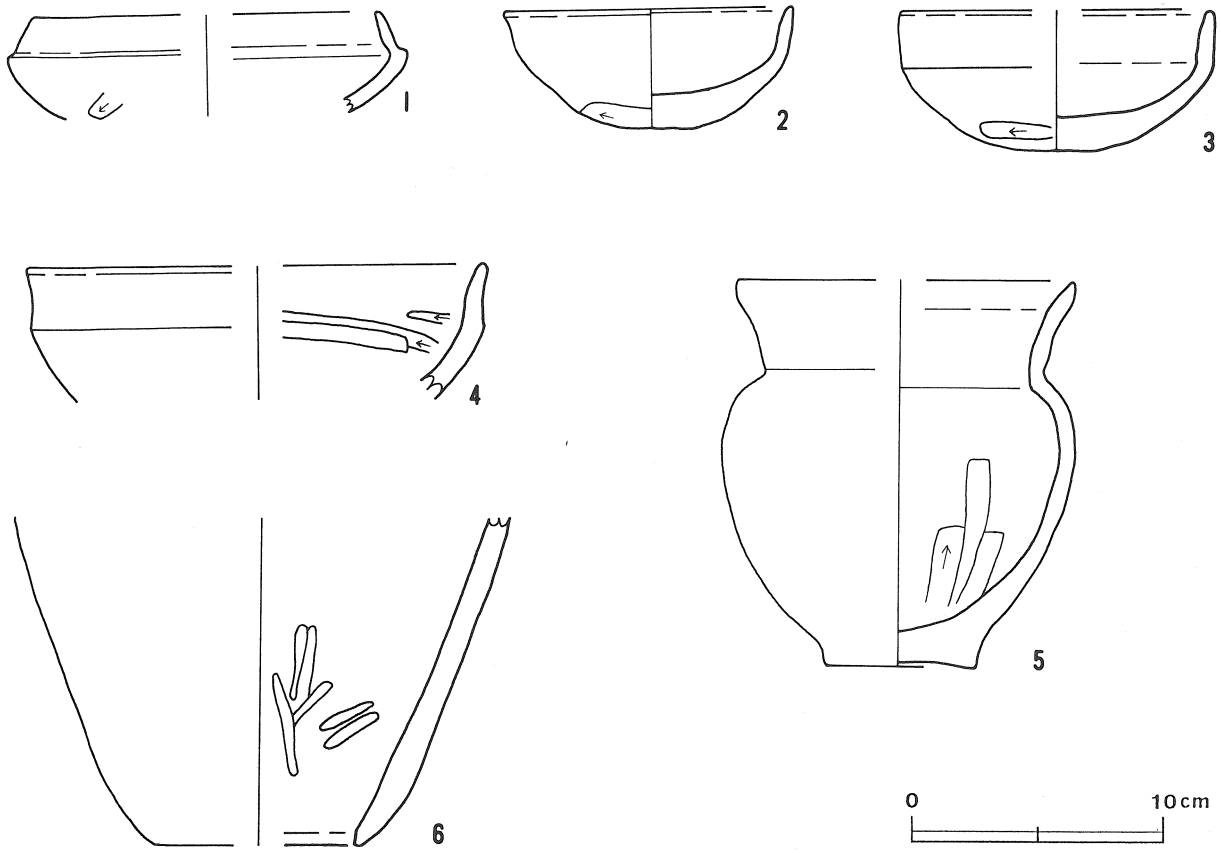
覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子中量
3　極暗褐色　ローム粒子多量
4　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量



第88図　第46号住居跡実測図



第89図　第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第89図 1	坏 土師器	A [14.8] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	雲母・石英・スコリア 橙色　普通	P105　20% 覆土下層 PL61
2	坏 土師器	A 11.4 B 4.8	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面粗いヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア・礫 明赤褐色　普通	P107　60% 覆土中 PL61
3	坏 土師器	A [12.1] B 5.6 C 5.8	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面ヘラ削り後ナデ，外面粗いナデ，輪積み痕を残す。底部ヘラ削り調整。	長石・石英・スコリア・礫 鈍い褐色　普通	P108　60% 覆土下層 PL61
4	椀 土師器	A [17.9] B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境ににぶい稜を持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・長石 橙色 普通	P106　10% 覆土中 PL61
5	甕 土師器	A [13.5] B 15.3 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は突出した底部から内彎して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面縦位のヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス 赤色 普通	P109　70% 床面 PL61
6	甑 土師器	B (13.0) C [8.2]	底部から体部片。無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。孔内側ヘラ削り。	雲母・石英・パミス・礫 黄橙色　普通	P110　25% 床面 PL61

遺物　土師器片227点，弥生土器片１点が出土している。第89図１の坏，３の坏は南コーナーの覆土下層から，２の坏及び４の椀は覆土中から，５の甕は北コーナー床面に逆位の状態で，６の甑は床面から散在した状態でそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，坏類が覆土中や覆土下層の出土遺物で，時期にも隔たりがあり，床面から出土したのは５の甕だけのため，詳細な時期は不明であるが，古墳時代後期（６世紀後半頃）と思われる。

第47号住居跡（第90図）

位置　調査区の南西部，F2g$_0$区。

規模と平面形　本跡は，西半分が調査区外に延びているため規模及び平面形は不明であるが，遺存する北東壁を一辺として推定すると，一辺5.29mの方形あるいは長方形と思われる。

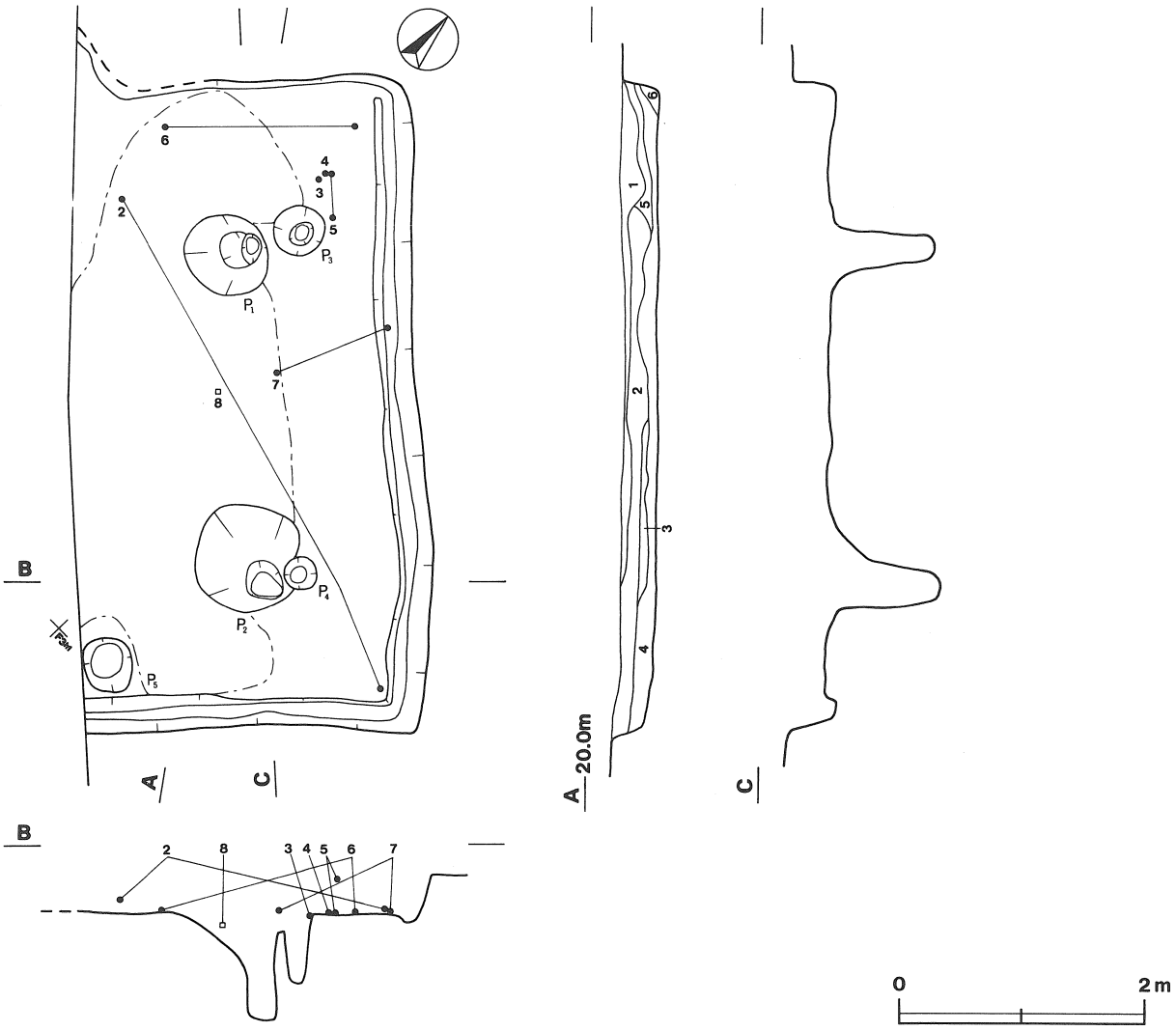
主軸方向　N－49°－W

壁　壁高は28cmで，外傾して立ち上がる。

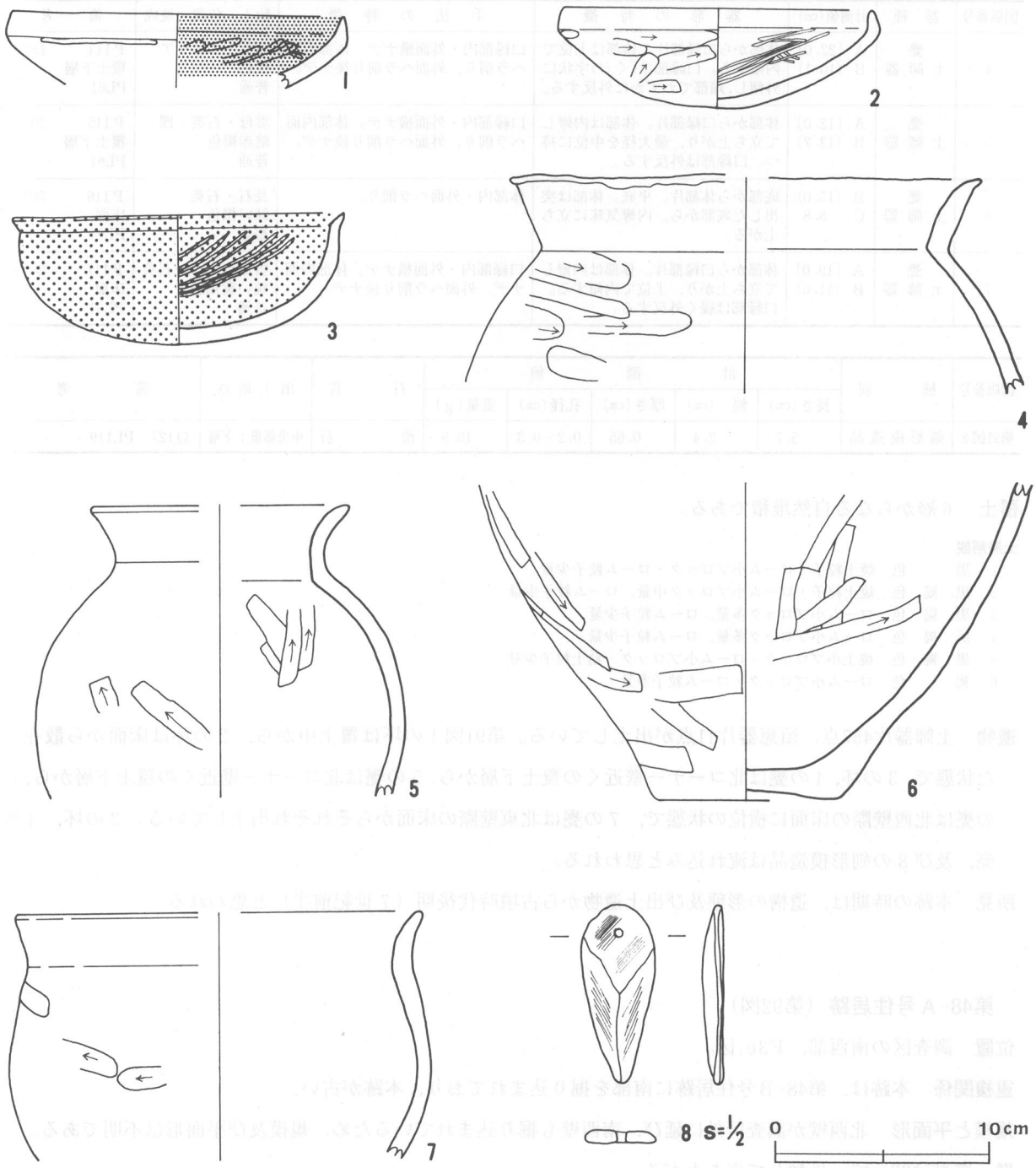
壁溝　確認された壁のうち，北東壁から南東壁まで壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約18cm，下幅約8cm，深さ約6cm，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$，P$_2$は径68～72cmの不整円形，深さ86～92cmで，主柱穴と思われる。P$_3$，P$_4$は径27～42cm，深さ36～58cmで，補助柱穴と思われる。P$_5$は径42cmの不整円形で，出入り口ピットと思われる。



第90図　第47号住居跡実測図



第91図　第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	坏 土師器	A 15.4 B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。口縁部及び体部内面黒色処理。	雲母・スコリア 鈍い黄橙色 普通	P111　30% 覆土中 PL61
2	坏 土師器	A 14.4 B 4.7	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・礫 鈍い橙色 普通	P112　70% 床面 PL61
3	坏 土師器	A 15.4 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部で外反する。内面に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	長石・砂粒 赤色 普通	P113　100% 覆土下層 PL61

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 土師器	A［22.0］ B（10.1）	体部から口縁部片。体部は上位で内傾する。口縁部は「く」の字状に外傾し，端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P114　15% 覆土下層 PL61
5	甕 土師器	A［12.0］ B（13.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・石英・礫 暗赤褐色 普通	P115　30% 覆土下層 PL61
6	甕 土師器	B（15.0） C　8.8	底部から体部片。平底。体部は突出した底部から，内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P116　50% 床面 PL61
7	甕 土師器	A［19.0］ B（11.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，上位で内傾する。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・石英 鈍い黄褐色 普通	P117　20% 床面 PL61

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第91図8	剣形模造品	5.7	2.4	0.65	0.2～0.3	10.9	滑石	中央部覆土下層	Q127　PL119

覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
4　灰　褐　色　ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
5　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物　土師器片457点，須恵器片11点が出土している。第91図1の坏は覆土中から，2の坏は床面から散在した状態で，3の坏，4の甕は北コーナー壁近くの覆土下層から，5の甕は北コーナー壁近くの覆土下層から，6の甕は北西壁際の床面に横位の状態で，7の甕は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。3の坏，4の甕，及び8の剣形模造品は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。

第48-A号住居跡（第92図）

位置　調査区の南西部，F3e_1区。

重複関係　本跡は，第48-B号住居跡に南部を掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　北西壁が調査区外に延び，南西壁も掘り込まれているため，規模及び平面形は不明である。

壁　壁高は33cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のすべてに壁溝が巡っている。上幅約8cm，下幅約4cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

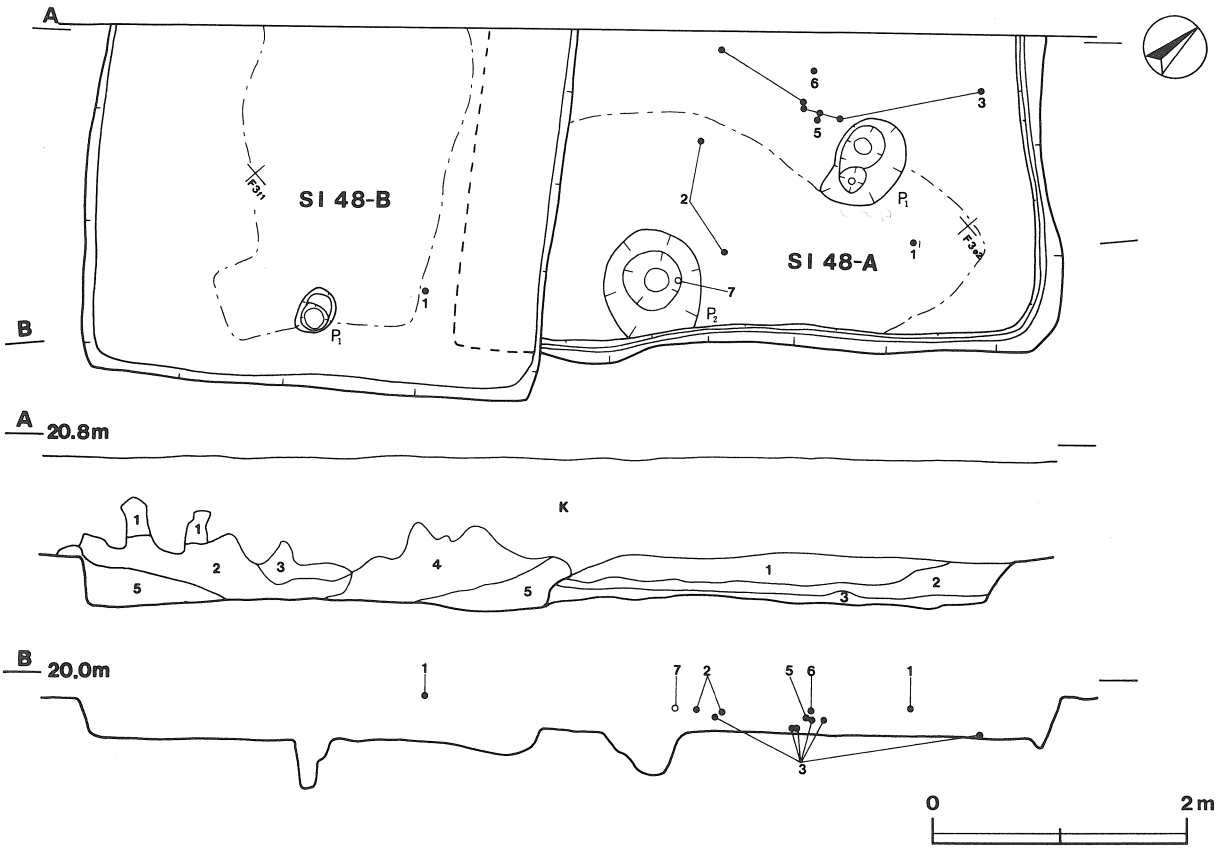
床　平坦で，南東壁近くが踏み固められている。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1は径55cmの不整円形で，主柱穴と思われる。P_2は径74cm，深さ35cmで，出入り口ピットと思われる。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土中ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子微量

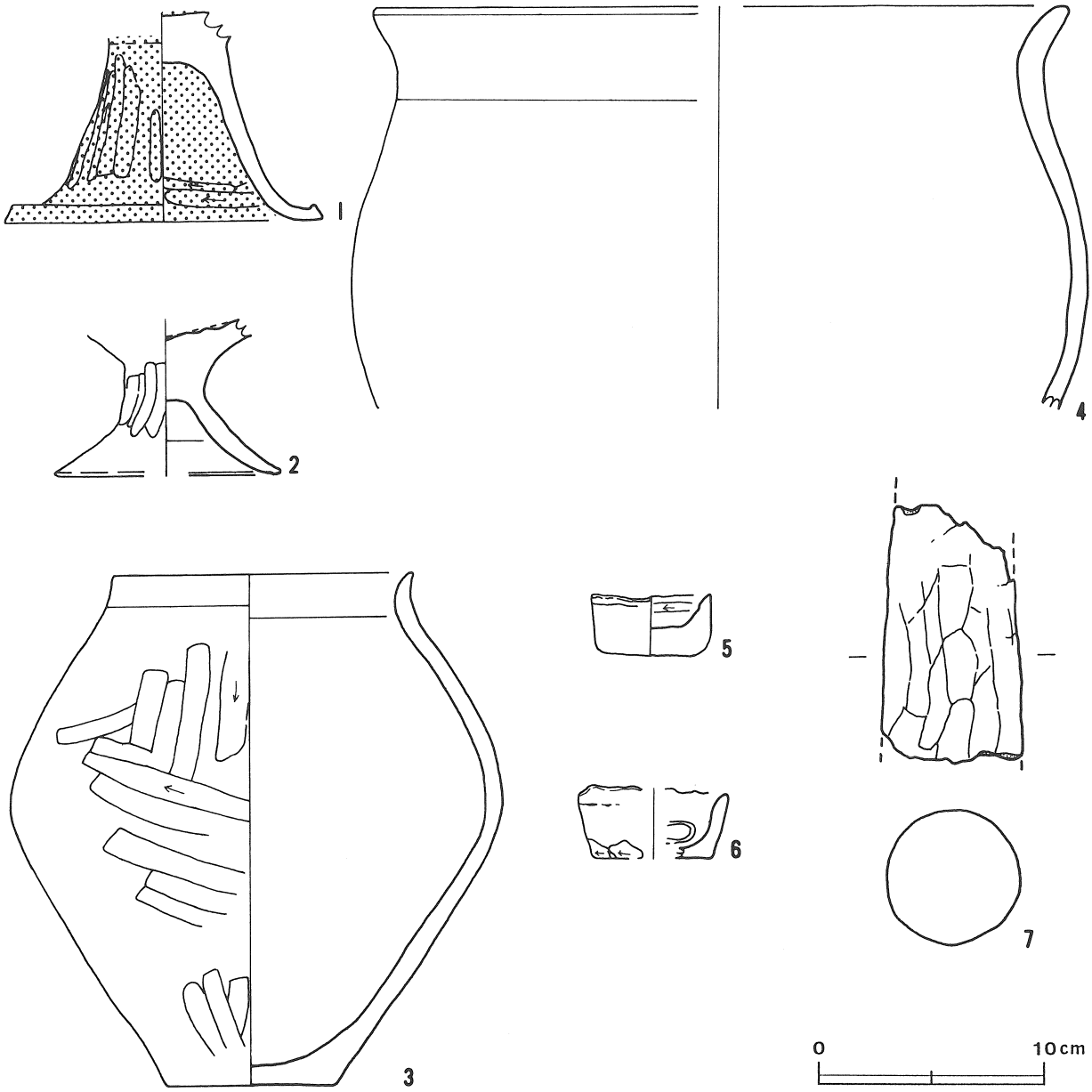


第92図　第48-A・48-B号住居跡実測図

第48-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 1	高坏 土師器	B (9.4) D 14.2 E 8.0	脚部片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開き，裾部は平坦で上位に隆帯を持つ。	脚部内面横位のヘラ削り，外面縦位のヘラ削り。裾部横ナデ。脚部内・外面赤彩。	石英・雲母・パミス・スコリア・長石 赤色 普通	P118 40% 覆土中層 PL61
2	高坏 土師器	B (7.0) D [10.0] E 4.9	脚部片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。	脚部内面ヘラ削り後ナデ，外面縦位のヘラ削り。裾部外面横ナデ。	長石・スコリア・石英 橙色 普通	P119 40% 覆土中層 PL61
3	甕 土師器	A 13.2 B 22.9 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位やや上に持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・砂粒 橙色 普通	P120 50% 覆土下層 PL61
4	甕 土師器	A [30.8] B (18.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，上位で内傾する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面剝離。	礫・パミス・雲母 石英 明黄褐色 普通	P121 15% 覆土中
5	手捏土器 土師器	A 5.4 B 2.9 C 4.6	平底。体部は突出した底部から直立して立ち上がる。	口縁部内面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母 鈍い黄褐色 普通	P122 90% 覆土中層 PL61
6	手捏土器 土師器	A [6.4] B 3.0 C [5.1]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。外面一部ヘラ削り。	石英 鈍い黄褐色 普通	P123 50% 覆土中層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第93図7	支脚	(11.6)	5.9	6.0	−	(338.8)	中央部覆土下層	DP10 PL117



第93図　第48−A号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片598点，須恵器片５点が出土している。第93図１の高坏脚は東コーナー覆土中層から，２の高坏は南東壁近くの覆土中層から，３の甕は散在した状態で覆土下層から，４の甕は覆土中から，５，６の手捏土器はP_1の周囲の覆土中層からそれぞれ出土している。１の高坏は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，床面からの出土遺物がないため詳細は不明であるが，古墳時代後期（６世紀頃）までには廃絶されていたと思われる。

第48−B号住居跡（第92図）

位置　調査区の南西部，F3e_1区。

重複関係　本跡は，第48−A号住居跡の南部を掘り込んでおり，本跡が新しい。

規模と平面形　遺存する南東壁から推定すると，一辺3.72mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N−44°−E

壁　壁高は31cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

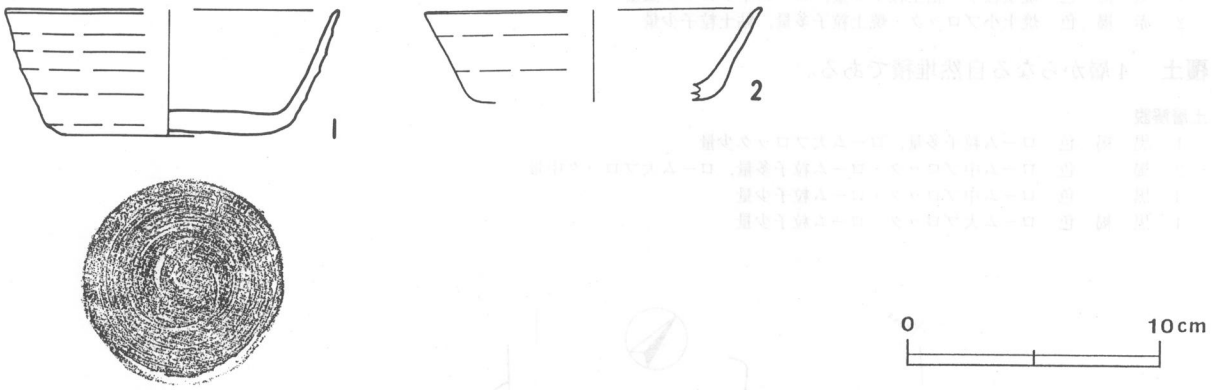
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　P_1は径28cm，深さ38cmの不整円形で，出入り口ピットと思われる。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　粘土中ブロック多量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土小ブロック少量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
5　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量



第94図　第48−B号住居跡出土遺物実測図

第48−B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 1	坏 須恵器	A［13.2］ B　5.0 C　8.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端ナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・礫・針状鉱物 灰色 普通	P124　40% 覆土中層 PL61
2	坏 須恵器	A［13.4］ B　3.6 C［9.0］	体部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部下端回転ヘラ削り。	パミス 褐灰色 普通	P125　10% 覆土中

遺物　土師器片297点，須恵器片10点が出土している。第94図1の須恵器坏は東コーナー近くの覆土中層から，2の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（8世紀後半）と思われる。

第49号住居跡（第95図）

位置　調査区の南西部，F3h_2区。

重複関係　本跡は，第50号住居跡に南東部を掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　遺存する北西壁から規模及び平面形を推定すると，一辺4.25mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－47°－W

壁　壁高は11cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北コーナーを除いて壁溝が巡っている。上幅約15cm，下幅約８cm，深さ約６cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，壁下以外の大部分が踏み固められている。P_1の周囲を方形に馬の背状の高まりが巡っている。床には北東壁，南東壁側から中央に向かって各１条の溝が構築されている。上幅約８cm，下幅約４cm，深さ約10cm，長さ90～140cmで，断面形はU字形である。

ピット　P_1は径45cmの円形，深さ98cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

炉　北西壁近くの中央から南寄りに位置し，長径90cm，短径61cmの楕円形で，床面を11cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。覆土は２層よりなる。

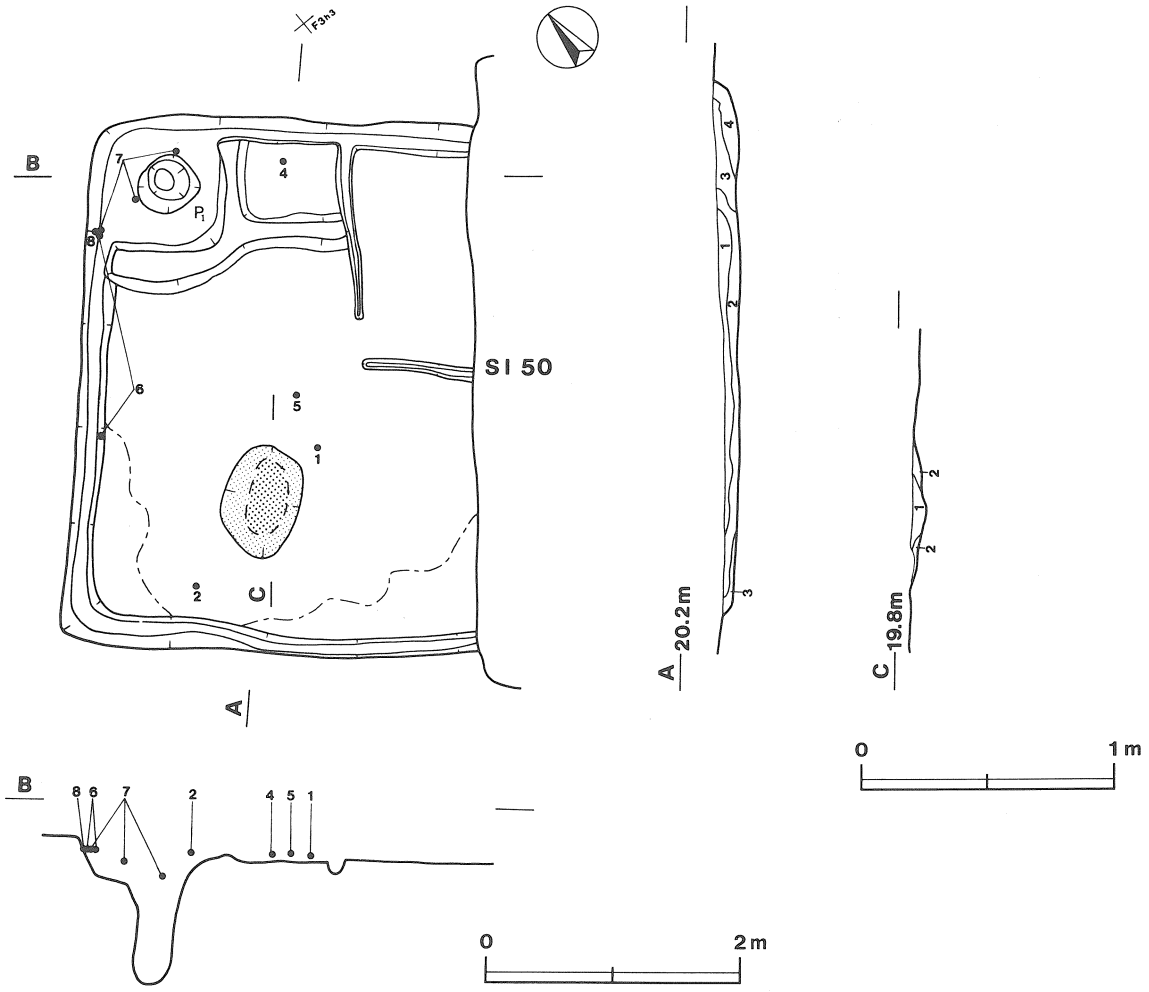
炉土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，ローム中ブロック微量
2　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子少量

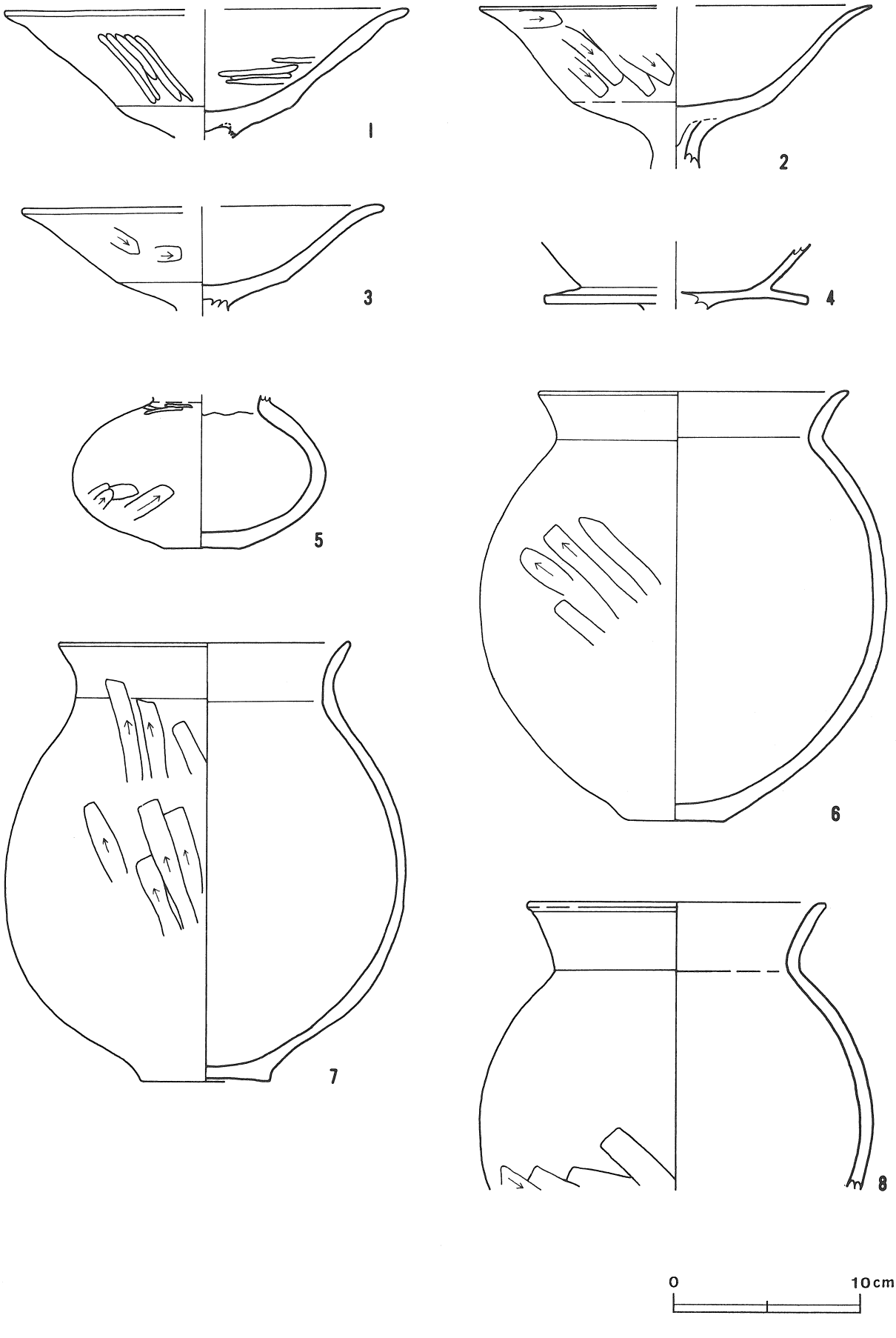
覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
2　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
3　黒　　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子少量



第95図　第49号住居跡実測図



第96図　第49号住居跡出土遺物実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	高坏 土師器	A [21.5] B (6.9)	坏部片。体部は下方に段を持ち，外傾しながら立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面縦位のヘラ磨き。	雲母・パミス・礫 明赤褐色 普通	P126 床面 PL62 40%
2	高坏 土師器	A [20.1] B (8.7) E (2.2)	坏部片。体部は下方に段を持ち，やや内彎気味に立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り，坏部内面剝離。	石英・スコリア・パミス・雲母・礫 橙色 普通	P127 床面 PL62 40%
3	高坏 土師器	A [19.2] B (5.7)	坏部片。体部は下方に稜を持ち，外傾しながら立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ナデ，外面横位のヘラ削り。	石英・長石・パミス・スコリア 橙色 普通	P128 覆土中 PL62 30%
4	高坏 土師器	B (3.1)	坏部片。坏部下位に横やや下方に突出する段を持つ。	坏部内面磨き。坏部下位の段下面放射状のヘラ磨き。	スコリア・石英・雲母・パミス・長石 黄橙色 普通	P129 床面 20%
5	坩 土師器	B (8.2) C 4.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。	口縁部と体部の境ヘラ磨き。体部外面上半ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英・雲母・パミス・礫 鈍い黄橙色 普通	P130 床面 PL62 90%
6	甕 土師器	A 16.5 B 22.9 C 5.25	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面斜位のヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・スコリア 灰褐色 普通	P131 床面 PL62 50%
7	甕 土師器	A 15.6 B 23.5 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面斜位のヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P132 床面 PL62 70%
8	甕 土師器	A 16.0 B (15.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外傾する。	ロ縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面斜位のヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア・石英・礫 鈍い褐色 普通	P133 床面 PL62 60%

遺物　土師器片412点，須恵器片２点が出土している。第96図１の高坏は炉の近くの床面から，２の高坏は西コーナー壁下の床面から，３の高坏は覆土中から，４の高坏はP_1近くの北東壁下床面から，５の坩は炉横の床面から，６の甕は北西壁下の床面から，７の甕はP_1近くの床面から，８の甕は北コーナー近くの床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀前半）と思われる。

第50号住居跡（第97図）

位置　調査区の南西部，F3i_3区。

重複関係　本跡は，第49号住居跡の南部と第52号住居跡の北部をそれぞれ掘り込んでいることから，第49号住居跡及び第52号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸5.04m，短軸4.83mの方形である。

主軸方向　N－49°－W

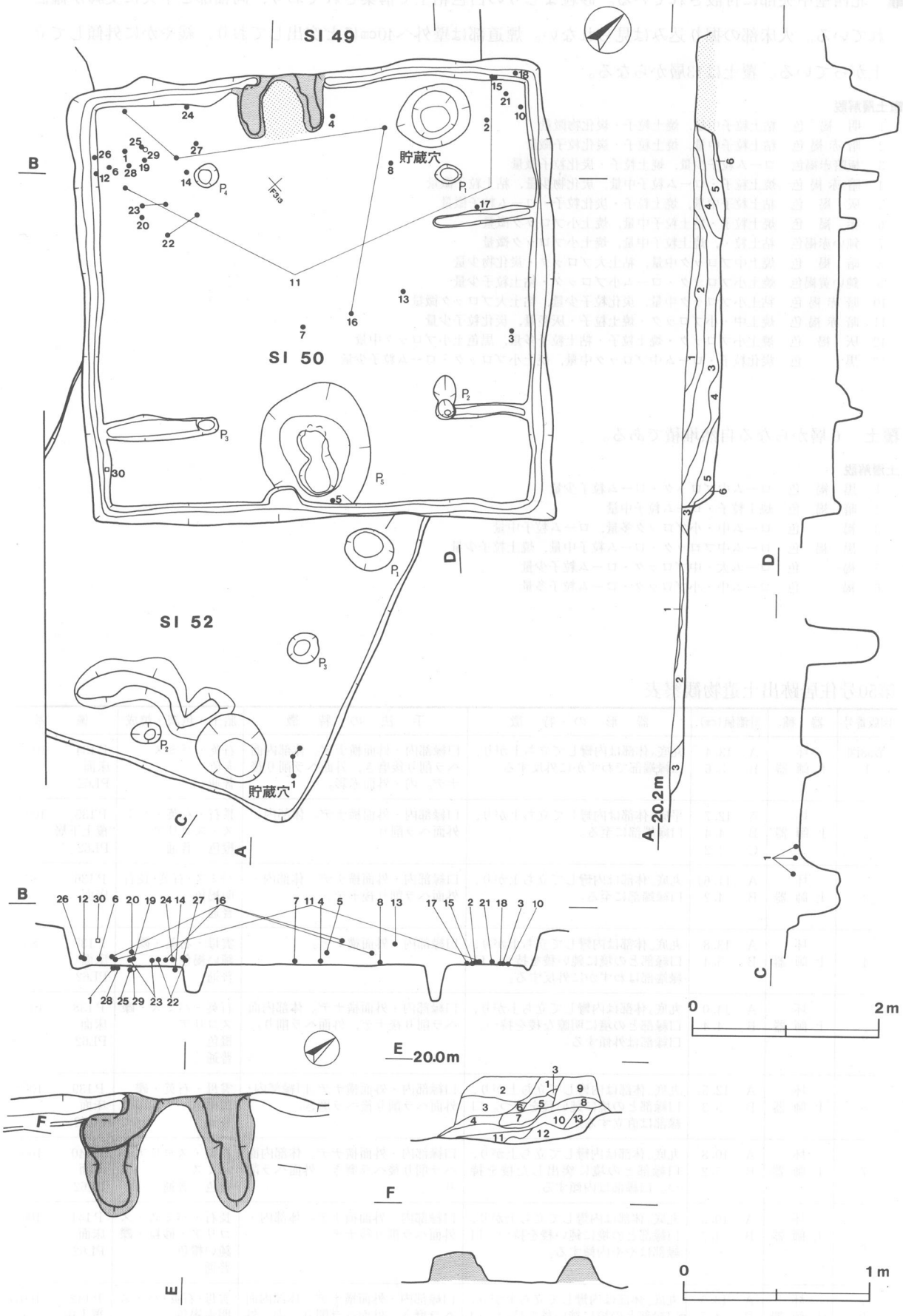
壁　壁高は37cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のすべてに壁溝が巡っている。上幅12cm，下幅８cm，深さ６cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径21～27cmの不整円形，深さ30～42cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径1.3m，短径1.18mの楕円形の浅い掘り込みの中に作られており，径31～41cmの円形，深さ８～15cmで，位置や規模から出入り口ピットと思われる。

貯蔵穴　北コーナーに付設され，長径78cm，短径68cmの楕円形で，深さは62cm，断面形は逆台形である。



第97図　第50・52号住居跡実測図

竈　北西壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されており，両袖部と中央に支脚が確認されている。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外へ40cmほど突出しており，緩やかに外傾して立ち上がっている。覆土は13層からなる。

竈土層解説

1　明　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子中量，炭化物少量，粘土粒子微量
5　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
6　赤　褐　色　焼土粒子・粘土粒子中量，焼土小ブロック微量
7　鈍い赤褐色　粘土粒・，焼土粒子中量，焼土小ブロック微量
8　暗　褐　色　焼土中ブロック中量，粘土大ブロック・炭化物少量
9　鈍い黄褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量
10　暗赤褐色　粘土小ブロック中量，炭化粒子少量，粘土大ブロック微量
11　暗赤褐色　焼土中・小ブロック・焼土粒子・灰多量，炭化粒子少量
12　灰　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，黒色土小ブロック中量
13　黒　　色　炭化粒子・ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・ローム粒子少量

覆土　6層からなる自然堆積である。

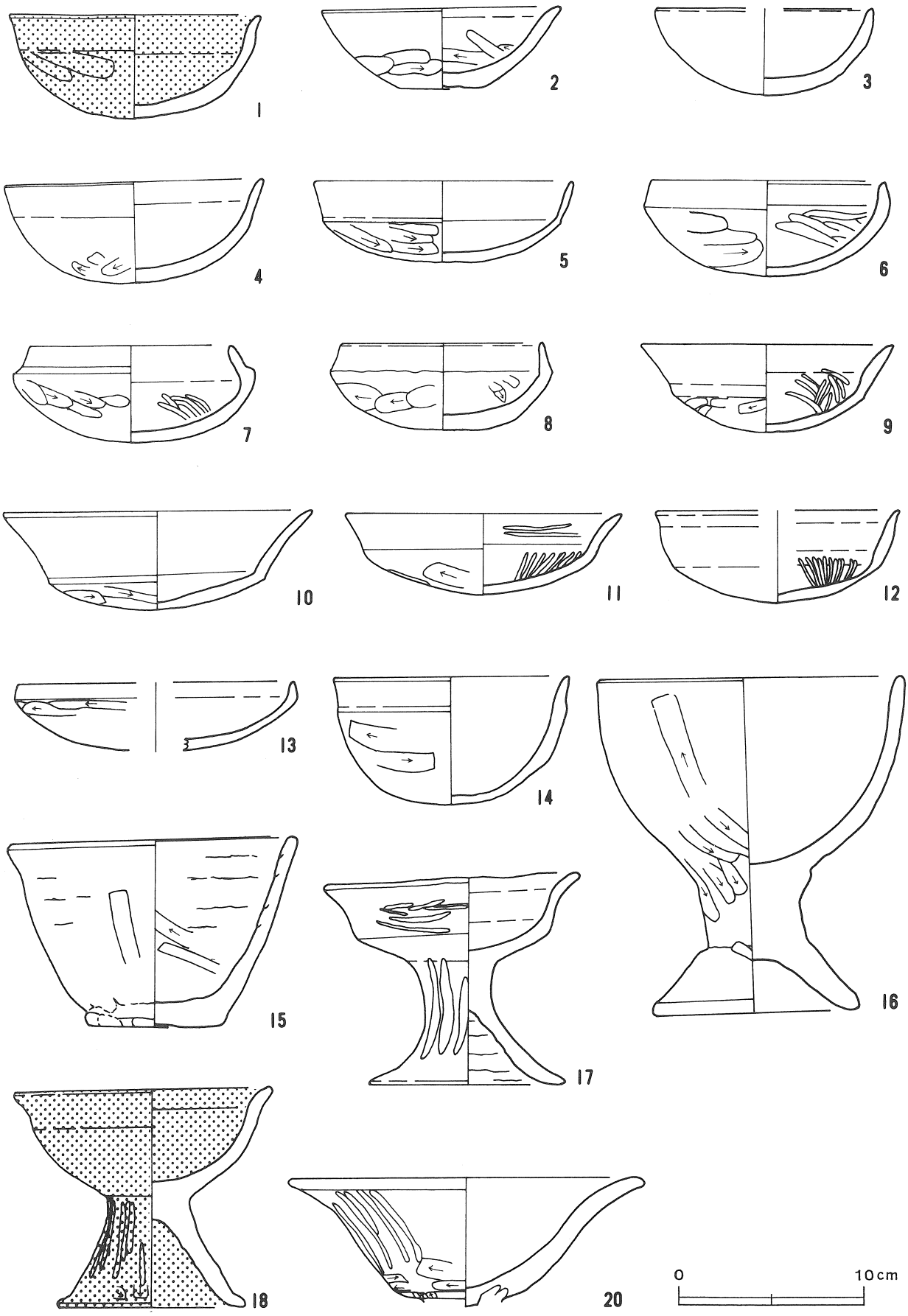
土層解説

1　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム中・小ブロック多量，ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　褐　　色　ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量

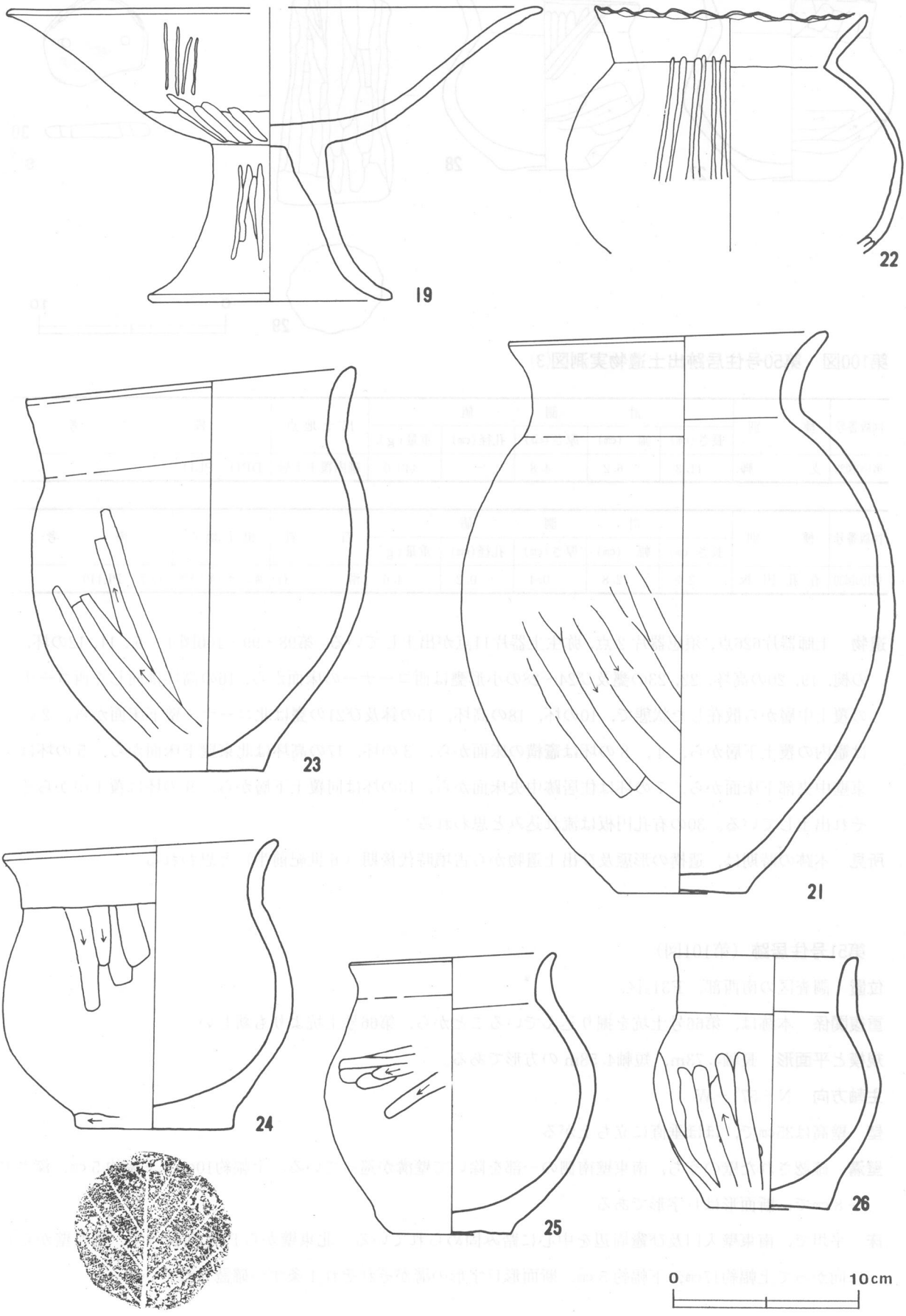
第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	坏 土師器	A　13.4 B　5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	石英・パミス 赤色 普通	P134　100% 床面 PL62
2	坏 土師器	A　12.7 B　4.4 C　4.2	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス・スコリア 橙色　普通	P135　100% 覆土下層 PL62
3	坏 土師器	A［11.6］ B　4.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・石英・長石 明褐色 普通	P136　80% 床面
4	坏 土師器	A　13.8 B　5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母・石英・礫 鈍い褐色 普通	P137　80% 床面 PL62
5	坏 土師器	A　14.0 B　4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り。	石英・パミス・礫 スコリア 橙色 普通	P138　100% 床面 PL62
6	坏 土師器	A　12.5 B　5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	雲母・石英・礫 黄橙色 普通	P139　100% 床面 PL62
7	坏 土師器	A　10.8 B　5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英・スコリア・パミス 橙色　普通	P140　100% 床面 PL62
8	坏 土師器	A　10.5 B　4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・パミス・スコリア・砂粒・礫 鈍い橙色 普通	P141　100% 床面 PL62
9	坏 土師器	A　13.5 B　4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	雲母・石英・パミス 明赤褐色 普通	P142　100% 覆土中 PL62

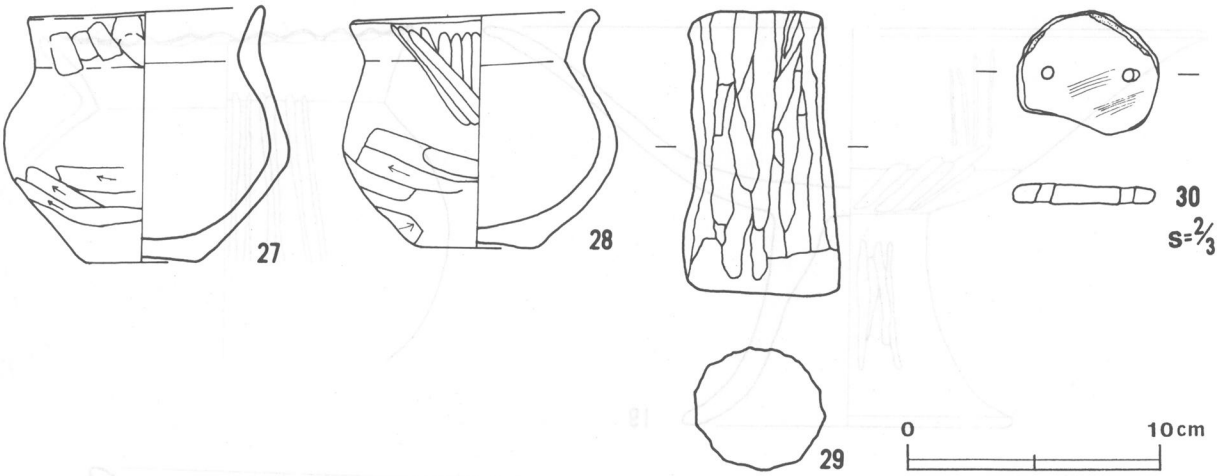
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	坏 土師器	A 13.5 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P143 80% 床面 PL62
11	坏 土師器	A 14.8 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ後ヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・長石 明赤褐色 普通	P144 80% 床面 PL62
12	坏 土師器	A [13.0] B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外傾し，端部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・長石・礫 明赤褐色 普通	P145 60% 床面 PL62
13	坏 土師器	A [14.8] B (3.6)	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	スコリア・パミス 暗赤褐色 普通	P146 40% 床面
14	椀 土師器	A 12.5 B 6.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス・スコリア・礫 鈍い橙色 普通	P147 100% 床面 PL62
15	鉢 土師器	A 15.1 B 10.3 C 7.1	平底。体部は外傾して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面縦位のヘラ削り後ナデ。体部内面に輪積み痕を残す。	長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通	P148 100% 床面 PL62
16	高坏 土師器	A 16.1 B 18.2 D 11.0 E 7.5	脚部は円柱状で，下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。脚部ナデー部ヘラ削り。裾部内・外面横ナデ。	長石・スコリア・砂粒 鈍い褐色 普通	P149 80% 覆土中層 PL63
17	高坏 土師器	A 13.3 B 11.5 D 10.6 E 6.5	脚部は円柱状で，下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は体部下方に緩い段を持ち，内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内・外面ヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面横位のヘラ削り。裾部横ナデ。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P150 100% 床面 PL62
18	高坏 土師器	A 13.6 B 11.9 E 5.9 D 10.0	脚部は「ハ」の字状に下方へ開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁端部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ヘラ削り外面横ナデ。内・外面赤彩。	雲母・パミス・石英 赤色 普通	P151 70% 床面 PL63
第99図 19	高坏 土師器	A [28.4] B 15.8 D 12.9 E 8.3	脚部は「ハ」の字状に下方へ大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ磨き。脚部外面縦位のヘラ磨き，内面及び裾部横ナデ。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P152 60% 床面 PL63
第98図 20	高坏 土師器	A 19.2 B (7.0)	坏部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横位の磨き，外面上半縦位のヘラ磨き，下半ヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・雲母・礫 明赤褐色 普通	P153 50% 床面 PL63
第99図 21	甕 土師器	A 17.0 B 30.3 C 7.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	石英・雲母 橙色 普通	P154 90% 床面 PL63
22	甕 土師器	A 14.3 B (13.3)	体部から口縁部片。体部は球形状で口縁部は外傾する。口縁端部は波状を呈する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面斜位のヘラ削り，外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 赤色 普通	P155 50% 床面 PL63
23	甕 土師器	A 17.6 B 21.8 C 6.1	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	パミス・スコリア 暗赤褐色 普通	P156 60% 床面 PL63
24	小形甕 土師器	A 14.4 B 15.7 C 8.5	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア・パミス 灰黄褐色 普通	P157 100% 床面 PL63 底部木葉痕あり
25	小形甕 土師器	A 10.7 B 15.7 C 6.6	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア・石英 灰黄褐色 普通	P158 100% 床面 PL63
26	小形甕 土師器	A 9.9 B 13.6 C 6.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位やや上に持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面縦位のヘラ削り。	長石・石英 鈍い黄橙色 普通	P159 100% 床面 PL63
第100図 27	小形甕 土師器	A 9.3 B 10.2 C 4.5	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は緩く外反する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	雲母・石英・パミス 鈍い橙色 普通	P160 100% 床面 PL63
28	小形甕 土師器	A 9.1 B 9.5 C 5.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ，外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	石英・雲母・スコリア 鈍い黄橙色 普通	P161 100% 床面 PL63



第98図　第50号住居跡出土遺物実測図(1)



第99図　第50号住居跡出土遺物実測図(2)



第100図　第50号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第100図29	支脚	11.3	6.2	4.8	−	440.0	竈内覆土下層	DP11　PL117

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第100図30	有孔円板	2.5	2.8	0.4	0.2	4.6	滑石	南コーナー覆土下層	Q 7　PL119

遺物　土師器片626点，須恵器片２点，弥生土器片11点が出土している。第98・99・100図１，６，11，12の坏，14の椀，19，20の高坏，22，23の甕及び24～28の小形甕は西コーナーの床面から，16の高坏は同じく西コーナーの覆土中層から散在した状態で，10の坏，18の高坏，15の鉢及び21の甕は北コーナー壁下床面から，２の坏は竈内の覆土下層から，４，８の坏は竈横の床面から，３の坏，17の高坏は北東壁下床面から，５の坏は南東壁中央部下床面から，７の坏は住居跡中央床面から，13の坏は同覆土下層から，９の坏は覆土中からそれぞれ出土している。30の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。

第51号住居跡（第101図）

位置　調査区の南西部，F3f$_3$区。

重複関係　本跡は，第66号土坑を掘り込んでいることから，第66号土坑よりも新しい。

規模と平面形　長軸4.73m，短軸4.58m の方形である。

主軸方向　N－57°－W

壁　壁高は35cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，南東壁南側の一部を除いて壁溝が巡っている。上幅約10cm，下幅約５cm，深さ６～８cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，南東壁入口及び竈周辺を中心に踏み固められている。北東壁からP$_2$に向かって，南西壁からP$_3$に向かって上幅約17cm，下幅約５cm，断面形U字形の溝がそれぞれ１条ずつ確認されている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径21～29cmの不整円形，深さ15～43cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径48cmの円形，深さ19cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径42cmの不整円形，深さ41cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　北西壁中央の竈と北コーナーの間に付設され，長軸75cm，短軸45cmの長方形で，深さは49cm，断面形は擂り鉢形である。

竈　北西壁中央よりやや北寄りに付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く袖部の一部が残っているのみである。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。右袖部横付近に焼土及び灰の堆積がみられ，更に両袖部下には幅約30cm，深さ15cmの掘り込みが確認できる。

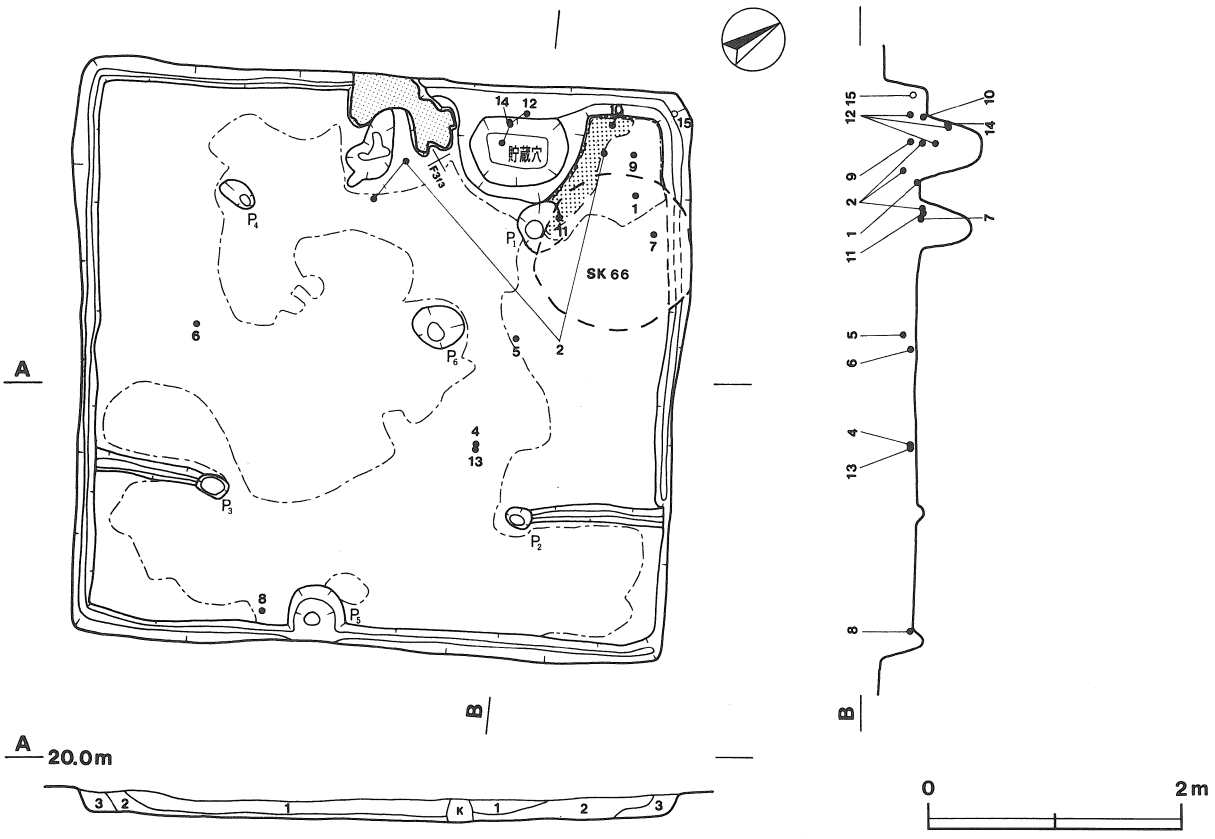
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

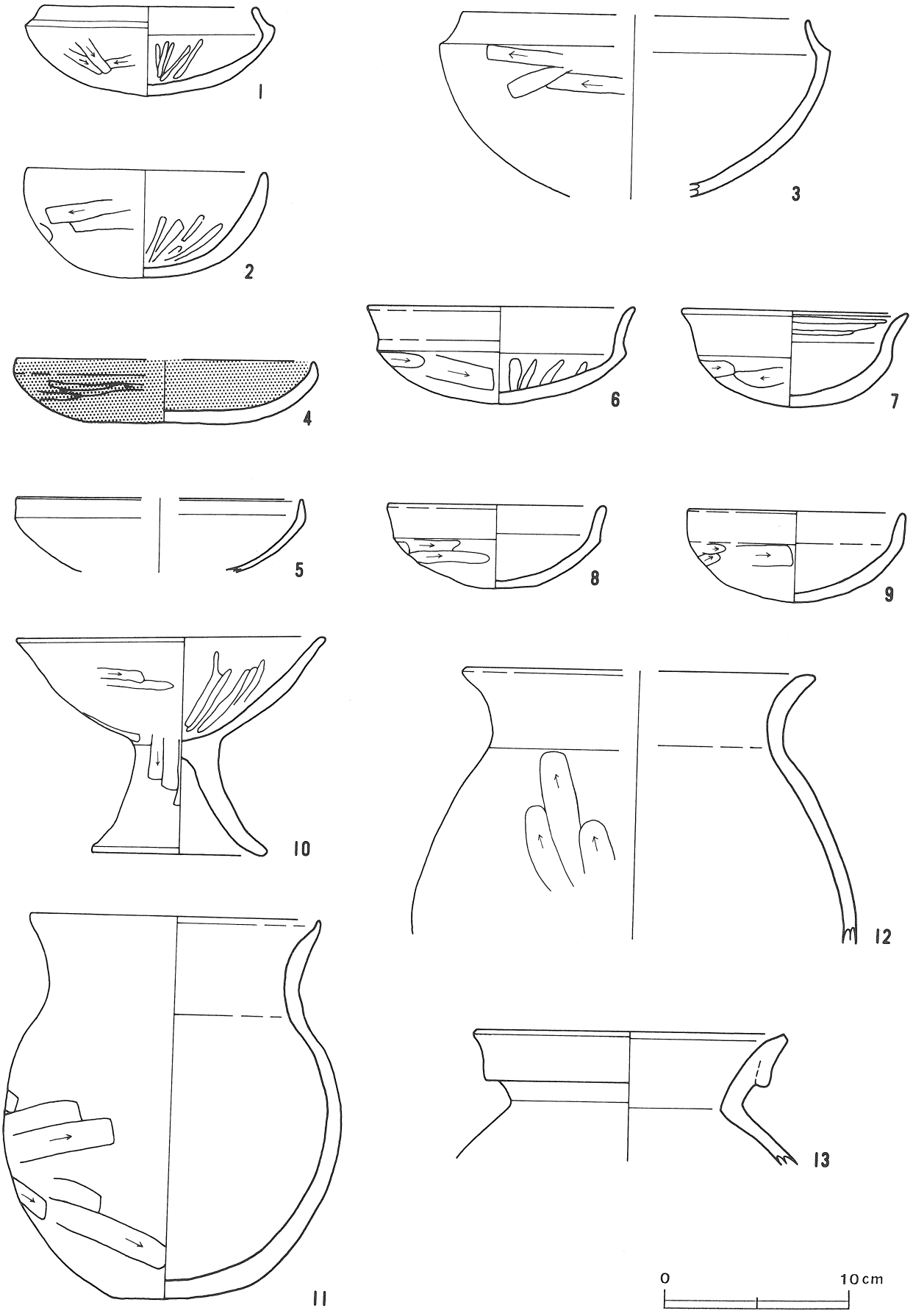
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，焼土大ブロック中量，炭化粒子少量
3　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片255点，須恵器片5点が出土している。第102・103図1，2，7，9の坏，10の高坏及び11の甕は北コーナー部床面から，4，5の坏は住居跡中央の床面から，13の壺は同覆土下層から，6の坏は南西壁近くの覆土下層から，8の坏は北東壁下床面から，12の甕は貯蔵穴内覆土中層から，14の甕は竈横床面から，3の椀が覆土中からそれぞれ出土している。その他に，15の土製支脚が北コーナー付近覆土下層から出土している。13の壺は流れ込みと思われる。

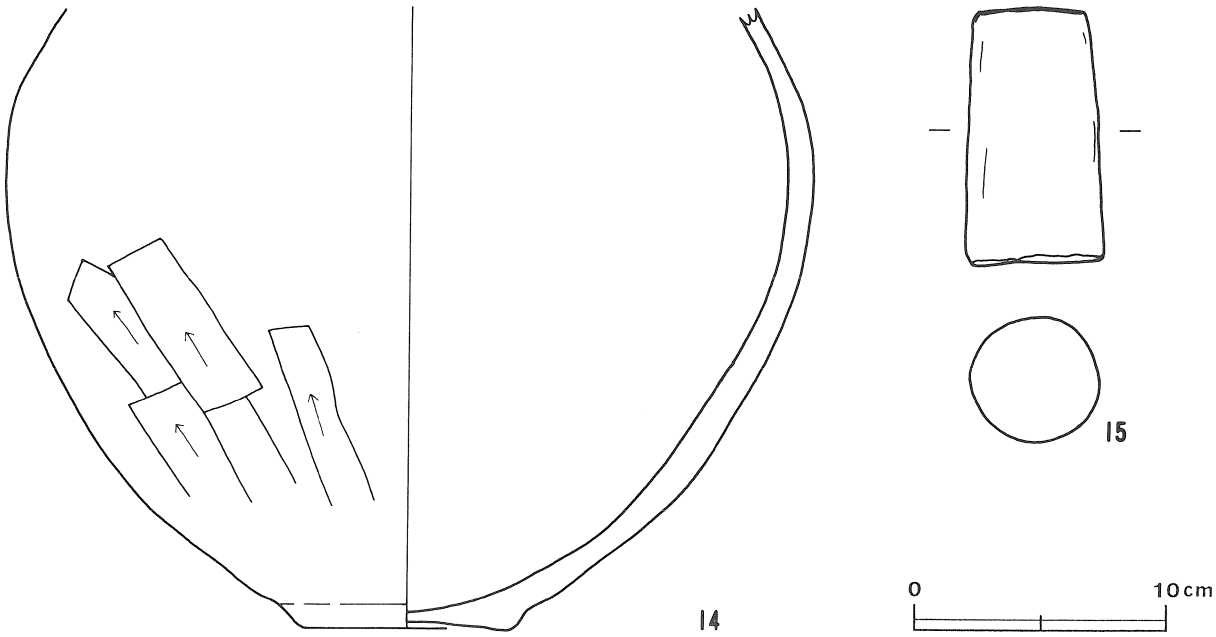
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第101図　第51号住居跡実測図



第102図　第51号住居跡出土遺物実測図(1)



第103図　第51号住居跡出土遺物実測図(2)

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	坏 土師器	A 11.6 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・パミス 赤色 普通	P162 床面 PL64 90%
2	坏 土師器	A 12.8 B 5.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・パミス 橙色 普通	P163 床面 PL64 70%
3	坏 土師器	A [18.6] B (9.8)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・長石 赤褐色 普通	P164 床面 PL64 20%
4	坏 土師器	A [16.0] B 3.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・長石 黒色 普通	P165 床面 PL64 20%
5	坏 土師器	A [15.2] B (4.0)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。	石英・パミス 鈍い褐色 普通	P166 床面 PL64 20%
6	坏 土師器	A 14.3 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・石英・スコリア・礫 橙色 普通	P168 床面 PL64 95%
7	坏 土師器	A 12.0 B 4.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後内面横位のヘラ磨き。体部内・外面ヘラ削り後磨き。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P169 床面 PL64 100%
8	坏 土師器	A 12.0 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面中位まで横ナデ，以下ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。	パミス・長石・砂粒 橙色 普通	P170 床面 PL64 100%
9	坏 土師器	A 11.6 B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・石英・長石・パミス・雲母・礫 橙色　普通	P171 床面 PL64 100%
10	高坏 土師器	A 16.6 B 12.0 D 9.3 E 6.0	脚部は「ハ」の字状に下方に開く。坏部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。脚部縦位のヘラ削り，裾部から脚部内面横ナデ。	石英・長石 鈍い橙色 普通	P167 床面 PL64 95%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	甕 土師器	A 15.6 B 21.5 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後一部ヘラ磨き。	スコリア・パミス・雲母・石英・礫 橙色 普通	P172 50% 床面 PL64
12	甕 土師器	A [18.6] B (14.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P173 10% 貯蔵穴覆土中 PL64
13	壺 土師器	A 16.6 B (7.0)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に外傾する。複合口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面縦位のナデ。	パミス・礫・長石 明赤褐色 普通	P174 10% 覆土下層 PL64
第103図14	甕 土師器	B (24.8) C 8.2	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ヘラ削り。	雲母・礫 赤色 普通	P175 60% 床面 PL64

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第103図15	支脚	10.4	5.2	5.0	−	360.3	北コーナー床面	DP12 PL117

第52号住居跡（第97図）

位置　調査区の南西部，F3i_3区。

重複関係　本跡は，北部を第50号住居跡に掘り込まれており，本跡が古い。

規模と平面形　北西壁を第50号住居跡に掘り込まれ，南西壁は調査区外となり，遺存する壁がないため，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－25°－W

壁　壁高は12cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。P_2の周囲に幅45cm，高さ7cmの馬の背状の硬く締まった高まりが見られる。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径53cmの円形，深さ78cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_2は長径34cm，短径22cmの楕円形，深さ28cmで，位置と形状から出入り口ピットと思われる。P_3は径32cmの円形，深さ22cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナーに付設され，径76cmの円形で，深さは43cm，断面形は逆台形である。

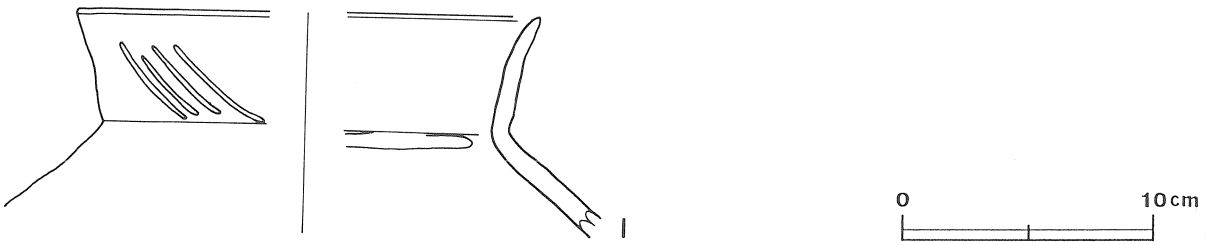
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子中量
2　暗　褐　色　焼土粒子・ローム大・中ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図1	甕 土師器	A [16.8] B (8.8)	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・長石・礫 赤褐色 普通	P176 10% 床面 PL64

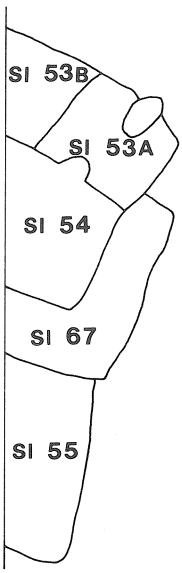


第104図　第52号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片78点，鉄製品１点が出土している。第104図１の甕は東コーナー壁下床面から出土している。その他に貯蔵穴内から炭化した篠材が２点出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少ないため，詳細は不明であるが，重複関係，遺構の形態及び出土遺物片から古墳時代中期（５世紀頃）と思われる。

第53-Ａ号住居跡（第105図）



位置　調査区の南西部，G3a$_6$区。

重複関係　本跡は，第53-Ｂ号住居跡の北東部，第67号住居跡の北西部をそれぞれ掘り込んでおり，第54号住居跡に南西部を掘り込まれていることから，第53-Ｂ号住居跡及び第67号住居跡より新しく，第54号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北壁から推定すると，一辺3.02ｍの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　Ｎ－３°－Ｗ

壁　壁高は33㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

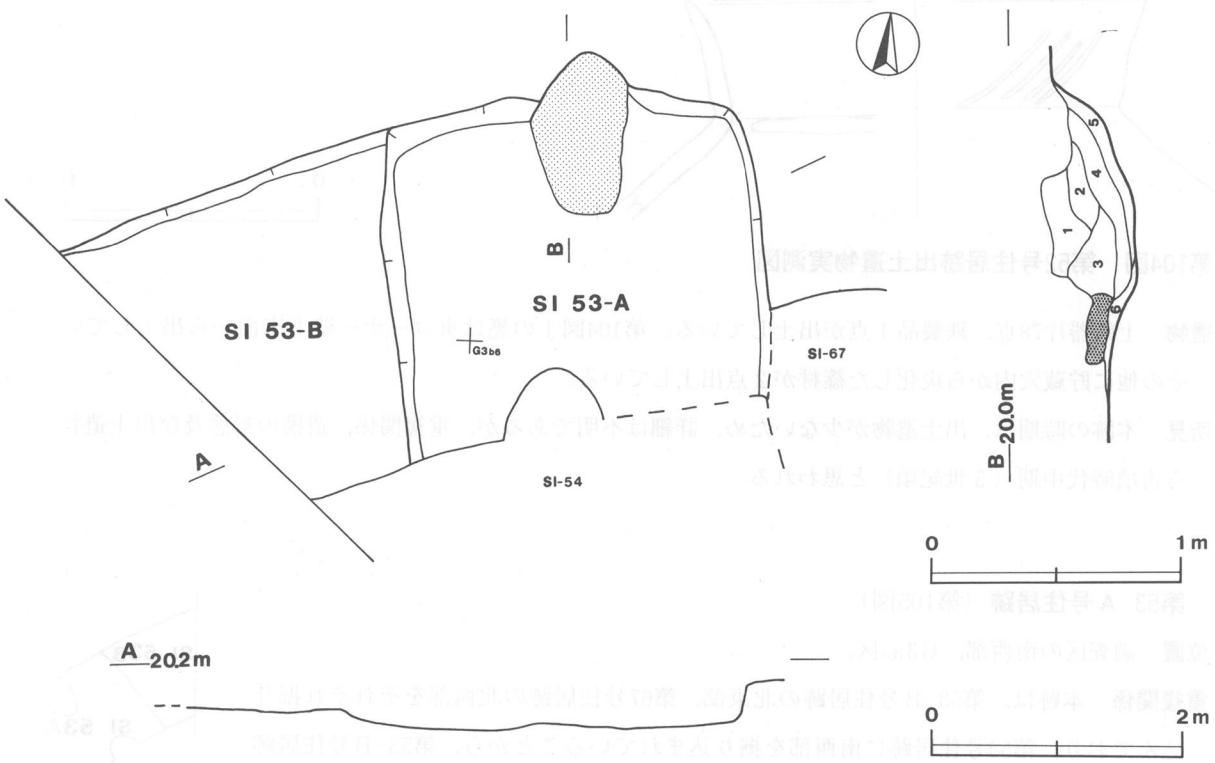
竈　北西壁中央部に付設され，白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出がなく，壁の内側から急に立ち上がる。

竈土層解説

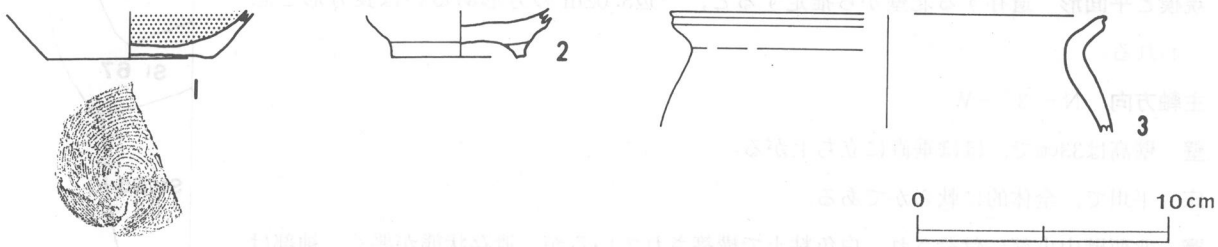
1　極暗赤褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土大ブロック微量
2　暗　赤　褐　色　焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量
3　赤　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土大ブロック・粘土中ブロック微量
4　暗　褐　色　焼土小ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
6　暗　褐　色　粘土大ブロック中量，焼土中ブロック少量，焼土大ブロック微量

遺物　土師器片180点，須恵器片10点，弥生土器片２点がそれぞれ出土している。第106図１の坏，２の高台付坏及び３の甕は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも覆土中の遺物であるため，詳細な時期は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。



第105図　第53−A・53−B号住居跡実測図



第106図　第53−A号住居跡出土遺物実測図

第53−A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第106図 1	坏 土師器	B（1.8） C［6.6］	底部片。平底。	底部内面ロクロナデ，外面回転糸切り。内面黒色処理。	雲母・石英・礫・スコリア 明褐色　普通	P177 覆土中 20%
2	高台付坏 土師器	B（2.0） D　5.4 E　0.6	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部内面ロクロナデ，外面高台貼り付け後ナデ。	雲母・パミス 鈍い橙色 普通	P178 覆土中 10%
3	甕 土師器	A［17.4］ B（4.5）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し口縁部外反し，口縁端部で横につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・雲母・パミス 鈍い褐色　普通	P179 覆土中 PL64 5%

第53−B号住居跡（第105図）

位置　調査区の南西部，G3a$_5$区。

重複関係　本跡は，第53−A号住居跡に北東部を，第54号住居跡に南東部をそれぞれ掘り込まれていることから，第53−A号住居跡及び第54号住居跡よりも古い。

規模と平面形　南部は調査区外となり，その他の壁も53A号住居跡及び第54号住居跡に掘り込まれ，遺存する壁がないため，不明である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

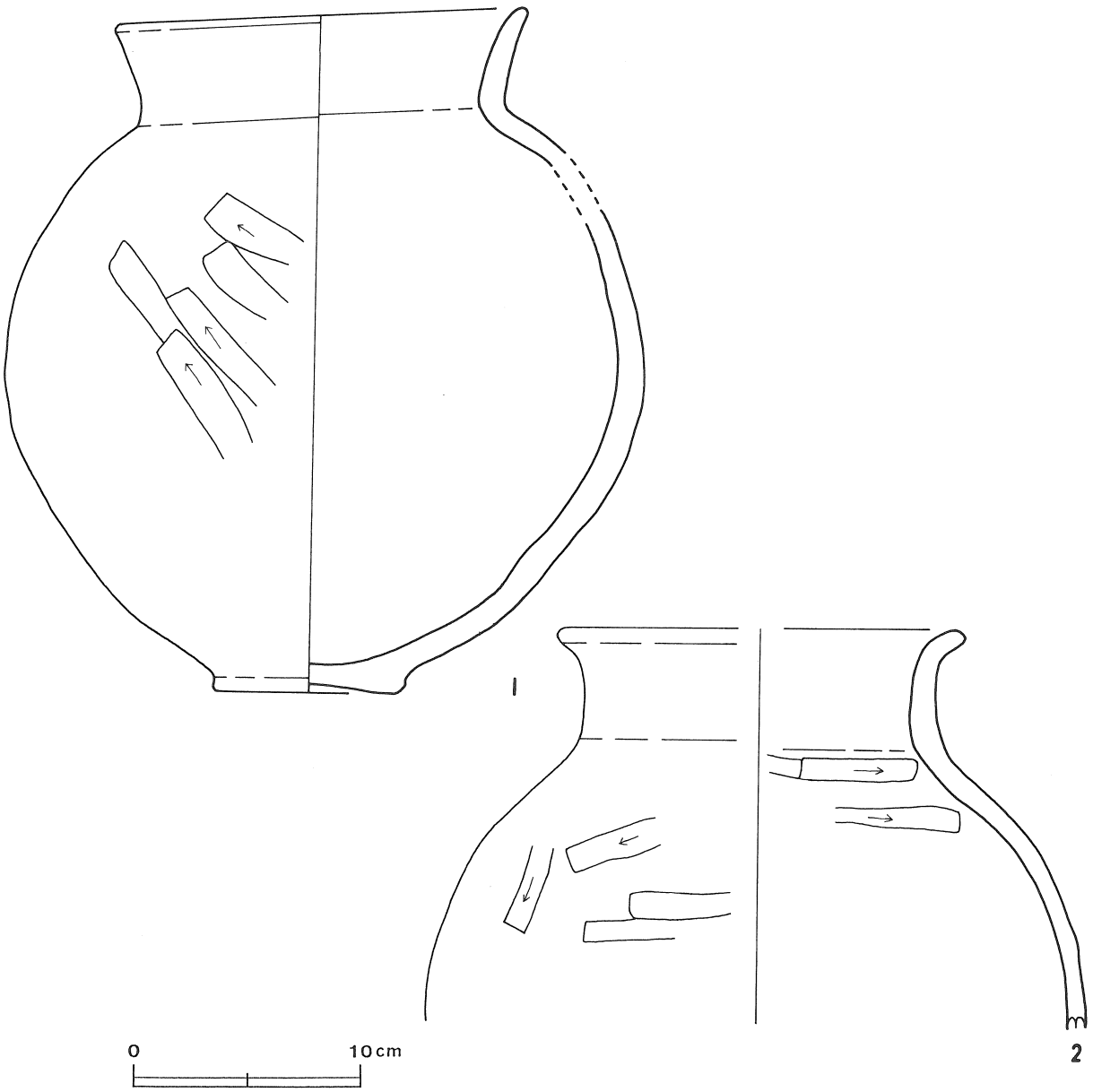
竈　北壁に付設され，砂粒まじりの白色粘土及び凝灰岩切石で構築されているが，調査区外に延びているため，詳細は不明である。火床部の掘り込みは12cmで，皿状に掘り窪められている。煙道部は緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　鈍い赤褐色　焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・灰多量
3　褐　　色　焼土粒子多量，灰中量，ローム中ブロック・粘土粒子少量
4　暗 赤 褐 色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・灰多量，粘土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　焼土中ブロック少量，焼土大ブロック微量

遺物　土師器片19点が出土している。第107図１の甕は覆土中，２の甕は竈内の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，竈の付設状況及び竈内からの出土遺物から古墳時代後期（６世紀頃）と思われる。



第107図　第53−Ｂ号住居跡出土遺物実測図

第53−B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第107図 1	甕 土師器	A 17.9 B 30.5 C 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・雲母・礫 鈍い褐色 普通	P180 90% 覆土中 PL64
2	甕 土師器	A [17.2] B (17.5)	体部から口縁部片。体部は上位で内傾し，口縁部は直立する。口縁端部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	パミス・石英 鈍い褐色 普通	P181 10% 竈内覆土中 PL64

第54号住居跡（第108図）

位置　調査区の南西部，G3b$_6$区。

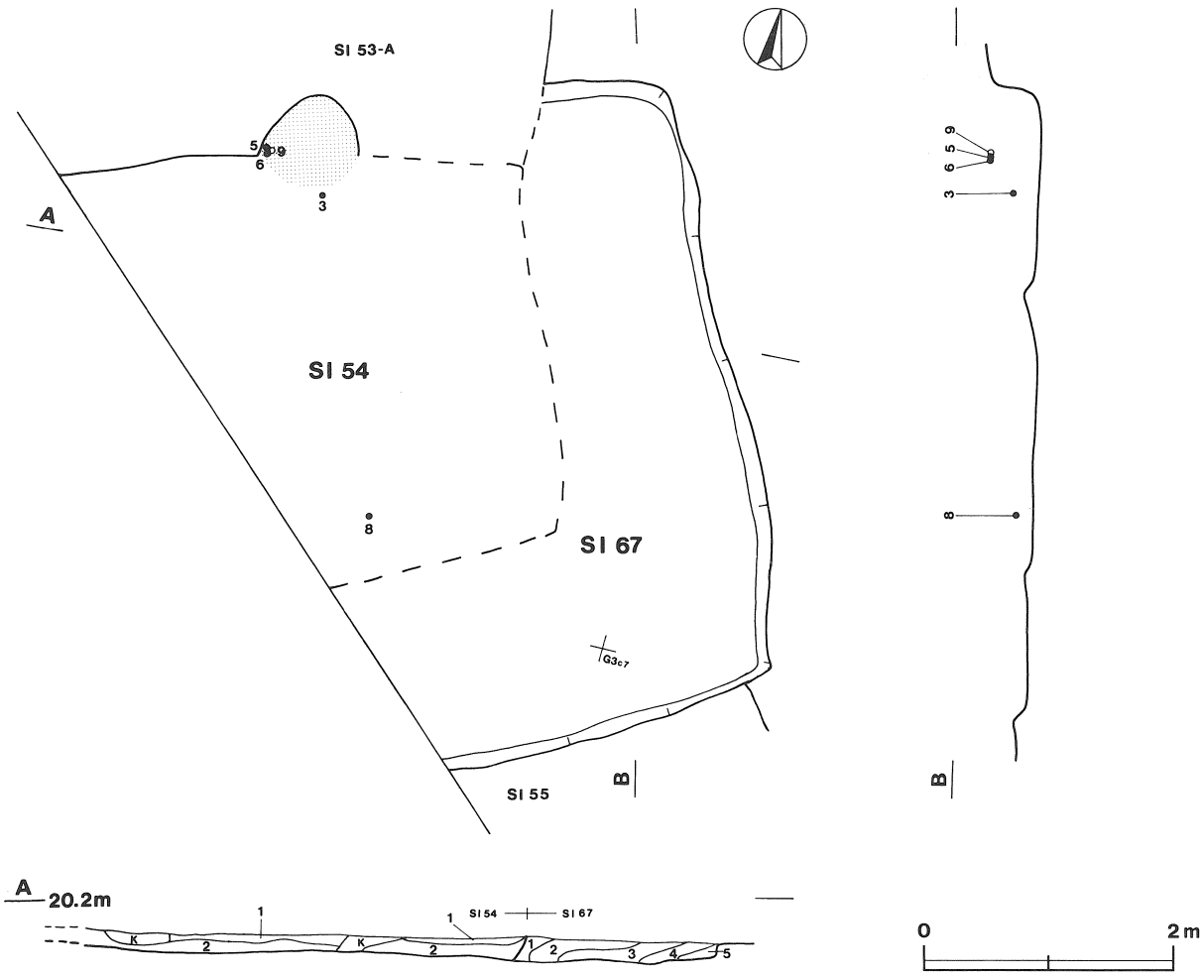
重複関係　本跡は，第53−A号住居跡の南部，第53−B号住居跡の南部をいずれも掘り込んでおり，第67号住居跡の床の上に本跡の床を構築していることから，第53−A号住居跡，第53−B号住居跡及び第67号住居跡より新しい。

規模と平面形　北壁中央部に竈が付設されていたと考えると，一辺2.94mの方形と思われる。

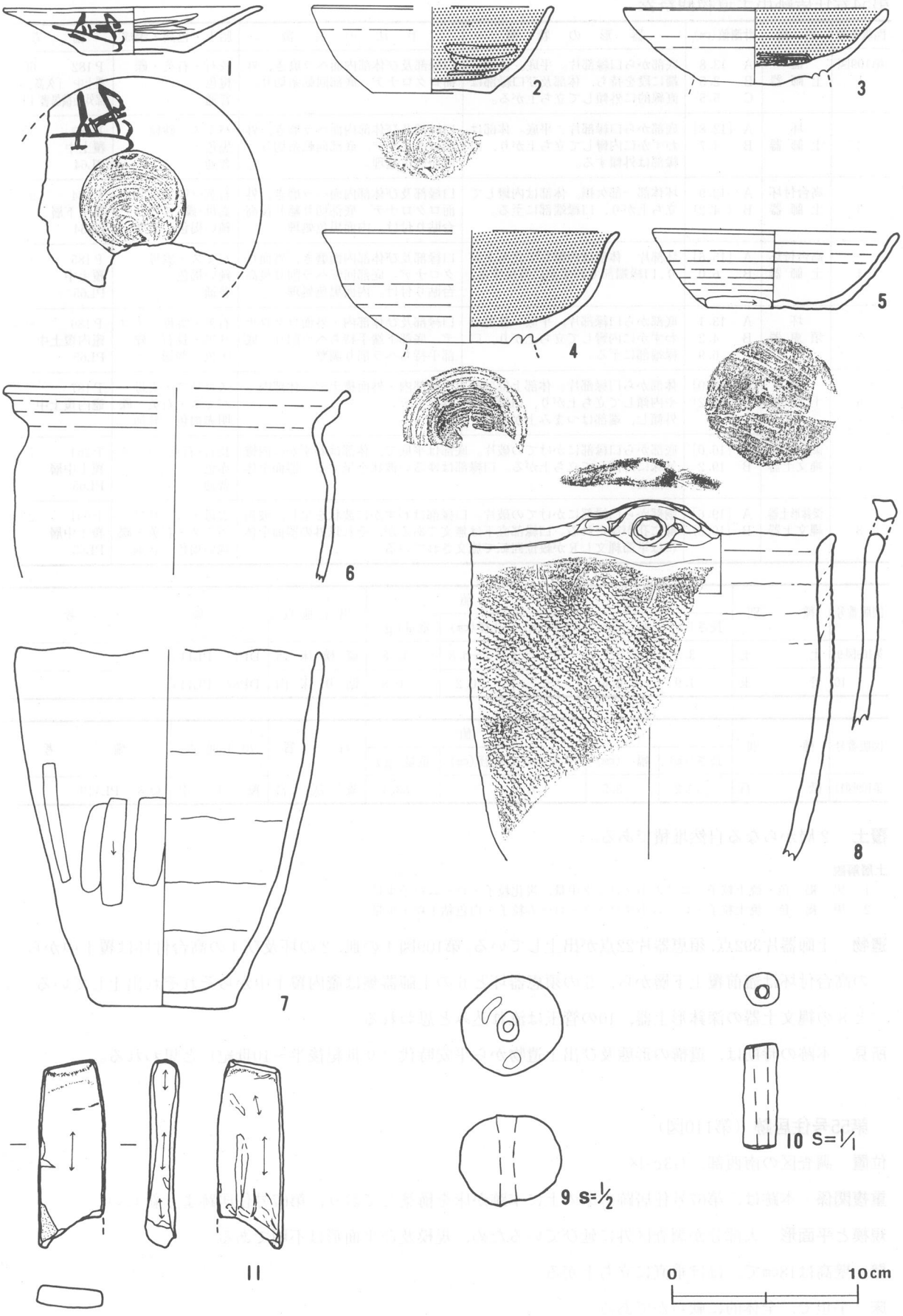
主軸方向　N−16°−W

床　ローム小ブロックや黒色土で貼り床をしており，平坦で中央部は踏み固められている。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土及び凝灰岩で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部を作っていたと思われる凝灰岩の切石と火床部の焼土のみを確認する。



第108図　第54・67号住居跡実測図



第109図　第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 1	皿 土師器	A 13.8 B 2.5 C 5.5	底部から口縁部片。平底。体部下端に段を持ち，体部及び口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・礫 橙色 普通	P182 60% 覆土中 「久高」底部外面横墨書 PL64
2	坏 土師器	A [12.8] B 4.7	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面黒色処理。	パミス・砂粒 黒色 普通	P183 30% 覆土中 PL64
3	高台付坏 土師器	A 13.9 B (4.2)	坏体部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部切り離し後高台貼り付け。内面黒色処理。	石英・パミス・長石・雲母・礫・スコリア 鈍い褐色 普通	P184 90% 覆土下層 PL64
4	高台付坏 土師器	A [15.6] B 6.0	坏部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部及び体部内面磨き，外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。内面黒色処理。	パミス・雲母 鈍い褐色 普通	P185 40% 覆土中 PL65
5	坏 須恵器	A 13.1 B 4.2 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り調整。	石英・雲母・スコリア・長石・礫 灰色 普通	P186 80% 竈内覆土中 PL65
6	甕 土師器	A [18.0] B (10.2)	体部から口縁部片。体部上位はやや内傾して立ち上がり，口縁部は外傾し，端部はつまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	スコリア・雲母・パミス・石英・礫 明赤褐色 普通	P187 5% 竈内覆土中
7	深鉢形土器 縄文土器	A [16.0] B 19.2	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底で，体部はわずかに内彎気味に外傾して立ち上がる。口縁部はゆるい波状を呈する。器面全体は無文。		長石・石英・パミス 赤色 普通	P264 70% 覆土中層 PL65
8	深鉢形土器 縄文土器	A [19.6] B (19.3)	胴部から口縁部にかけての破片。口縁部はわずかに波状を呈し，波頂部に孔が穿たれる。口縁部直下は無文であるが，それ以外の器面全体には単節縄文ＬＲが縦位回転で施文されている。		雲母・スコリア・パミス・石英・礫 鈍い褐色 普通	P691 20% 覆土中層 PL65

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第109図 9	土玉	3.3	3.7	−	0.7〜0.8	35.8	竈横床面	DP13 PL115
10	管玉	1.9	0.6	−	0.2	0.8	貼り床内	DP87 PL115

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第109図11	砥石	10.2	3.5	1.6	−	83.4	凝灰岩	覆土中	Q 8 PL119

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・ローム粒子少量
2　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・白色粘土粒子少量

遺物　土師器片392点，須恵器片22点が出土している。第109図１の皿，２の坏及び４の高台付坏は覆土中から，３の高台付坏は竈前覆土下層から，５の須恵器坏と６の土師器甕は竈内覆土中からそれぞれ出土している。７と８の縄文土器の深鉢形土器，10の管玉は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後半〜10世紀）と思われる。

第55号住居跡（第110図）

位置　調査区の南西部，G3c$_7$区。

重複関係　本跡は，第67号住居跡の床の上に本跡が床を構築しており，第67号住居跡より新しい。

規模と平面形　大部分か調査区外に延びているため，規模及び平面形は不明である。

壁　壁高は18cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　平坦で，全体的に軟らかである。

ピット　P$_1$は径72cmの円形，深さ24cmで，規模や深さから主柱穴とは考えにくく，性格は不明である。

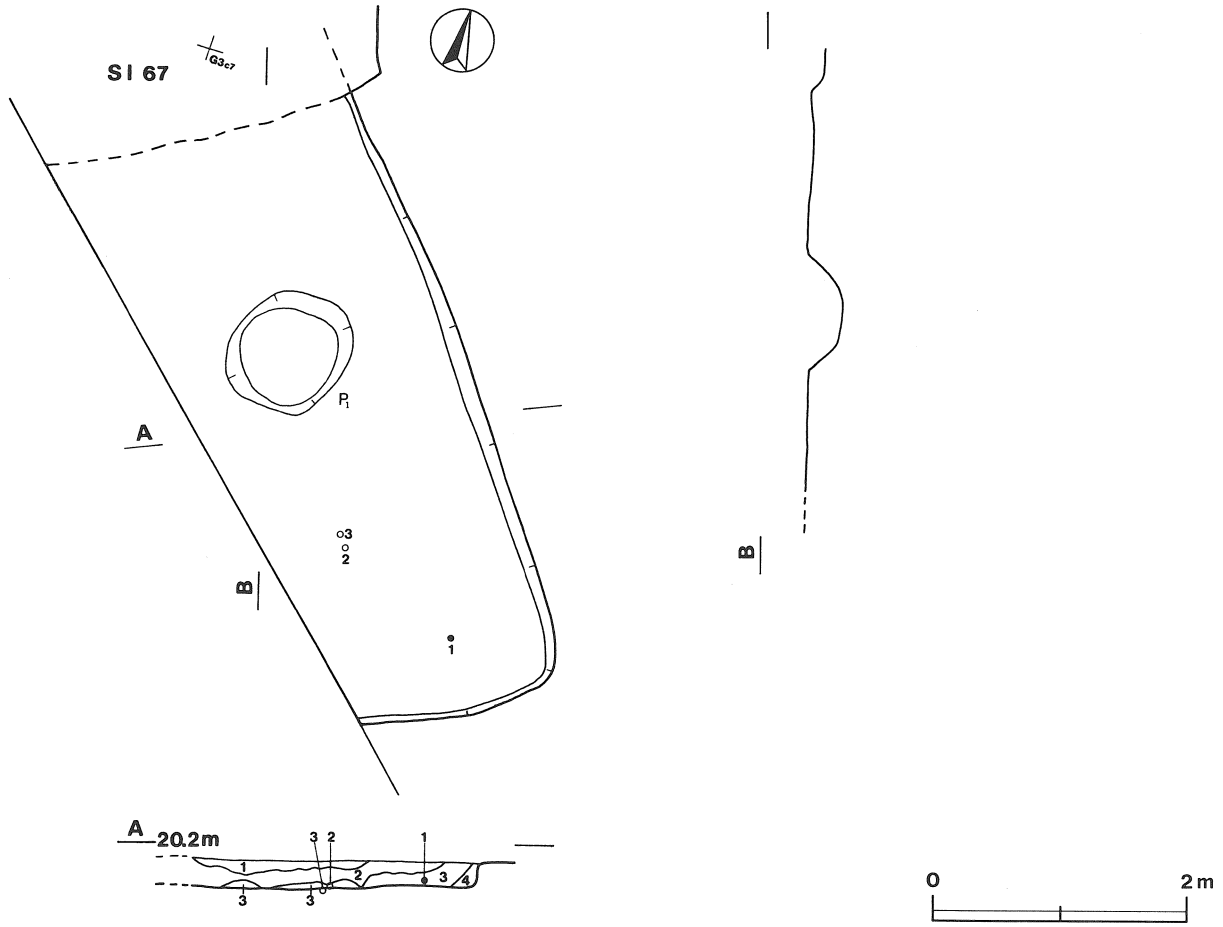
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

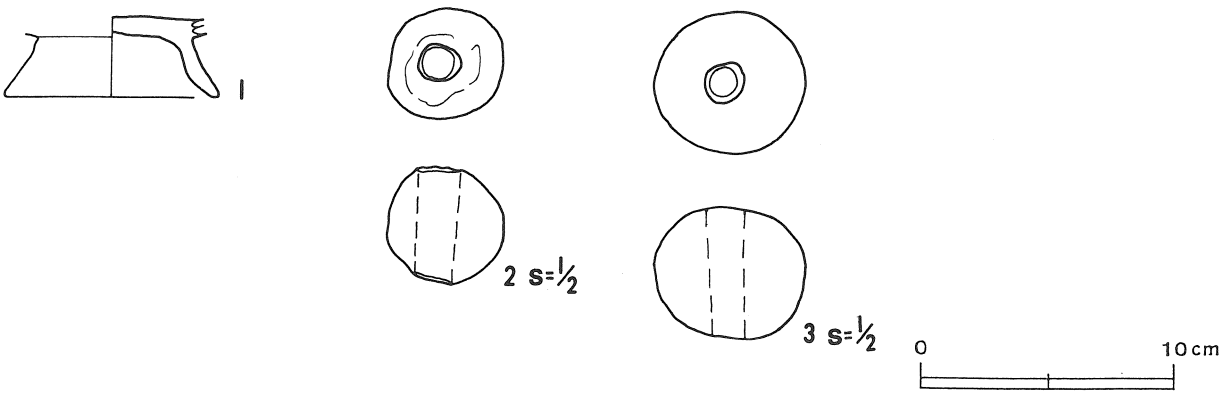
1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック多量，焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　鈍い黄褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子中量
4　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子・ローム粒子少量

遺物　土師器片214点，須恵器片１点，弥生土器片２点が出土している。第111図１の高台付坏は南東コーナー付近覆土下層から出土している。

所見　本跡の時期は，調査区外に延びているため竈が確認できず，また出土遺物も細片であるため詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀頃）と思われる。



第110図　第55号住居跡実測図



第111図　第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	高台付坏 土師器	B (3.2) D 8.4 E 2.4	高台部から底部片。「ハ」の字状に開く足の長い高台が付く。	高台貼り付け後ナデ。高台部ロクロナデ。	スコリア・砂粒 赤褐色 普通	P188 10% 覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第111図2	土玉	3.1	3.0	−	1.0〜1.1	26.7	南東コーナー付近床面	DP14 PL115
3	土玉	3.5	4.0	−	0.9〜1.0	52.6	南東コーナー付近床面	DP15 PL115

第56−A号住居跡（第112図）

位置　調査区の南東部，G3d$_8$区。

重複関係　本跡は，第56−B号住居跡に南東部を掘り込まれており，第56−B号住居跡より古い。

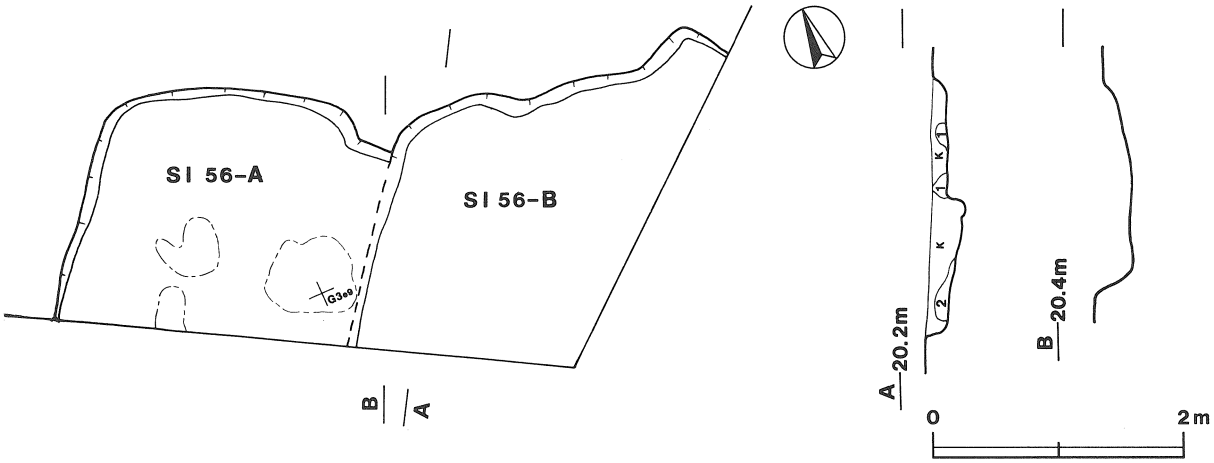
規模と平面形　住居跡の大部分が調査区外に延びており不明である。

壁　遺存する北壁高は8㎝で，外傾して立ち上がる。

床　耕作による撹乱のため，遺存状態はよくない。中央部の一部は平坦で踏み固められている。

遺物　土師器片12点，須恵器片1点が出土している。

所見　本跡は，規模及び平面形が不明で，出土遺物が少なくしかも細片であるため詳細な時期は不明である。



第112図　第56−A・56−B号住居跡実測図

第56−B号住居跡（第112図）

位置　調査区の南東部，G3d$_9$区。

重複関係　本跡は，第56−A号住居跡の南東部を掘り込んでおり，第56−A号住居跡より新しい。

規模と平面形　住居跡が東部から南部にかけて大部分が調査区外に延びており不明である。

壁　遺存する北壁高は11㎝で，外傾して立ち上がる。

床　耕作による撹乱がひどく，遺存状態はよくない。

覆土　2層からなる。撹乱がひどく堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片56点，須恵器片２点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため詳細は不明であるが，高台付坏の細片等が含まれていることから平安時代頃と思われる。

第57号住居跡（第113図）

位置　調査区の南西部，F3j$_6$区。

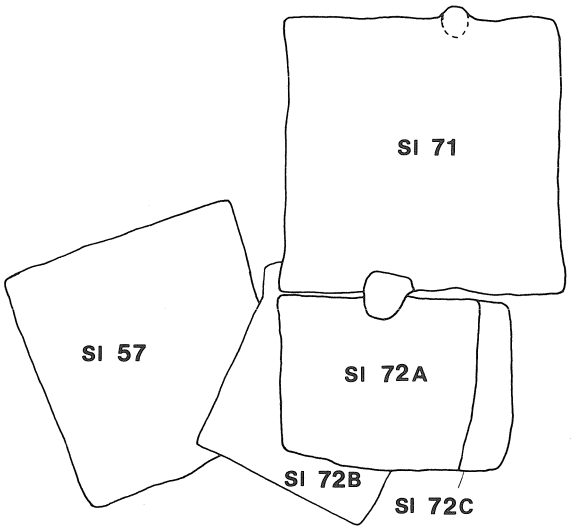
重複関係　本跡は，第72−Ｂ号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，第72−Ｂ号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸3.28m，短軸3.1mの方形である。

主軸方向　Ｎ−45°−Ｅ

壁　壁高は41cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，撹乱によって掘り込まれた南西壁部分と，第72−Ｂ号住居跡によって掘り込まれた北東コーナー部分を除き，すべての壁下に壁溝が巡っている。上幅約５cm，下幅約３cm，深さ約４cmで，断面形はＵ字形である。



床　平坦で，中央部は踏み締められている。

ピット　５か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径28～39cmの不整円形，深さ67～74cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は径28cmで，出入り口ピットと思われる。

貯蔵穴　北東壁中央部北寄りの壁下に付設され，長径71cm，短径61cmの楕円形で，深さは51cm，断面形はＵ字形である。

炉　中央から北寄りに位置し，長径68cm，短径42cmの楕円形で，床面を８cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗　褐　色　ローム中・小ブロック少量
2　暗赤褐色　ローム小ブロック少量
3　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子少量

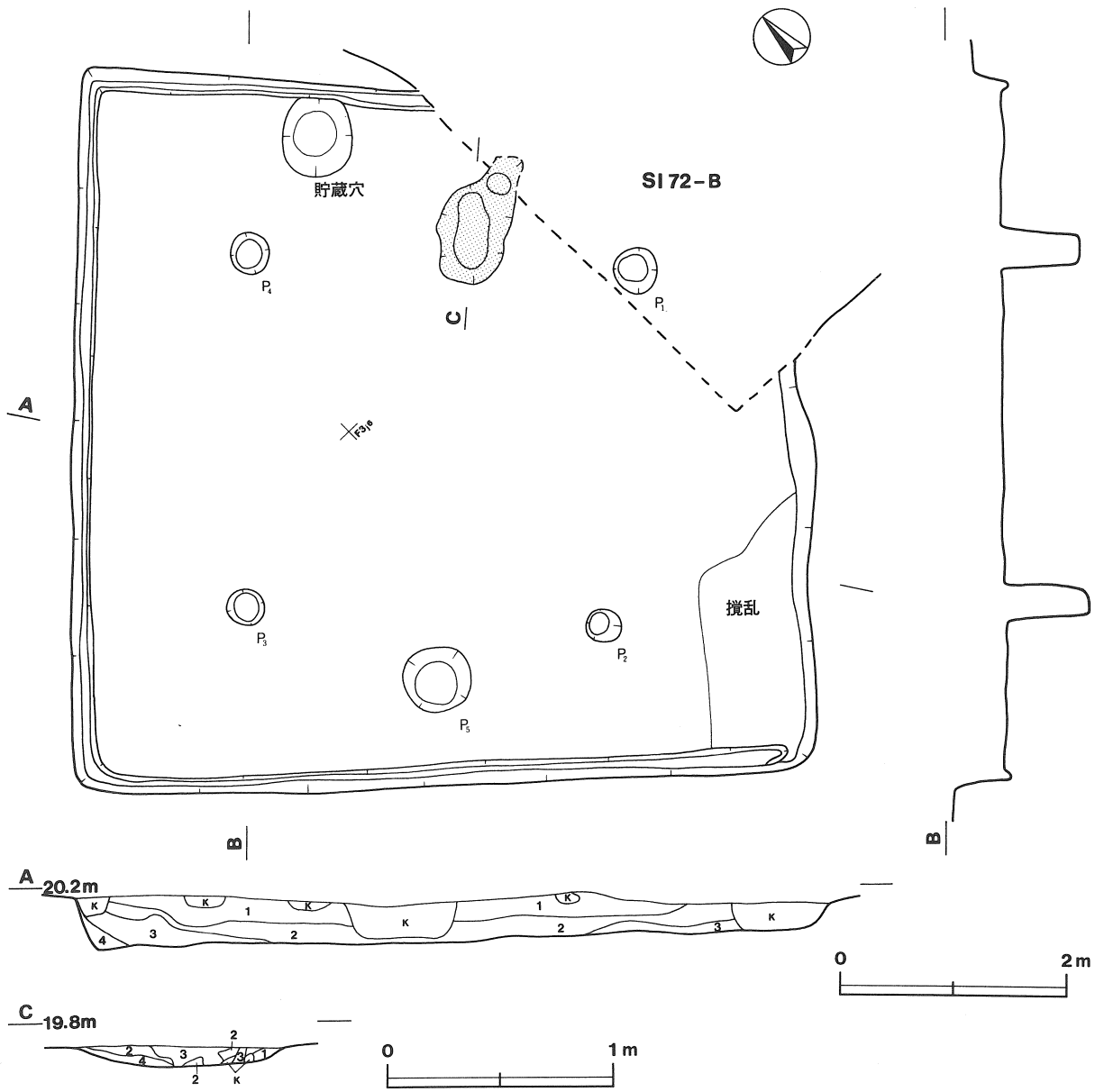
覆土　４層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3　極暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子多量

遺物　土師器片1455点，須恵器片37点，縄文土器片14点が出土している。

所見　本跡の時期は，遺物が細片であるため詳細は不明であるが，炉の存在等の遺構の形態及び出土遺物片から古墳時代中期（５世紀頃）と思われる。



第113図　第57号住居跡実測図

第58-A号住居跡（第114図）

位置　調査区の南西部，G3a$_7$区。

重複関係　本跡は，第59号住居跡の床の上に床を構築しており，第58-B号住居跡に掘り込まれていることから，第59号住居跡より新しく，第58-B号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸6.23m，短軸5.69mの長方形である。

主軸方向　N－36°－W

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，南西コーナー付近のみ壁溝が巡っている。上幅約15cm，下幅約9cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。南東壁中央部には馬の背状の高まりが見られ，出入り口施設に伴うものと思われる。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径22～72cmの不整円形，深さ12～68cmで，配置から見ると主柱穴と思われるが，P_1及びP_3は深さ12～15cmと浅く，それ以外の可能性も考えられる。

貯蔵穴　北西コーナーに付設され，長径86cm，短径80cmの円形で，深さは60cm，断面形はU字形である。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状況が悪く，左袖部は残っていない。

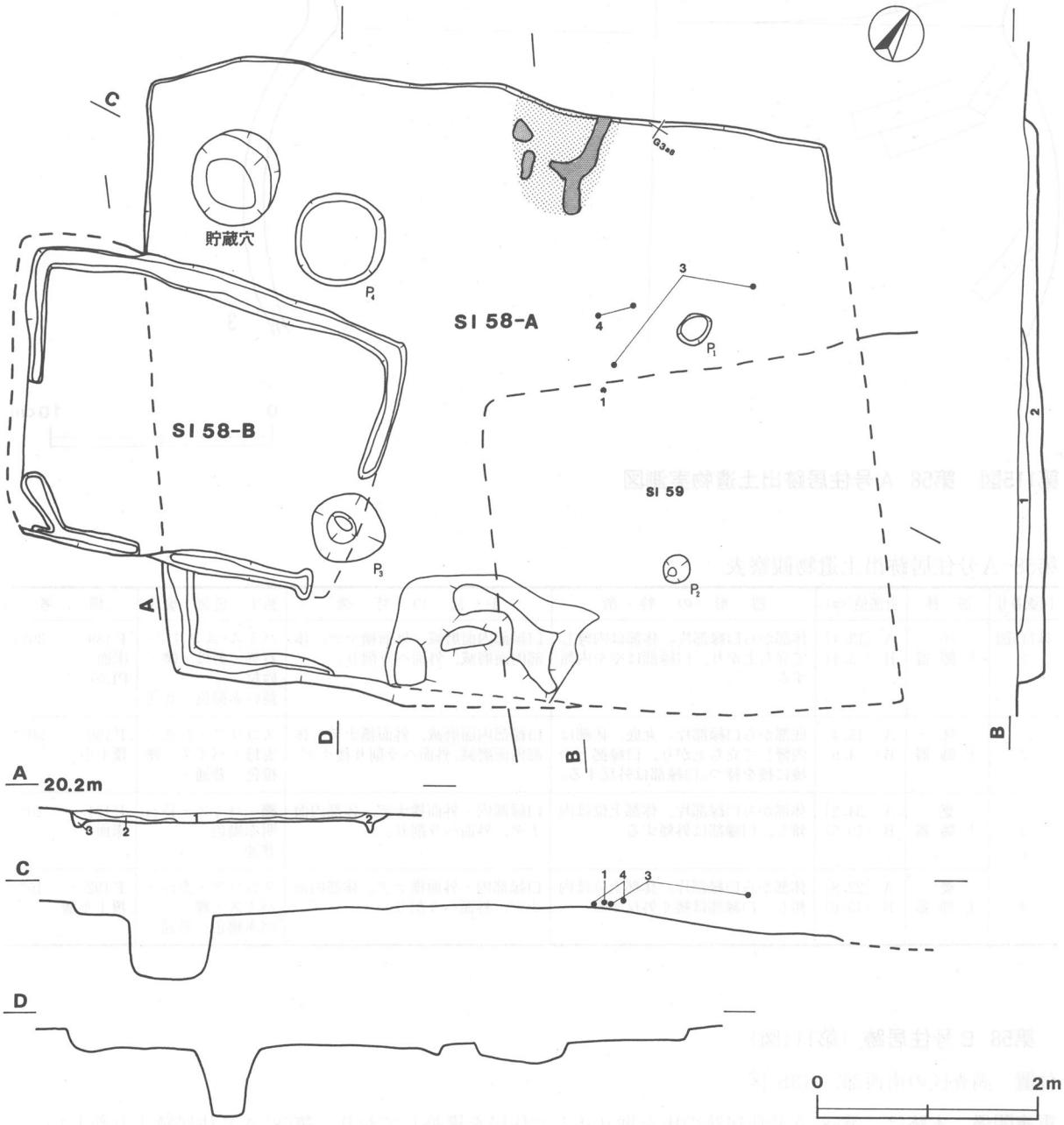
覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

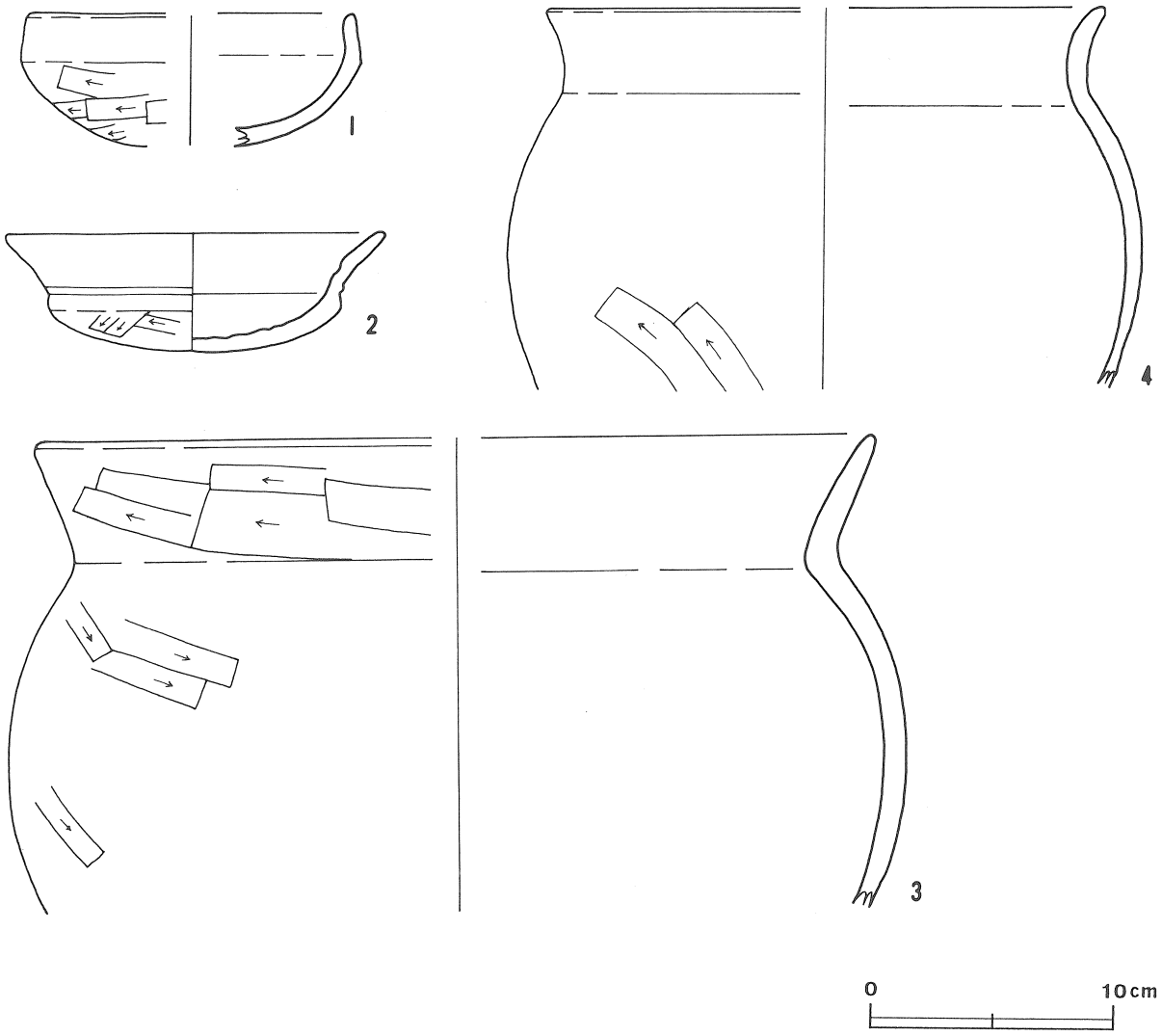
1　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量

遺物　土師器片589点，須恵器片21点，弥生土器片5点，軽石2点が出土している。第115図1の坏，3の甕は中央部床面から，4の甕は中央部覆土下層から，2の坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第114図　第58-A・58-B号住居跡実測図



第115図　第58-A号住居跡出土遺物実測図

第58-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A［13.4］ B（5.4）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。	口縁部内面磨滅，外面横ナデ。体部内面磨滅，外面ヘラ削り。	パミス・スコリア・石英・雲母・礫・砂粒 鈍い赤褐色　普通	P189　30% 床面 PL65
2	坏 土師器	A　15.4 B　4.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面磨滅，外面横ナデ。体部内面磨滅，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英・雲母・パミス・礫 橙色　普通	P190　50% 覆土中
3	甕 土師器	A［34.2］ B（19.5）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	礫・パミス・長石 明赤褐色 普通	P191　20% 床面
4	甕 土師器	A［22.8］ B（15.6）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	スコリア・雲母・パミス・礫 明赤褐色　普通	P192　10% 覆土下層

第58-B号住居跡（第114図）

位置　調査区の南西部，G3b_7区。

重複関係　本跡は，第58-A号住居跡の床を掘り込んで住居を構築しており，第58-A号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.3m，短軸2.54mの長方形である。

主軸方向　N－72°－W

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　南西壁の一部を除いて壁溝が巡っている。上幅約15cm，下幅約9cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

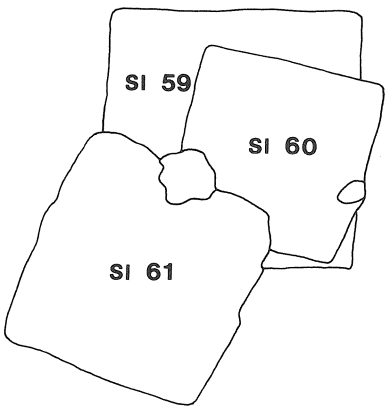
1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物　土師器片30点，須恵器片1点，瓦器1点が出土している。

所見　本跡は，壁溝の範囲で住居跡を推定しているため，竈の有無及び壁の状態は不明である。遺物等は細片が多く詳細な時期は不明であるが，重複関係及び出土遺物等から平安時代頃と思われる。

第59号住居跡（第116図）

位置　調査区の南西部，G3a$_9$区。



重複関係　本跡は，第58-A号住居跡，第60号住居跡及び第61号住居跡と重複している。本跡の床の上に第60号住居跡及び第58-A号住居跡が床を構築しており，第61号住居跡は本跡の南部を掘り込んでいることから，本跡が他の3軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.89m，短軸6.75mの方形である。

主軸方向　N－41°－W

壁　壁高は42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，第61号住居跡によって掘り込まれた南西壁を除いて，すべての壁下に壁溝が巡っている。上幅約10cm，下幅約6cm，深さ約6cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，主柱穴によって囲まれた範囲は踏み固められている。

ピット　5か所（P$_1$～P$_5$）。P$_1$～P$_4$は径22～39cmの不整円形，深さ30～52cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は長径80cm，短径54cmの不整楕円形，深さ35cmで，貯蔵穴の可能性がある。

炉　中央から北西壁寄りに位置し，長径97cm，短径62cmの楕円形で，床面を6cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

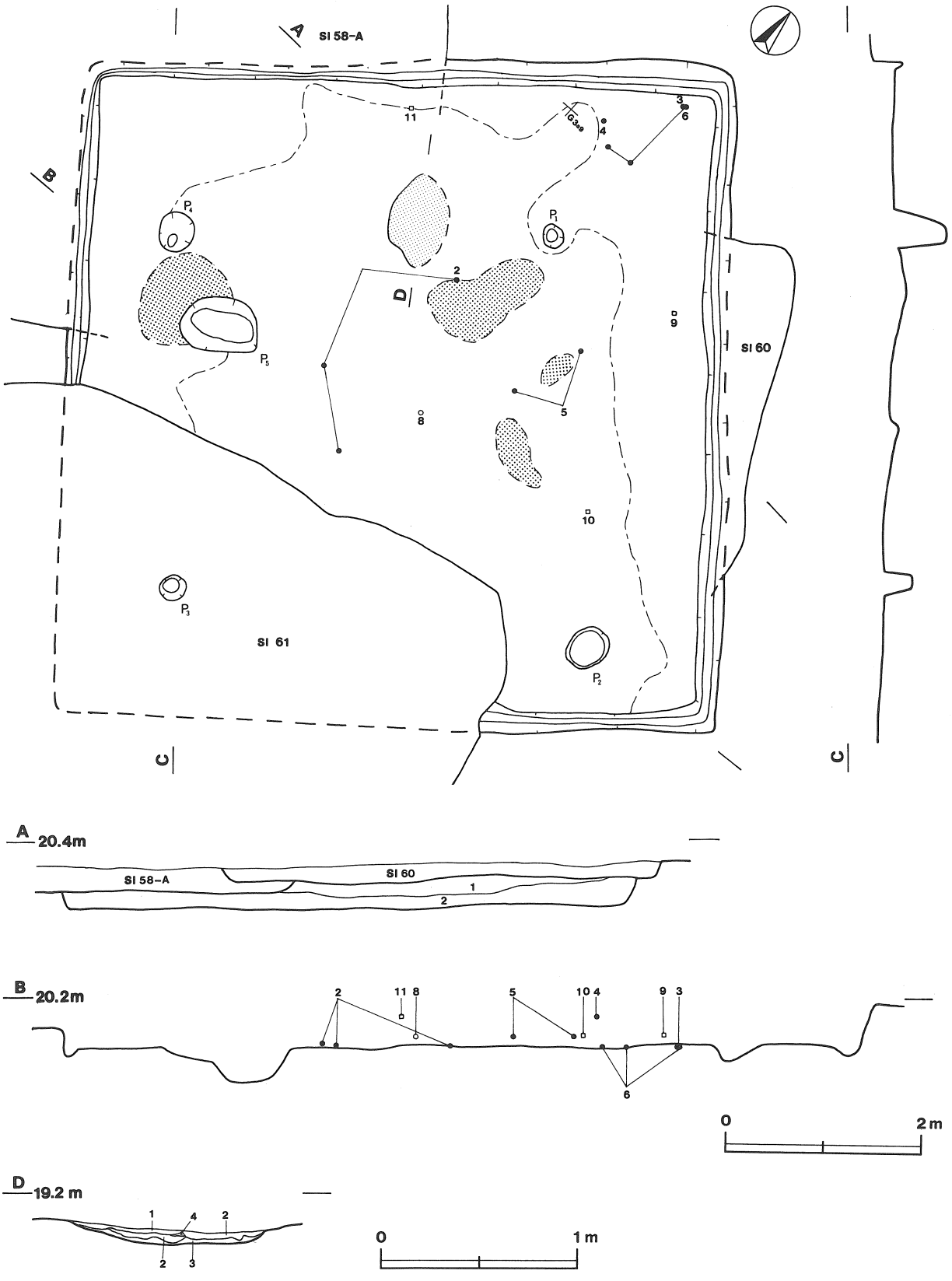
炉土層解説

1　暗　褐　色　焼土粒子多量，焼土中ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム中ブロック・灰少量
3　明黄褐色　ローム中・小ブロック多量，黒色土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土大・小ブロック多量，灰少量

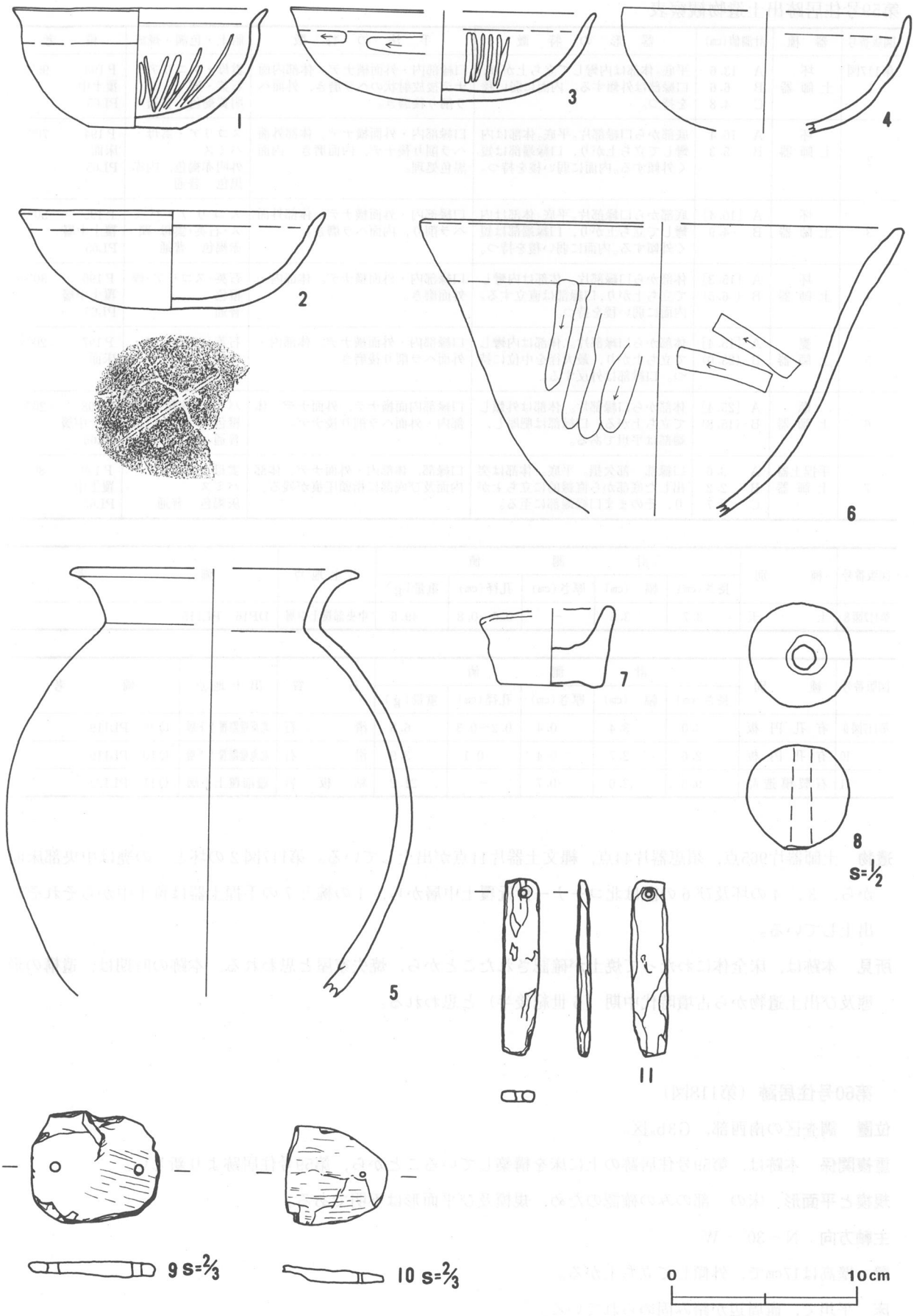
覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量



第116図　第59号住居跡実測図



第117図　第59号住居跡出土遺物実測図

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	坏 土師器	A 13.6 B 6.6 C 4.8	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ後放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	雲母・スコリア・石英・礫 明黄褐色 普通	P193 95% 覆土中 PL65
2	坏 土師器	A 16.4 B 5.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部は短く外傾する。内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ，内面磨き。内面黒色処理。	スコリア・雲母・パミス 外明赤褐色，内赤黒色 普通	P194 70% 床面 PL65
3	坏 土師器	A [16.4] B 4.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部は短く外傾する。内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。	スコリア・パミス・石英・雲母・礫 赤褐色 普通	P195 50% 覆土中層 PL65
4	坏 土師器	A [15.3] B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。	石英・スコリア・礫 橙色 普通	P196 30% 覆土中層 PL65
5	甕 土師器	A [15.4] B (23.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後磨き。	石英・スコリア・砂粒 鈍い赤褐色 普通	P197 20% 床面
6	甑 土師器	A [25.4] B (15.8)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は肥厚し，端部は平坦である。	口縁部内面横ナデ，外面ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・砂粒・石英 橙色 普通	P198 20% 覆土中層 PL65
7	手捏土器 土師器	A 3.6 B 2.2 C 2.7	口縁部一部欠損。平底。体部は突出した底部から直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部，体部内・外面ナデ。体部内面及び底部に指頭圧痕が残る。	雲母・スコリア・パミス 灰褐色 普通	P199 80% 覆土中 PL65

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第117図8	土玉	3.7	3.6	−	0.6〜0.8	49.6	中央部覆土中層	DP16 PL115

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第117図9	有孔円板	3.0	3.4	0.4	0.2〜0.3	6.8	滑石	北東壁際覆土下層	Q 9 PL119
10	有孔円板	2.6	2.7	0.4	0.1	3.9	滑石	北東壁際覆土下層	Q10 PL119
11	石製模造品	9.5	2.0	0.7	−	21.2	粘板岩	竈前覆土上層	Q11 PL122

遺物　土師器片965点，須恵器片44点，縄文土器片11点が出土している。第117図２の坏と５の甕は中央部床面から，３，４の坏及び６の甑は北コーナー付近覆土中層から，１の椀と７の手捏土器は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，床全体にわたって焼土が確認されたことから，焼失家屋と思われる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。

第60号住居跡（第118図）

位置　調査区の南西部，G3b$_8$区。

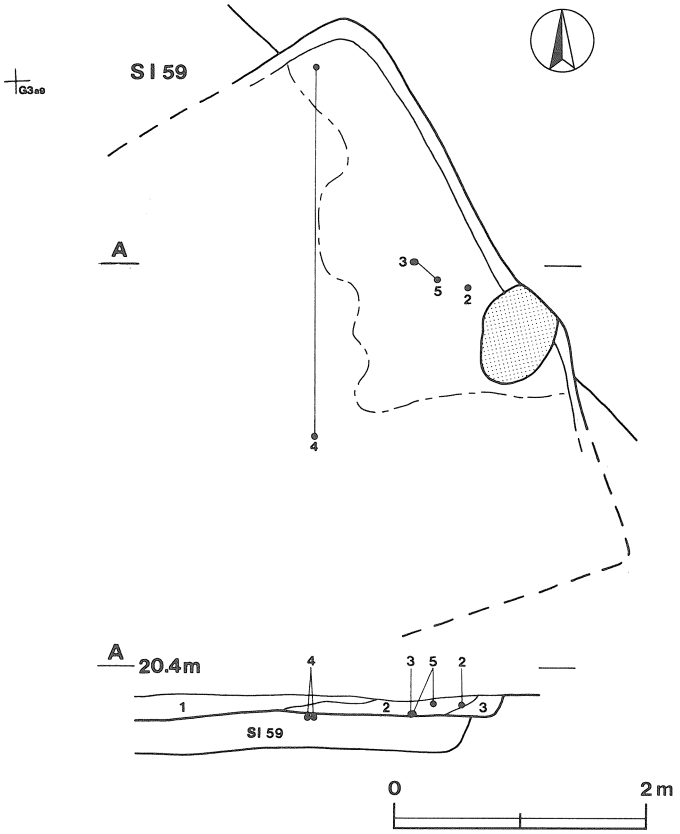
重複関係　本跡は，第59号住居跡の上に床を構築していることから，第59号住居跡より新しい。

規模と平面形　床の一部のみの確認のため，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－30°－W

壁　壁高は17cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈周辺が踏み固められている。



第118図　第60号住居跡実測図

竈　南東壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部の白色粘土の一部を確認する。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外への突出が少なく，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

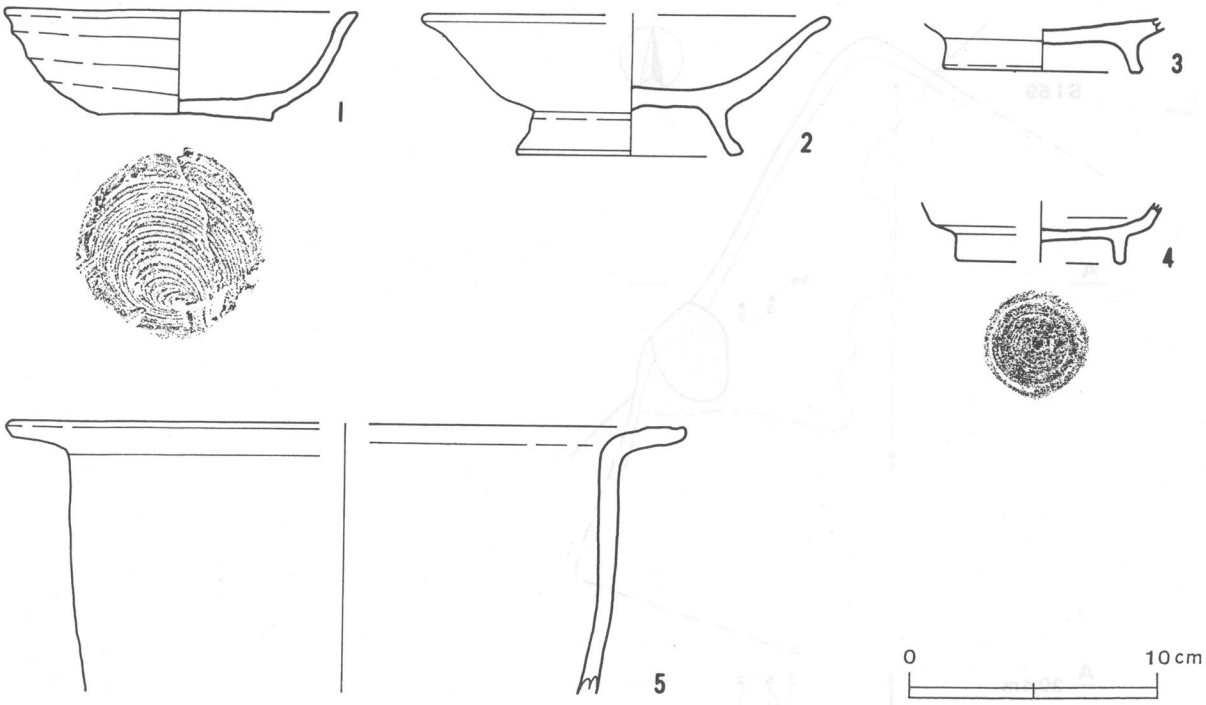
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　褐　　色　ローム中ブロック・ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　褐　　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 1	坏 土師器	A　14.0 B　4.3 C　7.2	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部はわずかに外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア・パミス・石英・礫 橙色　普通	P200　80% 竈覆土中 PL65
2	高台付坏 土師器	A［15.7］ B　5.6 D　8.8 E　1.7	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く長い高台が付く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後高台貼り付け。	雲母・石英 鈍い黄橙色 普通	P201　40% 覆土下層 PL65
3	高台付坏 土師器	B（2.3） D　7.8 E　1.3	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後高台貼り付け。	スコリア・パミス 赤橙色 普通	P202　20% 覆土下層
4	高台付坏 須恵器	B（2.5） D［6.5］ E　1.1	高台部片。高台はほぼ直立して付く。	底部内面ロクロナデ，外面回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・針状鉱物 オリーブ灰色 普通	P203　20% 床面
5	甕 土師器	A［26.6］ B（10.6）	体部から口縁部片。体部上位は直立して立ち上がり，口縁部は屈曲して横方向に張り出す。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ナデ。口縁部外面に指頭圧痕を残す。	石英・パミス・雲母 鈍い黄褐色 普通	P204　5% 覆土下層 PL65



第119図　第60号住居跡出土遺物実測図

遺物　土師器片27点，須恵器片７点が出土している。第119図１の坏は竈覆土中から，２の高台付坏，５の甑，３の高台付坏は竈横覆土下層から，４の須恵器高台付坏は北コーナー及び中央部床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（11世紀）と思われる。

第61号住居跡（第120図）

位置　調査区の南西部，G3b_9区。

重複関係　本跡は，第59号住居跡の南部を掘り込んでおり，第59号住居跡より新しい。南東壁中央部の近くに後世の撹乱と思われる土坑がある。

規模と平面形　長軸6.57m，短軸5.71mの長方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

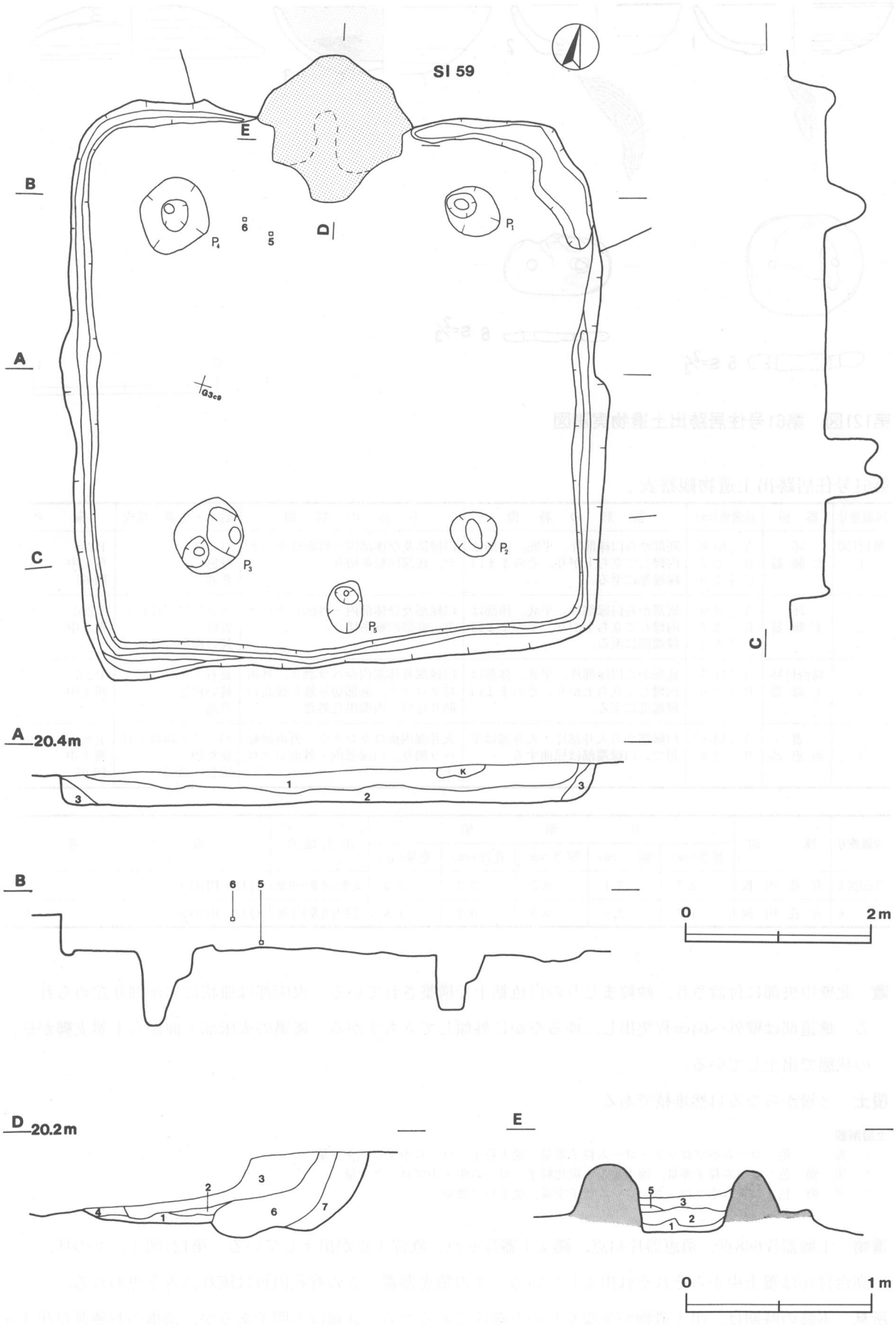
壁溝　全周する。上幅約14cm，下幅約７cm，深さ約６cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に踏み固められている。

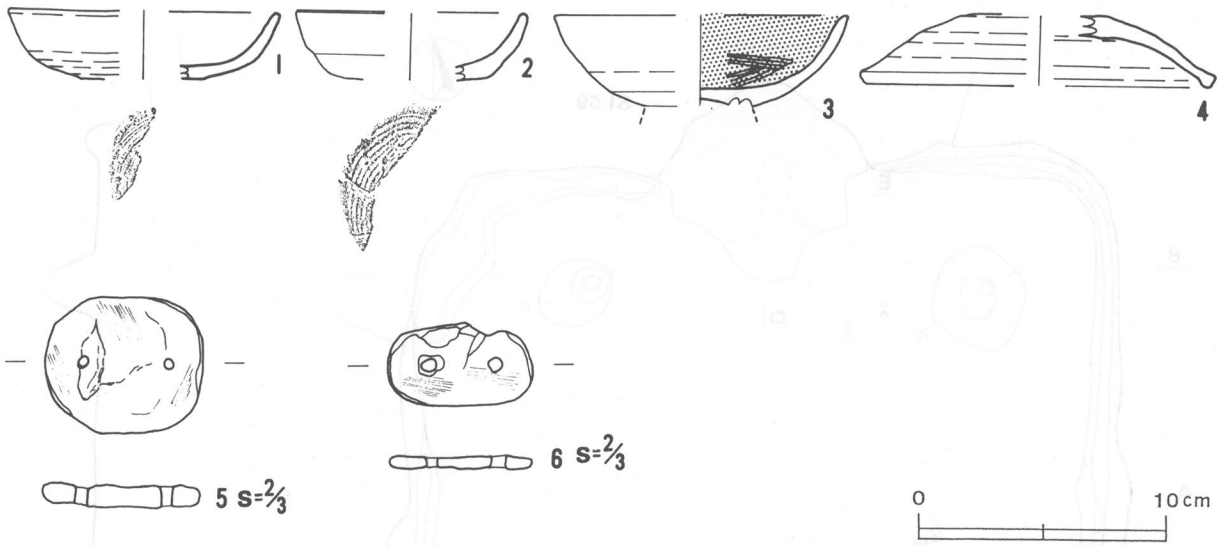
ピット　５か所（P_1～P_5）。P_1～P_4は径48cm～75cmの不整円形，深さ44cm～78cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_3内の深さ55cm，62cmの小ピットは柱穴の掘り変えによるものと思われる。P_5は長径58cm，短径37cmの楕円形，深さ42cmで，出入り口ピットと思われる。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子多量，灰少量
2　灰　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子多量
3　鈍　い　褐　色　粘土粒子多量，焼土小ブロック少量
4　鈍い黄褐色　焼土粒子少量
5　赤　褐　色　焼土中ブロック・焼土粒子多量
6　黒　褐　色　粘土大ブロック・粘土粒子多量，焼土大・中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　オリーブ褐色　焼土粒子・炭化粒子少量



第120図　第61号住居跡実測図



第121図　第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	坏 土師器	A［10.8］ B 2.7 C［5.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	パミス 橙色 普通	P205 30% 覆土中 PL65
2	坏 土師器	A［8.9］ B 2.7 C［6.1］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	スコリア・長石・雲母 鈍い橙色 普通	P206 20% 覆土中
3	高台付坏 土師器	A［11.5］ B（3.6）	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部切り離し後高台貼り付け。内面黒色処理。	長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P207 20% 覆土中
4	蓋 須恵器	A［13.6］ B 2.8	口縁部から天井部片。天井部は平坦で，口縁端部は屈曲する。	天井部内面ロクロナデ，外面回転ヘラ削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	パミス・砂粒・針状鉱物 灰色 普通	P208 20% 覆土中 PL65

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第121図5	有孔円板	2.7	3.1	0.5	0.2	7.3	北壁付近覆土中層	Q12 PL119
6	有孔円板	1.7	2.9	0.3	0.2	1.8	北壁付近覆土下層	Q13 PL119

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されている。火床部は皿状に16cm掘り窪められている。煙道部は壁外へ64cm程突出し，ゆるやかに外傾して立ち上がる。竈奥の火床部上面から土製支脚が横位の状態で出土している。

覆土　2層からなる自然堆積である。

土層解説

1　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片668点，須恵器片44点，縄文土器片9点，鉄滓1点が出土している。第121図1，2の坏，3の高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。4の須恵器蓋，5の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物片から平安時代（10世紀）と思われる。

第62号住居跡（第122図）

位置　調査区の南東部，G3d$_0$区。

規模と平面形　本跡の南東部分は調査区外に延びており，規模及び平面形は不明である。

主軸方向　N－65°－E

壁　壁高は17～28cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北西壁下にのみ壁溝が巡っている。上幅約15cm，下幅約８cm，深さ約６cmで，断面形は逆台形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

竈　北西壁北コーナー寄りに付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，右袖部は残っていない。煙道部は壁外への突出が少なく，火床面は熱変硬化している。

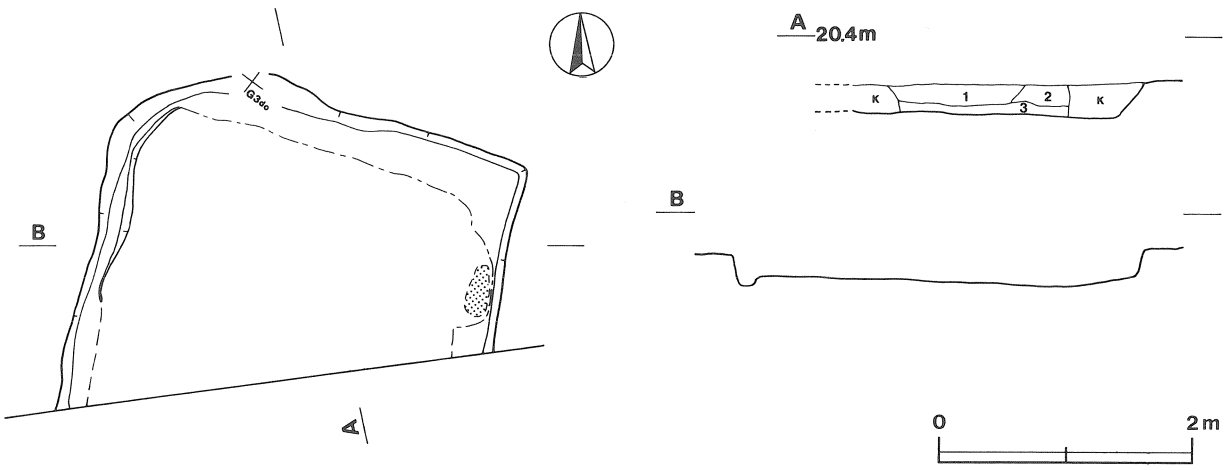
覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量
3　黒　褐　色　焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片92点，須恵器片７点，軽石１点が出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代頃と思われる。



第122図　第62号住居跡実測図

第63－A号住居跡（第123図）

位置　調査区の南西部，F3b$_5$区。

重複関係　本跡は，第63－B号住居跡の北東部を掘り込んでおり，第63－B号住居跡より新しい。

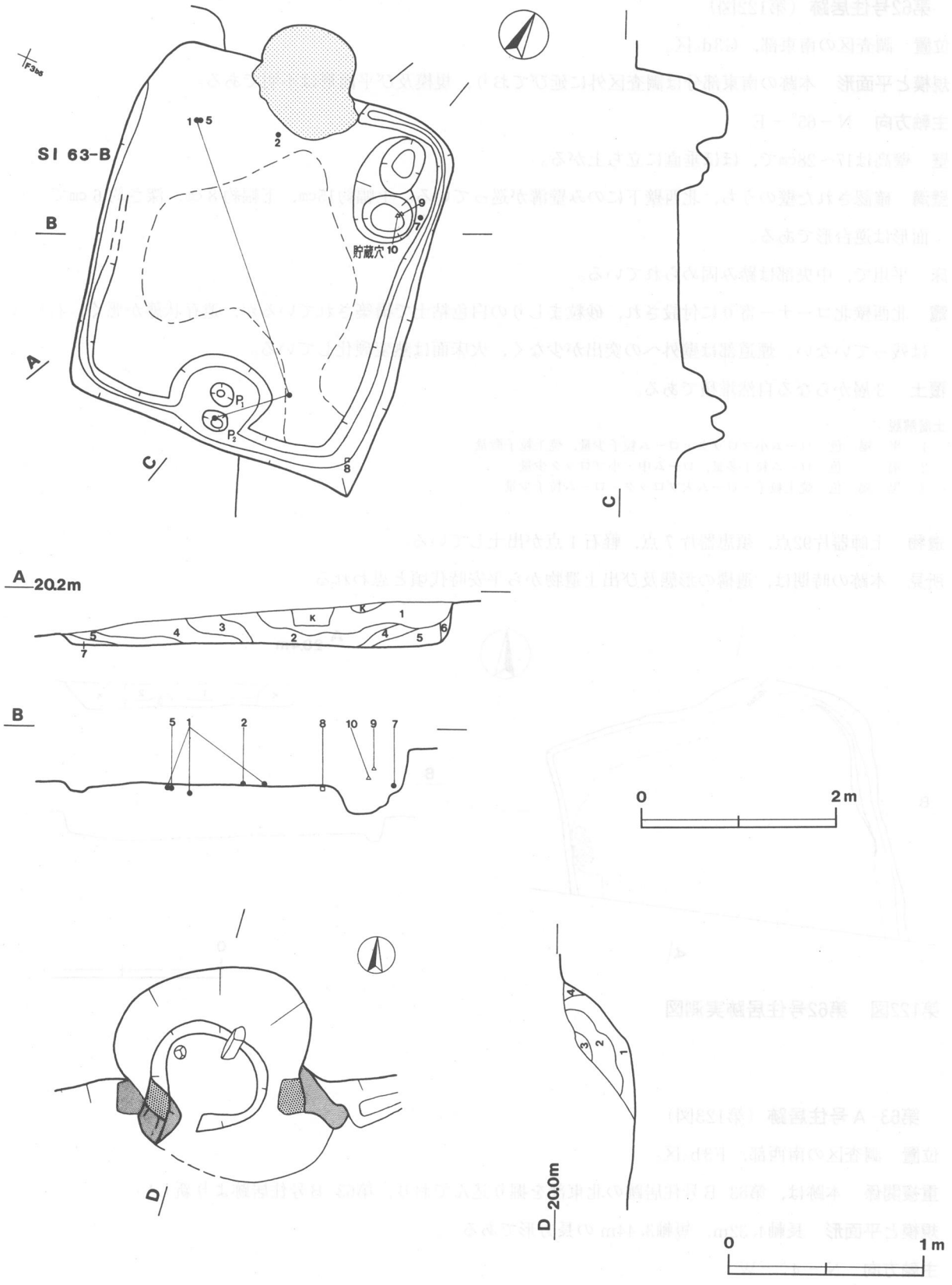
規模と平面形　長軸4.32m，短軸3.44mの長方形である。

主軸方向　N－４°－W

壁　壁高は53cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北西コーナーを除いて壁溝が巡っている。上幅約16cm，下幅約10cm，深さ約14cmで，断面形はＵ字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。



第123図　第63-A号住居跡実測図

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1は長径84cm，短径60cmの不整楕円形で，内部に径20cm程の不整円形，深さ50cm程の小ピットを2か所有し，貯蔵穴の可能性がある。P_2は長径104cm，短径92cmの楕円形で，内部の南壁直下に深さ48cm，底径40cmと，その北側に深さ26cm，底径24cmの2か所の小ピットがある。南壁直下のピットは貯蔵穴，その隣は入口部ピットの可能性がある。

貯蔵穴　東コーナーに付設され，長径116cm，短径60cmの楕円形で，深さは48cmである。床面から30cmの深さから，径18cmと20cm，深さ15cmの2つの小ピットに分かれる。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されており，両袖部先端には芯材として使用した長さ33cmの凝灰岩の切石が立てられている。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ54cmほど突出し，緩やかに外傾して立ち上がる。火床部には太さ10cm，長さ20cm～27cmの大きさの凝灰岩製の支脚が2本据えられている。

竈土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・炭化粒子多量，灰中量，粘土小ブロック少量
2　鈍い黄褐色　粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・黒色土少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，粘土粒子中量，焼土粒子少量

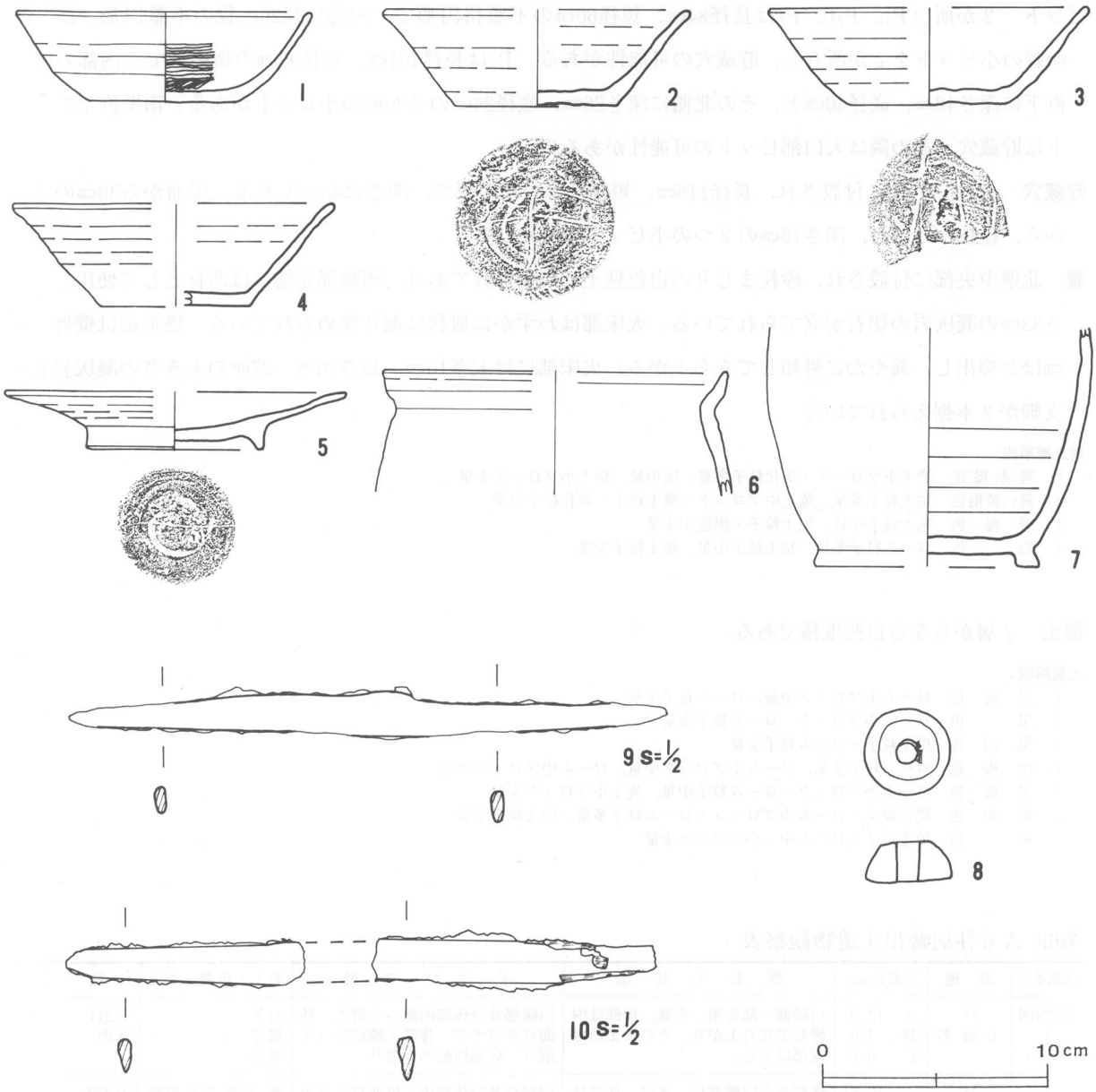
覆土　7層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
6　暗　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量
7　褐　　色　焼土粒子・ローム中・小ブロック少量

第63-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	坏 土師器	A 13.0 B 4.0 C 6.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	石英 褐色 普通	P211　70% 床面
2	坏 須恵器	A [13.6] B 4.3 C 7.1	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	礫・石英・針状鉱物 灰色 普通	P212　60% 床面　底部にヘラ記号　PL65
3	坏 須恵器	A [14.2] B 4.3 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部内面強い指ナデ，外面回転ヘラ切り後ナデ。	パミス・礫 灰黄色 普通	P213　20% 覆土中
4	坏 須恵器	A [14.1] B 4.6 C [6.5]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラナデ調整。	石英・長石 灰黄色 普通	P214　20% 貯蔵穴内覆土中 PL65
5	皿 須恵器	A [15.0] B 2.6 D 7.8	高台部から口縁部片。直線的に開く短い高台が付く。体部は外傾して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後高台張り付け。	長石・石英・礫・雲母・針状鉱物 褐灰色 普通	P215　70% 床面 PL65
6	甕 土師器	A [15.0] B (5.5)	体部から口縁部片。体部上位は内傾する。口縁部は外傾し，口縁端部で上方につまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・スコリア 鈍い橙色 普通	P216　5% 貯蔵穴内覆土中 PL65
7	長頸瓶 須恵器	B (10.6) D [9.8] E 0.8	高台部から体部片。直線的に開く短い高台が付く。体部は緩く内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後，高台張り付け。	礫・長石 灰色 普通	P217　20% 覆土中層 PL65



第124図　第63－A号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第124図8	紡錘車	3.8	3.9	1.8	0.9	41.3	滑石	南東コーナー床面	Q14　PL120

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第124図9	刀子	17.7	1.4	0.35	－	20.2	北東コーナー覆土中層	M2　PL123
10	刀子	－	1.8～1.5	0.6～0.3	－	(20.3)	北東コーナー覆土下層	M3　PL123

遺物　土師器片1653点，須恵器片104点，縄文・弥生土器片18点，鉄滓１点が出土している。第126図１の坏は散在した状態で床面から，２の須恵器坏は竈前床面から，４の須恵器坏と６の甕は貯蔵穴内覆土中から，５の皿は北西コーナー付近床面から，７の須恵器長頸瓶は北東コーナー覆土中層から，３の須恵器坏は覆土中

からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第63-B号住居跡（第125図）

位置　調査区の南西部，F3c$_4$区。

重複関係　本跡は，第63-A号住居跡に北東部を掘り込まれており，第63-A号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸9.68m，短軸9.64mの方形である。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は30～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約18cm，下幅約12cm，深さ約9cmで，断面形はU字状である。南西コーナーから北西コーナーに向かう壁溝には，さらに内側に並行して溝がもう1条認められる。上幅約18cm，下幅約8cm，深さ約14cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，床に構築された溝と溝の間も含めて大部分が硬く踏み固められている。床には，北壁から中央に向かって4条，東壁から中央に向かって2条，南壁から中央に向かって4条，西壁から中央に向かって3条の溝がそれぞれ構築されている。上幅約24cm，下幅約12cm，深さ約9cm，長さ1.02～7.08mで，断面形はU字形である。南壁の内側には2条の溝を囲むように馬の背状の高まりが見られる。

ピット　11か所（P$_1$～P$_{11}$）。P$_1$～P$_8$は径28～42cmの円形，深さ47～75cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_9$，P$_{10}$は径30～32cm，深さ8～10cmで，出入り口ピットと思われる。P$_{11}$は径38cmの円形，深さ76cmで，入口部施設に伴う柱穴の可能性がある。

貯蔵穴　南壁中央部に，壁外に94cm張り出した状態で付設されている。長径120cm，短径84cmの楕円形で，深さは53cm，断面形は擂り鉢形である。

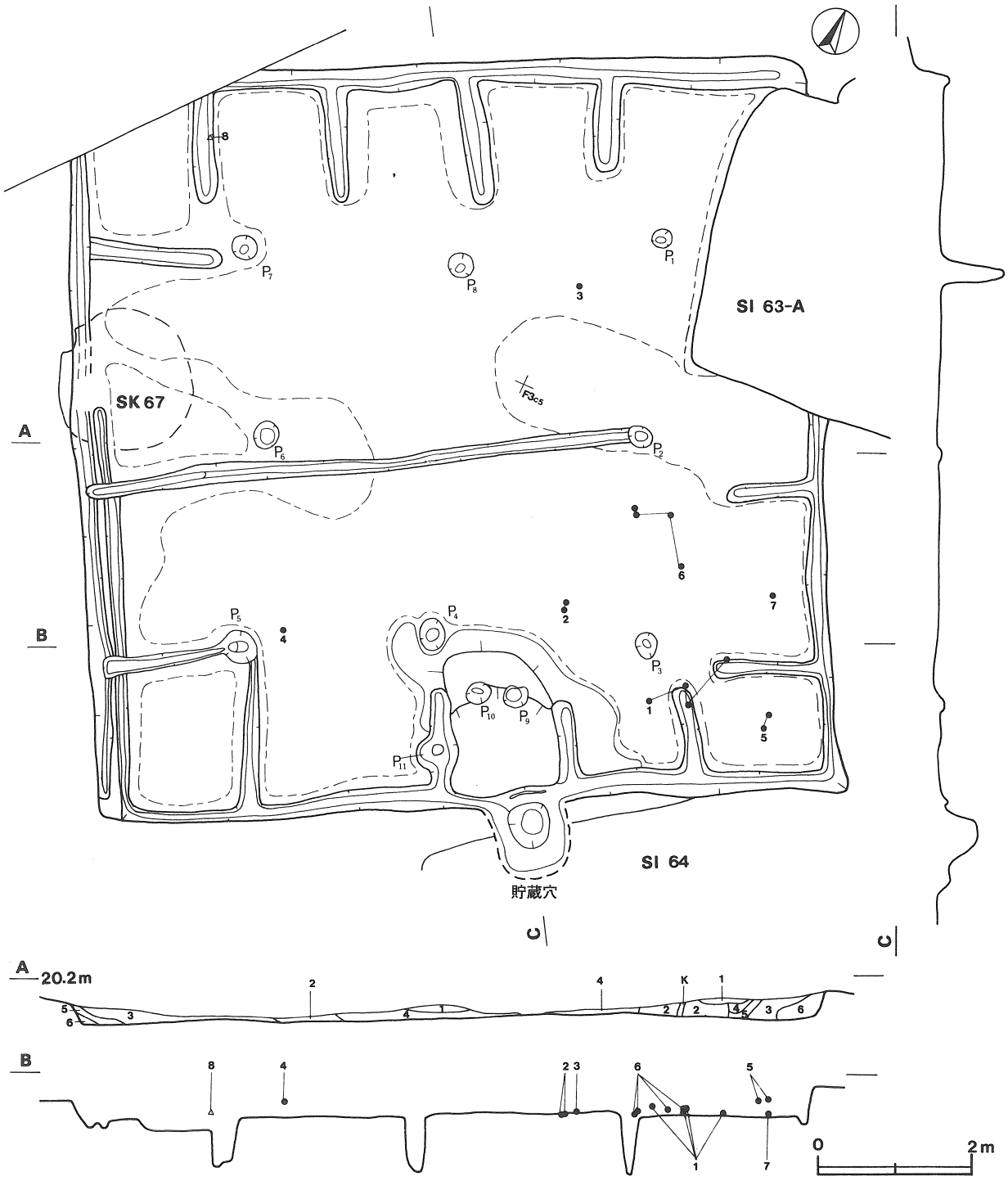
覆土　6層からなる。各層にロームブロックやローム粒子を含んでおり，人為堆積と思われる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
6　暗　褐　色　炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子少量

遺物　土師器片26点，縄文・弥生土器片12点が出土している。第126図1の坏は東コーナー付近床面から，5の甕は同位置の覆土中層から，2の坏は南東壁付近床面から，3の坏は北西壁付近床面から，4の坏は西コーナー覆土中層から，6の甑は中央部覆土下層から，7の手捏土器は北東壁床面からそれぞれ出土している。

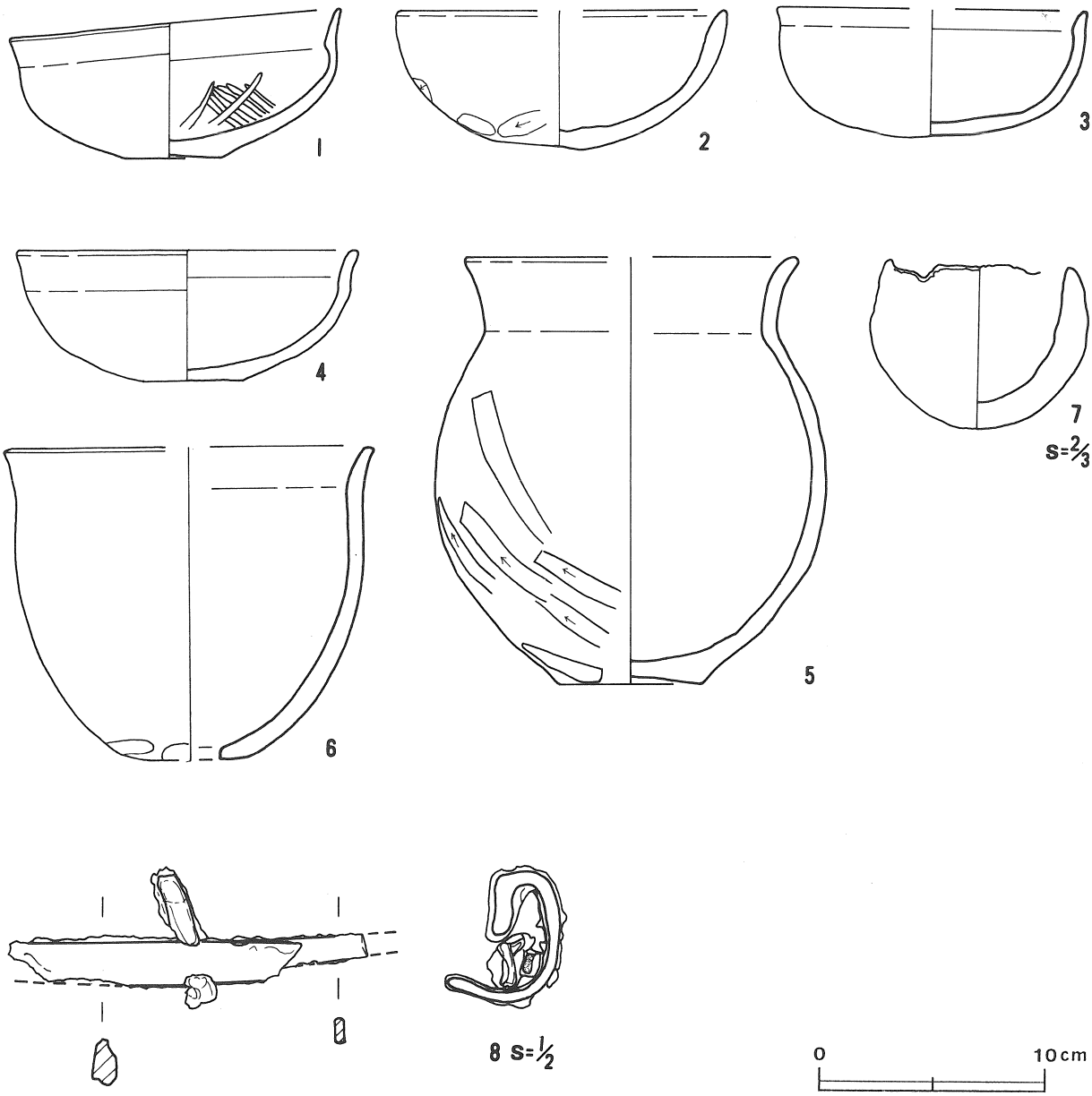
所見　本跡は，焼土や炭化物が床面に広がっていることから，焼失家屋と思われる。また，本跡は一辺9.6mという大型の住居跡である点，この時期に見られる炉を持たない点，中央の床に西壁から中央に向かって約7mの溝が構築されている点，住居内の溝が確認しただけでも13条と多い点，住居跡内の隅々まで床が硬く締まっている点などから，特殊な機能を持った住居跡の可能性がある。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から，古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。



第125図　第63-B号住居跡実測図

第63-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	坏 土師器	A 14.7 B 6.6 C 4.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部内面に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア・石英 明赤褐色 普通	P218　90% 床面 PL66
2	坏 土師器	A [14.4] B 7.2 C 4.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剝離，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・礫 赤色 普通	P219　70% 床面 PL66



第126図　第63-B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏 土師器	A［13.6］ B　5.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剝離，外面ヘラ削り後磨き。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P220　85% 床面 PL66
4	坏 土師器	A　15.0 B　5.8 C［4.5］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス・礫 赤色 普通	P221　50% 覆土中層 PL66
5	甕 土師器	A［14.6］ B　18.9 C［6.4］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	パミス・スコリア・長石 鈍い橙色 普通	P222　30% 覆土中層 PL66
6	甑 土師器	A［16.4］ B　13.9	底部から口縁部片。単孔式。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ，下端ヘラ削り。	雲母 鈍い黄橙色 普通	P223　30% 覆土下層 PL66
7	手捏土器 土師器	A　4.0 B　3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。口縁部に指頭圧痕を残す。	石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P224　95% 床面 PL66

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第126図8	刀子	(10.6)	1.6	0.3～0.7	−	(36.7)	西コーナー付近床面	M4 PL123

第64号住居跡（第127図）

位置　調査区の南西部，F3d$_6$区。

重複関係　本跡は，第63−B号住居跡に北部を掘り込まれており，第63−B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.19m，短軸4.19mの長方形である。

主軸方向　N−54°−W

壁　壁高は38cmで，外傾して立ち上がる。

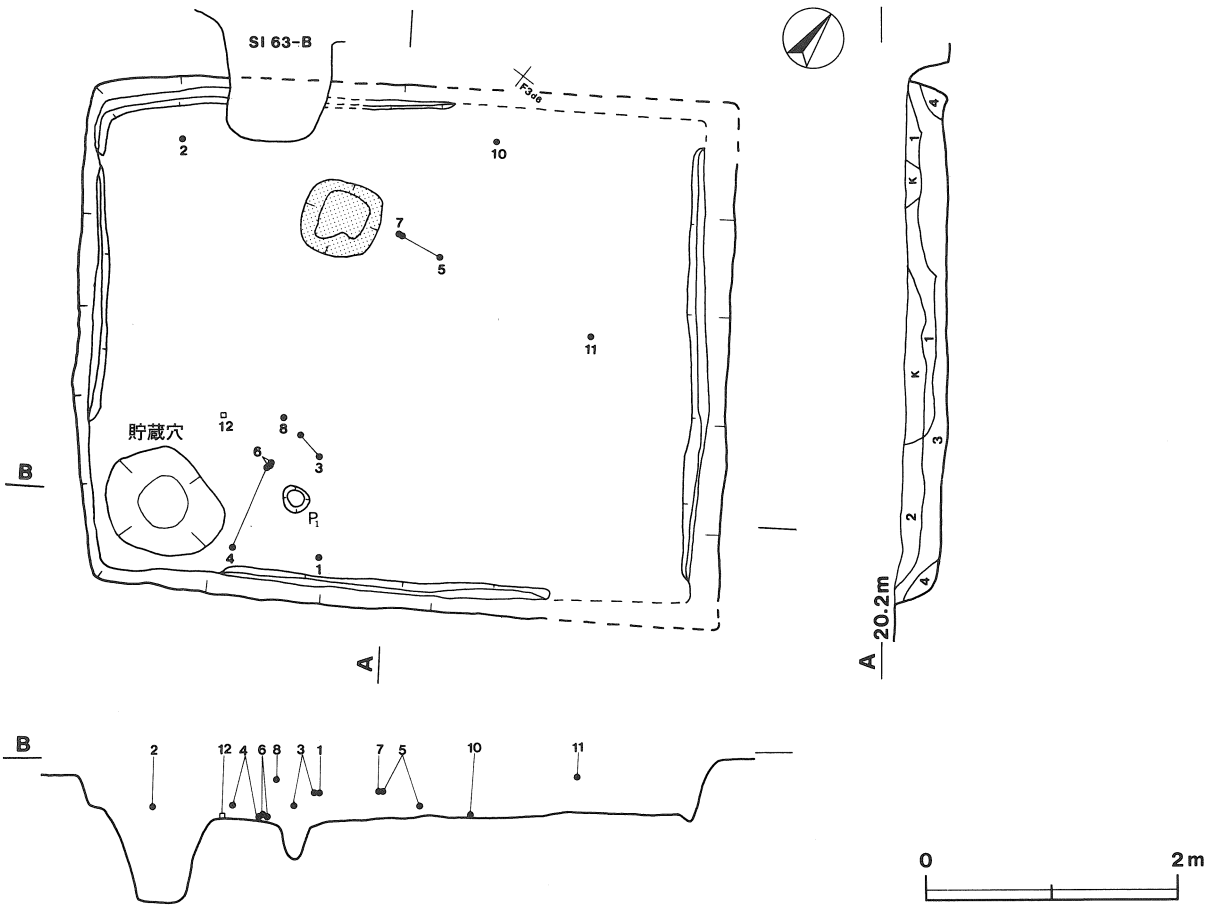
壁溝　確認された壁のうち，南西コーナー及び北東コーナーを除いて壁溝が巡っている。上幅約9cm，下幅約4cm，深さ約5cmで，断面形はU字状である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　P$_1$は径23cmの円形，深さ32cmで，配置や規模から出入り口ピットと思われる。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，径46cm程の円形で，深さは65cm，断面形は擂り鉢形である。

炉　中央から北寄りに位置し，径63cmの円形で，床面を11cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。



第127図　第64号住居跡実測図

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

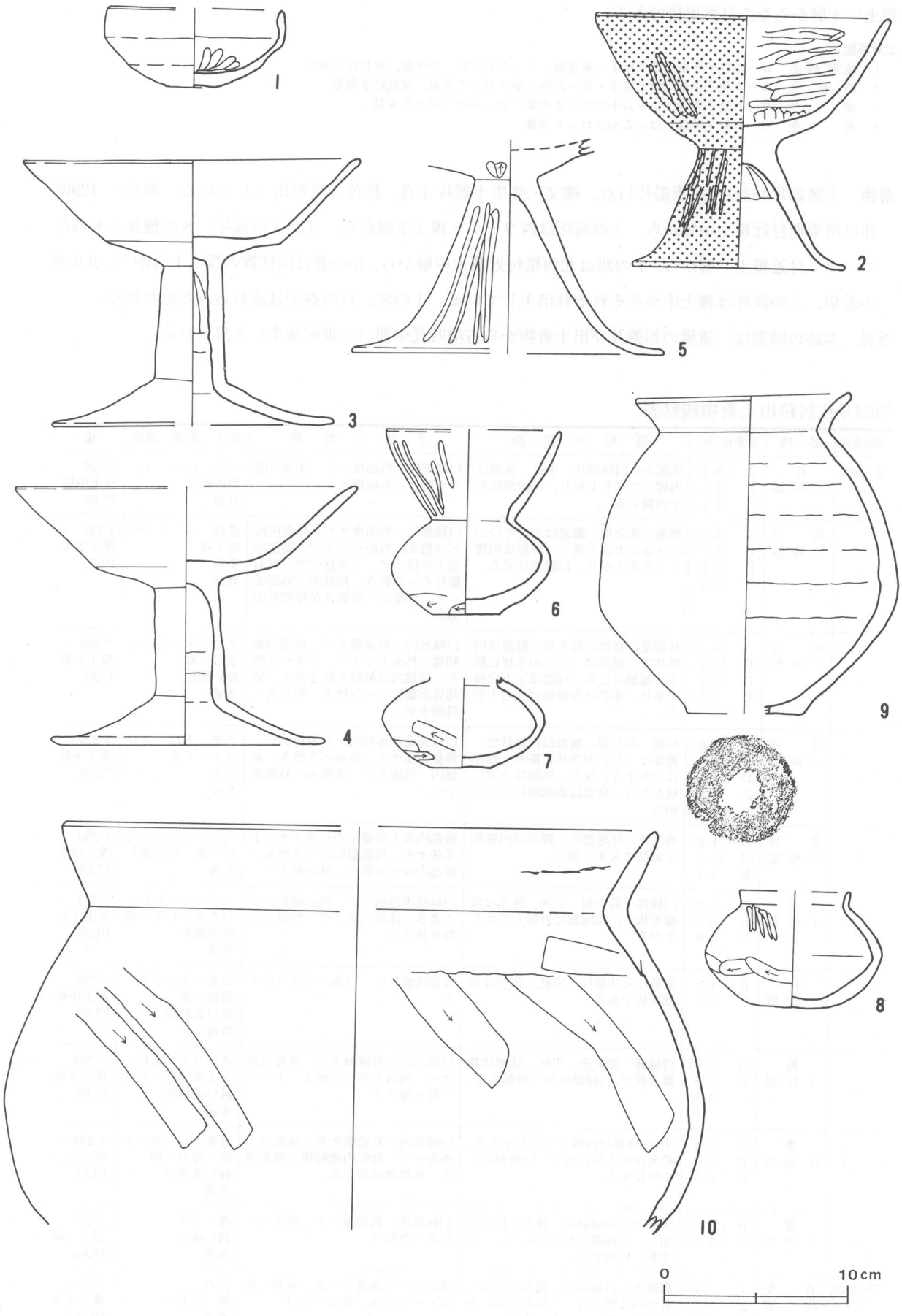
1　極暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中・小ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片463点，須恵器片11点，縄文・弥生土器片3点，鉄滓3点が出土している。第128・129図1の坏は南東壁付近覆土中層から，2の高坏は西コーナー覆土下層から，3，4の高坏，8の椀及び6の坩は南コーナー付近覆土下層から，7の坩は北西壁付近覆土中層から，10の甕は同位置の覆土下層から，9の甕，11の香炉，5の高坏は覆土中からそれぞれ出土している。1の坏，11の香炉は流れ込みと思われる。

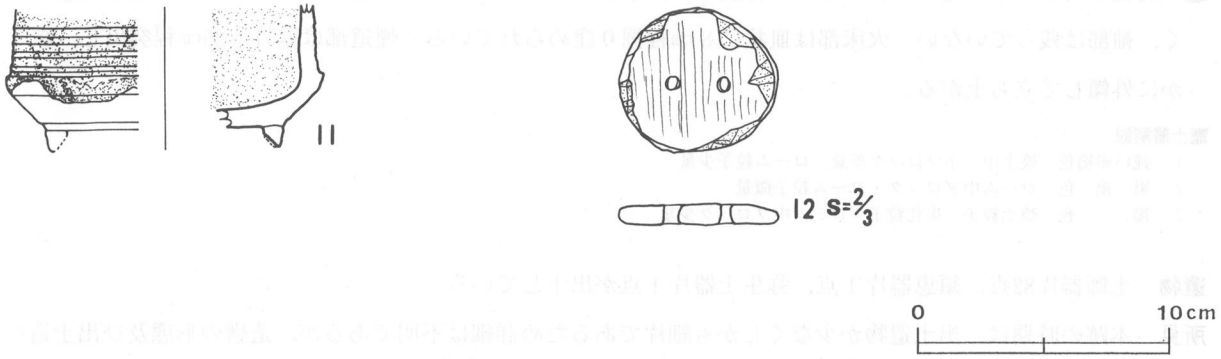
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第128図1	坏 土師器	A［9.4］ B　4.3 C　2.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面磨き。	石英・長石 明赤褐色 普通	P225　50% 覆土中層 PL66
2	高坏 土師器	A　15.9 B　13.7 D　11.4 E　6.4	脚部一部欠損。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラナデ。脚部内面上半指ナデ，下半横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。坏部内・外面及び脚部外面赤彩。	雲母・パミス・砂粒・礫 赤色 普通	P227　95% 覆土下層 PL66
3	高坏 土師器	A　18.3 B　14.5 D　15.0 E　8.7	坏部及び裾部一部欠損。脚部は円筒状で，裾部は「ハ」の字状に開き，端部で反る。坏部は下方に稜があり，体部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剝離，外面上半ナデ，下半ヘラ削り。脚部内面輪積み痕を残す。脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面ナデ。	スコリア・石英・雲母・礫 鈍い橙色 普通	P228　60% 覆土下層 PL66
4	高坏 土師器	A［18.6］ B　14.0 D　14.8 E　8.6	坏部一部欠損。脚部は円筒状で，裾部は「ハ」の字状に開き，端部はやや上方に反る。坏部は下方に稜があり，体部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。脚部内面ナデ，外面ヘラ磨き。裾部内・外面ナデ。端部内・外面横ナデ。	石英・雲母・スコリア・石英 橙色 普通	P229　50% 覆土下層 PL66
5	高坏 土師器	B（11.6） D　17.0 E　9.4	脚部片，坏底部片。脚部は円錐形で裾部で大きく開く。	脚部内面上半縦位のヘラナデ，下半横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。端部内面ヘラ磨き，外面横ナデ。	パミス・石英・雲母・礫　明赤褐色 普通	P230　30% 覆土中層 PL66
6	坩 土師器	A［9.3］ B　10.0 C　3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・長石・パミス・石英・礫 明赤褐色 普通	P231　70% 覆土下層 PL66
7	坩 土師器	B（4.9） C　3.0	底部から体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア・雲母・礫 鈍い黄橙色 普通	P232　60% 覆土中層 PL66
8	椀 土師器	A［6.0］ B　6.3 C　3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上半ヘラ磨き，下半ヘラ削り後ナデ。	スコリア・雲母・パミス・長石・石英 鈍い赤褐色 普通	P233　50% 覆土下層 PL66
9	甕 土師器	A　11.5 B　17.5 C［6.0］	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を下位に持つ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面輪積み痕を残す。底部焼成後穿孔。	石英・パミス・雲母・長石・礫 鈍い黄褐色 普通	P234　95% 覆土中 PL67
10	甕 土師器	A［32.0］ B（22.0）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は頸部から「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	礫・石英 鈍い橙色 普通	P235　15% 覆土下層 PL66
第129図11	香炉 陶器	B（5.7） D［9.1］ E　0.8	脚部から口縁部片。底部に指頭圧痕の残る脚が付く。体部下端に稜を持ち，直立して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ後，施釉。底部ヘラ切り後，脚張り付け。	長石 鈍い黄橙色 普通	P236　10% 覆土中層 PL66



第128図　第64号住居跡出土遺物実測図(1)



第129図　第64号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	種　別	計測値					出土地点	備　考
		長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第129図12	有孔円板	2.8	3.0	0.4	0.3	6.4	南コーナー付近床面	Q15　PL119

第65号住居跡（第130図）

位置　調査区の南西部，F3e$_5$区。

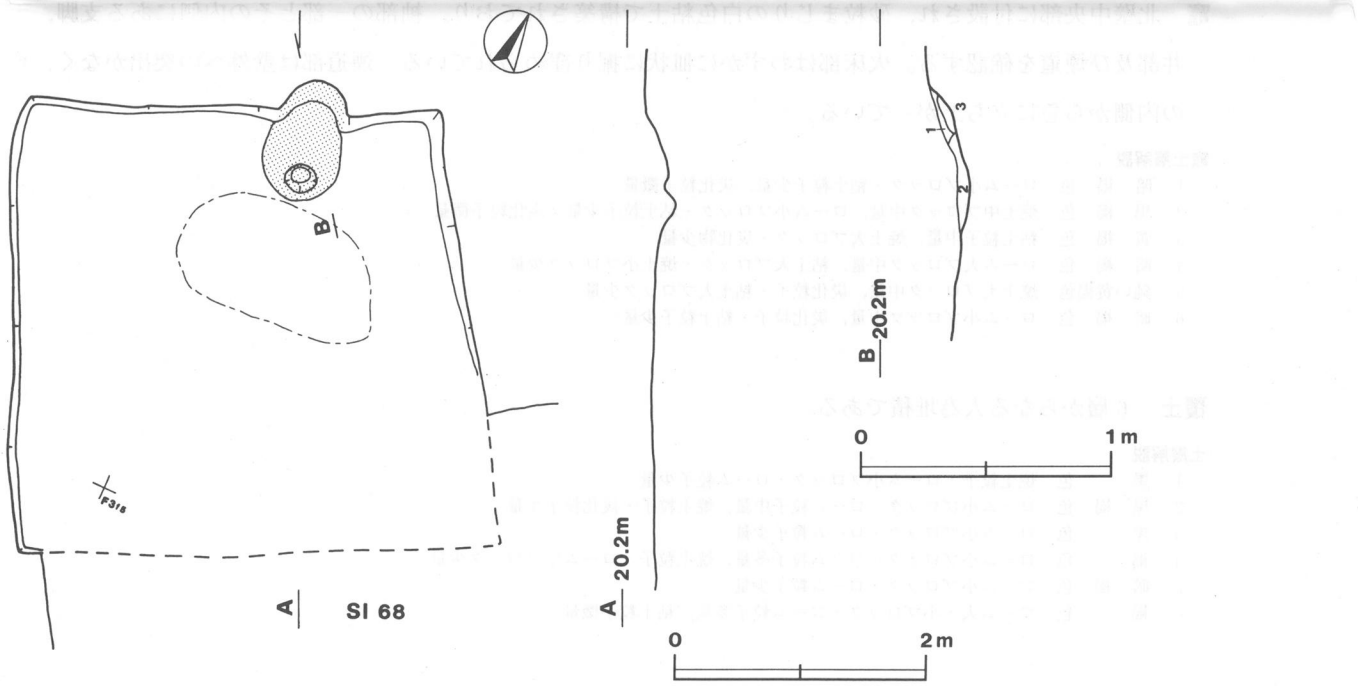
重複関係　本跡は，第68号住居跡の床の上に床を構築しており，第68号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸3.78m，短軸3.65mの方形である。

主軸方向　N－25°－E

壁　壁高は8㎝で，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，竈前が踏み固められている。



第130図　第65号住居跡実測図

竈　北壁中央よりやや北コーナー寄りに付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部は皿状に８㎝程掘り窪められている。煙道部は壁外へ25㎝程突出し，緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　鈍い赤褐色　焼土中・小ブロック多量，ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム中ブロック・ローム粒子微量
3　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量

遺物　土師器片82点，須恵器片１点，弥生土器片１点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代頃と思われる。

第66号住居跡（第131図）

位置　調査区の南西部，F3e$_7$区。

重複関係　本跡は，第86-Ｂ号住居跡，第64号住居跡及び第68号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，３軒の住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸6.02m，短軸5.86m の方形である。

主軸方向　Ｎ－25°－Ｗ

壁　壁高は41㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北西壁にのみ壁溝が巡っている。上幅約15㎝，下幅約７㎝，深さ約４㎝で，断面形はＵ字形である。

床　平坦で，入口部から中央部，さらに竈前まで硬く踏み固められている。

ピット　６か所（P$_1$～P$_6$）。P$_1$～P$_4$は径60～114㎝の不整円形及び楕円形，深さ64～85㎝で，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$，P$_6$は径22～29㎝，深さ38㎝～42㎝で，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されており，袖部の一部とその内側にある支脚，天井部及び煙道を確認する。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出がなく，壁の内側から急に立ち上がっている。

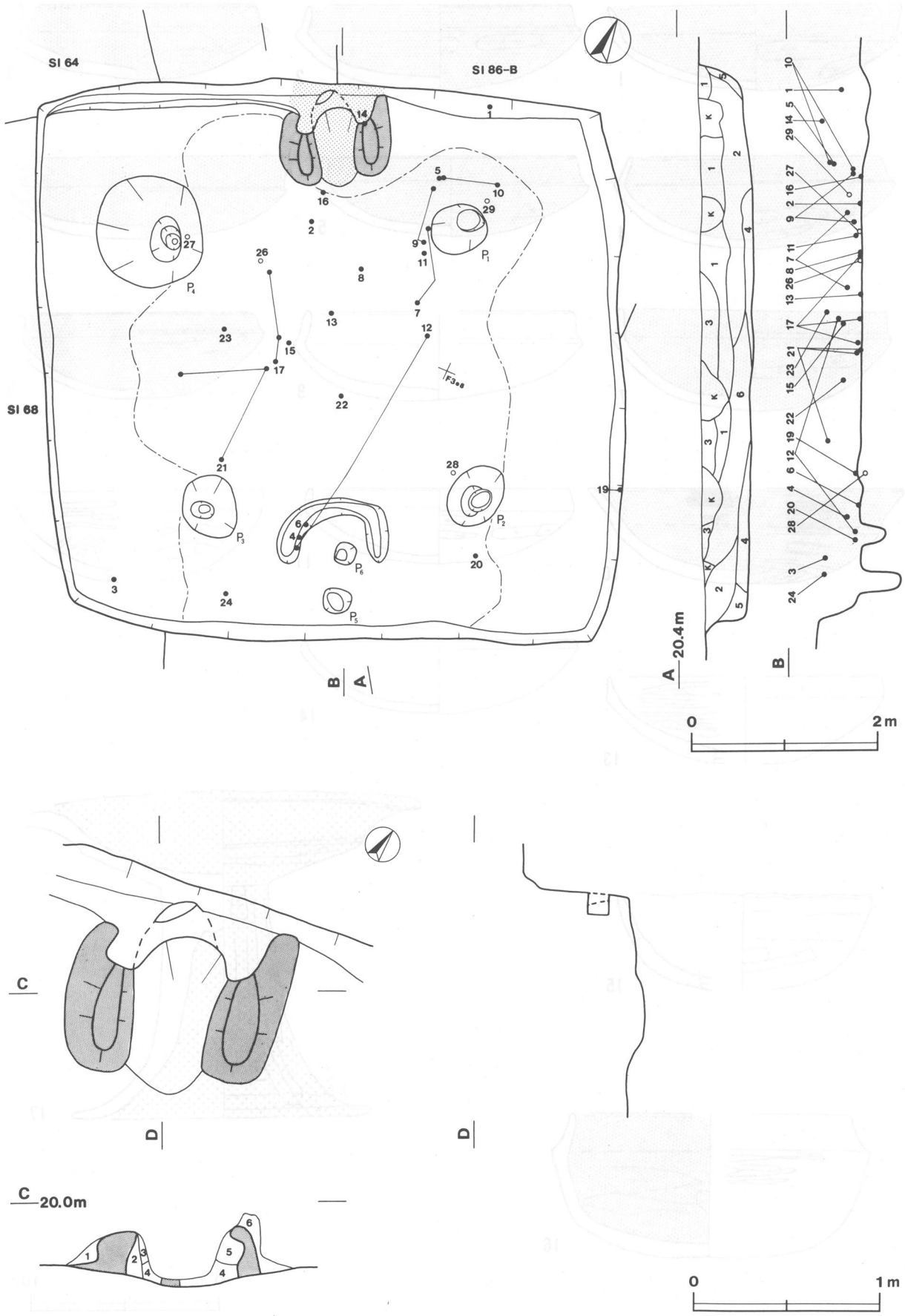
竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土中ブロック中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
3　黄　褐　色　粘土粒子中量，焼土大ブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　ローム大ブロック中量，粘土大ブロック・焼土小ブロック少量
5　鈍い黄褐色　焼土大ブロック中量，炭化粒子・粘土大ブロック少量
6　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量

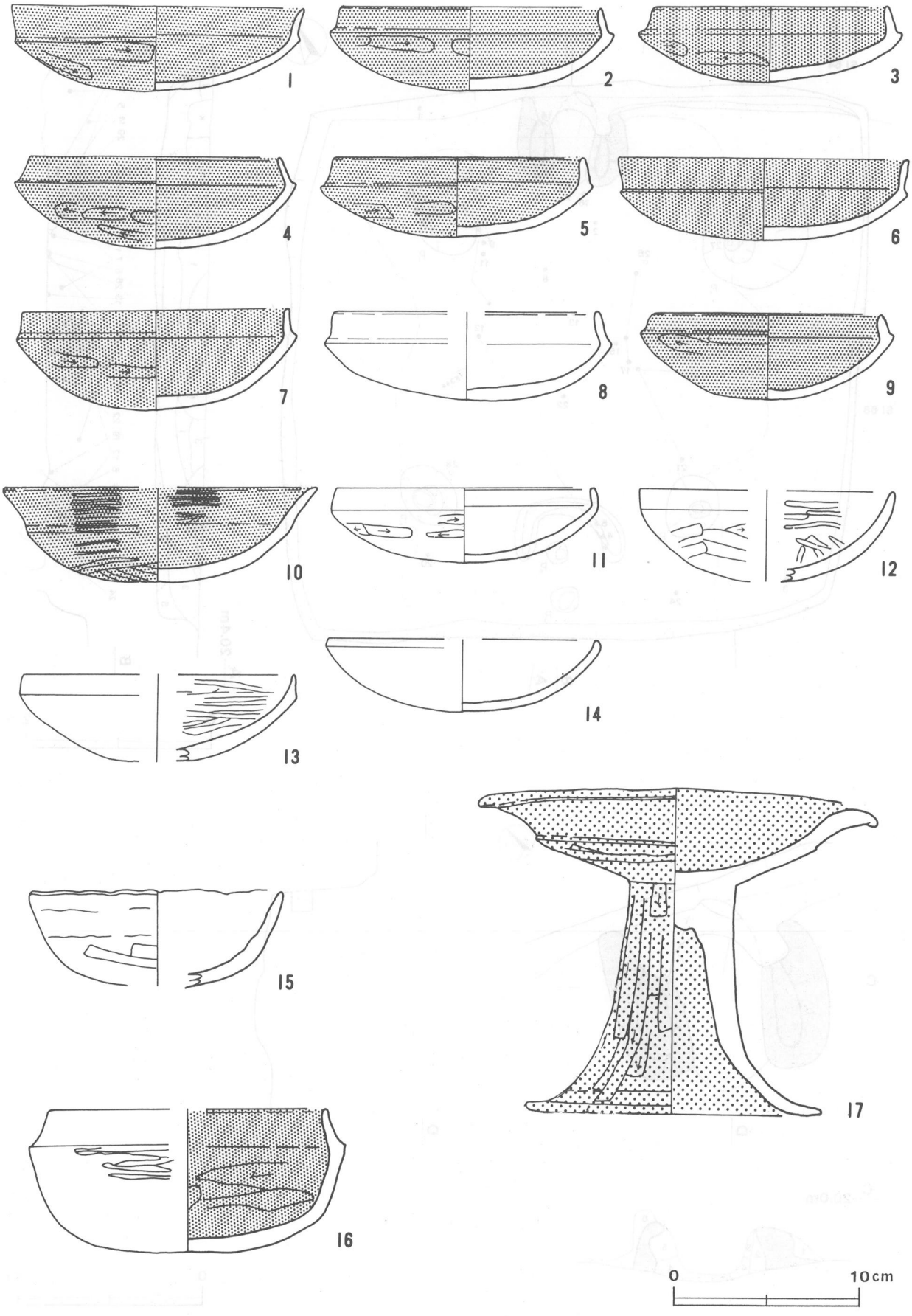
覆土　６層からなる人為堆積である。

土層解説

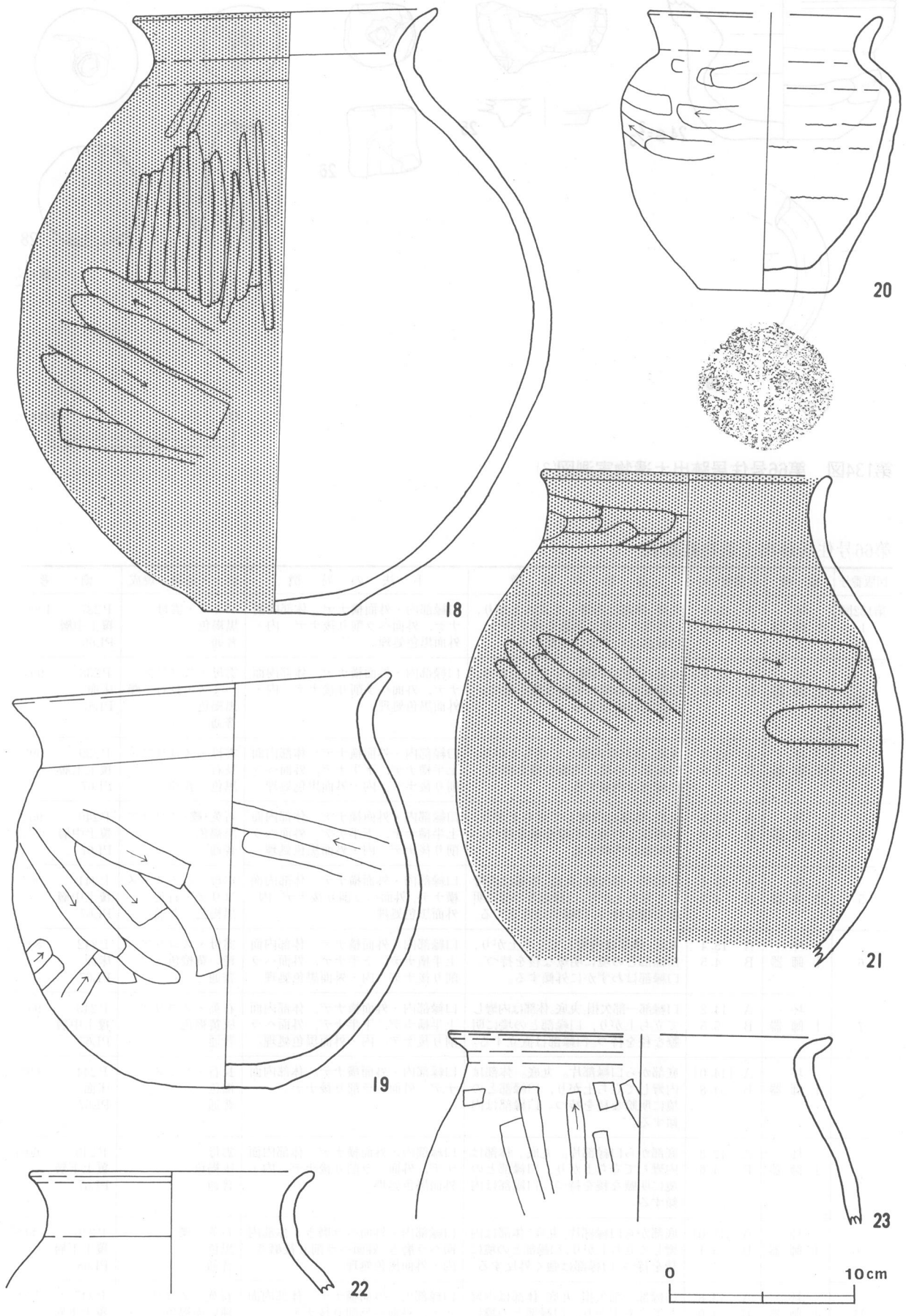
1　黒　　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土粒子・ローム中ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子多量，粘土粒子微量



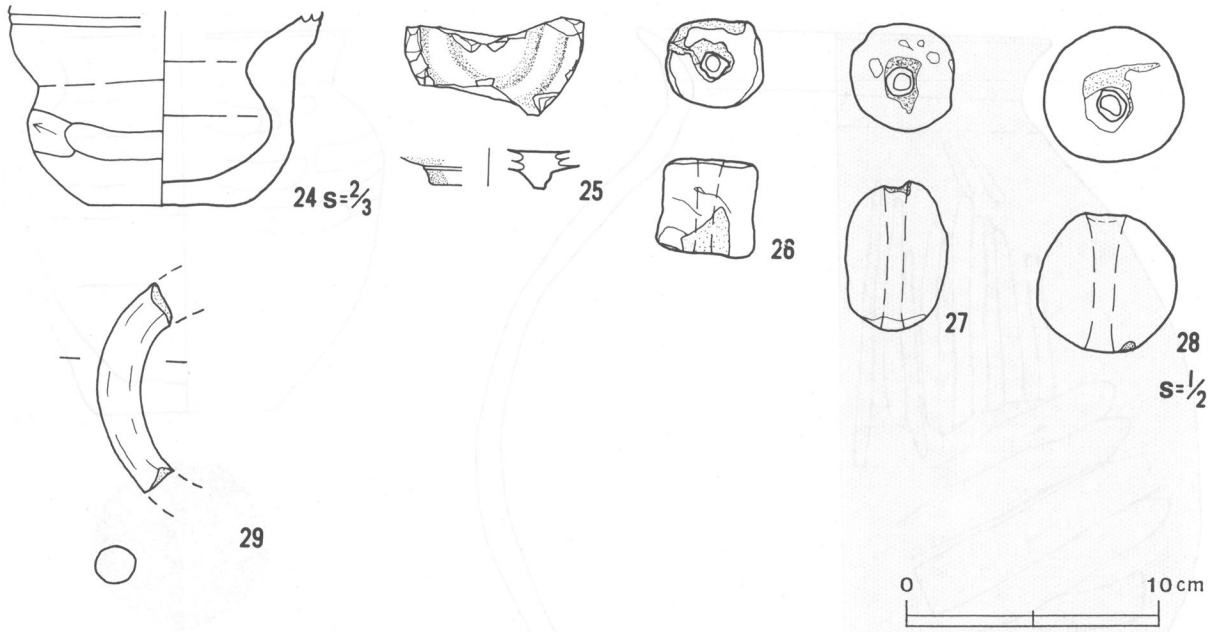
第131図　第66号住居跡実測図



第132図　第66号住居跡出土遺物実測図(1)



第133図　第66号住居跡出土遺物実測図(2)



第134図　第66号住居跡出土遺物実測図(3)

第66号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	坏 土師器	A 15.8 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	パミス・雲母 黒褐色 普通	P237　100% 覆土中層 PL66
2	坏 土師器	A 13.8 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア・パミス・長石・礫 黒褐色 普通	P238　99% 床面 PL67
3	坏 土師器	A 12.6 B 4.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半横ナデ，下半ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア・長石 黒色　普通	P239　99% 覆土上層 PL67
4	坏 土師器	A 13.5 B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半横ナデ，下半ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	石英・礫・スコリア 黒褐色 普通	P240　90% 覆土中層 PL67
5	坏 土師器	A 13.4 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・パミス・スコリア・石英 黒褐色　普通	P241　90% 覆土中層 PL67
6	坏 土師器	A 15.4 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半横ナデ，下半ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母・スコリア 鈍い黄橙色 普通	P242　80% 床面 PL67
7	坏 土師器	A 14.2 B 5.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上半横ナデ，下半ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	石英・スコリア 灰黄褐色 普通	P243　95% 覆土中層 PL67
8	坏 土師器	A [14.0] B 34.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・パミス 褐色 普通	P244　60% 床面 PL67
9	坏 土師器	A 12.3 B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母 灰褐色 普通	P245　60% 覆土下層 PL67
10	坏 土師器	A [17.0] B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。内・外面黒色処理。	石英・礫 黒色 普通	P246　50% 覆土下層 PL68
11	坏 土師器	A 13.8 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P247　90% 覆土下層 PL67

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	坏 土師器	A［13.6］ B（4.9）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。口縁部との境に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア 橙色 普通	P248　40% 床面 PL67
13	坏 土師器	A［14.6］ B（4.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。口縁部は直立し，体部との境に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス 鈍い黄橙色 普通	P249　40% 床面 PL67
14	坏 土師器	A［14.4］ B　3.9	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。口縁部は短く直立し，体部との境に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剝落，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス 明赤褐色 普通	P250　40% 覆土上層
15	坏 土師器	A　13.6 B（5.2）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面及び体部内面ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス・スコリア 灰褐色 普通	P305　40% 覆土中層 PL67
16	椀 土師器	A［14.8］ B　8.8	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面ヘラ削り後ナデ一部ヘラ磨き。内面黒色処理。	礫・スコリア 黒色 普通	P253　60% 床面 PL68
17	高坏 土師器	A　21.2 B　17.5 D　15.8 E　12.4	口縁部一部欠損。脚部は円筒形で裾部で大きく開く。坏体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反し，端部は下方に反る。	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ，体部外面ヘラ削り後ナデ。脚部内面横ナデ，外面縦位のヘラ削り後ナデ。裾部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・長石・砂粒 橙色 普通	P254　90% 床面 PL67
第133図 18	甕 土師器	A　16.2 B　33.0 C　7.6	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後一部ヘラ磨き。体部外面黒色処理。	雲母・パミス・石英・スコリア 灰褐色 普通	P255　95% 覆土中 PL67
19	甕 土師器	A　20.4 B　22.8 C　5.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	スコリア・長石・雲母 橙色 普通	P256　90% 床面 PL68
20	甕 土師器	A［19.5］ B　15.0 C　7.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線気味に立ち上がり，体部上位で内傾する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・石英・礫 鈍い橙色 普通	P257　70% 覆土下層 PL67
21	甕 土師器	A　15.0 B（26.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ及びヘラ削り。内・外面黒色処理。	長石・石英・礫 黒色 普通	P258　25% 床面 PL68
22	甕 土師器	A　15.2 B（6.3）	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ後磨き。	パミス・砂粒 鈍い橙色 普通	P259　20% 床面
23	甕 土師器	A［20.1］ B（10.2）	体部から口縁部片。体部は上位で内傾し，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	雲母 鈍い褐色 普通	P260　50% 覆土中層 PL68
第134図 24	手捏土器 土師器	B（3.9） C　3.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・雲母 鈍い黄橙色 普通	P262　80% 覆土上層 PL67
25	椀 陶器	B（1.5）	高台部片。逆台形状に開く高台が付く。	水引き成形。長石釉がかかる。	砂粒 白色 普通	P526　10% 覆土中　肥前系

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第134図26	管状土錘	3.9	3.9	－	0.6～1.0	57.2	中央部床面	DP17　PL116
27	管状土錘	5.9	4.1	－	0.6～1.0	91.9	中央部床面	DP18　PL116
28	土玉	3.7	3.7	－	0.5～1.1	42.9	東コーナー付近床面	DP19　PL115
29	不明土製品	（4.2）	－	0.8	－	（3.6）	北コーナー付近覆土下層	DP20　PL118

遺物　土師器片2839点，須恵器片96点，陶器片２点，鉄製品２点，鉄滓２点，軽石１点が出土している。第132・133・134図１の坏は北コーナー覆土中層から，２，８の坏は竈前床面，５，７の坏は同覆土中層，９，11の

坏は同覆土下層から，15の椀は竈横床面，10の坏は同覆土下層，14の坏は同覆土上層から，４の坏は南東壁付近覆土中層，６の坏は同床面から，13の坏，17の高坏，21，22の甕は中央部床面，23の甕，15の坏は同覆土中層から，３の坏は南西コーナー覆土上層から，12の坏は床面に散在した状態で，20の甕は同覆土下層から，19の甕は北東壁下床面から，24の手捏土器は南コーナー覆土上層から，18の甕は覆土中からそれぞれ出土している。28の陶器は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第67号住居跡（第108図）

位置　調査区の南西部，G3b$_6$区。

重複関係　本跡は，第53-Ａ号住居跡に北西部を掘り込まれ，第54号住居跡及び第55号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，第53-Ａ号住居跡，第54号住居跡及び第55号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北東壁から推定すると，一辺4.8m の方形あるいは長方形と思われる。

壁　壁高は７㎝で，ほぼ垂直に立ち上がる。

床　確認できた北東壁近くの床は平坦で，軟らかである。

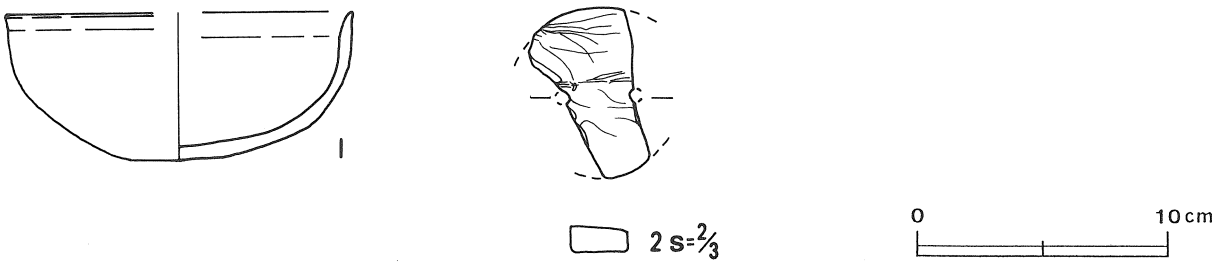
覆土　５層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　焼土粒子・ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

遺物　土師器片545点，須恵器片11点，縄文土器片３点が出土している。第135図１の坏は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀頃）と思われる。



第135図　第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第135図 1	坏 土師器	A [13.6] B 5.9 C 3.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	スコリア・砂粒・長石 鈍い赤褐色　普通	P263　60% 覆土中 PL68

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石　質	出土地点	備　考
第135図2	有孔円板	3.4	2.4	0.5	－	4.5	滑石	覆土中	Q16　PL119

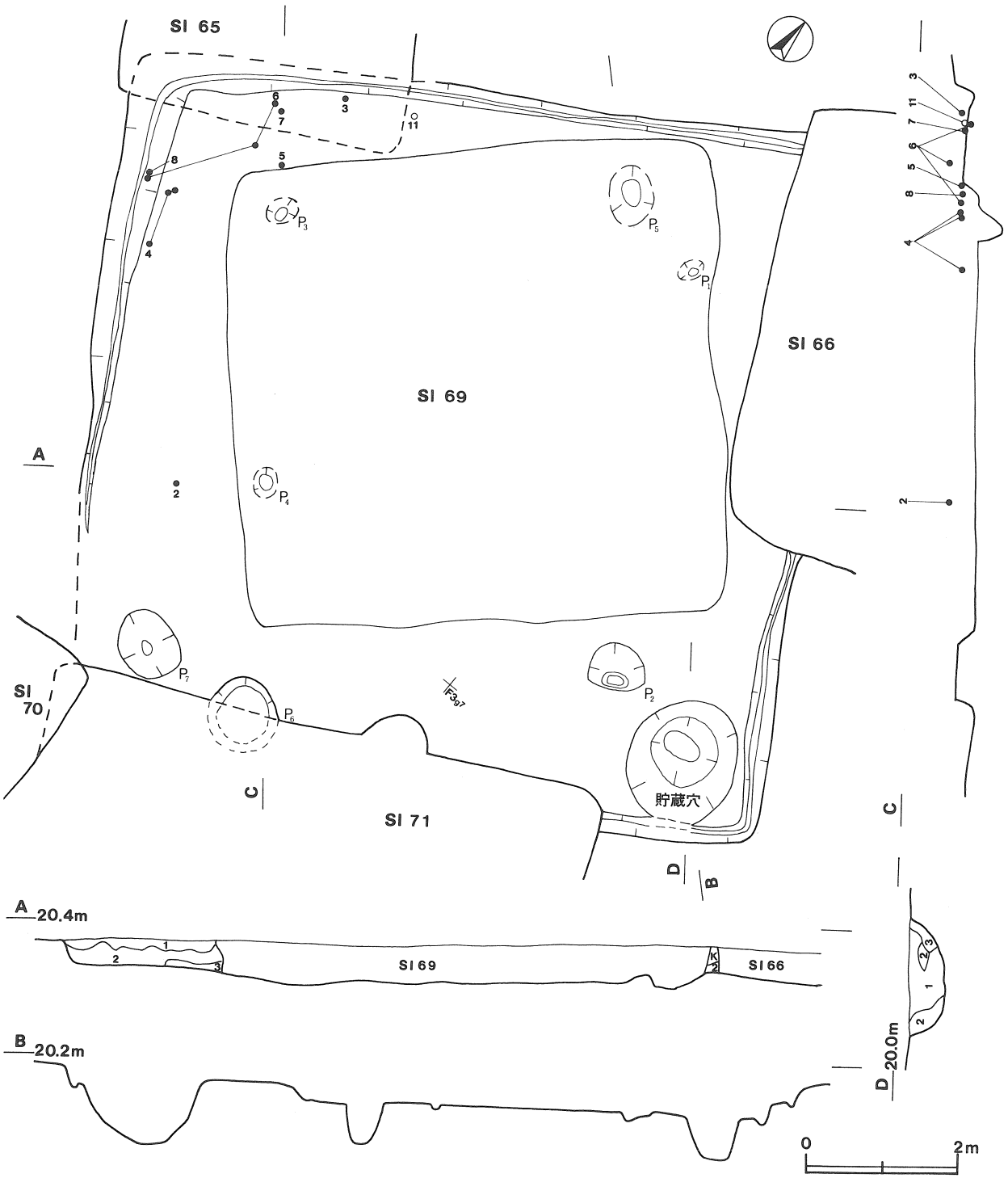
第68号住居跡（第136図）

位置　調査区の南西部，F3f$_6$区。

重複関係　本跡は，第65号住居跡，第66号住居跡，第69号住居跡，第70号住居跡及び第71号住居跡と重複している。第65号住居跡は本跡の北西部の床の上に床を構築しており，第66号住居跡，第69号住居跡，第70号住居跡及び第71号住居跡は本跡を掘り込んでいることから，本跡は5軒のいずれの住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸9.4m，短軸8.69mの方形である。

主軸方向　N－27°－W



第136図　第68号住居跡実測図

壁　壁高は22～40cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁の直下にはすべて壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約４cm，深さ約５cmで，断面形はU字形である。

床　中央部の大部分は第69号住居跡に掘り込まれているため詳細は不明であるが，平坦である。

ピット　７か所（P_1～P_7）。P_1～P_4は径88～74cmの不整円形，深さ34～57cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5～P_7は径16～94cmの不整円形，深さ20～30cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナーに付設され，長径154cm，短径140cmのほぼ円形で，深さは81cm，断面形は擂り鉢形である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
2　明　褐　色　粘土粒子中量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・炭化粒子少量

覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

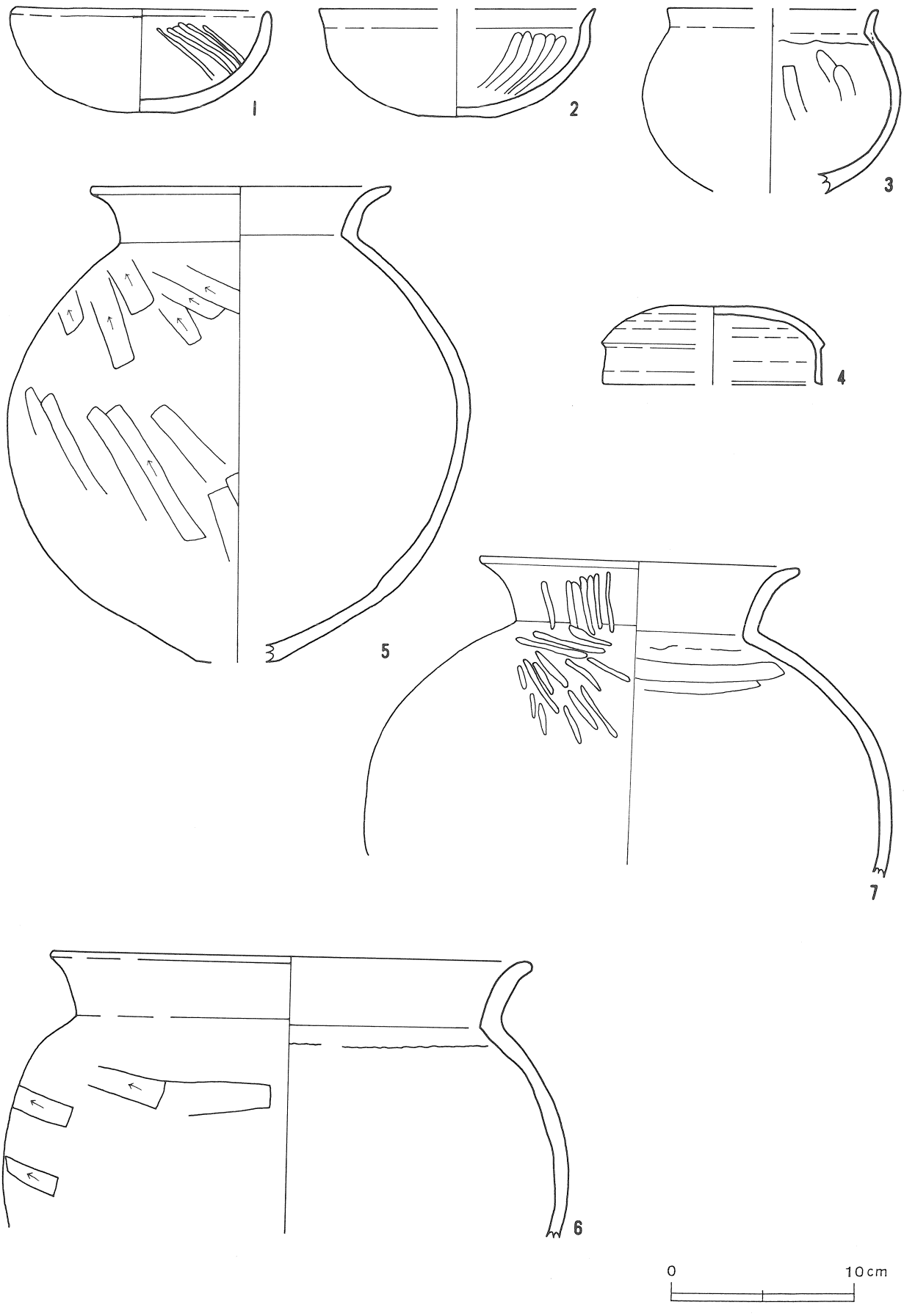
1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
2　黒　褐　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量

遺物　土師器片1035点が出土している。第137・138図２の坏は南西壁付近覆土中層から，３の椀は北西壁際覆土下層から，４の須恵器蓋，５，８の甕，９のミニチュア土器は西コーナー覆土下層，６，７の甕は同床面から，10のミニチュア土器は貯蔵穴内から，１の坏は覆土中からそれぞれ出土している。

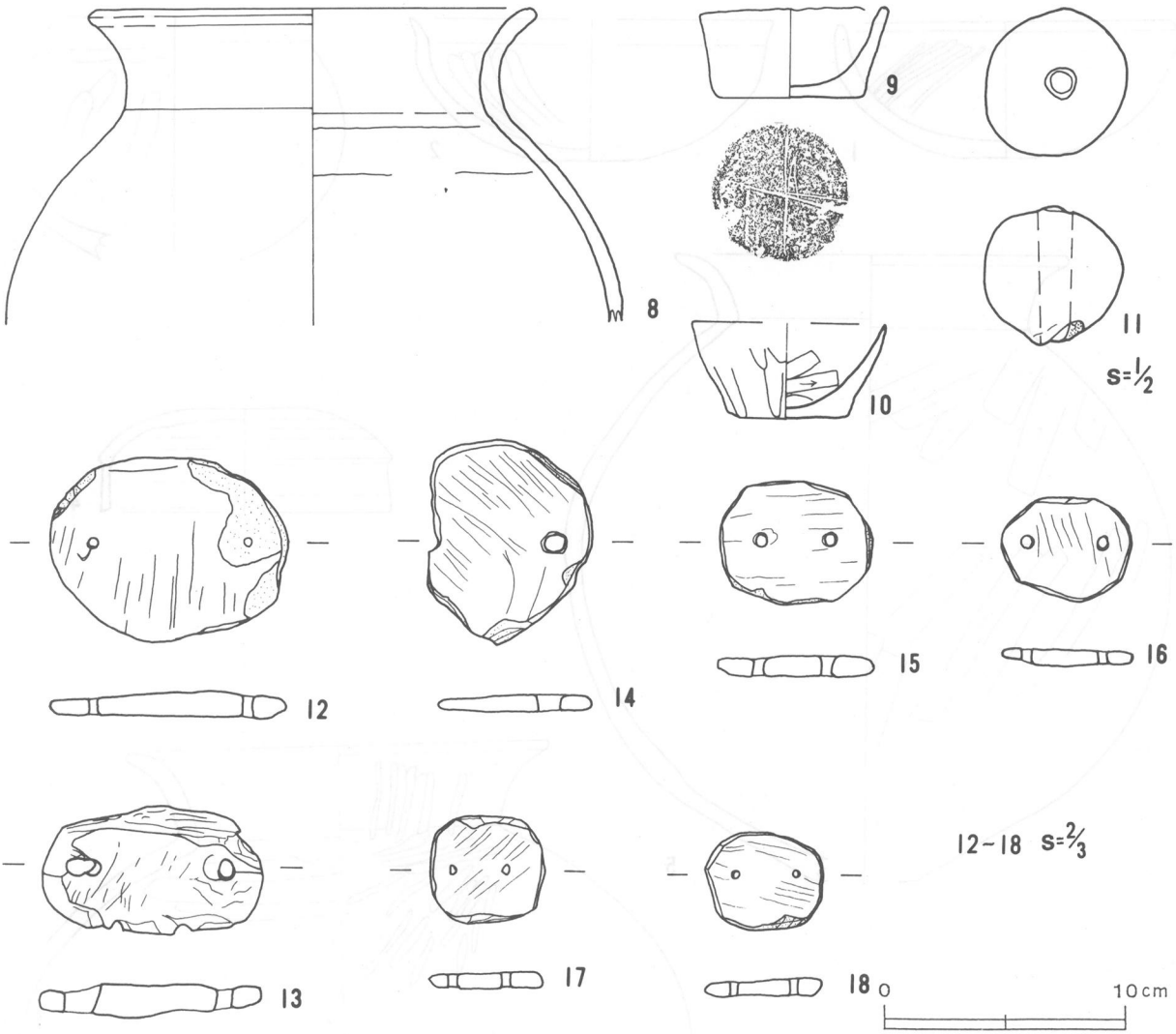
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第137図 1	坏 土師器	A　13.4 B　5.6	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・礫 明赤褐色 普通	P265　100% 覆土中 PL68
2	坏 土師器	A［14.8］ B　5.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア・パミス・礫 赤褐色 普通	P266　30% 覆土中層 PL68
3	椀 土師器	A［11.4］ B（10.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ナデ。	パミス・長石 明赤褐色 普通	P270　30% 覆土下層 PL68
4	蓋 須恵器	A［12.0］ B　4.2 C［4.0］	天井部から口縁部片。天井部は平坦で内彎しながら口縁部に至り，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は直立し，端部は平坦で内傾する。	天井部及び体部内・外面ロクロナデ。底部左回転ヘラ削り。天井部内面に同心円状の当て具痕が残る。	パミス・長石 灰色 普通	P272　40% 覆土下層 PL68
5	甕 土師器	A　16.2 B　25.7 C［4.5］	底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・雲母 鈍い橙色 普通	P273　95% 覆土下層 PL68
6	甕 土師器	A　25.7 B（15.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・石英・長石 橙色 普通	P274　30% 床面 PL68
7	甕 土師器	A　17.2 B（16.3）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	雲母・礫 赤褐色 普通	P275　20% 床面 PL68
第138図 8	甕 土師器	A　17.8 B（12.9）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・スコリア 赤褐色 普通	P276　30% 覆土下層 PL68



第137図　第68号住居跡出土遺物実測図(1)



第138図　第68号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	ミニチュア土器 土師器	A 7.0 B 3.8 C 5.7	平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面剝離，外面ナデ。	雲母・スコリア・長石・石英 明褐色 普通	P277　100% 覆土下層 PL68
10	ミニチュア土器 土師器	A［7.9］ B 3.9 C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ削り，外面ナデ後ヘラ磨き。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P278　80% 貯蔵穴覆土中 PL68

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第138図11	土玉	3.8	3.8	0.5	0.7～1.0	51.3	北西壁際床面	DP21　PL115

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第138図12	有孔円板	3.8	4.8	0.5	0.2	17.9	滑石	覆土中	Q17　PL119
13	有孔円板	2.6	4.5	0.6	0.3～0.7	11.0	滑石	覆土中	Q18　PL119
14	有孔円板	4.1	3.4	0.4	0.4～0.5	8.9	滑石	覆土中	Q19　PL118
15	有孔円板	2.5	3.1	0.4	0.3	5.5	滑石	覆土中	Q20　PL118
16	有孔円板	2.1	2.6	0.3	0.2	2.7	滑石	覆土中	Q21　PL118

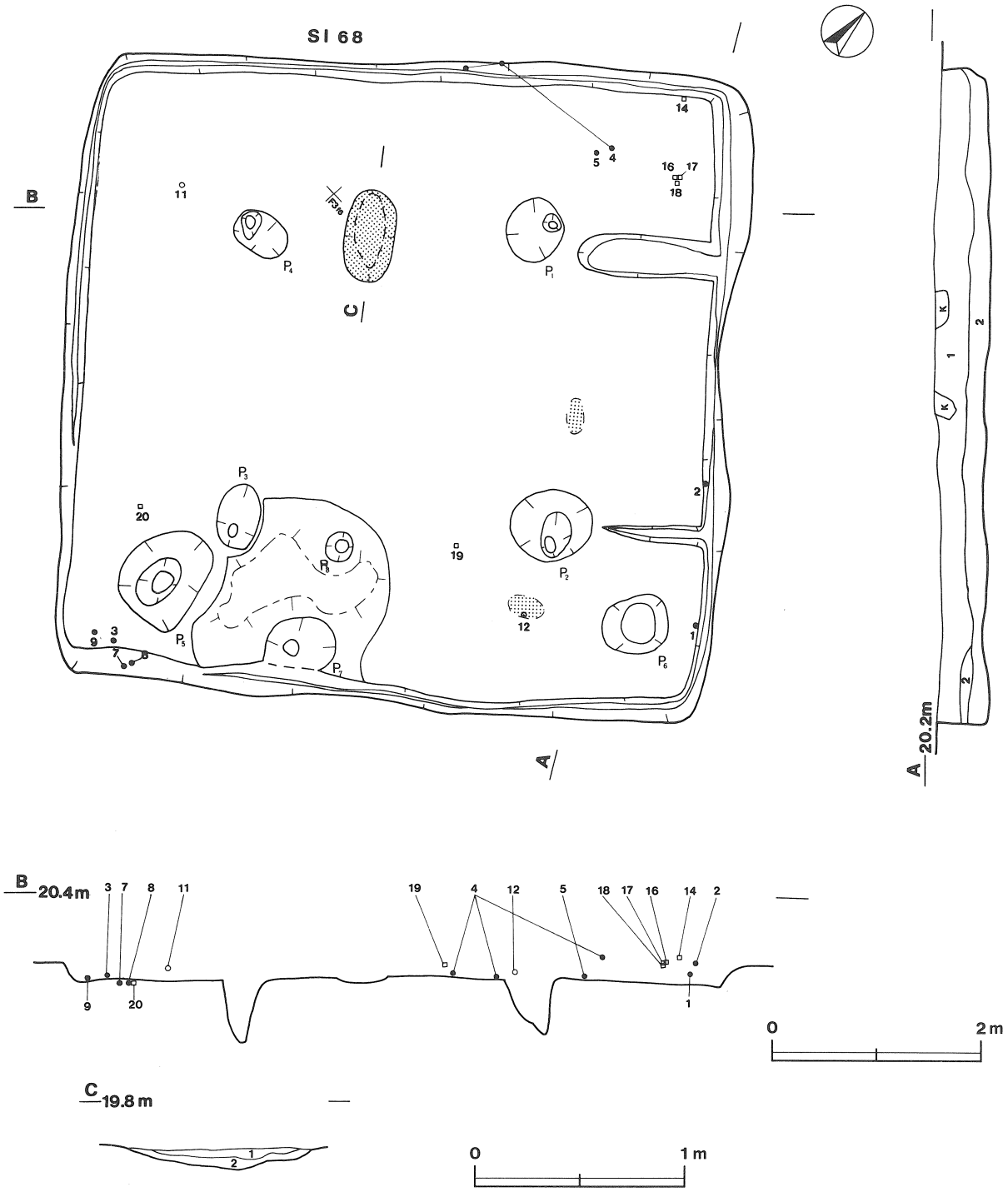
図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第138図17	有孔円板	2.2	2.4	0.35	0.15	3.6	滑石	覆土中	Q22 PL118
18	有孔円板	1.9	2.4	0.3	0.15	2.8	滑石	覆土中	Q23 PL118

第69号住居跡（第139図）

位置　調査区の南西部，F3f$_6$区。

重複関係　本跡は，第68号住居跡を掘り込んでおり，第68号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸6.3m，短軸6.22mの方形である。



第139図　第69号住居跡実測図

主軸方向　N－43°－W

壁　壁高は22cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，南コーナーを除いて壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約４cm，深さ約５cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　８か所（P_1～P_8）。P_1～P_4は径54～78cmの不整円形もしくは不整楕円形，深さ50～64cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は長径94cm，短径74cmの楕円形，深さ100cm，底部径20cm，断面形が円錐状で，性格は不明である。P_6は径60cmの円形，深さ57cm，底部径40cm，断面形が逆台形状を呈し，貯蔵穴の可能性がある。P_7，P_8は径28～68cmの不整円形，深さ22～31cmで，位置から入り口部施設に伴うピットと考えられる。

炉　中央から北西壁寄りに位置し，長径88cm，短径48cmの楕円形で，床面を19cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　黒　　色　焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム中ブロック少量，ローム粒子微量

覆土　２層からなる人為堆積である。

土層解説

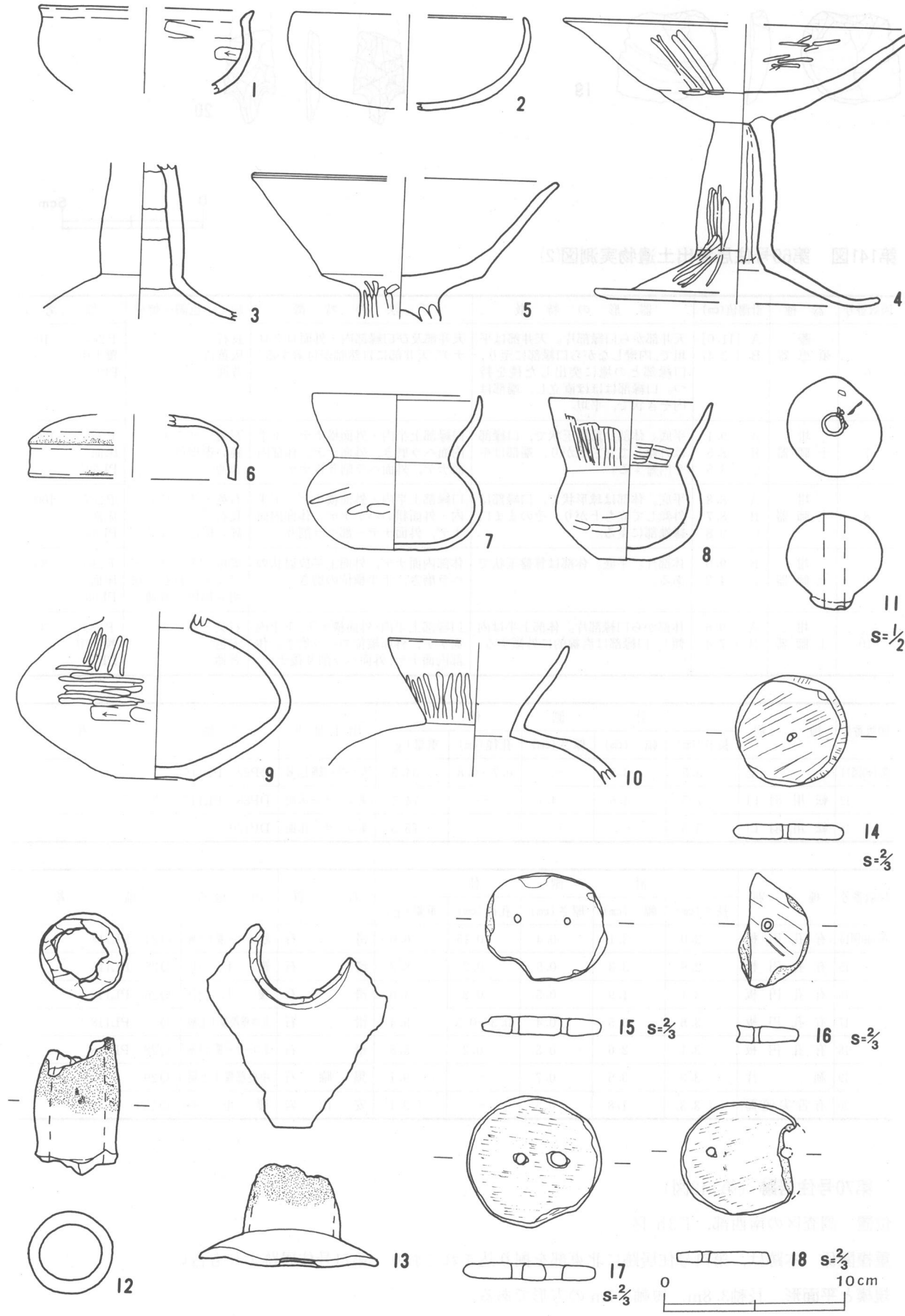
1　黒　　色　焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量

遺物　土師器片336点，須恵器片29点，弥生土器片１点，鉄滓１点，陶器片１点が出土している。第140・141図１の坏は東コーナー床面から，２の坏は北東壁付近覆土下層から，３の高坏，７，８，９の坩は南コーナー床面から，５の高坏は北コーナー覆土下層から，４の高坏は同床面から，６の須恵器蓋，10の坩は覆土中からそれぞれ出土している。19の剝片，20の有舌尖頭器は流れ込みと思われる。

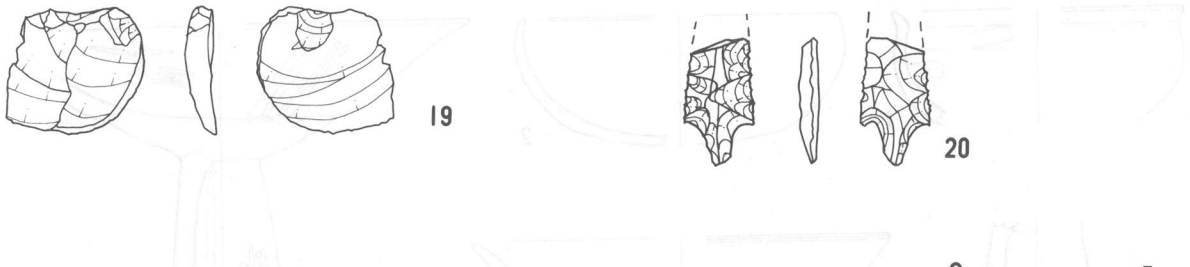
所見　本跡の時期は，遺構の形態，出土遺物及び第68号住居跡との重複関係から，古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 1	坏 土師器	A［11.4］ B（4.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。内側に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ナデ。	雲母・石英・長石 褐色 普通	P279 10% 床面 PL68
2	坏 土師器	A［12.3］ B 5.2 C［2.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部及び体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P280 20% 覆土下層 PL69
3	高坏 土師器	E（8.4）	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。裾部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す。外面縦位のナデ。裾部内・外面横ナデ。	スコリア・石英・パミス 赤色 普通	P281 30% 床面 PL69
4	高坏 土師器	A［19.6］ B 15.1 D［15.5］ E 9.7	脚部から坏部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。裾部は「ハ」の字状に開き，端部で反る。坏体部は直線的に立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	坏部内・外面ヘラ磨き。脚部内面粗いナデ，外面縦方向の磨き。裾部内面横ナデ，外面放射状のヘラ磨き。	石英・礫・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P282 60% 床面 PL69
5	高坏 土師器	A［16.5］ B（7.8）	坏部片。坏体部は下方に稜を持ち，直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後ナデ，外面上半ヘラ削り後ナデ，下半縦位のヘラ磨き。	礫・パミス・長石 赤褐色 普通	P284 20% 床面



第140図　第69号住居跡出土遺物実測図(1)



第141図　第69号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	蓋 須恵器	A［11.0］ B（3.4）	天井部から口縁部片。天井部は平坦で,内彎しながら口縁部に至り,口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部はほぼ直立し,端部は内そぎ状で,平坦。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部に自然釉が付着する。	長石 灰黄色 普通	P285　10% 覆土中 PL68
7	坩 土師器	A　9.1 B　8.5 C　3.5	平底。体部は算盤玉状で,口縁部は外傾して立ち上がり,端部はやや内彎する。	口縁部上半内・外面横ナデ,下半内面ヘラ磨き,外面ナデ。体部内面ナデ,外面ヘラ削り後ナデ。	石英・パミス 鈍い赤褐色 普通	P286　100% 床面 PL69
8	坩 土師器	A　8.8 B　8.7 C　2.8	平底。体部は球形状で,口縁部は外傾して立ち上がり,そのまま口縁端部に至る。	口縁部上半内・外面横ナデ,下半内・外面粗いハケナデ。体部内面ナデ,外面ナデ一部ヘラ削り。	石英・スコリア・長石 鈍い橙色　普通	P287　100% 床面 PL69
9	坩 土師器	B　9.0 C　4.2	体部片。平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ,外面上半放射状のヘラ磨き,下半横位の磨き。	雲母・スコリア・パミス・長石・礫 明赤褐色　普通	P288　80% 床面 PL69
10	坩 土師器	A［9.6］ B（7.4）	体部から口縁部片。体部上半は内傾し,口縁部は直線的に外傾する。	口縁部上半内・外面横ナデ,下半内面ナデ,外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ,外面ヘラ削り後ナデ。	石英・パミス 赤色 普通	P289　30% 覆土中 PL69

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第140図11	土玉	3.5	3.5	−	0.7〜0.8	34.5	西コーナー部覆土上層	DP22　PL115
12	転用羽口	7.5	4.6	4.7	−	74.5	東コーナー床面	DP88　PL117
13	転用羽口	5.5	−	−	−	75.5	東コーナー床面	DP120

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第140図14	有孔円板	3.0	3.1	0.4	0.15	6.0	滑石	北コーナー覆土下層	Q24　PL118
15	有孔円板	2.9	3.3	0.5	0.2	8.3	滑石	覆土中	Q25　PL118
16	有孔円板	3.1	1.9	0.5	0.2	4.0	滑石	覆土中	Q26　PL118
17	有孔円板	3.6	3.5	0.4	0.3〜0.5	9.4	滑石	北西壁際覆土上層	Q27　PL118
18	有孔円板	3.1	2.6	0.3	0.2	5.8	滑石	北コーナー覆土下層	Q28　PL118
19	剝片	3.3	3.5	0.7	−	9.1	黒曜石	中央部覆土下層	Q29
20	有舌尖頭器	（3.3）	1.8	0.5	−	（3.1）	安山岩	覆土中	Q129　PL122

第70号住居跡（第142図）

位置　調査区の南西部，F3h$_5$区。

重複関係　本跡は，第71号住居跡に北東部を掘り込まれており，第71号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸3.8m，短軸3.7mの方形である。

主軸方向　N－7°－W

壁　壁高は42cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北壁から北東壁の一部を除いて壁溝が巡っている。上幅約11cm，下幅約５cm，深さ約15cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，南壁直下から竈前に至る部分が踏み固められている。

貯蔵穴　北西コーナーに付設され，長径88cm，短径74cmの不整楕円形で，２段に掘り込まれており，深さは60～145cmである。断面形は上段が逆台形，その下段は径25cm，深さ75cmの筒形である。上段と下段の境部分に粘土塊が確認されている。

貯蔵穴土層解説

1　極暗褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
4　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黄　褐　色　黒色土粒子少量

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部にわずかに粘土が認められる程度である。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外への突出が少なく，壁の内側から急に立ち上がっている。

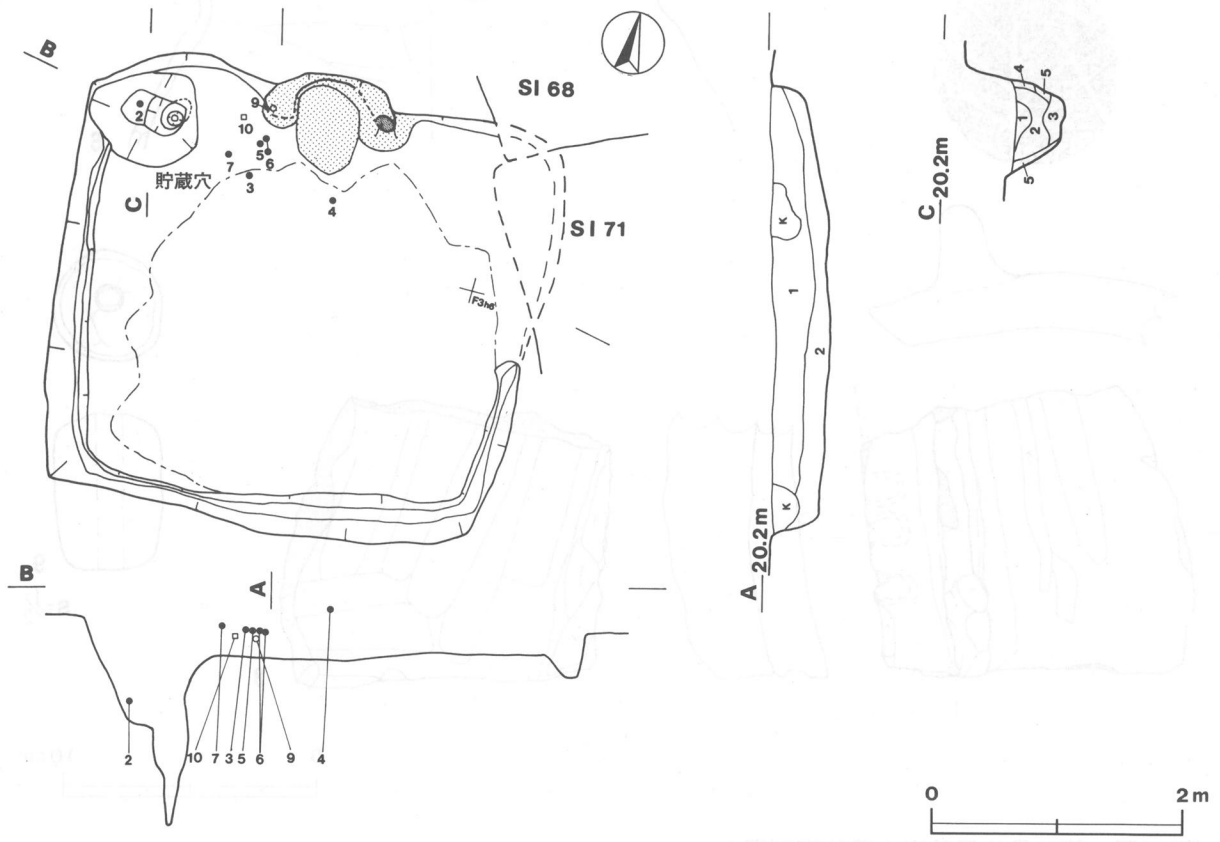
覆土　２層からなる自然堆積である。

土層解説

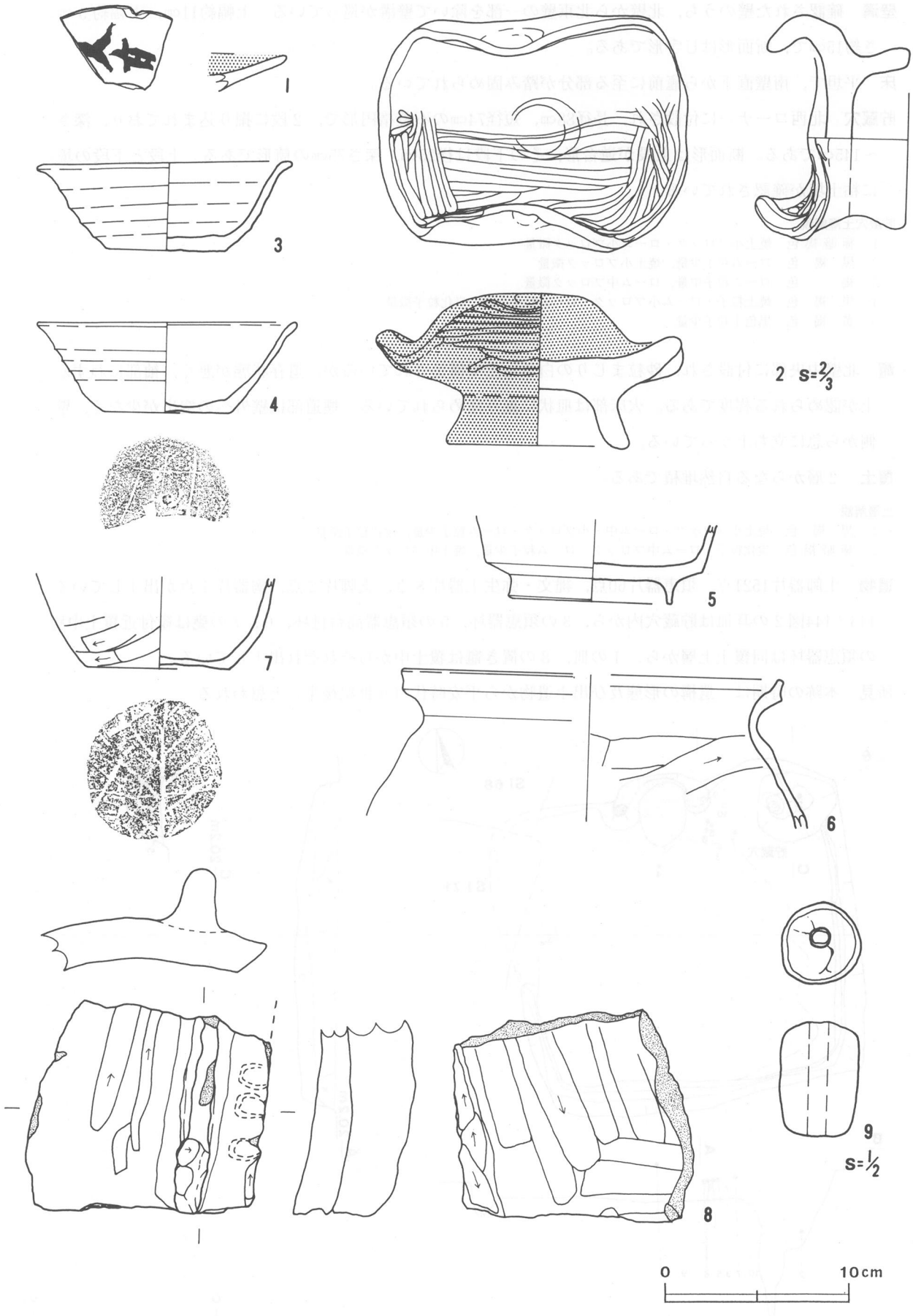
1　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量

遺物　土師器片1521点，須恵器片60点，縄文・弥生土器片８点，支脚片２点，陶器片１点が出土している。第143・144図２の耳皿は貯蔵穴内から，３の須恵器坏，５の須恵器高台付坏，６，７の甕は竈付近覆土中層，４の須恵器坏は同覆土上層から，１の皿，８の置き竈は覆土中からそれぞれ出土している。

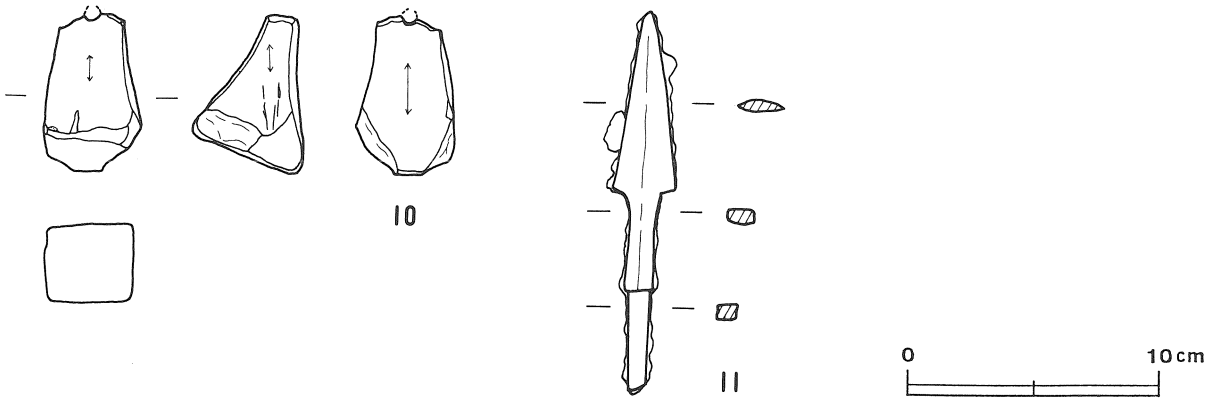
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後半）と思われる。



第142図　第70号住居跡実測図



第143図　第70号住居跡出土遺物実測図(1)



第144図　第70号住居跡出土遺物実測図(2)

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	皿 土師器	A － B －	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石 暗褐色 普通	P290　15% 覆土中　体部外面に墨書「久高」 PL69
2	耳皿 土師器	A 8.4 B 4.1 D 4.8 E 1.3	「ハ」の字状に開く高台が付く。体部及び口縁部は向かい合う面で，長軸方向は強く，短軸方向は弱く内側に折り曲げられている。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。口縁部及び体部内・外面黒色処理。	石英・雲母・長石 明赤褐色 普通	P291　100% 貯蔵穴内覆土 PL69
3	坏 須恵器	A 13.9 B 5.1 C 6.4	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり，口縁端部で外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	パミス・スコリア・雲母・礫・石英 鈍い褐色 普通	P292　70% 覆土中層 PL69
4	坏 須恵器	A 14.0 B 5.0 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	礫・パミス 灰黄色 普通	P293　60% 覆土上層　底部ヘラ記号あり PL69
5	高台付坏 須恵器	B (4.5) D 8.5 E 1.3	高台部から体部片。ほぼ直立する高台が付く。体部は下部で屈曲する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・石英 緑灰色 普通	P294　70% 覆土中層 PL69
6	甕 土師器	A [20.6] B (8.0)	体部から口縁部片。体部上半は内傾する。口縁部は外反し，端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ナデ。	パミス・砂粒 明赤褐色 普通	P295　5% 覆土中層 PL69
7	甕 土師器	B (5.0) C 7.8	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P296　10% 覆土中層　PL69 底部木葉痕あり
8	置き竈 土師器	B (10.8)	焚き口部片。	体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り一部指頭圧痕を残す。	スコリア・パミス・雲母・礫 鈍い黄橙色 普通	P297　10% 覆土中 PL69

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第143図9	管状土錘	4.2	2.8	－	0.6～0.7	40.6	竈袖部付近覆土下層	DP23　PL116

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第144図10	砥石	(6.3)	3.9	3.2	－	(100.9)	凝灰岩	竈横覆土下層	Q30　PL119

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第144図11	鉄鏃	6.6	1.6	0.4	－	10.6	竈横覆土中層	M23　PL124

第71号住居跡（第145図）

位置　調査区の南西部，F3h$_1$区。

重複関係　本跡は，第72−A号住居跡に南部を掘り込まれており，第72−A号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸7.56m，短軸7.5mの方形である。

主軸方向　N−26°−W

壁　壁高は40cm程で，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，東コーナー及び重複のため掘込まれた西コーナーを除いて壁溝が巡っている。上幅約15cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。東コーナー近くに粘土塊が，楕円形に長径約60cm程広がっている。

ピット　6か所（P$_1$〜P$_6$）。P$_1$〜P$_4$は径22〜58cmの不整円形，深さ50〜83cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は径32cmの円形で，南西壁から延びる溝に関係するピットの可能性がある。P$_6$は長径70cm，短径44cmの楕円形，深さ31cmで，出入り口ピットと思われる。

貯蔵穴　竈と西コーナーの間に付設され，長径102cm，短径58cmの楕円形で，深さは50cm，断面形はU字形である。

竈　北壁中央東寄りに付設されていた可能性がある。竈を構築したと思われる凝灰岩の切石が袖部と思われるところに確認できるが，袖部，粘土及び火床部等は認められず，焼土が周りに確認できる程度であるため，詳細は不明である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

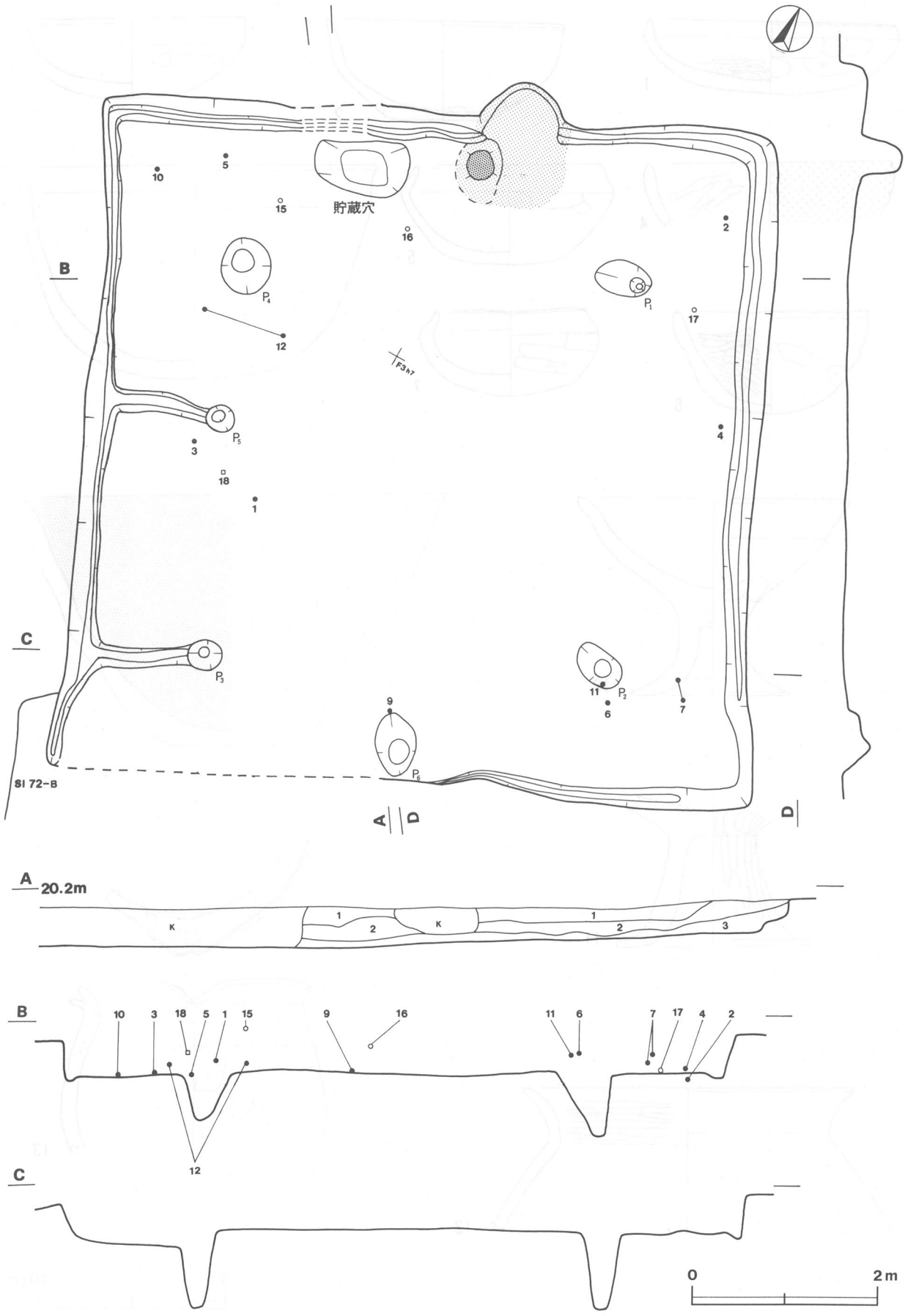
1　暗　褐　色　焼土小ブロック中量，焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　黒　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

遺物　土師器片1809点，須恵器片18点，弥生・縄文土器片28点，鉄滓1点が出土している。第146・147図1の坏は南西壁覆土中層，3の坏は同床面，2の坏は北コーナー床面から，4の坏は北東壁付近覆土下層から，6の椀は東コーナー覆土中層，7の椀及び11の高坏は同覆土下層，8の鉢は南東壁付近覆土下層から，5の椀，10の高坏は西コーナー床面，12の甕は同覆土中層から，9の鉢，13の小形甕は覆土中から出土している。

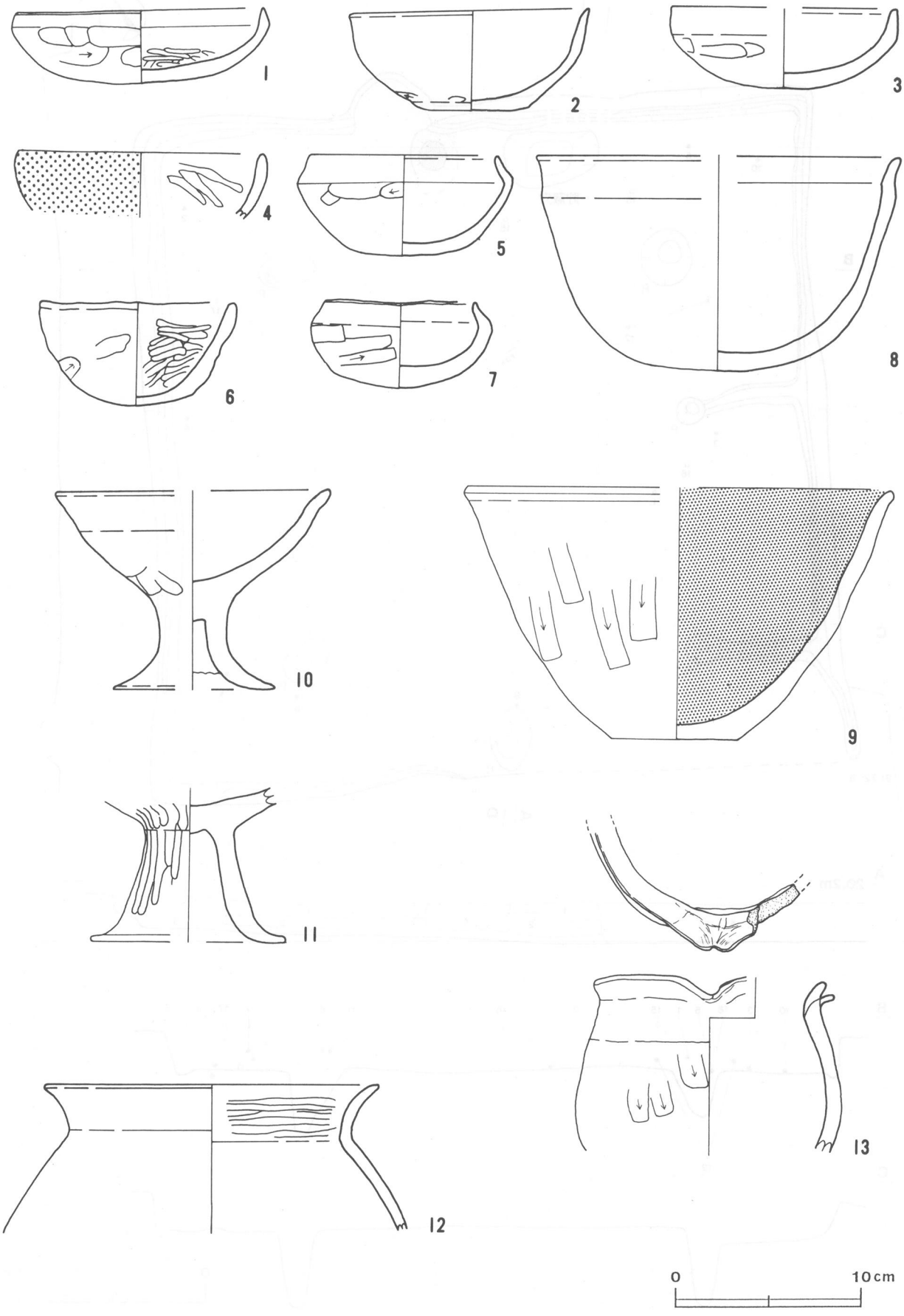
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第71号住居跡出土遺物観察表

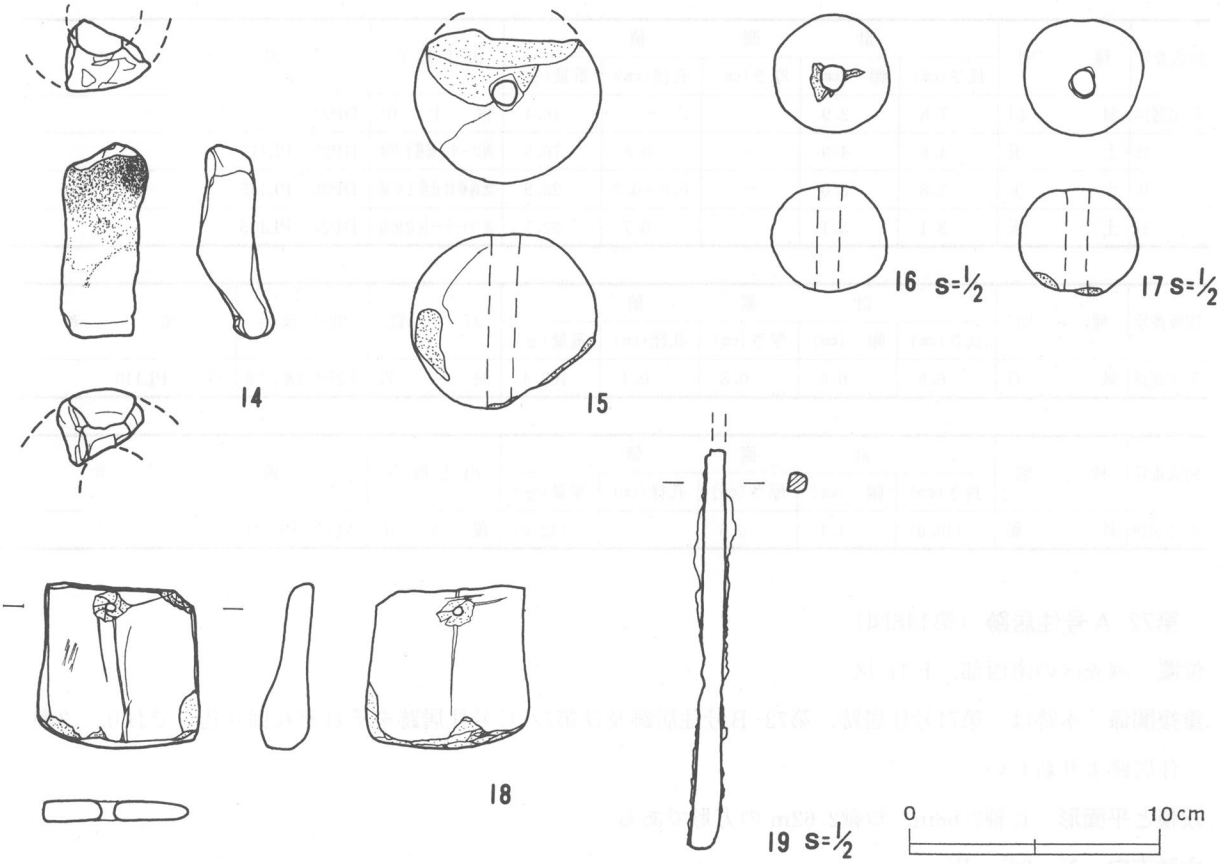
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図1	坏 土師器	A 13.1 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P298　90% 覆土中層 PL69
2	坏 土師器	A 12.7 B 5.6 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ナデ。	雲母・パミス・礫 橙色 普通	P299　95% 床面 PL69
3	坏 土師器	A [12.1] B 4.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部及び体部内面剝離。口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	石英・長石・雲母 鈍い橙色 普通	P303　60% 床面 PL69
4	坏 土師器	A 13.2 B (3.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	パミス 鈍い褐色 普通	P304　30% 覆土下層 PL70



第145図　第71号住居跡実測図



第146図　第71号住居跡出土遺物実測図(1)



第147図　第71号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	椀 土師器	A 9.9 B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・スコリア・長石 浅黄橙色 普通	P300　95% 床面 PL69
6	椀 土師器	A 10.6 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア・パミス 鈍い黄橙色 普通	P301　100% 覆土中層 PL69
7	椀 土師器	A 8.0 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く内傾し，端部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。底部を除き内・外面赤彩。	長石・石英・パミス 赤色 普通	P302　95% 覆土下層 PL69
8	鉢 土師器	A [19.5] B 11.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・礫・スコリア 鈍い橙色 普通	P307　50% 覆土下層 PL70
9	鉢 土師器	A [22.7] B 13.6 C 5.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	礫 鈍い褐色 普通	P308　30% 覆土中
10	高坏 土師器	A [14.7] B 10.7 D [8.7] E 5.0	脚部から口縁部片。脚部は円筒状で裾部は「ハ」の字状に開く。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。脚部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。裾部内・外面横ナデ。	石英・礫 灰黄褐色 普通	P309　60% 床面 PL70
11	高坏 土師器	B (13.4) D [10.4] E 6.0	脚部片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	スコリア・石英・パミス・長石・礫 灰黄褐色　普通	P310　20% 覆土下層 PL70
12	甕 土師器	A 17.8 B (7.9)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・スコリア 明赤褐色　普通	P312　15% 覆土中層 PL70
13	小形甕 土師器	A [12.2] B (9.8)	体部から口縁部片。体部上位は緩く内傾し，口縁部は外傾する。口縁部に注口を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	礫・石英 鈍い褐色 普通	P313　20% 覆土中 PL70

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第147図14	羽口	7.8	2.9	−	−	46.4	覆土中	DP24
15	土玉	4.6	4.9	−	0.8	76.5	西コーナー部覆土中層	DP25 PL115
16	土玉	2.8	3.0	−	0.6〜0.7	23.8	北西壁付近覆土中層	DP26 PL115
17	土玉	3.1	3.1	−	0.7	22.5	北コーナー付近床面	DP27 PL115

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第147図18	砥石	6.6	6.5	0.8	0.4	103.4	泥岩	南西壁付近覆土中層	Q31 PL119

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第147図19	鉄鏃	(10.6)	1.1	0.5	−	(12.7)	覆土中	M6 PL124

第72−A号住居跡（第148図）

位置　調査区の南西部，F3i$_7$区。

重複関係　本跡は，第71号住居跡，第72−B号住居跡及び第72−C号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，3軒の住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸2.68m，短軸2.62mの方形である。

主軸方向　N−22°−W

壁　壁高は30cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約8cm，下幅約4cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　9か所（P$_1$〜P$_9$）。P$_1$〜P$_4$は径30〜38cmの不整円形，深さ100〜154cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P$_5$は径58cm，深さ8cmで，出入り口ピットと思われる。その他は径18〜54cmの不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土及び凝灰岩で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ50cm突出し，緩やかに外傾して立ち上がる。

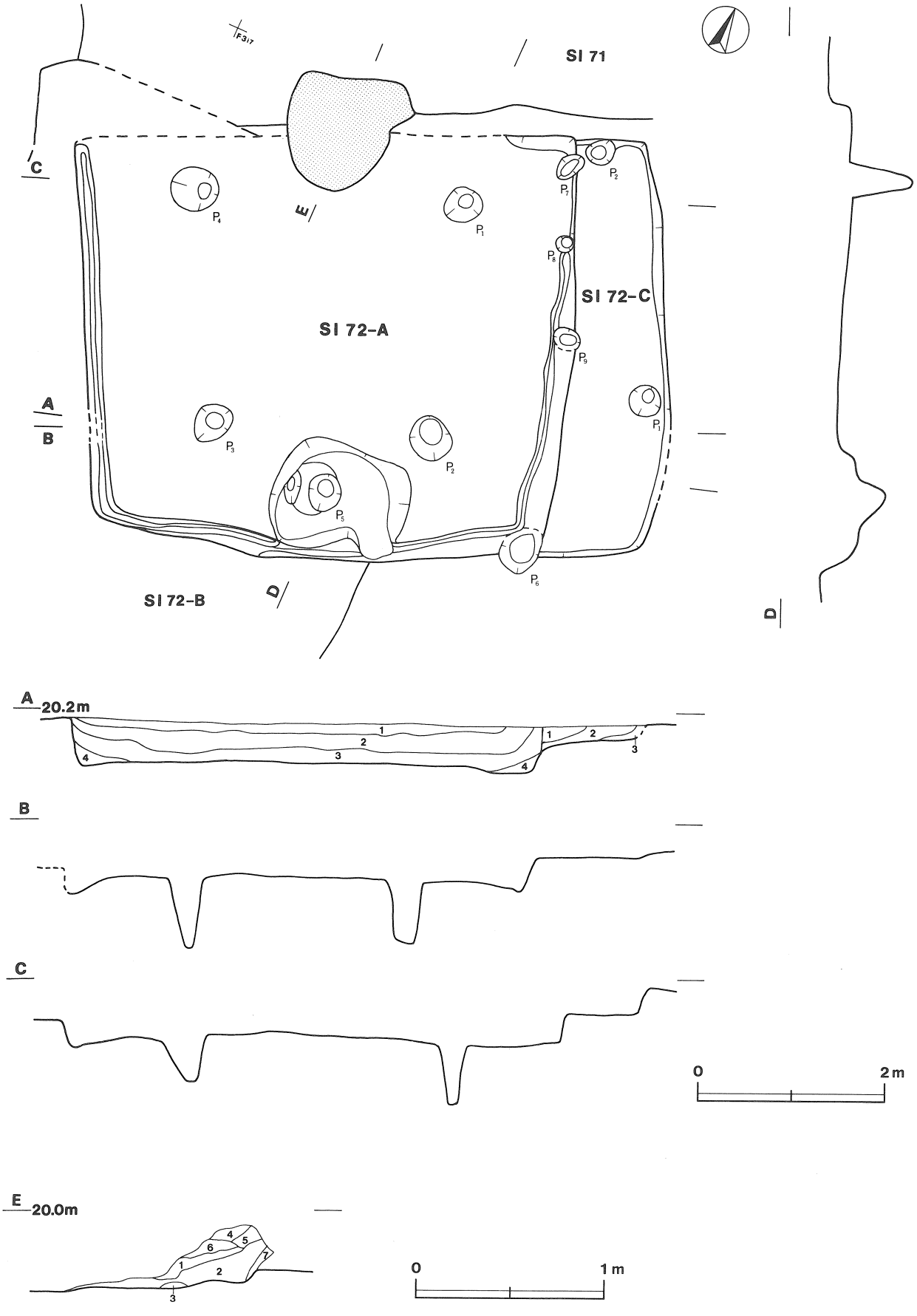
竈土層解説

1　暗褐色　焼土粒子中量，焼土大・中・小ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
2　褐色　焼土大ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
3　黒褐色　焼土大・小ブロック・ローム粒子・ローム大ブロック少量
4　オリーブ褐色　焼土大・小ブロック・炭化粒子少量
5　鈍い黄褐色　焼土中ブロック・粘土中ブロック中量，炭化粒子少量
6　赤褐色　焼土粒子多量，焼土大・中ブロック中量，炭化粒子少量
7　黄褐色　焼土小ブロック・炭化粒子少量

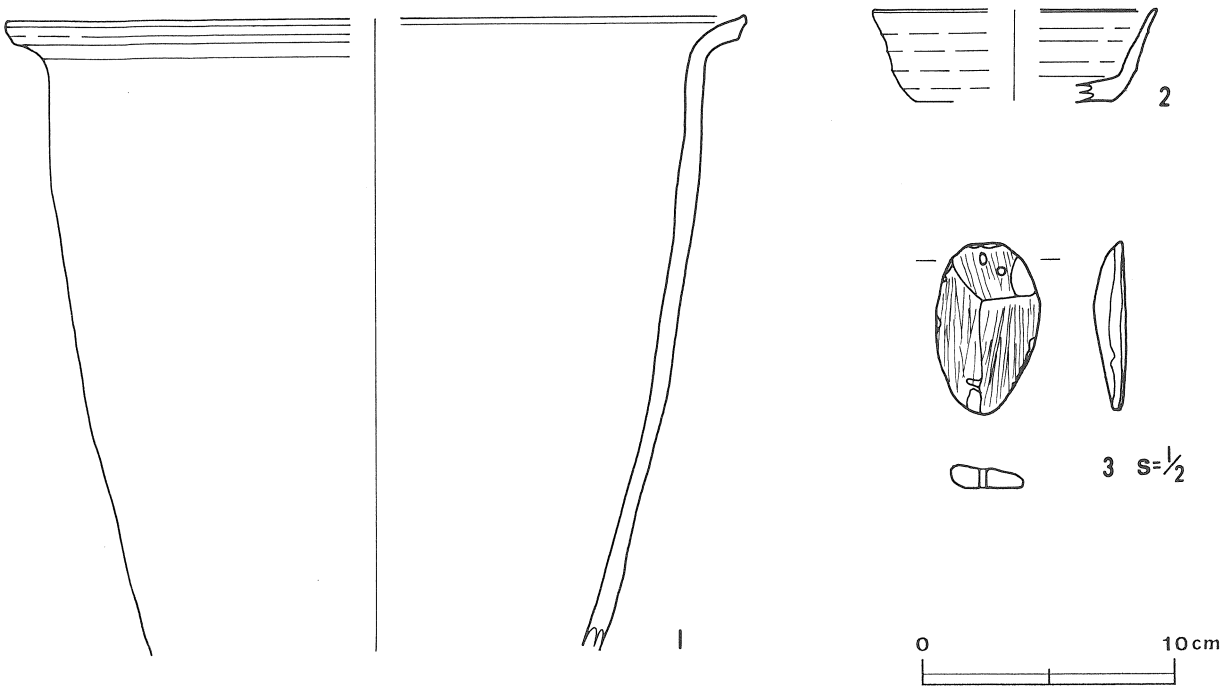
覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
2　灰褐色　焼土小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中・小ブロック少量
3　褐色　焼土小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム中・小ブロック少量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量



第148図　第72−A・72−C号住居跡実測図



第149図　第72−A号住居跡出土遺物実測図

第72−A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	甕 土師器	A［29.1］ B（25.2）	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は外反し，口縁端部で上方につまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P316 30% 竈内 PL70
2	坏 須恵器	A［11.0］ B（ 3.7） C［ 7.8］	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部下端に二次底部面が見られる。底部回転ヘラ削り調整。	長石 灰色 普通	P317 10% 覆土中 PL70

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第149図3	剣形模造品	4.5	2.8	0.85	0.2	13.0	滑石	覆土中	Q130 PL119

遺物　土師器片880点，須恵器片49点，弥生土器片９点，軽石１点，鉄滓１点が出土している。第149図１の甕は竈内から，２の須恵器坏は覆土中からそれぞれ出土している。３の剣形模造品は流れ込みと思われる。

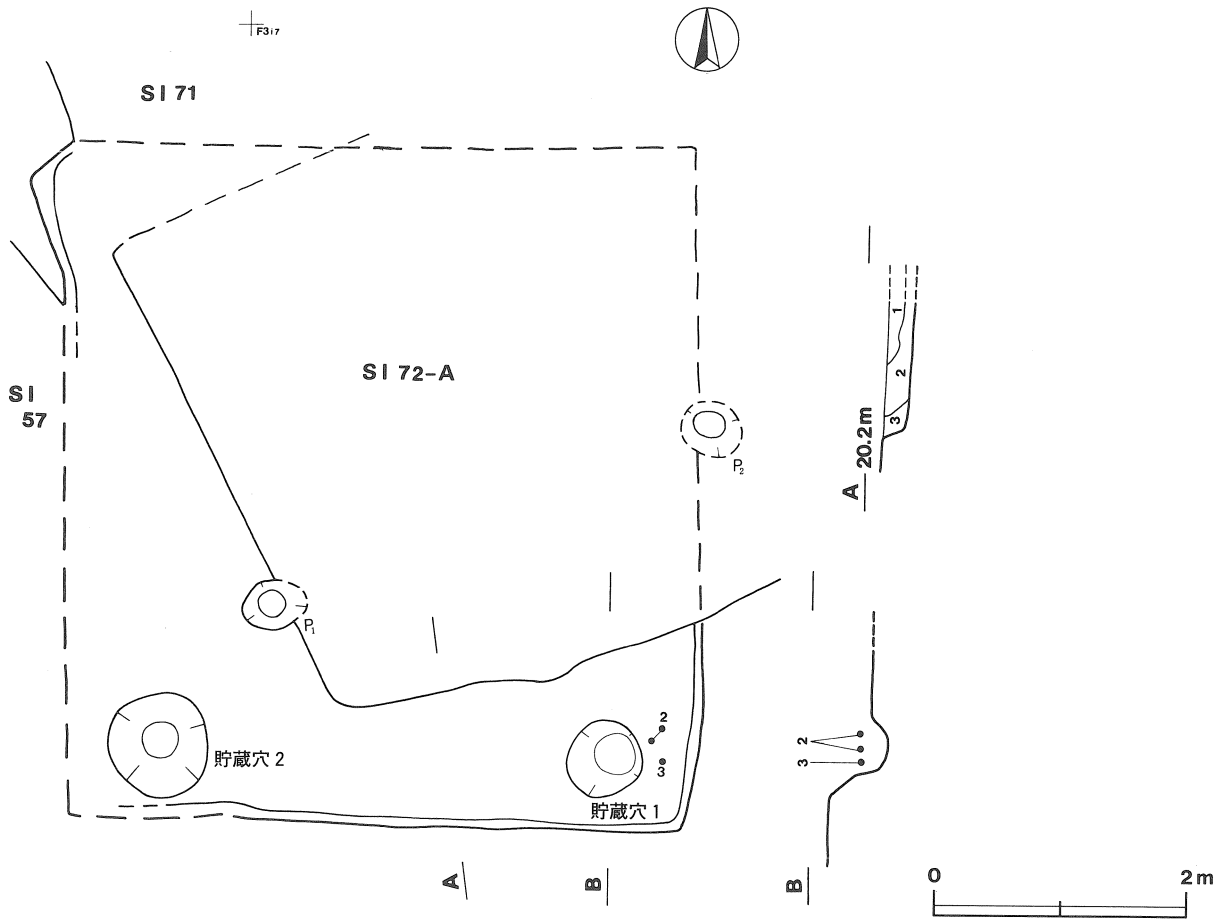
所見　本跡の時期は，取り上げた遺物が覆土中のもので，しかも時期差がるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から奈良時代（８世紀後葉）と思われる。

第72−B号住居跡（第150図）

位置　調査区の南西部，F3i_7区。

重複関係　本跡は，第71号住居跡，第57号住居跡及び第72−A号住居跡と重複している。本跡は，第57号住居跡の東部を掘り込んでおり，北部を第72−A号住居跡に掘り込まれていることから，第57号住居跡より新しく，第72−A号住居跡よりも古い。本跡と第71号住居跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形　遺存する北西コーナーと南東コーナーによって推定すると，長軸2.67m，短軸2.37mの長方形と思われる。



第150図　第72-B号住居跡実測図

主軸方向　N－0°

壁　壁高は27cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦であるが，踏み固めた部分は見られない。

ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1は径40cmの不整円形，深さ46cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_2は径48cm，深さ39cmで，性格は不明である。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は南東コーナーに付設され，径62cmの円形で，深さは61cm，断面形は筒形である。貯蔵穴2は，南西コーナーに付設され，径82cmの円形で，深さ55cm，断面形は擂り鉢形である。

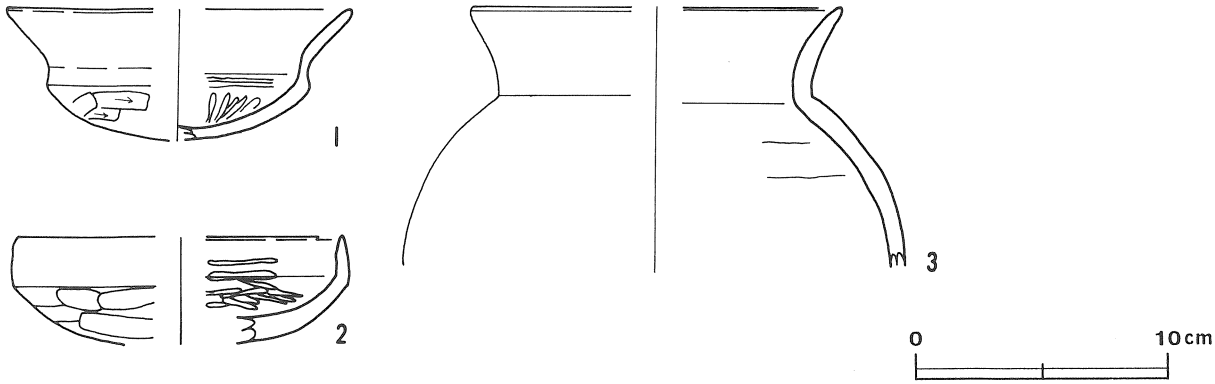
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック・炭化材・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片110点，須恵器片1点が出土している。第151図1の坏は覆土中から，2の坏，3の甕は南東コーナー付近床面からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第151図　第72−B号住居跡出土遺物実測図

第72−B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 1	坏 土師器	A [13.5] B (5.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	石英 橙色 普通	P318 覆土中 10%
2	坏 土師器	A [12.8] B (4.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ後横位のヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P319 床面 PL70 20%
3	甕 土師器	A [14.6] B (10.3)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・礫 明赤褐色 普通	P320 床面 PL70 20%

第72−C号住居跡（第148図）

位置　調査区の南西部，F3i$_8$区。

重複関係　本跡は，第72−A号住居跡に西部を掘り込まれており，第72−A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する東壁から推定すると，一辺4.34mの方形あるいは長方形と思われる。

壁　壁高は29cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で全体的に軟らかい。

ピット　2か所（P$_1$，P$_2$）。P$_1$，P$_2$は径24〜34cmの不整円形で，性格は不明である。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2　灰黄褐色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
3　鈍い黄褐色　炭化材・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量

遺物　土師器片42点，須恵器片1点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少ないため詳細は不明であるが，遺構の重複関係及び出土遺物から古墳時代頃と思われる。

第73号住居跡（第152図）

位置　調査区の南西部，E3h$_8$区。

重複関係　本跡は，第74号住居跡，第71号住居跡，第75号住居跡と重複している。第74号住居跡及び第75号住居跡は本跡の床の上に床を構築しており，第71号住居跡は本跡の北西コーナーを掘り込んでいることから，

本跡は重複する3軒の住居跡よりも古い。

規模と平面形　一辺4.42mの方形である。

主軸方向　N－37°－E

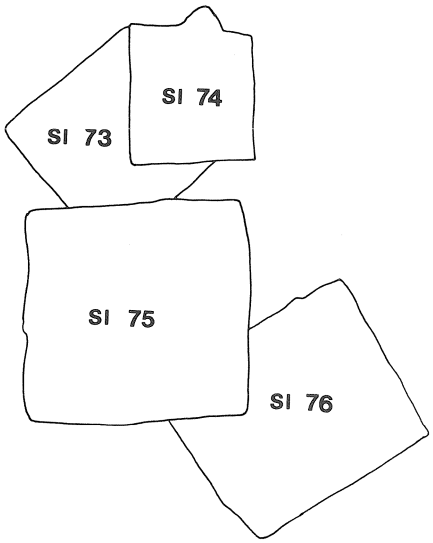
壁　壁高は37cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下のすべてに壁溝が巡っている。上幅約13cm，下幅約8cm，深さ約7cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に踏み固められている。

ピット　4か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径22～26cmの不整円形，深さ38～90cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は東コーナーに付設され，径50cmの円形で，深さは45cm，断面形はU字形である。貯蔵穴2は南コーナーに付設され，径40cmの円形で，深さは53cm，断面形は箱形である。



炉　中央から北寄りに位置し，長径104cm，短径49cmの長楕円形で，床面を10cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
2　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量

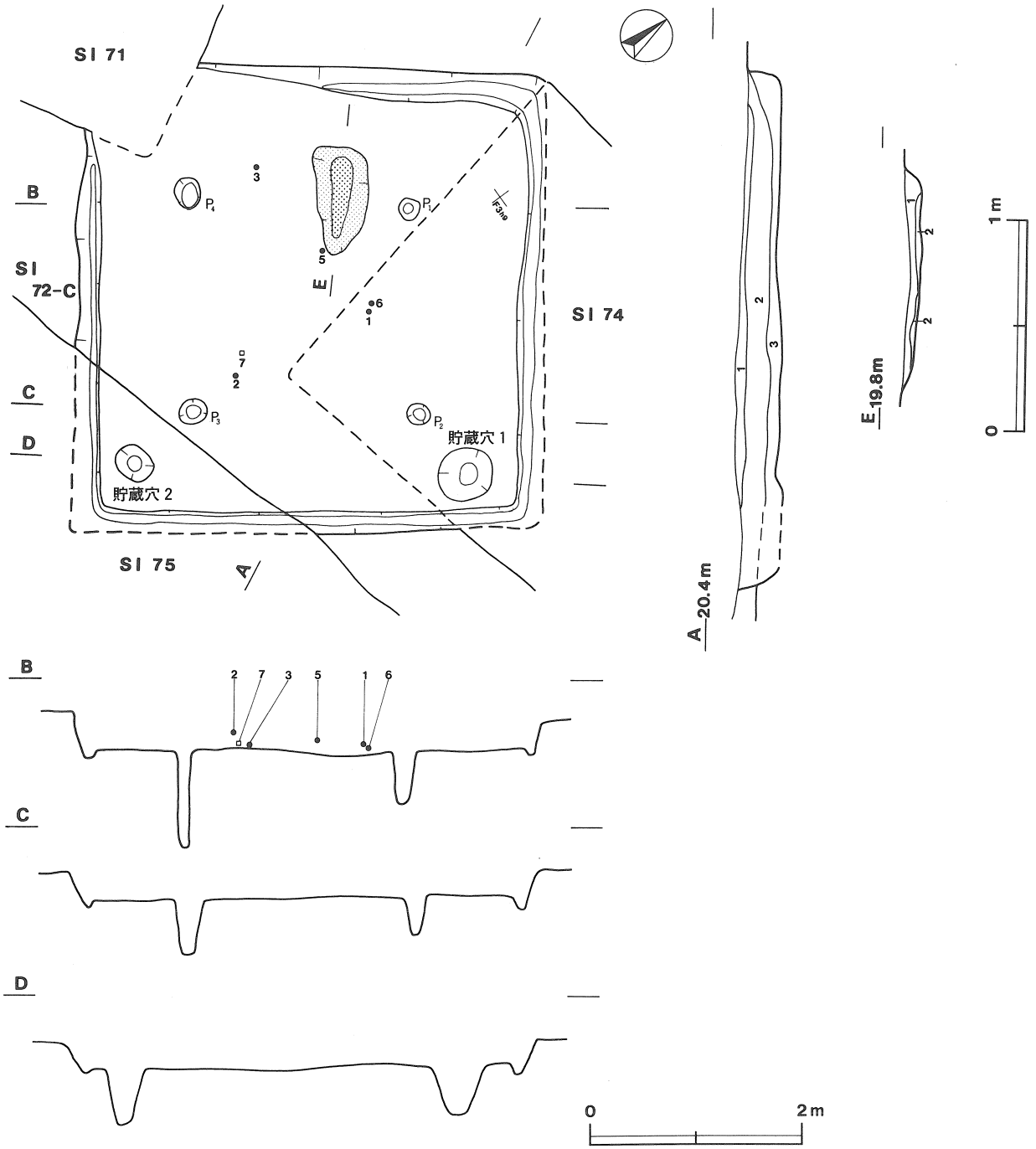
覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
2　褐　　色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量，焼土中ブロック・ローム粒子中量
3　暗　褐　色　焼土粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼土大ブロック・ローム粒子少量

第73号住居跡出土遺物観察表

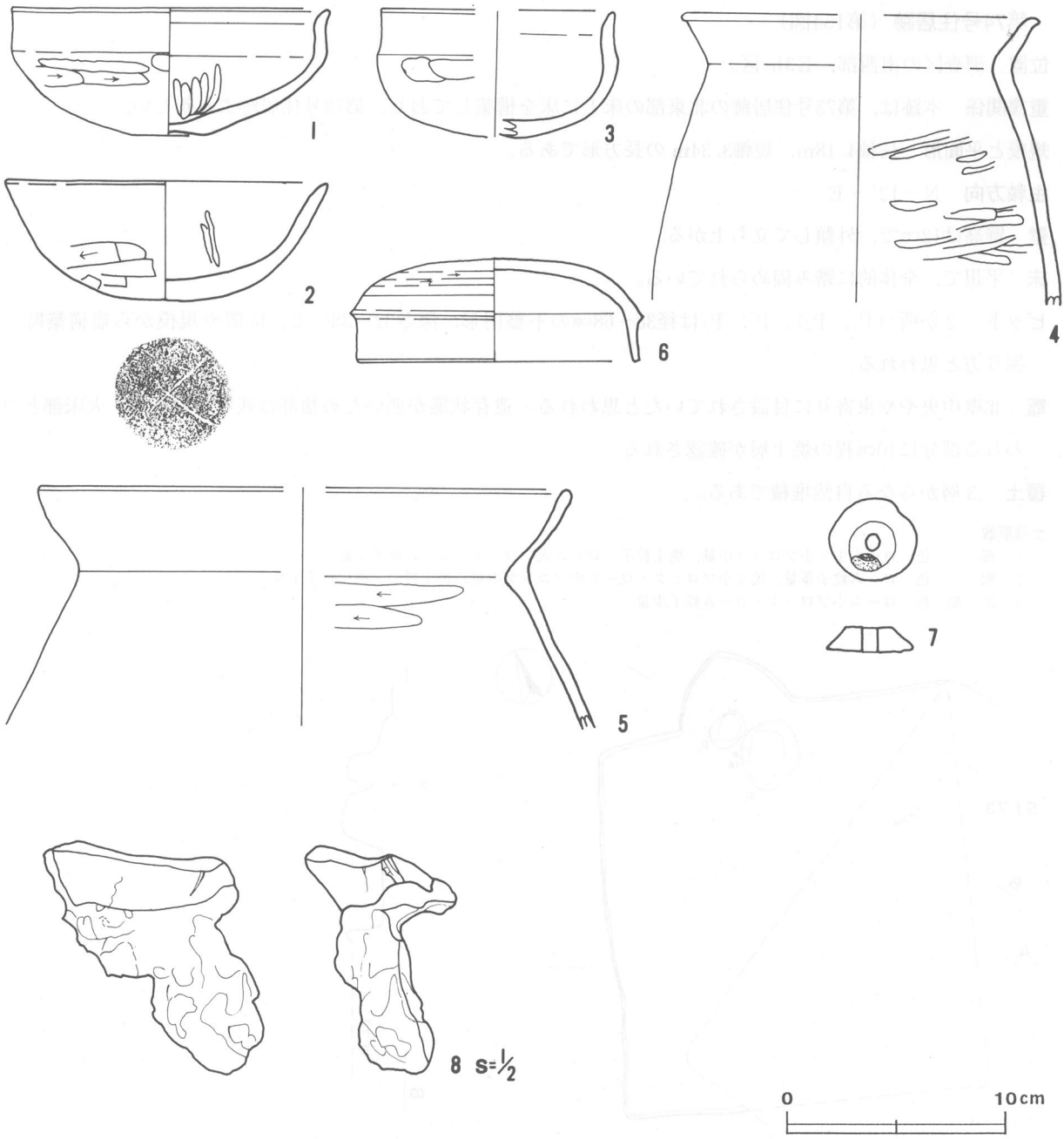
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図1	坏 土師器	A 14.3 B 5.8 C 3.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は直立し，口縁端部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 赤色 普通	P321　70% 覆土下層
2	坏 土師器	A 14.6 B 5.5	口縁部一部欠損。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・石英・雲母 赤色 普通	P322　80% 覆土中層　底部にヘラ記号あり PL70
3	椀 土師器	A［10.5］ B（5.7）	底部から口縁部片。平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	パミス・雲母 明赤褐色 普通	P323　20% 覆土中層 PL70
4	甕 土師器	A［16.4］ B（13.1）	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，上位で内傾し，口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ後ヘラ磨き，外面ナデ。	長石・スコリア・パミス・石英・長石 褐色 普通	P324　10% 覆土中 PL70
5	甕 土師器	A［24.0］ B（10.9）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は頸部で「く」の字状に折れ，内彎気味に外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス 橙色 普通	P325　5% 覆土下層
6	蓋 須恵器	A 12.9 B 4.7	天井部は平坦で，内彎して口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾し，端部は平坦である。外面に突出した稜を持つ。	天井部右ロクロ回転ヘラ削り調整。口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部内面中央部にナデが施される。	パミス・礫・長石 灰色 普通	P331　100% 床面 PL70



第152図　第73号住居跡実測図

遺物　土師器片265点，須恵器片５点，縄文土器片２点が出土している。第153図１の坏，５の甕は中央部覆土下層，２の坏は同覆土中層から，６の須恵器蓋は同床面から，３の椀は北西コーナー覆土中層から，４の甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，床面に焼土と炭化物を多数確認したことから，焼失家屋と思われる。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀後半）と思われる。



第153図　第73号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第153図7	紡錘車	3.9	4.0	1.1	0.7	21.0	滑石	中央部覆土下層	Q32　PL120

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第153図8	鉄滓	6.9	6.9	−	−	65.8	覆土中	M7　PL124　上部土器片あり

第74号住居跡（第154図）

位置　調査区の南西部，E3h$_9$区。

重複関係　本跡は，第73号住居跡の北東部の床上に床を構築しており，第73号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.18m，短軸3.34mの長方形である。

主軸方向　N－12°－E

壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，全体的に踏み固められている。

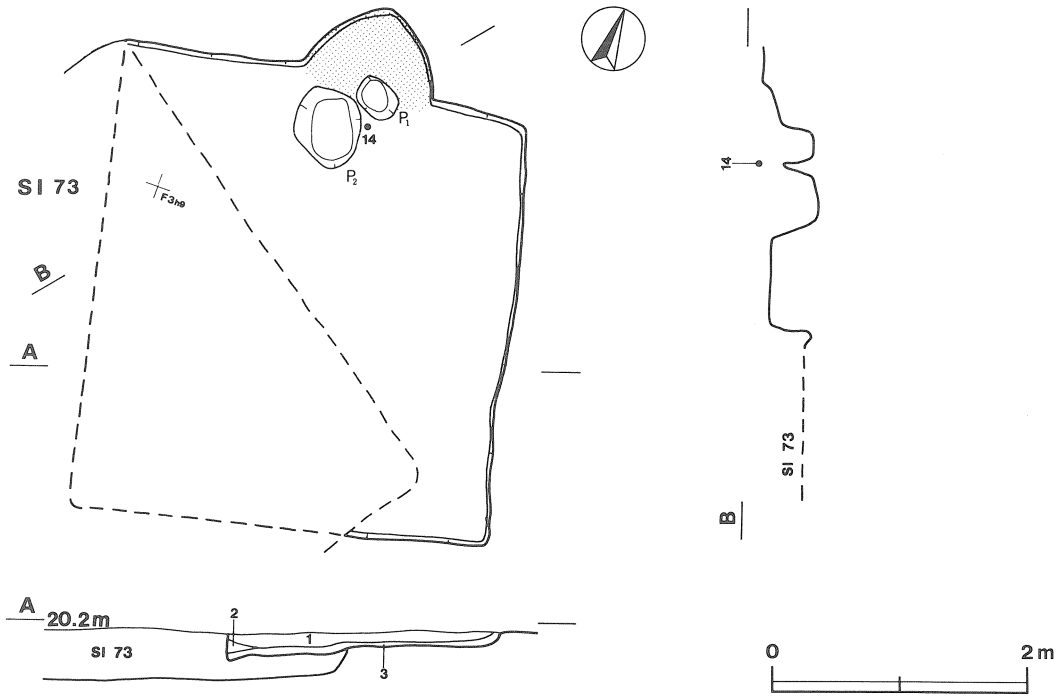
ピット　2か所（P_1，P_2）。P_1，P_2は径38～68cmの不整円形，深さ32～38cmで，位置や規模から竈構築時の掘り方と思われる。

竈　北壁中央やや東寄りに付設されていたと思われる。遺存状態が悪いため袖部は残っておらず，火床部と思われる部分に10cm程の焼土層が確認される。

覆土　3層からなる自然堆積である。

土層解説

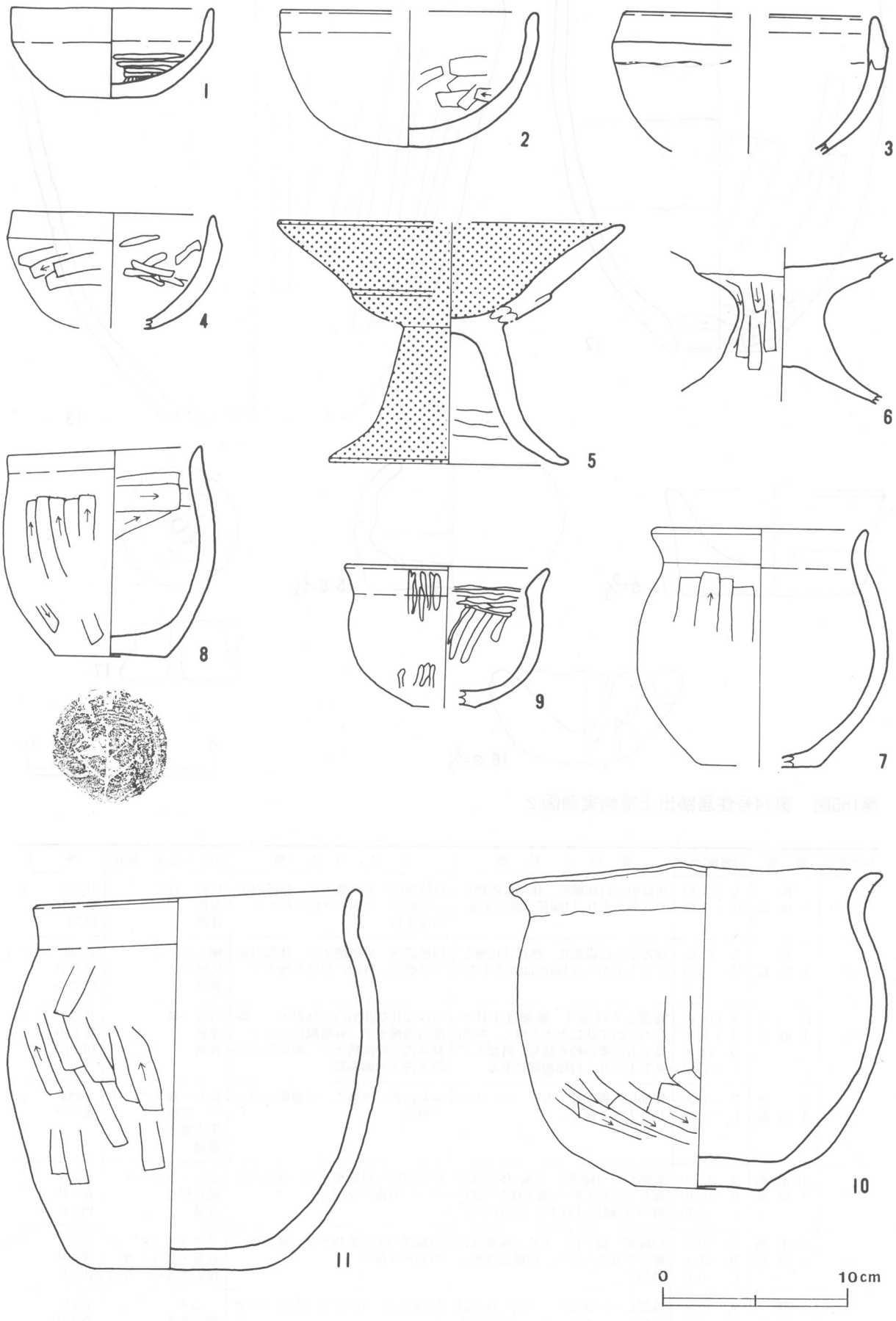
1　褐　　色　ローム中・小ブロック中量，焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，焼土小ブロック・ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量



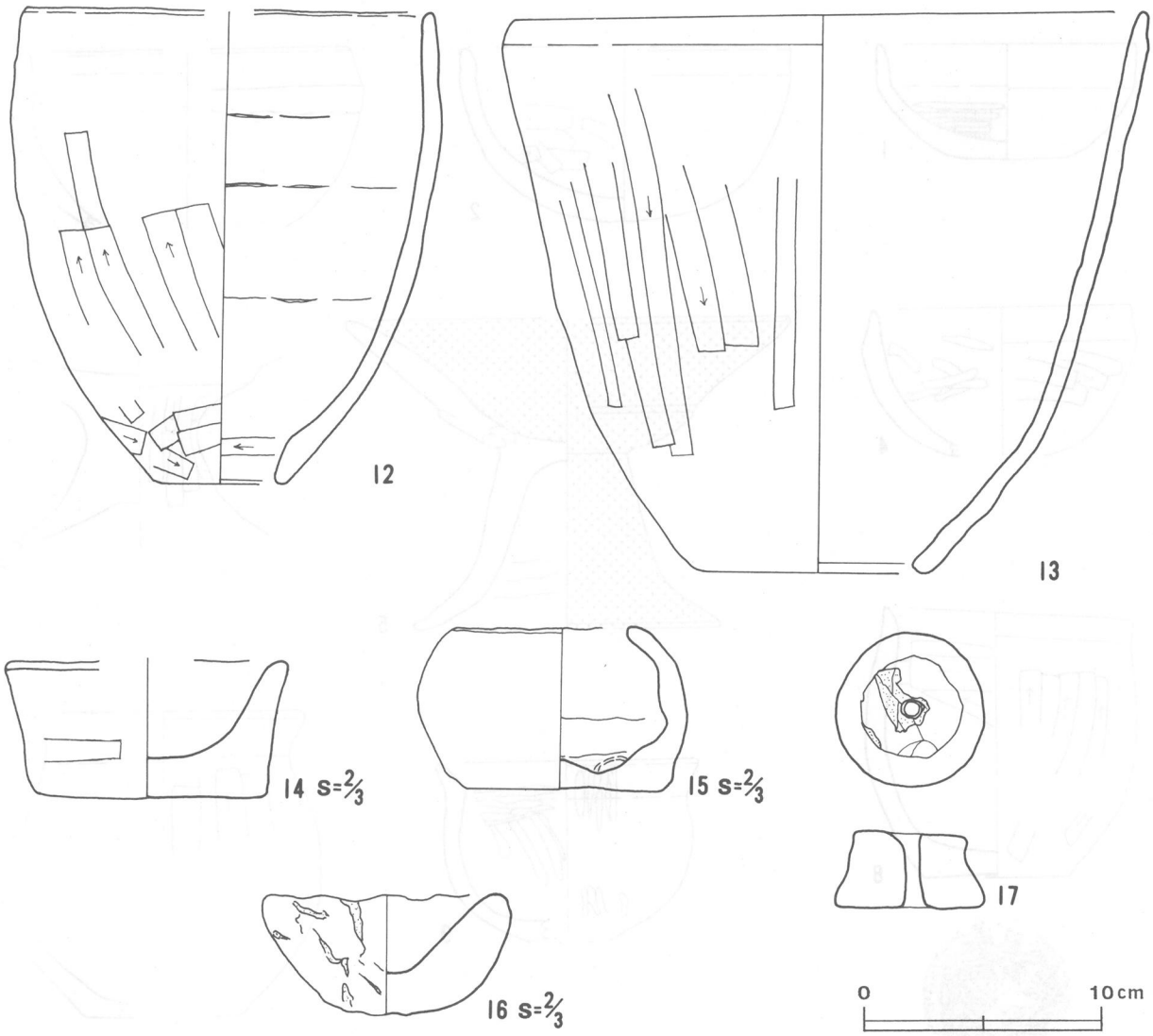
第154図　第74号住居跡実測図

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	坏 土師器	A 10.8 B 4.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後内・外面ナデ。	石英・パミス・長石・スコリア・礫 鈍い黄褐色 普通	P326 80% 覆土中 PL70
2	坏 土師器	A [13.8] B 7.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	礫・パミス・石英・雲母 橙色 普通	P327 60% 覆土中



第155図　第74号住居跡出土遺物実測図(1)



第156図　第74号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	椀 土師器	A［13.6］ B（ 7.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。内面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P328　40% 覆土中 PL71
4	椀 土師器	A　10.8 B（ 6.3）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	礫・パミス 灰褐色 普通	P329　70% 覆土中 PL70
5	高坏 土師器	A［18.8］ B（ 5.4） D　12.8 E（ 7.5）	脚部から坏部片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は下方に緩い稜を持ち，外傾して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。脚部内面横ナデ，外面縦位のナデ。裾部内・外面横ナデ。脚部内面を除き内・外面赤彩。	石英・礫 赤色 普通	P334　60% 覆土中 PL71
6	高坏 土師器	B（ 8.3） E（ 5.2）	脚部片。脚部は下方で「ハ」の字状に大きく開く。	脚部内面ヘラ磨き，外面縦位のヘラ磨き。	長石・礫・スコリア・雲母 明赤褐色 普通	P333　30% 覆土中
7	小形甕 土師器	A　11.0 B（12.9） C［ 6.6］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・礫 鈍い橙色 普通	P336　50% 覆土中 PL71
8	小形甕 土師器	A　10.5 B　11.4 C　6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・雲母・礫 鈍い黄橙色　普通	P337　90% 覆土中 PL71
9	椀 土師器	A　10.8 B　7.6 C［ 3.4］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ヘラ磨き。	パミス 鈍い橙色 普通	P338　70% 覆土中 PL71

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	甕 土師器	A 20.1 B 17.4 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英・スコリア 橙色 普通	P339 70% 覆土中 PL71
11	甕 土師器	A 17.4 B 20.7 C 11.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部粗いヘラナデ，外面ナデ一部ヘラ削り。	スコリア・パミス・長石・礫 橙色 普通	P340 90% 覆土中 PL71
第156図 12	甑 土師器	A [16.0] B 20.0 C 5.6	単孔式。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。孔周囲ヘラ削り。	長石・石英・スコリア・パミス 鈍い橙色 普通	P341 40% 覆土中 PL70
13	甑 土師器	A 26.8 B 23.8 C 9.4	単孔式。体部は外傾して立ち上がり，そのまま口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り後磨き，外面ヘラ削り。	礫・石英・パミス 橙色 普通	P342 80% 覆土中 PL70
14	手捏土器 土師器	A [5.8] B 2.9 C 4.9	底部から口縁部片。平底。突出した底部から，外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内面ナデ，外面横ナデ。	雲母・パミス 明赤褐色 普通	P343 50% 覆土中
15	手捏土器 土師器	A 3.8 B 3.4 C 4.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ一部指頭押圧，外面ナデ後磨き。	石英・パミス・スコリア・礫 鈍い黄橙色 普通	P344 90% 覆土中 PL71
16	手捏土器 土師器	A 4.7 B 2.6 C 2.0	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英 鈍い赤褐色 普通	P345 100% 覆土中 PL71

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第156図17	紡錘車	6.5	6.3	3.3	0.9～1.0	127.0	覆土中	DP28 PL115

遺物　土師器片426点，須恵器片11点，縄文・弥生土器片２点，鉄製品15点が出土している。第155・156図１，２の坏，３，４の椀，５，６の高坏，７，８の小形甕，10，11の甕，12，13の甑，14～16の手捏土器は覆土中からそれぞれ出している。９の土師器椀は前代からのの混入と思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態，出土遺物及び重複関係から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第75号住居跡（第157図）

位置　調査区の南西部，E3i_9区。

重複関係　本跡は，第73号住居跡及び第76号住居跡の床上に本跡の床を構築しており，第159号土坑が本跡を掘り込んでいることから，第73号住居跡と第76号住居跡及び第159号土坑より古い。

規模と平面形　長軸5.94m，短軸5.86m の方形である。

主軸方向　N－77°－E

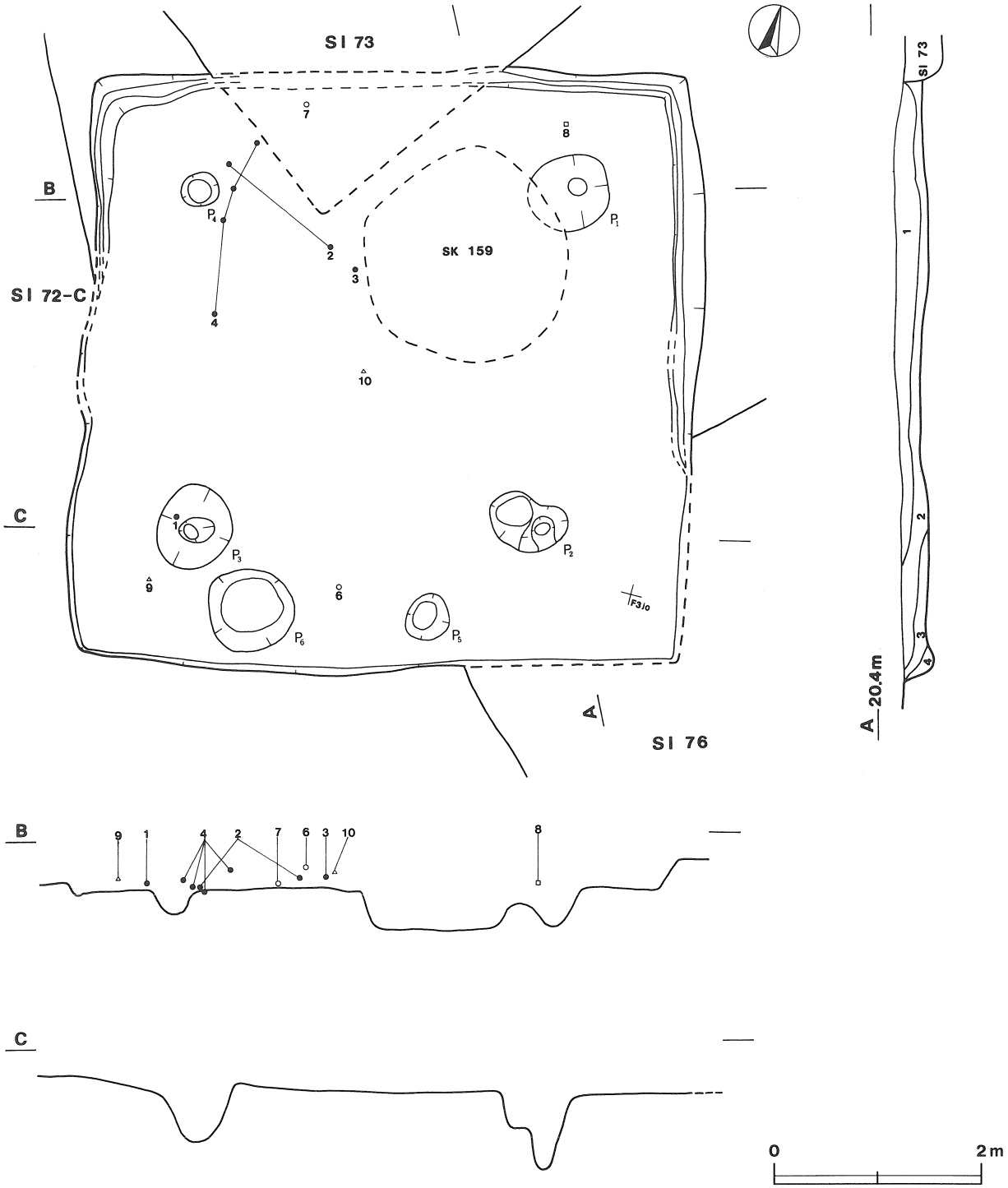
壁　壁高は27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，南東壁から北西壁まで壁下に壁溝が巡っている。上幅約10cm，下幅約６cm，深さ約３cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　６か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径32～72cmの不整円形，深さ24～72cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径20cmの楕円形，深さ26cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径86cmの不整楕円形，深さ35cm，断面形は逆台形で，貯蔵穴の可能性がある。

竈　北西壁付近に粘土粒子がわずかに認められることや，遺物等から見て竈の存在が予想されるが，焼土等は確認されておらず，詳細は不明である。

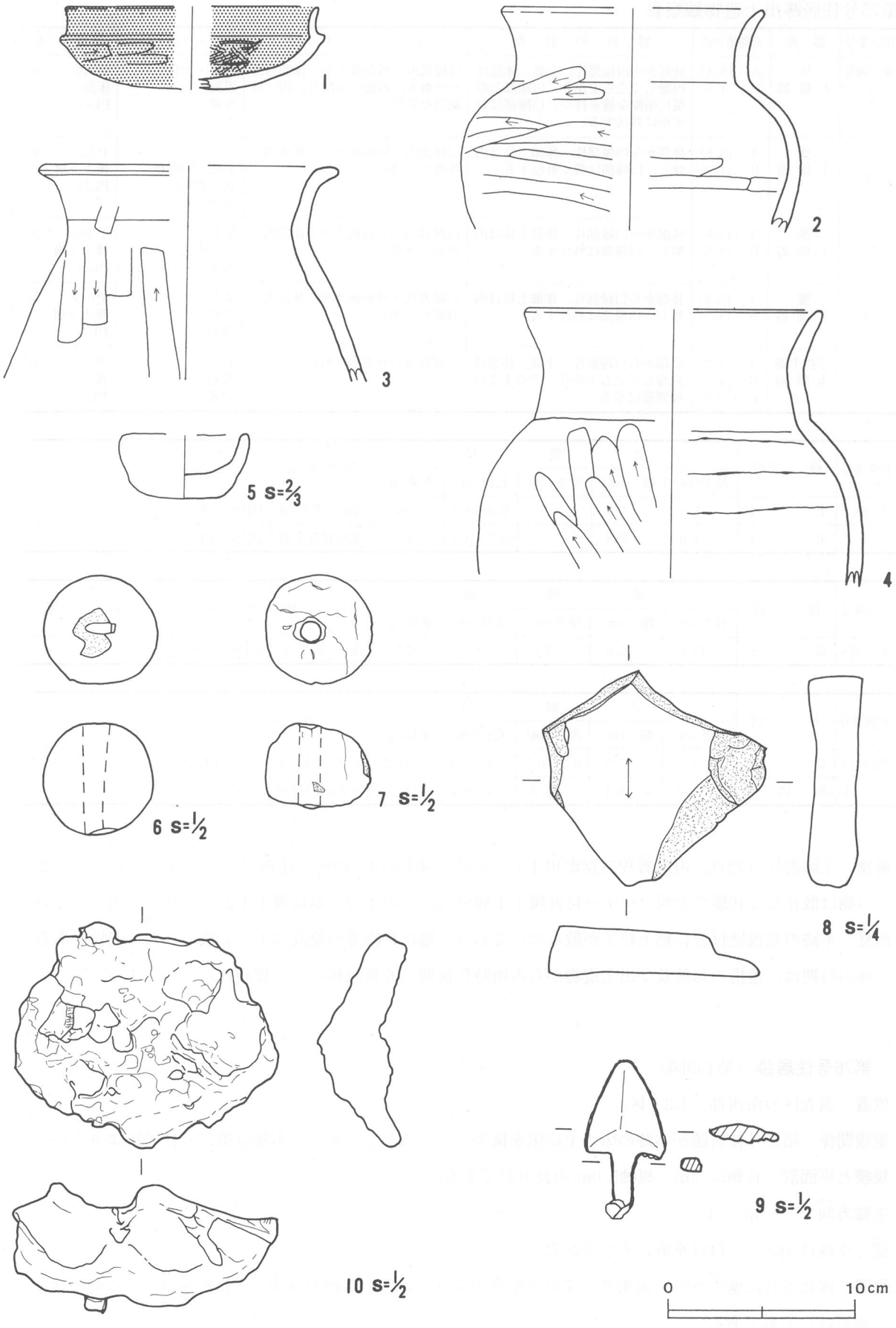


第157図　第75号住居跡実測図

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量
2　黒　褐　色　炭化物中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子少量



第158図　第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	坏 土師器	A [13.4] B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	石英・雲母 黒褐色 普通	P346 60% 床面 PL71
2	甕 土師器	A [13.8] B (11.9)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・石英・雲母・礫 鈍い赤褐色 普通	P347 20% 覆土下層 PL71
3	甕 土師器	A [15.0] B (11.5)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス 明赤褐色 普通	P348 20% 覆土下層 PL71
4	甕 土師器	A [15.8] B (14.7)	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	雲母・パミス 橙色 普通	P349 40% 覆土下層 PL71
5	手捏土器 土師器	A [3.2] B 1.7 C 2.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	石英 橙色 普通	P350 60% 覆土中 PL71

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第158図 6	土玉	3.9	4.0	−	0.6〜0.9	58.3	南壁付近覆土下層	DP29 PL115
7	土玉	4.0	3.8	−	0.7〜0.9	41.3	北壁付近床面	DP30 PL115

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第158図 8	砥石	15.1	15.8	3.9	−	977.5	安山岩	北壁付近覆土下層	Q33

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第158図 9	鉄鏃	5.7	2.9	0.7〜0.3	0.7〜0.9	11.2	南西コーナー覆土下層	M8 PL124
10	椀状滓	8.0	9.4	3.3	0.7〜0.9	275.5	中央部覆土下層	M9 PL124

遺物　土師器片1192点，須恵器片51点が出土している。第158図1の坏は南西コーナー付近床面から，2〜4の甕は散在した状態で北西コーナー付近覆土下層から，5の手捏土器は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の北西壁付近に粘土粒子が散らばっており，竈は耕作等の撹乱によって壊された可能性がある。本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第76号住居跡（第159図）

位置　調査区の南西部，E3j_0区。

重複関係　第75号住居跡が本跡の床の上に床を構築しているところから，本跡は第75号住居跡より古い。

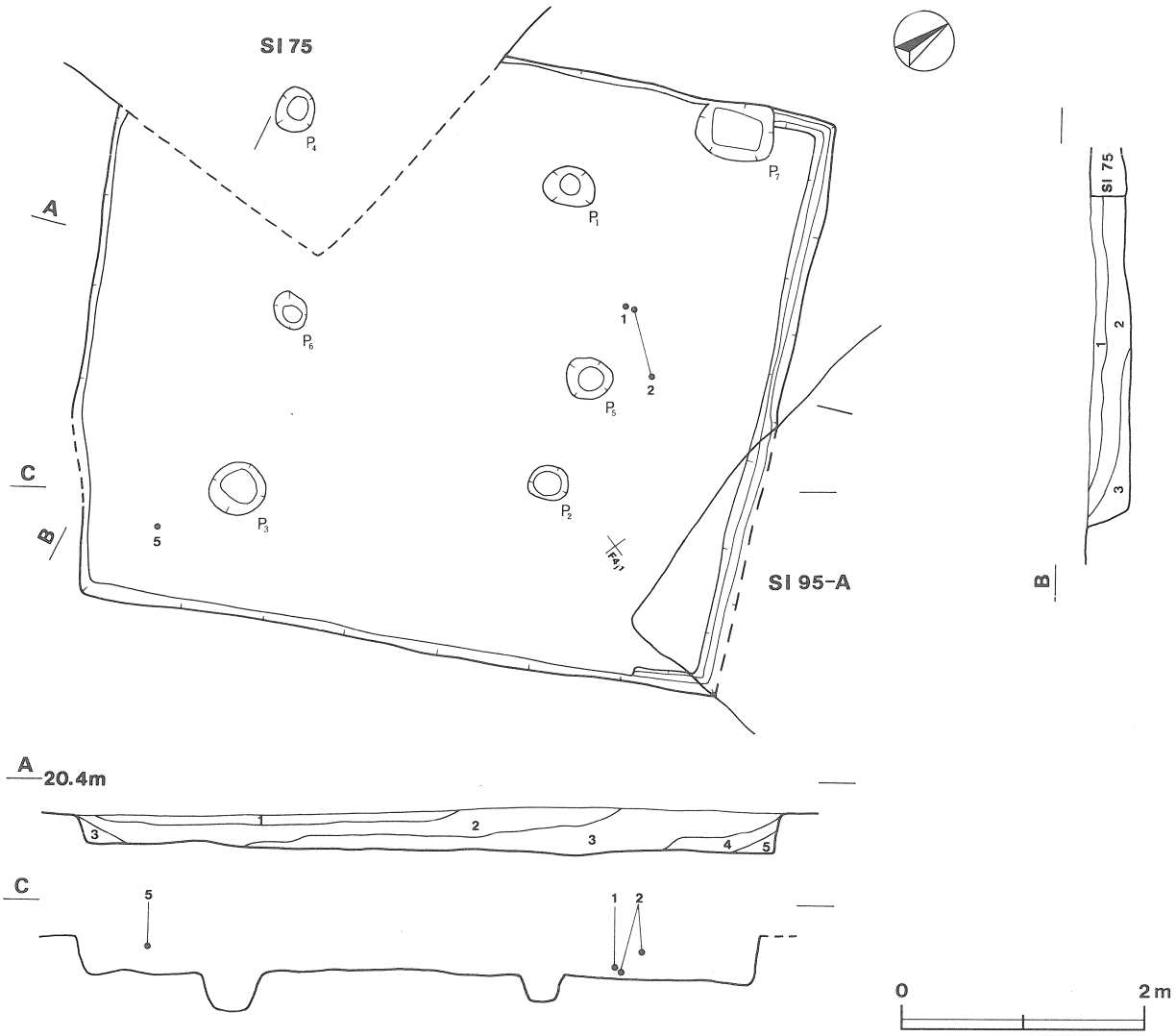
規模と平面形　長軸5.74m，短軸5.0mの長方形である。

主軸方向　N−45°−E

壁　壁高は30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，南東壁下にのみ壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約6cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，全体的に踏み固められている。



第159図　第76号住居跡実測図

ピット　7か所（P_1～P_7）。P_1～P_4は径36～48cmの不整円形，深さ22～32cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5，P_6は径18～28cm，深さ56～57cmで，配置や規模から柱穴の可能性がある。P_7は長軸62cm，短軸44cmの長方形で，位置と形状から貯蔵穴の可能性がある。

竈　遺物等から見て竈の存在が予想されるが，粘土粒子や焼土は確認されておらず，第75号住居跡によって掘り込まれたものと考えられる。

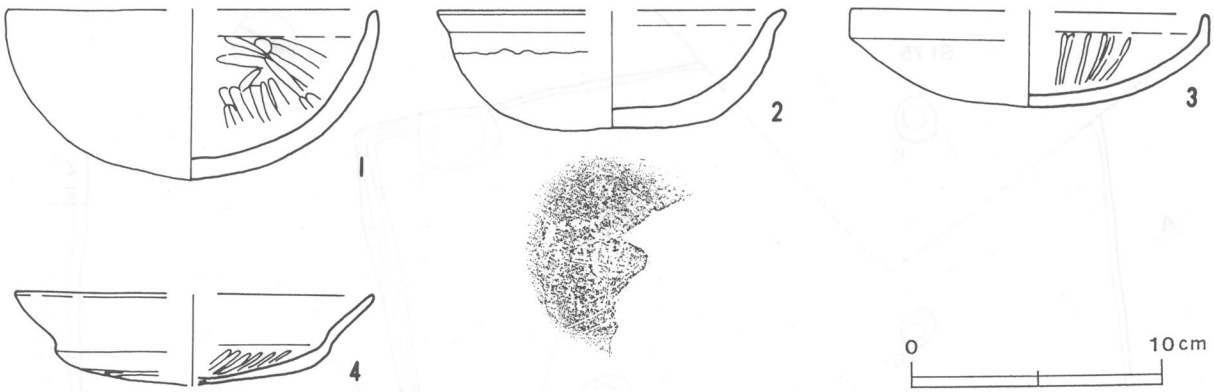
覆土　5層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土中ブロック・ローム中ブロック少量
2　黒　褐　色　炭化物中量，焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
3　明　褐　色　ローム大ブロック・ローム粒子多量，黒色土少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大ブロック少量
5　黄　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物　土師器片523点，須恵器片15点，陶器片1点，軽石4点が出土している。第160図1の坏は北東壁付近床面，2の坏は同覆土中層から，3，4の坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第160図　第76号住居跡出土遺物実測図

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	坏 土師器	A［14.6］ B 6.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ後磨き。	スコリア・長石・雲母・礫 赤褐色 普通	P351 50% 床面 PL71
2	坏 土師器	A［13.6］ B 4.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後磨き。	石英・長石 明赤褐色 普通	P352 40% 覆土中層 底部ヘラ記号 PL71
3	坏 土師器	A［14.2］ B 3.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	雲母・パミス・スコリア 明赤褐色 普通	P353 30% 覆土中
4	坏 土師器	A［14.0］ B 3.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石 鈍い橙色 普通	P354 20% 覆土中

第77号住居跡（第161図）

位置　調査区の南西部，F4j_1区。

規模と平面形　長軸3.43m，短軸3.03mの長方形である。

主軸方向　N－5°－W

壁　壁高は27cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

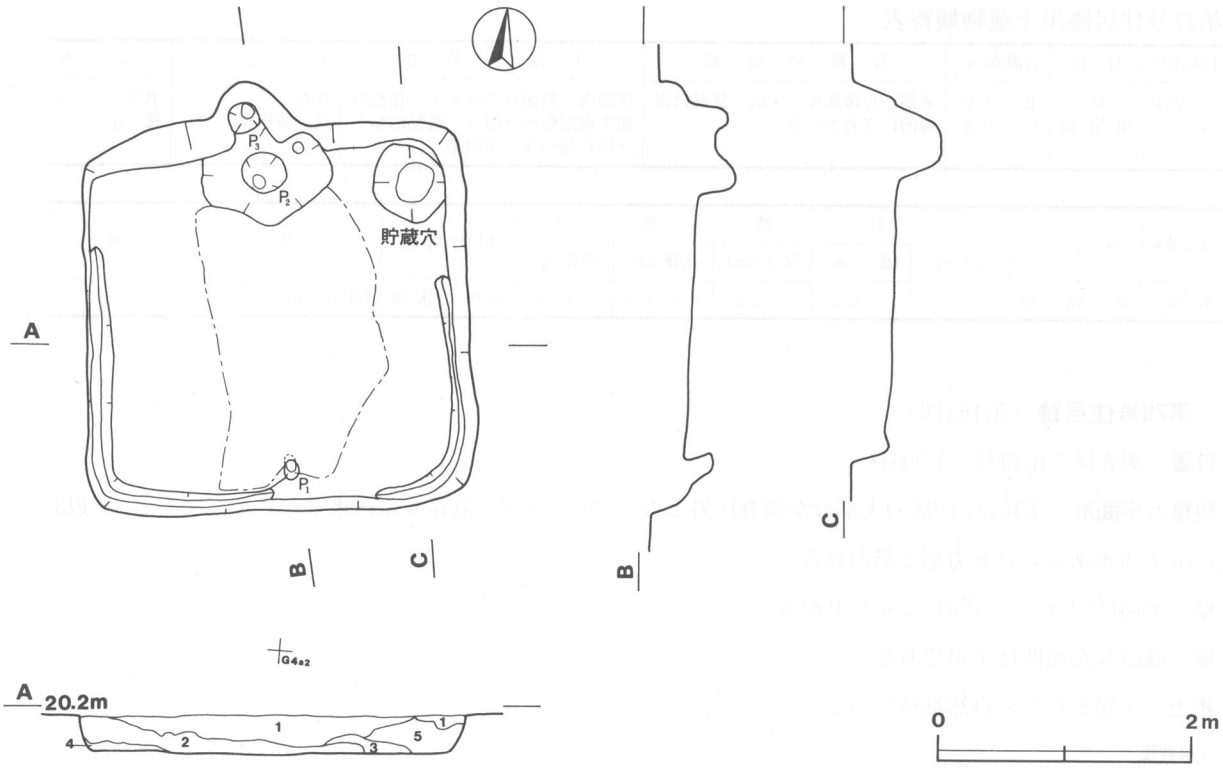
壁溝　確認された壁のうち，東壁から南壁を回り，西壁までの壁下には壁溝が巡っている。上幅約16cm，下幅約7cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　北東コーナーに付設され，長径65cm，短径56cmの楕円形で，深さは46cm，断面形はU字形である。

床　平坦で，入口部から中央部にかけて硬く踏み固められている。粘土塊が出入り口ピットの周囲に，長径80cmの不整楕円形状に広がっている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径15cmの円形，深さ20cmで，南壁方向にやや傾いているところから出入り口ピットと思われる。P_2，P_3は径24～33cm，深さ25～27cmで，竈構築時に掘り込んだピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土及び凝灰岩で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部に立てられたと思われる凝灰岩の切石と埋没の過程で竈から流れ出した粘土が竈周りに認められている。煙道部は壁外へ32cm程突出し，壁の内側から急に立ち上がる。



第161図　第77号住居跡実測図

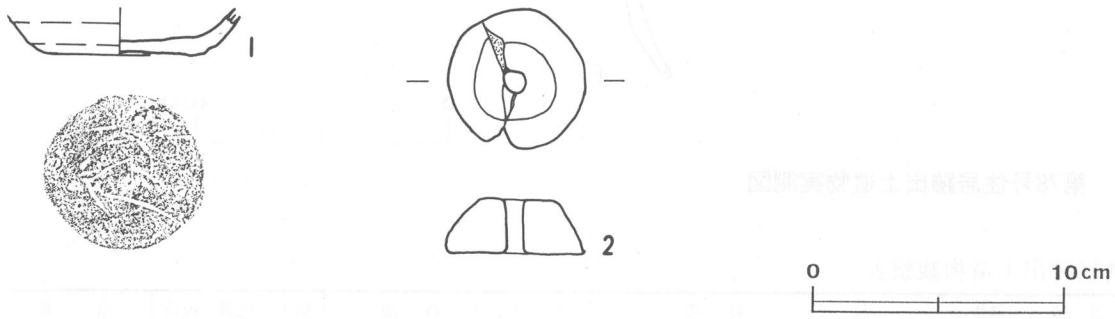
覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子微量

遺物　土師器片94点，須恵器片21点，陶器片1点が出土している。第162図1の須恵器坏は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，遺物が細片であるため詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀頃）と思われる。



第162図　第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図1	坏 須恵器	B (1.9) C 6.3	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。	長石 鈍い黄橙色 普通	P356 30% 覆土中

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第162図2	紡錘車	−	5.5	2.2	0.6〜1.0	64.9	西壁際床面	DP31 PL116

第78号住居跡（第164図）

位置　調査区の南西部，E3j$_5$区。

規模と平面形　本跡は，住居の大部分が調査区外となっているため，遺存する南東壁から推定すると，一辺3.16mの方形あるいは長方形と思われる。

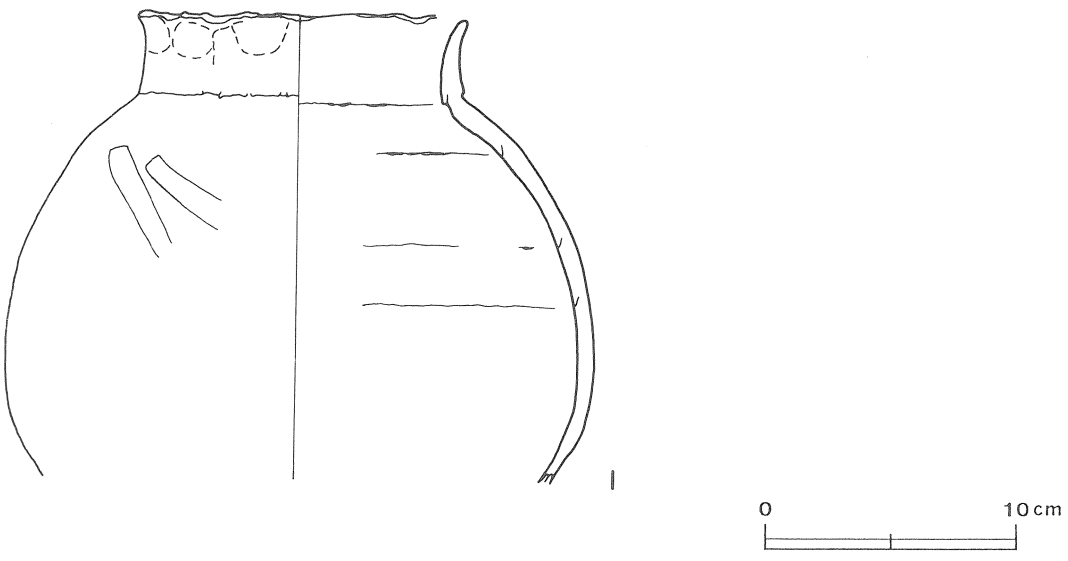
壁　壁高は12cmで，外傾して立ち上がる。

床　確認した範囲は平坦である。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

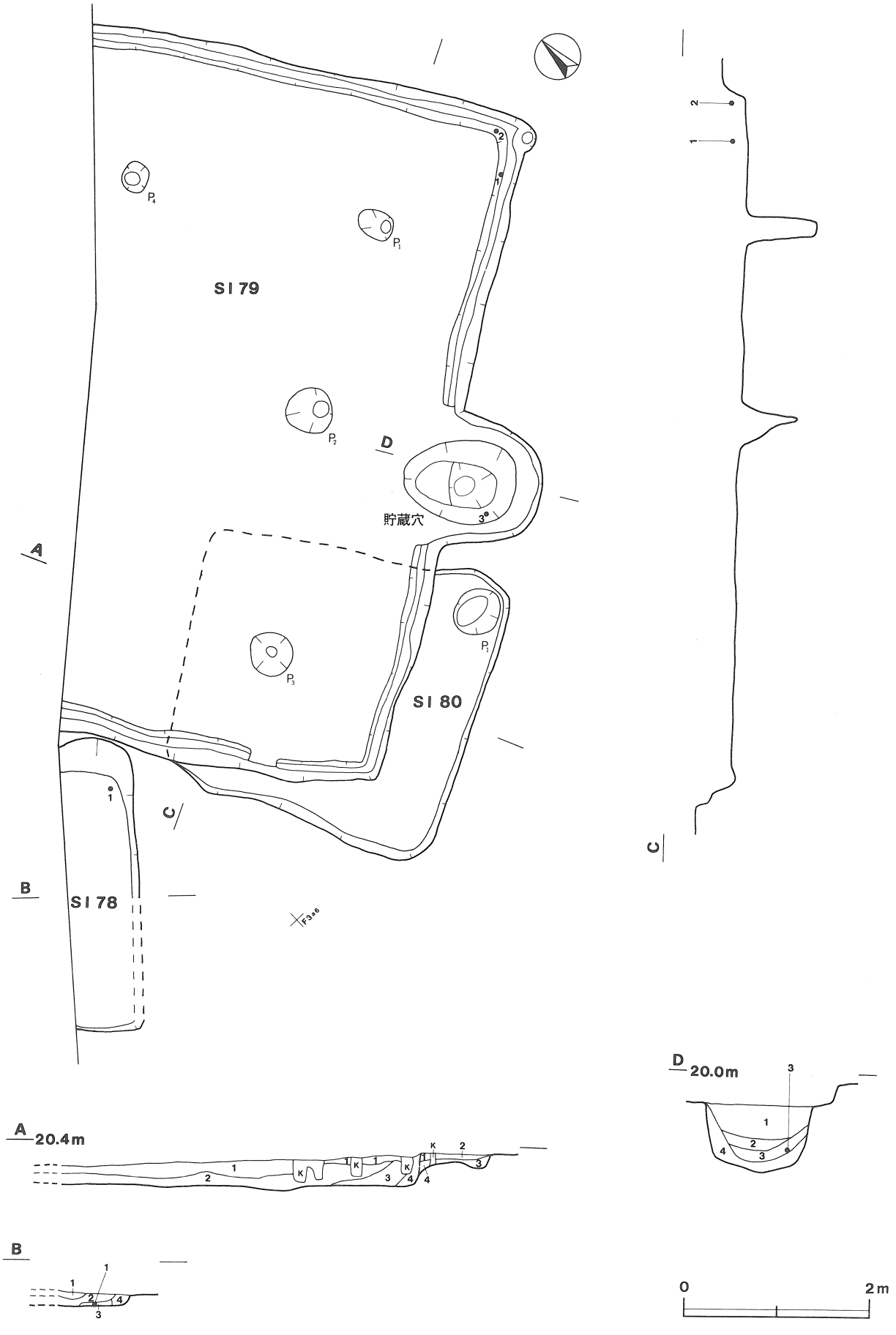
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量



第163図　第78号住居跡出土遺物実測図

第78号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図1	甕 土師器	A 12.8 B (18.5)	体部から口縁部片。体部は球形状に内彎して立ち上がる。口縁部は直立し，端部で反る。口縁端部は波状を呈する。	口縁部内・外面ナデ後指頭押圧。体部内面ナデ，外面ナデ一部ヘラ削り。	石英・雲母 鈍い橙色 普通	P357 20% 覆土中層 PL71



第164図　第78・79・80号住居跡実測図

遺物　土師器片92点が出土している。第164図１の甕は東コーナー付近覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，出土遺物片から古墳時代（５世紀～６世紀頃）と思われる。

第79号住居跡（第164図）

位置　調査区の南西部，E3i$_6$区。

重複関係　本跡は，第80号住居跡の北東部を掘り込んでいることから，第80号住居跡より新しい。

規模と平面形　遺存する南東壁から推定すると，一辺7.6mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－53°－E

壁　壁高は８～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　調査区外の部分を除いて全周する。上幅約14cm，下幅約６cm，深さ約４cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　４か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$～P$_4$は径32～47cmの不整円形，深さ60～62cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。

貯蔵穴　南東壁中央部に，壁外に102cm程突出した状態で付設されている。長径121cm，短径92cmの楕円形で，深さは73cm，断面形はU字形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒　　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック，ローム粒子少量
4　黄　褐　色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量

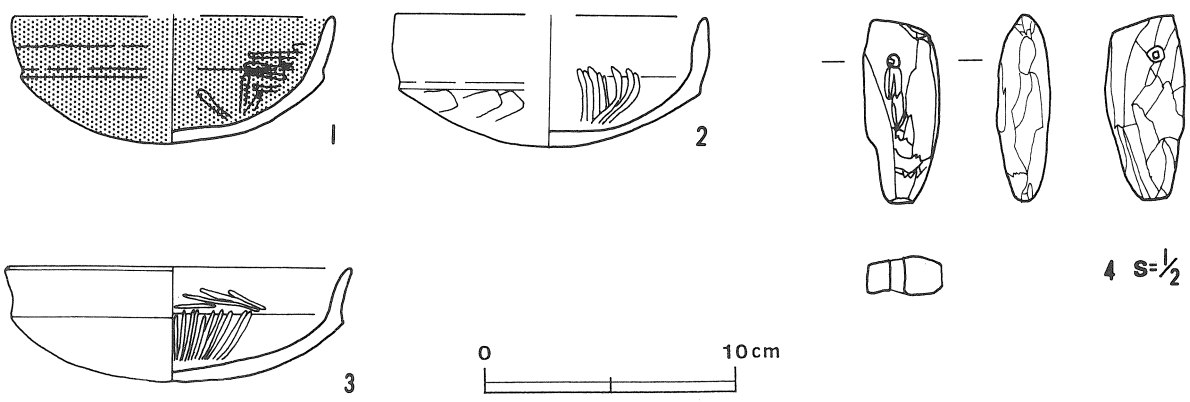
覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム大ブロック・小ブロック微量

遺物　土師器片527点，須恵器片11点が出土している。第165図1，２の坏は南コーナー覆土中層から，３の坏は貯蔵穴内からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀前半）と思われる。



第165図　第79号住居跡出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 土師器	A［12.6］ B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり,口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。	雲母・パミス 黒色 普通	P358 40% 覆土中層 PL71
2	坏 土師器	A［12.2］ B 5.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり,口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・雲母 鈍い褐色 普通	P359 20% 覆土中層 PL71
3	坏 土師器	A 13.5 B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり,口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英 明赤褐色 普通	P360 80% 貯蔵穴覆土内 PL71

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第165図4	石製模造品	4.8	2.0	－	0.3～0.4	13.3	滑石	覆土中	Q34 PL122

第80号住居跡（第164図）

位置　調査区の南西部，E3j_6区。

重複関係　本跡は，第79号住居跡に北東部を掘り込まれていることから，第79号住居跡より古い。

規模と平面形　遺存する南東壁から推定すると，一辺3.2mの方形あるいは長方形と思われる。

壁　壁高は8cmで，外傾して立ち上がる。

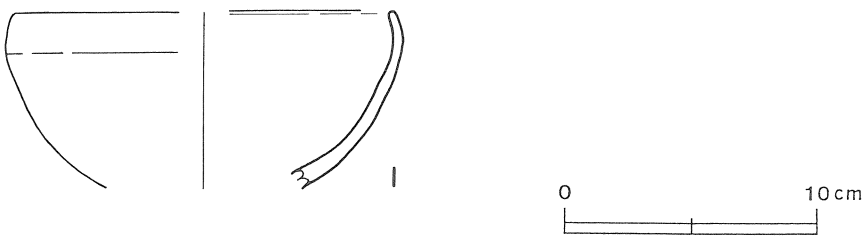
床　平坦で，全体的に軟らかい。

ピット　P_1は径50cmの不整円形，深さ62cmで，貯蔵穴の可能性も考えられる。

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　色　ローム粒子微量
2　黒褐色　ローム大ブロック少量，ローム粒子微量
3　明褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量



第166図　第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 1	椀 土師器	A［15.0］ B（7.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。	スコリア・パミス・石英・雲母 明褐色 普通	P361 5% 覆土中 PL72

遺物　土師器片41点，須恵器片１点が出土している。第166図１の椀は覆土中から出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代（５世紀～６世紀頃）と思われる。

第81号住居跡（第167図）

位置　調査区の南西部，F3a$_6$区。

重複関係　本跡は，第82号住居跡の床上に床を構築しており，第２号井戸に北西部を掘り込まれていることから，第82号住居跡より新しく，第２号井戸より古い。

規模と平面形　長軸3.65m，短軸3.35mのほぼ方形である。

主軸方向　N－26°－W

壁　壁高は20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北西コーナー部分のみに壁溝が巡っている。上幅約９cm，下幅約４cmである。

床　平坦で，中央部は踏み固められている。

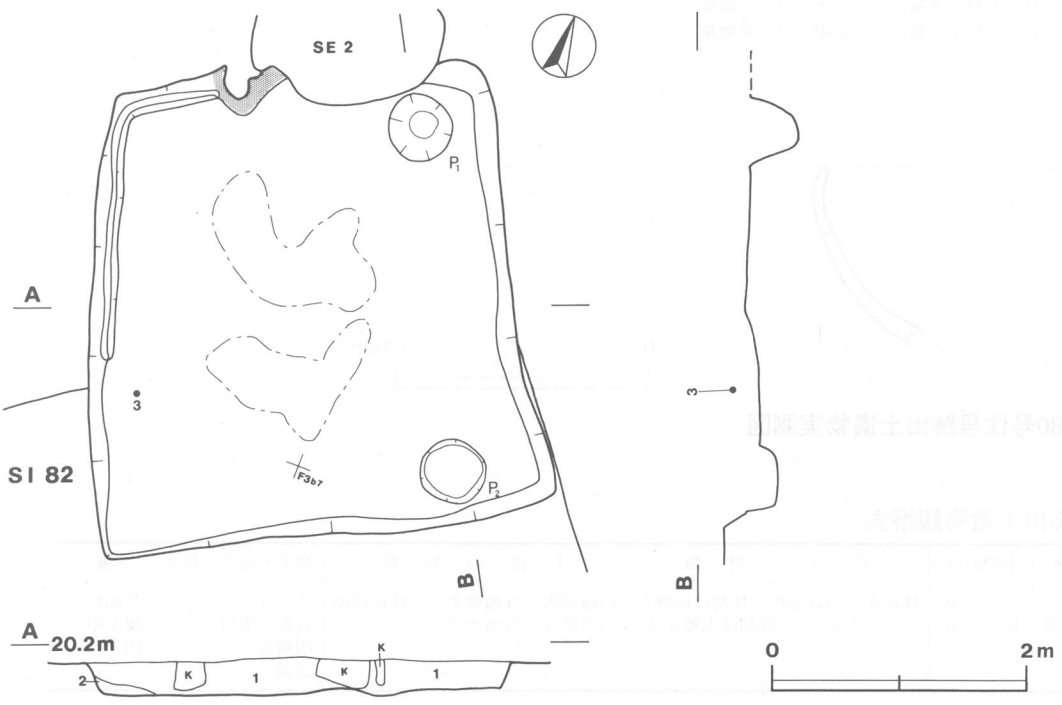
ピット　２か所（P$_1$，P$_2$）。P$_1$は径54cmの不整円形，深さ39cmで，配置や規模から貯蔵穴の可能性がある。P$_2$は径52cm，深さ12cmで，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されていたと思われるが，左袖部と焼土をわずかに残して，大部分を第２号井戸に掘り込まれている。

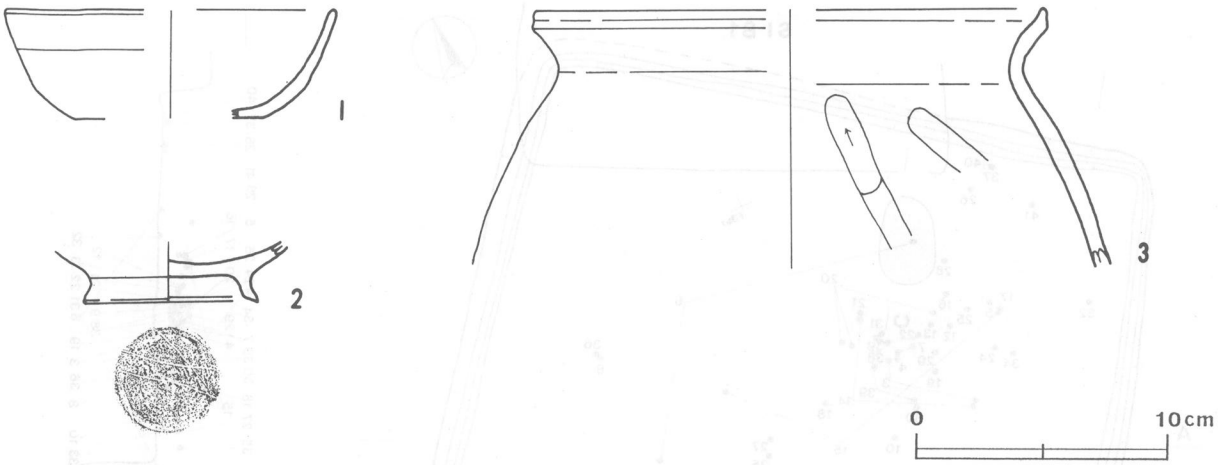
覆土　２層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土中・小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量



第167図　第81号住居跡実測図



第168図　第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第168図 1	坏 土師器	A［12.9］ B　4.4 C［7.3］	体部片。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。	雲母・石英 灰褐色 普通	P362　10% 覆土中 PL72
2	高台付坏 須恵器	B（2.4） D　6.9 E　1.0	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部内面ロクロナデ，外面回転ヘラ削り後高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰白色 普通	P363　10% 覆土中　底部にヘラ記号あり PL72
3	甕 土師器	A［20.0］ B（10.4）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は外傾する。端部は上方につまみ上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ナデ。	スコリア・石英・パミス 橙色 普通	P364　5% 覆土中 PL72

遺物　土師器片267点，須恵器片23点が出土している。第168図１の坏，２の須恵器高台付坏，３の甕は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも出土遺物が覆土中のもののため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後半頃）と思われる。

第82号住居跡（第169図）

位置　調査区の南西部，F3b$_6$区。

重複関係　本跡は，第81号住居跡と第83号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，両遺構より古い。

規模と平面形　長軸5.36m，短軸3.78mの長方形である。

主軸方向　N－55°－E

壁　壁高は37～46cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

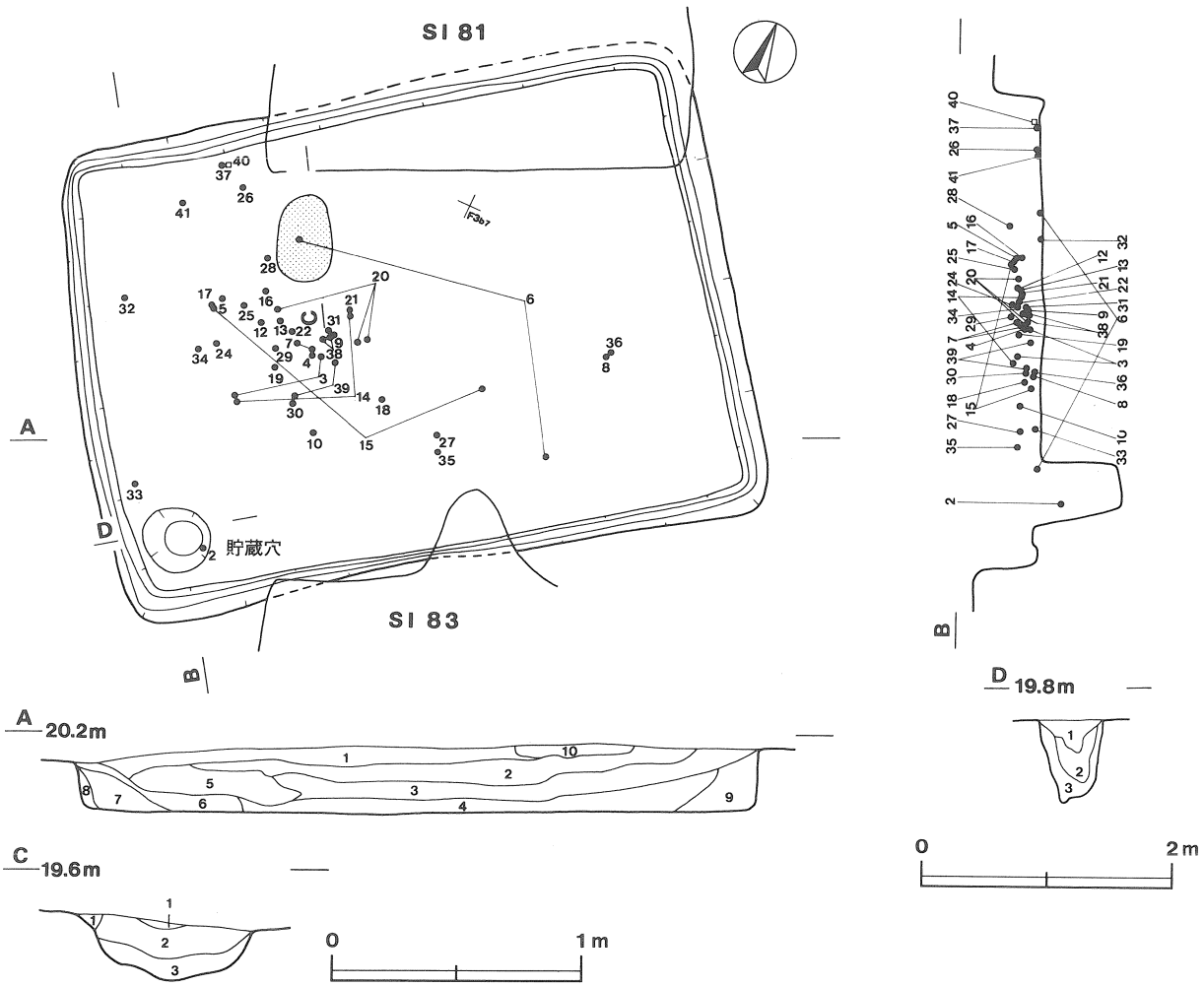
壁溝　全周する。上幅約12cm，下幅約８cm，深さ約５cmで，断面形は「U」字形である。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，径56cmの円形で，深さは62cm，断面形は筒形である。

貯蔵穴土層解説

1　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量



第169図　第82号住居跡実測図

炉　中央から北西壁寄りに位置し，長径70cm，短径48cmの楕円形で，床面を23cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

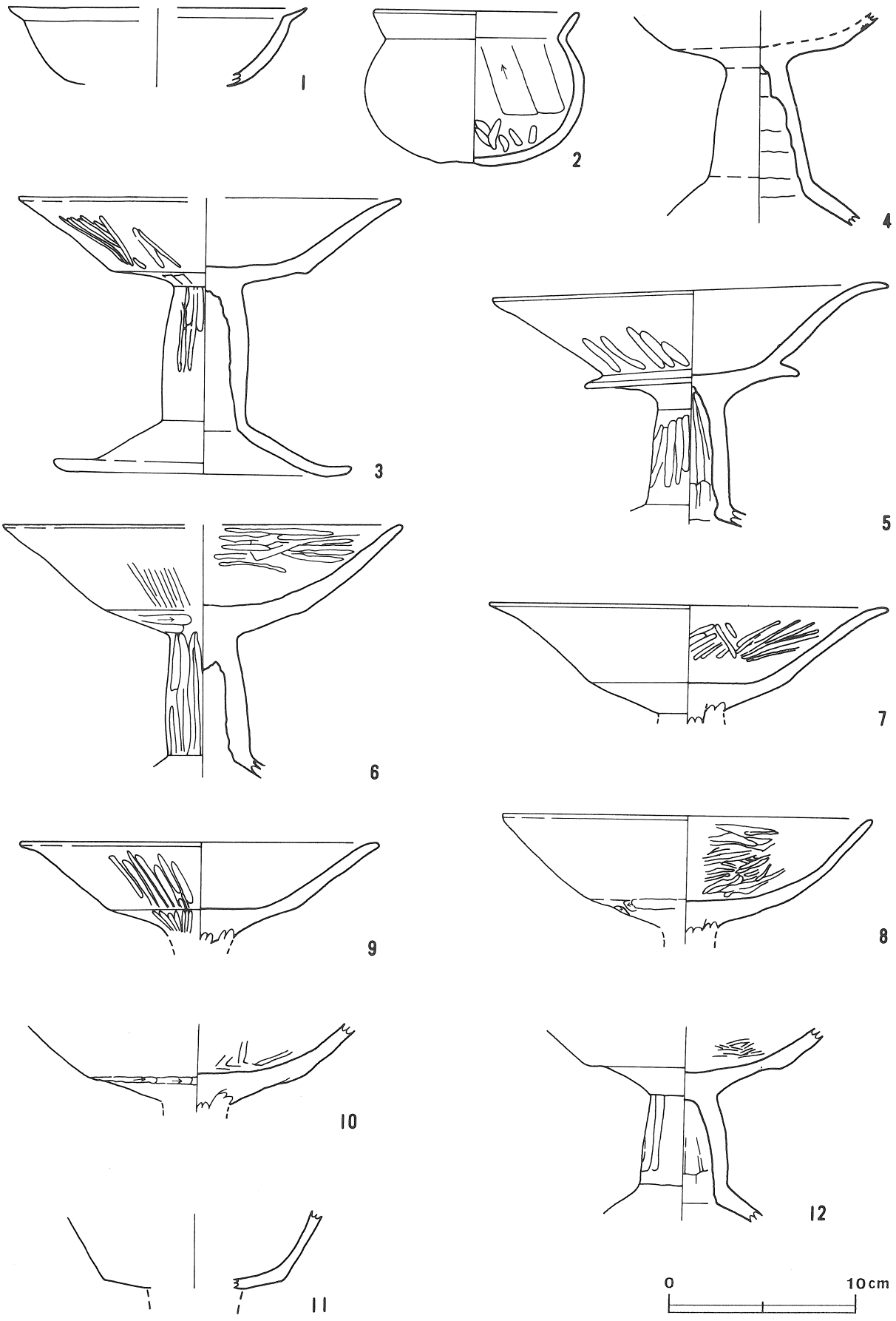
炉土層解説

1　黒　　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　赤　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量
3　黄　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量

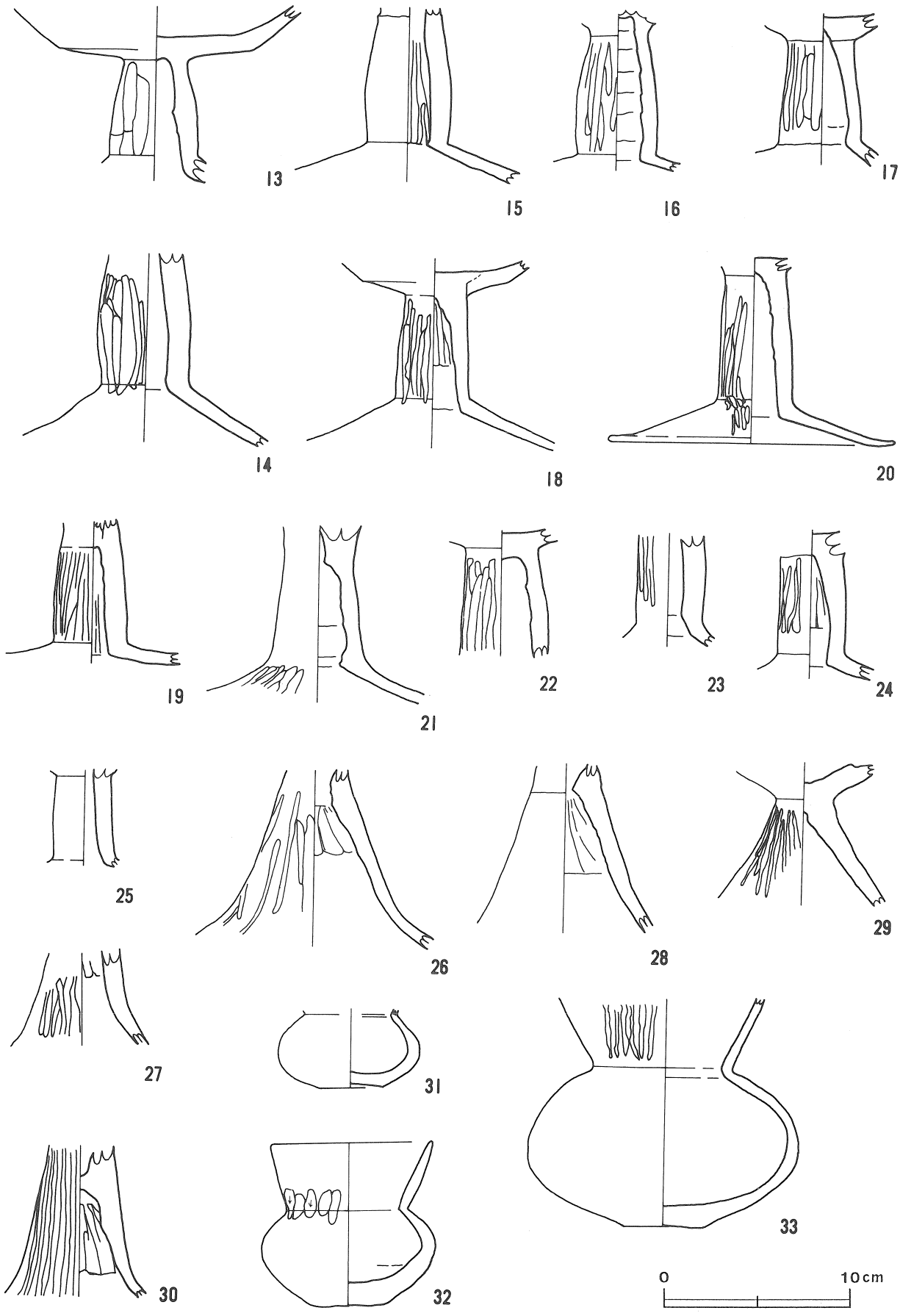
覆土　10層からなる人為堆積である。

土層解説

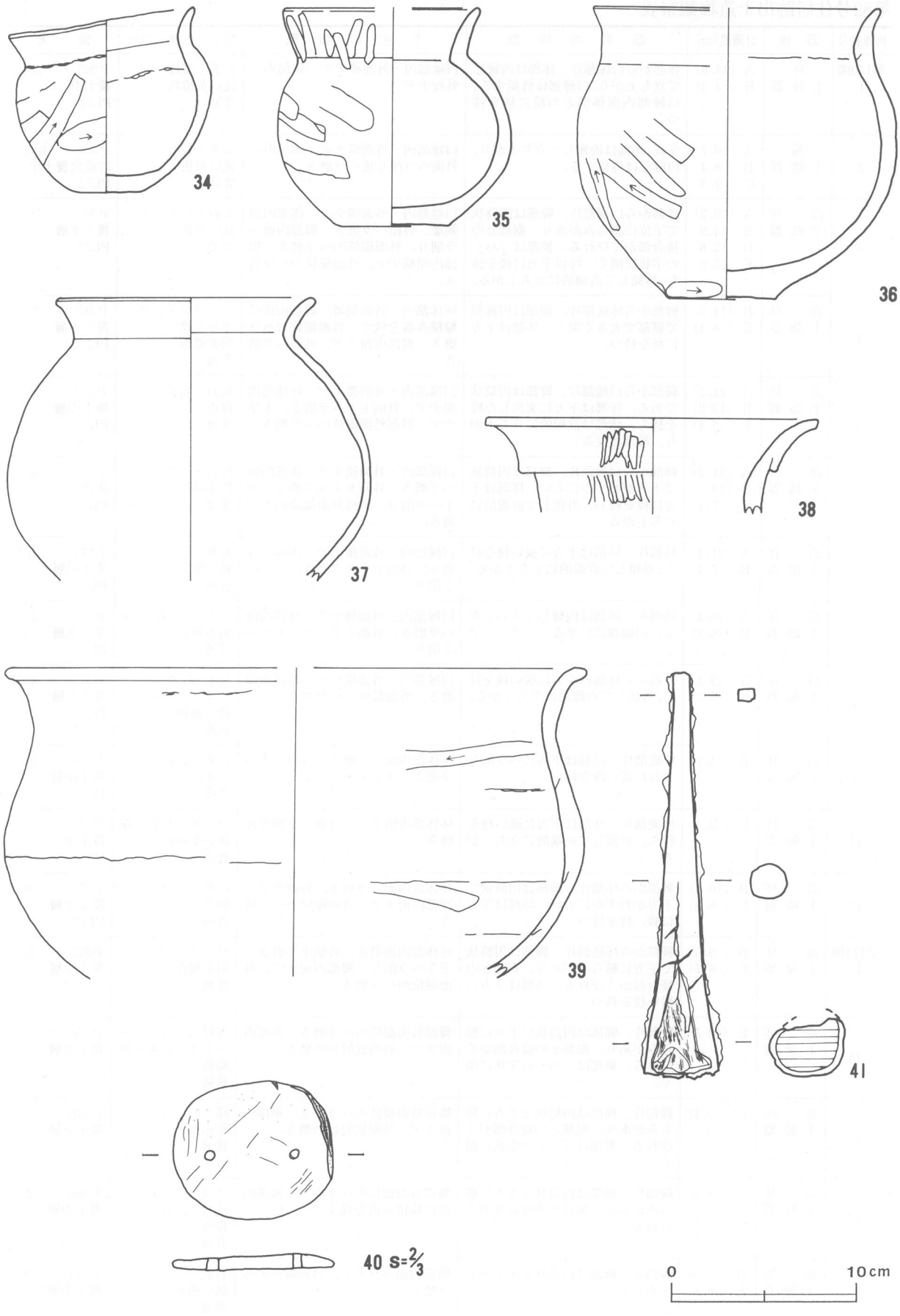
1　黒　　色　ローム粒子中量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム大・中ブロック微量
3　黒　褐　色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
5　鈍い黄褐色　ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
7　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量
9　黒　　色　ローム中・小ブロック中量，ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子少量



第170図　第82号住居跡出土遺物実測図(1)



第171図　第82号住居跡出土遺物実測図(2)



第172図　第82号住居跡出土遺物実測図(3)

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	坏 土師器	A [15.9] B (4.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,口縁部は外傾する。口縁部内面体部との境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母 鈍い黄橙色 普通	P365 20% 覆土中 PL72
2	椀 土師器	A 10.7 B 8.4 C 2.3	平底。体部は内彎して立ち上がり,口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後ヘラ磨き。	石英・長石 鈍い橙色 普通	P366 100% 貯蔵穴覆土中 PL72
3	高坏 土師器	A [20.3] B 14.9 D 15.8 E 10.0	脚部から口縁部片。脚部は円筒状で下位に膨らみがあり,裾部との接合部がくびれる。裾部は「ハ」の字状に開く。坏は下方に稜を持ち,外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面剝離,外面ヘラ磨き。脚部内面ヘラ削り,外面縦位のヘラ磨き。裾部内面横ナデ,外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P367 70% 覆土下層 PL72
4	高坏 土師器	B (11.5) E (8.4)	脚部から坏底部片。脚部は円錐形で裾部で大きく開く。坏部は下方に稜を持つ。	坏体部内・外面剝離。脚部内面に輪積み痕を残す,外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ナデ,外面ヘラ磨き。	スコリア・石英・雲母・礫 明赤褐色 普通	P368 70% 覆土下層 PL72
5	高坏 土師器	A [21.2] B (13.2) E (6.4)	脚部から口縁部片。脚部は円筒状である。坏部は下方に突出した段を持ち,体部は直線的に立ち上がり,端部は反る。	口縁部内・外面横ナデ。坏体部内面ナデ,外面上半ヘラ磨き,下半ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P369 50% 覆土中層 PL72
6	高坏 土師器	A [21.3] B (13.5) E (7.7)	脚部から口縁部片。脚部は円筒状で下方がわずかに太い。坏部は下方に稜を持ち,外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き,外面上半ヘラ磨き,下半ヘラ削り。脚部外面縦位のヘラ磨き。	長石・パミス 明赤褐色 普通	P370 50% 床面 PL72
7	高坏 土師器	A 21.4 B (6.4)	坏部片。坏部は下方に緩い稜を持ち,外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラ磨き,外面上半ヘラ磨き,下半ヘラ削り。	石英 鈍い橙色 普通	P371 40% 覆土中層 PL72
8	高坏 土師器	A 19.8 B (6.2)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり,口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き,外面上半ナデ,下半ヘラ削り。	パミス・石英・雲母 明赤褐色 普通	P372 40% 覆土下層 PL72
9	高坏 土師器	A 19.1 B (5.3)	坏部片。坏部は下方に緩い稜を持ち,外傾して直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き,外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア・礫 鈍い黄橙色 普通	P373 40% 覆土下層 PL72
10	高坏 土師器	B (4.7)	坏底部片。坏部は下方にヘラ削りされた緩い段を持つ。	坏体部内面ヘラ磨き,外面上半ヘラ磨き,下半ナデ。	石英・長石 明赤褐色 普通	P374 20% 覆土中層 PL72
11	高坏 土師器	B (3.4)	坏底部片。坏部は下方に緩い稜を持ち,外傾して直線的に立ち上がる。	坏体部内面ナデ,外面ヘラ削り後磨き。	パミス・石英・礫 鈍い赤褐色 普通	P375 5% 覆土中 PL72
12	高坏 土師器	B (10.4) E (6.8)	脚部から坏部片。脚部は円筒状で下方がわずかに太い。坏部は下方に緩い稜を持つ。	坏体部内面ヘラ磨き,外面ナデ。脚部内面ナデ,外面縦位のヘラ磨き。	石英・スコリア 橙色 普通	P376 30% 覆土中層 PL72
第171図 13	高坏 土師器	B (9.5) E (6.7)	脚部から坏底部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり,裾部との接合部がくびれる。坏部は下方に緩い稜を持つ。	坏体部内面磨き,外面上半磨き,下半ヘラ削り。脚部内面ナデ,外面縦位のヘラ磨き。	パミス 明赤褐色 普通	P377 25% 覆土中層
14	高坏 土師器	E (10.3)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり,裾部との接合部がくびれる。裾部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ナデ,外面放射状の磨き。	雲母・スコリア・パミス・石英・礫 褐色 普通	P378 30% 覆土中層
15	高坏 土師器	E (9.4)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり,裾部との接合部がくびれる。裾部は「ハ」の字状に開く。	脚部外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ナデ,外面放射状の磨き。	礫・パミス 明赤褐色 普通	P379 25% 覆土下層
16	高坏 土師器	E (8.0)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり,裾部との接合部がくびれる。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面に輪積み痕を残す。	スコリア・石英・長石・雲母 橙色 普通	P380 20% 覆土中層
17	高坏 土師器	B (8.3) E (6.8)	脚部片。脚部は円筒状で下方がわずかに太い。	脚部内面ヘラナデ,外面縦位のヘラ磨き。	石英 鈍い橙色 普通	P381 20% 覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	高坏 土師器	B (10.3) E (8.3)	脚部から坏底部片。脚部は円筒状で下方がわずかに太い。裾部は「ハ」の字状に開く。坏部は下方に稜を持つ。	坏部内面磨き，外面ナデ。脚部内面ヘラナデ,外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ナデ，外面放射状のヘラ磨き。	パミス 橙色 普通	P382 35% 覆土下層
19	高坏 土師器	E (7.8)	脚部片。脚部は円筒状で下方に膨らみがあり，裾部との接合部がくびれる。	脚部内面ヘラナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ナデ，外面放射状のヘラ磨き。	雲母・パミス 鈍い橙色 普通	P383 25% 覆土中層 PL73
20	高坏 土師器	B (10.0) D 15.6 E 9.1	脚部片。脚部は円筒状で下方がわずかに太い。裾部は大きく「ハ」の字状に開く。	脚部内面ヘラナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内面ナデ,外面放射状のヘラ磨き。端部内・外面横ナデ。	パミス・スコリア・雲母・石英 鈍い赤褐色 普通	P384 35% 覆土下層 PL72
21	高坏 土師器	E (9.4)	脚部片。脚部は円筒状で，下方が太い。裾部は大きく「ハ」の字状に開く。	脚部外面縦位のナデ。裾部内面横ナデ，外面放射状のヘラ磨き。脚部内面に輪積み痕を残す。	石英・スコリア 橙色 普通	P385 25% 覆土中層 PL73
22	高坏 土師器	E (7.3)	脚部片。脚部は円筒状で，下方がわずかに太い。	脚部外面縦位のヘラ磨き。脚部内面に輪積み痕を残す。	パミス 明赤褐色 普通	P386 20% 覆土中層
23	高坏 土師器	E (6.1)	脚部片。脚部は円筒状である。	脚部外面縦位のヘラ磨き。	石英 鈍い赤褐色 普通	P387 15% 覆土中
24	高坏 土師器	E (7.9)	脚部片。脚部は直線的な円筒状である。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	石英 鈍い橙色 普通	P388 20% 覆土中層
25	高坏 土師器	E (5.3)	脚部片。脚部は直線的な円筒状である。	脚部外面ナデ。	雲母 明赤褐色 普通	P389 15% 覆土中層 PL72
26	高坏 土師器	E (9.5)	脚部片。脚部は円錐形で，裾部で大きく開く。	脚部内面上半縦位のナデ，下半横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	礫・雲母・石英 明赤褐色 普通	P390 40% 床面 PL72
27	高坏 土師器	E (5.2)	脚部片。脚部は円錐形である。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス・スコリア 明赤褐色 普通	P391 15% 覆土中層
28	高坏 土師器	E (9.1)	脚部片。脚部は円錐形である。	脚部内面上半ヘラナデ，下半横ナデ外面縦位のヘラ磨き。	礫・長石 褐色 普通	P392 25% 覆土中層
29	高坏 土師器	B (7.8) E (5.8)	脚部片。脚部は円錐形である。	脚部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス 鈍い赤褐色 普通	P393 20% 覆土中層
30	高坏 土師器	E (8.2)	脚部片。脚部は円錐形である。	脚部内面縦位のナデ，外面縦位のヘラ磨き。	長石 褐色 普通	P394 20% 覆土下層
31	坩 土師器	B (4.2) C 2.3	底部から体部片。上げ底気味の平底。体部は算盤玉状である。	体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・スコリア 橙色 普通	P395 70% 覆土下層
32	坩 土師器	A 8.5 B 8.9 C 3.5	平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面横ナデ後一部ヘラ削り。体部上半ナデ，下半ヘラ削り後ナデ。	石英 橙色 普通	P396 95% 床面 PL73
33	坩 土師器	B (12.3) C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は算盤玉状で，口縁部は外傾する。	口縁部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ，外面磨滅。	スコリア・パミス・石英・雲母 橙色 普通	P397 80% 床面 PL73
第172図 34	小形甕 土師器	A 9.8 B 10.1 C 3.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ，一部ヘラ削り。体部内・外面に輪積み痕を残す。	長石・石英 橙色 普通	P398 80% 覆土中層 PL73
35	小形甕 土師器	A [10.4] B 11.8 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス 明赤褐色 普通	P399 80% 覆土中層
36	甕 土師器	A [15.5] B 15.8 C 5.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	石英・礫 橙色 普通	P400 50% 覆土下層
37	甕 土師器	A 13.5 B (15.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P401 50% 床面 PL73

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
38	甕 土師器	A［17.8］ B（5.2）	口縁部片。口縁部は外反する。折り返し口縁を呈する。	口縁部内面横ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス・礫 鈍い褐色 普通	P402　20% 覆土中層 PL72
39	甕 土師器	A［30.8］ B（16.7）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ一部ヘラ削り，外面ナデ後磨き。体部内・外面に輪積み痕を残す。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P403　30% 覆土下層 PL73

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第172図40	有孔円板	3.7	4.3	0.4	0.2～0.3	11.8	滑石	北西壁際覆土下層	Q35　PL118

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第172図41	鑿	22.1	4.5	3.6	－	184.1	西コーナー付近床面	M10　PL123

遺物　土師器片484点，須恵器片1点，縄文・弥生土器片6点，鉄製品4点が出土している。第170～172図6の高坏は中央部付近床面に散在して，32，33の坩，37の甕は南西壁付近床面から，3～5，7，12～22，24，25，28～30の高坏，31の坩，34の小形甕，38，39の甕は南西壁付近覆土中層及び下層から，8，9の高坏，36の甕は北東壁覆土中層及び下層から，10，27の高坏は南東壁付近床面，35の小形甕は同覆土下層から，26の高坏，37の甕は北西壁付近床面から，2の椀は貯蔵穴内から，41の鑿は西コーナー部付近床面から，1の坏，11，23の高坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，この時期の一般的な住居の平面形が方形であるのに対し長方形である点，高坏が完形，坏部片，脚部片を合わせて28点も出土した点，袋鉾転用の鑿が出土した点等から特殊な機能を有した住居跡である可能性がある。41の鑿は基部に目釘跡も見られ，形状から袋鉾の刃部を取り去ったものと考えられる。時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第83号住居跡（第173図）

位置　調査区の南西部，F3c$_7$区。

重複関係　本跡は，第82号住居跡の南部を掘り込んでいることから，第82号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.26m，短軸3.14mの長方形である。

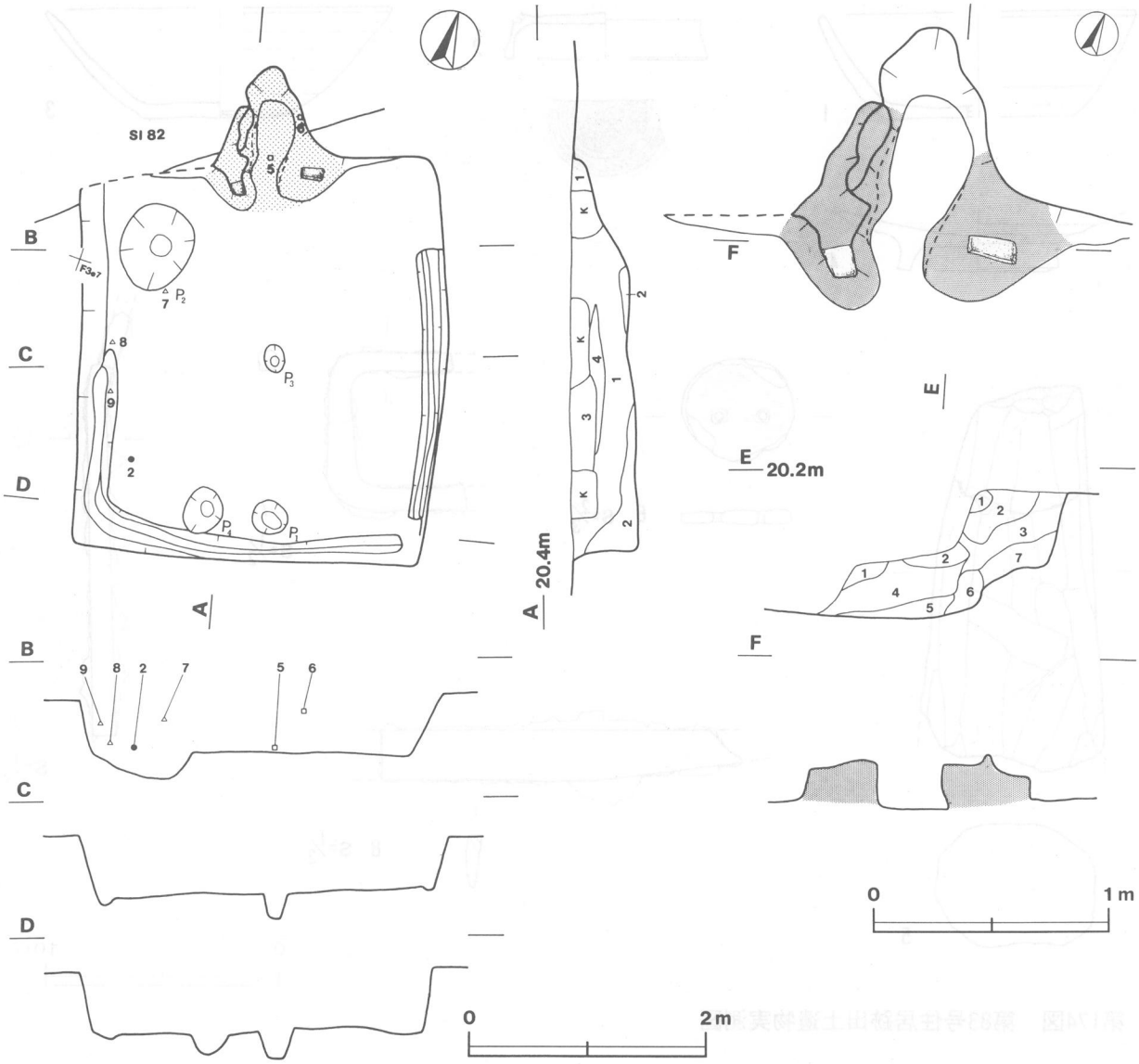
主軸方向　N－19°－E

壁　壁高は43～53cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北壁を除いて壁溝が巡っている。上幅約18cm，下幅約5cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，出入り口部から竈前にかけて踏み固められている。

ピット　4か所（P$_1$～P$_4$）。P$_1$は径30cmの不整円形，深さ25cmで，配置や規模から出入り口ピットと思われる。P$_2$は径62cmの不整円形，深さ21cmで，位置と形状から貯蔵穴の可能性がある。P$_3$，P$_4$は径18～24cmの不整楕円形で，性格は不明である。



第173図　第83号住居跡実測図

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っていない。火床部の掘り込みは見られない。煙道部は壁外へ35㎝程突出し，ゆるやかに外傾して立ち上がる。

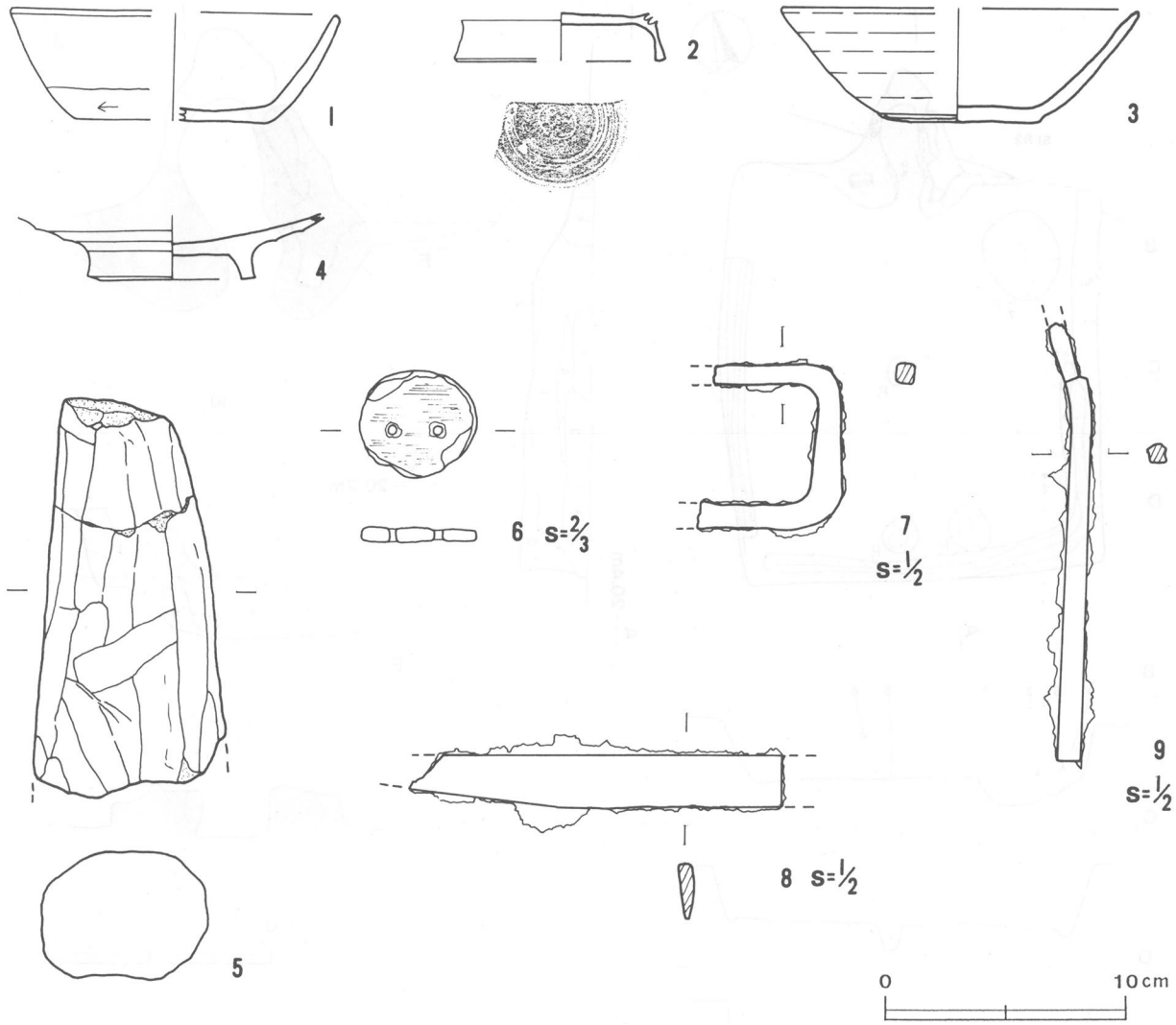
竈土層解説

1　鈍い褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
2　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　黒　　色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム中ブロック・ローム粒子少量
4　暗赤褐色　焼土中ブロック・焼土粒子多量，焼土大ブロック・炭化粒子・灰少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子多量，粘土粒子中量，灰少量
6　明褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック・黒色土粒子少量
7　黒　　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子中量，粘土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量



第174図　第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174図 1	坏 土師器	A [13.4] B 4.5 C [8.3]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。	雲母 褐色 普通	P404 30% 竈覆土中 PL73
2	高台付坏 土師器	B (2.1) D [8.8] E 1.4	高台部片。「ハ」の字状に開く足高高台が付く。	底部内面ヘラ磨き，外面回転ヘラ削り後高台貼り付け。坏体部内面黒色処理。	石英 鈍い橙色 普通	P405 5% 床面
3	坏 須恵器	A [14.6] B 4.7 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石 灰色 普通	P406 40% 竈覆土中 PL73
4	高台付坏 土師器	B (2.7) D [6.8] E 1.2	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P407 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第174図5	支脚	16.7	7.9	5.4	−	354.4	凝灰岩	竈内覆土中	Q36
6	有孔円板	2.2	2.4	0.3	−	3.2	滑石	竈横覆土上層	Q37 PL118

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第174図7	不明鉄製品	4.9	4.0	0.6	−	13.9	西壁付近覆土下層	M11 PL124
8	刀子	(10.4)	2.7	0.4～0.6	−	(27.1)	竈横覆土下層	M12 PL123
9	不明鉄製品	(12.2)	1.5	0.6	−	(19.3)	西壁付近覆土中層	M13 PL124

遺物　土師器片242点，須恵器片41点，鉄製品８点が出土している。第174図１の坏，３の須恵器坏は竈内から，２の高台付坏は南西コーナー床面から，４の高台付皿は覆土中からそれぞれ出土している。６の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（９世紀後半）と思われる。

第84−Ａ号住居跡（第175図）

位置　調査区の南西部，F3a_8区。

重複関係　本跡は，第87号住居跡の北西部を掘り込んでおり，第84−Ｂ号住居跡が本跡の床の上に床を構築していることから，第87号住居跡より新しく，第84−Ｂ号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.86m，短軸5.8m の方形である。

主軸方向　Ｎ－30°－Ｗ

壁　壁高は23～34cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，掘り込まれた南東壁を除いて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約18cm，下幅約10cm，深さ約６cmで，断面形はＵ字形である。

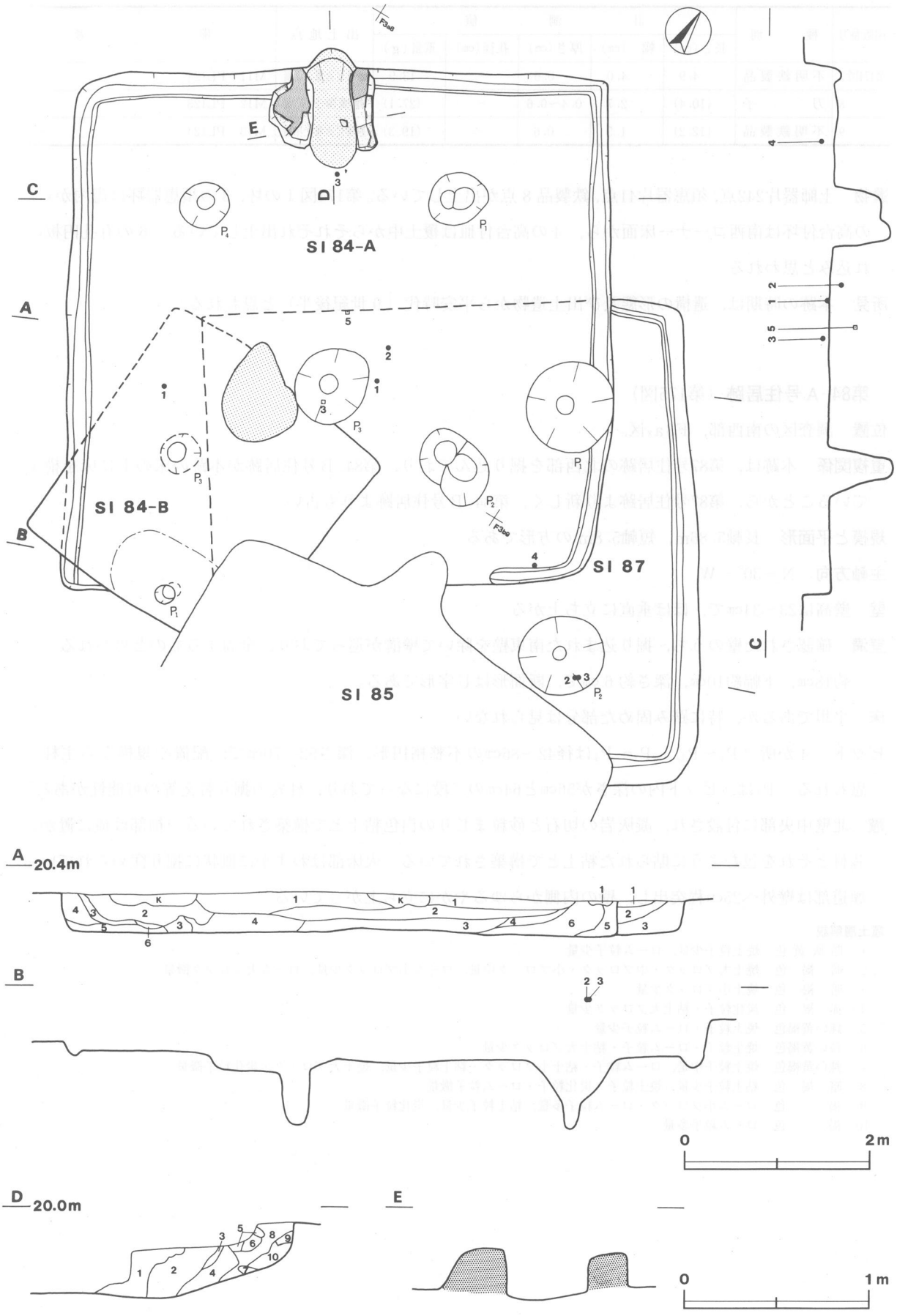
床　平坦であるが，特に踏み固めた部分は見られない。

ピット　４か所（P_1～P_4）。P_1～P_4は径42～86cmの不整楕円形，深さ52～70cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_2は，ピット内の深さが56cmと64cmの二段になっており，柱穴の掘り替え等の可能性がある。

竈　北壁中央部に付設され，凝灰岩の切石と砂粒まじりの白色粘土とで構築されている。袖部は横に置かれた芯材とそれを包むように貼られた粘土とで構築されている。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ25cm程突出し，壁の内側からゆるやかに立ち上がっている。

竈土層解説

1　暗灰黄色　焼土粒子少量，ローム粒子少量
2　暗　褐　色　焼土大ブロック・中ブロック・小ブロック中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3　暗　褐　色　焼土小ブロック少量
4　赤　褐　色　炭化粒子・粘土大ブロック少量
5　鈍い黄褐色　焼土粒子・ローム粒子少量
6　鈍い黄褐色　焼土粒子・ローム粒子・粘土大ブロック少量
7　鈍い黄褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量，焼土大ブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
9　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
10　褐　色　ローム粒子多量



第175図　第84－A・84－B・87号住居跡実測図

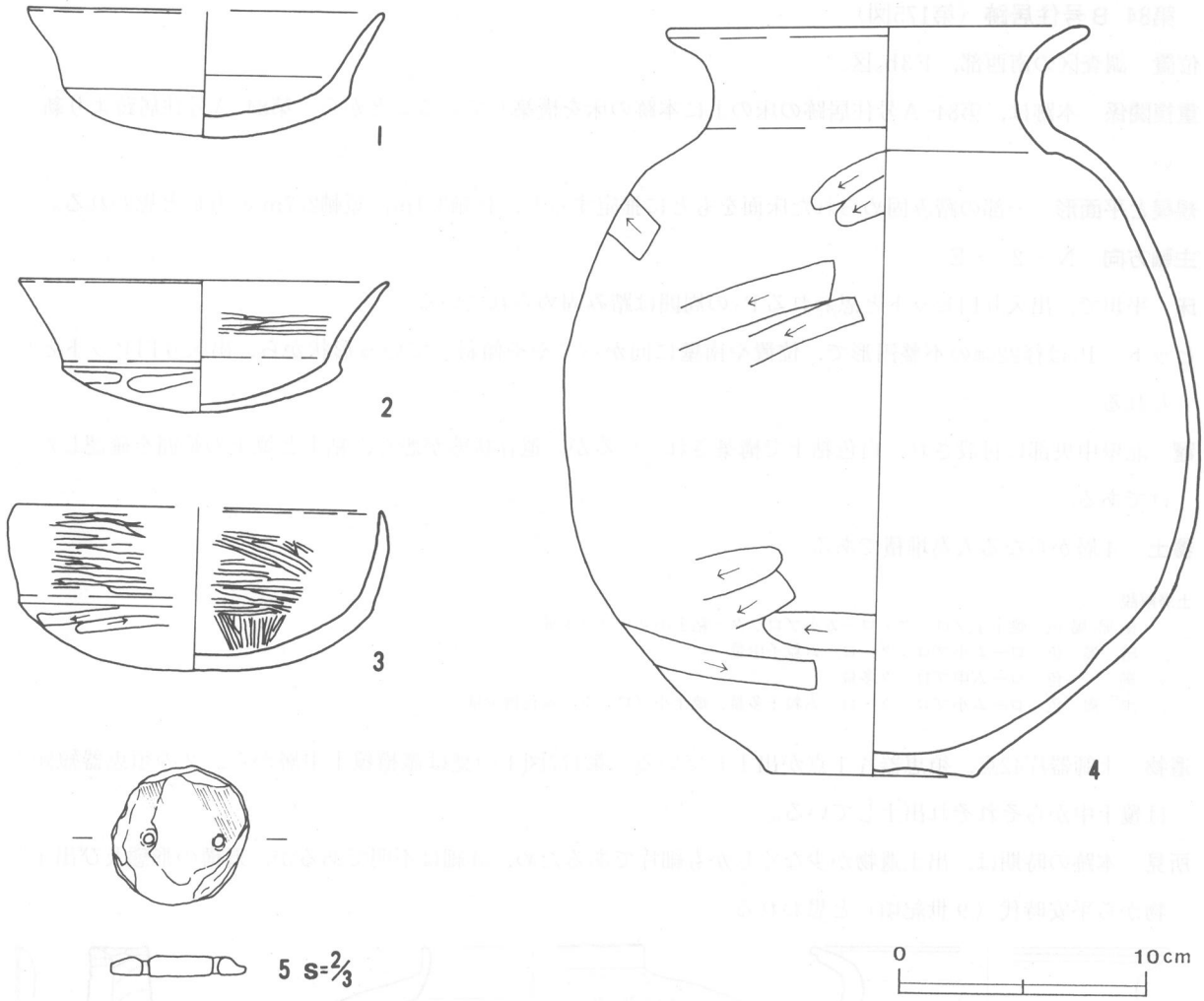
覆土　6層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム小ブロック中量，炭化物・粘土小ブロック少量
4　暗　褐　色　粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量
5　褐　　色　ローム大ブロック多量，粘土小ブロック中量，炭化物少量
6　褐　　色　粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量

遺物　土師器片361点，須恵器片1点が出土している。第176図1，3の椀は竈内から，2の坏は中央部覆土中層から，4の甕は東コーナー覆土中層から出土している。5の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀前半）と思われる。



第176図　第84-A号住居跡出土遺物実測図

第84-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第176図 1	坏 土師器	A　14.5 B　5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横位のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・パミス・礫 明赤褐色 普通	P408　70% 竈内覆土中 PL73
2	坏 土師器	A　14.9 B　5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横位のヘラ磨き，外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア・石英・長石 橙色　普通	P409　80% 竈内覆土中 PL73

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	椀 土師器	A［14.7］ B 6.6	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり,口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎気味に外傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア・パミス 明赤褐色 普通	P692 50% 竈内覆土中 PL73
4	甕 土師器	A 16.8 B 30.3 C 8.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス 明赤褐色 普通	P410 60% 覆土中層 PL73

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第176図5	有孔円板	2.8	2.7	0.4	0.2	4.4	滑石	中央部覆土中層	Q38 PL118

第84-B号住居跡（第175図）

位置　調査区の南西部，F3b_8区。

重複関係　本跡は，第84-A号住居跡の床の上に本跡の床を構築していることから，第84-A号住居跡より新しい。

規模と平面形　一部の踏み固められた床面をもとに推定すると，長軸3.1m，短軸2.7mの方形と思われる。

主軸方向　N－2°－E

床　平坦で，出入り口ピットと思われるP_1の周囲は踏み固められている。

ピット　P_1は径22cmの不整円形で，位置や南壁に向かってやや傾斜している形状から，出入り口ピットと思われる。

竈　北壁中央部に付設され，白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，粘土と焼土の範囲を確認しただけである。

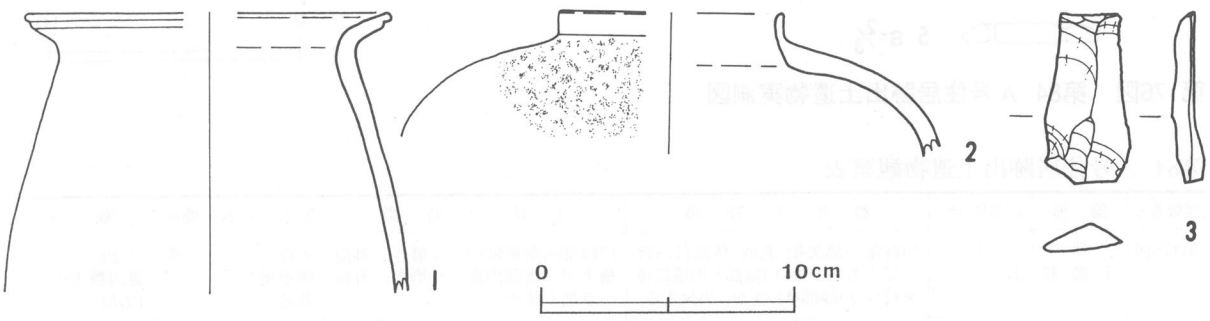
覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
2　暗褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
3　褐色　ローム中ブロック多量
4　黒褐色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化物少量

遺物　土師器片42点，須恵器片1点が出土している。第177図1の甕は竈横覆土中層から，2の須恵器短頸壺は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，出土遺物が少なくしかも細片であるため，詳細は不明であるが，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀頃）と思われる。



第177図　第84-B号住居跡出土遺物実測図

第84-B号住居跡出土遺物観察表

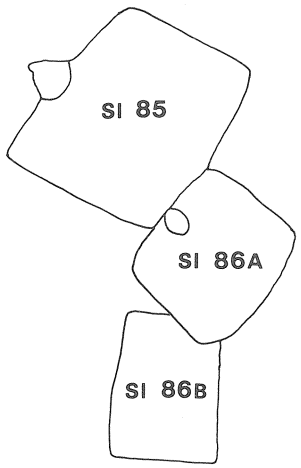
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	甕 土師器	A［14.4］ B（11.1）	体部から口縁部片。体部上位は内傾気味に立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外傾する。端部を横につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母・パミス 鈍い橙色 普通	P411 5% 覆土中層 PL73
2	短頸壺 須恵器	A［ 8.8］ B（ 5.6）	体部から口縁部片。体部上位は内傾し，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ナデ。	長石 灰色 良好	P693 5% 覆土中 PL73

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第177図3	ナイフ形石器	6.8	3.4	1.0	－	23.5	頁岩	竈横覆土下層	Q39 PL122

第85号住居跡（第178図）

位置　調査区の南西部，F3b_8区。

重複関係　本跡は，第84-A号住居跡，第84-B号住居跡，第86-A号住居跡，第87号住居跡，第88-B号住居跡をそれぞれ掘り込んでおり，すべての住居跡より新しい。



規模と平面形　長軸5.32m，短軸5.08mの方形である。

主軸方向　N－14°－W

壁　壁高は12～50cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁のうち，北東コーナーを除いて，壁直下から20～30cm内側の位置に壁溝が巡っている。上幅約22cm，下幅約8cm，深さ約13cmで，断面形はU字形及び逆台形である。

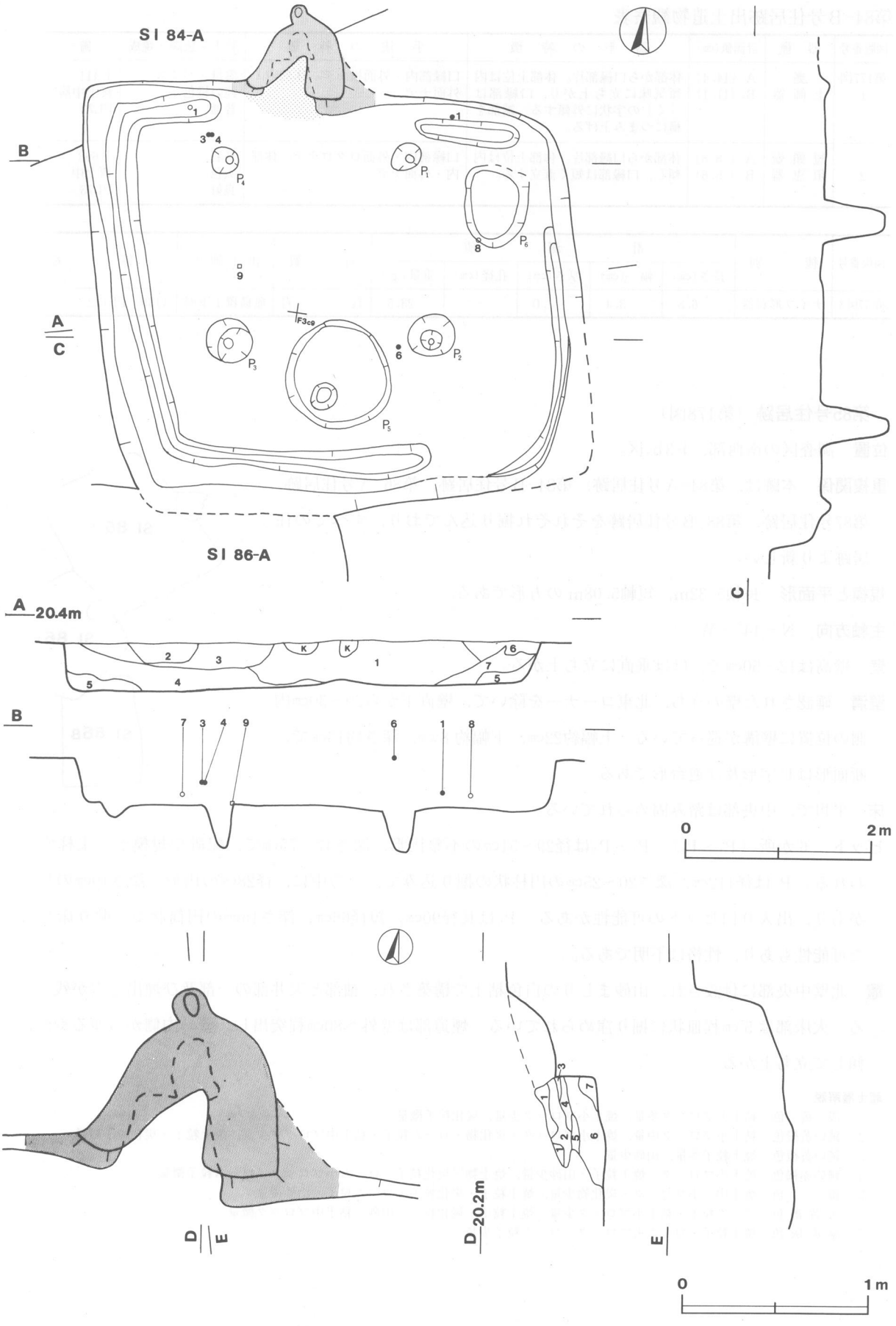
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径29～51cmの不整円形，深さ47～75cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P_5は径112cm，深さ20～25cmの円柱状の掘り込みで，その中に，径28cmの円形，深さ19cmのピットがあり，出入り口ピットの可能性がある。P_6は長径90cm，短径66cm，深さ16cmの円筒状で，貼り床を開けた可能性もあり，性格は不明である。

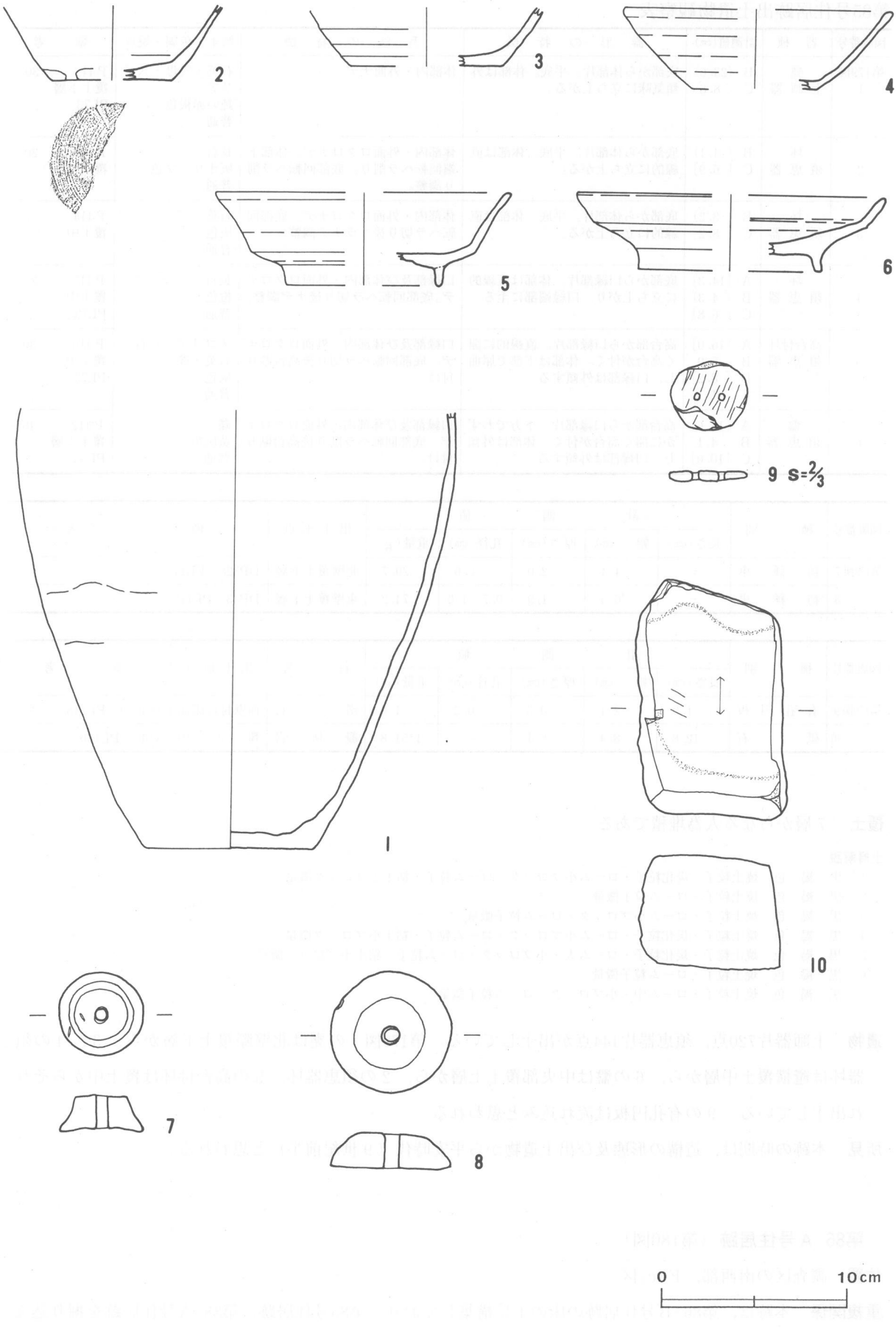
竈　北壁中央部に付設され，山砂まじりの白色粘土で構築され，袖部と天井部の一部及び煙出し穴が残っている。火床部は5cm程皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ80cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　浅黄色　粘土大ブロック多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
2　鈍い黄橙色　粘土小ブロック中量，焼土小ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　鈍い黄橙色　焼土粒子多量，山砂少量
4　鈍い赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・山砂少量，焼土物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5　橙色　焼土中・小ブロック・炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・山砂微量
6　灰黄褐色　ローム粒子・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・山砂・粘土中ブロック微量
7　暗赤灰色　焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量



第178図　第85号住居跡実測図



第179図　第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	甕 土師器	B (23.6) C 8.8	底部から体部片。平底。体部は外傾気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P412 30% 覆土下層 PL73
2	坏 須恵器	B (4.1) C [6.9]	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。	長石 灰オリーブ色 普通	P413 20% 覆土中
3	坏 須恵器	B (3.2) C [8.2]	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ヘラナデ調整。	石英 灰色 普通	P414 5% 覆土中
4	坏 須恵器	A [14.3] B (4.3) C [6.8]	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	長石・スコリア 橙色 普通	P415 20% 覆土中 PL73
5	高台付坏 須恵器	A [16.0] B 5.0 D [8.2] E 1.1	高台部から口縁部片。直線的に開く高台が付く。体部は下部で屈曲し，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	スコリア・長石・石英・礫 灰色 普通	P416 30% 覆土中 PL73
6	盤 須恵器	A [16.6] B 4.1 C [10.0]	高台部から口縁部片。下方でわずかに開く高台が付く。体部は外傾し，口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。	礫 黄灰色 普通	P417 40% 覆土上層 PL73

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第179図 7	紡錘車	−	4.4	2.0	0.6	29.7	北壁覆土下層	DP328 PL116
8	紡錘車	−	6.5	1.9	0.7〜1.0	74.2	東壁覆土下層	DP33 PL116

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第179図 9	有孔円板	1.9	2.1	0.3	0.2	1.6	滑石	西壁付近床面	Q4010 PL118
10	砥石	12.8	8.4	6.1	−	1151.8	凝灰岩	覆土中	Q41 PL120

覆土　7層からなる人為堆積である。

土層解説

1　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量
2　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
3　黒褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
4　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量
5　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック微量
6　黒褐色　焼土粒子・ローム粒子微量
7　黒褐色　焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

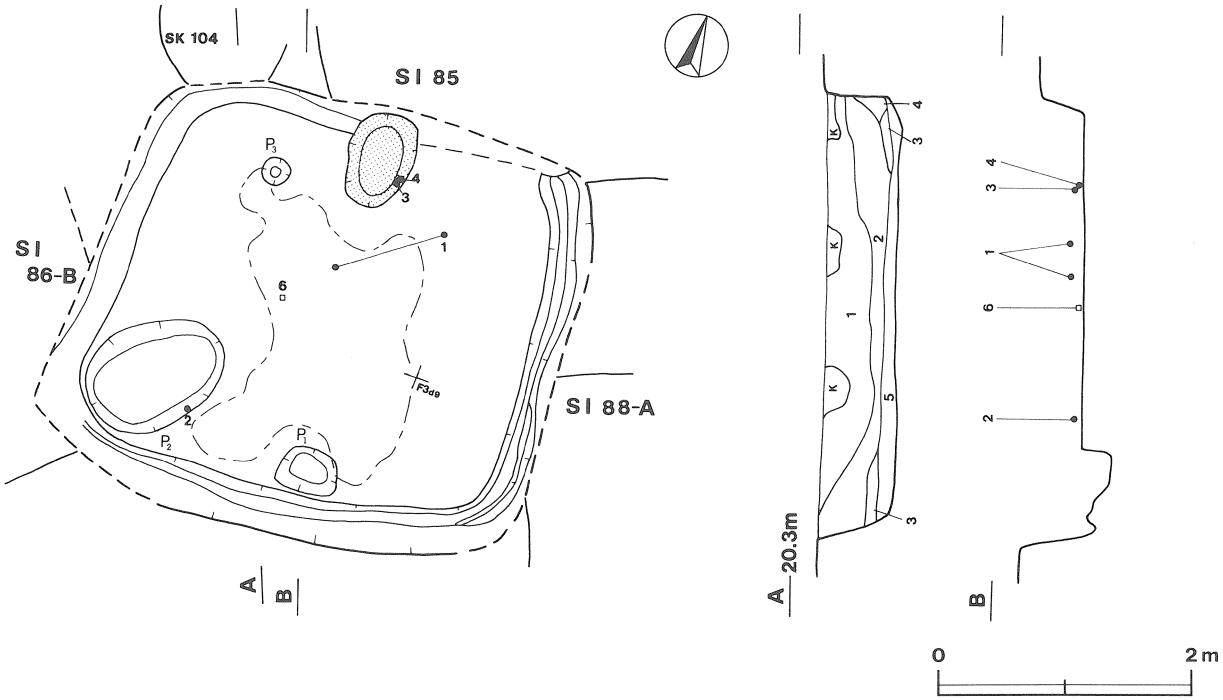
遺物　土師器片720点，須恵器片144点が出土している。第179図1の甕は北壁際覆土下層から，3，4の須恵器坏は竈横覆土中層から，6の盤は中央部覆土上層から，2の須恵器坏，5の高台付坏は覆土中からそれぞれ出土している。9の有孔円板は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第86−A号住居跡（第180図）

位置　調査区の南西部，F3c$_8$区。

重複関係　本跡は，第86−B号住居跡の床の上に構築しており，第85号住居跡，第88−A号住居跡を掘り込んでいることから，3軒の住居跡よりも新しい。



第180図　第86－A号住居跡実測図

規模と平面形　長軸3.78m，短軸3.52mの方形である。

主軸方向　N－1°－W

壁　壁高は16～56cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約18cm，下幅約8cm，深さ約6cmで，断面形はU字形及び逆台形である。

床　2面。上面の第一次床面は平坦で，中央部は踏み固められている。下面の第二次床面は第一次床面下10cm程にあり，中央部が全体的に踏み固められている。床の貼り替えが行われたと考えられる。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径48cmの不整円形，深さ27cmで，配置や深さから出入り口ピットと思われる。P_2，P_3は径60～120cmの不整楕円形で，性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設されている。遺存状況が悪く，竈の一部と思われる赤化した凝灰岩のみを確認する。

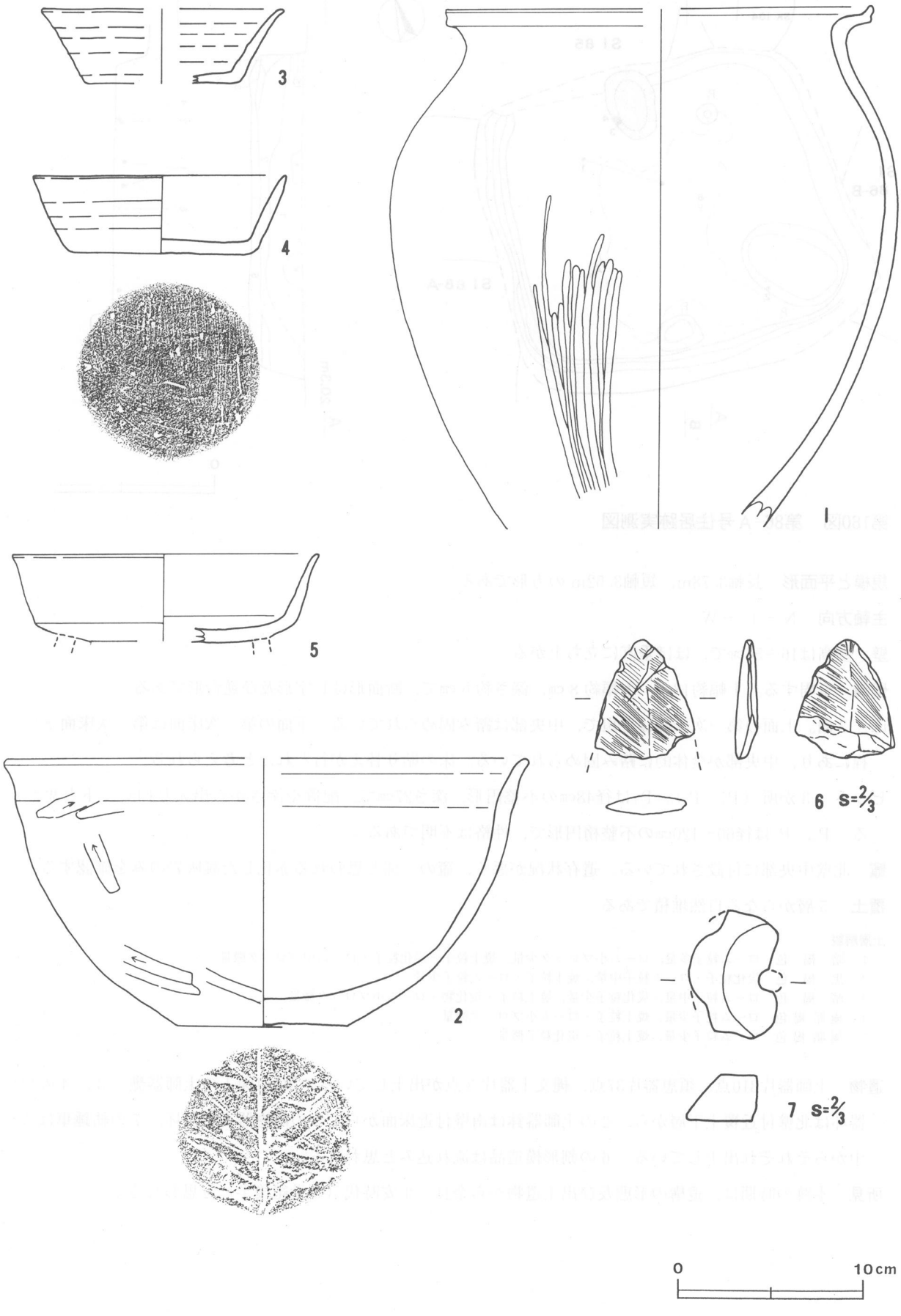
覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
2　黒　褐　色　炭化粒子・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物　土師器片310点，須恵器片37点，縄文土器片3点が出土している。第181図1の土師器甕，3，4の須恵器坏は北壁付近覆土下層から，2の土師器鉢は南壁付近床面から，5の須恵器高台付坏，7の紡錘車は覆土中からそれぞれ出土している。6の剣形模造品は流れ込みと思われる。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から奈良・平安時代（8世紀後半）と思われる。



第181図　第86-A号住居跡出土遺物実測図

第86-A号住居跡出土遺物観察表

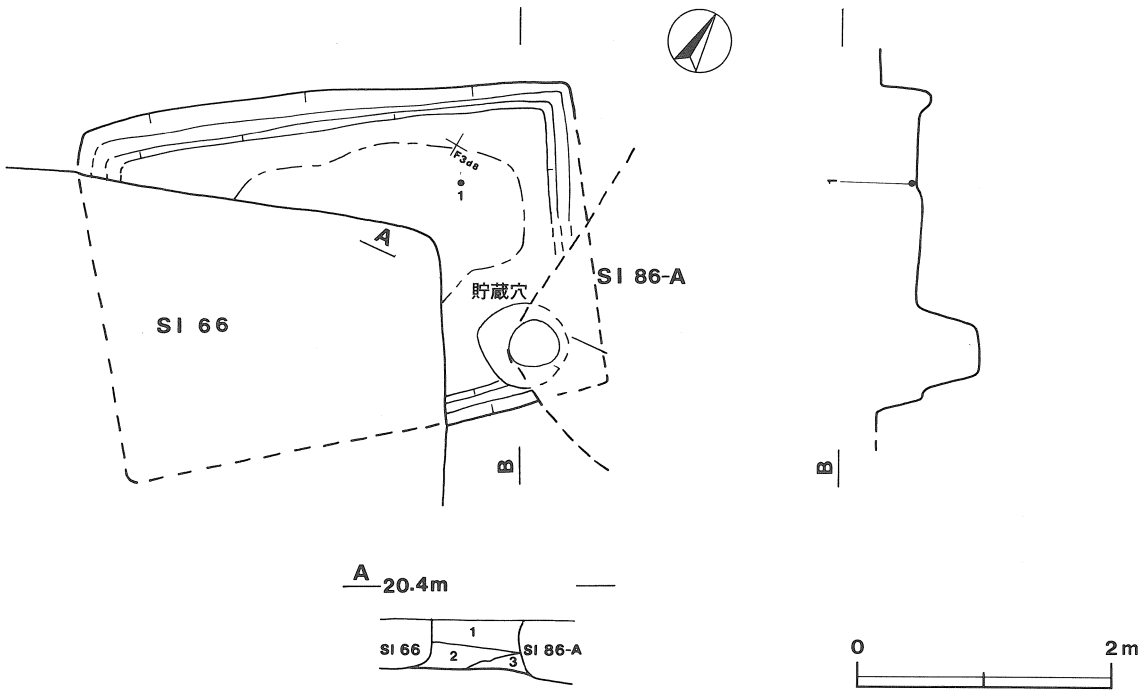
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	甕 土師器	A [22.6] B (28.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。口縁部は外反し，端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ナデ一部ヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P418 50% 覆土下層 PL74
2	鉢 土師器	A [28.0] B 14.5 C 9.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	石英 鈍い黄橙色 普通	P419 20% 床面 底部木葉痕あり PL73
3	坏 須恵器	A [12.9] B 4.1 C [8.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後手持ちヘラナデ調整。	パミス・礫・針状鉱物 灰色 普通	P420 10% 覆土下層
4	坏 須恵器	A 13.7 B 4.4 C 9.6	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り調整。底部周縁ナデ。	礫・石英・針状鉱物 灰白色 普通	P421 70% 覆土下層 PL74
5	高台付坏 須恵器	A 16.4 B (5.8)	底部から口縁部片。高台部剥離。平底。体部は直線的に外傾し，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台張り付け。	礫・針状鉱物 黄褐色 普通	P422 50% 覆土中 PL74

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第181図6	剣形模造品	(3.2)	2.7	0.6	−	(4.4)	滑石	中央部床面	Q42 PL119
7	紡錘車	3.4	2.4	1.2	−	(16.3)	滑石	覆土中	Q43 PL120

第86-B号住居跡（第182図）

位置　調査区の南西部，F3d$_8$区。

重複関係　本跡は，第86-A号住居跡に本跡の床の上に構築されており，第66号住居跡が本跡の南部を掘り込んでいることから，第86-A号住居跡及び第66号住居跡より古い。また，本跡は，第104号土坑を掘り込んでいることから，第104号土坑より新しい。



第182図　第86-B号住居跡実測図

規模と平面形　長軸3.92m，短軸2.8mの長方形である。

主軸方向　N－53°－E

壁　壁高は37～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　他の住居跡によって掘り込まれた部分以外はすべて壁溝が巡っている。上幅約14cm，下幅約8cm，深さ約8cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴　南コーナーに付設され，径72cmの円形で，深さは45cm，断面形は逆台形である。

床　平坦であるが，全体的に軟らかである。

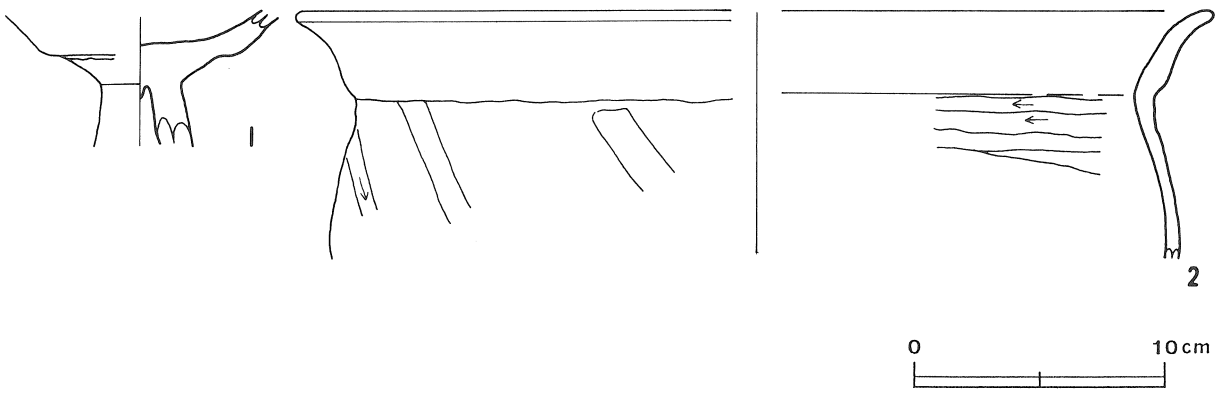
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量

遺物　土師器片50点が出土している。第183図1の高坏は北東コーナー覆土下層から，2の甕はピット内覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，遺物が少なく，しかも細片が多いため詳細な時期は不明であるが，第66号住居跡及び第86－A号住居跡との重複関係及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀頃）と思われる。



第183図　第86－B号住居跡出土遺物実測図

第86－B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	高坏 土師器	B（5.4） E（1.9）	坏底部片。坏体部下半に段を持つ。	坏体部内面剥離，外面粗いナデ。	長石・石英・パミス・スコリア 橙色 普通	P423　20% 覆土下層
2	甕 土師器	A［36.1］ B（9.9）	体部及び口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横位のヘラ削り，外面斜位のヘラ削り。	礫・石英 鈍い橙色 普通	P424　30% ピット内覆土中 PL74

第87号住居跡（第175図）

位置　調査区の南西部，F3b_9区。

重複関係　本跡は，第84－A号住居跡及び第85号住居跡に南西部を掘り込まれていることから，第84－A号住居跡及び第85号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北東壁から推定すると，一辺5.28mの方形あるいは長方形と思われる。

主軸方向　N－31°－W

壁　壁高は38cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　遺存する北東壁下には，壁溝が巡っている。上幅約12cm，下幅約４cm，深さ約７cmで，断面形はU字形である。

床　ほとんどが掘り込まれているが，遺存する範囲は平坦で，特に踏み固められた部分は見られない。

ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は径74～92cmの円形，深さ57～72cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。

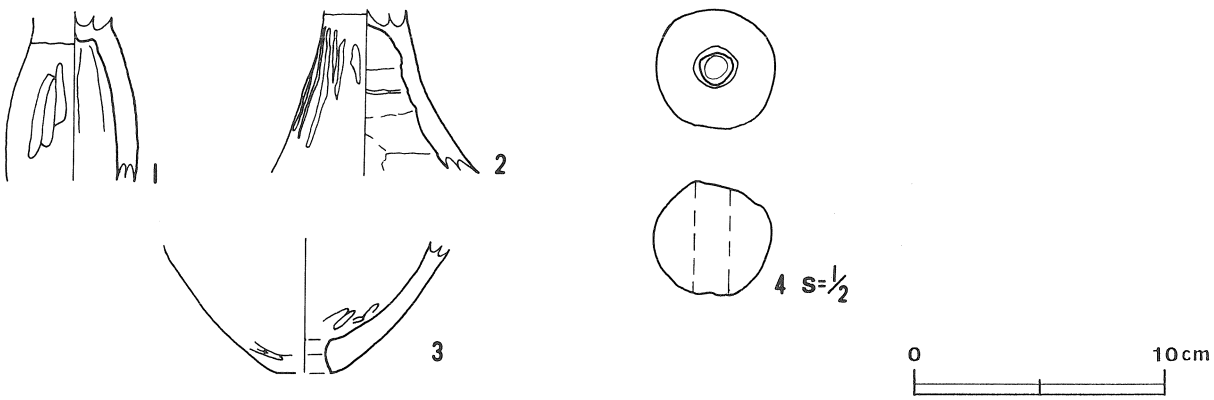
覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム大・小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量
3　黒　　色　焼土粒子・ローム粒子少量

遺物　土師器片220点，須恵器片６点，軽石１点が出土している。第184図１の高坏はピット内覆土中から，２の高坏，３の甑は南東コーナー付近覆土上層から，４の土玉は覆土中からそれぞれ出土している。３の甑は流れ込みの可能性がある。

所見　本跡の時期は，第84-A号住居跡及び第85号住居跡との重複関係，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（５世紀頃）と思われる。



第184図　第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図 1	高坏 土師器	B（6.7） E（6.0）	脚部片。脚部は円筒状で，中位がやや膨らむ。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス 鈍い橙色 普通	P425　5％ ピット内覆土中
2	高坏 土師器	E（8.7）	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面に輪積み痕を残す，外面縦位のヘラ磨き。	パミス・石英 極暗褐色 普通	P426　10％ 覆土上層 PL74
3	甑 土師器	B（4.2） C［2.6］	底部から体部片。単孔式。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・石英 鈍い橙色 普通	P427　5％ 覆土上層

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第184図4	土玉	3.4	3.8	3.4	0.8	51.0	南東壁付近覆土上層	DP34　PL115

第88-A号住居跡（第186図）

位置　調査区の南西部，F3d$_9$区。

重複関係　本跡は，第88-B号住居跡と第96-A号住居跡に掘り込まれていることから，両者より古い。

規模と平面形　遺存する西壁，南壁から推定すると，長軸3.4m，短軸3.1mの方形と思われる。

主軸方向　N－20°－W

壁　壁高は45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下にはすべて壁溝が巡っており，全周するものと思われる。上幅約13cm，下幅約7cm，深さ約7cmで，断面形はU字形である。

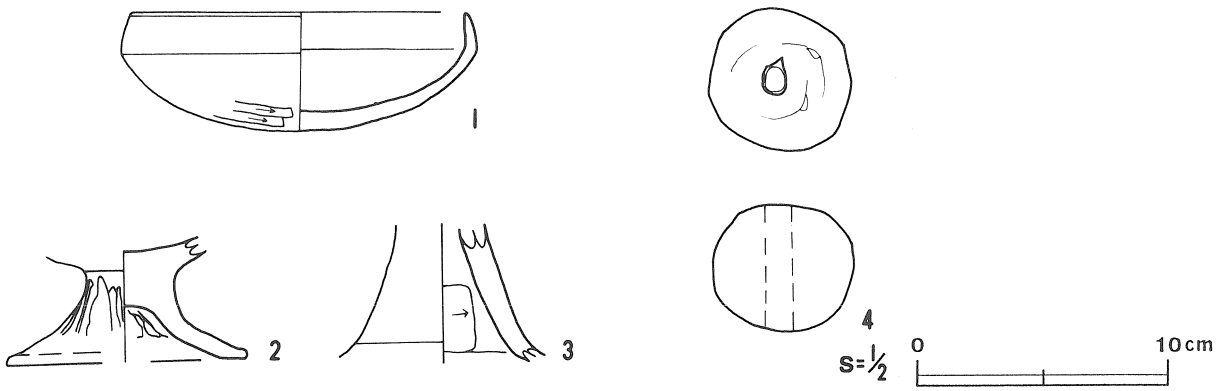
床　平坦で，部分的に踏み固められたところがある。

ピット　P$_1$は径58cmの不整円形，深さ52cmで，位置や深さから出入り口ピットと思われる。

炉　中央から北寄りに位置し，わずかに焼土が認められ，火熱を受けている。

遺物　土師器片1132点，須恵器片31点，支脚片4点，管状土錘片1点，弥生土器片2点が出土している。第185図1の坏，2の高坏は西壁付近覆土中層から，3の高坏は同覆土下層から，4の土玉は南壁覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀頃）と思われる。

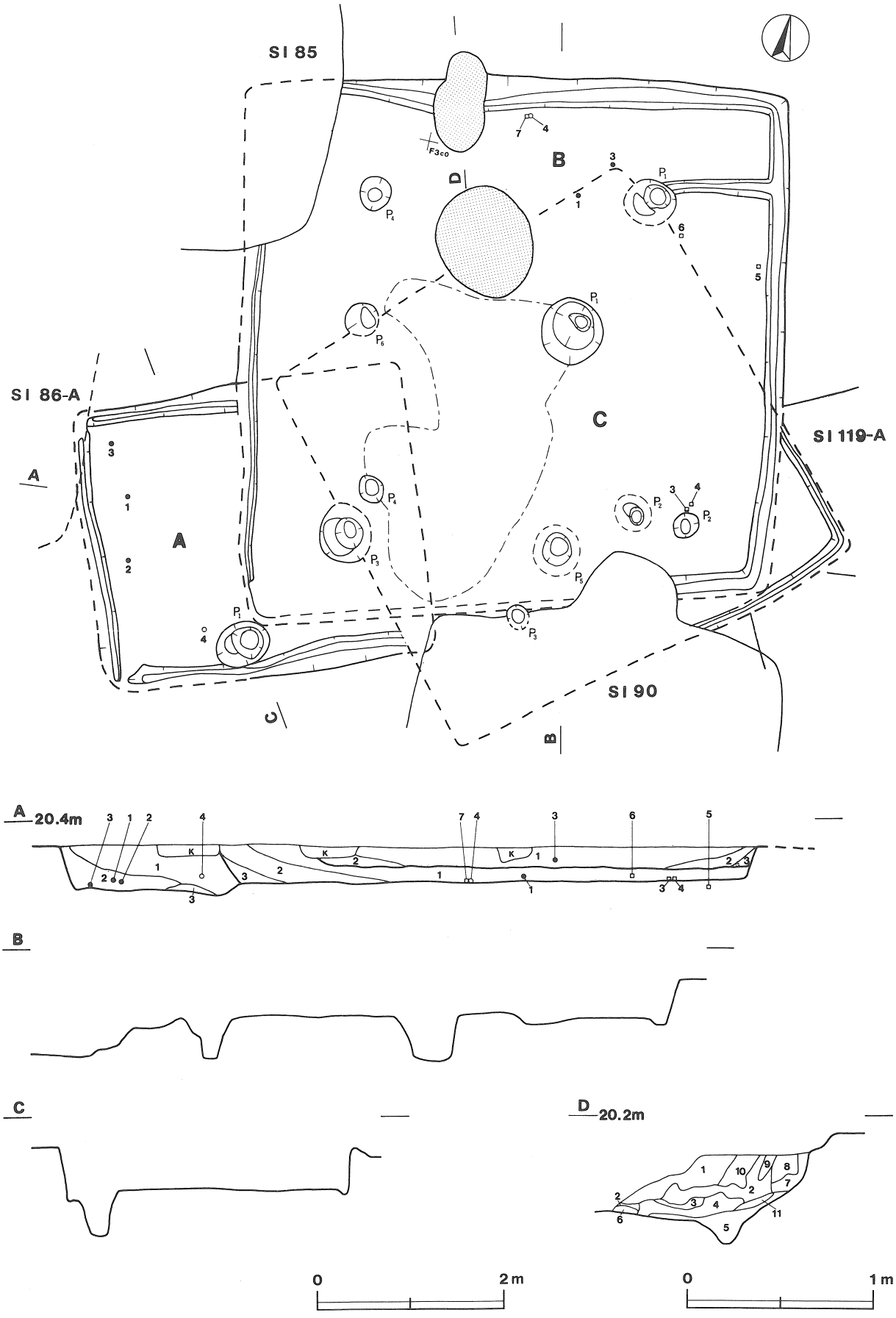


第185図　第88-A号住居跡出土遺物実測図

第88-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	坏 土師器	A 13.2 B 5.2	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P428 70% 覆土中層 PL74
2	高坏 土師器	B（4.4） D［9.4］ E 3.6	脚部片。脚部は下位で大きく「ハ」の字状に開く。	脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。	パミス・雲母 鈍い赤褐色 普通	P429 40% 覆土中層
3	高坏 土師器	E（5.5）	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。	脚部内面横位のヘラ削り，外面縦位のヘラ磨き。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P430 30% 覆土下層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第186図4	土玉	3.4	3.8	3.4	0.8	51.0	南壁付近覆土上層	DP35 PL115



第186図　第88-A・88-B・88-C号住居跡実測図

第88-B号住居跡（第186図）

位置　調査区の南西部，F3c$_0$区。

重複関係　本跡は，第88-A号住居跡の東部を掘り込んでおり，第85号住居跡に北西部を掘り込まれ，第88-C号住居跡に本跡の床の上に構築されていることから，第88-A号住居跡より新しく，第85号住居跡及び第88-C号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.04m，短軸5.86mの長方形と思われる。

壁　壁高は45cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方向　N－10°－E

壁溝　確認した壁下にはすべて壁溝が巡り，全周するものと思われる。上幅約12cm，下幅約8cm，深さ約5cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，竈周辺は踏み固められている。

ピット　6か所（P$_1$～P$_6$）。P$_1$～P$_4$は径34～58cmの不整円形，深さ38～62cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P$_5$は径50cm，深さ42cmで，出入り口ピットと思われる。P$_6$は径38cmの円形，深さ42cmで，形状や主柱穴線上にあることから柱穴の可能性も考えられる。

竈　北壁中央西寄りに付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，左袖部は残っていない。火床部は皿状に15cm程掘り窪められている。煙道部は壁外へ20cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　鈍い黄褐色　粘土粒子多量，ローム中・小ブロック・黒色土粒子少量
2　鈍い黄褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量
3　鈍い黄褐色　焼土大・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰多量，焼土小ブロック中量，粘土粒子少量
4　灰　褐　色　灰多量，焼土中・小ブロック・炭化粒子少量
5　明赤褐色　灰・焼土中・小ブロック・焼土粒子多量，焼土大ブロック少量
6　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子・灰少量
7　褐　　色　焼土粒子・粘土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
8　鈍い黄褐色　ローム小ブロック・ローム粒子中量
9　黒　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
11　鈍い黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック微量

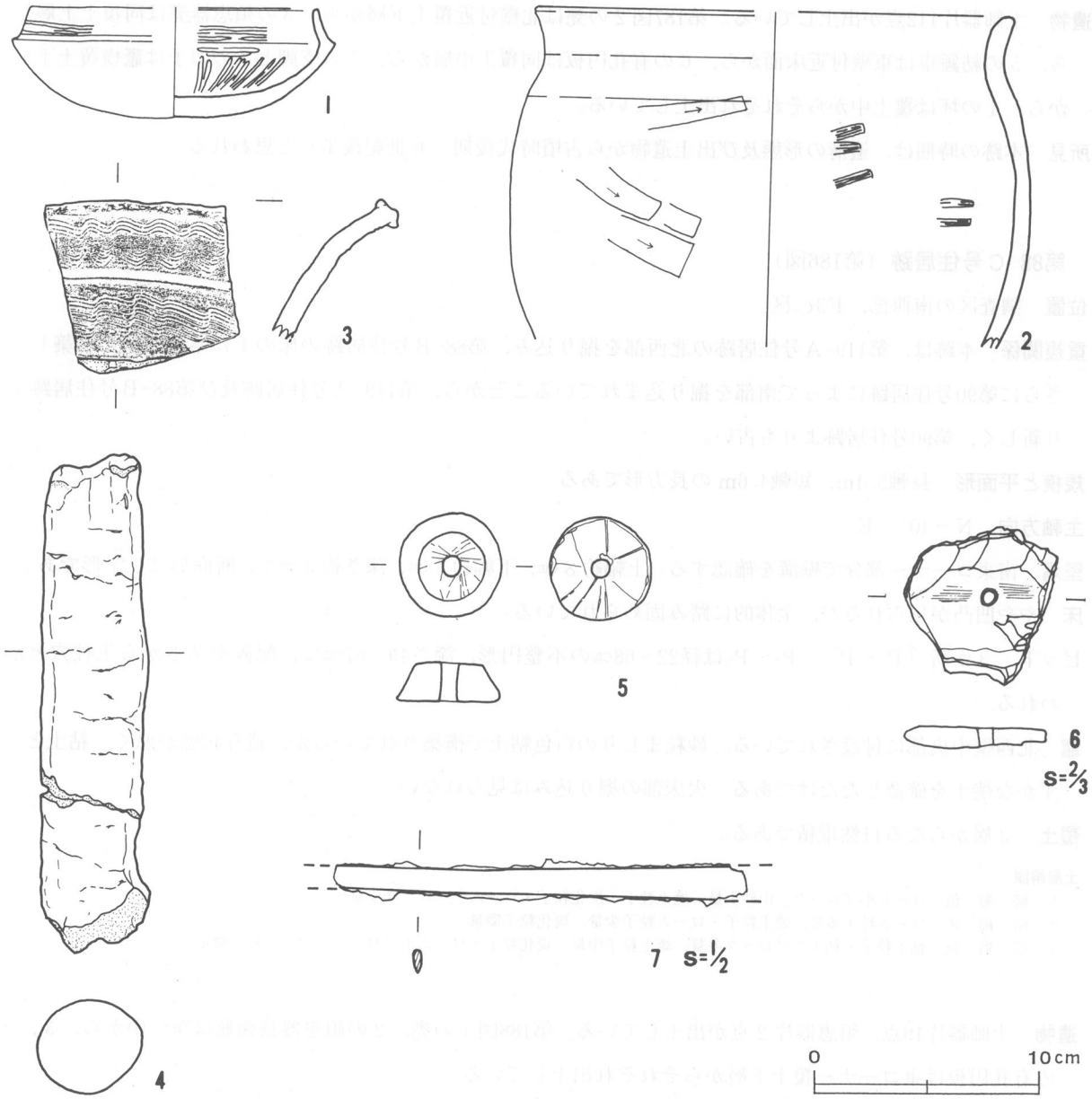
覆土　3層からなる人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

第88-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第187図 1	坏 土師器	A［12.7］ B（4.9）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横横位のヘラ磨き。体部内面放射状のヘラ磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	礫・スコリア・雲母 鈍い橙色 普通	P431　60% 覆土中 PL74
2	甕 土師器	A［21.0］ B（14.6）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面粗いヘラナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P432　20% 覆土下層 PL74
3	甕 須恵器	B（7.6）	口縁部片。口縁部は外反し，端部に縁帯をめぐらす。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に櫛描きの波状文が施される。	石英 灰黄色 良好	P433　10% 覆土上層 PL74



第187図　第88-B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第187図4	支脚	(22.0)	5.0	4.1	−	(505.3)	竈横覆土下層	DP36　PL116

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第187図5	紡錘車	4.6	4.5	1.8	0.8	54.9	滑石	東壁付近床面	Q44　PL120
6	有孔円板	(3.5)	(3.0)	0.5	0.35	(6.6)	滑石	東壁付近覆土中層	Q46　PL118

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第187図7	刀子	(12.1)	1.3	0.2～0.3	−	(12.7)	竈横覆土下層	M14　PL123

遺物　土師器片112点が出土している。第187図２の甕は北壁付近覆土下層から，３の須恵器甕は同覆土上層から，５の紡錘車は東壁付近床面から，６の有孔円板は同覆土中層から，４の支脚と７の刀子は竈横覆土下層から，１の坏は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（６世紀後半）と思われる。

第88-Ｃ号住居跡（第186図）

位置　調査区の南西部，Ｆ3c$_0$区。

重複関係　本跡は，第119-Ａ号住居跡の北西部を掘り込み，第88-Ｂ号住居跡の床の上に本跡が床を構築し，さらに第90号住居跡によって南部を掘り込まれていることから，第119-Ａ号住居跡及び第88-Ｂ号住居跡より新しく，第90号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸5.4m，短軸4.6mの長方形である。

主軸方向　Ｎ－40°－Ｅ

壁溝　南東コーナー部分で壁溝を確認する。上幅約８㎝，下幅約４㎝，深さ約３㎝で，断面形はＵ字形である。

床　やや凹凸が見られるが，全体的に踏み固められている。

ピット　３か所（P_1～P_3）。P_1～P_3は径22～68㎝の不整円形，深さ49～67㎝で，配置や深さから主柱穴と思われる。

竈　北西壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，粘土とわずかな焼土を確認しただけである。火床部の掘り込みは見られない。

覆土　３層からなる自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム小ブロック・山砂少量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　粘土粒子・粘土小ブロック多量，焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

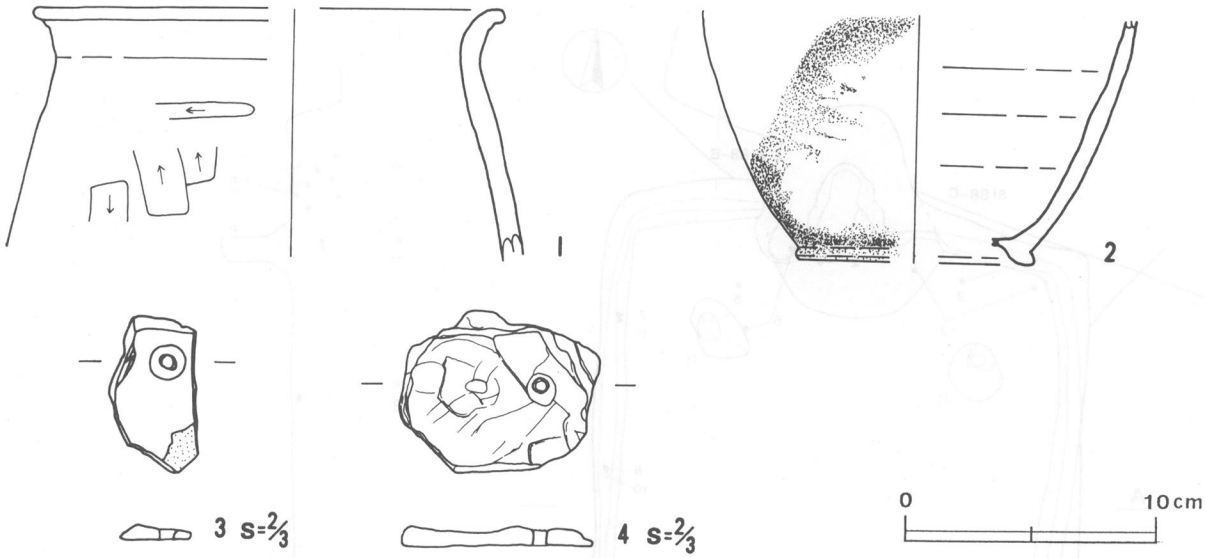
遺物　土師器片19点，須恵器片２点が出土している。第188図１の甕，２の須恵器長頸瓶は覆土中から，３，４の有孔円板は東コーナー覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，床面からの出土遺物がなく，しかも細片が多いため詳細な時期は不明であるが，第88-Ｂ号住居跡及び第90号住居跡との重複関係，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期から奈良時代と思われる。

第88-Ｃ号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第188図1	甕 土師器	A［18.2］ B（9.9）	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P434　10% 覆土中 PL74
2	長頸瓶 須恵器	B（10.9） C［9.4］	高台部から体部片。「ハ」の字状に開く短い高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後高台貼り付け。	パミス・石英 褐灰色 普通	P435　5% 覆土下層 PL74

図版番号	種　別	計測値 長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石　質	出土地点	備　考
第188図3	有孔円板	（3.1）	1.8	0.3	0.2～0.3	（1.7）	滑　石	東コーナー覆土下層	Q45　PL118
4	有孔円板	（3.2）	3.9	0.4	0.2	（7.3）	滑　石	東コーナー覆土下層	Q47　PL118



第188図　第88−C号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡（第189図）

位置　調査区の南西部，F3d_0区。

重複関係　本跡は，第88−C号住居跡の南部を掘り込んでいることから，第88−C号住居跡より新しい。

規模と平面形　長軸4.93m，短軸3.88mの長方形である。

主軸方向　N − 0°

壁　壁高は35〜88cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約20cm，下幅約10cm，深さ約7cmで，断面形は逆台形である。

床　わずかに凹凸がある。中央部は踏み固められている。

ピット　6か所（P_1〜P_6）。P_1〜P_3は径34〜43cmの不整円形及び楕円形，深さ52〜54cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_4は径23cmの円形，深さ20cmで，出入り口ピットと思われる。P_5，P_6は径30〜55cmの不整円形，深さ42〜78cmで，住居側に15〜20°程傾斜している。性格は不明である。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土及び凝灰岩で構築されている。焚き口部の天井石（6×12×25cm）が燃焼部に埋まるように崩落している。火床部はわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ55cm程突出し，壁の内側からゆるやかに外傾して立ち上がる。

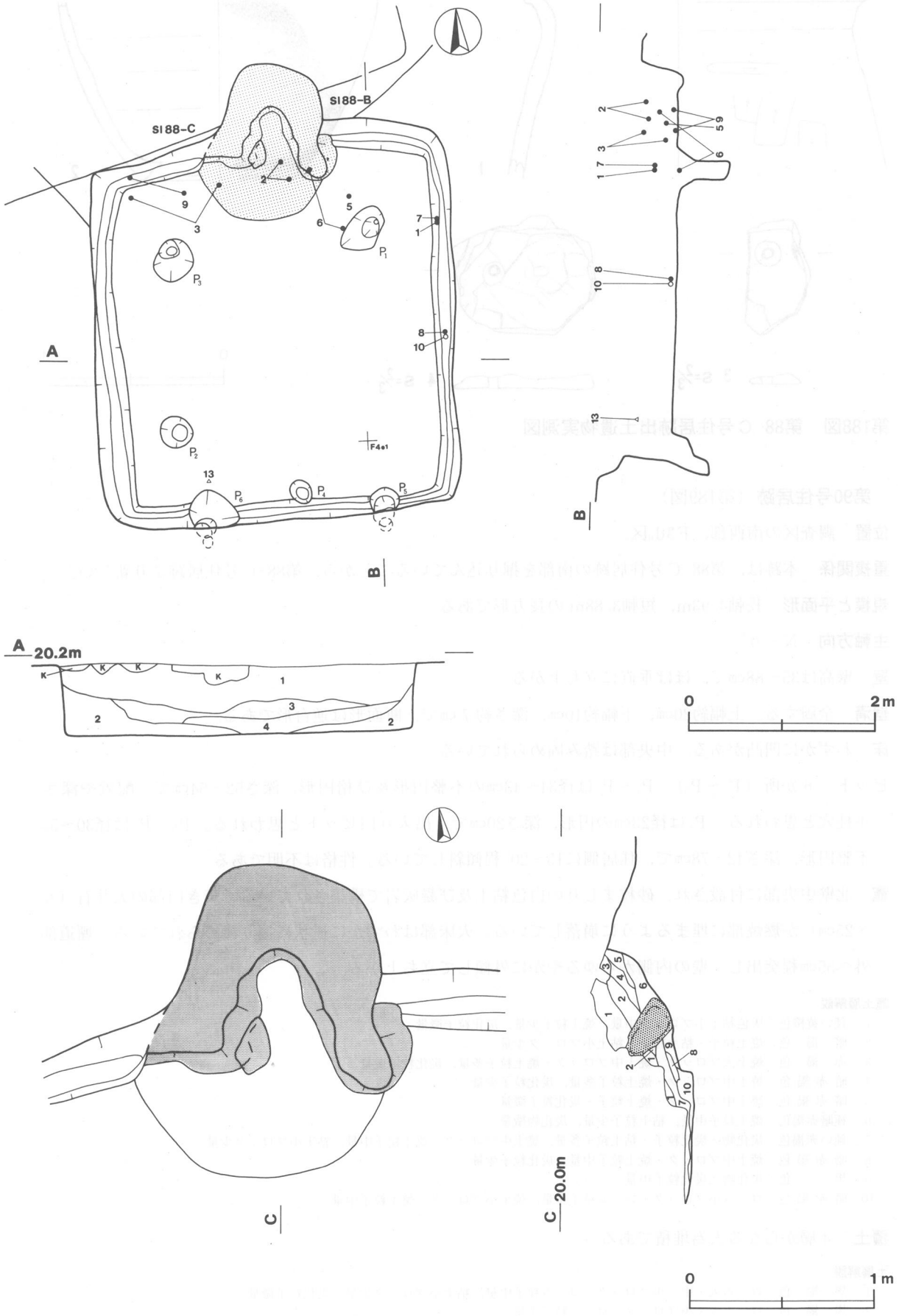
竈土層解説

1	鈍い黄橙色	灰色粘土小ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2	暗　褐　色	焼土粒子・粘土粒子・粘土小ブロック少量
3	赤　褐　色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子多量，炭化粒子少量
5	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	極暗赤褐色	焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量
7	鈍い赤褐色	炭化物・炭化粒子・粘土粒子多量，焼土中ブロック・焼土粒子中量，粘土小ブロック少量
8	暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
9	黒　　色	炭化物・炭化粒子中量
10	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子中量

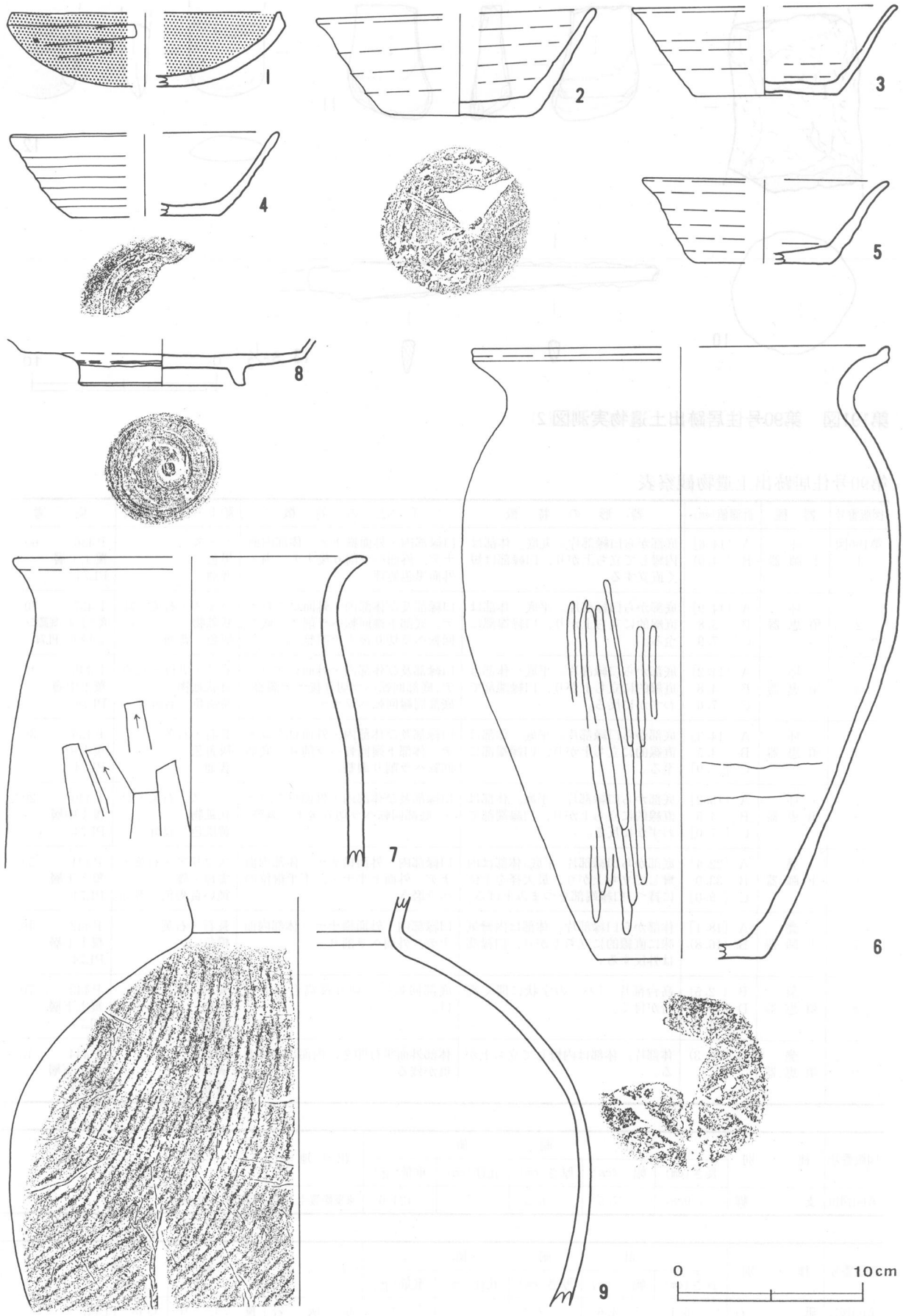
覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

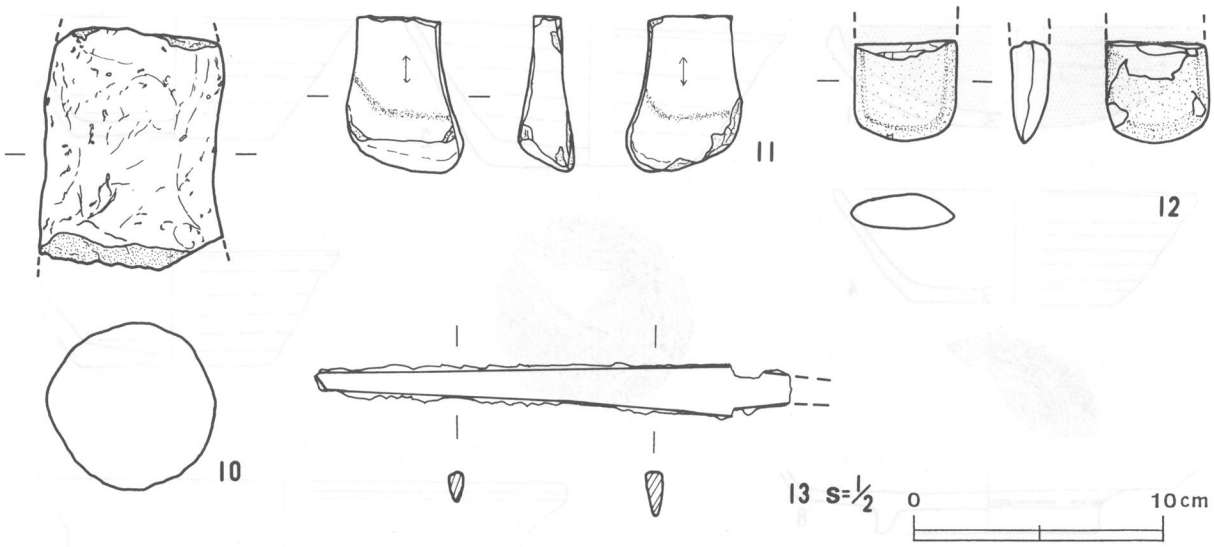
1	黒　褐　色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子中量，粘土小ブロック少量，炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ローム大・小ブロック・ローム粒子中量
3	黒　褐　色	ローム大・中・小ブロック・ローム粒子多量，炭化粒子微量
4	黒　褐　色	ローム大ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック少量



第189図　第90号住居跡実測図



第190図　第90号住居跡出土遺物実測図(1)



第191図　第90号住居跡出土遺物実測図(2)

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第190図 1	坏 土師器	A [14.6] B (4.0)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	パミス 黒色 普通	P436 60% 覆土上層 PL74
2	坏 須恵器	A [14.9] B 5.8 C 7.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	パミス・石英・針状鉱物 灰色 普通	P437 70% 覆土上層 底部にヘラ記号あり PL74
3	坏 須恵器	A [14.2] B 4.8 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。底部周縁回転ヘラナデ。	石英・雲母・長石 針状鉱物 黄灰色 普通	P438 40% 覆土中層 PL74
4	坏 須恵器	A [14.3] B 4.5 C [7.9]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。	長石・石英 灰黄色 普通	P439 30% 覆土中 PL74
5	坏 須恵器	A [13.2] B 4.5 C [7.0]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。	パミス・石英・針状鉱物 黄灰色 良好	P440 20% 覆土中層 PL74
6	甕 土師器	A [22.4] B 33.0 C [9.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位に持つ。口縁端部をつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上半ナデ，下半縦位のヘラ磨き。	スコリア・石英・雲母・礫 鈍い黄褐色 普通	P441 50% 覆土下層 PL74
7	甕 土師器	A [18.1] B (16.8)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。	長石・石英 橙色 普通	P442 40% 覆土上層 PL74
8	盤 須恵器	B (2.5) D 9.0 E 1.0	高台部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P443 70% 覆土下層 PL74
9	甕 須恵器	B (22.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面平行叩き，内面に当て具痕が残る。	長石 灰色 普通	P444 15% 覆土下層 PL74

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	出土地点	備考
第191図10	支脚	(9.8)	7.5	6.5	−	424.6	東壁際覆土下層	DP37 PL118

図版番号	種別	計測値 長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点	備考
第191図11	砥石	6.1	4.6	2.2	−	72.7	凝灰岩	覆土中	Q48 PL119
12	磨製石斧	(4.1)	4.1	1.6	−	37.0	蛇紋岩	覆土中	Q49

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第191図13	刀子	(12.8)	1.6	0.3～0.5	－	(13.4)	南壁付近覆土上層	M15 PL123

遺物 土師器片438点，須恵器片115点が出土している。第190・191図1の土師器坏，7の土師器甕は東壁際覆土上層から，10の支脚は同覆土下層から，8の須恵器盤は同覆土下層から，3，5の須恵器坏は北壁付近覆土中層，6の土師器甕，9の須恵器甕は同覆土下層から，13の刀子は南壁覆土上層から，4の須恵器坏，11の砥石，12の磨製石斧は覆土中からそれぞれ出土している。1の坏は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第91号住居跡（第192図）

位置 調査区の南西部，F3f_0区。

重複関係 本跡は，第92号住居跡が本跡の床の上に構築していることから，第92号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸6.28m，短軸6.1mの方形である。

主軸方向 N－25°－E

壁 壁高は49cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約14cm，下幅約9cm，深さ約12cmで，断面形はU字形である。

貯蔵穴 南東コーナーに付設され，径70cmの円形で，深さは82cm，断面形はU字形である。

床 平坦で，床全体が硬く踏み固められている。東壁，南壁，西壁，北壁から1条ずつ中央に向かって，溝が延びている。上幅約18cm，下幅約8cm，深さ約17cm，長さ110～130cm，断面形はU字形である。南壁直下から北に向かって，縦約140cm，横約180cmの長方形で，床面からの高さ約10cmのベッド状の高まりが認められる。

ピット 7か所（P_1～P_7）。P_1～P_4は径22～31cmの不整円形，深さ45～64cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5は径35cmの円形，深さ17cmで，出入り口ピットと思われる。P_6は径20cmの不整円形，深さ32cmで，北壁からの溝との関連のある柱穴の可能性がある。P_7は径58cm，深さ9cm程で，この中から遺物がまとまって出土しているところから，祭祀等との関連の可能性も考えられる。

炉 中央から北寄りに位置し，長径120cm，短径65cmの不整楕円形で，床面を15cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

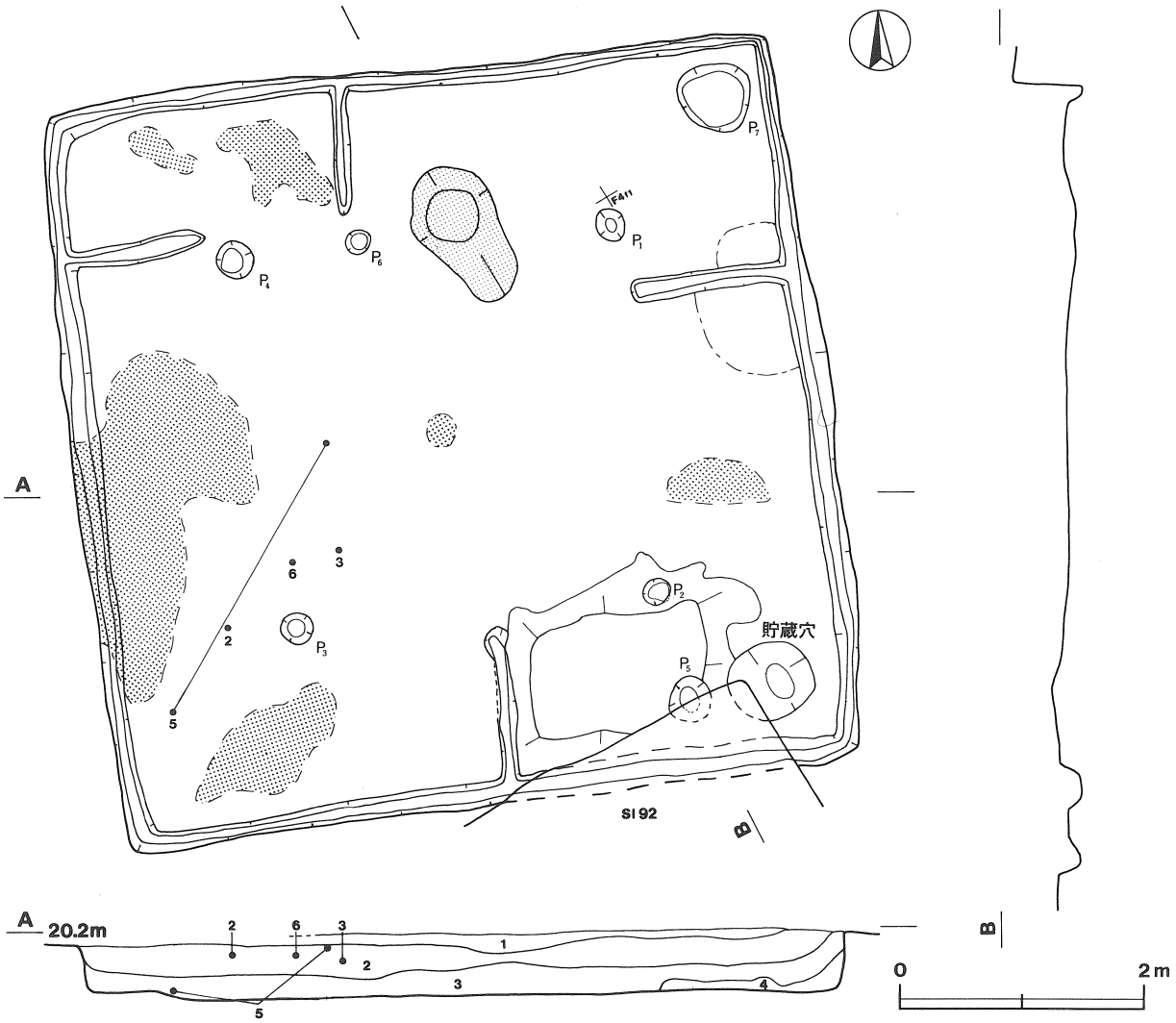
炉土層解説

1 赤褐色 焼土粒子多量
2 褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

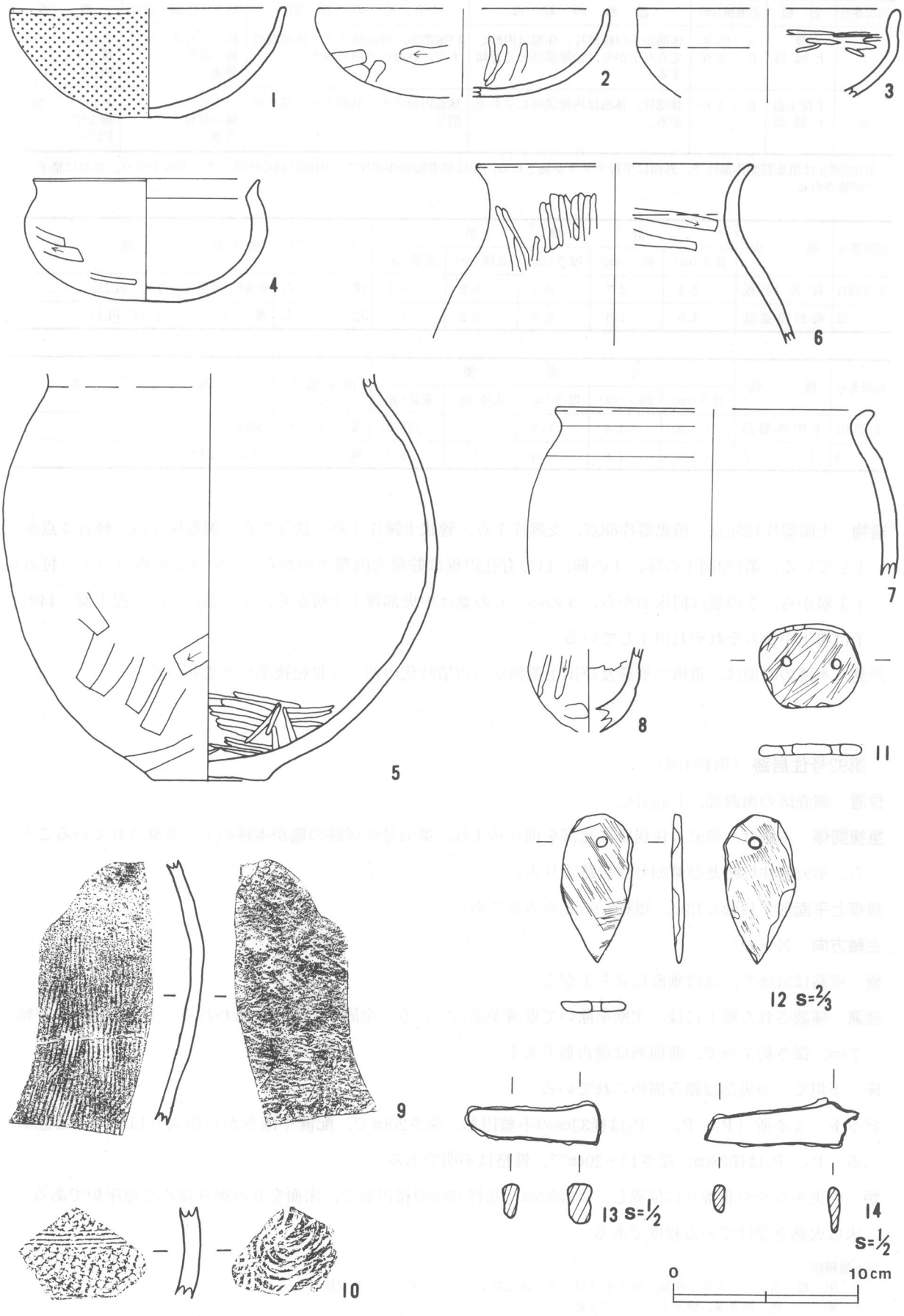
1 灰褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土小ブロック少量
2 黒色 ローム粒子多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック少量
3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック・黒色土少量
4 黒褐色 白色粘土大ブロック中量，ローム粒子少量



第192図　第91号住居跡実測図

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 1	坏 土師器	A［14.8］ B　5.9 C［3.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ナデ。口縁部及び体部外面赤彩。	スコリア・長石・雲母・石英 黄橙色 普通	P445　50% 貯蔵穴内覆土中 PL75
2	坏 土師器	A［15.6］ B　4.8 C［4.0］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	パミス 明褐色 普通	P446　20% 覆土上層 PL74
3	坏 土師器	A［13.9］ B（4.8）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。内面に明瞭な稜を持つ。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り後磨き。	長石・石英 赤色 普通	P447　15% 覆土上層 PL75
4	椀 土師器	A　11.9 B　6.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	雲母・石英 鈍い褐色 普通	P448　95% 貯蔵穴内覆土中 PL75
5	甕 土師器	B（22.0） C　6.0	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を中位に持つ。	体部内面ナデ，一部ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英・スコリア 明赤褐色 普通	P450　60% 床面 PL74
6	甕 土師器	A［14.6］ B（9.8）	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ナデ一部ヘラ磨き。	長石・石英・パミス・スコリア 明赤褐色 普通	P451　10% 覆土上層 PL75



第193図　第91号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	甕 土師器	A［16.9］ B（9.0）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 鈍い橙色 普通	P452　5％ 覆土中 PL75
8	手捏土器 土師器	B（4.6）	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナデ，外面ナデー部ヘラ削り。	パミス 鈍い橙色 普通	P453　50％ 覆土中 PL75

第193図9は須恵器甕体部片で，外面に平行タタキが施される。10は須恵器壺体部片で，内面に同心円状の当て具痕が残り，外面に格子タタキが施される。

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第193図11	有孔円板	2.3	2.7	0.3	0.2	3.3	滑石	貯蔵穴内覆土中	Q50　PL118
12	剣形模造品	4.0	1.9	0.3	0.2	3.7	滑石	覆土中	Q133　PL119

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第193図13	不明鉄製品	（4.8）	1.6	0.8	－	(13.3)	覆土中	M16
14	刀子	（5.6）	1.8	0.4	－	（6.7）	覆土中	M17　PL123

遺物　土師器片1265点，須恵器片68点，支脚片1点，管状土錘片1点，鉄滓2点，陶器片3点，軽石3点が出土している。第193図1の坏，4の椀，11の有孔円板は貯蔵穴内覆土中から，2の坏は南西コーナー付近覆土上層から，5の甕は同床面から，3の坏，6の甕は中央部覆土上層から，7の甕，8の手捏土器，14の刀子は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀後半）と思われる。

第92号住居跡（第194図）

位置　調査区の南西部，F3g_0区。

重複関係　本跡は，第91号住居跡に北部を掘り込まれ，第93号住居跡の竈が本跡の上に構築されていることから，第91号住居跡及び第93号住居跡より古い。

規模と平面形　長軸3.13m，短軸2.96mの方形である。

主軸方向　N－0°

壁　壁高は31cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，北壁を除いて壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約16cm，下幅約7cm，深さ約7cmで，断面形は逆台形である。

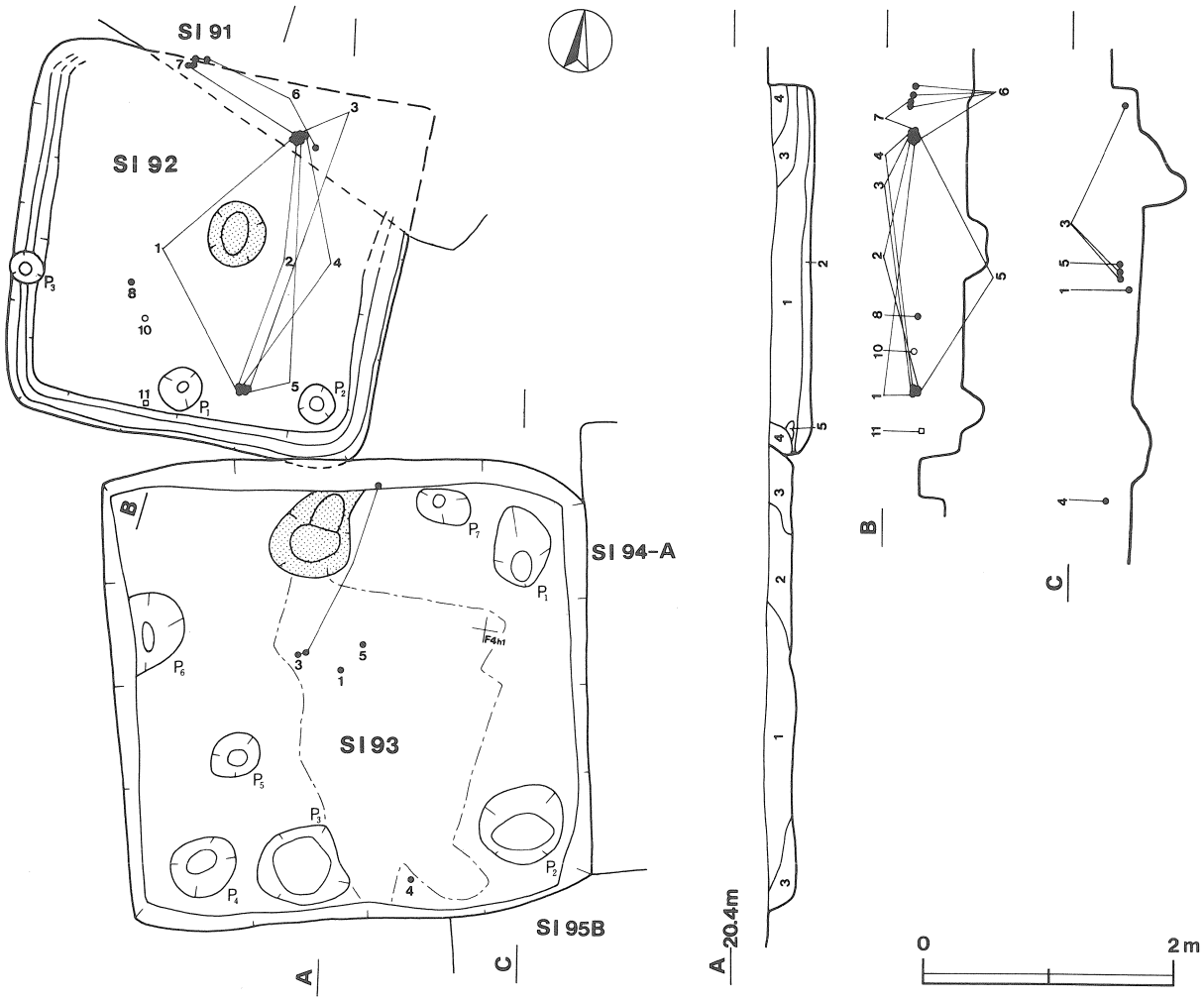
床　平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット　3か所（P_1～P_3）。P_1は径33cmの不整円形，深さ20cmで，配置や深さから出入り口ピットと思われる。P_2，P_3は径28cm，深さ13～20cmで，性格は不明である。

炉　中央からやや北寄りに位置し，長径52cm，短径45cmの楕円形で，床面を9cm掘り窪めた地床炉である。炉床は火熱を受けている程度である。

炉土層解説

1　黒褐色　ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック少量
2　褐色　灰多量，焼土大ブロック少量
3　黒色　含有物なし



第194図　第92・93号住居跡実測図

覆土　4層からなる人為堆積である。

土層解説

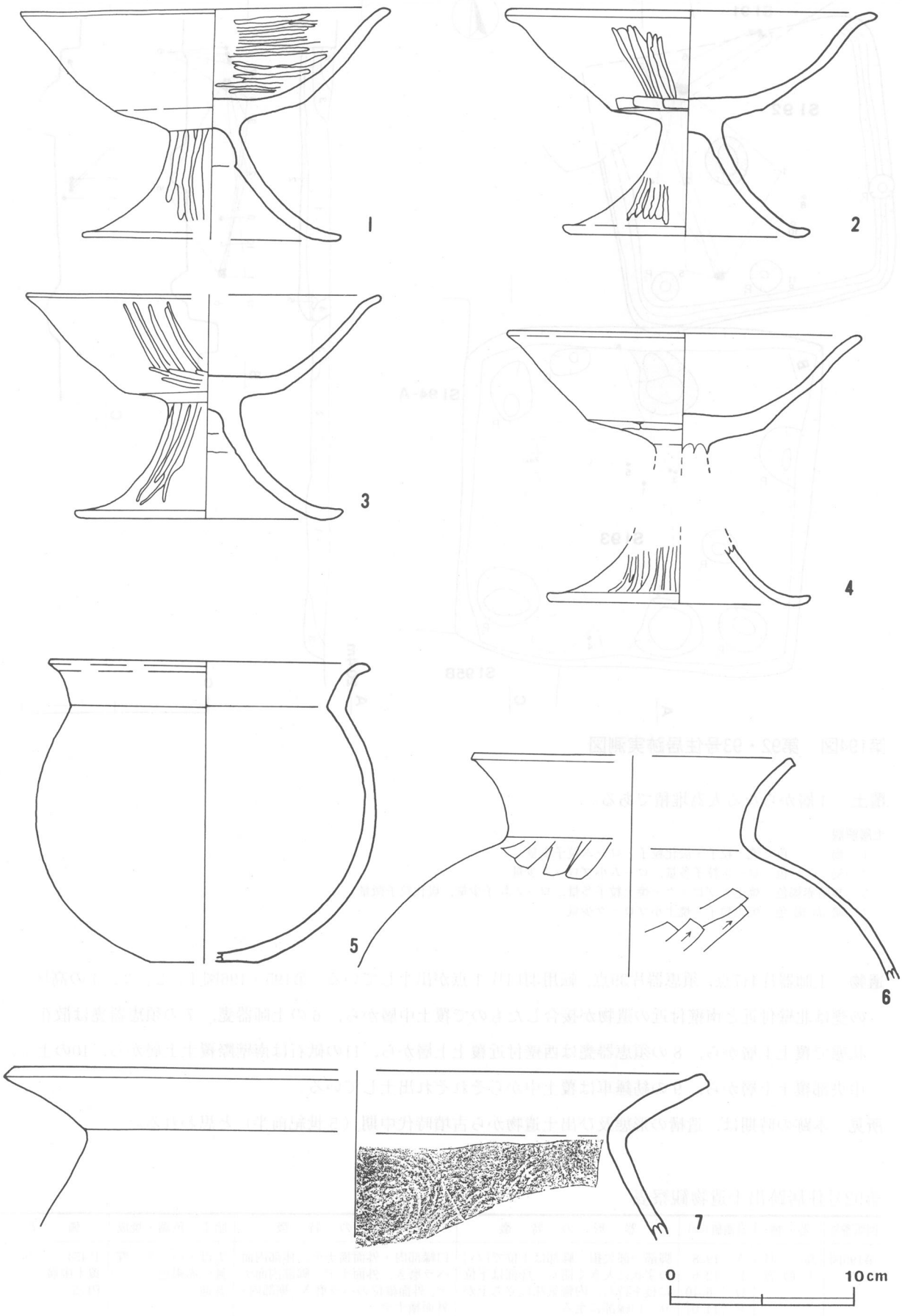
1　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　極暗赤褐色　焼土大ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック少量

遺物　土師器片417点，須恵器片39点，転用羽口片1点が出土している。第195・196図1，2，3，4の高坏，5の甕は北壁付近と南壁付近の遺物が接合したもので覆土中層から，6の土師器甕，7の須恵器甕は散在した状態で覆土上層から，8の須恵器甕は西壁付近覆土上層から，11の砥石は南壁際覆土上層から，10の土玉は中央部覆土上層から，9の紡錘車は覆土中からそれぞれ出土している。

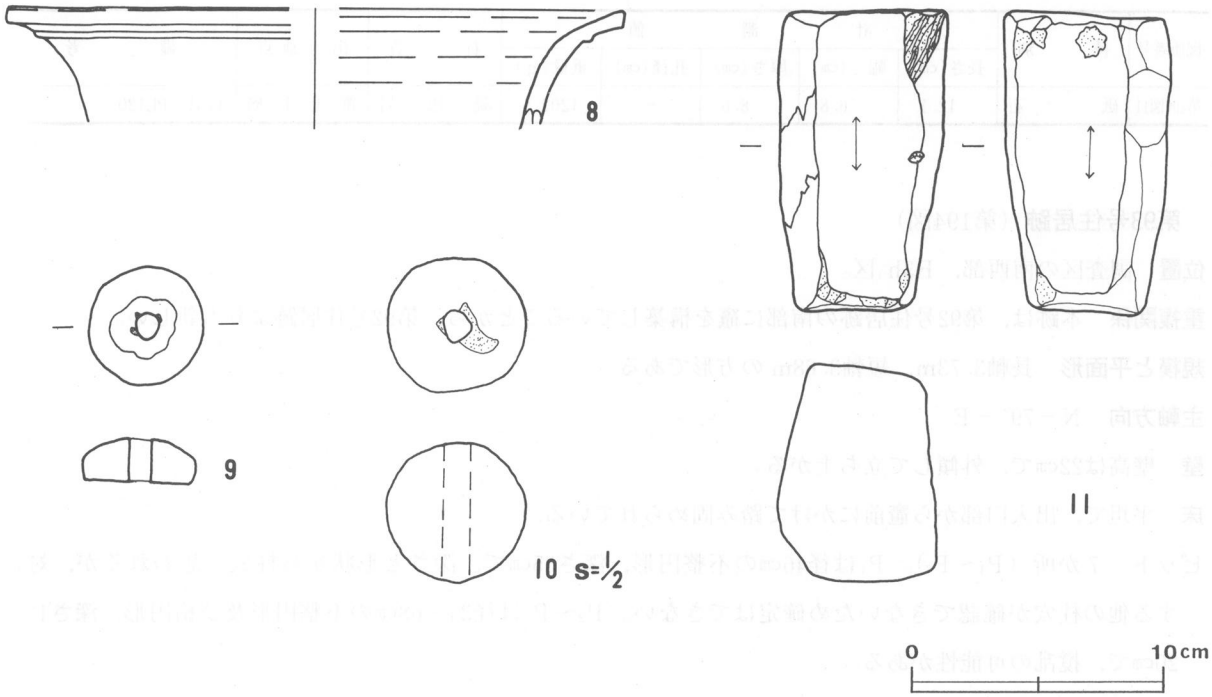
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代中期（5世紀前半）と思われる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　　考
第195図 1	高　　坏 土 師 器	A　19.8 B　12.6 D　6.10 E［14.0］	脚部一部欠損。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は下位に稜を持ち、内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ナデ。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	雲母・パミス・礫 鈍い赤褐色 普通	P 454　　90% 覆土中層 PL 5



第195図　第92号住居跡出土遺物実測図(1)



第196図　第92号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	高坏 土師器	A 19.9 B 12.2 D 13.4 E 6.3	脚部一部欠損。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開く。坏部は下位に稜を持ち，内彎気味に立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面上位縦位のヘラ磨き，下位ヘラ削り。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	パミス・雲母・礫 暗赤褐色 普通	P455　80% 覆土中層 PL75
3	高坏 土師器	A [18.8] B 12.2 D 14.4 E 6.4	脚部から口縁部片。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開き，端部は反る。坏部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨き，外面ヘラ磨き。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	石英・長石 明赤褐色 普通	P456　70% 覆土中層 PL75
4	高坏 土師器	A 18.9 B (6.5) D 14.2 E (3.2)	坏部及び脚部片。脚部は「ハ」の字状に大きく開き，端部は反る。坏部は下位に稜を持ち，外傾して立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。脚部内面ナデ，外面縦位のヘラ磨き。裾部内・外面横ナデ。	雲母・石英・スコリア・パミス・礫 明赤褐色 普通	P457　50% 覆土中層 PL75
5	甕 土師器	A 16.9 B 16.2 C [5.8]	底部から口縁部片。平底。体部は球形状で，口縁部は「く」の字状に外傾し，端部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア・礫 黒褐色 普通	P458　50% 覆土中層 PL75
6	甕 土師器	A [17.0] B (11.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	長石・石英・パミス 浅黄橙色 普通	P459　20% 覆土上層 PL75
7	甕 須恵器	A [37.2] B (9.0)	口縁部片。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。体部内面に当て具痕を残す。	石英・長石 暗灰色 良好	P460　10% 覆土上層 PL75
第196図 8	甕 須恵器	A [24.2] B (4.8)	口縁部片。口縁部は外反し，下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 灰色 普通	P461　5% 覆土上層

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第196図9	紡錘車	1.8	4.8	1.8	0.9	38.0	覆土中	DP38　PL116
10	土玉	3.6	3.7	3.6	0.8	39.8	中央部覆土上層	DP39　PL115

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第196図11	砥石	12.1	6.8	8.6	−	1202.5	凝灰岩	覆土上層	Q51 PL120

第93号住居跡（第194図）

位置　調査区の南西部，F3h_0区。

重複関係　本跡は，第92号住居跡の南部に竈を構築していることから，第92号住居跡よりも新しい。

規模と平面形　長軸3.73m，短軸3.68mの方形である。

主軸方向　N－79°－E

壁　壁高は22cmで，外傾して立ち上がる。

床　平坦で，出入口部から竈前にかけて踏み固められている。

ピット　7か所（P_1～P_7）。P_1は径46cmの不整円形，深さ35cmで，深さと形状から柱穴と思われるが，対応する他の柱穴が確認できないため確定はできない。P_2～P_7は径34～68cmの不整円形及び楕円形，深さ12～20cmで，撹乱の可能性がある。

竈　北壁中央部に付設され，砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，袖部は残っておらず，規模等は不明である。火床部は皿状に8cm掘り窪められている。

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

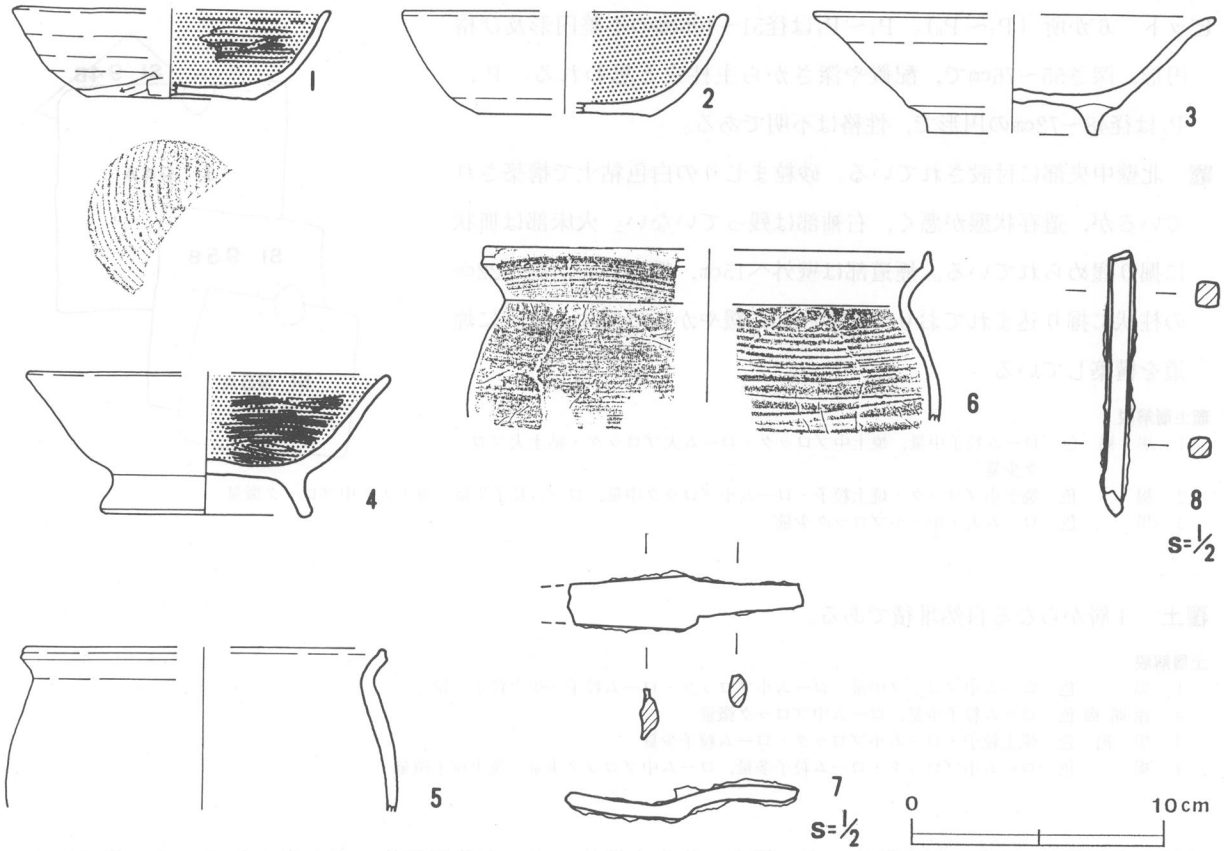
1　暗褐色　焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
2　灰黄褐色　焼土粒子中量，ローム大・小ブロック・ローム粒子少量
3　極暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
4　赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土小ブロック・焼土粒子多量，黒色土少量

遺物　土師器片307点，須恵器片30点，鉄滓1点が出土している。第197図1の坏は中央部覆土下層から，5の甕は同覆土中層から，3の高台付坏は散在した状態で覆土中層から，4の高台付坏は南壁付近覆土中層から，2の坏，6の甕，7の鑿鉋，8の角釘は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第197図1	坏 土師器	A［12.4］ B　3.5 C　6.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。	スコリア・雲母・石英 鈍い黄橙色 普通	P462　40% 覆土下層 PL75
2	坏 土師器	A［12.8］ B　4.1 C［6.8］	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり，そのまま口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り調整。体部内面黒色処理。	雲母 黒色 普通	P463　15% 覆土中 PL75
3	高台付坏 土師器	A［15.8］ B　4.8 D［6.7］ E　0.8	高台部から口縁部片。直線的に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり，口縁部でわずかに反る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。	石英・雲母 鈍い橙色 普通	P464　50% 覆土中層 PL75
4	高台付坏 土師器	A［14.2］ B　5.7 D　8.0 E　1.5	高台部から口縁部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部に至る。	口縁部及び体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後高台貼り付け。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア・石英・長石 橙色 普通	P465　40% 覆土中層 PL75



第197図　第93号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	甕 土師器	A［14.0］ B（6.5）	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	雲母・石英・礫 鈍い褐色 普通	P466　20% 覆土中層 PL75
6	甕 土師器	A［17.6］ B（6.8）	体部から口縁部片。体部上位は内傾して立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外反する。端部を上方につまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面粗いヘラナデ，外面ナデ。	雲母・石英・礫 鈍い褐色 普通	P467　20% 覆土中 PL75

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第197図7	鑿	（6.2）	1.6	0.4	−	（8.0）	覆土中	M18　PL123
8	角釘	（7.1）	0.8	0.6	−	(10.1)	覆土中	M19　PL124

第94−A号住居跡（第198図）

位置　調査区の南西部，F4h$_1$区。

重複関係　本跡は，第94−B号住居跡を掘り込んでおり，本跡の床の上に第95−B号住居跡が床を構築していることから，第94−B号住居跡より新しく，第95−B号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸6.00m，短軸5.84mの方形である。

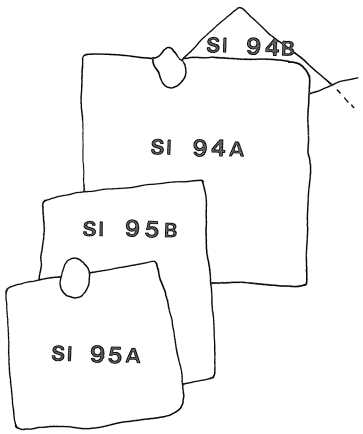
主軸方向　N−12°−W

壁　壁高は4～33cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　全周する。上幅約21cm，下幅約14cm，深さ約15cmで，断面形はU字形である。

床　平坦で，南東コーナー部を除き，大部分が踏み固められている。

ピット　6か所（P_1～P_6）。P_1～P_4は径51～106cmの不整円形及び楕円形，深さ55～76cmで，配置や深さから主柱穴と思われる。P_5，P_6は径48～72cmの円形で，性格は不明である。



竈　北壁中央部に付設されている。砂粒まじりの白色粘土で構築されているが，遺存状態が悪く，右袖部は残っていない。火床部は皿状に掘り窪められている。煙道部は壁外へ15cm，横幅27cm，高さ22cmの柱状に掘り込まれており，その内部に緩やかに外傾するように煙道を構築している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土中ブロック・ローム大ブロック・粘土大ブロック少量
2　褐　色　焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土大・中ブロック微量
3　黒　色　ローム大・中・小ブロック少量

覆土　4層からなる自然堆積である。

土層解説

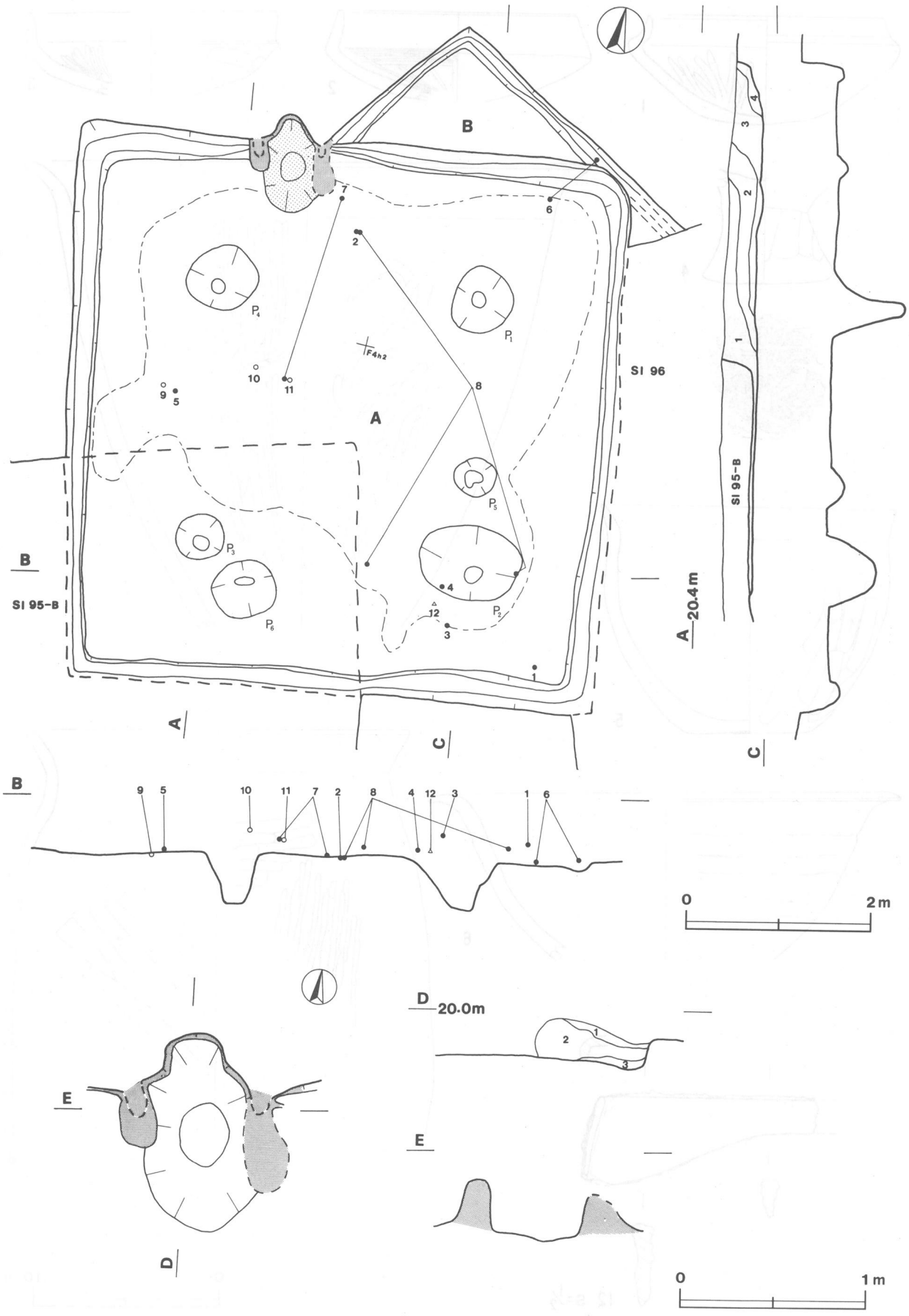
1　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
3　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
4　褐　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

遺物　土師器片494点，須恵器片22点，縄文・弥生土器片2点，有孔円板片1点が出土している。第199・200図1，3の坏は南東コーナー付近覆土中層から，4の高坏，12の不明鉄製品は同覆土中層から，2の坏は竈前覆土下層から，5の小形甕は西壁付近覆土下層から，6の鉢は北東コーナー付近床面から，7の甑は竈内覆土下層から，8の甕は散在した状態で覆土下層から，9の有孔円板は西コーナー覆土下層から，10の有孔円板は中央部覆土上層からそれぞれ出土している。9～11の有孔円板は流れ込みと思われる。

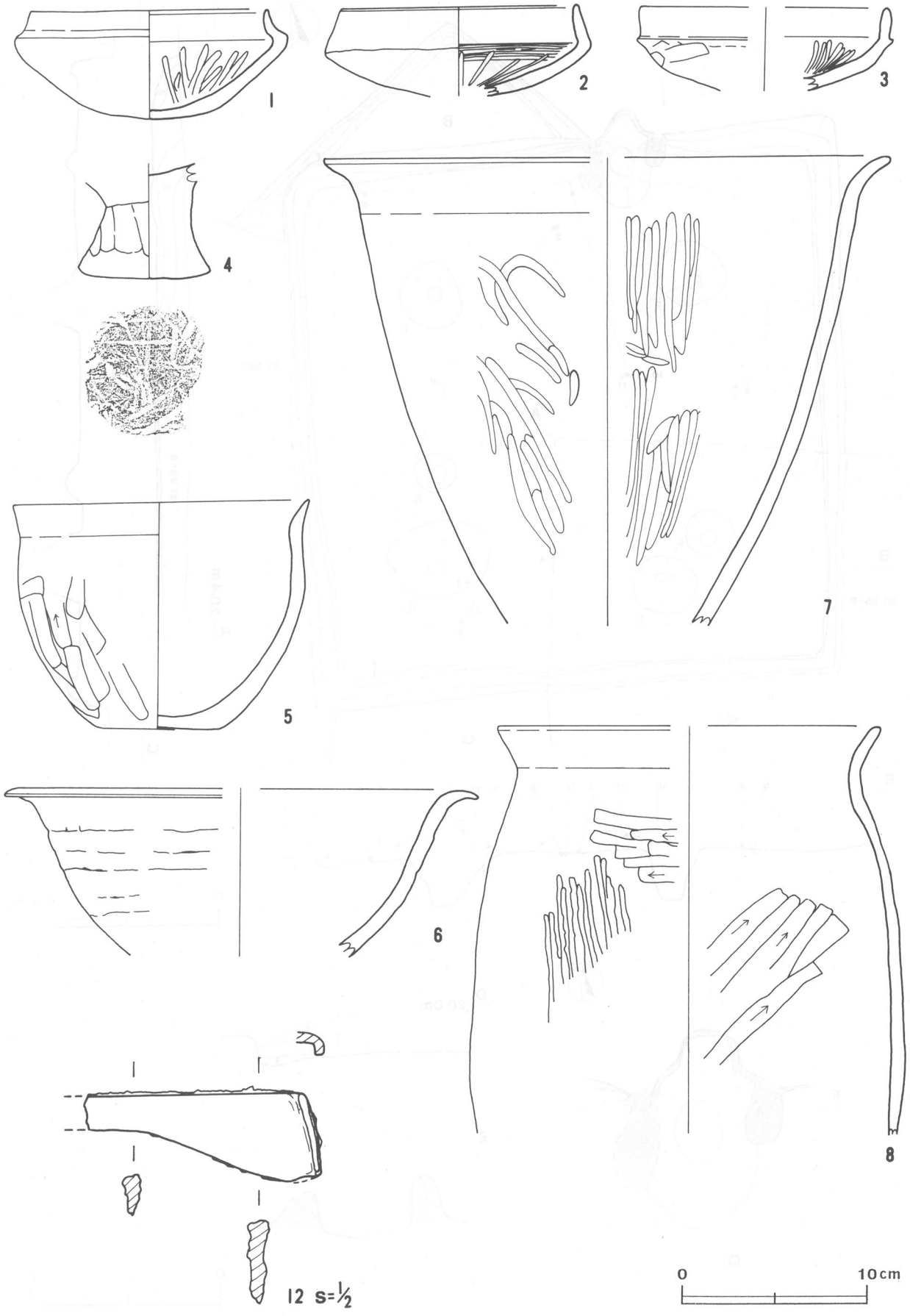
所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。

第94-A号住居跡出土遺物観察表

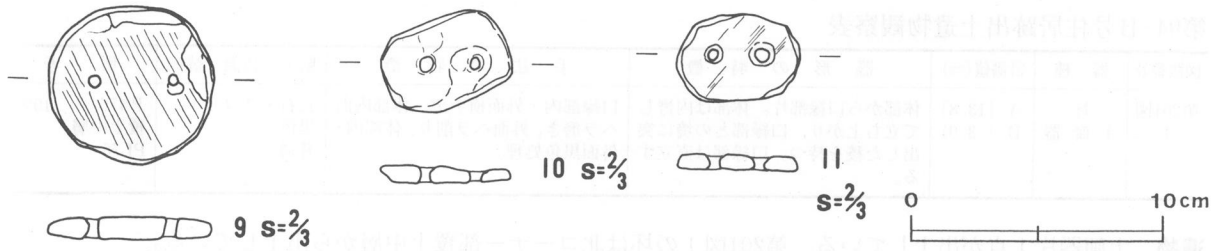
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図1	坏 土師器	A［12.7］ B　5.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部はやや反り気味に内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	雲母・パミス 鈍い黄橙色 普通	P468　100% 覆土中層 PL75
2	坏 土師器	A　12.6 B（4.8）	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	長石・石英・礫 鈍い橙色 普通	P469　80% 覆土下層 PL75
3	坏 土師器	A［13.2］ B（4.5）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。	スコリア・パミス・雲母・長石 鈍い黄橙色 普通	P470　20% 覆土中層
4	高坏 土師器	B（6.2） D　7.0 E　4.8	脚部片。脚部は短い円筒状で下方が太い。	脚部は柱実で，外面縦位のヘラ削り。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P471　40% 覆土中層 PL76
5	小形甕 土師器	A　15.9 B　12.4	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ，外面ヘラ削り。	石英・雲母・パミス 鈍い黄橙色 普通	P472　100% 覆土下層 PL76
6	鉢 土師器	A［25.4］ B（9.1）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ，外面ヘラ削り。体部外面に輪積み痕を残す。	石英・礫 鈍い赤褐色 普通	P473　40% 床面 PL76



第198図　第94－A・94－B号住居跡実測図



第199図　第94−A号住居跡出土遺物実測図(1)



第200図　第94—A号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
7	甑 土師器	A［30.5］ B（25.2）	体部から口縁部片。体部は外傾して直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面縦位のヘラ磨き，外面ナデ後ヘラ磨き。	雲母・パミス・礫 鈍い赤褐色 普通	P474　35% 竈内覆土下層 PL76
8	甕 土師器	A［20.6］ B（22.0）	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり，口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り，外面ヘラ削り一部ヘラ磨き。	雲母・パミス 鈍い褐色 普通	P475　30% 覆土下層 PL76

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第200図9	有孔円板	3.1	3.2	0.5	0.2	8.4	滑石	西壁付近覆土下層	Q52　PL118
10	有孔円板	2.1	2.6	0.4	0.3	2.9	滑石	中央部覆土上層	Q53　PL118
11	有孔円板	2.1	2.4	0.3	0.3	2.6	滑石	中央部覆土下層	Q54　PL118

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第199図12	鎌	（8.6）	3.5	0.8	—	（30.4）	南東コーナー覆土下層	M20　PL123

第94-B号住居跡（第198図）

位置　調査区の南西部，F4g$_2$区。

重複関係　本跡は，第94-A号住居跡及び第96号住居跡によって住居跡の大部分を掘り込まれており，第94-A号住居跡及び第96号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する壁がないため，詳細は不明である。

壁溝　確認された壁下には，壁溝が巡っている。上幅約9cm，下幅約4cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は見られない。

覆土　覆土は重複のため掘り込まれ，人為堆積か自然堆積かは判断できない。

土層解説

1　褐　　色　ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

第201図　第94-B号住居跡出土遺物実測図

第94−B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第201図 1	坏 土師器	A［13.8］ B（3.9）	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に突出した稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き，外面ヘラ削り。体部内・外面黒色処理。	長石・スコリア 黒色 普通	P476 15% 覆土中層 PL76

遺物　土師器片１点が出土している。第201図１の坏は北コーナー部覆土中層から出土している。

所見　本跡は，出土遺物が少なく詳細な時期は不明であるが，出土遺物と遺構の形態から古墳時代後期（６世紀頃）と思われる。

第95−A号住居跡（第202図）

位置　調査区の南西部，F4i$_1$区。

重複関係　本跡は，第95−B号住居跡の南西部の床の上に構築しており，第76号住居跡によって掘り込まれていることから，第95−B号住居跡より新しく，第76号住居跡よりも古い。

規模と平面形　長軸4.34m，短軸4.1mの方形である。

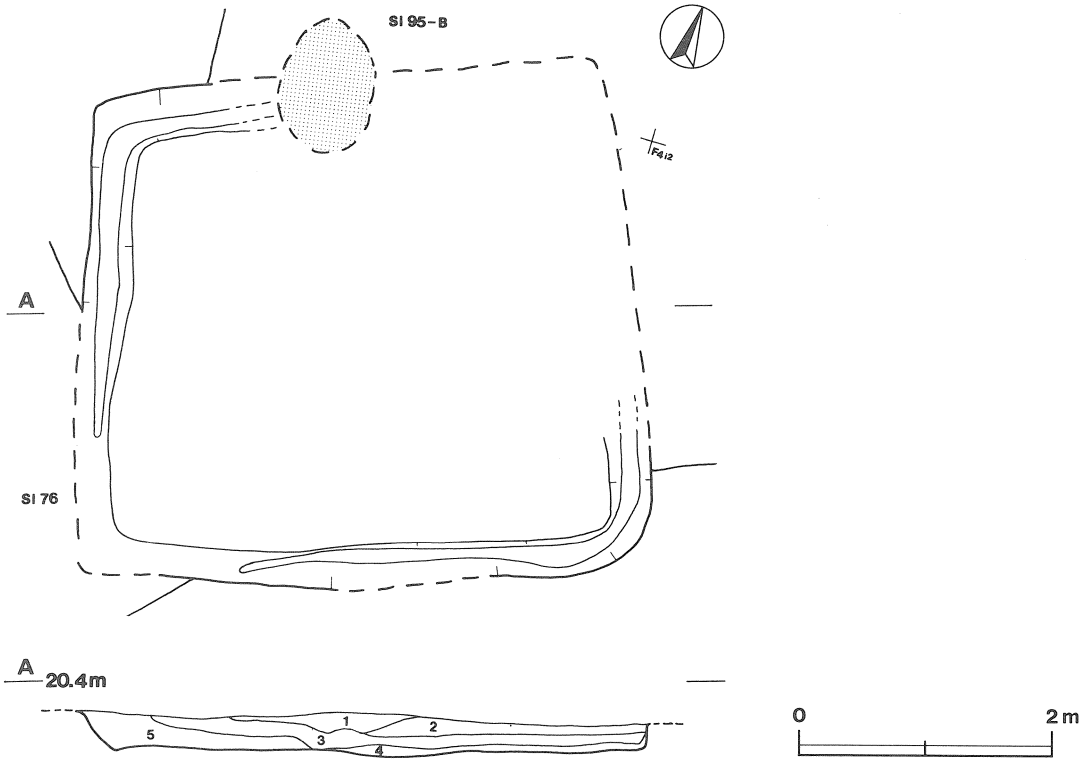
主軸方向　N−14°−W

壁　壁高は26cmで，外傾して立ち上がる。

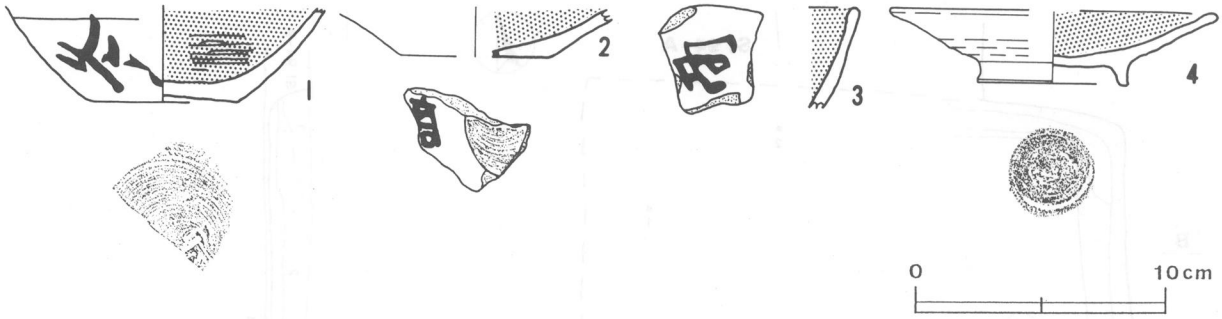
壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ約４cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。

竈　北壁中央やや西寄りに付設されている。遺存状態が悪く，白色粘土粒子と焼土範囲のみを確認しただけである。



第202図　第95−A号住居跡実測図



第203図　第95−A号住居跡出土遺物実測図

第95−A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器　種	計測値(cm)	器　形　の　特　徴	手　法　の　特　徴	胎土・色調・焼成	備　考
第203図 1	坏 土師器	B（3.8） C　5.8	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P478　20% 覆土中「久高」 体部外面墨書 PL76
2	坏 土師器	B（2.0） C［6.0］	体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。体部内面黒色処理。	スコリア・雲母・石英 暗赤褐色 普通	P479　5% 覆土中「高」 体部外面墨書 PL76
3	坏 土師器	B（4.0）	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁端部に至る。	体部内面ヘラ磨き，外面ロクロナデ。体部内面黒色処理。	パミス 鈍い褐色 普通	P480　5% 覆土中「高」 体部外面墨書 PL76
4	高台付皿 土師器	A［13.0］ B　2.9 D　6.0 E　0.9	高台部から口縁部片。直立して開く高台が付く。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後高台貼り付け。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア・石英 橙色 普通	P477　40% 覆土中 PL76

覆土　5層からなる自然堆積である。

土層解説

1　極暗褐色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5　褐　　色　ローム中ブロック多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物　土師器片76点，須恵器片3点が出土している。第203図1，2，3の坏及び4の高台付皿は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀）と思われる。

第95−B号住居跡（第204図）

位置　調査区の南西部，F4h_1区。

重複関係　本跡は，第94−A号住居跡の南西部の床の上に構築しており，第95−A号住居跡によって掘り込まれていることから，第94−A号住居跡より新しく，第95−A号住居跡よりも古い。

規模と平面形　遺存する北西及び南東コーナーから推定すると，長軸5.50m，短軸4.46mの長方形と思われる。

壁　壁高は30cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝　確認された壁下には，すべて壁溝が巡っている。全周するものと思われる。上幅約15cm，下幅約9cm，深さ約4cmで，断面形はU字形である。

床　平坦である。